

Syllabus

外国語学部

外国学科

2022 年度入学生

授業科目名	きびこく学			担当者	高橋 正巳		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-SR-1-001		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜4限 金曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	
SDGs関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	< きびこく学・前半8回 > 本学の教育目標である「地域創成に実践的に役立つ人材の養成」を達成するための導入的教育として位置づけられる科目である。テーマとしては、順正学園及び大学が、立地する地元地域社会の中で発展を遂げてきた歴史、ならびに地域の歴史や文化、人々の生活等について理解を深めるとともに、地域社会の現状を理解し、地域創成に向けて取り組むべき課題について学ぶことがあげられる。 到達目標としては次の2点があげられる。 ①順正学園及び大学の歴史ならびに地域社会の歴史的特性や現状を理解し、地域創成のための取り組むべき課題を理解できる。 ②地域創成に向けて、学生としてどのような貢献ができるか考え、チャレンジする態度を涵養できる。 < SDGs概論・後半8回 > 「地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGsの必要性と意義の理解」をテーマとし、SDGsの概要について学ぶ。 到達目標は以下の通り。 ①地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGs策定の背景が理解できる。 ②SDGsについて全体像を把握し、その概要を説明できる。 ③SDGsの各目標を自分事として捉えることができる。 ④SDGsの達成に向けて必要な取り組みを実行することができる。						
授業概要	< きびこく学・前半8回 > 順正学園及び大学が、立地する地域の中で発展を遂げてきた歩み(歴史)を概観するとともに、地元地域で様々な活動を展開されている方々を講師に招き、地域の歴史や文化、人々の生活ならびに地域社会の現状や課題等についてご講演いただき、地域の特性や課題について理解を深める。また、毎回の講義の中で、学生の立場で地域の課題解決や発展にどのような貢献ができるのか考え、生活の主体者として地域創成に向けて取り組む姿勢を涵養することができるよう、レポート課題に取り組む。 < SDGs概論・後半8回 > 2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標SDGs」について、その背景や目的を学ぶと共に、SDGsの17の目標について概要を学ぶ。また、SDGs達成に向けて実際にどのような取り組みが行われているかを学ぶ。そして、学生自らがその実現に向け、何ができるか、また何をしなければならないかを考え、実行しようとする能力を身につける。 授業は全学科の学生が受講する合同授業と各学科の授業で構成されている。合同授業は、地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGs策定の経緯およびSDGsの概要について講義形式で教授する。各学科の授業ではグループに分かれてSDGs達成に向けた施策をまとめ、グループ毎に発表をおこない課題解決能力を養う。						
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	< きびこく学・前半8回 > 毎回授業時提出のレポート評価(70%)、第8回目を行う学修成果確認レポート作成の評価(30%)により、総合的に評価する。						

	<SDGs概論・後半8回> グループでの活動及び発表を評価する(50%)。最後に筆記試験を行いSDGsの理解度を評価する(50%)。 詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。	
ループリック評価		
課題や試験のフィードバック方法	<きびこく学・前半8回> 毎回の授業でレポート提出を課すが、次回の授業時までには内容を評価し返却する。 <SDGs概論・後半8回> 振り返りレポートを評価して次回授業で返却する。	
履修条件・注意事項	<きびこく学・前半8回> 地域の様々な立場にある外部講師による有益な講義を多く導入しているので、受講態度に十分留意して毎回必ず出席すること。 受講内容に関するレポート課題には、単に感想を述べるのではなく、真摯に、積極的に取り組むこと。 <SDGs概論・後半8回> ①初回の授業には、必ず出席すること。 ②学科別授業ではグループワークを行うことから、授業を欠席しないこと。 ③合同授業日と各学科授業日があるので注意すること。	
実務経験のある教員	該当する	内容 <きびこく学・前半8回> 授業を担当する複数の講師は、いずれも学園や大学の創設に中心的役割を担い尽力した講師や、地域社会の中で様々な活動を展開している実務経験の豊富な講師である。
事前学習・事後学習とその時間	<きびこく学・前半8回> 1) 事前にユニバを通じて配布する資料に十分目を通すとともに、インターネット等を通じて授業内容に関する情報を収集するなど、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。 2) 授業後には、学修内容を振り返り、不明な点や確認したいことなどを各自で調べるなど、毎回2時間以上の事後学修を行うこと。 <SDGs概論・後半8回> ユニバで配布する資料を基に事前学修をすること。また、授業終了後は必ず復習を行うこと。予習及び復習は各2時間程度行うこと。	
オフィスアワー	<きびこく学> 1号棟2階 124研究室 毎週木曜日 4時限目がオフィスアワー <SDGs概論> 1号棟2階 124研究室 毎週木曜日 4時限目がオフィスアワー	
授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション 「きびこく学」、SDGs概論、地域学概論を学ぶ意義について	高橋
第2回	岡山地域の会社で仕事をするとは	宮原製作所経営企画部長 高橋
第3回	順正学園及び吉備国際大学の歴史について	順正学園理事 外国学科担当教員
第4回	岡山を見る目と番組制作	元NHK 村上チーフディレクター 高橋
第5回	岡山藩における芸術的遺産	ジャヤ柴原美術館(槌田学芸員) 高橋
第6回	なぜ笠岡湾にはカブトガニが生息しているのか	元笠岡カブトガニ博物館館長 高橋
第7回	岡山地域の問題発見	株式会社マイナビ

		高橋
第 8 回	地域問題解決へのプロジェクト相談	高橋
第 9 回	<SDGs概論・後半8回> SDGsとは何かーなぜ学ぶのか(オリエンテーションを含む)	井勝久喜、外国学科担当教員
第 1 0 回	2030アジェンダ採択までの経緯	井勝久喜、外国学科担当教員
第 1 1 回	SDGsが目指している世界	井勝久喜、外国学科担当教員
第 1 2 回	SDGsの17の目標	井勝久喜、外国学科担当教員
第 1 3 回	岡山市の健康寿命延伸施策について	保健福祉局保健福祉課福祉部保健管理課 高橋
第 1 4 回	岡山市の地方創生について	岡山市政策局政策部政策企画課 高橋
第 1 5 回	「男女共同参画」について	市民協働部女性が輝くまちづくり推進課
第 1 6 回	中学教育において持続可能性(SDG s)どう伝えているのか	岡山県立岡北中学校教諭 高橋

教科書			
教・書籍名 1	使用しない（毎回授業用資料を配布する）	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	『成長の限界 人類の選択』	参・出版社名 1	ダイヤモンド社
参・著者名 1	度ねラ・H / メドウズ他	参・ I S B N 1	ISBN4-478-87105-1
参・書籍名 2	『正義で地球は救えない』	参・出版社名 2	新潮社
参・著者名 2	池田清彦 & 養老孟司	参・ I S B N 2	ISBN978-4-10-423105-8

授業科目名	SDGs概論			担当者	高橋 正巳		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-SR-1-002		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜4限 金曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	△	DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	<きびこく学・前半8回> 本学の教育目標である「地域創成に実践的に役立つ人材の養成」を達成するための導入的教育として位置づけられる科目である。テーマとしては、順正学園及び大学が、立地する地元地域社会の中で発展を遂げてきた歴史、ならびに地域の歴史や文化、人々の生活等について理解を深めるとともに、地域社会の現状を理解し、地域創成に向けて取り組むべき課題について学ぶことがあげられる。 到達目標としては次の2点があげられる。 ①順正学園及び大学の歴史ならびに地域社会の歴史的特性や現状を理解し、地域創成のための取り組むべき課題を理解できる。 ②地域創成に向けて、学生としてどのような貢献ができるか考え、チャレンジする態度を涵養できる。 <SDGs概論・後半8回> 「地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGsの必要性と意義の理解」をテーマとし、SDGsの概要について学ぶ。 到達目標は以下の通り。 ①地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGs策定の背景が理解できる。 ②SDGsについて全体像を把握し、その概要を説明できる。 ③SDGsの各目標を自分事として捉えることができる。 ④SDGsの達成に向けて必要な取り組みを実行することができる。						
授業概要	<きびこく学・前半8回> 順正学園及び大学が、立地する地域の中で発展を遂げてきた歩み(歴史)を概観するとともに、地元地域で様々な活動を展開されている方々を講師に招き、地域の歴史や文化、人々の生活ならびに地域社会の現状や課題等についてご講演いただき、地域の特性や課題について理解を深める。また、毎回の講義の中で、学生の立場で地域の課題解決や発展にどのような貢献ができるのか考え、生活の主体者として地域創生に向けて取り組む姿勢を涵養することができるよう、レポート課題に取り組む。 <SDGs概論・後半8回> 2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標SDGs」について、その背景や目的を学ぶと共に、SDGsの17の目標について概要を学ぶ。また、SDGs達成に向けて実際にどのような取り組みが行われているかを学ぶ。そして、学生自らがその実現に向け、何ができるか、また何をしなければならないかを考え、実行しようとする能力を身につける。 授業は全学科の学生が受講する合同授業と各学科の授業で構成されている。合同授業は、地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGs策定の経緯およびSDGsの概要について講義形式で教授する。各学科の授業ではグループに分かれてSDGs達成に向けた施策をまとめ、グループ毎に発表をおこない課題解決能力を養う。						
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	<きびこく学・前半8回> 毎回授業時提出のレポート評価(70%)、第8回目を行う学修成果確認レポート作成の評価(30%)により、総合的に評価する。						

	<SDGs概論・後半8回> グループでの活動及び発表を評価する(50%)。最後に筆記試験を行いSDGsの理解度を評価する(50%)。 詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。	
ループリック評価		
課題や試験のフィードバック方法	<きびこく学・前半8回> 毎回の授業でレポート提出を課すが、次回の授業時までには内容を評価し返却する。 <SDGs概論・後半8回> 振り返りレポートを評価して次回授業で返却する。	
履修条件・注意事項	<きびこく学・前半8回> 地域の様々な立場にある外部講師による有益な講義を多く導入しているので、受講態度に十分留意して毎回必ず出席すること。 受講内容に関するレポート課題には、単に感想を述べるのではなく、真摯に、積極的に取り組むこと。 <SDGs概論・後半8回> ①初回の授業には、必ず出席すること。 ②学科別授業ではグループワークを行うことから、授業を欠席しないこと。 ③合同授業日と各学科授業日があるので注意すること。	
実務経験のある教員	該当する	内容 <きびこく学・前半8回> 授業を担当する複数の講師は、いずれも学園や大学の創設に中心的役割を担い尽力した講師や、地域社会の中で様々な活動を展開している実務経験の豊富な講師である。
事前学習・事後学習とその時間	<きびこく学・前半8回> 1) 事前にユニバを通じて配布する資料に十分目を通すとともに、インターネット等を通じて授業内容に関する情報を収集するなど、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。 2) 授業後には、学修内容を振り返り、不明な点や確認したいことなどを各自で調べるなど、毎回2時間以上の事後学修を行うこと。 <SDGs概論・後半8回> ユニバで配布する資料を基に事前学修をすること。また、授業終了後は必ず復習を行うこと。予習及び復習は各2時間程度行うこと。	
オフィスアワー	<きびこく学> 1号棟2階 124研究室 毎週木曜日 4時限目がオフィスアワー <SDGs概論> 1号棟2階 124研究室 毎週木曜日 4時限目がオフィスアワー	
授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション 「きびこく学」、SDGs概論、地域学概論を学ぶ意義について	高橋
第2回	岡山地域の会社で仕事をするとは	宮原製作所経営企画部長 高橋
第3回	順正学園及び吉備国際大学の歴史について	順正学園理事 外国学科担当教員
第4回	岡山を見る目と番組制作	元NHK 村上チーフディレクター 高橋
第5回	岡山藩における芸術的遺産	ジャヤ柴原美術館(槌田学芸員) 高橋
第6回	なぜ笠岡湾にはカブトガニが生息しているのか	元笠岡カブトガニ博物館館長 高橋
第7回	岡山地域の問題発見	株式会社マイナビ

		高橋
第 8 回	地域問題解決へのプロジェクト相談	高橋
第 9 回	<SDGs概論・後半8回> SDGsとは何かーなぜ学ぶのか(オリエンテーションを含む)	井勝久喜、外国学科担当教員
第 1 0 回	2030アジェンダ採択までの経緯	井勝久喜、外国学科担当教員
第 1 1 回	SDGsが目指している世界	井勝久喜、外国学科担当教員
第 1 2 回	SDGsの17の目標	井勝久喜、外国学科担当教員
第 1 3 回	岡山市の健康寿命延伸施策について	保健福祉局保健福祉課福祉部保健管理課 高橋
第 1 4 回	岡山市の地方創生について	岡山市政策局政策部政策企画課 高橋
第 1 5 回	「男女共同参画」について	市民協働部女性が輝くまちづくり推進課
第 1 6 回	中学教育において持続可能性(SDG s)どう伝えているのか	岡山県立岡北中学校教諭 高橋

教科書			
教・書籍名 1	使用しない（毎回授業用資料を配布する）	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	『成長の限界 人類の選択』	参・出版社名 1	ダイヤモンド社
参・著者名 1	度ねラ・H / メドウズ他	参・ I S B N 1	ISBN4-478-87105-1
参・書籍名 2	『正義で地球は救えない』	参・出版社名 2	新潮社
参・著者名 2	池田清彦 & 養老孟司	参・ I S B N 2	ISBN978-4-10-423105-8

授業科目名	グローバルスタディーズ入門				担当者	畝 伊智朗			
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年				ナンバリング	GE-SR-1-003			
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	30		授業形態	講義
年次	1年		開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目									
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力			
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目			
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／6. 安全な水とトイレを世界中に／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／13. 気候変動に具体的な対策を／16. 平和と公正をすべての人に 								
到達目標	テーマ： Think Globally Act Locally.グローバルに物事を見る、グローバルに考える。実践はローカルに。 到達目標： ヒト、モノ、カネ、情報が自由に世界を飛び回る時代。グローバル化、国際化が進展する現代では、グローバルな視点で、日本を見直す必要がある。日本の事情・都合だけで、政治・外交、経済、企業経営などを行なうことはできない。そのため、グローバルな視点で事象を観察、評価、判断できる能力が求められる。社会科学分野の基本概念を学ぶことを通じて、グローバルな視点を学び、世界の常識を学びながら、グローバル人材としての基本的思考を確立することを目指す。学生は、グローバルな視点で物事を判断できるようになる。								
授業概要	将来、社会で活躍する学生は、国際関係、国際経済、難民問題、その他多くのグローバル事象を複眼的に検討し、日本の事情を理解した上で、自分の意見が言える必要がある。そして、それを踏まえつつ、地域社会で実践する。それがグローバル人材。そのため、社会科学の多くの視点、手法を学びつつ、それを通じて世界の常識を認識できるようになる。グローバル人材として当然知っておくべき基本的な内容を学べる授業である。 具体的なイシューを題材として、講義を行なう。その際、経験的方法、量的論証、批判的思考方法の手法・視点を取り入れる。自己教育力を身につけてもらうため、問題解決型学習の実践も取り入れる。グループに課題を与え、実態を調査し解決策を検討する。その成果は、授業で発表を行なってもらう。 この科目が、他の教養科目の学修深化の一助となると共に、海外留学での学びや専門科目を履修する上での基礎を築くものとした。 なお、履修者の興味、関心などに基づき、ディスカッションのやり方、テーマなどは適宜調整する。								
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション								
評価方法と割合	授業への参加度・コメント（40％）、グループ・プレゼンテーション（20％）、最終レポートの成績（40％）により、総合評価をおこなう。								
ルーブリック評価									
課題や試験のフィードバック方法	グループ・プレゼンテーションの結果は、各プレゼンテーションの後で、それぞれ講評を行う。最終レポートに関しては、コメントを付し、授業または事務室を経由して、返却する。								
履修条件・注意事項	ワールドニュースを必ず観ること。チェックすること。世界で起きていることに関して、興味関心を持つこと。 本科目は日本語教員養成コースの必修科目であり、本コースの取得を目指すものは必ず履修しなければならない。								
実務経験のある教員	該当する	内容	本講義の担当教員は、米国に通算2ヶ年留学し、国際協力機構JICAで長年勤務し、その間、コートジボアール日本大使館、JICAケニア事務所、フランスにある国際機関経済協力開発機構（OECD）に勤務した経験があるほか、多くの外国要人の接遇経験もある。 それらの実務経験で学んだ暗黙知（本、論文、ネット記事などになっていないもの）を、授業の節目節目で共有し、講義にリアリティを持たせる。						

事前学習・事後学習とその時間	毎日、新聞を読む。ネットニュースなどをチェックする。参考図書などを読んで特定テーマに関し調べることなど、授業1回当たり、事前学習90分、復習90分の自己学修を必要とする。		
オフィスアワー	岡山キャンパス1階117号研究室にて、毎週金曜日4限目をオフィス・アワーとします。		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション グローバル・スタディーズで学ぶこと		畝
第2回	国境とは何か？		畝
第3回	人はなぜ移動するのか？		畝
第4回	なぜ、自衛隊を軍隊と呼ばないのか？		畝
第5回	国連憲章と日本国憲法		畝
第6回	ジェンダー、LGBT、少数民族		畝
第7回	グループ・プレゼンテーション		畝
第8回	価値、価格はどのように決まるのか？		畝
第9回	自由貿易は本当に世界を豊かにするのか？		畝
第10回	産業の空洞化、技術流出とは何か？何が問題なのか？		畝
第11回	多国籍企業とは何だろうか？		畝
第12回	高齢化社会の課題		畝
第13回	世界の教育問題、日本の教育問題。		畝
第14回	なぜ、Liberal Artsを学ぶのか？		畝
第15回	グループ・プレゼンテーションと総括		畝
第16回	最終試験（レポート）		畝
教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・I S B N 1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名1	国際関係論 同時代史への羅針盤	参・出版社名1	中公新書
参・著者名1	中嶋嶺雄	参・I S B N 1	4-12-101106-6
参・書籍名2	経済学を味わう 東大1、2年生に大人気の授業	参・出版社名2	日本評論社
参・著者名2	市村英彦ほか	参・I S B N 2	978-4-535-55955-4

授業科目名	課題解決演習			担当者	大下 朋子、池上 真由美		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-SR-1-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	実習
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 11. 住み続けられるまちづくりを 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリシップで目標を達成しよう						
到達目標	「地域貢献ボランティア活動を通して地域社会に積極的に参加できる人材となること」をテーマとする。外国学科のディプロマポリシーの一つとして、学生が卒業するまでに「海外の人々に自分と自国について自信を持って語り、失敗を恐れず未来に向かってチャレンジし続ける態度」を身に付けることを目標としている。本科目は、その目標を達成する一助として位置づけられた科目である。具体的には、ファジアーノ岡山のホームゲーム活動、前日準備、スタッフ交流イベントにおけるボランティア活動への参加である。学生は、ボランティアを通して、地域の人々と共にふれあい、活動することで、地域社会に貢献しようとする心や姿勢を持ち、地域社会の一員として積極的に活動できる人材の育成を到達目標とする。						
授業概要	キャリア教育の一環として社会人基礎力を身に付けるために、地域貢献ボランティアを行う。具体的には、ボランティアの社会的役割やボランティアの意義、活動時の注意事項等について学ぶ。その後、ファジアーノ岡山のホームゲーム活動、前日準備、スタッフ交流イベントにおけるボランティア活動を15コマ分（30時間以上）行なう。受講生はボランティア活動の予定表（5月～12月末まで）から活動時間が30時間以上になるよう選択し、ボランティアに参加する。学期毎に、活動報告会を設けプレゼンテーションを行う。ボランティア活動内容について活動報告書（1,000字以上）を作成する。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	ボランティア活動の内容および活動報告書、発表会内容等により、授業の到達目標についての達成度をトータルで評価する。具体的には、ボランティア活動状況60%、プレゼンテーション20%、活動報告書20%のウエイトにより評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回で取り組んだ内容（授業内容、ボランティア実習、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本科目は2年次前期に受講してください。希望者は、必ず初回のオリエンテーションに参加すること。履修登録までに、大学が加盟する任意保険（学生教育研究災害傷害保険「学研災」）に加入すること。ボランティア活動時は、ボランティアカードと学生証を携帯し、受入れ事業者の指示に従い、事故に注意すること。ボランティア終了時には、活動時間を記入し、事業者に終了確認印を受領すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	地域貢献に関する実務経験者を外部講師とし、ボランティアの社会的役割やボランティアの意義を学ぶ。				
事前学習・事後学習とその時間	ボランティア活動に参加する前に、参加するボランティア活動の内容についてインターネットなどを活用して調べておくこと。また、ボランティア終了後にはその都度活動の内容について振り返りを行い、記録を整理しておくこと。予習及び復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	大下(朋)：1号棟2階の個人研究室にて、毎週木曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	地域貢献ボランティアの概括					池上・大下(朋)	
第2回	ボランティア活動の説明会					外部講師・大下(朋)	
第3回	ボランティア活動					外部講師（池上・大下(朋)）	
第4回	ボランティア活動					外部講師（池上・大下(朋)）	
第5回	ボランティア活動					外部講師（池上・大下	

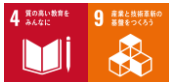
		(朋))
第 6 回	ボランティア活動	外部講師（池上・大下 (朋))
第 7 回	ボランティア活動	外部講師（池上・大下 (朋))
第 8 回	ボランティア活動	外部講師（池上・大下 (朋))
第 9 回	ボランティア活動	外部講師（池上・大下 (朋))
第 1 0 回	ボランティア活動	外部講師（池上・大下 (朋))
第 1 1 回	ボランティア活動	外部講師（池上・大下 (朋))
第 1 2 回	ボランティア活動	外部講師（池上・大下 (朋))
第 1 3 回	ボランティア活動	外部講師（池上・大下 (朋))
第 1 4 回	ボランティア活動	外部講師（池上・大下 (朋))
第 1 5 回	ボランティア活動	外部講師（池上・大下 (朋))
第 1 6 回	活動報告会（プレゼンテーション・活動報告書）	外部講師・池上・大下(朋)
教科書		
教・書籍名 1		教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	キャリアデザインⅠ			担当者	高木 秀明		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-CE-1-005		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も 						
到達目標	【到達目標】社会的自立と職業的自立にむけて、自分の生き方・働き方を計画（キャリアデザイン）し、実行できる人間力と社会人意識の基礎を身につける。 キャリアとは、生涯にわたる様々な立場や役割における自己と働くこととの関係づけや価値づけで、人生そのものである。そして、キャリアデザインとは、卒業後の将来を見据えて自らの生き方・働き方を考え、計画することである。大学生活を充実させ、社会で生きていくためには、自立的・主体的に考えて行動し、問題や課題に直面したときに自分で対処し解決する力が必要となる。そのためには、社会が求める人間像（自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力）について考え、自分自身を知り目標をもって実行していくことが必要である。 したがって、この科目の具体的な到達目標として、以下の3点を設定する。 ①自分自身を知り、社会を知ること、自らの将来をイメージしながら、社会に出て働く意味や自分の目標を明確化できる。 ②その目標や社会的自立に向けて、自身のキャリアをデザインし、大学生活をどのように過ごすか考え、実践できる。 ③社会人としての基礎力であるコミュニケーション能力、社会人意識、職業選択能力を向上させる。						
授業概要	授業では、キャリアとは何か、キャリアをデザインするとはどのようなことか、大学生活における心身の健康やキャリア実践活動、一般的学力（自己理解）について講義や演習を行う。また、マイステップを使用する「キャリアデザインノート」の意義や作成方法についても説明し、個人の記録として卒業まで活用していく。 授業全体を通して、「自分を知る」「社会を知る」「社会とつながる」「生き方を考える（大学生活を含む）」「働き方を考える」という5つのテーマで構成し、ワークシートやキャリアデザインノートへの記入、グループワークやディスカッションといった演習活動を行って自分の人生を考えることができるようにする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	授業時間内の活動や発言（30％）、ワークシートやキャリアデザインノートへの記入（30％）、基礎学習（kiuiドリル）実施状況（20％）、最終試験あるいはレポート（20％）で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	ワークシートやキャリアデザインノートの記入内容については、授業内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	毎回、資料やプリントを配布するので、第1回目授業からファイルを持参すること。スマートフォンの各種アプリを利用した授業、ノートPCを使つてのワークシート記入があるので毎回持参すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	第3回、4回、14回は、キャリア形成や就職支援の実務経験のある外部講師を招き、キャリアデザインの基礎となる自己理解の演習を行う。				
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、授業内で配布された資料や参考図書を読んでおく。 事後学習として、授業内で配布された資料を読み、次回までの課題が提示された回はその課題に取り組む。随時、自身のキャリア実践やプランについて「キャリアデザインノート」に記載していく。 各2時間の学修時間を目安とする。						
	1号棟1階の個人研究室にて、毎週火曜日4時限をオフィスアワーの時間とする。						

オフィスアワー		また、水曜日1～4時限は、岡山キャンパス事務室のキャリアサポートセンタースタッフにおいてキャリアに関する相談に応じる。	
授業計画		担当者	
第1回	キャリアとは何か 授業の進め方		高木
第2回	自分を知る・生き方を考える：メンタルヘルス		高木、池本
第3回	キャリアとは何か形成の基礎：働くとは		高木、外部講師（マイナビ）
第4回	自分を知る：基礎学力（1回目）大学生活の基礎・大学での学び方		高木、外部講師（ライズ・ビザビ）
第5回	大学生活で必要なこと準備 マナー ルール		高木、外部講師（シーズ）
第6回	自分を知る：自分の適性を調べ仕事について知る		高木、外部講師（マイナビ）
第7回	自分を知る：自分の持ち味が生きやすい社風		高木、外部講師（リクナビ）
第8回	キャリア形成の基礎：対人関係		高木
第9回	正しい情報収集：新聞の読み方		高木、外部講師（山陽新聞社）
第10回	社会を知る・つながる：キャリア実践となる課外活動		高木、外部講師（ボランティアセンター）
第11回	キャリアアップ：留学におけるキャリアアップ		高木、外部講師（マイナビ）
第12回	社会を知る：業界について知識を深める		高木、外部講師（ビザビ）
第13回	仕事研究：学科の専門生を生かす仕事先輩との体験談		高木、外部講師（卒業生）
第14回	自分を知る基礎学力（2回目）、将来に向けて		高木、外部講師（ライズ・マイナビ）
第15回	まとめ：キャリアデザインノートの作成		高木
第16回	レポート（キャリアデザインノートの提出）		高木
教科書			
教・書籍名1	教科書は指定しない。毎回、資料やワークシートを配布する。		教・出版社名1
教・著者名1			教・ISBN1
教・書籍名2			教・出版社名2
教・著者名2			教・ISBN2
参考書			
参・書籍名1			参・出版社名1
参・著者名1			参・ISBN1
参・書籍名2			参・出版社名2
参・著者名2			参・ISBN2

授業科目名	情報活用（Aクラス）				担当者	佐藤 匡			
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年				ナンバリング	GE-AI-1-009			
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	30		授業形態	講義と演習
年次	1年		開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜2限	
ディプロマポリシー対応項目									
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3.主体的な学びと論理的な思考		△	DP 4. コミュニケーション・表現力		
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感			DP 8. 学科項目		
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう  								
到達目標	全学共通の基礎教育科目として、高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる必要最低限の一般教養としてのコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、学科のディプロマポリシーに従って、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。								
授業概要	情報モラルとセキュリティ、情報システムの利用と社会問題、OSの基本操作、インターネットの閲覧とブラウザの基本操作、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用、ネットワーク、インターネットによる情報検索、コンピュータによる問題解決、ハードウェアとソフトウェア、デジタルデータのしくみなどについて学習する。 講義の内容に対応して、パソコンを使用し適宜演習が行われる。								
アクティブラーニングの内容	実習								
評価方法と割合	「コンピュータスキル」の定着を確認するため、講義内で用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物30%、試験の成績を40%として最終的に総合評価が行われる。これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準とされる。								
ルーブリック評価									
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。								
履修条件・注意事項	教科書は必ず初回の講義から持参すること。 講義は指定されたクラス・講義室で受講すること（受講者数はパソコン教室の定員以内とする）。 オリエンテーション等で、講義が始まる前までにコンピュータリテラシーのスキルを調べる「技能確認シート」が実施される場合がある。このシート未受験者の履修はその理由によっては認められないこともある。 高校までで習得したコンピュータリテラシーを踏まえた講義であるため、受講前までに高校で得た知見を十分復習しておくこと。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。								
実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員は、前職で企業のIT部門（システム管理部門）に従事し、パソコンと汎用コンピュータと電話回線を組み合わせた比較的規模の大きい基幹システムから、パソコンによる段ボール箱設計と段ボール箱へのデザインを作るDTPシステムまでを開発運用した経験を持つ。その他データウェアハウスによるOLAPの運用経験を持つほか、労働省（当時）が全国で運営するコンピュータカレッジの中の一校においてCGコースを2年間担当した経験を持つ。						
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。								
	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日 3 時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日 4 時限目								

オフィスアワー	秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日 2 時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日 3 時限目		
	予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。		
授業計画			担当者
第 1 回	オリエンテーション（クラス・教科書、ログイン等確認、Teamsの操作）		佐藤
第 2 回	パソコンのハードウェアと周辺機器		佐藤
第 3 回	デジタルデータのしくみ（ビット/バイト・標準化・コード）		佐藤
第 4 回	OSとアプリケーション		佐藤
第 5 回	ファイルシステム操作		佐藤
第 6 回	文書作成（ワープロソフト）操作		佐藤
第 7 回	文書作成（ワープロソフト）課題		佐藤
第 8 回	表計算ソフト操作		佐藤
第 9 回	表計算ソフト課題		佐藤
第 1 0 回	プレゼンテーションソフト操作		佐藤
第 1 1 回	プレゼンテーションソフト課題		佐藤
第 1 2 回	ネットワークとインターネット		佐藤
第 1 3 回	インターネットによる情報検索・情報セキュリティ		佐藤
第 1 4 回	コンピュータの歴史・コンピュータによる問題解決		佐藤
第 1 5 回	情報モラルと社会問題、まとめ・質疑		佐藤
第 1 6 回	単位認定試験		佐藤
教科書			
教・書籍名 1	情報リテラシー 入門編 Windows 11 / Office 2021対応 FPT2117	教・出版社名 1	FOM出版
教・著者名 1		教・ I S B N 1	978-4-938927-54-7
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	情報活用（Ｂクラス）			担当者	高木 秀明			
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-AI-1-009			
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年		開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜1限
ディプロマポリシー対応項目								
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3.主体的な学びと論理的な思考		△	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感			DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 							
到達目標	全学共通の基礎教育科目として、高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる必要最低限の一般教養としてのコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、学科のディプロマポリシーに従って、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。							
授業概要	情報モラルとセキュリティ、情報システムの利用と社会問題、OSの基本操作、インターネットの閲覧とブラウザの基本操作、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用、ネットワーク、インターネットによる情報検索、コンピュータによる問題解決、ハードウェアとソフトウェア、デジタルデータのしくみなどについて学習する。 講義の内容に対応して、パソコンを使用し適宜演習が行われる。							
アクティブラーニングの内容	実習							
評価方法と割合	「コンピュータスキル」の定着を確認するため、講義内で用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物30%、試験の成績を40%として最終的に総合評価が行われる。これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準とされる。							
ルーブリック評価								
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。							
履修条件・注意事項	教科書は必ず初回の講義から持参すること。 講義は指定されたクラス・講義室で受講すること（受講者数はパソコン教室の定員以内とする）。 オリエンテーション等で、講義が始まる前までにコンピュータリテラシーのスキルを調べる「技能確認シート」が実施される場合がある。このシート未受験者の履修はその理由によっては認められないこともある。 高校までで習得したコンピュータリテラシーを踏まえた講義であるため、受講前までに高校で得た知見を十分復習しておくこと。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。							
実務経験のある教員	該当しない	内容						
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。							
オフィスアワー	火曜日4時限、1号棟1階114研究室で実施。							
授業計画							担当者	
第1回	オリエンテーション（クラス・教科書、ログイン等確認、Teamsの操作）						高木	
第2回	パソコンのハードウェアと周辺機器						高木	
第3回	デジタルデータのしくみ（ビット/バイト・標準化・コード）						高木	
第4回	OSとアプリケーション						高木	
第5回	ファイルシステム操作						高木	
第6回	文書作成（ワープロソフト）操作						高木	

第 7 回	文書作成（ワープロソフト）課題	高木
第 8 回	表計算ソフト操作	高木
第 9 回	表計算ソフト課題	高木
第 1 0 回	プレゼンテーションソフト操作	高木
第 1 1 回	プレゼンテーションソフト課題	高木
第 1 2 回	ネットワークとインターネット	高木
第 1 3 回	インターネットによる情報検索・情報セキュリティ	高木
第 1 4 回	コンピュータの歴史・コンピュータによる問題解決	高木
第 1 5 回	情報モラルと社会問題、まとめ・質疑	高木
第 1 6 回	単位認定試験	高木
教科書		
教・書籍名 1	情報リテラシー 入門編 Windows11/Office2021対応 (FPT2117)	教・出版社名 1 FOM出版
教・著者名 1		教・ I S B N 1 978-4-938927-54-7
教・書籍名 2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ I S B N 2

授業科目名	数理・データサイエンス・AI基礎			担当者	佐藤 匡		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-AI-1-010		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	△	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4 質の高い教育をみんなに 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 17 パートナリシップで目標を達成しよう						
到達目標	政府の「AI戦略2019」（2019年6月策定）にて、リテラシー教育として、文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒/年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得する、とされたことを踏まえ、各大学・高専にて参照可能な「モデルカリキュラム」が数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムにおいて検討・策定された。本講義はそのリテラシーレベルのモデルカリキュラムに従ったものである。 到達目標は、今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること。そして、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。である。 （数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム～データ思考の涵養～2020年4月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム 2枚目）						
授業概要	社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。そういった現代では、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することが、よりよく生きる上で求められている。また、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見のため、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。そのため、この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。 前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。						
アクティブラーニングの内容	実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「数理・データサイエンス・AI基礎」の予習復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物50%、データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を20%として最終的に総合評価が行われる。これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準となる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	受講者数は、30人以内とする。そのため抽選となることがある。 抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 第1回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。						
実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員が理事を務めているNPO全国要約筆記問題研究会（会員数約1,300人）では、全国の自治体に対して要約筆記者養成の現状調査を行っている。また、パソコン要約筆記全体投影の読みやすさについて、首都圏の聴覚障がい者にアンケートや読みやすさの調査を行っている。その分析では本講義のデータサイエンスの知識が活用されている。				
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。						

	予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。		
オフィスアワー	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日 3 時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日 4 時限目 秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日 2 時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日 3 時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。		
授業計画		担当者	
第 1 回	オリエンテーション・スキル確認テスト 導入とAIの定義とAIリテラシー		佐藤 匡
第 2 回	ビッグデータと社会の変化		佐藤 匡
第 3 回	社会で活用されているデータ		佐藤 匡
第 4 回	データ・AIの活用領域の広がり		佐藤 匡
第 5 回	データ・AIの技術		佐藤 匡
第 6 回	データサイエンス		佐藤 匡
第 7 回	データ・AIを活用するときの負の側面		佐藤 匡
第 8 回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（考え方）		佐藤 匡
第 9 回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（事例）		佐藤 匡
第 1 0 回	AIとアルゴリズム		佐藤 匡
第 1 1 回	データの構造とプログラミング		佐藤 匡
第 1 2 回	データの利活用方法		佐藤 匡
第 1 3 回	時系列データと文章データの分析例		佐藤 匡
第 1 4 回	教師あり学習と教師なし学習		佐藤 匡
第 1 5 回	データ・AI利活用における留意事項		佐藤 匡
第 1 6 回	まとめと筆記試験・評価		佐藤 匡
教科書			
教・書籍名 1	はじめてのAIリテラシー	教・出版社名 1	技術評論社
教・著者名 1	岡嶋裕史、吉田雅裕 著	教・ I S B N 1	978-4-297-12038-2
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	中国語Ⅰ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LC-1-012		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能の習得（入門編）。 到達目標： 学生は中国語を正しく発音するための方法を知り、初歩的な文法事項を理解し、初歩的かつ日常的な中国語会話に必要な語彙と文を読んだり聞き取ったりすることができるようになる。						
授業概要	中国語での読む・書く・話す力を伸ばすためには、まず発音を完全にマスターする必要がある。中国語には日本語にない捲舌音や有気音があり、発音が難しい。そのため、2ヶ月近く徹底的に練習を繰り返す。その後、初級文法や簡単な日常会話を練習することにより、前期終了時には挨拶や自己紹介ができるようになる。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「中国語を正しく発音するための方法を知り、初歩的な文法事項を理解し、初歩的かつ日常的な中国語会話に必要な語彙と文を読んだり聞き取ったりすることができるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（70％）、小テスト（20％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（10％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能ないようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3）予習及び復習にが、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	1、中国語の声調に関する解説及び発声リズムの練習 2、単母音の発声練習					孫基然	
第2回	1、声調発声リズムの復習 2、単母音の発声復習 3、複合母音の発声練習					孫基然	
第3回	1、声調発声リズムの復習 2、単母音の発声復習 3、複合母音の発声復習 4、鼻音の発声練習					孫基然	
第4回	1、発音の復習 2、そり舌音の発声練習					孫基然	
第5回	1、発音の復習 2、子音の発声練習					孫基然	
	1、発音総合復習						

第 6 回	2、発音小テスト 3、実施した小テストをフィードバックする。	孫基然
第 7 回	1、声調符号をつける位置 2、声調の変化 3、よく使うフレーズ	孫基然
第 8 回	1、人称代名詞 2、判断文 3、普通疑問文	孫基然
第 9 回	1、副詞「也」 2、副詞「的」 3、普通疑問文	孫基然
第 1 0 回	1、「喜歡」の使い方 2、形容詞述語文	孫基然
第 1 1 回	1、省略疑問文 2、年齢の聞き方と使い分け	孫基然
第 1 2 回	1、所有を表す「有」 2、完了を表す「了」 3、推測表現	孫基然
第 1 3 回	1、時刻の言い方 2、量詞の使い方	孫基然
第 1 4 回	1、省略疑問文 2、進行表現	孫基然
第 1 5 回	1、提案や勧誘の使い方 2、二重目的語を取る動詞	孫基然
第 1 6 回	筆記試験	孫基然
教科書		
教・書籍名 1	中国への旅	教・出版社名 1 朝日出版社
教・著者名 1	山下輝彦、黄漢青	教・ I S B N 1 978-4-255-45332-3
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	中国語Ⅱ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-LC-1-013		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能の習得（基礎編）。 到達目標： 学生は前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準4級の獲得へつなげていくことができるようになる。						
授業概要	中国語には、日本語にない捲舌音や有気音があり、発音が難しい。そのため、2ヵ月近く徹底的に練習を繰り返す必要がある。その後、初級文法や簡単な日常会話を練習し、Ⅱの終了時には挨拶や自己紹介ができるようになる。基礎的な文法事項、表現等を会話や筆記練習等で理解を深め、会話力、読解力、応用力を高める。担当教員は毎回必ず課題として出された単語や基本構文の暗唱をチェックする。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準4級の獲得へつなげていくことができるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（70％）、小テスト（20％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（10％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能なようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3）予習及び復習にが、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	1、助動詞「会」と「能」 2、選択疑問文					孫基然	
第2回	1、助動詞「想」 2、反復疑問文					孫基然	
第3回	1、経験表現 2、連動文					孫基然	
第4回	1、時量補語 2、存在表現					孫基然	
第5回	1、助動詞「会」と「能」 2、選択疑問文 3、比較表現					孫基然	
第6回	1、介詞「離」、「従」と「往」の使い方 2、動作の方式を表す「着」					孫基然	

	3、比較表現	
第 7 回	1、逆接を表す「雖然……、但是」 2、「的」の使い方 3、結果補語	孫基然
第 8 回	中間テスト	孫基然
第 9 回	中間テストをフィードバックする。	孫基然
第 1 0 回	1、逆接を表す「雖然……、但是」 2、「的」の使い方	孫基然
第 1 1 回	1、未来を表す表現 2、方法や方式を訪ねる表現	孫基然
第 1 2 回	1、介詞「給」 2、仮定表現	孫基然
第 1 3 回	1、「太……了」の文型 2、人民元の数え方 3、割引の言い方	孫基然
第 1 4 回	1、動詞の重ね型 2、「一边」と「一点」	孫基然
第 1 5 回	1、程度補語 2、介詞「為了」 3、方向補語と兼語文	孫基然
第 1 6 回	筆記試験	孫基然
教科書		
教・書籍名 1	中国への旅	教・出版社名 1 朝日出版社
教・著者名 1	山下輝彦、黄漢青	教・ I S B N 1 978-4-255-45332-3
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	フランス語Ⅰ			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-LF-1-014		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	テーマ：「フランスの文化を理解し、かんたんなフランス語を話す」 到達目標：学生はフランスの文化について教養として語れるようになる。それらをフランス語で読み・発音できるようになる。フランスを旅行したときなどに、あいさつやかんたんな会話ができるようになる。						
授業概要	この講義は、一方向のレクチャーではなく、参加型双方向の授業で、フランス語のスキル習得のため、できるだけ大きな声を出して繰り返し発音することが求められる。フランス語の音節を正しく発音するための方法を知り、綴り字を正しく読むための理論と基礎文法を理解し、初歩的かつ日常的なフランス語会話に必要な語彙と例文を、フランスの歴史・地理・文化のなかから代表的なものを繰り返し発音して、暗唱できるようにする。初心者対象で、ABCと発音／つづり字の読み方から始められ、名詞・形容詞の性・数や冠詞などの基本文法が文化を学ぶなかで理解できるよう説明される。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「フランスの文化について教養として語れるようになる」という目標に対して、各自作成した報告書を提出する。「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業で質問に答えたり発表したりする。それらで総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための筆記試験を行って評価する。参加型学習を主体としていることから、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。授業毎試験（60％）、単位認定試験（40％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。						
履修条件・注意事項	毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に黒板に板書されたキーワードを読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また事後学習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に提出（または発表）すること毎週、課題が出される。その課題について必ずノートを作成する必要がある。予習復習には各2時間程度を要する。その課題テーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。それに基づいて、参加型授業が行われるので、復習・予習は必須である。各2時間の学修時間を目安とする。						
オフィスアワー	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	スポーツ①ツール・ド・フランス					加藤健次	
第2回	映画①ヌーヴェル・ヴァーグから最強の二人まで					加藤健次	
第3回	音楽①サガンとブラームスはお好き？					加藤健次	
第4回	建築①ロマネスク様式					加藤健次	
第5回	食①パン					加藤健次	
第6回	旅①ブルターニュとモンサンミッシェル					加藤健次	
第7回	歴史①マリーアントワネット					加藤健次	
第8回	スポーツ②その他の自転車ロードレースとル・マン24時間耐久レース					加藤健次	
第9回	美術②ピカソ、マチス、キュビズムと現代アート					加藤健次	
第10回	音楽②ピアフとシャンソンの世界					加藤健次	

第 1 1 回	建築②ゴシック様式	加藤健次	
第 1 2 回	食②お菓子とショコラ	加藤健次	
第 1 3 回	旅②ロワール川と城	加藤健次	
第 1 4 回	文学①詩：ボードレールからコクトーまで	加藤健次	
第 1 5 回	旅③ブルゴーニュとヴェズレー教会	加藤健次	
第 1 6 回	筆記試験	加藤健次	
教科書			
教・書籍名 1		教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	はじめて学ぶフランスの歴史と文化	参・出版社名 1	ミネルヴァ書房
参・著者名 1	上垣 豊（編）	参・ I S B N 1	ISBN-10 : 4623087786 ISBN-13 : 978-4623087785
参・書籍名 2	ゼロからスタート フランス語 会話編	参・出版社名 2	Jリサーチ出版
参・著者名 2	鈴木文恵(著)	参・ I S B N 2	I S B N 1978-4-86392-103-0

授業科目名	フランス語Ⅱ				担当者	加藤 健次			
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年				ナンバリング	GE-LF-1-015			
必修・選択	選択	単位数	2単位		時間数	30		授業形態	講義
年次	1年		開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜4限	
ディプロマポリシー対応項目									
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力			
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目			
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 								
到達目標	テーマ：「フランスの文化を理解し、日常的なフランス語を話すことができるようになる」 到達目標：学生はフランスの文化について理解する。それらをフランス語で読み・発音できるようになる。フランスを旅行した時などに、あいさつやその場に応じた会話ができるようになる。								
授業概要	これまでに習った文法や基本構文を復習しながら、フランス文化に関する練習問題をていねいに解いていく。フランス文化に関係した会話例文を正確に音読する指導を受ける。次週までに、それらを口に出して言えるようにしてくる。授業では、その例文を暗唱する。これを繰り返すことでフランスに精通し、フランス語の語彙力や発話力を身につけよう。								
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）								
評価方法と割合	「フランスの文化について教養として語れるようになる」という目標に対して、各自作成した報告書を提出する。「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業で質問に答えたり発表したりする。それらで総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための筆記試験を行って評価する。参加型学習を主体としていることから、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。授業毎試験（60％）、単位認定試験（40％）を合計して総合評価する。								
ルーブリック評価									
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。								
履修条件・注意事項	毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。								
実務経験のある教員	該当しない	内容							
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に黒板に板書されたキーワードを読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また事後学習として、毎回課題を出すので、次の授業時に提出（または発表）すること毎週、課題が出される。その課題について必ずノートを作成する必要がある。予習復習には各2時間程度を要する。その課題テーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。それに基づいて、参加型授業が行われるので、復習・予習は必須である。各2時間の学修時間を目安とする。								
オフィスアワー	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。								
授業計画							担当者		
第1回	スポーツ③サッカー・リーグ・アン						加藤健次		
第2回	美術③マグリットとシュールレアリスム						加藤健次		
第3回	音楽③サティとミニマルミュージック						加藤健次		
第4回	建築③ルネサンス・バロック様式						加藤健次		
第5回	食③チーズ						加藤健次		
第6回	旅④プロヴァンスとアルル						加藤健次		
第7回	文学②文学②サンテグジュペリ『星の王子さま』						加藤健次		
第8回	スポーツ④ベタンク						加藤健次		
第9回	美術④スーラージュ、クラインに見る現代アート						加藤健次		
第10回	音楽④ジプシー音楽とジャズマヌーシュ						加藤健次		
第11回	食④ワイン						加藤健次		

第 1 2 回	旅⑤サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路	加藤健次	
第 1 3 回	哲学①デカルトと主体の哲学	加藤健次	
第 1 4 回	文学②文学③小説：ユゴーからル・クレジオまで	加藤健次	
第 1 5 回	食⑤Menuとコース料理	加藤健次	
第 1 6 回	筆記試験	加藤健次	
教科書			
教・書籍名 1		教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	はじめて学ぶフランスの歴史と文化	参・出版社名 1	ミネルヴァ書房
参・著者名 1	上垣 豊（編）	参・ I S B N 1	ISBN-10 : 4623087786 ISBN-13 : 978-4623087785
参・書籍名 2	ゼロからスタート フランス語 会話編	参・出版社名 2	Jリサーチ出版
参・著者名 2	鈴木文恵(著)	参・ I S B N 2	I S B N 1978-4-86392-103-0

授業科目名	ドイツ語Ⅰ			担当者	清水 光二			
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-LG-1-016			
必修・選択	選択	単位数	2単位		時間数	30	授業形態	演習
年次	1年		開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜1限
ディプロマポリシー対応項目								
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力		
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目		
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 							
到達目標	学生は「ドイツ語Ⅰ」の終了時には、初歩的かつ日常的なドイツ語会話において使用されている定型的で平易な語句や文章を、話せたり・読んだり・聞き取ったりできるようになる。それに向けての個別目標だが、ドイツ語を正しく発音するためのルールを知り、併せて動詞や名詞を中心とした基礎的な文法を段階的に習得することになる。							
授業概要	この講義は、ドイツ語の初学者を対象にしている。春学期を通して学修する項目は、大体以下のような内容である。つづりと発音の関係、挨拶等の定型表現、自己紹介と他者紹介、辞書の案内と使い方、人称代名詞、規則動詞と不規則動詞の現在人称変化、名詞の性・数・格、前置詞、定冠詞、不定冠詞など。それに加え、定型的な日常口語表現を通して、コミュニケーションの初歩も学ぶ。なお、今回この授業で使うテキストはドイツ語の総合的な文法読本であり、ドイツの社会・文化・歴史などについても学ぶことができ、異質な文化や社会にたいする理解を深めることにもなる。							
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）							
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50％）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50％）を合計して総合的に評価する。							
ルーブリック評価								
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。							
履修条件・注意事項	語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはいりえないことである。毎回の授業では何かきくと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的な参加態度および課題発表」の評価につながるのである。テキストの会話・読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後の予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくる。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。							
実務経験のある教員	該当しない	内容						
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語を初めて学ぶ者にとって、教師により説明される文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分については学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業においてその準備の成果を発表することが求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週2時間程度である。							
オフィスアワー	個人研究室（2号館6階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。							
授業計画							担当者	
第1回	オリエンテーション ドイツおよびドイツ語とは アルファベット ドイツ語の発音（母音）						清水光二	
第2回	ドイツ語の発音（子音） 挨拶表現						清水光二	
第3回	ドイツ語の発音（まとめ） 挨拶表現の復習						清水光二	
第4回	Lektion 1 Was lernst du? 動詞の現在人称変化						清水光二	
第5回	Lektion 1 Was lernst du? 定動詞第2位の原則 seinの現在人称変化						清水光二	
第6回	Lektion 2 Hast du Geschwister? 名詞の性と格 定冠詞の格変化						清水光二	
第7回	Lektion 2 Hast du Geschwister? 不定冠詞の格変化 habenの現在人称変化						清水光二	
第8回	Lektion 3 Wann fährst du nach München? 不規則な現在人称変化						清水光二	
第9回	Lektion 3 Wann fährst du nach München? 命令形						清水光二	
第10回	Lektion 4 Welche Uhr kaufst du? 定冠詞類						清水光二	
第11回	Lektion 4 Welche Uhr kaufst du? 不定冠詞類 所有冠詞						清水光二	
第12回	Lektion 5 Kaufst du diese Bücher? 複数形						清水光二	

第 1 3 回	Lektion 5 Kaufst du diese Bücher? 人称代名詞	清水光二	
第 1 4 回	Lektion 6 Was machst du an diesem Wochenende? 前置詞の格支配 2格支配／3格支配	清水光二	
第 1 5 回	Lektion 6 Was machst du an diesem Wochenende? 前置詞の格支配 4格支配／3・4格支配	清水光二	
第 1 6 回	筆記試験	清水光二	
教科書			
教・書籍名 1	パノ ラマ 初級ドイツ語ゼミナール[三改版]	教・出版社名 1	白水社
教・著者名 1	上野成利、本田雅也	教・ I S B N 1	ISBN 978-4-560-06420-7
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	文法からマスター! はじめてのドイツ語	参・出版社名 1	ナツメ社
参・著者名 1	小野寺 賢一	参・ I S B N 1	ISBN-10: 481635137X
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	ドイツ語Ⅱ			担当者	清水 光二		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-LG-1-017		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	学生は「ドイツ語Ⅱ」の終了時には、日常的な会話において使用されている定型的で平易な語句や文章を、話せたり・読んだり・聞き取ったりできるようになる。それに向けての個別目標だが、ドイツ語の基礎的な文法を学びながら（英語との比較も行いつつ）、ドイツ語特有の語法を品詞別あるいは時制別に段階的に理解することになる。						
授業概要	この講義は、「ドイツ語Ⅰ」を終了した学生を対象にしている。秋学期を通して学習する主な文法項目は、大体以下のようなものになっている。分離動詞・非分離動詞、接続詞、副文、再帰代名詞、再帰動詞、動詞の過去形と現在完了形、接続法など。文法事項については教師によって説明がなされるが、その後の練習問題や会話・読本部分については毎回学生の積極的な取り組みが求められる。そのためには、授業以外での予習や復習がどうしても必要となる。なお、今回この授業で使うテキストは総合的な文法読本であり、ドイツ語圏の習慣や日常といった文化一般、社会問題等にも触れながら楽しく初級ドイツ語を学べる内容となっている。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50％）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはいりえないことである。毎回の授業では何かきくと発表等をやれられるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的な参加態度および課題発表」の評価につながるのである。テキストの会話・読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後の予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくる。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語を初めて学ぶ者にとって、教師により説明される文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分については学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業においてその準備の成果を発表することが求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週2時間程度である。						
オフィスアワー	個人研究室（2号館6階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	Lektion 7 Was liest du genau? 形容詞の格変化					清水光二	
第2回	Lektion 8 Wohin willst du gehen? 話法の助動詞					清水光二	
第3回	Lektion 8 Wohin willst du gehen? 未来形					清水光二	
第4回	Lektion 9 Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt? 分離動詞					清水光二	
第5回	Lektion 9 Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt? 接続詞と副文					清水光二	
第6回	Lektion 10 Hast du vor, München zu besuchen? zu不定詞					清水光二	
第7回	Lektion 10 Hast du vor, München zu besuchen? 再帰代名詞					清水光二	
第8回	Lektion 11 Als ich das Museum besuchte, … 動詞の3基本形					清水光二	
第9回	Lektion 11 Als ich das Museum besuchte, … 過去形					清水光二	
第10回	Lektion 12 Hast du Weimar besucht? 現在完了形					清水光二	
第11回	Lektion 12 Hast du Weimar besucht? 非人称表現					清水光二	
第12回	Lektion 13 Es wird gesagt, dass … 受動態					清水光二	

第 1 3 回	Lektion 13 Es wird gesagt, dass … 比較表現	清水光二
第 1 4 回	Lektion 14 Was ist das beste Buch, das du je gelesen hast? 関係代名詞	清水光二
第 1 5 回	Lektion 14 Was ist das beste Buch, das du je gelesen hast? 不定関係代名詞	清水光二
第 1 6 回	筆記試験	清水光二
教科書		
教・書籍名 1	パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール[三改版]	教・出版社名 1 白水社
教・著者名 1	上野成利、本田雅也	教・ I S B N 1 ISBN 978-4-560-06420-7
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	文法からマスター! はじめてのドイツ語	参・出版社名 1 ナツメ社
参・著者名 1	小野寺 賢一	参・ I S B N 1 481635137X
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	日本語ⅠA(文法) (Aクラス)			担当者	小西 真弓		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-018		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう  						
到達目標	日本語初中級、中級レベルの文字、語彙、文法、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は他の日本語関連科目Ⅰと併せて、初中級、中級の「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」の4技能を習得することができる。到達目標は、日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)によって総合的に行う。 この総合評価に加え、日本語能力試験N2の可否結果を加味し、最終的な単位認定を行う。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続すること。N2に合格しなければ、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使つての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。						
履修条件・注意事項	プレイメントテストの結果で、習熟度別に2クラスに編成する。N2を取得していない学生は、2年次に開講される日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できないので、本講義の受講中にN2を取得すること。なお、日本語能力試験N1の取得者でプレイメントテストにて日本語科目の履修を免除された学生は、日本人と同様に、外国語科目を履修しなければならない。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。						

オフィスアワー		授業終了後、休憩時間、教室にて	
授業計画		担当者	
第 1 回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓	
第 2 回	内容理解問題：短文一単問 中文一単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第 3 回	内容理解問題：短文一単問 中文一単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第 4 回	内容理解問題：中文一複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第 5 回	内容理解問題：中文一複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第 6 回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第 7 回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第 8 回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第 9 回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第 1 0 回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第 1 1 回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第 1 2 回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第 1 3 回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第 1 4 回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第 1 5 回	総括、確認テスト	小西真弓	
第 1 6 回	単位認定筆記試験	小西真弓	
教科書			
教・書籍名 1	日本語能力試験対策N3 文法・語彙・漢字	教・出版社名 1	三修社
教・著者名 1	山田光子	教・ I S B N 1	978-4-384-05950-2
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			

参・書籍名 1	ドリル&ドリル日本語能力試験N3文字語彙	参・出版社名 1	UNICOM
参・著者名 1	星野恵子・辻和子	参・ I S B N 1	978-4-89689-487-5
参・書籍名 2	日本語能力試験問題集 スピードマスターN3 読解	参・出版社名2	Jリサーチ出版
参・著者名2	渡邊亜子・菊池民子 共著	参・ I S B N 2	978-4-86392-034-7

授業科目名	日本語ⅠA(文法)（Bクラス）			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-018		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／ 17. パートナリーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。学生は、日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。						
授業概要	この講義は「文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）と読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)によって総合的に行う。この総合評価に加え、日本語能力試験N2の可否結果を加味し、最終的な単位認定を行う。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続すること。N2合格しなければ、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	プレースメントテストの結果で、習熟度別に2クラスに編成する。N2を取得していない学生は、2年次に開講される日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できないので、本講義の受講中にN2を取得すること。なお、日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。各2時間の予習と復習に努めること。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週水曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					大下(朋)	
第2回	1課：～とき・～直後に					大下(朋)	
第3回	2課：～している（進行中）					大下(朋)	
第4回	3課：～後で					大下(朋)	
第5回	4課：範囲の始まりと終わり・その間					大下(朋)	
第6回	5課：～だけ					大下(朋)	
第7回	6課：～だけではなく、それに加えて					大下(朋)	
第8回	中間テスト（1～6課）／試験対策					大下(朋)	
第9回	7課：～について、～を相手にして					大下(朋)	
第10回	8課：～を基準にして					大下(朋)	
第11回	9課：～に関連して、～に対応して					大下(朋)	
第12回	10課：～や～など					大下(朋)	
第13回	11課 ～に関係なく・無視して					大下(朋)	
第14回	12課 強く否定する・強く否定しない					大下(朋)	
第15回	13課 ～（話題）は					大下(朋)	
第16回	単位認定試験（筆記試験）					大下(朋)	

教科書			
教・書籍名1	新完全マスター文法 日本語能力試験N2	教・出版社名1	スリーエーネットワーク
教・著者名1	友松悦子	教・I S B N 1	978-4883195657
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・I S B N 1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	日本語ⅠA(読解)			担当者	小西 真弓		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-019		
必修・選択	必須	単位数	2単位		時間数	30	授業形態 講義
年次	1年		開講期	2022年度春学期			曜日・時限 木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう  						
到達目標	日本語中級レベルの文字、語彙、文法、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目と併せて、中級の「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4技能を習得することができる。到達目標は、日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	この講義は、「読解」を中心に学習を進める。生活や仕事などの日常的な話題や新聞、雑誌、日本事情、エッセイ、広告など様々なジャンルを幅広く扱った問題を解く。練習問題を通して、日本語能力試験の出題傾向を知り、問題パターンに慣れるよう指導する。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物、事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。日本語能力試験N2合格を目指す。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使つての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別にAクラス、Bクラスに編成される。 ②日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤日本語能力試験N1の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。						
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて						
授業計画							担当者
第1回	オリエンテーション レベル確認テスト						小西真弓
	内容理解問題：短文一単問						

第2回	中文一単問 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第3回	内容理解問題：短文一単問 中文一単問 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第4回	内容理解問題：中文一複問 長文 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第5回	内容理解問題：中文一複問 長文 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第6回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第7回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第8回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第9回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第10回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第11回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第12回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第13回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第14回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第15回	総括、確認テスト	小西真弓
第16回	単位認定筆記試験	小西真弓
教科書		
教・書籍名1	日本語能力試験問題集 スピードマスター N2 読解	教・出版社名1 Jリサーチ出版
教・著者名1	小林ひとみ・桑原里奈・木村理恵	教・ISBN1 978-4-86392-058-3
教・書籍名2	文字・語彙・文法まとめドリルN2 新にほんご500問	教・出版社名2 アスク出版
教・著者名2	松本紀子・佐々木仁子	教・ISBN2 9784872179422
参考書		
参・書籍名1	新完全マスター単語 日本語能力試験N2重要2200語	参・出版社名1 スリーエーネットワーク
参・著者名1	小谷野美穂・森田亮子・青柳方子・大野純子・木村典子他	参・ISBN1 978-4-88319-762-0
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	日本語ⅠA(聴解)			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-LJ-1-020		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／ 10. 人や国の不平等をなくそう／ 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	日本語中級レベルの聴解の能力の養成を図る。中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能のうち「聞く」技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が聞き取れるようになることである。						
授業概要	日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50％）、小テスト（30％）、学習意欲・態度（20％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ②N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。1年生の場合、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。また、2年生以上の再履修生の場合、N2に合格した次の学期から、日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 ③日本語能力試験N1の取得者で、学科長の面談により日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修することができる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。						
オフィスアワー	岡山キャンパス1号館2階の123研究室において、毎週月曜日4時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					加藤健次	
第2回	実践練習 課題理解①1～10					加藤健次	
第3回	実践練習 課題理解②11～20					加藤健次	
第4回	実践練習 ポイント理解①1～9					加藤健次	
第5回	実践練習 ポイント理解②10～18					加藤健次	
第6回	実践練習 概要理解①1～10					加藤健次	
第7回	実践練習 概要理解②11～20					加藤健次	
第8回	第1回～第7回講義の復習					加藤健次	
第9回	実践練習 即時応答①1～26					加藤健次	
第10回	実践練習 即時応答②追加問題					加藤健次	

第 1 1 回	実践練習 即時応答③追加問題		加藤健次
第 1 2 回	実践練習 統合理解① 1 ～ 5		加藤健次
第 1 3 回	実践練習 統合理解② 6 ～10		加藤健次
第 1 4 回	第 1 回模擬試験問題		加藤健次
第 1 5 回	第 2 回模擬試験問題		加藤健次
第 1 6 回	単位認定試験		加藤健次
教科書			
教・書籍名 1	日本語能力試験問題集N2聴解スピードマスター	教・出版社名 1	Jリサーチ
教・著者名 1	棚橋明美・杉山ますよ・野原ゆかり	教・ I S B N 1	978-4-86392-057-6
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	日本語ⅠB(文法) (Aクラス)			担当者	小西 真弓		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-LJ-1-021		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語初中級、中級レベルの文字、語彙、文法、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は他の日本語関連科目Ⅰと併せて、初中級、中級の「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」の4技能を習得することができる。到達目標は、日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの言語知識(文字・語彙・文法など)の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)によって総合的に行う。 この総合評価に加え、日本語能力試験N2の合否結果を加味し、最終的な単位認定を行う。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続すること。N2に合格しなければ、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っのての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。						
履修条件・注意事項	プレイスメントテストの結果で、習熟度別に2クラスに編成する。N2を取得していない学生は、2年次に開講される日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できないので、本講義の受講中にN2を取得すること。なお、日本語能力試験N1の取得者でプレイスメントテストにて日本語科目の履修を免除された学生は、日本人と同様に、外国語科目を履修しなければならない。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、						

の時間		授業後は授業内容の見直しや課題（N2t対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。	
オフィスアワー		授業終了後、休憩時間、教室にて	
		授業計画	担当者
第1回	オリエンテーション レベル確認テスト		小西真弓
第2回	内容理解問題：短文－単問 中文－単問 文字・語彙・漢字読み・表記		小西真弓
第3回	内容理解問題：短文－単問 中文－単問 文字・語彙・漢字読み・表記		小西真弓
第4回	内容理解問題：中文－複問 長文 文字・語彙・漢字読み・表記		小西真弓
第5回	内容理解問題：中文－複問 長文 文字・語彙・漢字読み・表記		小西真弓
第6回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記		小西真弓
第7回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記		小西真弓
第8回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記		小西真弓
第9回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記		小西真弓
第10回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙・漢字読み・表記		小西真弓
第11回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙・漢字読み・表記		小西真弓
第12回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙・漢字読み・表記		小西真弓
第13回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙・漢字読み・表記		小西真弓
第14回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙・漢字読み・表記		小西真弓
第15回	総括、確認テスト		小西真弓
第16回	単位認定筆記試験		小西真弓
教科書			
教・書籍名1	日本語能力試験対策N3 文法・語彙・漢字	教・出版社名1	三修社
教・著者名1	山田光子	教・ISBN1	978-4-384-05950-2
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書			
参・書籍名 1	ドリル＆ドリル日本語能力試験N3文字語彙	参・出版社名 1	UNICOM
参・著者名 1	星野恵子・辻和子	参・ I S B N 1	978-4-89689-487-5
参・書籍名 2	日本語能力試験問題集 スピードマスターN3 読解	参・出版社名2	Jリサーチ出版
参・著者名2	渡邊亜子・菊池民子 共著	参・ I S B N 2	978-4-86392-034-7

授業科目名	日本語ⅠB(文法) (Bクラス)			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-LJ-1-021		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	この講義は「文法」を中心に学習を進める。講義内で小テストなどを導入し、日本語能力試験N2レベルの言語知識（文字語彙・文法など）を修得する。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)によって総合的に行う。最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合格結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	プレースメントテストの結果で、習熟度別に2クラスに編成する。N2を取得していない学生は、2年次に開講される日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できないので、本講義の受講中にN2を取得すること。なお、日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週水曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション						大下 朋子
第2回	11課 ～に関係なく・無視して						大下 朋子
第3回	12課 強く否定する・強く否定しない						大下 朋子
第4回	13課 ～（話題）は						大下 朋子
第5回	14課 ～けれど						大下 朋子
第6回	15課 もしそうなら・たとえそうでも						大下 朋子
第7回	【中間テスト】11～15課／試験対策						大下 朋子
第8回	16課 ～だから（理由）（1）						大下 朋子
第9回	17課 ～だから（理由）（2）						大下 朋子
第10回	18課 できない・困難だ・できる						大下 朋子
第11回	19課 ～を見て評価すると・～の立場で評価すると						大下 朋子
第12回	20課 結果はどうなったか						大下 朋子
第13回	21課 強く言う・軽く言う						大下 朋子
第14回	22課 ～だろうと思う						大下 朋子
第15回	23課 感想を言う・主張する						大下 朋子

第 1 6 回	単位認定試験		大下 朋子
教科書			
教・書籍名 1	新完全マスター文法 日本語能力試験N2	教・出版社名 1	スリーエーネットワーク
教・著者名 1	友松悦子	教・ I S B N 1	9784883195657
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	日本語ⅠB（読解）			担当者	小西 真弓		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-LJ-1-022		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	本講義では、中級、中上級学習者に必要な文章を読む技術を学ぶ授業である。多面的な読み方の力をつけるために、様々なジャンルの文章を理解するとともに、文字、語彙、表現などを身につける。文章を読んで何が書いてあるのかをとらえるといった「読解」の力を伸ばすことができる。日本語能力試験でも十分に力が発揮できるようになる。						
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。新聞、雑誌、様々なジャンルの読み物の中でも、特に日本事情に関するテーマを取り上げる。200字程度の短い文章から1000字を超える長文をテキスト、新聞、雑誌の記事など幅広く扱い、学習していく。日本事情を理解しながら、自国との比較、文章作成、発表なども行い、お互いの理解を深める。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50％）、小テスト（30％）、学習意欲・態度（20％）によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使つての文作などの課題を提出してもらおう。 採点し、フィードバックする。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別にAクラス、Bクラスに編成される。 ②日本語ⅠB・応用日本語ⅠB・日本語研究ⅠBの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。						
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション レベル確認テスト					小西真弓	
第2回	内容理解問題：短文－単問 中文－単問					小西真弓	

	文字・語彙・漢字読み・表記	
第3回	内容理解問題：短文－単問 中文－単問 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第4回	内容理解問題：中文－複問 長文 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第5回	内容理解問題：中文－複問 長文 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第6回	日本語能力試験 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第7回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第8回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第9回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第10回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第11回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第12回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第13回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第14回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第15回	総括、確認テスト	小西真弓
第16回	単位認定筆記試験	小西真弓
教科書		
教・書籍名1	日本語能力試験問題集 スピードマスター N2 読解	教・出版社名1 Jリサーチ出版
教・著者名1	小林ひとみ・桑原里奈・木村理恵 共著	教・ISBN1 978-4-86392-058-3
教・書籍名2	文字・語彙・文法まとめドリルN2 新にほんご500問	教・出版社名2 アスク出版
教・著者名2	松本紀子・佐々木仁子	教・ISBN2 9784872179422
参考書		
参・書籍名1	新完全マスター単語 日本語能力試験N2重要2200語	参・出版社名1 スリーエーネットワーク
参・著者名1	小谷野美穂・森田亮子・青柳方子・大野純子・木村典子他	参・ISBN1 978-4-88319-762-0
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	日本語ⅠB（聴解）			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-LJ-1-023		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	日本語中級レベルの聴解の能力の養成を図る。中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能のうち「聞く」技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が聞き取れるようになることである。						
授業概要	日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50％）、小テスト（30％）、学習意欲・態度（20％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ②N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。1年生の場合、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。また、2年生以上の再履修生の場合、N2に合格した次の学期から、日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 ③日本語能力試験N1の取得者で、学科長の面談により日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修することができる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。						
オフィスアワー	岡山キャンパス1号館2階の123研究室において、毎週月曜日4時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					加藤健次	
第2回	文法演習 第1章1					加藤健次	
第3回	第1章 2, 3					加藤健次	
第4回	第1章 4, 5					加藤健次	
第5回	第2章 1, 2					加藤健次	
第6回	第2章 3, 4					加藤健次	
第7回	第2章 5, 6, 7					加藤健次	
第8回	総復習演習①					加藤健次	
第9回	N2対策演習1					加藤健次	
第10回	N2対策演習2					加藤健次	
第11回	第3章 1, 2, 3					加藤健次	
第12回	第3章 4, 5					加藤健次	

第 1 3 回	第 4 章 1, 2, 3	加藤健次	
第 1 4 回	第 4 章 4, 5	加藤健次	
第 1 5 回	第 5 章	加藤健次	
第 1 6 回	単位認定試験	加藤健次	
教科書			
教・書籍名 1	日本語能力試験対策 日本語総まとめN2 聴解	教・出版社名 1	アスク出版
教・著者名 1	佐々木仁子、松本紀子	教・ I S B N 1	978-4-87217-792-3
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	日本国憲法			担当者	入江 祥子			
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-SU-1-030			
必修・選択	選択	単位数	2単位		時間数	30	授業形態	講義
年次	1年		開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜1限
ディプロマポリシー対応項目								
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	△	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目		
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 							
到達目標	<到達目標> 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べるができることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。 <テーマ> 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。							
授業概要	法の初学者のために、広く「法」の解説から始める。さらに「憲法」の定義やその特質について学んだうえで、「日本国憲法」についてその成立背景から基本原理および統治機構について、判例・学説を交え講義を行う。特に「人権」については、その性質および享有主体性等個々の論点にまで立ち入った解説を行い、正しい人権意識を身につけることを意識する。また、統治機構については、政治的時事問題を交え、日本の政治の仕組みおよび問題点について説明し、主権者として必要な正しい知識を取得できるよう講義を行う。 * 実務経験のある教員による授業 本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。							
アクティブラーニングの内容								
評価方法と割合	受講態度及び取組姿勢30％、各講義の最後に実施する理解度を問う小テストの評価30％、定期試験40％の配分で基本的評価を行う。授業態度については、私語、遅刻、途中退室等についても考慮する。小テストが優秀であれば加点する。							
ルーブリック評価								
課題や試験のフィードバック方法	国内外で起きている様々な社会問題を自らとらえ、それらの問題について自発的に考え、解決策を模索することを習慣づける。							
履修条件・注意事項	履修条件は特にありませんが、日本国内外の時事問題を情報収集するよう心がけてください。 注意事項としては、他の学生の受講に迷惑になること（特に私語、授業途中の許可のない入退室等）は厳に慎んでください。講師の指示に従わない場合には受講を認めないこともありますので、ご注意ください。 出席状況の把握は各自で行ってください。 原則として、配布物の再配布は行いません。							
実務経験のある教員	該当する	内容	司法書士					
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、授業計画のテーマに沿って、インターネットや書籍を利用した下調べを行っていただきたい。本講義は復習が重要です。授業で学んだ知識を定着させ、それを踏まえて自己の考えを構築できるよう発展させること。							
オフィスアワー	授業時間前後に講義室又は非常勤講師室にて質問等を受けます。							
授業計画							担当者	

第 1 回	なぜ「憲法」を学ぶ必要があるか	入江 祥子
第 2 回	法とは何か、法はなぜ必要か、法と道德の違い	入江 祥子
第 3 回	法源とは何か、法の種類	入江 祥子
第 4 回	憲法とは何か、立憲主義	入江 祥子
第 5 回	憲法の成立、大日本帝国憲法と日本国憲法	入江 祥子
第 6 回	国民主権の意味、その役割	入江 祥子
第 7 回	戦争の放棄、日本国憲法第 9 条	入江 祥子
第 8 回	人権とは何か、その役割	入江 祥子
第 9 回	人権の効果	入江 祥子
第 1 0 回	人権の限界、公共の福祉	入江 祥子
第 1 1 回	統治制度について、権力分立	入江 祥子
第 1 2 回	立法権、国会の役割	入江 祥子
第 1 3 回	行政権、内閣の役割	入江 祥子
第 1 4 回	司法権、裁判所の役割	入江 祥子
第 1 5 回	地方自治について	入江 祥子
第 1 6 回	筆記試験	入江 祥子
教科書		
教・書籍名 1	各回ごとに配布物を配り、それによって授業を進める。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	六法	参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	経済学			担当者	高橋 正巳		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-SU-1-031		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	1 貧困をなくそう 2 飢餓をゼロに 3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに 7 エネルギーをみんなに・そしてクリーンに 8 働きがいも経済成長も 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 16 平和と公正をすべての人に						
到達目標	テーマ：工業経済における市場経済と非市場経済との関連性 到達目標：経済学の基本である市場経済と、その外部性からなる非市場経済を理解する 現代の経済を理解するには、インフレーションやデフレーション、貿易や為替などの理解は必須となっている。しかし、税金と社会保障、あるいは「地球の危機」などが、なぜ問題になってしまうのかを含めて学生が理解できるようになるのが目標である。						
授業概要	人は生活を維持するために財を自分でつくるだけでない。企業で生産した財をお店で購入して消費をする。ここで財を生産→流通→売買→消費する活動を一般に「経済」と呼ぶ。この経済活動は、ちょうどスポーツがコートで勝負をめぐって自由に競争するように、人や企業が自分の利益をめぐって自由に活動するとき、その活動のコート内を(自由)市場と呼んでいる。つまり、人も企業も自分の利益をできるだけ多くしようとするとき、通常では費用(コスト)と名づけられる、お金や時間、あるいは労力をできるだけ少なくしようとするだろう。これが上手く動いていれば問題はほとんどないが、しかし現在はそうとは言い切れない。非市場経済が無視できないほど巨大化してきたのだが、ここではこれらの問題を含めて話を進める予定である。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	自学自修による「持ち帰り試験」(50点)、プレゼンテーションなどアクティブラーニング(20点)、定期末試験(20点)、講義中での積極的な参加(10点)とを総合して評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	「持ち帰り試験」と「定期末試験」は日時を指定して本人に返却する						
履修条件・注意事項	今回のパンデミックもそうだが、それは経済と密接に関係しているように、学生はテレビや新聞のニュースをチェックすることが課される。また、社会経済に関する記事を読む。日本語で専門領域の文章を書くこと。これらが主体的に実施できることが望ましい。						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和51年大学経済学部卒、昭和57年大学院社会学研究科修士課程修了、昭和60年大学院社会学研究科博士課程満期修了退学。経済の研究歴は35年以上で、本学では経済学の関連科目を担当している。				
事前学習・事後学習とその時間	各講義時間の項目に関して、事前学習に90分間を使い理解し納得することに心掛ける。専門的な語彙を整理し、理解できないのを次の講義で尋ねる。さらに、講義を受けた後では復習に90分間使い、理解しているかどうかを再度確認する。よく判らなかつた語彙や説明を抜き出しておいて、やはり次の講義で質問をする。						
オフィスアワー	岡山キャンパスの個人研究室で毎週木曜日の13：30～15：00です						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					高橋	
第2回	われわれの生活と経済との関係					高橋	
第3回	工業経済と市場経済の成り立ち(失業と貧困の起源)					高橋	
第4回	経済活動の自由と非市場経済					高橋	
第5回	合理的な経済活動と効率性					高橋	
第6回	市場経済の拡大と為替市場					高橋	
第7回	高度経済成長と高インフレーション					高橋	
第8回	市場経済と中央銀行の金融政策					高橋	

第 9 回	デジタル情報経済と工業経済	高橋
第 1 0 回	非市場経済と地球環境問題の浮上	高橋
第 1 1 回	デジタル情報経済によるグローバル化経済	高橋
第 1 2 回	低成長時代のデフレーションとその悪循環	高橋
第 1 3 回	脱カーボン(グリーンエコノミー)時代の産業構造	高橋
第 1 4 回	市場経済と国家財政との関係強化	高橋
第 1 5 回	経済のグローバル化と地球環境	高橋
第 1 6 回	期末単位認定試験	高橋
教科書		
教・書籍名 1		教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	『ど素人でもわかる経済学の本 - 日常が学びに変わる! -』	参・出版社名 1 株式会社シナノ
参・著者名 1	崔真激	参・ I S B N 1 ISBN978-4-7981-5850-1
参・書籍名 2	『父が娘に語る経済の話』	参・出版社名 2 ダイヤモンド社
参・著者名 2	ダイヤモンド社	参・ I S B N 2 ISBN978-4-478-10551-1

授業科目名	社会学			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-SU-1-032		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	△	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	△
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／11. 住み続けられるまちづくりを／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう     						
到達目標	社会学は受講者自身が生活する場所と、生活そのものを見直す学問である。社会学を知る。これがテーマである。学問分野として社会に浸透しているため基礎概念や独自の発想を理解することも大切である。有り体に言えば、公務員試験などの受験科目になっているからである。従って、到達目標は社会学の基礎知識の取得である。社会学的思考法について知ることも目標の一つとしておきたい。						
授業概要	社会学それ自体の形成（社会学史）－これには自然法概念のような法学、政治学、経済学などの基礎となった概念の理解も必要となるがーについて述べるが、今日、社会学はまた実践的な仮題を担う応用科学でもある。その基礎となる理論社会学、実践的なテーマに基づいて産業、家族、地域、福祉などへの社会学的アプローチについて学ぶ。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	授業態度（20％）、レポート試験（50％）、筆記試験（30％）として、これらを総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本講義の到達目標の達成に向けて、各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。期末試験やレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週水曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	社会学という学問					大下 朋子	
第2回	そもそも「社会」とは何だろう					大下 朋子	
第3回	家族の絆とは何か					大下 朋子	
第4回	夫婦・親子の関係					大下 朋子	
第5回	住縁で結ばれた集団：地域的共同体のゆくえ					大下 朋子	
第6回	メディアとは何か					大下 朋子	
第7回	活字メディアと近代社会					大下 朋子	
第8回	マルチメディアと複製技術					大下 朋子	
第9回	情報化社会とは					大下 朋子	
第10回	インターネットと公共圏					大下 朋子	
第11回	社会的地位は測定できるか					大下 朋子	
第12回	産業化と階層構造の変化					大下 朋子	
第13回	階層間対立と政策					大下 朋子	
第14回	仕事と家族をめぐる問題					大下 朋子	
第15回	NPO・NGOと市民社会					大下 朋子	
第16回	単位認定試験（筆記試験／レポート試験）					大下 朋子	
教科書							

教・書籍名 1	適宜、参考文献を指示する。講義用のレジュメを配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	よくわかる社会学〔第 2 版〕	参・出版社名 1	ミネルヴァ書房
参・著者名 1	宇都宮 京子	参・ I S B N 1	978-4-623-05381-0
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	哲学			担当者	高橋 正巳		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-PD-1-033		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／10. 人や国の不平等をなくそう／12. つくる責任・つかう責任／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	テーマ：より深く考えて根源・根拠に迫る 到達目標：根源から考えることが哲学的な思考は誰にでもあることを理解する 哲学というとすぐに古代ギリシアの哲学がこれまで一般的であったが、日本にもその他のアジアにも古くからあったのであり、これからもそうあり続けることを話す予定である。						
授業概要	哲学は楽しみながら深く考えることである。もちろん考えない人はいない。だから誰でも哲学者である。子どもも哲学者である。「なぜ」や「どうして」を人に尋ねるのは哲学しているからである。こうして子どもは少しずつ理解を深める。理解は喜びの源泉である。そして、この喜びは次に考えるエネルギーとなる。そして、このエネルギーは直ぐに理解できないときに乗り越える力ともなる。さらに大きな喜びがやってくるからだ。そこで西洋でも東洋でも大きな喜びである哲学を大歓迎していた。だが、いつしか考える楽しみを知らない人が現れた。便利さに囲まれて「なぜ」や「どうして」の答えが簡単に手に入ると勘違いしたからである。現代はこれに目覚める時である。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	自学自修による「持ち帰り試験」(50点)、プレゼンテーションなどアクティブラーニング(20点)、定期末試験(20点)、講義中での積極的な参加(10点)とで総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	「持ち帰り試験」と「定期末試験」は日時を指定して本人に返却する						
履修条件・注意事項	「なぜ…？」とか「どうして…？」とかの疑問を持つ人や持っている人を歓迎する。テレビや新聞のニュースの話題をチェックする。日本語で随筆などの文章を書くこと、書いて見たい人ならなお関係する。これらを主体的に実施できることが不可欠である。						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和51年大学経済学部卒、昭和57年大学院社会学研究科修士課程修了、昭和60年大学院社会学研究科博士課程満期修了退学。本学の「哲学」を担当する正規の特任教授である。				
事前学習・事後学習とその時間	講義時間の項目に関して、事前学習に90分間で理解するために専門的な語彙をまとめる。さらに、講義を受けた後で復習に90分間使い、さらに理解して修得すると同時によく判らなかった語彙を抜き出して、次の講義のとき質問する。						
オフィスアワー	岡山キャンパスで、毎週木曜日に124研究室で13：30～15：00まで						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					高橋	
第2回	日本人は哲学しなかったのか					高橋	
第3回	日光東照宮は日本的哲学の象徴					高橋	
第4回	日常的思考と歴史的象徴と根源・根底的な基礎づけ					高橋	
第5回	フィロソフィと「哲学」という西洋思考様式					高橋	
第6回	なぜソクラテスは文字を危険視したか					高橋	
第7回	リベラル・アーツは古代ギリシア哲学に由来					高橋	
第8回	プラトンのイデア論が語りたかったこと					高橋	
第9回	アリストテレスにおける思考と倫理					高橋	
第10回	東洋と西洋との思考様式と哲学					高橋	
第11回	なぜ孔子の儒教は哲学と呼ばれないのか					高橋	

第 1 2 回	古代インドにおける思考様式と哲学	高橋
第 1 3 回	東洋における身体と修行との哲学的な関連性	高橋
第 1 4 回	「古池や 蛙飛び込む 水の音」に見る仏教哲理	高橋
第 1 5 回	哲学は二人以上の対話からなる	高橋
第 1 6 回	期末単位認定試験	高橋
教科書		
教・書籍名 1		教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	哲学とは何か	参・出版社名 1 白水社
参・著者名 1	カール・ヤスパース	参・ I S B N 1 ISBN 4 - 560 - 01849 - 9
参・書籍名 2	新時代に生きる「道徳哲学」－自分の自由を手放さないために－	参・出版社名 2 N H K 出版新書
参・著者名 2	ガブリエル・マルセル	参・ I S B N 2 ISBN 9 7 8 - 4 - 14 - 086645 - 8

授業科目名	心理学			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-PD-1-034		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	△	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	△	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	心理学とはどのような学問領域なのか、それを学ぶことがこの科目のテーマである。哲学、社会学、精神医学などとどのように異なるのか、理解する。 心理学は人間の心の働きを研究する学問領域である。人が生活している環境から、どのように情報を取り入れ、蓄積、活用するのか、如何に人間関係の中で適応的に生きていくのか、などに関し学び、心理学の基礎的な考え方を理解することを到達目標とする。 また、その学びの中で、心理学を学ぶ楽しさを感じてもらいたい。						
授業概要	心理学は知覚、発達、社会、性格などの領域においてさまざまな研究が行われている。本講義では、それら領域における研究成果、知見などの説明を講義形式で行う。さらに、学生の留学や留学生の受入れへの積極的な取組みとして、異文化受容や異文化への適応を心理学的な側面から考察を行う。言語学習（日本語、英語）における学習・教育の情意的側面につき、学習理論などをもとに考察を行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	講義毎の課題提出（50％）、課題レポートの内容（40％）及び受講態度など（10％）から総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	各回のミニテストの結果は、学生に返却しフィードバックする。						
履修条件・注意事項	教科書を活用して講義を行うが、教科書は担当教員が準備する。購入の必要はない。 将来、留学をすることも見据え、各講義の後半においては、心理学の基本用語や概念などを英語で説明する。 本科目は日本語教員養成コースの必修科目であり、本コースの取得を目指す者は必ず履修しなければならない。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習復習が不可欠です。 講義の前に、教科書の該当章を読み、知らない用語などを調べてくること。（2時間） 復習として、講義後、簡単な課題をとりて、次の講義の際、提出すること。（1時間） 英語の基礎用語や概念は暗記するまで音読すること。（1時間）						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日4限目をオフィスアワーにします。						
授業計画						担当者	
第1回	日常生活の中の心理学					畝	
第2回	教育についての心理学					畝	
第3回	発達についての心理学					畝	
第4回	認知についての心理学					畝	
第5回	学習（言語学習を含む）の心理学					畝	
第6回	犯罪についての心理学					畝	
第7回	性格についての心理学					畝	
第8回	臨床心理学（異文化適応、不適応を含む）					畝	
第9回	判断と意思決定の心理学					畝	
第10回	産業心理学					畝	
第11回	組織心理学					畝	
第12回	消費者行動と心理学					畝	
第13回	心理学的測定					畝	

第 1 4 回	心理学研究法	畝	
第 1 5 回	心理学の歴史	畝	
第 1 6 回	最終試験（レポート）	畝	
教科書			
教・書籍名 1	心理学概論	教・出版社名 1	放送大学教育振興会
教・著者名 1	星 薫、森 津太子	教・ I S B N 1	978-4-595-31338-7
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	新版心理学	参・出版社名 1	有斐閣
参・著者名 1	無藤隆ほか	参・ I S B N 1	978-4-641-05386-1
参・書籍名 2	16th Edition Atkinson & Hilgard's Introduction to Psychology	参・出版社名 2	CENGAGE Learning
参・著者名 2	Susan Nolen-Hoeksema, et al	参・ I S B N 2	978-1-4080-8902-6

授業科目名	文章力の基礎			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-PD-1-035		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	大学生や社会人に求められる日本語表現力について学び、その文章表現を身に付けることができる。レポートの書き方、就職試験向けの作文・小論文の書き方の基礎を身に付けることを目指す。とりわけ文と文、あるいは語彙と語彙との接続的な文章表現、起承転結といった文章の構成などを理解し、実際に文章を書く訓練を行う。						
授業概要	日本語の文章表現の基礎を身につけるだけでなく、文章の組み立て方、推敲の仕方などについて学習する。レポートや就職試験向け作文の書き方などについて学ぶ。文の構成、語と語の対応、文と文の関わりなどを意識して、論理的に文章を書く訓練を行う。また、学生は書籍、新聞、雑誌などを素材に、ブレインストーミングを行い、主題を設定し、自分でも文章化してみる。人に意見や趣旨が明確に伝わる文章表現、論理的な文章の書き方などを修得する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	講義への出席を含めて話の聞き方、意見の出し方などを平常点として20点、講義内容をテーマとして出された持ち帰り試験が50点、そして単位認定試験を30点として、これらを総合した100点満点で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験（400字×5枚以上）の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので要注意のこと。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週水曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	文章表現入門の概説					大下 朋子	
第2回	大学生・職業人にはどういった日本語表現能力が求められるか					大下 朋子	
第3回	明文を書くためのスキルを磨こう					大下 朋子	
第4回	正確な文、明快な文を書くためには					大下 朋子	
第5回	簡潔な文を書くためには					大下 朋子	
第6回	パラグラフ・ライティングの基本					大下 朋子	
第7回	パラグラフ・ライティングの練習					大下 朋子	
第8回	パラグラフ・ライティングからレポート作成へ					大下 朋子	
第9回	観察しようーその構成と書き方①					大下 朋子	
第10回	観察しようーその構成と書き方②					大下 朋子	
第11回	準備しようー意見と根拠①					大下 朋子	
第12回	準備しようー意見と根拠②					大下 朋子	
第13回	レポート・小論文作成①					大下 朋子	
第14回	レポート・小論文作成②					大下 朋子	
第15回	レポート・小論文作成③					大下 朋子	
第16回	単位認定試験（筆記試験／レポート試験）					大下 朋子	

教科書			
教・書籍名 1	文章力・論理力を高める日本語トレーニング	教・出版社名 1	学事出版
教・著者名 1	松谷 英明	教・I S B N 1	978-4761919481
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・I S B N 2	

授業科目名	生涯スポーツ論			担当者	石田 博也		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-PD-1-036		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	座学
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう 						
到達目標	ズポーツを通して生涯においてスポーツを実践できるよう知識やルールを学ぶ。 自分たちでスポーツを楽しめるよう企画・立案・実践できるようになる。 また見るスポーツにおいても楽しめるようになる。						
授業概要	スポーツとは何か？を哲学的手法を使って理解を深めていく。 スポーツの社会的存在価値を様々な課題解決型学習やディベートを使って学んでいく。						
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業の課題50%、試験50%で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業で課題や試験のためのキーワードの提示を毎授業で行います						
履修条件・注意事項	授業では、学生側が主体となって発言や発表を行うことが多いので受け身の姿勢（授業に出席して聞けばよい）ではないでください。						
実務経験のある教員	該当する	内容	総合型地域スポーツクラブの講師経験を通して現代社会でのスポーツの重要性を理解する				
事前学習・事後学習とその時間	事前の課題に積極的に身に着ける。						
オフィスアワー	授業の前後の時間に実施場所で行います。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション 哲学とは					石田	
第2回	スポーツとは？イスラエル文化からの考察					石田	
第3回	生涯スポーツとは？功利主義からの考察					石田	
第4回	遊びとは？歴史的観点からの考察					石田	
第5回	健康とは？優生学という視点					石田	
第6回	身体論 ニーチェの考察より					石田	
第7回	世界の健康観					石田	
第8回	現代のスポーツの問題点					石田	
第9回	ファクトフルネスとは？					石田	
第10回	スポーツと政治					石田	
第11回	アフターマティバアクションとは？					石田	
第12回	スポーツと女性					石田	
第13回	人間とは何か？					石田	
第14回	スポーツと名誉					石田	
第15回	資本とスポーツ					石田	
第16回	試験 記述式（例 ○○について自分の意見を述べ、その根拠も明らかにせよ）					石田	
教科書							
教・書籍名1	プリント・資料を配布します。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		

教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	生涯スポーツ実習				担当者		壬生川 道晃、石田 博也、吉備国際大学未定教員		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年				ナンバリング		GE-PD-1-037		
必修・選択	選択	単位数	1単位		時間数	30		授業形態	実習
年次	1年		開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜3限	
ディプロマポリシー対応項目									
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	△	DP 3.主体的な学びと論理的な思考		◎	DP 4. コミュニケーション・表現力		◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	△	DP 7. 自己効力感		◎	DP 8. 学科項目		○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／5. ジェンダー平等を実現しよう 								
到達目標	年齢性別を問わず習得できる合気道の稽古を通じ、日本古来の身体動作の体得、相互尊重の精神、明るく爽やかな応対辞令を身につけることを目標とする。 また、室内運動やアイススケートを通し、生涯スポーツの一環として健康管理や継続的な適度な運動の必要性を学ぶ。								
授業概要	互いに快活に協力して実技の安全かつ効率的習得に努め、完成度を高めるための相互評価も大切にする。 チームリーダーを中心に楽しく指導しお互いに協力しながら、自主的に学ぶ環境づくりを行なう。								
アクティブラーニングの内容	PBL／プレゼンテーション／実習								
評価方法と割合	授業の実技試験50%、授業時間中の姿勢・態度50%で評価する。								
ルーブリック評価									
課題や試験のフィードバック方法	毎授業、課題のための練習時間をとります								
履修条件・注意事項	授業準備（マットレスの設置やスケート靴の着用等）が必要なので、授業時間少し前には集合して、全員で授業準備を行ってください。 スケートでは、必ず手袋を着用する事。								
実務経験のある教員	該当しない	内容							
事前学習・事後学習とその時間	事前の課題に積極的に身に着ける。								
オフィスアワー	授業の前後の時間に実施場所で行います。								
授業計画								担当者	
第1回	合気道の心と実技							壬生川	
第2回	合気道の要点と安全管理、受け身の習得							壬生川	
第3回	礼法、基礎の技3本と受け身の習得							壬生川	
第4回	基礎の技と発展技法の習得							壬生川	
第5回	基礎の技で演武（個人・団体演武）を研究、発表、相互評価							壬生川	
第6回	基本技、発展技法の習得と演武							壬生川	
第7回	基本技、発展技法の習得、応用技への移行							壬生川	
第8回	各自の持ち味を生かした自由演武の考察と稽古							壬生川	
第9回	リズムジャンプ（基本ステップ） フリスピードッジ							石田	
第10回	リズムジャンプ（応用ステップ） 筋力トレーニング ホッケー							石田	
第11回	鬼ごっこ（基本ルール） ホッケー							石田	
第12回	鬼ごっこ（応用ルール） ダンス（身体表現）							石田	
第13回	スケートの滑走基礎							無良/宮崎	
第14回	スケートの基礎ストップ							無良/宮崎	

第 1 5 回	スケートのコーナリング		無良/宮崎
第 1 6 回			
教科書			
教・書籍名 1		教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名		数的理解			担当者		大下 浩司		
配当学科・研究科		2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング		GE-NS-1-038		
必修・選択		選択	単位数	2単位		時間数	30時間	授業形態	演習
年次		1年		開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目									
DP 1. 知識・技能		◎	DP 2. 情報の活用		◎	DP 3.主体的な学びと論理的な思考		◎	DP 4. コミュニケーション・表現力
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動			DP 6. 課題解決力		△	DP 7. 自己効力感			DP 8. 学科項目
SDGs 関連項目		9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／12. つくる責任・つかう責任／17. パートナリーシップで目標を達成しよう 							
到達目標		迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。							
授業概要		数的推理・資料解釈・判断推理・空間把握に関する課題を数学的かつ論理的に理解する力を身につける。具体的には、方程式や確率等の数的推理、データやグラフ等の資料解釈、論証や対応関係等の判断推理、立体図形や展開図等の空間把握に関する比較的身近な問題について考え、自ら解法を見つけ出し答えを導き出す。必要に応じて、解法を見つけ出すために必要な情報を収集する。更には、助言を適宜得ながら学生同士が教えあい学びあい、課題に対する数的理解を深める。							
アクティブラーニングの内容		その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）							
評価方法と割合		数的理解力を把握するための単位認定試験（80%）、授業への積極的な参加態度（20%）をもとに総合評価する。							
ルーブリック評価		無し							
課題や試験のフィードバック方法		内容に応じて適宜指示する。							
履修条件・注意事項		やむを得ず遅刻・欠席する場合は予め連絡すること。他の受講生らが迷惑に感じる言動は控えること。							
実務経験のある教員		該当しない	内容						
事前学習・事後学習とその時間		予習と復習には各2時間を要する。時間をかけて問題に向き合い、多角的な視点や柔軟な思考を意識して予習・復習に取り組むこと。							
オフィスアワー		金曜日3限（113研究室）							
授業計画								担当者	
第1回		数的推理：濃度						大下浩司	
第2回		数的推理：速さ・距離・時間						大下浩司	
第3回		数的推理：ものの値段と個数						大下浩司	
第4回		数的推理：定価・原価・利益						大下浩司	
第5回		数的推理：割合と値段						大下浩司	
第6回		数的推理：仕事算						大下浩司	
第7回		資料解釈：表の読み取り＆資料の読み取り						大下浩司	
第8回		数的推理：順列と組み合わせ						大下浩司	
第9回		数的推理：確率のとりえ方						大下浩司	
第10回		判断推理：集合						大下浩司	
第11回		判断推理：推論						大下浩司	
第12回		判断推理：ものの流れと比率＆ブラックボックス						大下浩司	
第13回		資料解釈：グラフの領域						大下浩司	
第14回		判断推理：論証						大下浩司	
第15回		空間把握：立体の展開図・断面						大下浩司	
第16回		単位認定試験						大下浩司	
教科書									
教・書籍名1		2024年度版 ドリル式 SPI問題集					教・出版社名1		永岡書店
教・著者名1		柳本新二					教・ISBN1		ISBN 9784522460122
教・書籍名2							教・出版社名2		

教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名		化学		担当者		高木 秀明				
配当学科・研究科		2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング		GE-NS-1-039			
必修・選択		選択	単位数	2単位		時間数	30	授業形態	講義	
年次		1年		開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜1限	
ディプロマポリシー対応項目										
D P 1. 知識・技能		D P 2. 情報の活用		D P 3.主体的な学びと論理的な思考		D P 4. コミュニケーション・表現力				
D P 5. グローバルな視野と地域貢献活動		D P 6. 課題解決力		D P 7. 自己効力感		D P 8. 学科項目				
S D G s 関連項目		7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／12. つくる責任・つかう責任 								
到達目標		身の回りにある物品の成り立ちや効能を化学の知識を使って理解することをテーマとする。到達目標は、それぞれが化学のどの分野に相当するのかを把握できるようになることとする。								
授業概要		身の回りにある物品は、化学の知識に基づいてつくられている。古来から日常生活の便宜性を向上させることと一緒に学問が確立してきた。もちろん、錬金術のように思い通りの成果が出なかったものもある。 あえて縦書きの教科書を使用し、記述されている項目の記憶を目的とするのではなく、予習・復習を超えた自修によって、イメージとしてつかんでもらう。そのため、授業では、様々な資料を提示し、理解を深めるような内容とする。								
アクティブラーニングの内容		その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）								
評価方法と割合		単位認定試験80%、確認課題・ポートフォリオ等の提出物の内容20%。								
ルーブリック評価										
課題や試験のフィードバック方法		毎回の確認テストは、次回に、コメントを入れて、返却する。単位認定試験の結果は、模範解答に解説を加え、ユニバーサルパスポート上で公開する。								
履修条件・注意事項		授業内容によって討論をおこなうため、ノート作成と復習も必要である。 試験では、到達目標の理解度を見るため、特に復習が必要である。 到達目標、授業内容、評価方法を詳しく説明するので、初回の授業は必ず出席すること。								
実務経験のある教員		該当しない	内容							
事前学習・事後学習とその時間		各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点をまとめた上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。参考書は、教科書の原著で、著者は、著名な科学者で科学エッセイのベストセラー作家でもあるPeter ATKINS氏である。英文表現に興味ある学生は、精読を勧める。								
オフィスアワー		1号棟1階114研究室にて火曜日4時限に実施。								
授業計画								担当者		
第1回	化学の起源							高木		
第2回	化学の対象・成り立ち							高木		
第3回	周期表と原子・電子							高木		
第4回	化学結合							高木		
第5回	熱力学と反応							高木		
第6回	自由エネルギー・エントロピー							高木		
第7回	化学平衡							高木		
第8回	化学反応の進みかた							高木		
第9回	基本の化学反応							高木		
第10回	物質をみる							高木		
第11回	物質を分ける（演示実験）－実習							高木		
第12回	物質を操作してつくる							高木		
第13回	化学と自然							高木		
第14回	化学製品							高木		
第15回	化学と人間活動							高木		

第 1 6 回	単位認定試験－筆記試験		高木
教科書			
教・書籍名 1	サイエンス・パレット104 化学－美しい原理と恵み	教・出版社名 1	丸善出版株式会社
教・著者名 1	渡辺 正 訳	教・I S B N 1	ISBN978-4-621-08809-8
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	What is chemistry ?	参・出版社名 1	Oxford University Press
参・著者名 1	Peter Atkins	参・I S B N 1	ISBN978-0-19-968398-7
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	生物学			担当者	香田 康年		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-NS-1-040		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう  						
到達目標	【テーマ】 学生が、「ヒトを含めたすべての生物が生物シンカによってできて来た」ことを理解する。また、科学とはどのようなことかについて改めて考え理解する。加えて、様々な生物の特徴について学びながら、なぜそのような特徴がシンカしたのかを考え、ヒトや様々な生物について、丸暗記するのではなく、「なぜそうなのか」を考え理解する力を養う。 【到達目標】 まず生物のシンカが「進化」と呼ばれるようになった経緯を理解し、生物のシンカとはどのような現象なのかを理解すると同時に、一般用語の「進化」とやや意味がことなることを理解する。さらに生物のシンカがどのような仕組みで起こるのかを学び理解する。そのことによって現在のヒトや様々な生物がなぜそのような特徴を持っているのかを考え、人間の特徴や様々な生物現象について丸暗記するのではなく、「考え理解する力」を少しでも養う。また、新たな問題に対し、他者の知識を含め、持てる知識を利用して考え、まとめ、他者に説明する力を養う。						
授業概要	○ 上記のテーマや到達目標を達成するため、毎回授業は、講義と、Q&Aにグループディスカッションを組み合わせたアクティブラーニングを併用した授業とする。 ○ 下記の講義項目に従って授業を行う予定であるが、あくまで目安である。受講生の興味、生物学上の疑問、理解の程度を重視するので、講義順序や講義内容、範囲などは受講生の理解をとりながら適宜変更する。 ○ 受講生は、講義内容に関する疑問点や質問を積極的に出し、理解を深めて欲しい。かつなお、疑問点が残れば、次の授業で質問できるようにしておくこと。それにより学生の授業内容の理解度を知り、フィードバックを図る。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	20分～30分程度の小テストを複数回行う。それらの合計点（80％）とQ&Aなどのアクティブラーニングへの積極的発言回数（20％）で評価する。 ただし、授業態度が悪ければ（授業にまじめに取り組まない場合）10点の範囲で減点する。 各小テストは、論述記述式である。 講義の内容から、重要な内容について説明記述させる問題を出題する予定である。 授業をとっていない友人に分かるような説明記述ができていることが、採点の基準になる。専門用語には必ず理解しやすく説明を加えること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	過去の授業内容について度々Q & Aを行うことによって、授業内容に対するフィードバックをはかる。 複数回の小テストのうち途中の小テストは、採点結果を返却すると同時にフィードバックをはかり、再試験追試験を行うこともあるが、最終回のテストは再試験追試験を行わない。						
履修条件・注意事項	受講生は、グループ討論や質疑応答時に積極的に発言することを心掛けるようにすること。 教員が講義している間は、傾聴に努め、私語を控えること。質問は大いに歓迎する。ただし、手を挙げて指名されてから発言すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	【復習】						

の時間	授業内容は常識と異なることが多く、授業は前回までの理解を前提に進めるので、毎回必ず復習し、理解しておくこと。次回の授業で、前回内容についての質問に指名されても答えられるようにしておくこと。 復習には二時間程度かけて、いつ小テストがあっても対応できるように、充分理解し、ノート整理しておくこと。 【予習】 過去の授業内容についての疑問点を整理しておき、次回の授業で質問できるようにしておくこと。また、予習にも二時間程度かけて、次回の授業内容について、参考書などを利用し、現時点での自分なりの理解をしておくこと。また、予め質問したいことがあれば、用意しておくこと。		
オフィスアワー	非常勤講師なので、授業後に教室、または非常勤講師室で行う。		
授業計画		担当者	
第1回	クラゲとヒトはどこが同じでどう違うのか？		香田康年
第2回	生物のシンカと一般用語としての「進化」		香田康年
第3回	生物のシンカの起こる仕組み		香田康年
第4回	なぜたくさんの生物がいるのか？なぜ人間がいるのか？		香田康年
第5回	ダーウィンはなぜ生物シンカに気がついたのか？		香田康年
第6回	科学とはどのような学問か？		香田康年
第7回	生物とは？		香田康年
第8回	どんな生物、どんな動物がいるのか？		香田康年
第9回	遺伝子と遺伝子の発現		香田康年
第10回	本能と学習と理性の関係		香田康年
第11回	利己的行動と利他的行動		香田康年
第12回	非血縁者間の利他行動のシンカ		香田康年
第13回	ゲーム理論とシンカ		香田康年
第14回	様々な対人関係心理のシンカ		香田康年
第15回	言葉のシンカと神や幽霊を信じる心のシンカ		香田康年
第16回	最終試験（記述式筆記試験）		香田康年
教科書			
教・書籍名1	教科書は使わない。理解に必要な資料は講義中に配布するか、スライド等で提示しながら講義する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	「進化と人間行動」	参・出版社名1	東京大学出版会
参・著者名1	長谷川寿一、長谷川眞理子	参・ISBN1	4-13-012032-8
参・書籍名2	「面白くて眠れなくなる生物学」	参・出版社名2	PHP文庫
参・著者名2	長谷川英祐	参・ISBN2	978-4-569-76860-1

授業科目名	環境科学				担当者	大下 浩司		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年				ナンバリング	GE-NS-1-041		
必修・選択	選択	単位数	2単位		時間数	30時間	授業形態	講義
年次	1年		開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目								
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考		◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感			DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	2 飢餓をゼロに 3 すべての人に健康と福祉を 6 安全な水とトイレを世界中に 7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさを守ろう 16 平和と公正をすべての人に 17 パートナリシップで目標を達成しよう							
到達目標	地球環境を科学的に理解し論理的に思考できるようになることをテーマとして、地球環境全般に関わる知識を修得して科学的に理解し、論理的に考える能力を身につけることを到達目標とする。							
授業概要	身の回りから地球規模の環境に関わる諸問題に対し、大学生が身につけておくべき知識を修得して理解する。このために、問題に含まれる諸課題を整理して、言語的な情報を非言語的なイメージで表現し、これらの関係性を論理的に理解する。そして、環境に関わる諸問題について、授業担当者を含めた受講者らとディスカッションする。これらを学生が主体となって取り組めるように授業を行なう。							
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション							
評価方法と割合	地球環境を科学的に理解し論理的に思考する力を確認するための単位認定試験（40%）、発表（30%）、主体的に問題に取り組み論理的に思考しようとする姿勢を授業態度（30%）として評価する。							
ルーブリック評価	無し							
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。							
履修条件・注意事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は予め連絡すること。他の受講生らが迷惑に感じる言動は控えること。							
実務経験のある教員	該当しない	内容						
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を理解し必要に応じて情報収集しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ内容を振り返り、理解を深め疑問点を明らかにすること。							
オフィスアワー	個人研究室にて金曜日3限に実施。							
授業計画							担当者	
第1回	多種多様な環境問題						大下浩司	
第2回	環境問題を考える						大下浩司	
第3回	環境問題を整理する						大下浩司	
第4回	環境問題の核心を捉える						大下浩司	
第5回	グループワークの総括						大下浩司	
第6回	地球温暖化						大下浩司	
第7回	酸性雨						大下浩司	
第8回	バイオマス						大下浩司	
第9回	水						大下浩司	
第10回	オゾン層						大下浩司	
第11回	SDGsの概要						大下浩司	
第12回	環境問題の関わるSDGs						大下浩司	
第13回	環境問題に関する発表1						大下浩司	
第14回	環境問題に関する発表2						大下浩司	
第15回	環境問題に関する発表3						大下浩司	
第16回	単位認定試験						大下浩司	
教科書								
教・書籍名1	適宜、資料を配布する。					教・出版社名1		

教・著者名1		教・I S B N 1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名1	トコトンやさしい環境汚染の本	参・出版社名1	日刊工業新聞社
参・著者名1	大岩敏男、大木久光、高堂彰二、保坂義男	参・I S B N 1	978-4-526-07300-7
参・書籍名2	トコトンやさしい地球科学の本	参・出版社名2	日刊工業新聞社
参・著者名2	地球科学研究会	参・I S B N 2	978-4-526-05524-9

授業科目名	日本のことば			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	FS-FS-1-102		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／ 17. パートナリシップで目標を達成しよう  						
到達目標	日本のことばでは、社会言語学的な視点から日本語の言語としての特徴や日本人の特性について理解する。その理解を通して、学生は日本人が長い歴史の中で培ってきた言語感覚について理解を深めるとともに、その特性を教授することができるようになる。また、日本語を母語としない人に日本語を教える教員を養成するために必要とされる「言語政策とことば」「日本語の構造」（日本語分析、音韻・音声体系、文字と表記、形態・語彙体系、文法体系、意味体系、語用論的規範など）の内容についても理解する。						
授業概要	言葉を話すことは人間が人間であることの本質とかわかり、長い歴史の中で、日本人は日本語、あるいはやまとことばを生み出した。その特徴を理解することによって、日本人の発想の原点やその価値体系や世界観を知ることができる。ときに英語などのインド・ヨーロッパ語と比較しながら、日本語が成り立つ背景を理解し、季節・年齢・立場などによって区別される表現や言語感覚の習得を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	講義への出席を含めて話の聞き方、意見の出し方などを平常点として20点、講義内容をテーマとして出された持ち帰り試験が50点、そして筆記試験を30点として、これらを総合した100点満点で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本科目は日本語教員養成コースの必修科目であり、本コースの取得を目指す者は必ず履修しなければならない。単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験（400字×10枚以上）の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので要注意のこと。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週水曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	日本のことばの概括					大下 朋子	
第2回	ことばの文化的文脈とコミュニケーション					大下 朋子	
第3回	ことばの意味確定度不十分性とコンテキスト					大下 朋子	
第4回	日本語から日本人を考える					大下 朋子	
第5回	日本人の言語意識と行動様式					大下 朋子	
第6回	日本人の価値体系とことば					大下 朋子	
第7回	日本語から日本人を考える					大下 朋子	
第8回	ヨーロッパ諸語の自称詞と対称詞					大下 朋子	
第9回	日本語における自称詞と対称詞の構造					大下 朋子	
第10回	遊牧のパーソナリティと契約の精神					大下 朋子	
第11回	西洋社会の原理「愛のアイデア」と個人					大下 朋子	
第12回	日本的共同体の中の個					大下 朋子	
第13回	和の哲学と日本的共同体					大下 朋子	

第 1 4 回	日本語の構造	大下 朋子
第 1 5 回	言語政策とことば	大下 朋子
第 1 6 回	単位認定試験（筆記試験／レポート試験）	大下 朋子
教科書		
教・書籍名 1	テキストは使用しない。資料を配付し、講読すべき文献は適宜指示する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	日本の芸術			担当者	高木 秀明、山崎 仙狹		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	FS-FS-1-103		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／ 11. 住み続けられるまちづくりを  						
到達目標	「外国の人々に伝えるための日本の芸術を理解する。」をテーマとして、国際交流の場面でもよく話題にあがる茶の道と関連する香・庭・花・道具について歴史的な背景と現代の作法などを学び、外国の人々に伝える場面において自ら考え、行動に結びつけるための能力を身につける。英語力がつけば、本講義で身につけたことを英語で表現できるようになる。 具体的には、本講義を単位修得したのち、2年次秋学期には英語で本講義で得た知識を外国の人々に説明できるようになることを到達目標とする。						
授業概要	外国の人々に日本固有の〈美〉とはどのようなものかと尋ねられたら、どう答えたらよいのだろうか。本講義では、日本人が創造してきた〈美〉に関するものから日本の茶の道を中心にそれを取り巻く菓子・香・庭・花・道具そして心がけや立居振舞について学び、日本人に共通して流れている美的感性とそれに基づく心がけや立居振舞について考えながら、幅広い教養としての日本の芸術に関する知識を身につける。そして、この科目で得た能力をさらに英語で表現できるようになることも念頭において、授業に取り組んでいただく。						
アクティブラーニングの内容	実習／フィールドワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	発言頻度や発言内容等、授業への取り組み度によって達成度を評価する。また、最終到達目標が、英語で説明できるようになるためには、全15回の内容は、理解できていないといけない。したがって、成績評価は、授業内での質問に対する応答（50％）、内容確認のための単位認定試験（50％）のウエイトにより評価する。ただし、他の受講生に迷惑となる受講態度が認められた場合には減点する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業内に課した課題については、学生一人ひとりにコメントを付して返却する。						
履修条件・注意事項	実践的な作法等を学ぶ授業が主であるので、真摯な姿勢で受講すること。特に和室での授業もあるので、毎回、ソックス等を着用するなど、身支度にも気を付けること。 授業で使用する懐紙、茶、菓子、花など、各自で使用・制作した教材は必ず自宅に持ち帰ること。 学外で授業を土日に行う場合がある。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、茶道・華道・禅を実践している実務家による科目である。また、それらを海外でも実践されている。地域・日本・海外という場における日本の芸術文化を実践・体系的に学ぶことができる科目である。				
事前学習・事後学習とその時間	予習として、日本の文化について、日々の生活の中でも疑問をもちそれを解決するよう調べることを勧める。授業内容を正確に理解するために、ノート作成と復習が必要である。						
オフィスアワー	火曜日4時限高木研究室で行う。						
授業計画						担当者	
第1回	茶の来た道					山崎	
第2回	中国・日本の茶の歴史					山崎	
第3回	栄西について					山崎	
第4回	栄西踊りについて－フィールドワークと実習、栄西生誕の地にて奉納踊り					山崎	
第5回	栄西とお茶					山崎	
第6回	菓子のこころ－ルーツから現在まで（菓子の歴史）					山崎	
第7回	菓子のこころ－ルーツから現在まで（1500年代の菓子をつくる）－実習					山崎	
第8回	香のこころ（香の歴史・種類・目的）					山崎	

第 9 回	庭のこと（庭から露路への歴史）－実習	山崎
第 1 0 回	花のこと（花の歴史）	山崎
第 1 1 回	花のこと（花をアレンジする）－実習	山崎
第 1 2 回	道具のこと（茶碗・食事の仕方）－実習	山崎
第 1 3 回	染のこと（紅花で布をそめる）－実習	山崎
第 1 4 回	心がけ－日本人として知っておきたい文化と常識	山崎
第 1 5 回	立居振舞（和室にて菓子と抹茶について）－実習	山崎
第 1 6 回	単位認定試験－筆記試験	山崎
教科書		
教・書籍名 1	使用しない（必要に応じプリントを配布する）	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	英語学Ⅰ			担当者	金沢 真弓		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-201		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：英語学的見地から「英語」を理解し、英語の未来を考察する。 到達目標： 1) わたしたちが使っている現代英語は、どこからきて、どのようにして変化してきたのかを探究し、理解できるようにする。 2) 英語が発展してきた背景を学ぶとともに、英語学的見地から、英語の音、スペル、文法の変化を学習し、説明できるようにする。 3) 様々な国で使われている多様な英語の存在を理解し、受容する。						
授業概要	国際語としての英語は、どのようにして生まれ変化してきたのか、その社会的・文化的背景から探っていくと共に幅広い知識を身につける。また、音声記号や文字記号と意味の生成についても考察する。テキスト以外の資料を読むことが必要であり、受講者は英語学におけるテーマを決めて発表する。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション						
評価方法と割合	学期末試験 (50%),発表 (30%), レビューシート (20%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レビューシートは、毎週チェックし、返す。						
履修条件・注意事項	毎回ハンドアウトを配布するので、第1日目授業からファイルを準備しておくこと。 授業計画の内容は進捗状況に応じて変更が生じる場合がある						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	テーマに関する資料を読むこと。						
オフィスアワー	木曜日 4時限目(15:10 - 16:40)						
授業計画						担当者	
第1回	1. ガイダンス（授業の目標、進め方について説明） 英語学とは					金沢真弓	
第2回	2. 言葉の起源と言語研究					金沢真弓	
第3回	英語の発音とスペリング					金沢真弓	
第4回	英語の語彙の多様性と 標準英語の成立					金沢真弓	
第5回	英語のバリエーション					金沢真弓	
第6回	ことばと音声					金沢真弓	
第7回	英語ができるしくみ					金沢真弓	
第8回	文ができるしくみ					金沢真弓	
第9回	意味の拡張					金沢真弓	
第10回	ことばの意味とコンテキスト					金沢真弓	
第11回	英語と文化					金沢真弓	
第12回	ことばと社会					金沢真弓	
第13回	日本の英語教育と教授法					金沢真弓	
第14回	まとめと復習					金沢真弓	
第15回	発表					金沢真弓	

第 1 6 回	定期試験		金沢真弓
教科書			
教・書籍名 1	はじめての英語学	教・出版社名 1	研究社
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	英語学Ⅱ				担当者	金沢 真弓			
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年				ナンバリング	FS-FS-1-202			
必修・選択	選択	単位数	2単位		時間数	30		授業形態	講義・演習
年次	1年		開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜3限	
ディプロマポリシー対応項目									
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3.主体的な学びと論理的な思考		◎	DP4. コミュニケーション・表現力		◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		◎	DP8. 学科項目		○
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 								
到達目標	テーマ：英語の基礎である文法・構文の知識を確実に定着させ、自己表現のための土台を強化する。 到達目標：文法の基本事項の定着。								
授業概要	英文法・英語構文の基本事項を復習し、関連例文をとおしてポイントの内容をさらに深く理解します。多種多様な多くの設問に取り組んで、不確かな文法・構文の知識を確実にしていきます。さらに、最後に短いエッセイを読みながら文構造や文法の応用学習にすすみます。エッセイの中の英語表現を使って英文作成にもチャレンジします。								
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）								
評価方法と割合	定期試験（40％） 中間試験（30％） 小テスト（30％）								
ルーブリック評価									
課題や試験のフィードバック方法	毎週実施する小テストはスコア提示をして返却する。								
履修条件・注意事項	予習・復習をすること。辞書持参。								
実務経験のある教員	該当しない	内容							
事前学習・事後学習とその時間	各ユニットの単語学習， 文法の練習をすること。								
オフィスアワー	月曜日4時限目(15:10-16:40)								
授業計画								担当者	
第1回	コースガイダンス 文法テスト							金沢真弓	
第2回	文の構成－主語と述語							金沢真弓	
第3回	様々な疑問文							金沢真弓	
第4回	動詞の時制Ⅰ－ 現在形・過去形・未来形							金沢真弓	
第5回	動詞の時制Ⅱ－ 現在完了・過去完了							金沢真弓	
第6回	形容詞・副詞							金沢真弓	
第7回	使役動詞							金沢真弓	
第8回	中間テスト							金沢真弓	
第9回	前置詞・接続詞							金沢真弓	
第10回	助動詞Ⅰ－ 助動詞の働き							金沢真弓	
第11回	助動詞Ⅱ－ 依頼・申し出の言い方							金沢真弓	
第12回	不定詞・動名詞							金沢真弓	
第13回	分詞							金沢真弓	
第14回	仮定法							金沢真弓	
第15回	復習・まとめ							金沢真弓	
第16回	期末試験							金沢真弓	
教科書									
教・書籍名1						教・出版社名1			
教・著者名1						教・ISBN1			
教・書籍名2						教・出版社名2			

教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	マーフィーのケンブリッジ英文法	参・出版社名 1	Cambridge Publishing Press
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	英語音声学Ⅰ			担当者	イアン・ウォーナー		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-207		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Theme: Maximizing student English language pronunciation competency by ensuring thorough basic phonological understanding (and - in so doing - enhancing listening comprehension / aural competency). Aim: To make student pronunciation of English language words 'sufficiently accurate' and thus 'correct' - or at least 'functional' and 'acceptable' vis-a-vis 1 and 2-way oral communication and especially the reading of familiar and unfamiliar (typed / printed) common words (both aloud and silently, to oneself).						
授業概要	The course will center on the study of English vowel and consonant sounds in order to help students become effective and efficient English language users. It will necessarily entail optimally extensive and intensive weekly pronunciation practice intended to bring student pronunciation performance as near as possible to 'received' and / or internationally accepted pronouncing 'norms', 'best practices' and 'ideals'. 'Sufficiently accurate' and thus 'correct' - or at least 'functional' and 'acceptable'- pronunciation, in line with such norms, best practices and 'ideals', is a vital skill that all 'non-native' students of English must strive to acquire and develop to an advanced degree. Those who fail to pronounce words in a 'sufficiently accurate' and thus 'correct' - or at least 'functional' and 'acceptable' - manner will frequently not be understood (in full or part) - and be misunderstood by their interlocutors - especially by non-compatriot users of English. Moreover, such a failing - in the worst scenario - is likely to impede and limit the general development of all 4 core language skills (Listening, Reading, Speaking and Writing). In sum, English as foreign language (EFL) students must develop and retain the capacity to 'correctly' identify and produce the component syllable sounds of most commonly used words (regardless of whether their definitional meanings are known or unknown), whenever they are 'correctly' or 'acceptably' i) typed and printed or ii) pronounced by others. In other words, such students must be assisted in their efforts to become competent and proficient (visual and aural) identifiers and (oral) utterers of individual whole words, their component speech sounds (i.e. phonemes) and respective corresponding grapheme representations.						
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／グループワーク						
評価方法と割合	60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview and / or recording assignment, depending on student numbers). [Students will be continuously appraised regarding coursework.] Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and						

	photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.
ループリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	I communicate with - and provide feedback to - all students in the following ways. Firstly, I return marked, commented on and corrected (printed and / or digital) course-work and homework worksheets and question papers to students. Secondly, I provide students with Correct / Model Answer (printed and / or digital) handout documents. Thirdly, I brief students accordingly, in writing, as and when necessary, via KIU e-mail. Fourthly, I brief students, verbally, as and when necessary / whenever I deem it to be necessary or preferable before during and after lessons. In the case of student's Oral Communication / Speaking and Phonetics (pronouncing practice) sound-audio recordings (that are submitted to me via KIU e-mail) I supply detailed assessments as and when I think it necessary and likely to be beneficial i.e. read, comprehended, heeded / acted upon, and have a positive, rather than negative, effect / impact on the student(s) concerned. Fifthly, I additionally regularly encourage all students to liaise with me verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, I also regularly encourage and urge all students to contact me via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime and to - especially - to physically visit my office, as and whenever they see fit / think best and want to.
履修条件・注意事項	This course will be conducted solely in English. Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate. Students should be mature, adequately / sufficiently interested and engaged, and 'PROACTIVE' at all times, and therefore: 01) be - and remain - alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) come to each lesson ready and eager to speak / communicate with their teacher and classmates in English; 03) come to each lesson ready and eager to listen to their teacher(s) and classmates in English; 04) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 05) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as much and frequently as possible; 06) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, ideally and / or often at some length; 07) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 08) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 09) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 10) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 11) study (relevant) textbook pages - and all teacher-distributed materials - as much as possible before, during and after each lesson; 12) strive to finish / complete and submit all required classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well and 'on time', before specified deadlines;

	13) finish / submit all required classroom and homework assignments 'on time', before specified deadlines; 14) aim to fully understand - and 'master' - everything that their teacher tells them, especially those things that they are told they will likely to be tested on during (end-of-term) examinations, etc; 15) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 16) communicate with - and request help from - their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 17) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 18) tell the teacher immediately if they think that any textbook or lesson-related activity is / was too easy or difficult; 19) communicate with their teacher frequently, especially if they feel confused about a lesson-related topic; 20) request help from their teacher whenever they think that they would benefit from such; 21) generally try to maximize the amount of time that they practice English language oral communication with their teacher and one another; 22) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times. 23) do an adequate / sufficient amount of revision prior to all tests and - above all - the final, end-of-term exam.		
実務経験のある教員	該当する	内容	I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.
事前学習・事後学習とその時間	In addition to completing all homework assignments , students SHOULD: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible; The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.		

オフィスアワー	In Ian Warner's office - Room 133 You can contact Ian WARNER by e-mail via: escadero@gmail.com or Microsoft TEAMS. Tell Ian WARNER if you prefer to use FaceTime, Skype or LINE. If you want / need to talk to Ian WARNER - face-to-face - for a long time, go to Room 133. You can talk with Ian WARNER whenever you see him in Room 133 on Tuesdays, Wednesdays and Thursdays. The best time to talk to Ian WARNER in Room 133 is on Wednesdays at:

授業計画		担当者
第1回	母音vowels 1～3 [æ] [ʌ] [ɑ]	Warner
第2回	母音vowels 4～6 [a:] [a:r] [ə:r]	Warner
第3回	母音vowels 7～9 [ə] [ər] [i]	Warner
第4回	母音vowels 10～12 [i:] [u] [u:]	Warner
第5回	母音vowels 13～15 [e] [ɔ:] [ɔ:r]	Warner
第6回	母音vowels 16～18 [ai] [aiər] [au]	Warner
第7回	母音vowels 19～21 [auər] [ei] [ɔi]	Warner
第8回	母音vowels 22～24 [ou] [ju:] [iər]	Warner
第9回	母音vowels 25～26 [uər][eər]	Warner
第10回	子音 consonants 1～5 [l] [r] [p] [b] [t]	Warner
第11回	子音 consonants 6～10 [d] [k] [g] [m] [n]	Warner
第12回	子音 consonants 11～15 [ŋ] [f] [v] [h] [s]	Warner
第13回	子音 consonants 16～20 [z] [θ] [ʒ] [ʃ] [ʒ]	Warner
第14回	子音 consonants 21～24 [tʃ] [dʒ] [j] [w]	Warner
第15回	復習・まとめ Review	Warner
第16回	Final EXAM. TEST	Warner

教科書

教・書籍名1	1) Clear Speech [4th Edition] (2017) 2) English Pronunciation in Use - Intermediate (2017)	教・出版社名1	Cambridge University Press
教・著者名1	1) Judy B. Gilbert ==== 2) Mark Hancock	教・ISBN1	1) ISBN-10: 1108659330 ISBN-13: 978- 1108659338 ==== 2) ISBN-10: 1108403697 ISBN-13: 978- 1108403696
教・書籍名2	Pronouncing Dictionary [18th Edition] (2011) Students do NOT need to buy this book. Certain specific pages will be used in lesson time.	教・出版社名2	Cambridge University Press
教・著者名2	Daniel Jones	教・ISBN2	ISBN-10: 0521152550 ISBN-13: 978- 0521152556

参考書

参・書籍名1	Ship or Sheep? [3rd Edition] (2006) Certain specific pages will be used in lesson time.	参・出版社名1	Cambridge University Press
--------	--	---------	----------------------------

参・著者名 1	Ann Baker	参・ I S B N 1	ISBN-10: 052160673X ISBN-13: 978-0521606738
参・書籍名 2	A large number of suitably challenging English language news reports and journalistic articles - sourced mainly from major Anglo-American, European, Japanese and East-Asian news agencies, newspapers and news and current affairs magazines - will be utilized on a weekly basis.	参・出版社名2	
参・著者名2	Additional supplementary reading, listening (audio) and speaking materials and activities will be supplied (weekly) by the teacher.	参・ I S B N 2	

授業科目名	英語音声学Ⅱ			担当者	イアン・ウォーナー		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-208		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Theme: For intonation and rhythm: linking, elision, assimilation, dropping of sound Aim: Building on progress made in English Phonetics I, the aim of this course is to provide students with a greater, more comprehensive understanding and mastery of English language pronunciation.						
授業概要	From the viewpoint of supersegmental features, this course will focus on syllables, stress, rhythm and intonation etc. of English to learn natural English pronunciation. This course will emphasize practical aspect so that students can communicate in English with natural pronunciation in oral communication. 'Sufficiently accurate' and thus 'correct' - or at least 'functional' and 'acceptable'- pronunciation, in line with such norms, best practices and 'ideals', is a vital skill that all 'non-native' students of English must strive to acquire and develop to an advanced degree. Those who fail to pronounce words in a 'sufficiently accurate' and thus 'correct' - or at least 'functional' and 'acceptable' - manner will frequently not be understood (in full or part) - and be misunderstood by their interlocutors - especially by non-compatriot users of English. Moreover, such a failing - in the worst scenario - is likely to impede and limit the general development of all 4 core language skills (Listening, Reading, Speaking and Writing). In sum, English as foreign language (EFL) students must develop and retain the capacity to 'correctly' identify and produce the component syllable sounds of most commonly used words (regardless of whether their definitional meanings are known or unknown), whenever they are 'correctly' or 'acceptably' i) typed and printed or ii) pronounced by others. In other words, such students must be assisted in their efforts to become competent and proficient (visual and aural) identifiers and (oral) utterers of individual whole words, their component speech sounds (i.e. phonemes) and respective corresponding grapheme representations.						
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview) [Students will be continuously appraised regarding coursework.] Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	I communicate with - and provide feedback to - all students in the following ways. Firstly, I return marked, commented on and corrected (printed and / or digital) course-work and homework worksheets and question						

	papers to students. Secondly, I provide students with Correct / Model Answer (printed and / or digital) handout documents. Thirdly, I brief students accordingly, in writing, as and when necessary, via KIU e-mail. Fourthly, I brief students, verbally, as and when necessary / whenever I deem it to be necessary or preferable before during and after lessons. In the case of student's Oral Communication / Speaking and Phonetics (pronouncing practice) sound-audio recordings (that are submitted to me via KIU e-mail) I supply detailed assessments as and when I think it necessary and likely to be beneficial i.e. read, comprehended, heeded / acted upon, and have a positive, rather than negative, effect / impact on the student(s) concerned. Fifthly, I additionally regularly encourage all students to liaise with me verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, I also regularly encourage and urge all students to contact me via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime and to - especially - to physically visit my office, as and whenever they see fit / think best and want to.
履修条件・注意事項	This course will be conducted solely in English. Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate. Students should be mature, adequately / sufficiently interested and engaged, and 'PROACTIVE' at all times, and therefore: 01) be - and remain - alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) come to each lesson ready and eager to speak / communicate with their teacher and classmates in English; 03) come to each lesson ready and eager to listen to their teacher(s) and classmates in English; 04) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 05) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as much and frequently as possible; 06) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, ideally and / or often at some length; 07) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 08) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 09) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 10) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 11) study (relevant) textbook pages - and all teacher-distributed materials - as much as possible before, during and after each lesson; 12) strive to finish / complete and submit all required classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well and 'on time', before specified deadlines; 13) finish / submit all required classroom and homework assignments 'on time', before specified deadlines; 14) aim to fully understand - and 'master' - everything that their teacher tells them, especially those things that they are told they will likely to be tested on during (end-of-term) examinations, etc; 15) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail;

	16) communicate with - and request help from - their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 17) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 18) tell the teacher immediately if they think that any textbook or lesson-related activity is / was too easy or difficult; 19) communicate with their teacher frequently, especially if they feel confused about a lesson-related topic; 20) request help from their teacher whenever they think that they would benefit from such; 21) generally try to maximize the amount of time that they practice English language oral communication with their teacher and one another; 22) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times. 23) do an adequate / sufficient amount of revision prior to all tests and - above all - the final, end-of-term exam.		
実務経験のある教員	該当する	内容	I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.
事前学習・事後学習と その時間	1) Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor. 2) Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor. Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face. 3) Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments. In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments, students should: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible;		

	The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.		
オフィスアワー	In Ian Warner's office - Room 133 Mondays - N/A Tuesdays - 1, 2, 3, 4, 5, 6 Wednesdays - 1, 2, 3, 4, 5, 6 Thursdays - 1, 2, 3, 4, 5, 6 Fridays - Periods 1, 2, 3, 4, 5, 6 * = Unless at staff meetings Students can also e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp Lunch-time meetings - and meetings after 6:20pm - are also possible.		
授業計画		担当者	
第 1 回	Syllables	Warner	
第 2 回	Vowels and Vowel Rules	Warner	
第 3 回	Word Stress and Vowel Length	Warner	
第 4 回	Word Stress and Vowel Clarity	Warner	
第 5 回	Word Stress Patterns	Warner	
第 6 回	Sentence Focus: Emphasizing Content Words	Warner	
第 7 回	Sentence Focus: De-Emphasizing Structure Words	Warner	
第 8 回	Choosing the Focus Word	Warner	
第 9 回	Emphasizing Structure Words	Warner	
第 1 0 回	Constituents and Stops: /s/ and /t/	Warner	
第 1 1 回	Constituents and Stops: /r/ and /d/; /l/ and /d/	Warner	
第 1 2 回	Voicing	Warner	
第 1 3 回	Voicing and Syllable Length Aspiration	Warner	
第 1 4 回	Sibilants	Warner	
第 1 5 回	Thought Groups	Warner	
第 1 6 回	Final EXAM. TEST	Warner	
教科書			
教・書籍名 1	Clear Speech [4th Edition] (2012)	教・出版社名 1	Cambridge University Press
教・著者名 1	Judy B. Gilbert	教・I S B N 1	ISBN-10: 1108659330 ISBN-13: 978-1108659338
教・書籍名 2	English Pronunciation in Use - Intermediate (2014)	教・出版社名 2	Cambridge University Press
教・著者名 2	Mark Hancock	教・I S B N 2	ISBN-10: 1108403697 ISBN-13: 978-

			1108403696
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2	A large number of suitably challenging English language news reports and journalistic articles - sourced mainly from major Anglo-American, European, Japanese and East-Asian news agencies, newspapers and news and current affairs magazines - will be utilized on a weekly basis.	参・出版社名2	
参・著者名2	Additional supplementary reading, listening (audio) and speaking materials and activities will be supplied (weekly) by the teacher.	参・ I S B N 2	

授業科目名	英語リーディングⅠ（Aクラス）			担当者	カルロス・ガルシア		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	FS-FS-1-301		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
D P 1. 知識・技能	◎	D P 2. 情報の活用	◎	D P 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	D P 4. コミュニケーション・表現力	◎
D P 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	D P 6. 課題解決力	○	D P 7. 自己効力感	◎	D P 8. 学科項目	△
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	This course will focus on reading comprehension with critical thinking and vocabulary practice. Through various exercises, we will try to develop reading skills and overall language ability. The aim is for students to understand the main idea and details of a text, summarize it in their own words, answer questions, and give their opinion on the topic.						
授業概要	Classes will have in-class reading, questions and answers, and topic discussions of homework. We will learn by studying topics and situations. Students can share their own opinions on many issues.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	Students will be evaluated by class participation, homework, quizzes, and exams. 1) 60%: assignments, homework, participation. 2) 40%: Final Exam						
ルーブリック評価	n/a						
課題や試験のフィードバック方法	Oral and written notes on assignments and in lectures						
履修条件・注意事項	Students should prepare for each class by doing the homework assignments, checking vocabulary, and background information. Vocabulary will be a big part of understanding text, so it is suggested that students study the vocabulary words from each unit, as well as any unknown words in the text. This course is conducted in English. If possible, this class will be held in a CALL (Computer Assisted Language Learning) room and use the CALL system.						
実務経験のある教員	該当しない	内容	n/a				
事前学習・事後学習とその時間	Students should look through the unit to become familiar with the content, and get an idea what types of topics and vocabulary words will be used. Doing digital book exercises are encouraged because students can check their answers and work at their own pace. Finding books at an appropriate level to read for pleasure is highly encouraged.						
オフィスアワー	Wednesday: 9:00 am - 11:00 am, or by appointment. Research Room 132.						
授業計画						担当者	
第1回	1) Course overview					Garcia	
第2回	2) Guessing meaning from context					Garcia	
第3回	3) Identifying text organization					Garcia	
第4回	4) Inferring meaning					Garcia	
第5回	5) Antonyms					Garcia	
第6回	6) Words with different meanings					Garcia	
第7回	7) Prefixes					Garcia	
第8回	8) Identifying reference words					Garcia	
第9回	Skimming and scanning					Garcia	
第10回	10) Separating fact from fiction					Garcia	

第 1 1 回	11) Suffixes	Garcia	
第 1 2 回	12) Synonyms	Garcia	
第 1 3 回	13) Selecting key information	Garcia	
第 1 4 回	14) Word groups	Garcia	
第 1 5 回	15) Course review	Garcia	
第 1 6 回	16) Final Exam	Garcia	
教科書			
教・書籍名 1	TBD	教・出版社名 1	TBD
教・著者名 1	TBD	教・ I S B N 1	TBD
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	英語リーディングⅠ（Ｂクラス）			担当者	カルロス・ガルシア		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	FS-FS-1-301		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	This course will focus on reading comprehension with critical thinking and vocabulary practice. Through various exercises, we will try to develop reading skills and overall language ability. The aim is for students to understand the main idea and details of a text, summarize it in their own words, answer questions, and give their opinion on the topic.						
授業概要	Classes will have in-class reading, questions and answers, and topic discussions of homework. We will learn by studying topics and situations. Students can share their own opinions on many issues.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	Students will be evaluated by class participation, homework, quizzes, and exams. 1) 60%: assignments, homework, participation. 2) 40%: Final Exam						
ルーブリック評価	n/a						
課題や試験のフィードバック方法	Oral and written notes on assignments and in lectures						
履修条件・注意事項	Students should prepare for each class by doing the homework assignments, checking vocabulary, and background information. Vocabulary will be a big part of understanding text, so it is suggested that students study the vocabulary words from each unit, as well as any unknown words in the text. This course is conducted in English. If possible, this class will be held in a CALL (Computer Assisted Language Learning) room and use the CALL system.						
実務経験のある教員	該当しない	内容	n/a				
事前学習・事後学習とその時間	Students should look through the unit to become familiar with the content, and get an idea what types of topics and vocabulary words will be used. Doing digital book exercises are encouraged because students can check their answers and work at their own pace. Finding books at an appropriate level to read for pleasure is highly encouraged.						
オフィスアワー	Wednesday: 9:00 am - 11:00 am, or by appointment. Research Room 132.						
授業計画						担当者	
第1回	1) Course overview					Garcia	
第2回	2) Guessing meaning from context					Garcia	
第3回	3) Identifying text organization					Garcia	
第4回	4) Inferring meaning					Garcia	
第5回	5) Antonyms					Garcia	
第6回	6) Words with different meanings					Garcia	
第7回	7) Prefixes					Garcia	
第8回	8) Identifying reference words					Garcia	
第9回	Skimming and scanning					Garcia	
第10回	10) Separating fact from fiction					Garcia	

第 1 1 回	11) Suffixes	Garcia	
第 1 2 回	12) Synonyms	Garcia	
第 1 3 回	13) Selecting key information	Garcia	
第 1 4 回	14) Word groups	Garcia	
第 1 5 回	15) Course review	Garcia	
第 1 6 回	16) Final Exam	Garcia	
教科書			
教・書籍名 1	TBD	教・出版社名 1	TBD
教・著者名 1	TBD	教・ I S B N 1	TBD
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	英語リーディングⅡ（Ａクラス）			担当者	イアン・ウォーナー		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-302		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／6. 安全な水とトイレを世界中に／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／8. 働きがいも経済成長も 						
到達目標	Theme: Helping students to further develop their Reading Comprehension skills (and thus vocabulary, pronunciation and syntactic / grammar) knowledge-awareness. Main Aims / Objectives: The aim of this course is to further develop student ability to accurately and otherwise efficiently understand and 'digest' a diverse range of texts (of appropriate length and complexity) within comparatively short(er) periods of time. By the end of this course, students should therefore be better able to: 1) ascertain and understand the information contained within (mostly teacher assigned) study texts; 2) ascertain and understand the gist, 'messages' and thus likely main intended 'purpose(s)' of (mostly teacher assigned) study texts; 3) comprehensively summarize (verbally and in writing) study text content; 4) comprehensively describe and explain (verbally and in writing) study text content; 5) express their own opinions and responses regarding study text content;						
授業概要	Students will be expected, encouraged and helped to read, analyze, explain and provide personnel, opinion-based critical assessments of assigned study texts verbally and in writing. Students will thus be given ample weekly opportunities to talk, discuss and write about assigned study text content and relevant related topics. Students will be given - on a weekly basis - ample opportunity to practice and thereby improve not only their vocabulary / word recognition, pronunciation and syntactic / grammar knowledge-awareness but also their Oral Communication (OC) and Writing communication skills, as they attempt to determine the gist and / or full meaning and intent of assigned study texts. Students will be expected, encouraged and helped to engage wholeheartedly, enthusiastically and intellectually with assigned reading materials and to be eager to describe and comment on them in appropriate detail and for an appropriate length of time. In other words, students will be expected, encouraged and helped to say and / or write 'enough' words and sentences in the time available (and thus to avoid being too slow, hesitant, unforthcoming or reticent). Student comprehension performance will be constantly assessed via appraisal of oral / verbal and written reports and verbal and written answers to the teacher's verbal and written questioning. For verbal reporting, pronunciation, intonation, audibility, syntax / word order, grammar correctness, 'message' coherence, vocabulary usage / articulateness and the general apparent level of success and eagerness vis-a-vis 'making oneself understood' will be prioritized, considered and assessed.						

	For written reporting, syntax / word order, grammar correctness, 'message' coherence, vocabulary usage / articulateness and the general apparent level of success and eagerness vis-a-vis 'making oneself understood' will be prioritized, considered and assessed.
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview) [Students will be continuously appraised regarding coursework.] Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	I communicate with - and provide feedback to - all students in the following ways. Firstly, I return marked, commented on and corrected (printed and / or digital) course-work and homework worksheets and question papers to students. Secondly, I provide students with Correct / Model Answer (printed and / or digital) handout documents. Thirdly, I brief students accordingly, in writing, as and when necessary, via KIU e-mail. Fourthly, I brief students, verbally, as and when necessary / whenever I deem it to be necessary or preferable before during and after lessons. Fifthly, I additionally regularly encourage all students to liaise with me verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, I also regularly encourage and urge all students to contact me via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime and to - especially - to physically visit my office, as and whenever they see fit / think best and want to.
	This course will be conducted solely in English. Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate. Students should be mature, adequately / sufficiently interested and engaged, and 'PROACTIVE' at all times, and therefore: 01) be - and remain - alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) come to each lesson ready and eager to speak / communicate with their teacher and classmates in English; 03) come to each lesson ready and eager to listen to their teacher(s) and classmates in English; 04) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 05) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as much and frequently as possible;

履修条件・注意事項	06) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, ideally and / or often at some length; 07) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 08) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 09) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 10) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 11) study (relevant) textbook pages - and all teacher-distributed materials - as much as possible before, during and after each lesson; 12) strive to finish / complete and submit all required classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well and 'on time', before specified deadlines; 13) finish / submit all required classroom and homework assignments 'on time', before specified deadlines; 14) aim to fully understand - and 'master' - everything that their teacher tells them, especially those things that they are told they will likely to be tested on during (end-of-term) examinations, etc; 15) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 16) communicate with - and request help from - their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 17) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 18) tell the teacher immediately if they think that any textbook or lesson-related activity is / was too easy or difficult; 19) communicate with their teacher frequently, especially if they feel confused about a lesson-related topic; 20) request help from their teacher whenever they think that they would benefit from such; 21) generally try to maximize the amount of time that they practice English language oral communication with their teacher and one another; 22) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times. 23) do an adequate / sufficient amount of revision prior to all tests and - above all - the final, end-of-term exam.		
実務経験のある教員	該当する	内容	I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.
事前学習・事後学習とその時間	1) Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor. 2) Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor. Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete		

		them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face. 3) Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments. In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments, students should: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible; The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.
オフィスアワー		In Ian Warner's office - Room 133 Mondays - N/A Tuesdays - 3, 4, 5, 6 Wednesdays - 3, 4, 5, 6 Thursdays - 1, 2, 3, 4, 5, 6 Fridays - Periods 1, 2, 3, 4, 5, 6 * = Unless at staff meetings Students can also e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp Lunch-time meetings - and meetings after 6:20pm - are also possible.
授業計画		担当者
第 1 回	U-01 (Main Text, etc)	Warner
第 2 回	U-02 (Main Text, etc)	Warner
第 3 回	U-03 (Main Text, etc)	Warner
第 4 回	U-04 (Main Text, etc)	Warner
第 5 回	U-05 (Main Text, etc)	Warner
第 6 回	U-06 (Main Text, etc)	Warner
第 7 回	U-07 (Main Text, etc)	Warner
第 8 回	U-08 (Main Text, etc)	Warner
第 9 回	U-09 (Main Text, etc)	Warner
第 1 0 回	U-10 (Main Text, etc)	Warner
第 1 1 回	U-11 (Main Text, etc)	Warner
第 1 2 回	U-12 (Main Text, etc)	Warner

第 1 3 回	U-13 (Main Text, etc)	Warner
第 1 4 回	U-14 (Main Text, etc)	Warner
第 1 5 回	U-15 (Main Text, etc)	Warner
第 1 6 回	Final EXAM. TEST	Warner
教科書		
教・書籍名 1	Reading Pass - Intro (2013)	教・出版社名 1 Nan'un-Do Co., Ltd.
教・著者名 1	Andrew E. Bennett	教・I S B N 1 ISBN-10: 4523177201 ISBN-13: 978-4-523-17720-3
教・書籍名 2	Suitably challenging English language texts (including news reports and journalistic articles) sourced from books and major Anglo-American, European, Japanese and East-Asian news agencies, newspapers and news and current affairs magazines - will also be utilized on a weekly basis.	教・出版社名2
教・著者名2		教・I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	Reader's Forum: Preface Simply English An Introduction to Today's Key Concepts (2017)	参・出版社名 1 Nan'un-Do Co., Ltd.
参・著者名 1	Jim Knudsen	参・I S B N 1 ISBN: 9784523178293
参・書籍名 2		参・出版社名2
参・著者名2		参・I S B N 2

授業科目名	英語リーディングⅡ（Ｂクラス）			担当者	イアン・ウォーナー		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-302		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／6. 安全な水とトイレを世界中に／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／8. 働きがいも経済成長も 						
到達目標	Theme: Helping students to further develop their Reading Comprehension skills (and thus vocabulary, pronunciation and syntactic / grammar) knowledge-awareness. Main Aims / Objectives: The aim of this course is to further develop student ability to accurately and otherwise efficiently understand and 'digest' a diverse range of texts (of appropriate length and complexity) within comparatively short(er) periods of time. By the end of this course, students should therefore be better able to: 1) ascertain and understand the information contained within (mostly teacher assigned) study texts; 2) ascertain and understand the gist, 'messages' and thus likely main intended 'purpose(s)' of (mostly teacher assigned) study texts; 3) comprehensively summarize (verbally and in writing) study text content; 4) comprehensively describe and explain (verbally and in writing) study text content; 5) express their own opinions and responses regarding study text content;						
授業概要	Students will be expected, encouraged and helped to read, analyze, explain and provide personnel, opinion-based critical assessments of assigned study texts verbally and in writing. Students will thus be given ample weekly opportunities to talk, discuss and write about assigned study text content and relevant related topics. Students will be given - on a weekly basis - ample opportunity to practice and thereby improve not only their vocabulary / word recognition, pronunciation and syntactic / grammar knowledge-awareness but also their Oral Communication (OC) and Writing communication skills, as they attempt to determine the gist and / or full meaning and intent of assigned study texts. Students will be expected, encouraged and helped to engage wholeheartedly, enthusiastically and intellectually with assigned reading materials and to be eager to describe and comment on them in appropriate detail and for an appropriate length of time. In other words, students will be expected, encouraged and helped to say and / or write 'enough' words and sentences in the time available (and thus to avoid being too slow, hesitant, unforthcoming or reticent). Student comprehension performance will be constantly assessed via appraisal of oral / verbal and written reports and verbal and written answers to the teacher's verbal and written questioning. For verbal reporting, pronunciation, intonation, audibility, syntax / word order, grammar correctness, 'message' coherence, vocabulary usage / articulateness and the general apparent level of success and eagerness vis-a-vis 'making oneself understood' will be prioritized, considered and assessed.						

	For written reporting, syntax / word order, grammar correctness, 'message' coherence, vocabulary usage / articulateness and the general apparent level of success and eagerness vis-a-vis 'making oneself understood' will be prioritized, considered and assessed.
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview) [Students will be continuously appraised regarding coursework.] Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	I communicate with - and provide feedback to - all students in the following ways. Firstly, I return marked, commented on and corrected (printed and / or digital) course-work and homework worksheets and question papers to students. Secondly, I provide students with Correct / Model Answer (printed and / or digital) handout documents. Thirdly, I brief students accordingly, in writing, as and when necessary, via KIU e-mail. Fourthly, I brief students, verbally, as and when necessary / whenever I deem it to be necessary or preferable before during and after lessons. Fifthly, I additionally regularly encourage all students to liaise with me verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, I also regularly encourage and urge all students to contact me via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime and to - especially - to physically visit my office, as and whenever they see fit / think best and want to.
	This course will be conducted solely in English. Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate. Students should be mature, adequately / sufficiently interested and engaged, and 'PROACTIVE' at all times, and therefore: 01) be - and remain - alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) come to each lesson ready and eager to speak / communicate with their teacher and classmates in English; 03) come to each lesson ready and eager to listen to their teacher(s) and classmates in English; 04) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 05) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as much and frequently as possible;

履修条件・注意事項	06) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, ideally and / or often at some length; 07) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 08) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 09) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 10) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 11) study (relevant) textbook pages - and all teacher-distributed materials - as much as possible before, during and after each lesson; 12) strive to finish / complete and submit all required classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well and 'on time', before specified deadlines; 13) finish / submit all required classroom and homework assignments 'on time', before specified deadlines; 14) aim to fully understand - and 'master' - everything that their teacher tells them, especially those things that they are told they will likely to be tested on during (end-of-term) examinations, etc; 15) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 16) communicate with - and request help from - their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 17) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 18) tell the teacher immediately if they think that any textbook or lesson-related activity is / was too easy or difficult; 19) communicate with their teacher frequently, especially if they feel confused about a lesson-related topic; 20) request help from their teacher whenever they think that they would benefit from such; 21) generally try to maximize the amount of time that they practice English language oral communication with their teacher and one another; 22) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times. 23) do an adequate / sufficient amount of revision prior to all tests and - above all - the final, end-of-term exam.		
実務経験のある教員	該当する	内容	I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.
事前学習・事後学習とその時間	1) Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor. 2) Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor. Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete		

		them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face. 3) Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments. In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments , students should: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible; The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.
オフィスアワー		In Ian Warner's office - Room 133 Mondays - N/A Tuesdays - 3, 4, 5, 6 Wednesdays - 3, 4, 5, 6 Thursdays - 1, 2, 3, 4, 5, 6 Fridays - Periods 1, 2, 3, 4, 5, 6 * = Unless at staff meetings Students can also e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp Lunch-time meetings - and meetings after 6:20pm - are also possible.
授業計画		担当者
第 1 回	U-01 (Main Text, etc)	Warner
第 2 回	U-02 (Main Text, etc)	Warner
第 3 回	U-03 (Main Text, etc)	Warner
第 4 回	U-04 (Main Text, etc)	Warner
第 5 回	U-05 (Main Text, etc)	Warner
第 6 回	U-06 (Main Text, etc)	Warner
第 7 回	U-07 (Main Text, etc)	Warner
第 8 回	U-08 (Main Text, etc)	Warner
第 9 回	U-09 (Main Text, etc)	Warner
第 1 0 回	U-10 (Main Text, etc)	Warner
第 1 1 回	U-11 (Main Text, etc)	Warner
第 1 2 回	U-12 (Main Text, etc)	Warner

第 1 3 回	U-13 (Main Text, etc)	Warner
第 1 4 回	U-14 (Main Text, etc)	Warner
第 1 5 回	U-15 (Main Text, etc)	Warner
第 1 6 回	Final EXAM. TEST	Warner
教科書		
教・書籍名 1	Reading Pass - Intro (2013)	教・出版社名 1 Nan'un-Do Co., Ltd.
教・著者名 1	Andrew E. Bennett	教・I S B N 1 ISBN-10: 4523177201 ISBN-13: 978-4-523-17720-3
教・書籍名 2	Suitably challenging English language texts (including news reports and journalistic articles) sourced from books and major Anglo-American, European, Japanese and East-Asian news agencies, newspapers and news and current affairs magazines - will also be utilized on a weekly basis.	教・出版社名2
教・著者名2		教・I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	Reader's Forum: Preface Simply English An Introduction to Today's Key Concepts (2017)	参・出版社名 1 Nan'un-Do Co., Ltd.
参・著者名 1	Jim Knudsen	参・I S B N 1 ISBN: 9784523178293
参・書籍名 2		参・出版社名2
参・著者名2		参・I S B N 2

授業科目名	英語ライティングⅠ（Aクラス）			担当者	ジョン・フォーセット		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	FS-FS-1-305		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	○	DP3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／11. 住み続けられるまちづくりを／15. 陸の豊かさを守ろう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Writing is good because we create language that we can use for speaking also. We can learn about our grammar and practice using new words. In this we will try to communicate our ideas and opinions faster. We also will try to learn 500 new words.						
授業概要	In each class there will be a vocabulary quiz and practice. We will discuss and research topics we think are interesting. We will read model writing and then try to write our own texts.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	Final exam 40% Course work 60%: Quizzes, written work, and cooperation with other students will all receive points.						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	Papers will be returned with general and particular comments and suggestions. Students requiring further feedback are strongly encouraged to consult with the lecturer about their work. The teacher will speak 100% native English!						
履修条件・注意事項	In order to practice it is good to write a lot. Don't try to write perfect English. Try to write YOUR English. The teacher will speak 100% native English!						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	Vocabulary is extremely important and is vital to every aspect of your learning. As soon as possible design a portable vocabulary study program that you can access quickly and easily whether in public or private spaces.						
オフィスアワー	1700-1800 Room 134; Except on Fridays when I am usually not on campus.						
授業計画						担当者	
第1回	about me					Fawsitt	
第2回	my friends					Fawsitt	
第3回	my home town					Fawsitt	
第4回	my school					Fawsitt	
第5回	my dream					Fawsitt	
第6回	food					Fawsitt	
第7回	sport					Fawsitt	
第8回	jobs					Fawsitt	

第 9 回	nature	Fawsitt
第 1 0 回	travel	Fawsitt
第 1 1 回	festivals	Fawsitt
第 1 2 回	health	Fawsitt
第 1 3 回	mistakes	Fawsitt
第 1 4 回	regrets	Fawsitt
第 1 5 回	next term	Fawsitt
第 1 6 回	exam	Fawsitt
教科書		
教・書籍名 1	English Writing Manual	教・出版社名 1 BTB Press
教・著者名 1	David Baker	教・ I S B N 1 9.78491E+12
教・書籍名 2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ I S B N 2

授業科目名	英語ライティングⅠ（Ｂクラス）			担当者	ジョン・フォーセット		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	FS-FS-1-305		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	△	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／ 5. ジェンダー平等を実現しよう／ 11. 住み続けられるまちづくりを／ 15. 陸の豊かさを守ろう／ 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Writing is good because we create language that we can use for speaking also. We can learn about our grammar and practice using new words. In this we will try to communicate our ideas and opinions faster. We also will try to learn 500 new words.						
授業概要	In each class there will be a vocabulary quiz and practice. We will discuss and research topics we think are interesting. We will read model writing and then try to write our own texts.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	Final exam 40% Course work 60%: Quizzes, written work, and cooperation with other students will all receive points.						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	Papers will be returned with general and particular comments and suggestions. Students requiring further feedback are strongly encouraged to consult with the lecturer about their work. The teacher will speak 100% native English!						
履修条件・注意事項	In order to practice it is good to write a lot. Don't try to write perfect English. Try to write YOUR English. The teacher will speak 100% native English!						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	Vocabulary is extremely important and is vital to every aspect of your learning. As soon as possible design a portable vocabulary study program that you can access quickly and easily whether in public or private spaces.						
オフィスアワー	1700-1800 Room 134; Except on Fridays when I am usually not on campus.						
授業計画						担当者	
第1回	about me					Fawsitt	
第2回	my friends					Fawsitt	
第3回	my home town					Fawsitt	
第4回	my school					Fawsitt	
第5回	my dream					Fawsitt	
第6回	food					Fawsitt	
第7回	sport					Fawsitt	
第8回	jobs					Fawsitt	

第 9 回	nature	Fawsitt
第 1 0 回	travel	Fawsitt
第 1 1 回	festivals	Fawsitt
第 1 2 回	health	Fawsitt
第 1 3 回	mistakes	Fawsitt
第 1 4 回	regrets	Fawsitt
第 1 5 回	next term	Fawsitt
第 1 6 回	exam	Fawsitt
教科書		
教・書籍名 1	English Writing Manual	教・出版社名 1 BTB Press
教・著者名 1	David Baker	教・ I S B N 1 9.78491E+12
教・書籍名 2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ I S B N 2

授業科目名	英語ライティングⅡ（Ａクラス）			担当者	カルロス・ガルシア		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-306		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	This course will help students develop basic English writing skills, understand writing as a process, and build a foundation for becoming an independent writer. Students will learn paragraph structure, as well as how to express personal ideas clearly. We will have textbook, workbook, free writing, and online practice to help give students a variety of writing practice.						
授業概要	We will do a variety of exercises and practice that help students focus on and improve their writing skills. Students will be expected to write at a higher level than the previous semester, but the ability to communicate clearly is preferable to making perfect grammatical sentences. This class will focus on writing, but some activities and exercises will integrate other skills (reading, listening, and speaking) to help students' overall improvement.						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	Students will be evaluated by class participation, homework, quizzes, and exams. 1) 60%: assignments, homework, participation. 2) 40%: Final Exam						
ルーブリック評価	n/a						
課題や試験のフィードバック方法	n/a						
履修条件・注意事項	Students should arrive on time, do all assignments in class, and submit all homework on time. Writing activities and homework will be a combination of hand written and typed. We will also do some practice in English typing skills, so practicing on your own will be beneficial. This course is conducted in English.						
実務経験のある教員	該当しない	内容	n/a				
事前学習・事後学習とその時間	It will be helpful for students to look through the book before each class. To get a better understanding of the material and vocabulary, it is recommended that students study and practice the vocabulary taught in each unit. Homework, digital book exercises, and in class practice provide valuable practice, so students are encouraged to do all of these things to help improve their skills. Students are encouraged to ask questions in class, or visit office hours to get help if needed.						
オフィスアワー	Wednesday 9:00 am to 11:00 am, or by appointment.						
授業計画						担当者	
第1回	1) Paragraph formatting					Garcia	
第2回	2) Sentence structure					Garcia	
第3回	3) Nouns, subject pronouns					Garcia	
第4回	4) Topic sentences					Garcia	
第5回	5) Writing complete sentences					Garcia	
第6回	6) Phrasal verbs					Garcia	
第7回	7) Prepositions of time, capitalization					Garcia	

第 8 回	8) Supporting sentences	Garcia
第 9 回	9) Present progressive / simple present tense	Garcia
第 1 0 回	10) Simple and compound sentences	Garcia
第 1 1 回	11) Concluding sentences	Garcia
第 1 2 回	12) Sentence fragments	Garcia
第 1 3 回	13) Adverbs of probability	Garcia
第 1 4 回	14) Sentences with future time	Garcia
第 1 5 回	15) Run-on sentences	Garcia
第 1 6 回	16) Final Exam	Garcia

教科書

教・書籍名 1	Longman Academic Writing Series 1	教・出版社名 1	Pearson
教・著者名 1	Linda Butler	教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	英語ライティングⅡ（Ｂクラス）			担当者	カルロス・ガルシア		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-306		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	This course will help students develop basic English writing skills, understand writing as a process, and build a foundation for becoming an independent writer. Students will learn paragraph structure, as well as how to express personal ideas clearly. We will have textbook, workbook, free writing, and online practice to help give students a variety of writing practice.						
授業概要	We will do a variety of exercises and practice that help students focus on and improve their writing skills. Students will be expected to write at a higher level than the previous semester, but the ability to communicate clearly is preferable to making perfect grammatical sentences. This class will focus on writing, but some activities and exercises will integrate other skills (reading, listening, and speaking) to help students' overall improvement.						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	Students will be evaluated by class participation, homework, quizzes, and exams. 1) 60%: assignments, homework, participation. 2) 40%: Final Exam						
ルーブリック評価	n/a						
課題や試験のフィードバック方法	Comments on assignments and in-lecture comments.						
履修条件・注意事項	Students should arrive on time, do all assignments in class, and submit all homework on time. Writing activities and homework will be a combination of hand written and typed. We will also do some practice in English typing skills, so practicing on your own will be beneficial. This course is conducted in English.						
実務経験のある教員	該当しない	内容	n/a				
事前学習・事後学習とその時間	It will be helpful for students to look through the book before each class. To get a better understanding of the material and vocabulary, it is recommended that students study and practice the vocabulary taught in each unit. Homework, digital book exercises, and in class practice provide valuable practice, so students are encouraged to do all of these things to help improve their skills. Students are encouraged to ask questions in class, or visit office hours to get help if needed.						
オフィスアワー	Wednesday 9:00 am to 11:00 am, or by appointment.						
授業計画						担当者	
第1回	1) Paragraph formatting					Garcia	
第2回	2) Sentence structure					Garcia	
第3回	3) Nouns, subject pronouns					Garcia	
第4回	4) Topic sentences					Garcia	
第5回	5) Writing complete sentences					Garcia	
第6回	6) Phrasal verbs					Garcia	
第7回	7) Prepositions of time, capitalization					Garcia	

第 8 回	8) Supporting sentences	Garcia
第 9 回	9) Present progressive / simple present tense	Garcia
第 1 0 回	10) Simple and compound sentences	Garcia
第 1 1 回	11) Concluding sentences	Garcia
第 1 2 回	12) Sentence fragments	Garcia
第 1 3 回	13) Adverbs of probability	Garcia
第 1 4 回	14) Sentences with future time	Garcia
第 1 5 回	15) Run-on sentences	Garcia
第 1 6 回	16) Final Exam	Garcia

教科書

教・書籍名 1	Longman Academic Writing Series 1	教・出版社名 1	Pearson
教・著者名 1	Linda Butler	教・I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・I S B N 2	

授業科目名	英語オーラルコミュニケーションⅠ（Ａクラス）			担当者	イアン・ウォーナー		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-309		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Theme: Improving student ability to participate effectively, creatively and confidently in authentic, real-life, everyday English language conversation. Target: This course is intended to improve student English speaking ability. The objective of this course is to increase the capacity and willingness of students to express themselves in a reasonably articulate, correct and comprehensive, yet lucid and succinct manner. By the end of the course, students should be better able to communicate effectively and carry on general conversation about common topics, above all those familiar to them. This course should help students to attain up to and / or beyond CEFR A2 level competency.						
授業概要	Throughout each weekly lesson, students will do activities and receive instruction, training and advice intended to assist and guide them in their efforts to expand and enhance their English language speaking skills and articulateness. Students will have opportunity to i) practice and thereby improve existing key skills; ii) learn various new key and / or important skills; and iii) expand vocabulary knowledge in order to raise their overall ability to understand, enter into and maintain authentic, real-life, everyday English language conversation. Students will necessarily study numerous topics including pronunciation, intonation and diction etc and be encouraged and advised at every stage about how best to express themselves clearly, efficiently and confidently. Whenever necessary therefore, major emphasis will be placed on overcoming shyness, reticence and any other presently constraining deficiencies / shortcomings that presently impede or prevent oral communication competency.						
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview) [Students will be continuously appraised regarding coursework.] Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	I communicate with - and provide feedback to - all students in the following ways. Firstly, I return marked, commented on and corrected (printed and / or digital) course-work and homework worksheets and question papers to students. Secondly, I provide students with Correct / Model Answer (printed and / or digital) handout documents. Thirdly, I brief students accordingly, in writing, as and when necessary, via KIU e-mail. Fourthly, I brief students, verbally, as and when necessary / whenever I deem it to be necessary or preferable before						

	during and after lessons. In the case of student's Oral Communication / Speaking and Phonetics (pronouncing practice) sound-audio recordings (that are submitted to me via KIU e-mail) I supply detailed assessments as and when I think it necessary and likely to be beneficial i.e. read, comprehended, heeded / acted upon, and have a positive, rather than negative, effect / impact on the student(s) concerned. Fifthly, I additionally regularly encourage all students to liaise with me verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, I also regularly encourage and urge all students to contact me via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime and to - especially - to physically visit my office, as and whenever they see fit / think best and want to.
履修条件・注意事項	This course will be conducted solely in English. Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate. Students should be mature, adequately / sufficiently interested and engaged, and 'PROACTIVE' at all times, and therefore: 01) be - and remain - alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) come to each lesson ready and eager to speak / communicate with their teacher and classmates in English; 03) come to each lesson ready and eager to listen to their teacher(s) and classmates in English; 04) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 05) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as much and frequently as possible; 06) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, ideally and / or often at some length; 07) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 08) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 09) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 10) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 11) study (relevant) textbook pages - and all teacher-distributed materials - as much as possible before, during and after each lesson; 12) strive to finish / complete and submit all required classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well and 'on time', before specified deadlines; 13) finish / submit all required classroom and homework assignments 'on time', before specified deadlines; 14) aim to fully understand - and 'master' - everything that their teacher tells them, especially those things that they are told they will likely to be tested on during (end-of-term) examinations, etc; 15) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 16) communicate with - and request help from - their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 17) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 18) tell the teacher immediately if they think that any textbook or lesson-related activity is / was too easy or

	difficult; 19) communicate with their teacher frequently, especially if they feel confused about a lesson-related topic; 20) request help from their teacher whenever they think that they would benefit from such; 21) generally try to maximize the amount of time that they practice English language oral communication with their teacher and one another; 22) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times. 23) do an adequate / sufficient amount of revision prior to all tests and - above all - the final, end-of-term exam.		
実務経験のある教員	該当する	内容	I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.
事前学習・事後学習とその時間	1) Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor. 2) Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor. Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face. 3) Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments. In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments , students should: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible; The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.		

オフィスアワー	In Ian Warner's office - Room 133 You can contact Ian WARNER by e-mail via: escadero@gmail.com or Microsoft TEAMS. Tell Ian WARNER if you prefer to use FaceTime, Skype or LINE. If you want / need to talk to Ian WARNER - face-to-face - for a long time, go to Room 133. You can talk with Ian WARNER whenever you see him in Room 133 on Tuesdays, Wednesdays and Thursdays. The best time to talk to Ian WARNER in Room 133 is on Wednesdays at:

授業計画		担当者
第 1 回	Unit 01 Family	Warner
第 2 回	Unit 02 Friends	Warner
第 3 回	Unit 03 Culture	Warner
第 4 回	Unit 05 Sport, Hobbies	Warner
第 5 回	Unit 06 Work	Warner
第 6 回	Unit 07 Food	Warner
第 7 回	Unit 09 Health	Warner
第 8 回	Unit 10 Movies	Warner
第 9 回	Unit 11 Traveling	Warner
第 1 0 回	Unit 12 Music	Warner
第 1 1 回	Unit 14 Shopping	Warner
第 1 2 回	Unit 15 Internet	Warner
第 1 3 回	Unit 16 Weather	Warner
第 1 4 回	Unit 17 Feelings	Warner
第 1 5 回	Unit 18 The Future	Warner
第 1 6 回	Final EXAM. TEST	Warner

教科書

教・書籍名 1	English Listening and Speaking Patterns 1 (2017)	教・出版社名 1	Nan'un-do
教・著者名 1	Andrew E. Bennett	教・ I S B N 1	ISBN-10: 4523178429 ISBN-13: 978-4523178422
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1	Collins Easy Learning English Conversation: Book 1 (2015)	参・出版社名 1	Harper Collins Publishers
参・著者名 1		参・ I S B N 1	ISBN-10: 0008101744 ISBN-13: 978-0008101749
参・書籍名 2	Talk Time 2: Everyday English Conversation (2006)	参・出版社名 2	Oxford University Press
			ISBN-10: 0194392910

参・著者名2	Susan Stempleski	参・I S B N 2	ISBN-13: 978-0194392914
--------	------------------	-------------	-------------------------

	during and after lessons. In the case of student's Oral Communication / Speaking and Phonetics (pronouncing practice) sound-audio recordings (that are submitted to me via KIU e-mail) I supply detailed assessments as and when I think it necessary and likely to be beneficial i.e. read, comprehended, heeded / acted upon, and have a positive, rather than negative, effect / impact on the student(s) concerned. Fifthly, I additionally regularly encourage all students to liaise with me verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, I also regularly encourage and urge all students to contact me via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime and to - especially - to physically visit my office, as and whenever they see fit / think best and want to.
履修条件・注意事項	This course will be conducted solely in English. Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate. Students should be mature, adequately / sufficiently interested and engaged, and 'PROACTIVE' at all times, and therefore: 01) be - and remain - alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) come to each lesson ready and eager to speak / communicate with their teacher and classmates in English; 03) come to each lesson ready and eager to listen to their teacher(s) and classmates in English; 04) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 05) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as much and frequently as possible; 06) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, ideally and / or often at some length; 07) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 08) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 09) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 10) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 11) study (relevant) textbook pages - and all teacher-distributed materials - as much as possible before, during and after each lesson; 12) strive to finish / complete and submit all required classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well and 'on time', before specified deadlines; 13) finish / submit all required classroom and homework assignments 'on time', before specified deadlines; 14) aim to fully understand - and 'master' - everything that their teacher tells them, especially those things that they are told they will likely to be tested on during (end-of-term) examinations, etc; 15) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 16) communicate with - and request help from - their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 17) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 18) tell the teacher immediately if they think that any textbook or lesson-related activity is / was too easy or

	difficult; 19) communicate with their teacher frequently, especially if they feel confused about a lesson-related topic; 20) request help from their teacher whenever they think that they would benefit from such; 21) generally try to maximize the amount of time that they practice English language oral communication with their teacher and one another; 22) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times. 23) do an adequate / sufficient amount of revision prior to all tests and - above all - the final, end-of-term exam.		
実務経験のある教員	該当する	内容	I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.
事前学習・事後学習とその時間	1) Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor. 2) Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor. Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face. 3) Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments. In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments , students should: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible; The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.		

オフィスアワー	In Ian Warner's office - Room 133 You can contact Ian WARNER by e-mail via: escadero@gmail.com or Microsoft TEAMS. Tell Ian WARNER if you prefer to use FaceTime, Skype or LINE. If you want / need to talk to Ian WARNER - face-to-face - for a long time, go to Room 133. You can talk with Ian WARNER whenever you see him in Room 133 on Tuesdays, Wednesdays and Thursdays. The best time to talk to Ian WARNER in Room 133 is on Wednesdays at:
授業計画	
第 1 回	Unit 01 Family
第 2 回	Unit 02 Friends
第 3 回	Unit 03 Culture
第 4 回	Unit 05 Sport, Hobbies
第 5 回	Unit 06 Work
第 6 回	Unit 07 Food
第 7 回	Unit 09 Health
第 8 回	Unit 10 Movies
第 9 回	Unit 11 Traveling
第 1 0 回	Unit 12 Music
第 1 1 回	Unit 14 Shopping
第 1 2 回	Unit 15 Internet
第 1 3 回	Unit 16 Weather
第 1 4 回	Unit 17 Feelings
第 1 5 回	Unit 18 The Future
第 1 6 回	Final EXAM. TEST
教科書	
教・書籍名 1	English Listening and Speaking Patterns 1 (2017)
教・著者名 1	Andrew E. Bennett
教・書籍名 2	
教・著者名 2	
参考書	
参・書籍名 1	Collins Easy Learning English Conversation: Book 1 (2015)
参・著者名 1	
参・書籍名 2	Talk Time 2: Everyday English Conversation (2006)

参・著者名2	Susan Stempleski	参・I S B N 2	ISBN-10: 0194392910 ISBN-13: 978- 0194392914
--------	------------------	-------------	--

授業科目名	英語オーラルコミュニケーションⅡ（Aクラス）			担当者	カルロス・ガルシア		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-310		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	The goal of this class will be to develop confidence with conversation skills. Communicating with confidence means expressing yourself accurately, fluently, and appropriately. Students will do various speaking tasks in class to maximize speaking opportunities.						
授業概要	Students will participate in a variety of speaking activities and assignments that will help improve speaking speed, understandability, and fluidity. Worksheets, videos, online practice, websites, computer apps, games, and partner activities will all serve to give students plenty of practice. Other skills include, but are not limited to, pronunciation, intonation, rhythm, stress, and speed. Emphasis will be placed on overcoming shyness and hesitation to communicate clearly.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	Students will be evaluated by class participation, assignments, and activities. 1) 80%: assignments, activities, participation. 2) 20%: Final Exam						
ルーブリック評価	n/a						
課題や試験のフィードバック方法	Oral feedback						
履修条件・注意事項	Students are expected to be ready and willing to speak and communicate in English. Because there will be a lot of pair work in this class, students are expected to participate and give their best effort at all times. Unwillingness to participate will affect other students. This course is conducted in English.						
実務経験のある教員	該当しない	内容	n/a				
事前学習・事後学習とその時間	Speaking is hard to “study”, but you can practice by speaking as much as possible in class, and stop by office hours of any native teacher a few times a week to practice speaking. The more you speak, the better you will become.						
オフィスアワー	Wednesday 9:00 am to 11:00 am, or by appointment.						
授業計画						担当者	
第1回	1) Formal and informal language					Garcia	
第2回	2) Reduction of ‘to’					Garcia	
第3回	3) Asking for repetition					Garcia	
第4回	4) Intonation in question tags					Garcia	
第5回	5) Expressing preferences					Garcia	
第6回	6) Contrastive stress in returning questions					Garcia	
第7回	7) Talking about time					Garcia	
第8回	8) asking/giving opinions					Garcia	
第9回	9) Final ‘s’ sounds					Garcia	
第10回	10) Personality traits					Garcia	
第11回	11) giving/receiving compliments					Garcia	
第12回	12) Listen for descriptions					Garcia	

第 1 3 回	13) Reduction of 'do you'	Garcia	
第 1 4 回	14) Asking follow-up questions	Garcia	
第 1 5 回	15) Sequence markers	Garcia	
第 1 6 回	16) Final Exam	Garcia	
教科書			
教・書籍名 1	No Book	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	英語オーラルコミュニケーションⅡ（Ｂクラス）			担当者	カルロス・ガルシア		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-310		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	The goal of this class will be to develop confidence with conversation skills. Communicating with confidence means expressing yourself accurately, fluently, and appropriately. Students will do various speaking tasks in class to maximize speaking opportunities.						
授業概要	Students will participate in a variety of speaking activities and assignments that will help improve speaking speed, understandability, and fluidity. Worksheets, videos, online practice, websites, computer apps, games, and partner activities will all serve to give students plenty of practice. Other skills include, but are not limited to, pronunciation, intonation, rhythm, stress, and speed. Emphasis will be placed on overcoming shyness and hesitation to communicate clearly.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	Students will be evaluated by class participation, assignments, and activities. 1) 80%: assignments, activities, participation. 2) 20%: Final Exam						
ルーブリック評価	n/a						
課題や試験のフィードバック方法	Oral feedback						
履修条件・注意事項	Students are expected to be ready and willing to speak and communicate in English. Because there will be a lot of pair work in this class, students are expected to participate and give their best effort at all times. Unwillingness to participate will affect other students. This course is conducted in English.						
実務経験のある教員	該当しない	内容	n/a				
事前学習・事後学習とその時間	Speaking is hard to “study”, but you can practice by speaking as much as possible in class, and stop by office hours of any native teacher a few times a week to practice speaking. The more you speak, the better you will become.						
オフィスアワー	Wednesday 9:00 am to 11:00 am, or by appointment.						
授業計画						担当者	
第1回	1) Formal and informal language					Garcia	
第2回	2) Reduction of ‘to’					Garcia	
第3回	3) Asking for repetition					Garcia	
第4回	4) Intonation in question tags					Garcia	
第5回	5) Expressing preferences					Garcia	
第6回	6) Contrastive stress in returning questions					Garcia	
第7回	7) Talking about time					Garcia	
第8回	8) asking/giving opinions					Garcia	
第9回	9) Final ‘s’ sounds					Garcia	
第10回	10) Personality traits					Garcia	
第11回	11) giving/receiving compliments					Garcia	
第12回	12) Listen for descriptions					Garcia	

第 1 3 回	13) Reduction of 'do you'	Garcia	
第 1 4 回	14) Asking follow-up questions	Garcia	
第 1 5 回	15) Sequence markers	Garcia	
第 1 6 回	16) Final Exam	Garcia	
教科書			
教・書籍名 1	No Book	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	TOEICストラテジーⅠ（Aクラス）			担当者	金沢 真弓		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-407		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：英語力の向上とTOEICの問題の解き方に精通する 到達目標：TOEIC400 - 500						
授業概要	TOEIC問題形式を使い、パート別に問題形式に慣れることから始める。問題の特徴とその解き方を学び、練習問題を重ねていく。テストに出る頻出単語や英語表現を学習し、シャドーイングなどでリスニングのスキルアップ、速読の練習などを行う。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	定期試験（50％）、中間テスト（30％）、小テスト（20％）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テストは、毎週実施し回答を提示する。						
履修条件・注意事項	学内実施のTOEIC IP受験 CALLシステム活用						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	テキストの音読、単語の学習						
オフィスアワー	木曜日3時限目(13:30-15:00)						
授業計画						担当者	
第1回	リスニングー写真の描写 リーディングー表・用紙					金沢真弓	
第2回	リスニングー疑問文 リーディングー広告					金沢真弓	
第3回	リスニングー日常場面での会話 リーディングー品詞					金沢真弓	
第4回	リスニングーアナウンス リーディングー動詞					金沢真弓	
第5回	リスニングー物の状態と位置 リーディングーチャット					金沢真弓	
第6回	リスニングー基本構文 リーディングー手紙					金沢真弓	
第7回	リスニングー電話での会話 リーディングー代名詞・関係代名詞					金沢真弓	
第8回	中間テスト					金沢真弓	
第9回	リスニングーラジオ放送 リーディングー接続し・前置詞					金沢真弓	
第10回	リスニングーYES・NO 疑問文 リーディングーダブルパッセージ					金沢真弓	
第11回	リスニングーオフィスでの会話 リーディングー復習					金沢真弓	

第 1 2 回	リスニングー留守番電話 リーディングートリプルパッセージ	金沢真弓	
第 1 3 回	リスニングーオフィスでの会話 リーディングー長文読解	金沢真弓	
第 1 4 回	リスニングーPart 1、2 の復讐 リーディングー時制・代名詞・語彙問題	金沢真弓	
第 1 5 回	リスニングートーク、スピーチの一部 リーディングーつながりことば、分の挿入	金沢真弓	
第 1 6 回	学期末試験	金沢真弓	
教科書			
教・書籍名 1	Mastery Drills for The TOEIC L&R Test All in One	教・出版社名 1	桐原書店
教・著者名 1	早川幸治	教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	TOEICストラテジーⅠ（Ｂクラス）			担当者	金沢 真弓		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-407		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	△
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	△	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：英語力の向上とTOEICの問題の解き方に精通する 到達目標：TOEIC400 - 500						
授業概要	TOEIC問題形式を使い、パート別に問題形式に慣れることから始める。問題の特徴とその解き方を学び、練習問題を重ねていく。テストに出る頻出単語や英語表現を学習し、シャドーイングなどでリスニングのスキルアップ、速読の練習などを行う。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	定期試験（50％）、中間テスト（30％）、小テスト（20％）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テストは、毎週実施し回答を提示する。						
履修条件・注意事項	学内実施のTOEIC IP受験 CALLシステム活用						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	テキストの音読、単語の学習						
オフィスアワー	木曜日3時限目(13:30-15:00)						
授業計画						担当者	
第1回	リスニングー写真の描写 リーディングー表・用紙					金沢真弓	
第2回	リスニングー疑問文 リーディングー広告					金沢真弓	
第3回	リスニングー日常場面での会話 リーディングー品詞					金沢真弓	
第4回	リスニングーアナウンス リーディングー動詞					金沢真弓	
第5回	リスニングー物の状態と位置 リーディングーチャット					金沢真弓	
第6回	リスニングー基本構文 リーディングー手紙					金沢真弓	
第7回	リスニングー電話での会話 リーディングー代名詞・関係代名詞					金沢真弓	
第8回	中間テスト					金沢真弓	
第9回	リスニングーラジオ放送 リーディングー接続し・前置詞					金沢真弓	
第10回	リスニングーYES・NO 疑問文 リーディングーダブルパッセージ					金沢真弓	
第11回	リスニングーオフィスでの会話 リーディングー復習					金沢真弓	

第 1 2 回	リスニングー留守番電話 リーディングートリプルパッセージ	金沢真弓	
第 1 3 回	リスニングーオフィスでの会話 リーディングー長文読解	金沢真弓	
第 1 4 回	リスニングーPart 1、2 の復讐 リーディングー時制・代名詞・語彙問題	金沢真弓	
第 1 5 回	リスニングートーク、スピーチの一部 リーディングーつながりことば、分の挿入	金沢真弓	
第 1 6 回	学期末試験	金沢真弓	
教科書			
教・書籍名 1	Mastery Drills for The TOEIC L&R Test All in One	教・出版社名 1	桐原書店
教・著者名 1	早川幸治	教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	異文化理解			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-501		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	5. ジェンダー平等を実現しよう／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	テーマ：異文化を受信し、日本文化を発信することで、多文化共生の生き方をさぐる。 到達目標：人、モノ、おカネ、情報が自由に世界を飛び回る時代。日本と異なる文化への理解が避けて通れない。同時に日本的なものを世界に伝えないと日本は世界の中で埋没する。自分自身の考えを常に国際社会の中でとらえ、判断できるようにすることを到達目標とする。その必要なスキルを獲得する。						
授業概要	グローバル化によって世界はフラットになったと言われる。しかし、一方では各地の地域紛争、民族間の対立は深まるばかりだ。異文化理解がいかに難しいか、そして大切な事例をあげて研究する。欧米文化の普遍性、中国の価値観、イスラムとの共生などについて、グループ討論、各自の意見のプレゼンテーションなどを交えながら、参加型学習で進める。 15回の授業において、コミュニケーションストラテジー、待遇・敬意表現、言語・非言語行動、異文化間教育、異文化コミュニケーション、コミュニケーション教育に関して概念を講義すると共に、参加型学習で理解を深める。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	授業への参加度（30％）、プレゼンテーション（30％）、最終レポートの成績（40％）による総合評価						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	個人発表、グループ発表の後に、講評を行いフィードバックする。						
履修条件・注意事項	ワールドニュースを必ず観ること。毎週、世界で起こっていることに関して、各自発表する。 本科目は日本語教員養成コースの必修科目であり、本コースの取得を目指す者は必ず履修しなければならない。						
実務経験のある教員	該当する	内容	本講義の担当教員は、米国に通算2ヶ年留学し、国際協力機構JICAで長年勤務し、その間、コートジボアール日本大使館、JICAケニア事務所、フランスにある国際機関OECDに勤務した経験があるほか、多くの外国要人の接遇経験もある。そのため、多くの異文化経験を体験している。 これらの経験は、講義、ディスカッションなどの際、共有することにより、内容をリアリティあるものとする。				
事前学習・事後学習とその時間	各週の国際ニュースについて、ウォッチする。 参考図書などを読んで特定テーマに関し調べることなど、授業1回当たり、事前学習1時間、復習1時間の自己学修を必要とする。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室において、金曜日4限目をオフィスアワーとします。						
授業計画						担当者	
第1回	異文化を理解する					畝	
第2回	文化とは（その1）					畝	
第3回	文化とは（その2）					畝	
第4回	異文化適応					畝	
第5回	異文化シミュレーション					外部講師、畝	
第6回	違いに気づく					畝	
第7回	異文化の認識					畝	

第 8 回	差別を考える	畝
第 9 回	異文化トレーニング	外部講師、畝
第 1 0 回	世界の価値観	畝
第 1 1 回	異文化受容	畝
第 1 2 回	自分を知る	畝
第 1 3 回	非言語コミュニケーション	畝
第 1 4 回	アサーティブ・コミュニケーション	畝
第 1 5 回	多文化共生社会の実現に向けて	畝
第 1 6 回	最終試験（レポート）	畝
教科書		
教・書籍名 1	資料を作成し、学生に配布	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	①異文化理解 ②文明の衝突 ③異文化は面白い	参・出版社名 1 ①岩波新書 ②集英社 ③講談社
参・著者名 1	①青木保著 ②サミュエル・ハンチントン著 ③選書メチエ編集部編	参・ I S B N 1 ①ISBN4-00-430740-6 ②ISBN4-08-773292-4 ③ISBN4-06-258227-9
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	スタディー・アブロード事前指導			担当者	金沢 真弓、畝 伊智朗、池上 真由美		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-805		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も 						
到達目標	2年次より開講の「スタディー・アブロードⅠ～Ⅳ」に向けての事前準備を行う。 実際に海外留学、インターンシップ、ボランティア、に参加するため必要となる基礎知識、情報、技能を習得する。 そして、十分に留学先・国状、大学や受け入れ先機関を理解し、積極的に留学計画をたて、有意義な留学体験ができるようになる。						
授業概要	留学体験のある本学卒業生、在学生の体験談を聞き、アドバイスをしてもらう。それによって、留学の意義、魅力を理解し、また、リスク管理を可能にし、安心して出かけられるようになる。また、必要書類、実務的な手続き、海外でのマナー等について理解を深め、留学に備える。 また、異文化理解のための講義、語学研修、リスク管理のシミュレーション、ワークショップによる課題発見、自己理解、留学計画書の作成、報告書の書き方等を習得する。各自の関心のある国に関して、自ら情報収集し、クラスで発表する。事前準備を徹底し、楽しんで留学に出かけられる体制を整える。 その後留学先を決定し、スタディー・アブロードⅠⅡにつなげるべく個人対応を行う。 授業は一方的な講義が中心ではなく、学生自身が能動的な活動を求める参加型学習を織り込む。アクティブ・ラーニング（AL）を組み込んでいる。授業回により異なるが、グループ・ディスカッション、発表、リサーチ、プロファイル作成など多種多様なALを活用し、事前準備の深化を図る。 交換留学をするためには、TOEIC450点以上が求められるため、留学前にTOEIC450点をクリアすることを目標に掲げている。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	積極的な授業参加態度(20%)、授業記録(20%)、受講生のプレゼンテーション(30%)、留学計画書（30%）により評価を行う						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎授業のポートフォリオに、授業、他学生の発表・作品への感想、意見、授業の所感を書いてもらっている。留学準備計画書の案を提出してもらったり、My Profileを作成し提出してもらっている。ポートフォリオに関しては、毎回、担当教員がコメントを書き、フィードバックを行う。My Profileや留学計画の発表に関しては、学生からの質問、コメントを勧奨している。						
履修条件・注意事項	・語学や、異文化理解、現地での計画を立てられるように、自分でも積極的に情報収集する。そして自分の調べたこと、留学、インターンシップ、ボランティア計画について発表する。 ・毎回ポートフォリオ用紙に記入し提出し、留学前ポートフォリオを完成させていく。 ・授業中しっかり聞き理解を深め、書き留め、留学前ポートフォリオ完成を目指す。						
実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員3名は、学生時代、米国への長期留学を経験しているのみならず、その後も、海外からの留学生、研修生、研修団などの受け入れ経験が豊富である。 これらの経験を、講義並びにワークをする際、情報共有し、内容にリアリティを持たせる。 留学ガイドブックやウェブ情報からは知れないTipsを学生に共有できる。				
事前学習・事後学習とその時間	予習として60分程度かけて毎回の授業内容を確認し、それに関する情報収集をし、質問を準備しておく。 復習として、60分程度かけて毎回の内容の理解度を確認し、ポートフォリオを確認しておく。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日4限目をオフィスアワーにします。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション、受け入れ先、事前準備						池上、金沢、畝
第2回	留学ワークショップ						池上、金沢、畝

第 3 回	留学体験談と質疑応答	池上、金沢、畝
第 4 回	職業調べ	池上、金沢、畝
第 5 回	留学フェア	池上、金沢、畝
第 6 回	語学力アップの方略	池上、金沢、畝
第 7 回	My Profile作り	池上、金沢、畝
第 8 回	留学先の決定	池上、金沢、畝
第 9 回	留学準備計画の立案・発表準備①	池上、金沢、畝
第 1 0 回	留学準備計画の立案・発表準備②	池上、金沢、畝
第 1 1 回	学生による発表①	池上、金沢、畝
第 1 2 回	学生による発表②	池上、金沢、畝
第 1 3 回	学生による発表③	池上、金沢、畝
第 1 4 回	学生による発表④	池上、金沢、畝
第 1 5 回	学生による発表⑤	池上、金沢、畝
第 1 6 回	リスクマネジメント、2 年生に向けて	池上、金沢、畝

教科書

教・書籍名 1	適宜印刷物を配付 初回授業で配付する「ポートフォリオファイル」を毎回必ず持参のこと。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ				担当者	高木 秀明			
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年				ナンバリング	FS-FS-1-901			
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	30		授業形態	演習
年次	1年		開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目									
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用	○	DP3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力			
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎		
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 								
到達目標	外国学科の基礎演習Ⅰでは、大学での学びに必要な基礎力、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。本演習では、講義や人の意見を聞く（聞く力）、本を読む（読む力）自分の意見を整理して話す（話す力）、書く（書く力）、の4つの力を習得する。また知的好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を身につけることができる。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を学ぶと同時に、大学教師や仲間との接し方も学ぶ。								
授業概要	本演習では、まず、「大学での学び」「教養力」とは何かなど、大学での学ぶ姿勢を習得する。また、就職活動に向けてどのような対策が必要なのかについても学ぶ。「聞く」「読む」「話す」「書く」の4つの力は大学生として大切な能力であり、ある程度訓練が必要である。本演習を通して、講義の聴き方とノートの取り方、図書館と利用法、読書の仕方、情報の集め方、レポートの書き方などを心得る。またディスカッションやプレゼンテーションを通して、相手の意見に耳を傾け、自分の意見を整理し話すことも訓練する。基礎演習Ⅰはその入門編と位置づける。								
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション								
評価方法と割合	「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60%）と、積極的・能動的に受講する姿勢やレポート課題の内容（40%）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。								
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf								
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。								
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅰは、皆さんにとって「割り当てられた」科目ですから、担当の先生を自分で選んだわけではありません。ひとまず高校までのクラス担任のよう適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。								
実務経験のある教員	該当しない	内容							
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。								
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週火曜日4限をオフィスアワーとする。								
授業計画							担当者		
第1回	基礎演習Ⅰの概説						高木		
第2回	学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）						高木		
第3回	大学で学ぶこと・教養力						高木		
第4回	就職対策・キャリア教育について（合同）						高木		
第5回	英語学習方法と英語資格（合同）						金沢		
第6回	中間ふりかえり						高木		
第7回	キャンパスライフの心得「警察における犯罪被害者支援」（合同）						外部講師・池上		
第8回	講義の聴き方とノートの取り方						高木		
第9回	図書館の利用法と読書の仕方						高木		
第10回	情報収集の仕方						高木		
第11回	TOEIC IP練習						金沢		
第12回	レポートの書き方						高木		

第 1 3 回	発表の仕方（要旨をつくって発表する）	高木
第 1 4 回	グループディスカッション	高木
第 1 5 回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）	高木
第 1 6 回	単位認定試験	高木
教科書		
教・書籍名 1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ I S B N 2

授業科目名	基礎演習Ⅰ				担当者	大下 浩司			
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年				ナンバリング	FS-FS-1-901			
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	30		授業形態	演習
年次	1年		開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目									
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用	○	DP3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力			
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎		
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 								
到達目標	外国学科の基礎演習Ⅰでは、大学での学びに必要な基礎力、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。本演習では、講義や人の意見を聞く（聞く力）、本を読む（読む力）自分の意見を整理して話す（話す力）、書く（書く力）、の4つの力を習得する。また知的好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を身につけることができる。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を学ぶと同時に、大学教師や仲間との接し方も学ぶ。								
授業概要	本演習では、まず、「大学での学び」「教養力」とは何かなど、大学での学ぶ姿勢を習得する。また、就職活動に向けてどのような対策が必要なのかについても学ぶ。「聞く」「読む」「話す」「書く」の4つの力は大学生として大切な能力であり、ある程度訓練が必要である。本演習を通して、講義の聴き方とノートの取り方、図書館と利用法、読書の仕方、情報の集め方、レポートの書き方などを心得る。またディスカッションやプレゼンテーションを通して、相手の意見に耳を傾け、自分の意見を整理し話すことも訓練する。基礎演習Ⅰはその入門編と位置づける。								
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション								
評価方法と割合	「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60%）と、積極的・能動的に受講する姿勢やレポート課題の内容（40%）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。								
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf								
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。								
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。								
実務経験のある教員	該当しない	内容							
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。								
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日3限をオフィスアワーの時間とする。								
授業計画							担当者		
第1回	基礎演習Ⅰの概説						大下浩司		
第2回	学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）						大下浩司		
第3回	大学で学ぶこと・教養力						大下浩司		
第4回	就職対策・キャリア教育について(合同)						高木		
第5回	英語学習方法と英語資格(合同)						金沢		
第6回	中間ふりかえり						大下浩司		
第7回	キャンパスライフの心得「警察における犯罪被害者支援」(合同)						外部講師・池上		
第8回	講義の聴き方とノートの取り方						大下浩司		
第9回	図書館の利用法と読書の仕方						大下浩司		
第10回	情報収集の仕方						大下浩司		
第11回	TOEIC IP練習						金沢		
第12回	レポートの書き方						大下浩司		
第13回	発表の仕方（要旨をつくって発表する）						大下浩司		
第14回	グループディスカッション						大下浩司		

第 1 5 回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）		大下浩司
第 1 6 回	単位認定試験		大下浩司
教科書			
教・書籍名 1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	FS-FS-1-901		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／ 17. パートナリシップで目標を達成しよう  						
到達目標	外国学科の基礎演習Ⅰでは、大学での学びに必要な基礎力、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。本演習では、講義や人の意見を聞く（聞く力）、本を読む（読む力）自分の意見を整理して話す（話す力）、書く（書く力）、の4つの力を習得する。また知的好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を身につけることができる。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を学ぶと同時に、大学教師や仲間との接し方も学ぶ。						
授業概要	本演習では、まず、「大学での学び」「教養力」とは何かなど、大学での学ぶ姿勢を習得する。また、就職活動に向けてどのような対策が必要なのかについても学ぶ。「聞く」「読む」「話す」「書く」の4つの力は大学生として大切な能力であり、ある程度訓練が必要である。本演習を通して、講義の聴き方とノートの取り方、図書館と利用法、読書の仕方、情報の集め方、レポートの書き方などを心得る。またディスカッションやプレゼンテーションを通して、相手の意見に耳を傾け、自分の意見を整理し話すことも訓練する。基礎演習Ⅰはその入門編と位置づける。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60%）と、積極的・能動的に受講する姿勢やレポート課題の内容（40%）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週木曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	基礎演習Ⅰの概説					大下(朋)	
第2回	学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）					大下(朋)	
第3回	大学で学ぶこと・教養力					大下(朋)	
第4回	就職対策・キャリア教育について(合同)					高木	
第5回	英語学習方法と英語資格(合同)					金沢	
第6回	中間ふりかえり					大下(朋)	
第7回	キャンパスライフの心得「警察における犯罪被害者支援」(合同)					外部講師・池上	
第8回	講義の聴き方とノートの取り方					大下(朋)	
第9回	図書館の利用法と読書の仕方					大下(朋)	
第10回	情報収集の仕方					大下(朋)	
第11回	TOEIC IP練習					金沢	
第12回	レポートの書き方					大下(朋)	
第13回	発表の仕方（要旨をつくって発表する）					大下(朋)	
第14回	グループディスカッション					大下(朋)	

第 1 5 回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）		大下(朋)
第 1 6 回	単位認定試験		大下(朋)
教科書			
教・書籍名 1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ				担当者	畝 伊智朗			
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年				ナンバリング	FS-FS-1-901			
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	30		授業形態	演習
年次	1年		開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目									
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用	○	DP3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力			
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎		
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 								
到達目標	外国学科の基礎演習Ⅰでは、大学での学びに必要な基礎力、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。本演習では、講義や人の意見を聞く（聞く力）、本を読む（読む力）自分の意見を整理して話す（話す力）、書く（書く力）、の4つの力を習得する。また知的好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を身につけることができる。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を学ぶと同時に、大学教師や仲間との接し方も学ぶ。								
授業概要	本演習では、まず、「大学での学び」「教養力」とは何かなど、大学での学ぶ姿勢を習得する。また、就職活動に向けてどのような対策が必要なのかについても学ぶ。「聞く」「読む」「話す」「書く」の4つの力は大学生として大切な能力であり、ある程度訓練が必要である。本演習を通して、講義の聴き方とノートの取り方、図書館と利用法、読書の仕方、情報の集め方、レポートの書き方などを心得る。またディスカッションやプレゼンテーションを通して、相手の意見に耳を傾け、自分の意見を整理し話すことも訓練する。基礎演習Ⅰはその入門編と位置づける。								
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション								
評価方法と割合	「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60%）と、積極的・能動的に受講する姿勢やレポート課題の内容（40%）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。								
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf								
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。								
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。								
実務経験のある教員	該当しない	内容							
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。								
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日4限をオフィスアワーとする。								
授業計画							担当者		
第1回	基礎演習Ⅰの概説						畝		
第2回	学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）						畝		
第3回	大学で学ぶこと・教養力						畝		
第4回	就職対策・キャリア教育について(合同)						高木、畝		
第5回	英語学習方法と英語資格(合同)						金沢、畝		
第6回	中間ふりかえり						畝		
第7回	キャンパスライフの心得「警察における犯罪被害者支援」(合同)						外部講師・池上、畝		
第8回	講義の聴き方とノートの取り方						畝		
第9回	図書館の利用法と読書の仕方						畝		
第10回	情報収集の仕方						畝		
第11回	TOEIC IP練習						金沢、畝		
第12回	レポートの書き方						畝		
第13回	発表の仕方（要旨をつくって発表する）						畝		
第14回	グループディスカッション						畝		

第 1 5 回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）		畝
第 1 6 回	単位認定試験		畝
教科書			
教・書籍名 1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	池上 真由美			
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	FS-FS-1-901			
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	30	授業形態	演習
年次	1年		開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目								
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用	○	DP3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力		
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目		◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 							
到達目標	外国学科の基礎演習Ⅰでは、大学での学びに必要な基礎力、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。本演習では、講義や人の意見を聞く（聞く力）、本を読む（読む力）自分の意見を整理して話す（話す力）、書く（書く力）、の4つの力を習得する。また知的好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を身につけることができる。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を学ぶと同時に、大学教師や仲間との接し方も学ぶ。							
授業概要	本演習では、まず、「大学での学び」「教養力」とは何かなど、大学での学ぶ姿勢を習得する。また、就職活動に向けてどのような対策が必要なのかについても学ぶ。「聞く」「読む」「話す」「書く」の4つの力は大学生として大切な能力であり、ある程度訓練が必要である。本演習を通して、講義の聴き方とノートの取り方、図書館と利用法、読書の仕方、情報の集め方、レポートの書き方などを心得る。またディスカッションやプレゼンテーションを通して、相手の意見に耳を傾け、自分の意見を整理し話すことも訓練する。基礎演習Ⅰはその入門編と位置づける							
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション							
評価方法と割合	「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60%）と、積極的・能動的に受講する姿勢やレポート課題の内容（40%）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。							
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。							
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。							
実務経験のある教員	該当しない	内容						
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。							
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室112にて、毎週火曜日4限をオフィスアワーの時間とする。							
授業計画							担当者	
第1回	基礎演習Ⅰの概説						池上	

第 2 回	学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）	池上
第 3 回	大学で学ぶこと・教養力	池上
第 4 回	就職対策・キャリア教育について(合同)	高木
第 5 回	英語学習方法と英語資格(合同)	金沢
第 6 回	中間ふりかえり	池上
第 7 回	キャンパスライフの心得 「警察における犯罪被害者支援」(合同)	外部講師・池上
第 8 回	講義の聴き方とノートの取り方	池上
第 9 回	図書館の利用法と読書の仕方	池上
第 1 0 回	情報収集の仕方	池上
第 1 1 回	TOEIC IP練習	金沢
第 1 2 回	レポートの書き方	池上
第 1 3 回	発表の仕方（要旨をつくって発表する）	池上
第 1 4 回	グループディスカッション	池上
第 1 5 回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）	池上
第 1 6 回	単位認定試験	池上

教科書

教・書籍名 1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	FS-FS-1-901		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／5. ジェンダー平等を実現しよう／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／13. 気候変動に具体的な対策を／16. 平和と公正をすべての人に       						
到達目標	外国学科の基礎演習Ⅰでは、大学での学びに必要な基礎力、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。本演習では、講義や人の意見を聞く（聞く力）、本を読む（読む力）自分の意見を整理して話す（話す力）、書く（書く力）、の4つの力を習得する。また知的好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を身につけることができる。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を学ぶと同時に、大学教師や仲間との接し方も学ぶ。						
授業概要	本演習では、まず、「大学での学び」「教養力」とは何か、就職活動に向けてどのような対策が必要なのかについて考えます。また、人の意見を聴いたり、話をまとめたりする大学生として大切な能力です。これらの力は、ある程度訓練しなければ身につけません。本演習を通して、講義の聴き方とノートの取り方、図書館と利用法、読書の仕方、情報の集め方、レポートの書き方などを習得し、自分の意見を整理し、話せる力も訓練しましょう。基礎演習Ⅰはその入門編と言ってよいでしょう。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション						
評価方法と割合	「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60%）と、積極的・能動的に受講する姿勢やレポート課題の内容（40%）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週水曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	基礎演習Ⅰの概説					加藤	
第2回	学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）					加藤	
第3回	大学で学ぶこと・教養力					加藤	
第4回	就職対策・キャリア教育について(合同)					高木	
第5回	英語学習方法と英語資格(合同)					金沢	
第6回	中間ふりかえり					加藤	
第7回	キャンパスライフの心得「警察における犯罪被害者支援」(合同)					外部講師・池上	
第8回	講義の聴き方とノートの取り方					加藤	
第9回	図書館の利用法と読書の仕方					加藤	
第10回	情報収集の仕方					加藤	
第11回	TOEIC IP練習					金沢	
第12回	レポートの書き方					加藤	
第13回	発表の仕方（要旨をつくって発表する）					加藤	
第14回	グループディスカッション					加藤	

第 1 5 回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）		加藤
第 1 6 回	単位認定試験		加藤
教科書			
教・書籍名 1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	高橋 正巳		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	FS-FS-1-901		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の基礎演習Ⅰでは、大学での学びに必要な基礎力、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。本演習では、講義や人の意見を聞く（聞く力）、本を読む（読む力）自分の意見を整理して話す（話す力）、書く（書く力）、の4つの力を習得する。また知的好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を身につけることができる。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を学ぶと同時に、大学教師や仲間との接し方も学ぶ。						
授業概要	本演習では、まず、「大学での学び」「教養力」とは何かなど、大学での学ぶ姿勢を習得する。また、就職活動に向けてどのような対策が必要なのかについても学ぶ。「聞く」「読む」「話す」「書く」の4つの力は大学生として大切な能力であり、ある程度訓練が必要である。本演習を通して、講義の聴き方とノートの取り方、図書館と利用法、読書の仕方、情報の集め方、レポートの書き方などを心得る。またディスカッションやプレゼンテーションを通して、相手の意見に耳を傾け、自分の意見を整理し話すことも訓練する。基礎演習Ⅰはその入門編と位置づける。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60%）と、積極的・能動的に受講する姿勢やレポート課題の内容（40%）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和51年大学経済学部卒、昭和57年大学院社会学研究科修士課程修了、昭和60年大学院社会学研究科博士課程満期修了退学。				
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階 124研究室 毎週木曜日 4時限目がオフィスアワー						
授業計画						担当者	
第1回	基礎演習Ⅰの概説					高橋	
第2回	学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）					高橋	
第3回	大学で学ぶこと・教養力					高橋	
第4回	就職対策・キャリア教育について(合同)					高木	
第5回	英語学習方法と英語資格(合同)					金沢	
第6回	中間ふりかえり					高橋	
第7回	キャンパスライフの心得「警察における犯罪被害者支援」(合同)					外部講師・池上	
第8回	講義の聴き方とノートの取り方					高橋	
第9回	図書館の利用法と読書の仕方					高橋	
第10回	情報収集の仕方					高橋	
第11回	TOEIC IP練習					金沢	
第12回	レポートの書き方					高橋	
第13回	発表の仕方（要旨をつくって発表する）					高橋	

第 1 4 回	グループディスカッション	高橋
第 1 5 回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）	高橋
第 1 6 回	単位認定試験	高橋
教科書		
教・書籍名 1	基礎演習テキスト	教・出版社名 1 吉備国際大学外国語学部
教・著者名 1	吉備国際大学外国語学部外国学科編	教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	基礎演習Ⅰ				担当者	佐藤 匡			
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年				ナンバリング	FS-FS-1-901			
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	30		授業形態	演習
年次	1年		開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目									
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用	○	DP3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力			
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎		
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 								
到達目標	外国学科の基礎演習Ⅰでは、大学での学びに必要な基礎力、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。本演習では、講義や人の意見を聞く（聞く力）、本を読む（読む力）自分の意見を整理して話す（話す力）、書く（書く力）、の4つの力を習得する。また知的好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を身につけることができる。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を学ぶと同時に、大学教師や仲間との接し方も学ぶ。								
授業概要	本演習では、まず、「大学での学び」「教養力」とは何かなど、大学での学ぶ姿勢を習得する。また、就職活動に向けてどのような対策が必要なのかについても学ぶ。「聞く」「読む」「話す」「書く」の4つの力は大学生として大切な能力であり、ある程度訓練が必要である。本演習を通して、講義の聴き方とノートの取り方、図書館と利用法、読書の仕方、情報の集め方、レポートの書き方などを心得る。またディスカッションやプレゼンテーションを通して、相手の意見に耳を傾け、自分の意見を整理し話すことも訓練する。基礎演習Ⅰはその入門編と位置づける。								
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション								
評価方法と割合	「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60%）と、積極的・能動的に受講する姿勢やレポート課題の内容（40%）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。								
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf								
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。								
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。								
実務経験のある教員	該当しない	内容							
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。								
オフィスアワー	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日 3 時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日 4 時限目 秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日 2 時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日 3 時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。								
授業計画							担当者		
第1回	基礎演習Ⅰの概説						佐藤 匡		
第2回	学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）						佐藤 匡		
第3回	大学で学ぶこと・教養力 研究倫理に基づく責任ある研究活動について						佐藤 匡		
第4回	就職対策・キャリア教育について(合同)						高木		
第5回	英語学習方法と英語資格(合同)						金沢		

第 6 回	中間ふりかえり	佐藤 匡
第 7 回	キャンパスライフの心得 「警察における犯罪被害者支援」(合同)	外部講師・池上
第 8 回	講義の聴き方とノートの取り方	佐藤 匡
第 9 回	図書館の利用法と読書の仕方	佐藤 匡
第 1 0 回	情報収集の仕方	佐藤 匡
第 1 1 回	TOEIC IP練習	金沢
第 1 2 回	レポートの書き方	佐藤 匡
第 1 3 回	発表の仕方（要旨をつくって発表する）	佐藤 匡
第 1 4 回	グループディスカッション	佐藤 匡
第 1 5 回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）	佐藤 匡
第 1 6 回	単位認定試験	佐藤 匡

教科書

教・書籍名 1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ				担当者	高木 秀明			
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年				ナンバリング	FS-FS-1-902			
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	30		授業形態	演習
年次	1年		開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目									
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力			
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目		◎	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 								
到達目標	外国学科の基礎演習で、学生は大学での学び、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。特に、基礎演習Ⅱでは、オムニバス形式で先生方の研究に関する話を聞き、自らの研究テーマについても考える。オムニバス講義や演習を通して、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を養うと同時に、自ら知的好奇心を持って情報収集やプレゼンテーションに取り組み、自ら学ぶ姿勢を身につける。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を身につける。								
授業概要	本演習は、基礎演習Ⅰを継承する科目であり、先生方の研究に関する話を聞きつつ、自分の研究テーマを発見する。大学ではディスカッションやプレゼンテーションなど、自分の意見を発言する機会も増えるため、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を総合的に発揮する力を養う必要がある。自分の研究テーマに関する情報収集、文献や論文の要旨を作って発表することを通して、その総合力を身につける。基礎演習Ⅱでは、自分の研究テーマの発見を目指す。								
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション								
評価方法と割合	オムニバス講義の小レポート（40％）ならびに「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60％）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。								
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf								
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。								
履修条件・注意事項	オムニバス授業は、教員の研究紹介を行うが、オムニバス授業後は、チューター毎に指定された教室に分かれて、基礎知識の確認と振り返りを行うので注意すること。適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。								
実務経験のある教員	該当しない	内容							
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。								
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週木曜日2限をオフィスアワーの時間とする。								
授業計画								担当者	
第1回	基礎演習Ⅱの概説／学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）							全教員／高木	
第2回	Which do you choose?							池上／高木	
第3回	絵画および染織品の非破壊科学調査							大下（浩）／高木	
第4回	トンボちゃんのインドでのもの思い							大下（朋）／高木	
第5回	No attack, no chance.							佐藤／高木	
第6回	化学→コンピュータ→電子工作							高木／高木	
第7回	アフリカの空を飛ぶ							畝／高木	
第8回	オムニバス授業のふりかえり							高木	
第9回	2年生になる心構え							高木	
第10回	ゼミ分け説明会							全教員／高木	
第11回	研究テーマに関する情報収集							高木	
第12回	文献や論文の要旨のまとめ方							高木	
第13回	文献や論文の要旨の発表①							高木	
第14回	文献や論文の要旨の発表②							高木	
第15回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）							高木	

第 1 6 回	単位認定試験（レポート試験）		高木
教科書			
教・書籍名 1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ				担当者	大下 浩司			
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年				ナンバリング	FS-FS-1-902			
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	30		授業形態	演習
年次	1年		開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目									
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力			
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目		◎	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 								
到達目標	外国学科の基礎演習で、学生は大学での学び、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。特に、基礎演習Ⅱでは、オムニバス形式で先生方の研究に関する話を聞き、自らの研究テーマについても考える。オムニバス講義や演習を通して、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を養うと同時に、自ら知的好奇心を持って情報収集やプレゼンテーションに取り組み、自ら学ぶ姿勢を身につける。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を身につける。								
授業概要	本演習は、基礎演習Ⅰを継承する科目であり、先生方の研究に関する話を聞きつつ、自分の研究テーマを発見する。大学ではディスカッションやプレゼンテーションなど、自分の意見を発言する機会も増えるため、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を総合的に発揮する力を養う必要がある。自分の研究テーマに関する情報収集、文献や論文の要旨を作って発表することを通して、その総合力を身につける。基礎演習Ⅱでは、自分の研究テーマの発見を目指す。								
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション								
評価方法と割合	オムニバス講義の小レポート（40％）ならびに「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60％）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。								
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf								
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。								
履修条件・注意事項	オムニバス授業は、教員の研究紹介を行うが、オムニバス授業後は、チューター毎に指定された教室に分かれて、基礎知識の確認と振り返りを行うので注意すること。適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。								
実務経験のある教員	該当しない	内容							
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。								
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日3限をオフィスアワーの時間とする。								
授業計画								担当者	
第1回	基礎演習Ⅱの概説 学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）							全教員	
第2回	Which do you choose?							池上真由美／大下	
第3回	絵画および染織品の非破壊科学調査							大下浩司	
第4回	トンボちゃんのインドでのもの思い							大下朋子／大下	
第5回	No attack, no chance.							佐藤匡／大下	
第6回	化学→コンピュータ→電気工作							高木秀明／大下	
第7回	アフリカの空を飛ぶ							畠伊智朗／大下	
第8回	オムニバス授業のふりかえり							チューター	
第9回	2年生になる心構え							チューター	
第10回	ゼミ分け説明会							全教員	
第11回	研究テーマに関する情報収集							チューター	
第12回	文献や論文の要旨のまとめ方							チューター	
第13回	文献や論文の要旨の発表①							チューター	
第14回	文献や論文の要旨の発表②							チューター	

第15回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）		チューター
第16回	単位認定試験（レポート試験）		チューター
教科書			
教・書籍名1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ				担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年				ナンバリング	FS-FS-1-902		
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	30	授業形態	演習
年次	1年		開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目								
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用			DP 3.主体的な学びと論理的な思考			DP 4. コミュニケーション・表現力
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力			DP 7. 自己効力感			DP 8. 学科項目
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう 							
到達目標	外国学科の基礎演習で、学生は大学の学び、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。特に、基礎演習Ⅱでは、オムニバス形式で先生方の研究に関する話を聞き、自らの研究テーマについても考える。オムニバス講義や演習を通して、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を養うと同時に、自ら知的好奇心を持って情報収集やプレゼンテーションに取り組み、自ら学ぶ姿勢を身につける。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を身につける。							
授業概要	本演習は、基礎演習Ⅰを継承する科目であり、先生方の研究に関する話を聞きつつ、自分の研究テーマを発見する。大学ではディスカッションやプレゼンテーションなど、自分の意見を発言する機会も増えるため、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を総合的に発揮する力を養う必要がある。自分の研究テーマに関する情報収集、文献や論文の要旨を作って発表することを通して、その総合力を身につける。基礎演習Ⅱでは、自分の研究テーマの発見を目指す。							
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション							
評価方法と割合	オムニバス講義の小レポート（40％）ならびに「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60％）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。							
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。							
履修条件・注意事項	オムニバス授業は、教員の研究紹介を行うが、オムニバス授業後は、チューター毎に指定された教室に分かれて、基礎知識の確認と振り返りを行うので注意すること。適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。							
実務経験のある教員	該当しない	内容						
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。							
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週木曜日3限をオフィスアワーの時間とする。							
授業計画								担当者
第1回	基礎演習Ⅱの概説 学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）							全教員
第2回	Which do you choose?							池上真由美・大下朋子
第3回	絵画および染織品の非破壊科学調査							大下浩司・大下朋子
第4回	トンボちゃんのインドでのもの思い							大下朋子
第5回	No attack, no chance.							佐藤匡・大下朋子
第6回	化学→コンピュータ→電気工作							高木秀明・大下朋子
第7回	アフリカの空を飛ぶ							畝伊智朗・大下朋子
第8回	オムニバス授業のふりかえり							大下朋子
第9回	2年生になる心構え							大下朋子
第10回	ゼミ分け説明会							全教員
第11回	研究テーマに関する情報収集							大下朋子
第12回	文献や論文の要旨のまとめ方							大下朋子
第13回	文献や論文の要旨の発表①							大下朋子
第14回	文献や論文の要旨の発表②							大下朋子

第15回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）		大下朋子
第16回	単位認定試験（レポート試験）		大下朋子
教科書			
教・書籍名1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・I S B N 1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・I S B N 1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ				担当者	畝 伊智朗			
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年				ナンバリング	FS-FS-1-902			
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	30		授業形態	演習
年次	1年		開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目									
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力			
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎		
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 								
到達目標	外国学科の基礎演習で、学生は大学での学び、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。特に、基礎演習Ⅱでは、オムニバス形式で先生方の研究に関する話を聞き、自らの研究テーマについても考える。オムニバス講義や演習を通して、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を養うと同時に、自ら知的好奇心を持って情報収集やプレゼンテーションに取り組み、自ら学ぶ姿勢を身につける。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を身につける。								
授業概要	本演習は、基礎演習Ⅰを継承する科目であり、先生方の研究に関する話を聞きつつ、自分の研究テーマを発見する。大学ではディスカッションやプレゼンテーションなど、自分の意見を発言する機会も増えるため、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を総合的に発揮する力を養う必要がある。自分の研究テーマに関する情報収集、文献や論文の要旨を作って発表することを通して、その総合力を身につける。基礎演習Ⅱでは、自分の研究テーマの発見を目指す。								
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション								
評価方法と割合	オムニバス講義の小レポート（40％）ならびに「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60％）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。								
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf								
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。								
履修条件・注意事項	オムニバス授業は、教員の研究紹介を行うが、オムニバス授業後は、チューター毎に指定された教室に分かれて、基礎知識の確認と振り返りを行うので注意すること。適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。								
実務経験のある教員	該当しない	内容							
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。								
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日4限をオフィスアワーの時間とする。								
授業計画							担当者		
第1回	基礎演習Ⅱの概説 学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）						全教員		
第2回	Which do you choose?						池上、畝		
第3回	絵画および染織品の非破壊科学調査						大下（浩）、畝		
第4回	トンボちゃんのインドでのもの思い						大下（朋）、畝		
第5回	No attack, no chance.						佐藤、畝		
第6回	化学→コンピュータ→電気工作						高木、畝		
第7回	アフリカの空を飛ぶ						畝		
第8回	オムニバス授業のふりかえり						畝		
第9回	2年生になる心構え						畝		
第10回	ゼミ分け説明会						全教員		
第11回	研究テーマに関する情報収集						畝		
第12回	文献や論文の要旨のまとめ方						畝		

第 1 3 回	文献や論文の要旨の発表①	畝
第 1 4 回	文献や論文の要旨の発表②	畝
第 1 5 回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）	畝
第 1 6 回	単位認定試験	畝
教科書		
教・書籍名 1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ I S B N 2

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	池上 真由美		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-902		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用	○	DP3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	外国学科の基礎演習で、学生は大学での学び、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。特に、基礎演習Ⅱでは、オムニバス形式で先生方の研究に関する話を聞き、自らの研究テーマについても考える。オムニバス講義や演習を通して、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を養うと同時に、自ら知的好奇心を持って情報収集やプレゼンテーションに取り組み、自ら学ぶ姿勢を身につける。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を身につける。						
授業概要	本演習は、基礎演習Ⅰを継承する科目であり、先生方の研究に関する話を聞きつつ、自分の研究テーマを発見する。大学ではディスカッションやプレゼンテーションなど、自分の意見を発言する機会も増えるため、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を総合的に発揮する力を養う必要がある。自分の研究テーマに関する情報収集、文献や論文の要旨を作って発表することを通して、その総合力を身につける。基礎演習Ⅱでは、自分の研究テーマの発見を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	オムニバス講義の小レポート（40％）ならびに「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60％）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	オムニバス授業は、教員の研究紹介を行うが、オムニバス授業後は、チューター毎に指定された教室に分かれて、基礎知識の確認と振り返りを行うので注意すること。適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室112にて、毎週火曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	基礎演習Ⅱの概説 学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）					全教員	
第2回	Which do you choose?					池上真由美	

第 3 回	絵画および染織品の非破壊科学調査	大下浩司・池上	
第 4 回	トンボちゃんのインドでのもの思い	大下朋子・池上	
第 5 回	No attack, no chance.	佐藤匡・池上	
第 6 回	化学→コンピュータ→電気工作	高木秀明・池上	
第 7 回	アフリカの空を飛ぶ	畠伊智朗・池上	
第 8 回	オムニバス授業のふりかえり	池上	
第 9 回	2年生になる心構え	池上	
第 1 0 回	ゼミ分け説明会	全教員	
第 1 1 回	研究テーマに関する情報収集	池上	
第 1 2 回	文献や論文の要旨のまとめ方	池上	
第 1 3 回	文献や論文の要旨の発表①	池上	
第 1 4 回	文献や論文の要旨の発表②	池上	
第 1 5 回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）	池上	
第 1 6 回	単位認定試験（レポート試験）	池上	
教科書			
教・書籍名 1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	加藤 健次			
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-902			
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	30	授業形態	演習
年次	1年		開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目								
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力		
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目		◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／13. 気候変動に具体的な対策を 							
到達目標	外国学科の基礎演習で、学生は大学での学び、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。特に、基礎演習Ⅱでは、オムニバス形式で先生方の研究に関する話を聞き、自らの研究テーマについても考える。オムニバス講義や演習を通して、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を養うと同時に、自らの知的好奇心を持って情報収集やプレゼンテーションに取り組み、自ら学ぶ姿勢を身につける。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を身につける。							
授業概要	本演習は、基礎演習Ⅰを継承する科目であり、先生方の研究に関する話を聞きつつ、自分の研究テーマを発見する。大学ではディスカッションやプレゼンテーションなど、自分の意見を発言する機会も増えるため、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を総合的に発揮する力を養う必要がある。自分の研究テーマに関する情報収集、文献や論文の要旨を作って発表することを通して、その総合力を身につける。基礎演習Ⅱでは、自分の研究テーマの発見を目指す。							
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション							
評価方法と割合	オムニバス講義の小レポート（40％）ならびに「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60％）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。							
ルーブリック評価								
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。							
履修条件・注意事項	オムニバス授業は、教員の研究紹介を行うが、オムニバス授業後は、チューター毎に指定された教室に分かれて、基礎知識の確認と振り返りを行うので注意すること。適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。							
実務経験のある教員	該当しない	内容						
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。							
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週木曜日2限をオフィスアワーの時間とする。							
授業計画							担当者	
第1回	オリエンテーション						全員	
第2回	私の研究テーマ「育てる！」						池上／加藤	
第3回	絵画・染織品の科学調査						大下(浩)／加藤	
第4回	トンボちゃんのインドでのもの思いー学生期ー						大下(朋)／加藤	
第5回	南フランスでカトリック派研究に至る経緯について						加藤	
第6回	No attack, no chance.						佐藤／加藤	
第7回	化学→コンピュータ→電気工作						高木／加藤	
第8回	「そんなぁ、まさかぁ」のアホな田舎モン						高橋／加藤	
第9回	会計検査院に出向して						畠／加藤	
第10回	Art, as I see it						メルヴィオ／加藤	
第11回	ゼミ分け説明会(全体)／研究テーマの発見(チューター)						全員	
第12回	研究テーマに関する情報収集（各研究室）						加藤	

第 1 3 回	文献や論文の要旨のまとめ方（各研究室）	加藤	
第 1 4 回	文献や論文の要旨のまとめ（各研究室）	加藤	
第 1 5 回	文献や論文の要旨の発表（各研究室）	加藤	
第 1 6 回	単位認定試験（レポート）	加藤	
教科書			
教・書籍名 1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ				担当者	高橋 正巳			
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年				ナンバリング	FS-FS-1-902			
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	30		授業形態	演習
年次	1年		開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目									
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力			
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎		
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう 								
到達目標	外国学科の基礎演習で、学生は大学の学び、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。特に、基礎演習Ⅱでは、オムニバス形式で先生方の研究に関する話を聞き、自らの研究テーマについても考える。オムニバス講義や演習を通して、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を養うと同時に、自ら知的好奇心を持って情報収集やプレゼンテーションに取り組み、自ら学ぶ姿勢を身につける。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を身につける。								
授業概要	本演習は、基礎演習Ⅰを継承する科目であり、先生方の研究に関する話を聞きつつ、自分の研究テーマを発見する。大学ではディスカッションやプレゼンテーションなど、自分の意見を発言する機会も増えるため、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を総合的に発揮する力を養う必要がある。自分の研究テーマに関する情報収集、文献や論文の要旨を作って発表することを通して、その総合力を身につける。基礎演習Ⅱでは、自分の研究テーマの発見を目指す。								
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション								
評価方法と割合	オムニバス講義の小レポート（40％）ならびに「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60％）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。								
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf								
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。								
履修条件・注意事項	オムニバス授業は、教員の研究紹介を行うが、オムニバス授業後は、チューター毎に指定された教室に分かれて、基礎知識の確認と振り返りを行うので注意すること。適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。								
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和51年大学経済学部卒、昭和57年大学院社会学研究科修士課程修了、昭和60年大学院社会学研究科博士課程満期修了退学。現在は本学の特任教授。						
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。								
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週木曜日3限がオフィスアワーの時間。								
授業計画							担当者		
第1回	基礎演習Ⅱの概説 学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）						全教員		
第2回	Which do you choose?						池上真由美		
第3回	絵画および染織品の非破壊科学調査						大下浩司		
第4回	トンボちゃんのインドでのもの思い						大下朋子		
第5回	No attack, no chance.						佐藤匡		
第6回	化学→コンピュータ→電気工作						高木秀明		
第7回	アフリカの空を飛ぶ						畝伊智朗		
第8回	オムニバス授業のふりかえり						高橋		
第9回	2年生になる心構え						高橋		
第10回	ゼミ分け説明会						全教員		
第11回	研究テーマに関する情報収集						高橋		
第12回	文献や論文の要旨のまとめ方						高橋		
第13回	文献や論文の要旨の発表①						高橋		

第 1 4 回	文献や論文の要旨の発表②	高橋
第 1 5 回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）	高橋
第 1 6 回	単位認定試験（レポート試験）	高橋
教科書		
教・書籍名 1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	基礎演習Ⅱ				担当者	佐藤 匡			
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年				ナンバリング	FS-FS-1-902			
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	30		授業形態	演習
年次	1年		開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限	
ディプロマポリシー対応項目									
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考		○	DP 4. コミュニケーション・表現力		
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		◎	DP 8. 学科項目		◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう 								
到達目標	外国学科の基礎演習で、学生は大学の学び、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。特に、基礎演習Ⅱでは、オムニバス形式で先生方の研究に関する話を聞き、自らの研究テーマについても考える。オムニバス講義や演習を通して、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を養うと同時に、自ら知的好奇心を持って情報収集やプレゼンテーションに取り組み、自ら学ぶ姿勢を身につける。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を身につける。								
授業概要	本演習は、基礎演習Ⅰを継承する科目であり、先生方の研究に関する話を聞きつつ、自分の研究テーマを発見する。大学ではディスカッションやプレゼンテーションなど、自分の意見を発言する機会も増えるため、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を総合的に発揮する力を養う必要がある。自分の研究テーマに関する情報収集、文献や論文の要旨を作って発表することを通して、その総合力を身につける。基礎演習Ⅱでは、自分の研究テーマの発見を目指す。								
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション								
評価方法と割合	オムニバス講義の小レポート（40％）ならびに「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60％）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。								
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf								
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。								
履修条件・注意事項	オムニバス授業は、教員の研究紹介を行うが、オムニバス授業後は、チューター毎に指定された教室に分かれて、基礎知識の確認と振り返りを行うので注意すること。適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。								
実務経験のある教員	該当しない	内容							
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。								
オフィスアワー	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日 3時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日 4時限目 秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日 2時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日 3時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。								
授業計画								担当者	
第1回	基礎演習Ⅱの概説 学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）							全教員	
第2回	Which do you choose?							池上真由美	
第3回	絵画および染織品の非破壊科学調査							大下浩司	
第4回	トンボちゃんのインドでのもの思い							大下朋子	
第5回	No attack, no chance.							佐藤匡	
第6回	化学→コンピュータ→電気工作							高木秀明	

第 7 回	アフリカの空を飛ぶ	畝伊智朗
第 8 回	オムニバス授業のふりかえり	佐藤 匡
第 9 回	2年生になる心構え	佐藤 匡
第 1 0 回	ゼミ分け説明会	全教員
第 1 1 回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について 研究テーマに関する情報収集	佐藤 匡
第 1 2 回	文献や論文の要旨のまとめ方	佐藤 匡
第 1 3 回	文献や論文の要旨の発表①	佐藤 匡
第 1 4 回	文献や論文の要旨の発表②	佐藤 匡
第 1 5 回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）	佐藤 匡
第 1 6 回	単位認定試験（レポート試験）	佐藤 匡
教科書		
教・書籍名 1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	教育原論			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	TC-FS-1-905		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	△
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感	△	DP 8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	【授業のテーマ】 教育の思想及び制度の歴史を学ぶことにより、教育はどのような要因によって成り立ち、左右されてきたかを理解し、その知識・理解をもとに今後の教育の在り方について考察する力量を身に着ける 【到達目標】 1. 学生は教育の基本概念を理解し、適切に用いることができる 2. 学生は代表的な教育思想家の学習論・教育思想・社会観・子ども観を理解し、説明できる 3. 学生は近代公教育（学校）をはじめとする主要な教育制度の成立および変遷を理解し、説明できる 4. 学生は家庭、社会における教育について理解し、それをもとに学校教育の役割を理解し、説明できる 5. 学生は上記の学習を通じて教育の本質について考察し、今後の教育制度（学校など）の役割について自身の考えを表現できる						
授業概要	本講義は教育の歴史を概括的に学ぶ科目である。この講義では歴史的事象もさることながら、社会が変動する中で子ども観・教育観・学習観がいかに変容し、それに伴い家庭教育、地域社会（共同体）の教育、学校教育がいかに変容していくのかを理解してもらいたい。その結果、多様な教育実践・制度の相互作用などを理解し、各自の教育に関する意見を構築できるようにしていく。 本講義は大きく6つの段階に分けて展開する。1・2回目では教育の基礎概念について理解するとともに家庭などにおける日常的（非組織的）な学びの在り方について触れる。その後、教育思想がどのような社会観・子ども観によって形成されるのかを古代・中世・近代・現代のそれぞれに区分し紹介する。特に近代公教育制度の成立については、学校教育の本質にかかわる事項であるので若干詳細に検討する。その後、特に1990年代後半以降の現代社会の在り方を考察し、現在教育という営為がどのように社会の課題と向き合い、新たな実践を生み出しているのかを考察する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	各回の講義の振り返りを行う学習記録（15％）、レポート（15％）、定期試験（70％）で評価する。なお、評価に関わる事項の詳細については初回講義で説明する。						
ルーブリック評価	本講義は規定ルーブリックは用いない。						
課題や試験のフィードバック方法	学習記録は各回担当者のコメントを付して返却される。レポート及び筆記試験については、再試験日程発表の際に総括的にフィードバックを行う。その後、ユニバーサルパスポートなどで個別のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは必ず学生便覧を確認してから履修すること。加えて、教職課程として履修するものは将来教員になる者とみなすので、それにふさわしい授業態度で臨むこと。また、教職課程を履修しないものの履修も可能であるが、その場合でも教職課程を取っているものと同等の態度などで臨むこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	各回講義の予習と復習を行っていただく（学習記録用紙）。予習のために、基礎的な用語や歴史について教科書や参考書を用いて学習する必要がある。講義後の復習として講義内容を振り返り、重要事項や各自の考え方の変化を振り返る課題を課す。配布資料を読みなし、理解を振り返る学習を進めること。各回講義ごとに約2時間の学習が必要である。						
オフィスアワー	水曜日4限 研究室（9301）						
授業計画						担当者	

第 1 回	教育の基礎概念	倉知典弘	
第 2 回	教育の源形態－家庭・共同体による教育	倉知典弘	
第 3 回	古代の教育思想（1）西洋の教育思想	倉知典弘	
第 4 回	第 4 回：古代の教育思想（2）日本の教育思想	倉知典弘	
第 5 回	中世の教育思想（1）宗教と教育	倉知典弘	
第 6 回	第 6 回：中世の教育思想（2）ルネサンスと教育	倉知典弘	
第 7 回	近代の教育思想（1）産業革命と教育	倉知典弘	
第 8 回	近代の教育思想（2）近代教育制度の成立	倉知典弘	
第 9 回	近代の教育思想（3）教育学の成立と展開	倉知典弘	
第 1 0 回	現代の教育思想（1）新教育運動の諸相	倉知典弘	
第 1 1 回	現代の教育思想（2）戦争と教育	倉知典弘	
第 1 2 回	現代の教育思想（3）東西冷戦下の教育	倉知典弘	
第 1 3 回	現代社会と教育（1）現代社会の課題と教育	倉知典弘	
第 1 4 回	現代社会と教育（2）子どもの生活世界の変容と教育	倉知典弘	
第 1 5 回	第15回：現代社会と教育（3）－まとめにかえて	倉知典弘	
第 1 6 回	筆記試験	倉知典弘	
教科書			
教・書籍名 1	『教育思想史』（有斐閣アルマ）	教・出版社名 1	有斐閣
教・著者名 1	今井康雄編	教・ I S B N 1	978-4641123847
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	教育の歴史と思想	参・出版社名 1	ミネルヴァ書房
参・著者名 1	石村華代・軽部勝一郎編	参・ I S B N 1	978-4623065844
参・書籍名 2	新訂 学習指導要領は国民形成の設計書: その能力観と人間像の歴史的変遷	参・出版社名 2	東北大学出版会
参・著者名 2	水原克敏	参・ I S B N 2	978-4861633171

授業科目名	教職論			担当者	池上 真由美		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	TC-FS-1-906		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感	△	DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も 16. 平和と公正をすべての人に						
到達目標	教職についての基礎的な知識（教職の歴史と社会的使命，教員の職務，教員養成と研修，服務規程，「チームとしての学校」の一員としての役割等）について理解するとともに，教員としての自らの適性について考えることを目標とする。						
授業概要	教師，教職，人を教えるという行為など，教育という営みをめぐる哲学的，原理的な課題からはじまり，学校教育，教員の使命と役割，学校における教員のさまざまな活動について理解する。また，これからの学校においては，「チームとしての学校」の体制の中で，一人の教員として自らの専門性を発揮し組織の一員として課題解決に当たる資質・能力が求められることを理解する。さらに，グループ討議等を通して，教員をめざすにあたり，自分には求められる資質・能力があるか，自分は教職に向いているかを真剣に考える場をもつようにする。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	〔試験〕 60%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する。） 〔提出物〕 20%（レポート課題，コメント用紙等により評価する。） 〔授業への参画状況〕 20%（発表及び発言内容，教職への意欲や態度等を総合的に評価する。）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は，ルーブリックを添付して授業でフィードバックする。コメント用紙の内容は，次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめて，フィードバックする。						
履修条件・注意事項	基本的に毎時行う予習課題の発表，グループ・ディスカッションなどに積極的に参加することが望まれる。なお，授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は，小中学校教員としての実務経験を持つ教員が，その経験を活かし，教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習課題をもとに，目的意識をもって授業を受けること。 復習として，授業で配付したプリントの内容を，理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお，それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室112にて，毎週火曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	教師の歴史と教師論					池上	
第2回	求められる教員の資質の変遷					池上	
第3回	教育的諸問題と教職の課題					池上	
第4回	教員の仕事と役割①（種類と職階，関係づくり）					池上	
第5回	教員の仕事と役割②（教科指導）					池上	
第6回	教員の仕事と役割③（教科外指導）					池上	

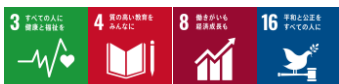
第 7 回	教員の仕事と役割④（進路指導）	池上	
第 8 回	教員の仕事と役割⑤（学級経営・学校経営・校務分掌）	池上	
第 9 回	教員の仕事と役割⑥（教育相談）	池上	
第 1 0 回	教員の仕事と役割⑦（学級崩壊）	池上	
第 1 1 回	教員の研修	池上	
第 1 2 回	服務規程	池上	
第 1 3 回	小中学校の教員	池上	
第 1 4 回	高等学校・特別支援学校の教員	池上	
第 1 5 回	教員養成と教職課程	池上	
第 1 6 回	筆記試験	池上	
教科書			
教・書籍名 1	教職論 教師を志すすべての人へ 第2版	教・出版社名 1	
教・著者名 1	教職問題研究会	教・ I S B N 1	978-4-623-05305-6
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	教育行政学			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	TC-FS-1-907		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	△
SDGs関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	授業のテーマ 現在日本の教育制度の仕組み、意義、基本原理を理解するとともに教育制度の一部である学校の経営やその制度的背景について理解する。そのうえで、社会や子どもを取り巻く課題に教育制度・学校経営がどの程度対応できているのかを考え、将来の教育制度・学校経営のあるべき姿を考察する。 到達目標 1. 学生は教育行政・公教育の原理、理念、作用及び仕組みを理解し、説明できる 2. 学生は学校、教育機関の目的を理解し、その目標をどのように達成しようとしているか理解し、説明できる 3. 学生は学校経営の組織体制及びマネジメント手法について理解し、説明できる 4. 学生は子どもたちをめぐる問題に対する制度的・経営的対応を理解し、対応の仕方を考察できる 5. 学生は現在の教育改革及び行財政改革の基本的な方向を理解し、説明できる 6. 学生は子どもや社会の現状、行財政改革の現状などの正確な理解をもとに今後の教育行政・学校経営のあるべき姿について自身の意見を提示できる						
授業概要	本講義は、教育制度の理解を深める段階と教育制度の理解をもとに学校経営を理解することを目的としている。まず最初に公教育が存在する理由を「公共性」概念及び「公共財」概念を紐解くことにより明らかにする（第1回）。そのうえで現状の法制・機構・仕組みについて検討する。その後、教育行政の理念を諸外国の事例や裁判での論争事例をもとに批判的に検討していく（第2回～第7回）。 以上のような教育行政全体の動向・課題を明らかにしたのち、その制度によって支えられている学校経営について「組織マネジメント」及び「問題行動」「子どもの現状」への対応という観点から解説及び討議を行う。特に近年注目されている「学校安全・危機管理」「チームとしての学校」「地域社会との連携」については詳細に検討を行い、学校経営の在り方を考える示唆を提示したい（第8回～第14回）。そして、最後に今後の教育行政と学校経営の在り方について総括的な議論を行い、教員になる学生の教職意識の向上に役立てる（第15回）。 本講義では日本の事例を主に扱うが諸外国に先進的な事例や参考になる事例がある場合には適宜それを紹介するので、日本の現状を批判的に見つめるための視野を身に付けてもらいたい。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	学習記録の提出（15%）及びレポート課題（15%）及び定期試験（70%）で評価する。評価に関わる詳細は初回講義の際に示す。						
ルーブリック評価	本講義は規定ルーブリックは用いない。						
課題や試験のフィードバック方法	習記録は各回担当者のコメントを付して返却される。レポート及び筆記試験については、再試験日程発表の際に総括的にフィードバックを行う。その後、ユニバーサルパスポートなどで個別のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは必ず学生便覧を確認してから履修すること。加えて、教職課程として履修するものは将来教員になる者とみなすので、それにふさわしい授業態度で臨むこと。また、教職課程を履修しないものの履修も可能であるが、その場合でも教職課程を取っているものと同等の態度などで臨むこと						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習として1) 講義に取り上げる予定の法令調べ 2) 講義にかかわる事項の調べ 3) テーマに関わる論述課題を課す（2時間程度）。論述課題の内容は講義でも取り上げる。 復習として1) 講義のキーワードのまとめ 2) 論述課題 3) 講義の振り返りを課す（2時間程度）						
オフィスアワー	水曜日4限 研究室（9301）にて						

授業計画		担当者	
第 1 回	公教育の基本原理と教育行政：教育の公共性について	倉知典弘	
第 2 回	教育の法制の概要：教育の法律主義について	倉知典弘	
第 3 回	教育行政の機構：教育行政のガバナンス	倉知典弘	
第 4 回	教育の中立性確保：宗教的中立と政治的中立	倉知典弘	
第 5 回	教育の義務制と機会均等：教育福祉の観点から	倉知典弘	
第 6 回	教育機関の設置・管理：学校と社会教育・生涯学習	倉知典弘	
第 7 回	教育職員に関わる法制：養成・採用・服務を中心に	倉知典弘	
第 8 回	学校の組織体制：チームとしての学校を中心に	倉知典弘	
第 9 回	学校経営計画と評価：PDCAサイクル	倉知典弘	
第 1 0 回	学校における教育活動：教育課程	倉知典弘	
第 1 1 回	学校における生徒指導：「問題行動」とその制度的対応	倉知典弘	
第 1 2 回	学校経営の諸課題(1)地域社会との連携	倉知典弘	
第 1 3 回	学校経営の諸課題(2)学校安全・学校保健	倉知典弘	
第 1 4 回	学校経営の諸課題(3)子どもの現状とその制度的対応	倉知典弘	
第 1 5 回	現代教育改革と教育行政・学校経営	倉知典弘	
第 1 6 回	筆記試験	倉知典弘	
教科書			
教・書籍名 1	教育行政学 第 3 版 子ども・若者の未来を拓く	教・出版社名 1	八千代出版
教・著者名 1	横井敏郎編	教・ I S B N 1	9784842917849
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	教育小六法	参・出版社名 1	学陽書房
参・著者名 1	市川須美子、小野田正利、勝野 正章、窪田 眞二、中嶋 哲彦、成嶋隆	参・ I S B N 1	978-4313011953
参・書籍名 2	中学校学習指導要領（最新版） 高等学校学習指導要領（最新版）	参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	教育心理学				担当者	藤原 直子			
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年				ナンバリング	TC-FS-1-908			
必修・選択	選択	単位数	2単位		時間数	30		授業形態	講義
年次	1年		開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義	
ディプロマポリシー対応項目									
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力			
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	△	DP 8. 学科項目			
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 								
到達目標	1. 教育心理学の重要性を理解し、教育領域に有用な心理学的知識とその活用を学ぶ 2. 児童生徒の心の発達プロセス理解と、それに適合した、あるいは促進させる教育心理学的アプローチのあり方を身につける 3. 児童生徒の示す心理的問題や、教育上特別な支援が必要な児童生徒の心理学的理解と、具体的な支援に寄与する教育心理学的知識を身につける								
授業概要	この講義では、教育領域における心理学的理論と知識、および教育領域に適用可能な心理学的手法を学ぶ。まず教育心理学の理論と方法を概観し、児童生徒個人の心理的発達の諸側面を学んでいく。そして、学習理論や動機づけの理論に基づいて児童生徒にアプローチする心理学的知識と手法についても解説し、さまざまな学校現場における諸問題や児童生徒の困難さに対する支援方法を学ぶ。								
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション								
評価方法と割合	評価は、講義内で行う小テスト・レポート・振り返りシート、学期末に実施する単位認定試験の得点を総合して行う。評価の内訳は、講義内の小テスト20％、レポート・演習課題20％、単位認定試験60％で、総合100点満点中60点以上を単位認定の対象とする。								
ルーブリック評価									
課題や試験のフィードバック方法	講義内の小テストや演習課題について、講義内で回答・フィードバックを行う。								
履修条件・注意事項	講義をしっかりと聴き積極的な学びに努めること。 プリント等を配布するので、ファイルを用意しておくこと。								
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、幼稚園・小学校での教員経験、小中高등학교でのスクールカウンセラーの実務経験がある教員が担当する。教育現場における現状や課題、教員として必要とされる心理学の知識や支援方法について教授し、実践に役立つ授業を実施する。						
事前学習・事後学習とその時間	1. 初回授業にて配布する「講義計画」に基づいて、テキストの該当ページを事前に読み予習する。 2. 授業内で定期的に実施する小テストの内容をもとに、復習を行う。 3. 授業終了時に配布する「まとめプリント」の空欄を記入し、復習を行う。 以上のような予習・復習に、毎回1～2時間を要する。								
オフィスアワー	集中講義であるため、授業開始前、昼休憩、授業終了後をオフィスアワーの時間とする。								
授業計画							担当者		
第1回	オリエンテーション、教育心理学とは						藤原直子		
第2回	心身の発達①：発達の基礎的な理論と乳幼児期の発達						藤原直子		
第3回	心身の発達②：児童期						藤原直子		
第4回	心身の発達③：青年期以降						藤原直子		
第5回	学習と知識獲得						藤原直子		
第6回	認知的情報処理と記憶						藤原直子		
第7回	動機づけと学習						藤原直子		
第8回	認知発達と学習支援						藤原直子		
第9回	学級集団と学習支援						藤原直子		
第10回	個性や個人差と学習支援						藤原直子		
第11回	教育評価						藤原直子		
第12回	障害の基本的理解と学校教育における配慮						藤原直子		
第13回	困難さを抱える子どもへの教育的支援						藤原直子		

第14回	子どもの情緒・適応の理解と心理的支援	藤原直子	
第15回	学校教育を取り巻く諸問題と教育心理学	藤原直子	
第16回	レポート試験	藤原直子	
教科書			
教・書籍名1	よくわかる教職エクササイズ② 教育心理学	教・出版社名1	ミネルヴァ書房
教・著者名1	森田健宏・田爪宏二	教・I S B N 1	978-4-623-08177-6
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・I S B N 1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	教育課程論（後半8回）				担当者	池上 真由美		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年				ナンバリング	TC-FS-1-910		
必修・選択	選択	単位数	1単位		時間数	15	授業形態	講義・AL
年次	1年		開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目								
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	○	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／8. 働きがいも経済成長も／16. 平和と公正をすべての人に 							
到達目標	教育課程の編成と実施などについての基礎的・基本的な知識を修得し、学校や地域の特性と教師の創意・工夫を生かした魅力ある教育課程を編成するための方略について理解する、また、編成した教育課程を実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルについて理解することを目標とする。							
授業概要	教育課程とは何か、教育課程の変遷、教育課程の法体系と学習指導要領、新学習指導要領・新教育要領の改訂のポイントなどについて理解する。また、編成した教育課程を実施・評価し改善するカリキュラム・マネジメントのプロセスを、実践例を通して学び、演習やグループワーク等を行うことで、カリキュラム・マネジメント力を養う。							
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク							
評価方法と割合	〔試験〕60%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する。） 〔提出物〕20%（レポート課題、コメント用紙等により評価する。） 〔授業への参画状況〕20%（発表及び発言内容、教職への意欲や態度等を総合的に評価する。）							
ルーブリック評価								
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題、コメント用紙の内容は、次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめて、フィードバックする。							
履修条件・注意事項	基本的に毎時行う予習課題の発表、グループ・ディスカッションなどに積極的に参加することが望まれる。なお、授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。							
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。					
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習課題をもとに、目的意識をもって授業を受けること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。							
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室112にて、毎週火曜日4限をオフィスアワーの時間とする。							
授業計画							担当者	
第1回	教育課程とは何か						池上	
第2回	教育の目的と教育課程の編成						池上	
	現代日本の教育課程の変遷							

第 3 回		池上
第 4 回	新学習指導要領等の改訂のポイント「社会に開かれた教育課程」「学びの地図」「主体的・対話的で深い学び」	池上
第 5 回	近年の教育改革の動向および今後の課題	池上
第 6 回	幼稚園・小学校・中学校教育・高等学校教育における教育課程	池上
第 7 回	教育課程の法と行政、実践・カリキュラム・マネジメント	池上
第 8 回	筆記試験	池上
第 9 回		
第 1 0 回		
第 1 1 回		
第 1 2 回		
第 1 3 回		
第 1 4 回		
第 1 5 回		
第 1 6 回		
教科書		
教・書籍名 1	はじめて学ぶ教育課程	教・出版社名 1 ミネルヴァ書房
教・著者名 1	広岡義之	教・ I S B N 1 978-4-623-07559-1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	介護等体験の研究（前半8回）			担当者	森井 康幸		
配当学科・研究科	2022年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	TC-FS-1-920		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 10. 人や国の不平等をなくそう 11. 住み続けられるまちづくりを 16. 平和と公正をすべての人に						
到達目標	介護等体験の意義・目的の理解と、体験施設の概要や活動内容を把握すること、あわせて教職意識の明確化を図ることを目標とする。						
授業概要	次年度以降実施する「介護等体験」の事前指導に当たる。特別支援学校の先生や福祉施設の方に、それぞれの学校や施設の概要やそこでの介護等体験における注意事項等を講義していただく。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	受講態度（40％）と毎回課されるレポート（60％）により評価する。レポートは内容確認後返却する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎回課されるレポートに対して、授業内で総評を述べるか、コメントをつけて返却する。						
履修条件・注意事項	介護等体験を行うことが義務づけられている小学校・中学校の教員免許状取得希望者には必修科目である。 教員志望者に対する講義ということで、受講態度等にはシビアである。 講義予定回数は8回であり、実施日程にはくれぐれも注意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	特別支援学校や種々の福祉現場において働いておられる方々を外部講師としてお迎えしてお話ししていただく。				
事前学習・事後学習とその時間	予習:テキストの該当箇所を精読。授業で該当する施設について、図書館等で調べておくこと。（2時間） 復習・課題:外部講師の方のお話を整理してレポートにまとめること。（2時間） 日頃から、自分の教師適正について考えておくように。						
オフィスアワー	月曜4限、10号館4階、教員研究室。						
授業計画						担当者	
第1回	介護等体験の意義・目的（第1部1～3章）						
第2回	介護等体験の実際（第2部2章、3章）						
第3回	高齢者福祉施設の概要と介護等体験（外部）						
第4回	児童福祉施設の概要と介護等体と介護等体験（外部）						
第5回	知的障害者福祉施設と介護等体験の概要と介護等体験（外部）						
第6回	特別支援学校（養護学校）の概要と介護等体験（外部）						
第7回	特別支援学校（盲学校）と介護等体験（外部）						
第8回	まとめ・試験（第1部4章）						
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
第13回							
第14回							
第15回							
第16回							
教科書							
教・書籍名1	教師をめざす人の介護等体験ハンドブック 五訂版				教・出版社名1	大修館書店	
教・著者名1	現代教師養成研究会（編）				教・ISBN1	9.78447E+12	
教・書籍名2					教・出版社名2		

教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

Syllabus

外国語学部 外国学科

2019～2021 年度入学生

授業科目名	吉備国際大から世界へ				担当者	畠 伊智朗			
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年				ナンバリング	GE-KE-1-001			
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	30		授業形態	講義
年次	1年		開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜3限	
ディプロマポリシー対応項目									
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用			DP 3.主体的な学びと論理的な思考			DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力			DP 7. 自己効力感			DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／6. 安全な水とトイレを世界中に／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／13. 気候変動に具体的な対策を／16. 平和と公正をすべての人に 								
到達目標	テーマ： Think Globally Act Locally.グローバルに物事を見る、グローバルに考える。実践はローカルに。 到達目標： ヒト、モノ、カネ、情報が自由に世界を飛び回る時代。グローバル化、国際化が進展する現代では、グローバルな視点で日本を見直す必要がある。日本の事情・都合だけで、政治・外交、経済、企業経営などを行なうことはできない。そのため、グローバルな視点で事象を観察、評価、判断できる能力が求められる。社会科学分野の基本概念を学ぶことを通じて、グローバルな視点を学び、世界の常識を学びながら、グローバル人材としての基本的思考を確立することを目指す。								
授業概要	将来、社会で活躍する学生は、国際関係、国際経済、難民問題、その他多くのグローバル事象を複眼的に検討し、日本の事情を理解した上で、自分の意見が言える必要がある。そして、それを踏まえつつ、地域社会で実践する。それがグローバル人材。そのため、社会科学の多くの視点、手法を学びつつ、それを通じて世界の常識を認識できるようになる。グローバル人材として当然知っておくべき基本的な内容を学べる授業である。 具体的なイシューを題材として、講義を行なう。その際、経験的方法、量的論証、批判的思考方法の手法・視点を取り入れる。自己教育力を身につけてもらうため、問題解決型学習の実践も取り入れる。グループに課題を与え、実態を調査し解決策を検討する。その成果は、授業で発表を行なってもらう。 この科目が、他の教養科目の学修深化の一助となると共に、海外留学での学びや専門科目を履修する上での基礎を築くものとした。 なお、履修者の興味、関心などに基づき、ディスカッションのやり方、テーマなどは適宜調整する。								
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション								
評価方法と割合	授業への参加度・コメント（40％）、グループ・プレゼンテーション（20％）、最終レポートの成績（40％）により、総合評価をおこなう。								
ルーブリック評価									
課題や試験のフィードバック方法	グループ・プレゼンテーションの結果は、各プレゼンテーションの後で、それぞれ講評を行う。最終レポートに関しては、コメントを付し、授業または事務室を経由して、返却する。								
履修条件・注意事項	ワールドニュースを必ず観ること。チェックすること。世界で起こっていることに関して、興味関心を持つこと。 本科目は日本語教員養成コースの必修科目であり、本コースの取得を目指すものは必ず履修しなければならない。								
実務経験のある教員	該当する	内容	本講義の担当教員は、米国に通算2ヶ年留学し、国際協力機構JICAで長年勤務し、その間、コートジボアール日本大使館、JICAケニア事務所、フランスにある国際機関経済協力開発機構（OECD）に勤務した経験があるほか、多くの外国要人の接遇経験もある。 それらの実務経験で学んだ暗黙知（本、論文、ネット記事などになっていないもの）を、授業の節目節目で共有し、講義にリアリティを持たせる。						

事前学習・事後学習とその時間		毎日、新聞を読む。ネットニュースなどをチェックする。参考図書などを読んで特定テーマに関し調べることなど、授業1回当たり、事前学習1時間、復習1時間の自己学修を必要とする。	
オフィスアワー		岡山キャンパス1階117号研究室にて、毎週金曜日4限目をオフィス・アワーとします。	
授業計画		担当者	
第1回	オリエンテーション グローバル・スタディーズで学ぶこと		畝
第2回	国境とは何か？		畝
第3回	人はなぜ移動するのか？		畝
第4回	なぜ、自衛隊を軍隊と呼ばないのか？		畝
第5回	国連憲章と日本国憲法		畝
第6回	ジェンダー、LGBT、少数民族		畝
第7回	グループ・プレゼンテーション		畝
第8回	価値、価格はどのように決まるのか？		畝
第9回	自由貿易は本当に世界を豊かにするのか？		畝
第10回	産業の空洞化、技術流出とは何か？何が問題なのか？		畝
第11回	多国籍企業とは何だろうか？		畝
第12回	高齢化社会の課題		畝
第13回	世界の教育問題、日本の教育問題。		畝
第14回	なぜ、Liberal Artsを学ぶのか？		畝
第15回	グループ・プレゼンテーションと総括		畝
第16回	最終試験（レポート）		畝
教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・I S B N 1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名1	国際関係論 同時代史への羅針盤	参・出版社名1	中公新書
参・著者名1	中嶋嶺雄	参・I S B N 1	4-12-101106-6
参・書籍名2	経済学を味わう 東大1、2年生に大人気の授業	参・出版社名2	日本評論社
参・著者名2	市村英彦ほか	参・I S B N 2	978-4-535-55955-4

授業科目名	地域学概論			担当者	高橋 正巳		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-KE-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜4限 金曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	△	DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	<きびこく学・前半8回> 本学の教育目標である「地域創成に実践的に役立つ人材の養成」を達成するための導入的教育として位置づけられる科目である。テーマとしては、順正学園及び大学が、立地する地元地域社会の中で発展を遂げてきた歴史、ならびに地域の歴史や文化、人々の生活等について理解を深めるとともに、地域社会の現状を理解し、地域創成に向けて取り組むべき課題について学ぶことがあげられる。 到達目標としては次の2点があげられる。 ①順正学園及び大学の歴史ならびに地域社会の歴史的特性や現状を理解し、地域創成のための取り組むべき課題を理解できる。 ②地域創成に向けて、学生としてどのような貢献ができるか考え、チャレンジする態度を涵養できる。 <SDGs概論・後半8回> 「地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGsの必要性と意義の理解」をテーマとし、SDGsの概要について学ぶ。 到達目標は以下の通り。 ①地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGs策定の背景が理解できる。 ②SDGsについて全体像を把握し、その概要を説明できる。 ③SDGsの各目標を自分事として捉えることができる。 ④SDGsの達成に向けて必要な取り組みを実行することができる。						
授業概要	<きびこく学・前半8回> 順正学園及び大学が、立地する地域の中で発展を遂げてきた歩み(歴史)を概観するとともに、地元地域で様々な活動を展開されている方々を講師に招き、地域の歴史や文化、人々の生活ならびに地域社会の現状や課題等についてご講演いただき、地域の特性や課題について理解を深める。また、毎回の講義の中で、学生の立場で地域の課題解決や発展にどのような貢献ができるのか考え、生活の主体者として地域創成に向けて取り組む姿勢を涵養することができるよう、レポート課題に取り組む。 <SDGs概論・後半8回> 2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標SDGs」について、その背景や目的を学ぶと共に、SDGsの17の目標について概要を学ぶ。また、SDGs達成に向けて実際にどのような取り組みが行われているかを学ぶ。そして、学生自らがその実現に向け、何ができるか、また何をしなければならないかを考え、実行しようとする能力を身につける。 授業は全学科の学生が受講する合同授業と各学科の授業で構成されている。合同授業は、地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGs策定の経緯およびSDGsの概要について講義形式で教授する。各学科の授業ではグループに分かれてSDGs達成に向けた施策をまとめ、グループ毎に発表をおこない課題解決能力を養う。						
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	<きびこく学・前半8回> 毎回授業時提出のレポート評価(70%)、第8回目を行う学修成果確認レポート作成の評価(30%)により、総合的に評価する。						

	<SDGs概論・後半8回> グループでの活動及び発表を評価する(50%)。最後に筆記試験を行いSDGsの理解度を評価する(50%)。 詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。	
ループリック評価		
課題や試験のフィードバック方法	<きびこく学・前半8回> 毎回の授業でレポート提出を課すが、次回の授業時までには内容を評価し返却する。 <SDGs概論・後半8回> 振り返りレポートを評価して次回授業で返却する。	
履修条件・注意事項	<きびこく学・前半8回> 地域の様々な立場にある外部講師による有益な講義を多く導入しているので、受講態度に十分留意して毎回必ず出席すること。 受講内容に関するレポート課題には、単に感想を述べるのではなく、真摯に、積極的に取り組むこと。 <SDGs概論・後半8回> ①初回の授業には、必ず出席すること。 ②学科別授業ではグループワークを行うことから、授業を欠席しないこと。 ③合同授業日と各学科授業日があるので注意すること。	
実務経験のある教員	該当する	内容 <きびこく学・前半8回> 授業を担当する複数の講師は、いずれも学園や大学の創設に中心的役割を担い尽力した講師や、地域社会の中で様々な活動を展開している実務経験の豊富な講師である。
事前学習・事後学習とその時間	<きびこく学・前半8回> 1) 事前にユニバを通じて配布する資料に十分目を通すとともに、インターネット等を通じて授業内容に関する情報を収集するなど、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。 2) 授業後には、学修内容を振り返り、不明な点や確認したいことなどを各自で調べるなど、毎回2時間以上の事後学修を行うこと。 <SDGs概論・後半8回> ユニバで配布する資料を基に事前学修をすること。また、授業終了後は必ず復習を行うこと。予習及び復習は各2時間程度行うこと。	
オフィスアワー	<きびこく学> 1号棟2階 124研究室 毎週木曜日 4時限目がオフィスアワー <SDGs概論> 1号棟2階 124研究室 毎週木曜日 4時限目がオフィスアワー	
授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション 「きびこく学」、SDGs概論、地域学概論を学ぶ意義について	高橋
第2回	岡山地域の会社で仕事をするとは	外部講師（宮原制作所画企画部長） 高橋
第3回	順正学園及び吉備国際大学の歴史について	順正学園理事 外国学科担当教員
第4回	岡山ことばと美ことば	外部講師（オフィスSoleil代表） 高橋
第5回	中学教育で岡山地域をどう教えるか	外部講師（岡山県立岡北中学校教諭） 高橋
第6回	岡山市の健康寿命延伸施策について	外部講師（保健福祉局保健管理課） 高橋

第 7 回	岡山地域の問題発見	外部講師(元NHKディレクター) 高橋	
第 8 回	単位認定持ち帰り成果報告書	高橋	
第 9 回	<SDGs概論・後半8回> SDGsとは何かーなぜ学ぶのか(オリエンテーションを含む)	井勝久喜、外国学科担当教員	
第 1 0 回	2030アジェンダ採択までの経緯	井勝久喜、外国学科担当教員	
第 1 1 回	SDGsが目指している世界	井勝久喜、外国学科担当教員	
第 1 2 回	SDGsの17の目標	井勝久喜、外国学科担当教員	
第 1 3 回	岡山地域の問題解決	外部講師(株マイナビ) 高橋	
第 1 4 回	仕事における岡山版多様性パートナーシップ	外部講師(ど根性ファーム) 高橋	
第 1 5 回	岡山企業のサーキュラーエコノミー	外部講師(平林金属社長室 広報係)	
第 1 6 回	単位認定成果試験	高橋	
教科書			
教・書籍名 1	使用しない(毎回授業用資料を配布する)	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	『成長の限界 人類の選択』	参・出版社名 1	ダイヤモンド社
参・著者名 1	度ねラ・H / メドウズ他	参・I S B N 1	ISBN4-478-87105-1
参・書籍名 2	『正義で地球は救えない』	参・出版社名 2	新潮社
参・著者名 2	池田清彦 & 養老孟司	参・I S B N 2	ISBN978-4-10-423105-8

授業科目名	地域貢献ボランティア			担当者	大下 朋子、池上 真由美		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	GE-KE-2-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	実習
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 11. 住み続けられるまちづくりを 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリシップで目標を達成しよう						
到達目標	「地域貢献ボランティア活動を通して地域社会に積極的に参加できる人材となること」をテーマとする。外国学科のディプロマポリシーの一つとして、学生が卒業するまでに「海外の人々に自分と自国について自信を持って語り、失敗を恐れず未来に向かってチャレンジし続ける態度」を身に付けることを目標としている。本科目は、その目標を達成する一助として位置づけられた科目である。具体的には、ファジアーノ岡山のホームゲーム活動、前日準備、スタッフ交流イベントにおけるボランティア活動への参加である。学生は、ボランティアを通して、地域の人々と共にふれあい、活動することで、地域社会に貢献しようとする心や姿勢を持ち、地域社会の一員として積極的に活動できる人材の育成を到達目標とする。						
授業概要	キャリア教育の一環として社会人基礎力を身に付けるために、地域貢献ボランティアを行う。具体的には、ボランティアの社会的役割やボランティアの意義、活動時の注意事項等について学ぶ。その後、ファジアーノ岡山のホームゲーム活動、前日準備、スタッフ交流イベントにおけるボランティア活動を15コマ分（30時間以上）行なう。受講生はボランティア活動の予定表（5月～12月末まで）から活動時間が30時間以上になるよう選択し、ボランティアに参加する。学期毎に、活動報告会を設けプレゼンテーションを行う。ボランティア活動内容について活動報告書（1,000字以上）を作成する。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	ボランティア活動の内容および活動報告書、発表会内容等により、授業の到達目標についての達成度をトータルで評価する。具体的には、ボランティア活動状況60％、プレゼンテーション20％、活動報告書20％のウエイトにより評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回で取り組んだ内容（授業内容、ボランティア実習、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本科目の履修希望者は、必ず初回のオリエンテーションに参加すること。履修登録までに、大学が加盟する任意保険（学生教育研究災害傷害保険「学研災」）に加入すること。ボランティア活動時は、ボランティアカードと学生証を携帯し、受入れ事業者の指示に従い、事故に注意すること。ボランティア終了時には、活動時間を記入し、事業者に終了確認印を受領すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	地域貢献に関する実務経験者を外部講師とし、ボランティアの社会的役割やボランティアの意義を学ぶ。				
事前学習・事後学習とその時間	ボランティア活動に参加する前に、参加するボランティア活動の内容についてインターネットなどを活用して調べておくこと。また、ボランティア終了後にはその都度活動の内容について振り返りを行い、記録を整理しておくこと。予習及び復習には各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	大下(朋)：1号棟2階の個人研究室にて、毎週木曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	地域貢献ボランティアの概括					池上・大下(朋)	
第2回	ボランティア活動の説明会					外部講師・大下(朋)	
第3回	ボランティア活動					外部講師（池上・大下(朋)）	
第4回	ボランティア活動					外部講師（池上・大下(朋)）	
第5回	ボランティア活動					外部講師（池上・大下	

		(朋))
第 6 回	ボランティア活動	外部講師（池上・大下 (朋))
第 7 回	ボランティア活動	外部講師（池上・大下 (朋))
第 8 回	ボランティア活動	外部講師（池上・大下 (朋))
第 9 回	ボランティア活動	外部講師（池上・大下 (朋))
第 1 0 回	ボランティア活動	外部講師（池上・大下 (朋))
第 1 1 回	ボランティア活動	外部講師（池上・大下 (朋))
第 1 2 回	ボランティア活動	外部講師（池上・大下 (朋))
第 1 3 回	ボランティア活動	外部講師（池上・大下 (朋))
第 1 4 回	ボランティア活動	外部講師（池上・大下 (朋))
第 1 5 回	ボランティア活動	外部講師（池上・大下 (朋))
第 1 6 回	活動報告会（プレゼンテーション・活動報告書）	外部講師・池上・大下(朋)
教科書		
教・書籍名 1		教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	キャリア開発Ⅰ			担当者	高木 秀明		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-CG-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も 						
到達目標	【到達目標】社会的自立と職業的自立にむけて、自分の生き方・働き方を計画（キャリアデザイン）し、実行できる人間力と社会人意識の基礎を身につける。 キャリアとは、生涯にわたる様々な立場や役割における自己と働くこととの関係づけや価値づけで、人生そのものである。そして、キャリアデザインとは、卒業後の将来を見据えて自らの生き方・働き方を考え、計画することである。大学生活を充実させ、社会で生きていくためには、自立的・主体的に考えて行動し、問題や課題に直面したときに自分で対処し解決する力が必要となる。そのためには、社会が求める人間像（自主性、責任感、教養、分別、コミュニケーション力）について考え、自分自身を知り目標をもって実行していくことが必要である。 したがって、この科目の具体的な到達目標として、以下の3点を設定する。 ①自分自身を知り、社会を知ること、自らの将来をイメージしながら、社会に出て働く意味や自分の目標を明確化できる。 ②その目標や社会的自立に向けて、自身のキャリアをデザインし、大学生活をどのように過ごすか考え、実践できる。 ③社会人としての基礎力であるコミュニケーション能力、社会人意識、職業選択能力を向上させる。						
授業概要	授業では、キャリアとは何か、キャリアをデザインするとはどのようなことか、大学生活における心身の健康やキャリア実践活動、一般的学力（自己理解）について講義や演習を行う。また、マイステップを使用する「キャリアデザインノート」の意義や作成方法についても説明し、個人の記録として卒業まで活用していく。 授業全体を通して、「自分を知る」「社会を知る」「社会とつながる」「生き方を考える（大学生活を含む）」「働き方を考える」という5つのテーマで構成し、ワークシートやキャリアデザインノートへの記入、グループワークやディスカッションといった演習活動を行って自分の人生を考えることができるようにする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	授業時間内の活動や発言（30％）、ワークシートやキャリアデザインノートへの記入（30％）、基礎学習（kiuiドリル）実施状況（20％）、最終試験あるいはレポート（20％）で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	ワークシートやキャリアデザインノートの記入内容については、授業内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	毎回、資料やプリントを配布するので、第1回目授業からファイルを持参すること。スマートフォンの各種アプリを利用した授業、ノートPCを使つてのワークシート記入があるので毎回持参すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	第3回、4回、14回は、キャリア形成や就職支援の実務経験のある外部講師を招き、キャリアデザインの基礎となる自己理解の演習を行う。				
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、授業内で配布された資料や参考図書を読んでおく。 事後学習として、授業内で配布された資料を読み、次回までの課題が提示された回はその課題に取り組む。随時、自身のキャリア実践やプランについて「キャリアデザインノート」に記載していく。 各2時間の学修時間を目安とする。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週火曜日4時限をオフィスアワーの時間とする。 また、水曜日1～4時限は、岡山キャンパス事務室のキャリアサポートセンタースタッフにおいてキャリアに関する相談に応じる。						
授業計画						担当者	
第1回	キャリアとは何か 授業の進め方					高木	

第2回	自分を知る・生き方を考える：メンタルヘルス	高木、池本	
第3回	キャリアとは何か形成の基礎：働くとは	高木、外部講師（マイナビ）	
第4回	自分を知る：基礎学力(1回目)大学生活の基礎・大学での学び方	高木、外部講師（ラインズ・ピザビ）	
第5回	大学生活で必要なこと準備　マナー　ルール	高木、外部講師（シーズ）	
第6回	自分を知る：自分の適性を調べ仕事について知る	高木、外部講師（マイナビ）	
第7回	自分を知る：自分の持ち味が生きやすい社風	高木、外部講師（リクナビ）	
第8回	キャリア形成の基礎：対人関係	高木	
第9回	正しい情報収集：新聞の読み方	高木、外部講師（山陽新聞社）	
第10回	社会を知る・つながる：キャリア実践となる課外活動	高木、外部講師（ボランティアセンター）	
第11回	キャリアアップ：留学におけるキャリアアップ	高木、外部講師（マイナビ）	
第12回	社会を知る：業界について知識を深める	高木、外部講師（ピザビ）	
第13回	仕事研究：学科の専門生を生かす仕事先輩との体験談	高木、外部講師（卒業生）	
第14回	自分を知る基礎学力(2回目)、将来に向けて	高木、外部講師（ラインズ・マイナビ）	
第15回	まとめ：キャリアデザインノートの作成	高木	
第16回	レポート（キャリアデザインノートの提出）	高木	
教科書			
教・書籍名1	教科書は指定しない。毎回、資料やワークシートを配布する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	キャリア開発Ⅱ			担当者	高木 秀明		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	GE-CG-3-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も 						
到達目標	テーマ：自分に適している職業または進路を発見し、分析し、そして具体的に選択できるようになる。 到達目標：自分に適している職業または進路が選択できる。進路決定までの活動やその後の社会人活動において身につけるべき社会人基礎力が備わっていること。						
授業概要	就職や進学あるいはその後の社会人としての基礎力を身につけ、自分のキャリア形成をはかり、場合に応じて実践力を発揮できるようになる内容である。授業は外部講師によって構成されているが、社会で求められる人材とは何かを理解できるようになっている。グループワークなども取り入れられているが、受け身ではなく、自ら問いを立て、考えて実行する姿勢をもつことも最終目標とする。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業中に求める課題（30%）、レポート試験（70%）で評価をおこなう。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	添削のある課題は、返却し、フィードバックする。						
履修条件・注意事項	授業の配布物は、自分の就職活動などでも必要となるので、ファイルを作成して綴じることと、受講者一人ひとりが、卒業後の進路という共有しがたい情報を各回で得ることになるので、自分でノートつくること。各回で今までの回を振り返ることもあるので、1冊の専用ノートを用意することが望ましい。自己分析、業界分析を自ら行っておくこと。各種就活支援サイトやアプリを利用するため、毎回スマートフォンを充電して、出席すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習として吉備国際大学が制作したキャリアハンドブック内の各回に対応する項目ところ熟読し、不明な点は調べておくこと。授業で配布した資料をもとに毎回必ず復習すること。近い将来、それらをもとに自分自身で単独で行動することになる。						
オフィスアワー	金曜日2時限目1号棟1階114研究室にて実施。						
授業計画						担当者	
第1回	就職活動準備情報収集					高木、外部講師（マイナビ）	
第2回	インターンシップの必要性・申し込み方					高木、外部講師（シーズ）	
第3回	自分の傾向を学ぶ					高木、外部講師（リクナビ）	
第4回	自己分析・自己PR					高木、外部講師（ビザビ）	
第5回	エントリーとは・エントリーシート攻略					高木、外部講師（マイナビ・ベネッセ）	
第6回	乗り遅れるなWEB就活					高木、外部講師（シーズ）	
第7回	業界・職種を理解する					高木、外部講師（ディスコ）	
第8回	業界研究・職業教育					高木、外部講師（マイナビ）	
第9回	SPI(筆記試験)対策					高木、外部講師（リクナビ）	
第10回	社会人に必要なマナー					高木、外部講師（リクナビ）	

第 1 1 回	身だしなみ講座	高木、外部講師（JEI）	
第 1 2 回	エントリーシート攻略フォロー・自分を振り返る	高木、外部講師（ベネッセ）	
第 1 3 回	履歴書の書き方・応募書類の出し方	高木、外部講師（マイナビ）	
第 1 4 回	面接対策・GD/集団/個人/WEB	高木、外部講師（ビザビ）	
第 1 5 回	まとめ 内定お礼・内定辞退お詫び	高木、外部講師（マイナビ）	
第 1 6 回	単位認定試験－レポート試験	高木	
教科書			
教・書籍名 1	毎回、資料を配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	情報処理Ⅰ（Ａクラス）			担当者	佐藤 匡		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-IT-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	△	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう  						
到達目標	全学共通の基礎教育科目として、高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる必要最低限の一般教養としてのコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、学科のディプロマポリシーに従って、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。						
授業概要	情報モラルとセキュリティ、情報システムの利用と社会問題、OSの基本操作、インターネットの閲覧とブラウザの基本操作、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用、ネットワーク、インターネットによる情報検索、コンピュータによる問題解決、ハードウェアとソフトウェア、デジタルデータのしくみなどについて学習する。 講義の内容に対応して、パソコンを使用し適宜演習が行われる。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	「コンピュータスキル」の定着を確認するため、講義内で用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物30%、試験の成績を40%として最終的に総合評価が行われる。これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準とされる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	教科書は必ず初回の講義から持参すること。 講義は指定されたクラス・講義室で受講すること（受講者数はパソコン教室の定員以内とする）。 オリエンテーション等で、講義が始まる前までにコンピュータリテラシーのスキルを調べる「技能確認シート」が実施される場合がある。このシート未受験者の履修はその理由によっては認められないこともある。 高校までで習得したコンピュータリテラシーを踏まえた講義であるため、受講前までに高校で得た知見を十分復習しておくこと。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。						
実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員は、前職で企業のIT部門（システム管理部門）に従事し、パソコンと汎用コンピュータと電話回線を組み合わせた比較的規模の大きい基幹システムから、パソコンによる段ボール箱設計と段ボール箱へのデザインを作るDTPシステムまでを開発運用した経験を持つ。その他データウェアハウスによるOLAPの運用経験を持つほか、労働省（当時）が全国で運営するコンピュータカレッジの中の一校においてCGコースを2年間担当した経験を持つ。				
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。						
	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日 3 時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日 4 時限目						

オフィスアワー		秋学期：	
		岡山キャンパス131研究室火曜日 2 時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日 3 時限目	
		予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。	
		授業計画	
第 1 回	オリエンテーション（クラス・教科書、ログイン等確認、Teamsの操作）		佐藤
第 2 回	パソコンのハードウェアと周辺機器		佐藤
第 3 回	デジタルデータのしくみ（ビット/バイト・標準化・コード）		佐藤
第 4 回	OSとアプリケーション		佐藤
第 5 回	ファイルシステム操作		佐藤
第 6 回	文書作成（ワープロソフト）操作		佐藤
第 7 回	文書作成（ワープロソフト）課題		佐藤
第 8 回	表計算ソフト操作		佐藤
第 9 回	表計算ソフト課題		佐藤
第 1 0 回	プレゼンテーションソフト操作		佐藤
第 1 1 回	プレゼンテーションソフト課題		佐藤
第 1 2 回	ネットワークとインターネット		佐藤
第 1 3 回	インターネットによる情報検索・情報セキュリティ		佐藤
第 1 4 回	コンピュータの歴史・コンピュータによる問題解決		佐藤
第 1 5 回	情報モラルと社会問題、まとめ・質疑		佐藤
第 1 6 回	単位認定試験		佐藤
教科書			
教・書籍名 1	情報リテラシー 入門編 Windows 11 / Office 2021対応 FPT2117		教・出版社名 1 FOM出版
教・著者名 1			教・ I S B N 1 978-4-938927-54-7
教・書籍名 2			教・出版社名2
教・著者名2			教・ I S B N 2
参考書			
参・書籍名 1			参・出版社名 1
参・著者名 1			参・ I S B N 1
参・書籍名 2			参・出版社名2
参・著者名2			参・ I S B N 2

授業科目名	情報処理Ⅰ（Ｂクラス）			担当者	高木 秀明		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-IT-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3.主体的な学びと論理的な思考	△	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう  						
到達目標	全学共通の基礎教育科目として、高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間で、大学生に必要とされる必要最低限の一般教養としてのコンピュータスキルを身につけることを到達目標とする。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、学科のディプロマポリシーに従って、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。						
授業概要	情報モラルとセキュリティ、情報システムの利用と社会問題、OSの基本操作、インターネットの閲覧とブラウザの基本操作、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用、ネットワーク、インターネットによる情報検索、コンピュータによる問題解決、ハードウェアとソフトウェア、デジタルデータのしくみなどについて学習する。 講義の内容に対応して、パソコンを使用し適宜演習が行われる。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	「コンピュータスキル」の定着を確認するため、講義内で用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物30%、試験の成績を40%として最終的に総合評価が行われる。これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準とされる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	教科書は必ず初回の講義から持参すること。 講義は指定されたクラス・講義室で受講すること（受講者数はパソコン教室の定員以内とする）。 オリエンテーション等で、講義が始まる前までにコンピュータリテラシーのスキルを調べる「技能確認シート」が実施される場合がある。このシート未受験者の履修はその理由によっては認められないこともある。 高校までで習得したコンピュータリテラシーを踏まえた講義であるため、受講前までに高校で得た知見を十分復習しておくこと。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。						
オフィスアワー	火曜日4時限、1号棟1階114研究室で実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション（クラス・教科書、ログイン等確認、Teamsの操作）						高木
第2回	パソコンのハードウェアと周辺機器						高木
第3回	デジタルデータのしくみ（ビット/バイト・標準化・コード）						高木
第4回	OSとアプリケーション						高木
第5回	ファイルシステム操作						高木
第6回	文書作成（ワープロソフト）操作						高木

第 7 回	文書作成（ワープロソフト）課題	高木
第 8 回	表計算ソフト操作	高木
第 9 回	表計算ソフト課題	高木
第 1 0 回	プレゼンテーションソフト 操作	高木
第 1 1 回	プレゼンテーションソフト 課題	高木
第 1 2 回	ネットワークとインターネット	高木
第 1 3 回	インターネットによる情報検索・情報セキュリティ	高木
第 1 4 回	コンピュータの歴史・コンピュータによる問題解決	高木
第 1 5 回	情報モラルと社会問題、まとめ・質疑	高木
第 1 6 回	単位認定試験	高木
教科書		
教・書籍名 1	情報リテラシー 入門編 Windows11/Office2021対応（FPT2117）	教・出版社名 1 FOM出版
教・著者名 1		教・ I S B N 1 978-4-938927-54-7
教・書籍名 2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ I S B N 2

授業科目名	情報処理Ⅱ			担当者	佐藤 匡		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-IT-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	△	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 17. パートナリシップで目標を達成しよう						
到達目標	政府の「AI戦略2019」（2019年6月策定）にて、リテラシー教育として、文理を問わず、全ての大学・高専生（約50万人卒/年）が、課程にて初級レベルの数理・データサイエンス・AIを習得する、とされたことを踏まえ、各大学・高専にて参照可能な「モデルカリキュラム」が数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアムにおいて検討・策定された。本講義はそのリテラシーレベルのモデルカリキュラムに従ったものである。 到達目標は、今後のデジタル社会において、数理・データサイエンス・AIを日常の生活、仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けること。そして、学修した数理・データサイエンス・AIに関する知識・技能をもとに、これらを扱う際には、人間中心の適切な判断ができ、不安なく自らの意志でAI等の恩恵を享受し、これらを説明し、活用できるようになること。である。 （数理・データサイエンス・AI（リテラシーレベル）モデルカリキュラム～データ思考の涵養～2020年4月 数理・データサイエンス教育強化拠点コンソーシアム 2枚目）						
授業概要	社会のグローバル化や産業構造の変化が加速している。そういった現代では、文系・理系を問わず、社会の実データ、実課題を適切に読み解き、自身で適切に判断し行動することが、よりよく生きる上で求められている。また、社会における様々な問題の解決・新しい課題の発見のため、データから新しい価値を創造できる人材が強く求められている。そのため、この講義では、様々な分野のデータを分析するための数理・データサイエンス・AIの基礎を学ぶ。 前半では、数理・データサイエンス・AIが必要とされる背景やその仕組みを学習、理解する。後半では、実際に手を動かして、プログラミングを行う。						
アクティブラーニングの内容	実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「数理・データサイエンス・AI基礎」の予習復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物50%、データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を20%として最終的に総合評価が行われる。これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準となる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	受講者数は、30人以内とする。そのため抽選となることがある。 抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 第1回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。						
実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員が理事を務めているNPO全国要約筆記問題研究会（会員数約1,300人）では、全国の自治体に対して要約筆記者養成の現状調査を行っている。また、パソコン要約筆記全体投影の読みやすさについて、首都圏の聴覚障がい者にアンケートや読みやすさの調査を行っている。その分析では本講義のデータサイエンスの知識が活用されている。				
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。						

	予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。		
オフィスアワー	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日 3 時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日 4 時限目 秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日 2 時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日 3 時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。		
授業計画		担当者	
第 1 回	オリエンテーション・スキル確認テスト 導入とAIの定義とAIリテラシー		佐藤 匡
第 2 回	ビッグデータと社会の変化		佐藤 匡
第 3 回	社会で活用されているデータ		佐藤 匡
第 4 回	データ・AIの活用領域の広がり		佐藤 匡
第 5 回	データ・AIの技術		佐藤 匡
第 6 回	データサイエンス		佐藤 匡
第 7 回	データ・AIを活用するときの負の側面		佐藤 匡
第 8 回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（考え方）		佐藤 匡
第 9 回	データ・AIにまつわる倫理とセキュリティ（事例）		佐藤 匡
第 1 0 回	AIとアルゴリズム		佐藤 匡
第 1 1 回	データの構造とプログラミング		佐藤 匡
第 1 2 回	データの利活用方法		佐藤 匡
第 1 3 回	時系列データと文章データの分析例		佐藤 匡
第 1 4 回	教師あり学習と教師なし学習		佐藤 匡
第 1 5 回	データ・AI利活用における留意事項		佐藤 匡
第 1 6 回	まとめと筆記試験・評価		佐藤 匡
教科書			
教・書籍名 1	はじめてのAIリテラシー	教・出版社名 1	技術評論社
教・著者名 1	岡嶋裕史、吉田雅裕 著	教・ I S B N 1	978-4-297-12038-2
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	フランス語Ⅰ			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-LF-1-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	テーマ：「フランスの文化を理解し、かんたんなフランス語を話す」 到達目標：学生はフランスの文化について教養として語れるようになる。それらをフランス語で読み・発音できるようになる。フランスを旅行したときなどに、あいさつやかんたんな会話ができるようになる。						
授業概要	この講義は、一方向のレクチャーではなく、参加型双方向の授業で、フランス語のスキル習得のため、できるだけ大きな声を出して繰り返し発音することが求められる。フランス語の音節を正しく発音するための方法を知り、綴り字を正しく読むための理論と基礎文法を理解し、初歩的かつ日常的なフランス語会話に必要な語彙と例文を、フランスの歴史・地理・文化のなかから代表的なものを繰り返し発音して、暗唱できるようにする。初心者対象で、ABCと発音／つづり字の読み方から始められ、名詞・形容詞の性・数や冠詞などの基本文法が文化を学ぶなかで理解できるよう説明される。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「フランスの文化について教養として語れるようになる」という目標に対して、各自作成した報告書を提出する。「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業で質問に答えたり発表したりする。それらで総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための筆記試験を行って評価する。参加型学習を主体としていることから、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。授業毎試験（60％）、単位認定試験（40％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。						
履修条件・注意事項	毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に黒板に板書されたキーワードを読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また事後学習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に提出（または発表）すること毎週、課題が出される。その課題について必ずノートを作成する必要がある。予習復習には各2時間程度を要する。その課題テーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。それに基づいて、参加型授業が行われるので、復習・予習は必須である。各2時間の学修時間を目安とする。						
オフィスアワー	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	スポーツ①ツール・ド・フランス					加藤健次	
第2回	映画①ヌーヴェル・ヴァーグから最強の二人まで					加藤健次	
第3回	音楽①サガンとブラームスはお好き？					加藤健次	
第4回	建築①ロマネスク様式					加藤健次	
第5回	食①パン					加藤健次	
第6回	旅①ブルターニュとモンサンミッシェル					加藤健次	
第7回	歴史①マリーアントワネット					加藤健次	
第8回	スポーツ②その他の自転車ロードレースとル・マン24時間耐久レース					加藤健次	
第9回	美術②ピカソ、マチス、キュビズムと現代アート					加藤健次	
第10回	音楽②ピアフとシャンソンの世界					加藤健次	

第 1 1 回	建築②ゴシック様式	加藤健次	
第 1 2 回	食②お菓子とショコラ	加藤健次	
第 1 3 回	旅②ロワール川と城	加藤健次	
第 1 4 回	文学①詩：ボードレールからコクトーまで	加藤健次	
第 1 5 回	旅③ブルゴーニュとヴェズレー教会	加藤健次	
第 1 6 回	筆記試験	加藤健次	
教科書			
教・書籍名 1		教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	はじめて学ぶフランスの歴史と文化	参・出版社名 1	ミネルヴァ書房
参・著者名 1	上垣 豊（編）	参・ I S B N 1	ISBN-10 : 4623087786 ISBN-13 : 978-4623087785
参・書籍名 2	ゼロからスタート フランス語 会話編	参・出版社名 2	Jリサーチ出版
参・著者名 2	鈴木文恵(著)	参・ I S B N 2	I S B N 1978-4-86392-103-0

授業科目名	フランス語Ⅱ			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-LF-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	テーマ：「フランスの文化を理解し、日常的なフランス語を話すことができるようになる」 到達目標：学生はフランスの文化について理解する。それらをフランス語で読み・発音できるようになる。フランスを旅行した時などに、あいさつやその場に応じた会話ができるようになる。						
授業概要	これまでに習った文法や基本構文を復習しながら、フランス文化に関する練習問題をていねいに解いていく。フランス文化に関係した会話例文を正確に音読する指導を受ける。次週までに、それらを口に出して言えるようにしてくる。授業では、その例文を暗唱する。これを繰り返すことでフランスに精通し、フランス語の語彙力や発話力を身につけよう。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「フランスの文化について教養として語れるようになる」という目標に対して、各自作成した報告書を提出する。「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業で質問に答えたり発表したりする。それらで総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための筆記試験を行って評価する。参加型学習を主体としていることから、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。授業毎試験（60％）、単位認定試験（40％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。						
履修条件・注意事項	毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に黒板に板書されたキーワードを読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また事後学習として、毎回課題を出すので、次の授業時に提出（または発表）すること毎週、課題が出される。その課題について必ずノートを作成する必要がある。予習復習には各2時間程度を要する。その課題テーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。それに基づいて、参加型授業が行われるので、復習・予習は必須である。各2時間の学修時間を目安とする。						
オフィスアワー	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	スポーツ③サッカー・リーグ・アン					加藤健次	
第2回	美術③マグリットとシュールレアリスム					加藤健次	
第3回	音楽③サティとミニマルミュージック					加藤健次	
第4回	建築③ルネサンス・バロック様式					加藤健次	
第5回	食③チーズ					加藤健次	
第6回	旅④プロヴァンスとアルル					加藤健次	
第7回	文学②文学②サンテグジュペリ『星の王子さま』					加藤健次	
第8回	スポーツ④ベタンク					加藤健次	
第9回	美術④スーラージュ、クラインに見る現代アート					加藤健次	
第10回	音楽④ジプシー音楽とジャズマヌーシュ					加藤健次	
第11回	食④ワイン					加藤健次	

第 1 2 回	旅⑤サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路	加藤健次	
第 1 3 回	哲学①デカルトと主体の哲学	加藤健次	
第 1 4 回	文学②文学③小説：ユゴーからル・クレジオまで	加藤健次	
第 1 5 回	食⑤Menuとコース料理	加藤健次	
第 1 6 回	筆記試験	加藤健次	
教科書			
教・書籍名 1		教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	はじめて学ぶフランスの歴史と文化	参・出版社名 1	ミネルヴァ書房
参・著者名 1	上垣 豊（編）	参・ I S B N 1	ISBN-10：4623087786 ISBN-13：978-4623087785
参・書籍名 2	ゼロからスタート フランス語 会話編	参・出版社名 2	Jリサーチ出版
参・著者名 2	鈴木文恵(著)	参・ I S B N 2	I S B N 1978-4-86392-103-0

授業科目名	ドイツ語Ⅰ			担当者	清水 光二			
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-LG-1-001			
必修・選択	選択	単位数	2単位		時間数	30	授業形態	演習
年次	1年		開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜1限
ディプロマポリシー対応項目								
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力		
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目		
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 							
到達目標	学生は「ドイツ語Ⅰ」の終了時には、初歩的かつ日常的なドイツ語会話において使用されている定型的で平易な語句や文章を、話せたり・読んだり・聞き取ったりできるようになる。それに向けての個別目標だが、ドイツ語を正しく発音するためのルールを知り、併せて動詞や名詞を中心とした基礎的な文法を段階的に習得することになる。							
授業概要	この講義は、ドイツ語の初学者を対象にしている。春学期を通して学修する項目は、大体以下のような内容である。つづりと発音の関係、挨拶等の定型表現、自己紹介と他者紹介、辞書の案内と使い方、人称代名詞、規則動詞と不規則動詞の現在人称変化、名詞の性・数・格、前置詞、定冠詞、不定冠詞など。それに加え、定型的な日常口語表現を通して、コミュニケーションの初歩も学ぶ。なお、今回この授業で使うテキストはドイツ語の総合的な文法読本であり、ドイツの社会・文化・歴史などについても学ぶことができ、異質な文化や社会にたいする理解を深めることにもなる。							
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）							
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50％）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50％）を合計して総合的に評価する。							
ルーブリック評価								
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。							
履修条件・注意事項	語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはいりえないことである。毎回の授業では何かきくと発表等をやれされるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的参加態度および課題発表」の評価につながるのである。テキストの会話・読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後の予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくる。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。							
実務経験のある教員	該当しない	内容						
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語を初めて学ぶ者にとって、教師により説明される文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分については学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業においてその準備の成果を発表することが求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週2時間程度である。							
オフィスアワー	個人研究室（2号館6階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。							
授業計画							担当者	
第1回	オリエンテーション ドイツおよびドイツ語とは アルファベット ドイツ語の発音（母音）						清水光二	
第2回	ドイツ語の発音（子音） 挨拶表現						清水光二	
第3回	ドイツ語の発音（まとめ） 挨拶表現の復習						清水光二	
第4回	Lektion 1 Was lernst du? 動詞の現在人称変化						清水光二	
第5回	Lektion 1 Was lernst du? 定動詞第2位の原則 seinの現在人称変化						清水光二	
第6回	Lektion 2 Hast du Geschwister? 名詞の性と格 定冠詞の格変化						清水光二	
第7回	Lektion 2 Hast du Geschwister? 不定冠詞の格変化 habenの現在人称変化						清水光二	
第8回	Lektion 3 Wann fährst du nach München? 不規則な現在人称変化						清水光二	
第9回	Lektion 3 Wann fährst du nach München? 命令形						清水光二	
第10回	Lektion 4 Welche Uhr kaufst du? 定冠詞類						清水光二	
第11回	Lektion 4 Welche Uhr kaufst du? 不定冠詞類 所有冠詞						清水光二	
第12回	Lektion 5 Kaufst du diese Bücher? 複数形						清水光二	

第 1 3 回	Lektion 5 Kaufst du diese Bücher? 人称代名詞	清水光二	
第 1 4 回	Lektion 6 Was machst du an diesem Wochenende? 前置詞の格支配 2格支配／3格支配	清水光二	
第 1 5 回	Lektion 6 Was machst du an diesem Wochenende? 前置詞の格支配 4格支配／3・4格支配	清水光二	
第 1 6 回	筆記試験	清水光二	
教科書			
教・書籍名 1	パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール[三改版]	教・出版社名 1	白水社
教・著者名 1	上野成利、本田雅也	教・ I S B N 1	ISBN 978-4-560-06420-7
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	文法からマスター! はじめてのドイツ語	参・出版社名 1	ナツメ社
参・著者名 1	小野寺 賢一	参・ I S B N 1	ISBN-10: 481635137X
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	ドイツ語Ⅱ			担当者	清水 光二		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-LG-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	学生は「ドイツ語Ⅱ」の終了時には、日常的な会話において使用されている定型的で平易な語句や文章を、話せたり・読んだり・聞き取ったりできるようになる。それに向けての個別目標だが、ドイツ語の基礎的な文法を学びながら（英語との比較も行いつつ）、ドイツ語特有の語法を品詞別あるいは時制別に段階的に理解することになる。						
授業概要	この講義は、「ドイツ語Ⅰ」を終了した学生を対象にしている。秋学期を通して学習する主な文法項目は、大体以下のようなものになっている。分離動詞・非分離動詞、接続詞、副文、再帰代名詞、再帰動詞、動詞の過去形と現在完了形、接続法など。文法事項については教師によって説明がなされるが、その後の練習問題や会話・読本部分については毎回学生の積極的な取り組みが求められる。そのためには、授業以外での予習や復習がどうしても必要となる。なお、今回この授業で使うテキストは総合的な文法読本であり、ドイツ語圏の習慣や日常といった文化一般、社会問題等にも触れながら楽しく初級ドイツ語を学べる内容となっている。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	予習や復習を前提にした授業への積極的な参加態度および課題発表（50％）と、知識の修得程度を確認するための定期試験（50％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業でフィードバックするので見直しておくこと。						
履修条件・注意事項	語学の授業であるから、ただじっと座って聞いているだけというのはいりえないことである。毎回の授業では何かきくと発表等をやれられるものと、覚悟して授業に臨む必要がある。それが、「授業への積極的な参加態度および課題発表」の評価につながるのである。テキストの会話・読本部分や練習問題は学生が本来主体的にやるべきところなので、それを自力でうまくやるためには、毎回の授業前後の予習や復習がどうしても必要となってくる。なお、辞書は購入し、毎回持ってくる。定期試験の際にも辞書の持ち込みは可能とするが、普段使っていないとドイツ語の場合本番の時にまるで役に立たないということになるので、注意しておく必要がある。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	ドイツ語を初めて学ぶ者にとって、教師により説明される文法事項についての授業外での予習・復習は必須である。教科書の練習問題や会話・読本部分については学生の事前の予習を前提としており、毎回の授業においてその準備の成果を発表することが求められている。なお、予習と復習に要する時間は、それぞれ毎週2時間程度である。						
オフィスアワー	個人研究室（2号館6階263室）にて、月曜2限目と火曜2限目に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	Lektion 7 Was liest du gern? 形容詞の格変化					清水光二	
第2回	Lektion 8 Wohin willst du gehen? 話法の助動詞					清水光二	
第3回	Lektion 8 Wohin willst du gehen? 未来形					清水光二	
第4回	Lektion 9 Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt? 分離動詞					清水光二	
第5回	Lektion 9 Ich weiß nicht, wann der Zug abfährt? 接続詞と副文					清水光二	
第6回	Lektion 10 Hast du vor, München zu besuchen? zu不定詞					清水光二	
第7回	Lektion 10 Hast du vor, München zu besuchen? 再帰代名詞					清水光二	
第8回	Lektion 11 Als ich das Museum besuchte, … 動詞の3基本形					清水光二	
第9回	Lektion 11 Als ich das Museum besuchte, … 過去形					清水光二	
第10回	Lektion 12 Hast du Weimar besucht? 現在完了形					清水光二	
第11回	Lektion 12 Hast du Weimar besucht? 非人称表現					清水光二	
第12回	Lektion 13 Es wird gesagt, dass … 受動態					清水光二	

第 1 3 回	Lektion 13 Es wird gesagt, dass … 比較表現	清水光二	
第 1 4 回	Lektion 14 Was ist das beste Buch, das du je gelesen hast? 関係代名詞	清水光二	
第 1 5 回	Lektion 14 Was ist das beste Buch, das du je gelesen hast? 不定関係代名詞	清水光二	
第 1 6 回	筆記試験	清水光二	
教科書			
教・書籍名 1	パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール[三改版]	教・出版社名 1	白水社
教・著者名 1	上野成利、本田雅也	教・ I S B N 1	ISBN 978-4-560-06420-7
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	文法からマスター! はじめてのドイツ語	参・出版社名 1	ナツメ社
参・著者名 1	小野寺 賢一	参・ I S B N 1	481635137X
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	中国語Ⅰ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-LC-1-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能の習得（入門編）。 到達目標： 学生は中国語を正しく発音するための方法を知り、初歩的な文法事項を理解し、初歩的かつ日常的な中国語会話に必要な語彙と文を読んだり聞き取ったりすることができるようになる。						
授業概要	中国語での読む・書く・話す力を伸ばすためには、まず発音を完全にマスターする必要がある。中国語には日本語にない捲舌音や有気音があり、発音が難しい。そのため、2ヶ月近く徹底的に練習を繰り返す。その後、初級文法や簡単な日常会話を練習することにより、前期終了時には挨拶や自己紹介ができるようになる。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「中国語を正しく発音するための方法を知り、初歩的な文法事項を理解し、初歩的かつ日常的な中国語会話に必要な語彙と文を読んだり聞き取ったりすることができるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（70％）、小テスト（20％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（10％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能ないようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3）予習及び復習にが、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	1、中国語の声調に関する解説及び発声リズムの練習 2、単母音の発声練習					孫基然	
第2回	1、声調発声リズムの復習 2、単母音の発声復習 3、複合母音の発声練習					孫基然	
第3回	1、声調発声リズムの復習 2、単母音の発声復習 3、複合母音の発声復習 4、鼻音の発声練習					孫基然	
第4回	1、発音の復習 2、そり舌音の発声練習					孫基然	
第5回	1、発音の復習 2、子音の発声練習					孫基然	
第6回	1、発音総合復習 2、発音小テスト					孫基然	

	3、実施した小テストをフィードバックする。	
第7回	1、声調符号をつける位置 2、声調の変化 3、よく使うフレーズ	孫基然
第8回	1、人称代名詞 2、判断文 3、普通疑問文	孫基然
第9回	1、副詞「也」 2、副詞「的」 3、普通疑問文	孫基然
第10回	1、「喜歡」の使い方 2、形容詞述語文	孫基然
第11回	1、省略疑問文 2、年齢の聞き方と使い分け	孫基然
第12回	1、所有を表す「有」 2、完了を表す「了」 3、推測表現	孫基然
第13回	1、時刻の言い方 2、量詞の使い方	孫基然
第14回	1、省略疑問文 2、進行表現	孫基然
第15回	1、提案や勧誘の使い方 2、二重目的語を取る動詞	孫基然
第16回	筆記試験	孫基然
教科書		
教・書籍名1	中国への旅	教・出版社名1 朝日出版社
教・著者名1	山下輝彦、黄漢青	教・ISBN1 978-4-255-45332-3
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	中国語Ⅱ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-LC-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能の習得（基礎編）。 到達目標： 学生は前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準4級の獲得へつなげていくことができるようになる。						
授業概要	中国語には、日本語にない捲舌音や有気音があり、発音が難しい。そのため、2ヵ月近く徹底的に練習を繰り返す必要がある。その後、初級文法や簡単な日常会話を練習し、Ⅱの終了時には挨拶や自己紹介ができるようになる。基礎的な文法事項、表現等を会話や筆記練習等で理解を深め、会話力、読解力、応用力を高める。担当教員は毎回必ず課題として出された単語や基本構文の暗唱をチェックする。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準4級の獲得へつなげていくことができるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（70％）、小テスト（20％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（10％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能なようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3）予習及び復習にが、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	1、助動詞「会」と「能」 2、選択疑問文					孫基然	
第2回	1、助動詞「想」 2、反復疑問文					孫基然	
第3回	1、経験表現 2、連動文					孫基然	
第4回	1、時量補語 2、存在表現					孫基然	
第5回	1、助動詞「会」と「能」 2、選択疑問文 3、比較表現					孫基然	
第6回	1、介詞「離」、「従」と「往」の使い方 2、動作の方式を表す「着」					孫基然	

	3、比較表現	
第 7 回	1、逆接を表す「雖然……、但是」 2、「的」の使い方 3、結果補語	孫基然
第 8 回	中間テスト	孫基然
第 9 回	中間テストをフィードバックする。	孫基然
第 1 0 回	1、逆接を表す「雖然……、但是」 2、「的」の使い方	孫基然
第 1 1 回	1、未来を表す表現 2、方法や方式を訪ねる表現	孫基然
第 1 2 回	1、介詞「給」 2、仮定表現	孫基然
第 1 3 回	1、「太……了」の文型 2、人民元の数え方 3、割引の言い方	孫基然
第 1 4 回	1、動詞の重ね型 2、「一边」と「一点」	孫基然
第 1 5 回	1、程度補語 2、介詞「為了」 3、方向補語と兼語文	孫基然
第 1 6 回	筆記試験	孫基然
教科書		
教・書籍名 1	中国への旅	教・出版社名 1 朝日出版社
教・著者名 1	山下輝彦、黄漢青	教・ I S B N 1 978-4-255-45332-3
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	日本語ⅠA（Ａクラス）			担当者	小西 真弓		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-LJ-1-001		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語初中級、中級レベルの文字、語彙、文法、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は他の日本語関連科目Ⅰと併せて、初中級、中級の「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」の4技能を習得することができる。到達目標は、日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50％）、小テスト（20％）、学習意欲・態度（30％）によって総合的に行う。 この総合評価に加え、日本語能力試験N2の可否結果を加味し、最終的な単位認定を行う。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続すること。N2に合格しなければ、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使つての文作などの課題を提出してもらおう。 採点し、フィードバックする。						
履修条件・注意事項	プレイスメントテストの結果で、習熟度別に2クラスに編成する。N2を取得していない学生は、2年次に開講される日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できないので、本講義の受講中にN2を取得すること。なお、日本語能力試験N1の取得者でプレイスメントテストにて日本語科目の履修を免除された学生は、日本人と同様に、外国語科目を履修しなければならない。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。						

オフィスアワー		授業終了後、休憩時間、教室にて	
授業計画		担当者	
第1回	オリエンテーション レベル確認テスト	小西真弓	
第2回	内容理解問題：短文－単問 中文－単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第3回	内容理解問題：短文－単問 中文－単問 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第4回	内容理解問題：中文－複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第5回	内容理解問題：中文－複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第6回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第7回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第8回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第9回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第10回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第11回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第12回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第13回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第14回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記	小西真弓	
第15回	総括、確認テスト	小西真弓	
第16回	単位認定筆記試験	小西真弓	
教科書			
教・書籍名1	日本語能力試験対策N3 文法・語彙・漢字	教・出版社名1	三修社
教・著者名1	山田光子	教・ISBN1	978-4-384-05950-2
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	ドリル＆ドリル日本語能力試験N3文字語彙	参・出版社名1	UNICOM

参・著者名 1	星野恵子・辻和子	参・ I S B N 1	978-4-89689-487-5
参・書籍名 2	日本語能力試験問題集 スピードマスターN3 読解	参・出版社名2	Jリサーチ出版
参・著者名2	渡邊亜子・菊池民子 共著	参・ I S B N 2	978-4-86392-034-7

授業科目名	日本語ⅠA（Ｂクラス）			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-LJ-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう  						
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。学生は、日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになる。						
授業概要	この講義は「文法」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）と読解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)によって総合的に行う。この総合評価に加え、日本語能力試験N2の可否結果を加味し、最終的な単位認定を行う。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続すること。N2合格しなければ、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	プレースメントテストの結果で、習熟度別に2クラスに編成する。N2を取得していない学生は、2年次に開講される日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できないので、本講義の受講中にN2を取得すること。なお、日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。各2時間の予習と復習に努めること。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週水曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					大下(朋)	
第2回	1課：～とき・～直後に					大下(朋)	
第3回	2課：～している（進行中）					大下(朋)	
第4回	3課：～後で					大下(朋)	
第5回	4課：範囲の始まりと終わり・その間					大下(朋)	
第6回	5課：～だけ					大下(朋)	
第7回	6課：～だけではなく、それに加えて					大下(朋)	
第8回	中間テスト（1～6課）／試験対策					大下(朋)	
第9回	7課：～について、～を相手にして					大下(朋)	
第10回	8課：～を基準にして					大下(朋)	
第11回	9課：～に関連して、～に対応して					大下(朋)	
第12回	10課：～や～など					大下(朋)	
第13回	11課 ～に関係なく・無視して					大下(朋)	
第14回	12課 強く否定する・強く否定しない					大下(朋)	
第15回	13課 ～（話題）は					大下(朋)	
第16回	単位認定試験（筆記試験）					大下(朋)	
教科書							

教・書籍名 1	新完全マスター文法 日本語能力試験N2	教・出版社名 1	スリーエーネットワーク
教・著者名 1	友松悦子	教・ I S B N 1	978-4883195657
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	日本語ⅠB（Ａクラス）			担当者	小西 真弓		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
ＤＰ１．知識・技能		ＤＰ２．情報の活用		ＤＰ３．主体的な学びと論理的な思考		ＤＰ４．コミュニケーション・表現力	
ＤＰ５．グローバルな視野と地域貢献活動		ＤＰ６．課題解決力		ＤＰ７．自己効力感		ＤＰ８．学科項目	
ＳＤＧｓ関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語初中級、中級レベルの文字、語彙、文法、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は他の日本語関連科目Ⅰと併せて、初中級、中級の「読む」・「書く」・「聞く」・「話す」の4技能を習得することができる。到達目標は、日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。学生は日本語能力試験N2合格を目指して、N2レベルの言語知識（文字・語彙・文法など）の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を身につける。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50％）、小テスト（20％）、学習意欲・態度（30％）によって総合的に行う。 この総合評価に加え、日本語能力試験N2の可否結果を加味し、最終的な単位認定を行う。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続すること。N2に合格しなければ、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することはできない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使っのての文作などの課題を提出してもらう。 採点し、フィードバックする。						
履修条件・注意事項	プレイスメントテストの結果で、習熟度別に2クラスに編成する。N2を取得していない学生は、2年次に開講される日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できないので、本講義の受講中にN2を取得すること。なお、日本語能力試験N1の取得者でプレイスメントテストにて日本語科目の履修を免除された学生は、日本人と同様に、外国語科目を履修しなければならない。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、						

の時間		授業後は授業内容の見直しや課題（N2t対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。	
オフィスアワー		授業終了後、休憩時間、教室にて	
		授業計画	担当者
第1回	オリエンテーション レベル確認テスト		小西真弓
第2回	内容理解問題：短文－単問 中文－単問 文字・語彙：漢字読み、表記		小西真弓
第3回	内容理解問題：短文－単問 中文－単問 文字・語彙：漢字読み、表記		小西真弓
第4回	内容理解問題：中文－複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記		小西真弓
第5回	内容理解問題：中文－複問 長文 文字・語彙：漢字読み、表記		小西真弓
第6回	日本語能力試験 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記		小西真弓
第7回	日本語能力試験 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記		小西真弓
第8回	日本語能力試験 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記		小西真弓
第9回	日本語能力試験 模擬試験・解説 文字・語彙：漢字読み、表記		小西真弓
第10回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記		小西真弓
第11回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記		小西真弓
第12回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙：漢字読み、表記		小西真弓
第13回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記		小西真弓
第14回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙：漢字読み、表記		小西真弓
第15回	総括、確認テスト		小西真弓
第16回	単位認定筆記試験		小西真弓
教科書			
教・書籍名1	日本語能力試験対策N3 文法・語彙・漢字	教・出版社名1	三修社
教・著者名1	山田光子	教・ISBN1	978-4-384-05950-2
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	

参考書			
参・書籍名 1	ドリル＆ドリル日本語能力試験N3文字語彙	参・出版社名 1	UNICOM
参・著者名 1	星野恵子・辻和子	参・ I S B N 1	978-4-89689-487-5
参・書籍名 2	日本語能力試験問題集 スピードマスターN3読解	参・出版社名2	Jリサーチ出版
参・著者名2	渡邊亜子・菊池民子 共著	参・ I S B N 2	978-4-86392-034-7

授業科目名	日本語ⅠB（Ｂクラス）			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-LJ-1-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文法・語彙、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目Ⅰと併せて、中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	この講義は「文法」を中心に学習を進める。講義内で小テストなどを導入し、日本語能力試験N2レベルの言語知識（文字語彙・文法など）を修得する。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)によって総合的に行う。最終的な単位認定は日本語能力試験N2の合格結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	プレースメントテストの結果で、習熟度別に2クラスに編成する。N2を取得していない学生は、2年次に開講される日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できないので、本講義の受講中にN2を取得すること。なお、日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週水曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション						大下 朋子
第2回	11課 ～に関係なく・無視して						大下 朋子
第3回	12課 強く否定する・強く否定しない						大下 朋子
第4回	13課 ～（話題）は						大下 朋子
第5回	14課 ～けれど						大下 朋子
第6回	15課 もしそうなら・たとえそうでも						大下 朋子
第7回	【中間テスト】11～15課／試験対策						大下 朋子
第8回	16課 ～だから（理由）（1）						大下 朋子
第9回	17課 ～だから（理由）（2）						大下 朋子
第10回	18課 できない・困難だ・できる						大下 朋子
第11回	19課 ～を見て評価すると・～の立場で評価すると						大下 朋子
第12回	20課 結果はどうなったか						大下 朋子
第13回	21課 強く言う・軽く言う						大下 朋子
第14回	22課 ～だろうと思う						大下 朋子
第15回	23課 感想を言う・主張する						大下 朋子

第 1 6 回	単位認定試験		大下 朋子
教科書			
教・書籍名 1	新完全マスター文法 日本語能力試験N2	教・出版社名 1	スリーエーネットワーク
教・著者名 1	友松悦子	教・ I S B N 1	9784883195657
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	日本語ⅡA			担当者	小西 真弓		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LJ-2-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう  						
到達目標	日本語上級レベルの文字、語彙、文法、読解、聴解の能力の養成を図る。この講義では特にN1レベルの「読解」について学ぶ。到達目標は、日本語能力試験N1レベルの実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	幅広い話題について書かれた200字から1000字程度の生活や仕事などの日常的な話題、新聞、雑誌、日本事情、エッセイ、広告など様々なジャンルを幅広く扱った問題を解く。練習問題を通して、日本語能力試験の出題傾向を知り、問題パターンに慣れるよう指導する。言語知識(文字・語彙・文法など)と併せて、上級レベルの文章表現を学び、事物、事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるように語彙力やコミュニケーション能力の向上に努め、日本語能力試験N1合格を目指す。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使つての文作などの課題を提出してもらう。採点し、フィードバックする。						
履修条件・注意事項	以下の点に注意すること。本科目は留学生専用科目であり、日本人は履修できない。 ① 学部正規生は、N2に合格しなければ、本科目を含む日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できない。 ②この科目履修前に日本語能力試験N1を高得点で取得した者は、プレイスメントテストの結果も勘案した上で同科目の単位が認定される場合がある。 ③より効果的に講義内容を習得できるよう予習・復習など自主学習に努めること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。						
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション レベル確認テスト					小西真弓	
第2回	内容理解問題：短文－単問 中文－単問 文字・語彙・漢字読み・表記					小西真弓	
第3回	内容理解問題：短文－単問 中文－単問 文字・語彙・漢字読み・表記					小西真弓	

第4回	内容理解問題：中文－複問 長文 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第5回	内容理解問題：中文－複問 長文 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第6回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第7回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第8回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第9回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第10回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第11回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第12回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第13回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第14回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第15回	総括、確認テスト	小西真弓	
第16回	単位認定筆記試験	小西真弓	
教科書			
教・書籍名1	日本語能力試験問題集 スピードマスター N1 読解	教・出版社名1	Jリサーチ出版
教・著者名1	菊池富美子・黒石しづ可・日置陽子・竹田慎吾	教・ISBN1	978-4-86392-075-0
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	新完全マスター単語 日本語能力試験N2重要2200語	参・出版社名1	スリーエーネットワーク
参・著者名1	小谷野美穂・森田亮子・青柳方子・大野純子・木村典子他	参・ISBN1	978-4-88319-762-0
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	日本語ⅡB			担当者	小西 真弓		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	GE-LJ-2-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう  						
到達目標	日本語上級レベルの文字、語彙、文法、読解、聴解の能力の養成を図る。この講義では特にN1レベルの「読解」について学ぶ。到達目標は、日本語能力試験N1レベルの実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	幅広い話題について書かれた200字から1000字程度の生活や仕事などの日常的な話題、新聞、雑誌、日本事情、エッセイ、広告など様々なジャンルを幅広く扱った問題を解く。練習問題を通して、日本語能力試験の出題傾向を知り、問題パターンに慣れるよう指導する。言語知識(文字・語彙・文法など)と併せて、上級レベルの文章表現を学び、事物、事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるように語彙力やコミュニケーション能力の向上に努め、日本語能力試験N1合格を目指す。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	試験(50%)、小テスト(20%)、学習意欲・態度(30%)などに基づく総合評価。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使つての文作などの課題を提出してもらおう。採点し、フィードバックする。						
履修条件・注意事項	以下の点に注意すること。本科目は留学生専用科目であり、日本人は履修できない。 ① 学部正規生は、N2に合格しなければ、本科目を含む日本語関連科目Ⅱの全科目を履修できない。 ②この科目履修前に日本語能力試験N1を高得点で取得した者は、プレイスメントテストの結果も勘案した上で同科目の単位が認定される場合がある。 ③より効果的に講義内容を習得できるよう予習・復習など自主学習に努めること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。						
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション レベル確認テスト					小西真弓	
第2回	内容理解問題：短文一単問 中文一単問 文字・語彙・漢字読み・表記					小西真弓	
第3回	内容理解問題：短文一単問 中文一単問 文字・語彙・漢字読み・表記					小西真弓	
	内容理解問題：中文一複問						

第 4 回	長文 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第 5 回	内容理解問題：中文一複問 長文 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第 6 回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第 7 回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第 8 回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第 9 回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第 1 0 回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第 1 1 回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第 1 2 回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第 1 3 回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第 1 4 回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第 1 5 回	総括・確認テスト	小西真弓	
第 1 6 回	単位認定筆記試験	小西真弓	
教科書			
教・書籍名 1	日本語能力試験問題集 スピードマスター N1 読解	教・出版社名 1	Jリサーチ出版
教・著者名 1	菊池富美子・黒石しづ可・日置陽子・竹田慎吾	教・ I S B N 1	978-4-86392-075-0
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	新完全マスター単語 日本語能力試験N2重要2200語	参・出版社名 1	スリーエーネットワーク
参・著者名 1	小谷野美穂・森田亮子・青柳方子・大野純子・木村典子他	参・ I S B N 1	978-4-88319-762-0
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	応用日本語ⅠA			担当者	小西 真弓		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-LJ-1-005		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語中級レベルの文字、語彙、文法、読解、聴解の能力の養成を図る。学生は、他の日本語関連科目と併せて、中級の「読む」、「書く」、「聞く」、「話す」の4技能を習得することができる。到達目標は、日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が使えるようになることである。						
授業概要	この講義は、「読解」を中心に学習を進める。生活や仕事などの日常的な話題や新聞、雑誌、日本事情、エッセイ、広告など 様々なジャンルを幅広く扱った問題を解く。練習問題を通して、日本語能力試験の出題傾向を知り、問題パターンに慣れるよう指導する。言語知識と併せて、中級レベルの文章表現を学び、事物、事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるようになる。日本語能力試験N2合格を目指す。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使つての文作などの課題を提出してもらおう。 採点し、フィードバックする。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレイスメントテストを受験すること。プレイスメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別にAクラス、Bクラスに編成される。 ②日本語ⅠA・応用日本語ⅠA・日本語研究ⅠAの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤日本語能力試験N1の取得者でプレイスメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。						
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション レベル確認テスト					小西真弓	
第2回	内容理解問題：短文－単問 中文－単問					小西真弓	

	文字・語彙・漢字読み・表記		
第3回	内容理解問題：短文－単問 中文－単問 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第4回	内容理解問題：中文－複問 長文 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第5回	内容理解問題：中文－複問 長文 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第6回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第7回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第8回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第9回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第10回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第11回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第12回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第13回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第14回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓	
第15回	総括、確認テスト	小西真弓	
第16回	単位認定筆記試験	小西真弓	
教科書			
教・書籍名1	日本語能力試験問題集N2 スピードマスター 読解	教・出版社名1	Jリサーチ出版
教・著者名1	小林ひとみ・桑原里奈・木村理恵	教・ISBN1	978-4-86392-058-3
教・書籍名2	文字・語彙・文法まとめドリルN2 新にほんご500問	教・出版社名2	アスク出版
教・著者名2	松本紀子・佐々木仁子	教・ISBN2	9784872179422
参考書			
参・書籍名1	新完全マスター単語 日本語能力試験N2重要2200語	参・出版社名1	スリーエーネットワーク
参・著者名1	小谷野美穂・森田亮子・青柳方子・大野純子・木村典子他	参・ISBN1	978-4-88319-762-0
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	応用日本語ⅠB			担当者	小西 真弓		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-LJ-1-006		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	本講義では、中級、中上級学習者に必要な文章を読む技術を学ぶ授業である。多面的な読み方の力をつけるために、様々なジャンルの文章を理解するとともに、文字、語彙、表現などを身につける。文章を読んで何が書いてあるのかをとらえるといった「読解」の力を伸ばすことができる。日本語能力試験でも十分に力が発揮できるようになる。						
授業概要	この講義は「読解」を中心に学習を進める。新聞、雑誌、様々なジャンルの読み物の中でも、特に日本事情に関するテーマを取り上げる。200字程度の短い文章から1000字を超える長文をテキスト、新聞、雑誌の記事など幅広く扱い、学習していく。日本事情を理解しながら、自国との比較、文章作成、発表なども行い、お互いの理解を深める。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験(50%)、小テスト(30%)、学習意欲・態度(20%)によって総合的に評価する。 ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。 これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。 N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。また、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の予習・復習として、指示された文字・語彙、文法、文型を使つての文作などの課題を提出してもらおう。 採点し、フィードバックする。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①履修前に必ずプレースメントテストを受験すること。プレースメントテストは半期毎に実施され、クラスは習熟度別にAクラス、Bクラスに編成される。 ②日本語ⅠB・応用日本語ⅠB・日本語研究ⅠBの3科目ともに同クラスで受講すること。 ③本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ④2年次開講日本語関連科目Ⅱの履修は、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みであることが条件となるので注意すること。 ⑤日本語能力試験N1の取得者でプレースメントテストにて日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修しなければならない。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に予習・復習など自主学習を行うこと。毎週の授業内容を事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。						
オフィスアワー	授業終了後、休憩時間、教室にて						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション レベル確認テスト					小西真弓	
第2回	内容理解問題：短文一単問 中文一単問					小西真弓	

	文字・語彙・漢字読み・表記	
第3回	内容理解問題：短文－単問 中文－単問 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第4回	内容理解問題：中文－複問 長文 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第5回	内容理解問題：中文－複問 長文 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第6回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第7回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第8回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第9回	日本語能力試験対策 模擬試験・解説 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第10回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第11回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第12回	統合理解問題 情報検索問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第13回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第14回	主張理解問題 日本文化についての読解問題 文字・語彙・漢字読み・表記	小西真弓
第15回	総括、確認テスト	小西真弓
第16回	単位認定筆記試験	小西真弓
教科書		
教・書籍名1	日本語能力試験問題集 スピードマスター N2 読解	教・出版社名1 Jリサーチ出版
教・著者名1	小林ひとみ・桑原里奈・木村理恵 共著	教・ISBN1 978-4-86392-058-3
教・書籍名2	文字・語彙・文法まとめドリルN2 新にほんご500問	教・出版社名2 アスク出版
教・著者名2	松本紀子・佐々木仁子	教・ISBN2 9784872179422
参考書		
参・書籍名1	新完全マスター単語 日本語能力試験N2重要2200語	参・出版社名1 スリーエーネットワーク
参・著者名1	小谷野美穂・森田亮子・青柳方子・大野純子・木村典子他	参・ISBN1 978-4-88319-762-0
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	応用日本語Ⅱ A			担当者	池上 真由美			
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LJ-2-007			
必修・選択	選択	単位数	2単位		時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	2年		開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜5限
ディプロマポリシー対応項目								
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力		
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目		
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／ 4. 質の高い教育をみんなに／ 10. 人や国の不平等をなくそう／ 16. 平和と公正をすべての人に 							
到達目標	「日本語教師に必要な基礎的な言語学」をテーマとし、日本語教師として日本語を教えるために必要な基礎的な言語学の知識を理解する。							
授業概要	日本語を教えるにあたり必要とされる言語学の基礎的知識を、身近な日本語を題材にし、問題をときながら学習する。言語学のはじまりから、最新の認知言語学まで言語学発展の歴史に沿って、基礎的な内容を理解していく。							
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク							
評価方法と割合	〔試験〕 60%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する。） 〔提出物〕 20%（レポート課題，コメント用紙等により評価する。） 〔授業への参画状況〕 20%（発表及び発言内容，教職への意欲や態度等を総合的に評価する。）							
ルーブリック評価								
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は、ルーブリックを添付して授業でフィードバックする。コメント用紙の内容は、次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめて、フィードバックする。							
履修条件・注意事項	本科目は日本語教員養成コースの必修科目であり、本コースの取得を目指す者は必ず履修しなければならない。授業では、演習、グループ・ディスカッションなどに積極的に参加することが望まれる。なお、授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。 日本語教員養成コースを履修する日本人学生は、取得に必要な日本語4科目を履修しなければならない。ただし、卒業に必要な単位に加えることはできない。							
実務経験のある教員	該当しない	内容						
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習課題をもとに、目的意識をもって授業を受けること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。							
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室112にて、毎週火曜日3限をオフィスアワーの時間とする。							
授業計画							担当者	
第1回	言語学の歴史						池上	
第2回	言語学の基礎知識						池上	
第3回	音声学						池上	

第 4 回	日本語の音声の特徴	池上
第 5 回	超文節素	池上
第 6 回	音韻論	池上
第 7 回	日本語の音素	池上
第 8 回	形態論	池上
第 9 回	日本語述語の活用	池上
第 1 0 回	統語論	池上
第 1 1 回	チョムスキーの言語理論	池上
第 1 2 回	意味論	池上
第 1 3 回	語用論	池上
第 1 4 回	認知言語学①	池上
第 1 5 回	認知言語学②	池上
第 1 6 回	筆記試験	池上
教科書		
教・書籍名 1	日本語教師のための入門言語学－演習と解説－	教・出版社名 1 スリーエーネットワーク
教・著者名 1	原沢伊都夫	教・ I S B N 1 978-4-88319-739-2
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	「あ」は「い」より大きい!?－音象徴で学ぶ音声学入門－	参・出版社名 1 ひつじ書房
参・著者名 1	川原 繁人	参・ I S B N 1 978-4-89476-886-4
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	応用日本語Ⅱ B			担当者	池上 真由美		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	GE-LJ-2-008		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	「日本語教育法及び日本語教育プログラムの理解と実践」をテーマとし、日本語語教育に関する基礎理論を理解し、その指導法，教材作成に関する実施方法を習得する。						
授業概要	日本語教育において、日本語を教えるため必要な基礎理論（教育法・教材等）を学び、模擬授業を行って実践的な指導力を身に付ける。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	[試験] 50%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する。） [模擬授業・課題提出] 35%（模擬授業，レポート課題，コメント用紙等により評価する。） [授業への参画状況] 15%（発表及び発言内容，演習への意欲や態度等を総合的に評価する。）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題やコメント用紙の内容は、次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめてフィードバックする。また、模擬授業の指導案や教材作成の課題については、各個人に改善点をフィードバックするので、提案を受けて可能な限りの改訂を行い再提出すること。						
履修条件・注意事項	本科目は日本語教員養成コースの必修科目であり、本コースの取得を目指す者は必ず履修しなければならない。授業では、演習、グループ・ディスカッションなどに積極的に参加することが望まれる。なお、授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。 日本語教員養成コースを履修する日本人学生は、取得に必要な日本語4科目を履修しなければならない。ただし、卒業に必要な単位に加えることはできない。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習課題をもとに、目的意識をもって授業を受けること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室112にて、毎週火曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	日本語教師の資質・能力					池上	
第2回	音声を教える					池上	

第 3 回	文字・語彙を教える	池上
第 4 回	文法を教える	池上
第 5 回	聞くことを教える	池上
第 6 回	話すことを教える	池上
第 7 回	読むことを教える	池上
第 8 回	書くことを教える	池上
第 9 回	初級を教える	池上
第 1 0 回	中級・上級を教える	池上
第 1 1 回	模範授業から学ぶ	池上
第 1 2 回	模擬授業①	池上
第 1 3 回	模擬授業②	池上
第 1 4 回	模擬授業③	池上
第 1 5 回	模擬授業④	池上
第 1 6 回	筆記試験	池上
教科書		
教・書籍名 1		教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	国際交流基金 日本語教授法シリーズ 1～10	参・出版社名 1
	国際交流基金	

参・著者名1		参・I S B N 1	
参・書籍名2	日本語教育能力検定試験「合格するための本」2019年版	参・出版社名2	アルク
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	日本語研究ⅠA			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-LJ-1-009		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	日本語中級レベルの聴解の能力の養成を図る。中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能のうち「聞く」技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が聞き取れるようになることである。						
授業概要	日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50％）、小テスト（30％）、学習意欲・態度（20％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科目履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ②N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。1年生の場合、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。また、2年生以上の再履修生の場合、N2に合格した次の学期から、日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 ③日本語能力試験N1の取得者で、学科長の面談により日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修することができる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。						
オフィスアワー	岡山キャンパス1号館2階の123研究室において、毎週月曜日4時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					加藤健次	
第2回	実践練習 課題理解①1～10					加藤健次	
第3回	実践練習 課題理解②11～20					加藤健次	
第4回	実践練習 ポイント理解①1～9					加藤健次	
第5回	実践練習 ポイント理解②10～18					加藤健次	
第6回	実践練習 概要理解①1～10					加藤健次	
第7回	実践練習 概要理解②11～20					加藤健次	
第8回	第1回～第7回講義の復習					加藤健次	
第9回	実践練習 即時応答①1～26					加藤健次	
第10回	実践練習 即時応答②追加問題					加藤健次	
第11回	実践練習 即時応答③追加問題					加藤健次	

第 1 2 回	実践練習 統合理解① 1 ～ 5	加藤健次	
第 1 3 回	実践練習 統合理解② 6 ～10	加藤健次	
第 1 4 回	第 1 回模擬試験問題	加藤健次	
第 1 5 回	第 2 回模擬試験問題	加藤健次	
第 1 6 回	単位認定試験	加藤健次	
教科書			
教・書籍名 1	日本語能力試験問題集N2聴解スピードマスター	教・出版社名 1	Jリサーチ
教・著者名 1	棚橋明美・杉山ますよ・野原ゆかり	教・ I S B N 1	978-4-86392-057-6
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	日本語研究ⅠB			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-LJ-1-010		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 10. 人や国の不平等をなくそう 16. 平和と公正をすべての人に						
到達目標	日本語中級レベルの聴解の能力の養成を図る。中級レベルの「話す」・「読む」・「聞く」・「書く」の4技能のうち「聞く」技能を習得することができる。到達目標は日本語能力試験N2の実力を身につけ、円滑に専門的な大学教育の導入に不可欠な日本語が聞き取れるようになることである。						
授業概要	日本語能力試験N2合格を目指し、聴解を中心に学ぶ。N2レベルの聴解の出題傾向を知り、練習問題を解きながら、実践力を養う。また中級レベルの日本語表現を学び、事物・事象を説明したり、自分の意見を述べたりできるコミュニケーション力を身につける。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業評価は、単位認定試験（50％）、小テスト（30％）、学習意欲・態度（20％）によって総合的に評価する。ただし、最終的な単位認定は日本語能力試験N2の可否結果を加味した上で行われる。これから始まる大学教育を円滑に進めるためにも、N2レベルの日本語能力は必須であり、学生は、原則として本科履修中に、日本語能力試験N2に合格しなければならない。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回の授業内容について、課題と中間テスト、期末テストを行う。内容理解の確認と学習のポイントを説明する。また試験は解答のポイントをコメントするなどしてフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	履修上の条件・注意点は以下の通りである。 ①本科目の受講中にN2を取得しなければ、単位認定できないので履修期間中に受験し、N2に合格すること。 ②N2を取得していない学生は、次年度、同科目を再履修し、引き続きN2の学習を継続しなければならない。1年生の場合、N2に合格し、日本語関連科目Ⅰが単位認定済みになった時点で、2年次開講の日本語関連科目Ⅱを履修することができる。また、2年生以上の再履修生の場合、N2に合格した次の学期から、日本語関連科目Ⅱを履修することができる。 ③日本語能力試験N1の取得者で、学科長の面談により日本語関連科目の履修を免除された学生は、日本人学生と同様に、外国語科目を履修することができる。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	より円滑に日本語能力が習得できるよう、積極的に自主学習を行うこと。授業前には、毎週の授業内容を予習し、授業後は授業内容の見直しや課題（N2対策を含む）に取り組むこと。2時間以上の予習と復習に努めること。						
オフィスアワー	岡山キャンパス1号館2階の123研究室において、毎週月曜日4時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					加藤健次	
第2回	文法演習 第1章1					加藤健次	
第3回	第1章 2, 3					加藤健次	
第4回	第1章 4, 5					加藤健次	
第5回	第2章 1, 2					加藤健次	
第6回	第2章 3, 4					加藤健次	
第7回	第2章 5, 6, 7					加藤健次	
第8回	総復習演習①					加藤健次	
第9回	N2対策演習1					加藤健次	
第10回	N2対策演習2					加藤健次	
第11回	第3章 1, 2, 3					加藤健次	
第12回	第3章 4, 5					加藤健次	

第 1 3 回	第 4 章 1, 2, 3	加藤健次	
第 1 4 回	第 4 章 4, 5	加藤健次	
第 1 5 回	第 5 章	加藤健次	
第 1 6 回	単位認定試験	加藤健次	
教科書			
教・書籍名 1	日本語能力試験対策 日本語総まとめN2 聴解	教・出版社名 1	アスク出版
教・著者名 1	佐々木仁子、松本紀子	教・ I S B N 1	978-4-87217-792-3
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	日本語研究Ⅱ A			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年／ 2022年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	GE-LJ-2-011		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	この講義のテーマは「日本語教育の歴史と現状」です。到達目標は、日本語と日本語教育の歴史を理解することによって、日本文化をより深く理解できるようになることです。						
授業概要	日本語教育史、日本語言語政策、日本語の試験、世界と日本の日本語教育事情などに関する研究にはどのようなものがあったのかを講義します。その根底にある日本語の歴史について、各学生が研究します。日本語とはどのような言語なのか、音声や文字についてももう一度考えてみます。将来、日本語教員として国内外で活躍したいと考えている学生が、最低限知っていなければいけない日本語の歴史と日本語学に関する基礎知識とはどのようなものなのか、それを学びましょう。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業にどのように参加したかが重視されます。毎回の授業内に課題がだされるので、授業中に資料にあたり、求められた字数でまとめて提出します。できなかった学生は持ち帰り次週までに提出しなければ通常点が得られません。教科書に沿って少しづつ進みます。授業中に例題として（ ） 入れ問題や、正誤問題が出されます。予習をしておくで解きやすいです。それらの課題や例題から、単位認定試験は組み立てられます。評価配分は、通常点（50％）、単位認定試験（50％）です。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎回講義で出される課題を文書で提出し、次回の講義で担当教員がコメントを付して返却する。						
履修条件・注意事項							
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また事後学習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に提出（または発表）すること。各2時間の学修時間を目安とする。						
オフィスアワー	岡山キャンパス1号館2階123研究室木曜日4 限						
授業計画						担当者	
第1回	日本語の時代区分					加藤健次	
第2回	声と文字					加藤健次	
第3回	音韻・仮名遣いの変遷					加藤健次	
第4回	万葉仮名					加藤健次	
第5回	アクセント・文字の変遷					加藤健次	
第6回	平仮名・片仮名の誕生					加藤健次	
第7回	敬語・語彙の変遷					加藤健次	
第8回	武士たちの言葉と文字					加藤健次	
第9回	文体論					加藤健次	
第10回	上方語から江戸語へ					加藤健次	
第11回	近代日本語の成立					加藤健次	
第12回	キリシタンの日本語勉強法					加藤健次	
第13回	『類聚名義抄』					加藤健次	
第14回	近代語の成立					加藤健次	
第15回	教科書タスクの解答例提示					加藤健次	
第16回	筆記試験					加藤健次	

教科書			
教・書籍名 1	『日本語史／日本語教育史』	教・出版社名 1	アルク
教・著者名 1	真田信治・原土洋	教・ I S B N 1	4-88319-086-2
教・書籍名 2	『日本語教育史研究所説』	教・出版社名2	スリーエーネットワーク
教・著者名2	関正照	教・ I S B N 2	1315-001035-6023
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	日本語研究Ⅱ B			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	GE-LJ-2-012		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	この講義のテーマは「日本語教育の歴史と現状」です。到達目標は、日本語と日本語教育の歴史を理解することによって、日本文化をより深く理解できるようになることです。						
授業概要	日本語教育史、日本語言語政策、世界と日本の日本語教育事情などに関する研究にはどのようなものがあったのかを講義します。その根底にある日本語の歴史について、各学生が研究します。日本語がどう研究されてきたか、言語的な研究の歴史を学びます。それを自分たちで研究します。また、日本語教育がどのような発展経緯を経て今日に至ったのかを研究します。平安時代から鎌倉時代の和歌の研究や、江戸時代の国学の中で展開された日本語音韻や文法の研究、さらには近代日本の統治下にあった台湾、朝鮮半島、満州での日本語教育について概論的に見ていきます。将来、日本語教員として国内外で活躍したいと考えている学生が、最低限知っていなければいけない日本語学と日本語教育に関する歴史的基礎知識とはどういうものなのか、それを調べていきましょう。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	授業課題にどのように取り組んだかが重視されます。毎回の授業内に課題が出されるので、授業中に資料にあたり、求められた字数でまとめて提出します。できなかった学生は持ち帰り次週までに提出しなければ通常点が得られません。次週に教員によって解答例が示されます。教科書に沿って少しずつ進みます。授業中に例題として（ ）入れ問題や、正誤問題が出されます。予習をしておくとしきやすくなります。それらの課題や例題から、単位認定試験は組み立てられます。評価配分は、通常点（50％）、単位認定試験（50％）です。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎回講義で出される課題を文書で提出し、次の講義で担当教員がコメントを付して返却する。						
履修条件・注意事項							
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に教科書を読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また事後学習として、毎回課題を出すので、次の授業時に提出（または発表）すること。各2時間の学修時間を目安とする。						
オフィスアワー	岡山キャンパス1号館2階123研究室木曜日 4 限						
授業計画						担当者	
第1回	日本語の歴史の概要					加藤健次	
第2回	テニヲハの認識					加藤健次	
第3回	二条良基と救済					加藤健次	
第4回	「幽玄」について僧肇					加藤健次	
第5回	日本人の漢字辞書『爾雅』					加藤健次	
第6回	源 順と『万葉集』の訓点作業					加藤健次	
第7回	本居宣長と国学					加藤健次	
第8回	江戸の日本語研究者たち					加藤健次	
第9回	時枝誠記の「言語過程説」					加藤健次	
第10回	チョムスキーの「生成文法」					加藤健次	
第11回	ジャン・ジャック・ルソーとペスタロッチ					加藤健次	
第12回	台湾の歴史					加藤健次	
第13回	芝山巖（しさんがん）事件					加藤健次	
第14回	台湾の日本語教育とグアン式教授法					加藤健次	

第15回	韓国での日本語教育と大出正篤	加藤健次	
第16回	筆記試験	加藤健次	
教科書			
教・書籍名1	『日本語史／日本語教育史』	教・出版社名1	アルク
教・著者名1	真田信治・原土洋	教・ISBN1	4-88319-086-2
教・書籍名2	『日本語教育史研究所説』	教・出版社名2	スリーエーネットワーク
教・著者名2	関正照	教・ISBN2	1315-001035-6023
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	文章表現入門			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-CH-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	大学生や社会人に求められる日本語表現力について学び、その文章表現を身に付けることができる。レポートの書き方、就職試験向けの作文・小論文の書き方の基礎を身に付けることを目指す。とりわけ文と文、あるいは語彙と語彙との接続的な文章表現、起承転結といった文章の構成などを理解し、実際に文章を書く訓練を行う。						
授業概要	日本語の文章表現の基礎を身につけるだけでなく、文章の組み立て方、推敲の仕方などについて学習する。レポートや就職試験向け作文の書き方などについて学ぶ。文の構成、語と語の対応、文と文の関わりなどを意識して、論理的に文章を書く訓練を行う。また、学生は書籍、新聞、雑誌などを素材に、ブレインストーミングを行い、主題を設定し、自分でも文章化してみる。人に意見や趣旨が明確に伝わる文章表現、論理的な文章の書き方などを修得する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	講義への出席を含めて話の聞き方、意見の出し方などを平常点として20点、講義内容をテーマとして出された持ち帰り試験が50点、そして単位認定試験を30点として、これらを総合した100点満点で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験（400字×5枚以上）の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので要注意のこと。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週水曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	文章表現入門の概説					大下 朋子	
第2回	大学生・職業人にはどのような日本語表現能力が求められるか					大下 朋子	
第3回	明文を書くためのスキルを磨こう					大下 朋子	
第4回	正確な文、明快な文を書くためには					大下 朋子	
第5回	簡潔な文を書くためには					大下 朋子	
第6回	パラグラフ・ライティングの基本					大下 朋子	
第7回	パラグラフ・ライティングの練習					大下 朋子	
第8回	パラグラフ・ライティングからレポート作成へ					大下 朋子	
第9回	観察しようーその構成と書き方①					大下 朋子	
第10回	観察しようーその構成と書き方②					大下 朋子	
第11回	準備しようー意見と根拠①					大下 朋子	
第12回	準備しようー意見と根拠②					大下 朋子	
第13回	レポート・小論文作成①					大下 朋子	
第14回	レポート・小論文作成②					大下 朋子	
第15回	レポート・小論文作成③					大下 朋子	
第16回	単位認定試験（筆記試験／レポート試験）					大下 朋子	

教科書			
教・書籍名 1	文章力・論理力を高める日本語トレーニング	教・出版社名 1	学事出版
教・著者名 1	松谷 英明	教・I S B N 1	978-4761919481
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・I S B N 2	

授業科目名	生涯スポーツ論			担当者	石田 博也		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-CH-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	座学
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう 						
到達目標	スポーツを通して生涯においてスポーツを実践できるよう知識やルールを学ぶ。 自分たちでスポーツを楽しめるよう企画・立案・実践できるようになる。 また見るスポーツにおいても楽しめるようになる。						
授業概要	スポーツとは何か？を哲学的手法を使って理解を深めていく。 スポーツの社会的存在価値を様々な課題解決型学習やディベートを使って学んでいく。						
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業の課題50%、試験50%で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業で課題や試験のためのキーワードの提示を毎授業で行います						
履修条件・注意事項	授業では、学生側が主体となって発言や発表を行うことが多いので受け身の姿勢（授業に出席して聞けばよい）ではないでください。						
実務経験のある教員	該当する	内容	総合型地域スポーツクラブの講師経験を通して現代社会でのスポーツの重要性を理解する				
事前学習・事後学習とその時間	事前の課題に積極的に身に着ける。						
オフィスアワー	授業の前後の時間に実施場所で行います。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション 哲学とは						石田
第2回	スポーツとは？イスラエル文化からの考察						石田
第3回	生涯スポーツとは？功利主義からの考察						石田
第4回	遊びとは？歴史的観点からの考察						石田
第5回	健康とは？優生学という視点						石田
第6回	身体論 ニーチェの考察より						石田
第7回	世界の健康観						石田
第8回	現代のスポーツの問題点						石田
第9回	ファクトフルネスとは？						石田
第10回	スポーツと政治						石田
第11回	アフターマティバクションとは？						石田
第12回	スポーツと女性						石田
第13回	人間とは何か？						石田
第14回	スポーツと名誉						石田
第15回	資本とスポーツ						石田
第16回	試験 記述式（例 ○○について自分の意見を述べ、その根拠も明らかにせよ）						石田
教科書							
教・書籍名1	プリント・資料を配布します。					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	

教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	生涯スポーツ実習			担当者	壬生川 道晃、石田 博也		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-CH-0-004		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を  5. ジェンダー平等を 実現しよう 						
到達目標	年齢性別を問わず習得できる合気道の稽古を通じ、日本古来の身体動作の体得、相互尊重の精神、明るく爽やかな 応対辞令を身につけることを目標とする。 また、室内運動を通し、生涯スポーツの一環として健康管理や継続的な適度な運動の必要性を学ぶ。						
授業概要	互いに快活に協力して実技の安全かつ効率的習得に努め、完成度を高めるための相互評価も大切にする。 チームリーダーを中心に楽しく指導しお互いに協力しながら、自主的に学ぶ環境づくりを行なう。						
アクティブラーニングの内容	PBL／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	授業の実技試験50%、授業時間中の姿勢・態度50%で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎授業、課題のための練習時間をとります						
履修条件・注意事項	授業準備（マットレスの設置等）が必要なので、授業時間少し前には集合して、全員で授業準備を行ってください。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前の課題に積極的に身に着ける。						
オフィスアワー	授業の前後の時間に実施場所で行います。						
授業計画						担当者	
第1回	合気道の心と実技						壬生川
第2回	合気道の要点と安全管理、受け身の習得						壬生川
第3回	礼法、基礎の技3本と受け身の習得						壬生川
第4回	基礎の技と発展技法の習得						壬生川
第5回	基礎の技で演武（個人・団体演武）を研究、発表、相互評価						壬生川
第6回	基本技、発展技法の習得と演武						壬生川
第7回	基本技、発展技法の習得、応用技への移行						壬生川
第8回	各自の持ち味を生かした自由演武の考察と稽古						壬生川
第9回	リズムジャンプ（基本ステップ） フリスビードッジ						石田
第10回	リズムジャンプ（応用ステップ） 筋力トレーニング ホッケー						石田
第11回	鬼ごっこ（基本ルール） ホッケー						石田
第12回	鬼ごっこ（応用ルール） ダンス（身体表現）						石田
第13回	室内運動1						石田
第14回	室内運動2						石田
第15回	室内運動3						石田
第16回							

教科書			
教・書籍名 1		教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	哲学			担当者	高橋 正巳		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-GA-0-001		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 10. 人や国の不平等をなくそう 12. つくる責任 つかう責任 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリシップで目標を達成しよう						
到達目標	テーマ：より深く考えて根源・根拠に迫る 到達目標：根源から考えることが哲学的な思考は誰にでもあることを理解する 哲学というとすぐに古代ギリシアの哲学がこれまで一般的であったが、日本にもその他のアジアにも古くからあったのであり、これからもそうあり続けることを話す予定である。						
授業概要	哲学は楽しみながら深く考えることである。もちろん考えない人はいない。だから誰でも哲学者である。子どもも哲学者である。「なぜ」や「どうして」を人に尋ねるのは哲学しているからである。こうして子どもは少しずつ理解を深める。理解は喜びの源泉である。そして、この喜びは次に考えるエネルギーとなる。そして、このエネルギーは直ぐに理解できないときに乗り越える力ともなる。さらに大きな喜びがやってくるからだ。そこで西洋でも東洋でも大きな喜びである哲学を大歓迎していた。だが、いつしか考える楽しみを知らない人が現れた。便利さに囲まれて「なぜ」や「どうして」の答えが簡単に手に入ると勘違いしたからである。現代はこれに目覚める時である。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	自学自修による「持ち帰り試験」(50点)、プレゼンテーションなどアクティブラーニング(20点)、定期末試験(20点)、講義中での積極的な参加(10点)とで総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	「持ち帰り試験」と「定期末試験」は日時を指定して本人に返却する						
履修条件・注意事項	「なぜ…？」とか「どうして…？」とかの疑問を持つ人や持っている人を歓迎する。テレビや新聞のニュースの話題をチェックする。日本語で随筆などの文章を書くこと、書いて見たい人ならなお関係する。これらを主体的に実施できることが不可欠である。						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和51年大学経済学部卒、昭和57年大学院社会学研究科修士課程修了、昭和60年大学院社会学研究科博士課程満期修了退学。本学の「哲学」を担当する正規の特任教授である。				
事前学習・事後学習とその時間	講義時間の項目に関して、事前学習に90分間で理解するために専門的な語彙をまとめる。さらに、講義を受けた後で復習に90分間使い、さらに理解して修得すると同時によく判らなかった語彙を抜き出して、次の講義のとき質問する。						
オフィスアワー	岡山キャンパスで、毎週木曜日に124研究室で13：30～15：00まで						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					高橋	
第2回	日本人は哲学しなかったのか					高橋	
第3回	日光東照宮は日本的哲学の象徴					高橋	
第4回	日常的思考と歴史的象徴と根源・根底的な基礎づけ					高橋	
第5回	フィロソフィと「哲学」という西洋思考様式					高橋	
第6回	なぜソクラテスは文字を危険視したか					高橋	
第7回	リベラル・アーツは古代ギリシア哲学に由来					高橋	
第8回	プラトンのイデア論が語りたかったこと					高橋	
第9回	アリストテレスにおける思考と倫理					高橋	
第10回	東洋と西洋との思考様式と哲学					高橋	
第11回	なぜ孔子の儒教は哲学と呼ばれないのか					高橋	

第 1 2 回	古代インドにおける思考様式と哲学	高橋
第 1 3 回	東洋における身体と修行との哲学的な関連性	高橋
第 1 4 回	「古池や 蛙飛び込む 水の音」に見る仏教哲理	高橋
第 1 5 回	哲学は二人以上の対話からなる	高橋
第 1 6 回	期末単位認定試験	高橋
教科書		
教・書籍名 1		教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	哲学とは何か	参・出版社名 1 白水社
参・著者名 1	カール・ヤスパース	参・ I S B N 1 ISBN 4 - 560 - 01849 - 9
参・書籍名 2	新時代に生きる「道徳哲学」－自分の自由を手放さないために－	参・出版社名 2 N H K 出版新書
参・著者名 2	ガブリエル・マルセル	参・ I S B N 2 ISBN 9 7 8 - 4 - 14 - 086645 - 8

授業科目名	心理学			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-GA-0-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	心理学とはどのような学問領域なのか、それを学ぶことがこの科目のテーマである。哲学、社会学、精神医学などとどのように異なるのか、理解する。 心理学は人間の心の働きを研究する学問領域である。人が生活している環境から、どのように情報を取り入れ、蓄積、活用するのか、如何に人間関係の中で適応的に生きていくのか、などに関し学び、心理学の基礎的な考え方を理解することを到達目標とする。 また、その学びの中で、心理学を学ぶ楽しさを感じてもらいたい。						
授業概要	心理学は知覚、発達、社会、性格などの領域においてさまざまな研究が行われている。本講義では、それら領域における研究成果、知見などの説明を講義形式で行う。さらに、学生の留学や留学生の受入れへの積極的な取組みとして、異文化受容や異文化への適応を心理学的な側面から考察を行う。言語学習（日本語、英語）における学習・教育の情意的側面につき、学習理論などをもとに考察を行う。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	講義毎の課題提出（50％）、課題レポートの内容（40％）及び受講態度など（10％）から総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	各回のミニテストの結果は、学生に返却しフィードバックする。						
履修条件・注意事項	教科書を活用して講義を行うが、教科書は担当教員が準備する。購入の必要はない。 将来、留学をすることも見据え、各講義の後半においては、心理学の基本用語や概念などを英語で説明する。 本科目は日本語教員養成コースの必修科目であり、本コースの取得を目指す者は必ず履修しなければならない。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習復習が不可欠です。 講義の前に、教科書の該当章を読み、知らない用語などを調べてくること。（2時間） 復習として、講義後、簡単な課題をとりて、次の講義の際、提出すること。（1時間） 英語の基礎用語や概念は暗記するまで音読すること。（1時間）						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日4限目をオフィスアワーにします。						
授業計画						担当者	
第1回	日常生活の中の心理学					畝	
第2回	教育についての心理学					畝	
第3回	発達についての心理学					畝	
第4回	認知についての心理学					畝	
第5回	学習（言語学習を含む）の心理学					畝	
第6回	犯罪についての心理学					畝	
第7回	性格についての心理学					畝	
第8回	臨床心理学（異文化適応、不適応を含む）					畝	
第9回	判断と意思決定の心理学					畝	
第10回	産業心理学					畝	
第11回	組織心理学					畝	
第12回	消費者行動と心理学					畝	
第13回	心理学的測定					畝	

第 1 4 回	心理学研究法	畝	
第 1 5 回	心理学の歴史	畝	
第 1 6 回	最終試験（レポート）	畝	
教科書			
教・書籍名 1	心理学概論	教・出版社名 1	放送大学教育振興会
教・著者名 1	星 薫、森 津太子	教・ I S B N 1	978-4-595-31338-7
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	新版心理学	参・出版社名 1	有斐閣
参・著者名 1	無藤隆ほか	参・ I S B N 1	978-4-641-05386-1
参・書籍名 2	16th Edition Atkinson & Hilgard's Introduction to Psychology	参・出版社名 2	CENGAGE Learning
参・著者名 2	Susan Nolen-Hoeksema, et al	参・ I S B N 2	978-1-4080-8902-6

授業科目名	多文化理解			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	GE-GA-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／5. ジェンダー平等を実現しよう／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	テーマ：「多宗教と多哲学をめぐる包括的世界文化論における古代・中世の位置づけ」 到達目標：以下の3点を到達目標とする。①多神教と一神教について理解する。②ユダヤ教とキリスト教とイスラム教が世界の各地域で独自な文化形成に果たした役割について考える。③ギリシアと西アジアとインドと中国の宗教思想と哲学について共時的に見ることができるようになる。これらを通じて多文化共生の生き方をさぐるための基礎知識を身につけることを到達目標とする。						
授業概要	上記到達目標を達成するために、この講義では毎週、下記の「授業計画」にある各テーマに即した15の課題が出される。講義では講師の講義を聞くのではなく、自分で調べて自分なりの考えを書いて提出する。また例題として、（ ）内に適語を入れる問題や、正誤問題が出される。それらをできれば講義時間内に解き、答え合わせをする。もしできなければ宿題として持ち帰る。単位認定試験の問題は、15の課題といくつかの例題を応用するかたちで構成されるだろう。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	毎回の授業での課題・例題などの平常点（60%）と単位認定試験の成績（40%）による総合評価。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎回講義で出される課題は書面で提出する。それを担当教員が添削し次の週にフィードバックする。						
履修条件・注意事項							
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	授業で提示された参考教材（本、映画、DVD、ネット上の情報など）を自宅で予習・復習する。それには各2時間程度を要する。適宜、参考教材を示すので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくことが求められる。						
オフィスアワー	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	Edward T. Hallの文化人類学					加藤健次	
第2回	Lévi-Strauss「野生の思考」					加藤健次	
第3回	イランとギリシア					加藤健次	
第4回	ヤスパースの「枢軸の時代」					加藤健次	
第5回	ギリシア・エーゲ海文明					加藤健次	
第6回	バラモンとウパニシャッド哲学					加藤健次	
第7回	仏教文化ブッダの大いなる旅					加藤健次	
第8回	ガンダーラ文化と仏像誕生の謎					加藤健次	
第9回	仏教の中国・日本への公伝					加藤健次	
第10回	中国の哲学―諸子百家					加藤健次	
第11回	『三国志』と儒教					加藤健次	
第12回	ユダヤ教からキリスト教へ					加藤健次	
第13回	中世ヨーロッパ世界の成立					加藤健次	
第14回	ムハンマドの思想とイスラム教					加藤健次	
第15回	中世イスラム哲学とヨーロッパ					加藤健次	

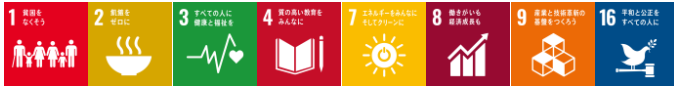
第 1 6 回	筆記試験		加藤健次
教科書			
教・書籍名 1	哲学と宗教全史	教・出版社名 1	ダイヤモンド社
教・著者名 1	出口治明	教・ I S B N 1	978-4-478-10187-2
教・書籍名 2	世界哲学史 1 ～ 3	教・出版社名 2	筑摩書房
教・著者名 2	伊藤邦武他編集	教・ I S B N 2	978-4-480-07291-7
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	日本国憲法			担当者	入江 祥子		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-SI-0-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	<到達目標> 主権者として必要とされる日本国憲法の知識を身につけ、さらに憲法改正につき論理的に自己の考えを述べることができることを目指す。 「人権」について正しく理解し、快適な社会づくりに貢献できることを目指す。 <テーマ> 難解とされる日本国憲法における基本的論点を、判例やニュースを織り交ぜながらできるだけ平易に解説すると同時に、日本国憲法の将来を自分で考えるために必要と思われる情報を提供する。「人権」について理解を深める。						
授業概要	法の初学者のために、広く「法」の解説から始める。さらに「憲法」の定義やその特質について学んだうえで、「日本国憲法」についてその成立背景から基本原理および統治機構について、判例・学説を交え講義を行う。特に「人権」については、その性質および享有主体性等個々の論点にまで立ち入った解説を行い、正しい人権意識を身につけることを意識する。また、統治機構については、政治的時事問題を交え、日本の政治の仕組みおよび問題点について説明し、主権者として必要な正しい知識を取得できるよう講義を行う。 * 実務経験のある教員による授業 本授業は法律に関するスペシャリストである司法書士の方による講義です。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	受講態度及び取組姿勢30％、各講義の最後に実施する理解度を問う小テストの評価30％、定期試験40％の配分で基本的評価を行う。授業態度については、私語、遅刻、途中退室等についても考慮する。小テストが優秀であれば加点する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	国内外で起きている様々な社会問題を自らとらえ、それらの問題について自発的に考え、解決策を模索することを習慣づける。						
履修条件・注意事項	履修条件は特にありませんが、日本国内外の時事問題を情報収集するよう心がけてください。 注意事項としては、他の学生の受講に迷惑になること（特に私語、授業途中の許可のない入退室等）は厳に慎んでください。講師の指示に従わない場合には受講を認めないこともありますので、ご注意ください。 出席状況の把握は各自で行ってください。 原則として、配布物の再配布は行いません。						
実務経験のある教員	該当する	内容	司法書士				
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、授業計画のテーマに沿って、インターネットや書籍を利用した下調べを行っていただきたい。 本講義は復習が重要です。授業で学んだ知識を定着させ、それを踏まえて自己の考えを構築できるよう発展させること。						
オフィスアワー	授業時間前後に講義室又は非常勤講師室にて質問等を受けます。						
授業計画						担当者	
第1回	なぜ「憲法」を学ぶ必要があるか					入江 祥子	

第 2 回	法とは何か、法はなぜ必要か、法と道徳の違い	入江 祥子
第 3 回	法源とは何か、法の種類	入江 祥子
第 4 回	憲法とは何か、立憲主義	入江 祥子
第 5 回	憲法の成立、大日本帝国憲法と日本国憲法	入江 祥子
第 6 回	国民主権の意味、その役割	入江 祥子
第 7 回	戦争の放棄、日本国憲法第 9 条	入江 祥子
第 8 回	人権とは何か、その役割	入江 祥子
第 9 回	人権の効果	入江 祥子
第 1 0 回	人権の限界、公共の福祉	入江 祥子
第 1 1 回	統治制度について、権力分立	入江 祥子
第 1 2 回	立法権、国会の役割	入江 祥子
第 1 3 回	行政権、内閣の役割	入江 祥子
第 1 4 回	司法権、裁判所の役割	入江 祥子
第 1 5 回	地方自治について	入江 祥子
第 1 6 回	筆記試験	入江 祥子
教科書		
教・書籍名 1	各回ごとに配布物を配り、それによって授業を進める。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	六法	参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	民法			担当者	入江 祥子		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-SI-0-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／12. つくる責任・つかう責任／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	民法を具体的事例をまじえ概括的に講義する。 社会生活において陥りがちな法的トラブルを認知し、未然に回避するもしくは自ら解決するためのスキルを身につけることを達成目標とする。						
授業概要	民法全体のアウトラインを事例、判例をまじえ講義する。私法全体に共通する基本原理を中心に解説する。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	毎回授業後に実施する理解度チェック小テストの結果：20％、受講態度：20％ 最終評価試験結果：60％ により成績を評価し、総計で60％以上を合格とする。採点は加点方式とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	現在発生している私法上の問題（詐欺やインターネットでの売買をめぐる消費者問題など）について情報を収集し、分析し、被害にあわない又は被害を最小にする方法を自ら考えることを習慣づける。						
履修条件・注意事項	履修条件は特にありませんが、契約や消費者問題に興味がある者の受講が望ましい。 授業の進行上、授業計画より前後する可能性があります。 出欠数及び配布物の管理は各自で行ってください。原則として配布物の再配布は行いません。						
実務経験のある教員	該当する	内容	司法書士				
事前学習・事後学習とその時間	予習としては、インターネット、新聞等を利用して下調べを行うこと。 復習は、習得した知識の定着につとめ、具体的な時事問題についても考察できるよう発展させること。						
オフィスアワー	質問等は講義時間前後に講義室にて受けます。						
授業計画						担当者	
第1回	民法とは何か、私法と公法の違い					入江 祥子	
第2回	民法の基本原理、財産法と家族法					入江 祥子	
第3回	民法における権利と義務、債権と債務					入江 祥子	
第4回	法律行為とは何か、意思表示					入江 祥子	
第5回	代理制度の役割と仕組み					入江 祥子	
第6回	時効制度の役割と仕組み					入江 祥子	
第7回	契約とは何か、危険負担と債務不履行					入江 祥子	
第8回	所有権・その他物権について、物権法定主義					入江 祥子	
第9回	民法における不法行為責任とは、損害賠償					入江 祥子	
第10回	事務管理・不当利得					入江 祥子	
第11回	弁済をめぐる問題					入江 祥子	
第12回	家族法の概説、					入江 祥子	
第13回	親子関係にかかわる制度について、離婚、養子縁組					入江 祥子	
第14回	相続制度の概説					入江 祥子	

第 1 5 回	法人とは、社団法人と財団法人	入江 祥子
第 1 6 回	筆記試験	入江 祥子
教科書		
教・書籍名 1		教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	六法	参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	経済学			担当者	高橋 正巳		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-SI-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	テーマ：工業経済における市場経済と非市場経済との関連性 到達目標：経済学の基本である市場経済と、その外部性からなる非市場経済を理解する 現代の経済を理解するには、インフレーションやデフレーション、貿易や為替などの理解は必須となっている。しかし、税金と社会保障、あるいは「地球の危機」などが、なぜ問題になってしまうのかを含めて学生が理解できるようになるのが目標である。						
授業概要	人は生活を維持するために財を自分でつくるだけでない。企業で生産した財をお店で購入して消費をする。ここで財を生産→流通→売買→消費する活動を一般に「経済」と呼ぶ。この経済活動は、ちょうどスポーツがコートで勝負をめぐって自由に競争するように、人や企業が自分の利益をめぐって自由に活動するとき、その活動のコート内を(自由)市場と呼んでいる。つまり、人も企業も自分の利益をできるだけ多くしようとするとき、通常では費用(コスト)と名づけられる、お金や時間、あるいは労力をできるだけ少なくしようとするだろう。これが上手く動いていれば問題はほとんどないが、しかし現在はそうとは言い切れない。非市場経済が無視できないほど巨大化してきたのだが、ここではこれらの問題を含めて話を進める予定である。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	自学自修による「持ち帰り試験」(50点)、プレゼンテーションなどアクティブラーニング(20点)、定期末試験(20点)、講義中での積極的な参加(10点)とを総合して評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	「持ち帰り試験」と「定期末試験」は日時を指定して本人に返却する						
履修条件・注意事項	今回のパンデミックもそうだが、それは経済と密接に関係しているように、学生はテレビや新聞のニュースをチェックすることが課される。また、社会経済に関する記事を読む。日本語で専門領域の文章を書くこと。これらが主体的に実施できることが望ましい。						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和51年大学経済学部卒、昭和57年大学院社会学研究科修士課程修了、昭和60年大学院社会学研究科博士課程満期修了退学。経済の研究歴は35年以上で、本学では経済学の関連科目を担当している。				
事前学習・事後学習とその時間	各講義時間の項目に関して、事前学習に90分間を使い理解し納得することに心掛ける。専門的な語彙を整理し、理解できないのを次の講義で尋ねる。さらに、講義を受けた後では復習に90分間使い、理解しているかどうかを再度確認する。よく判らなかつた語彙や説明を抜き出しておいて、やはり次の講義で質問をする。						
オフィスアワー	岡山キャンパスの個人研究室で毎週木曜日の13：30～15：00です						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション						高橋
第2回	われわれの生活と経済との関係						高橋
第3回	工業経済と市場経済の成り立ち(失業と貧困の起源)						高橋
第4回	経済活動の自由と非市場経済						高橋
第5回	合理的な経済活動と効率性						高橋
第6回	市場経済の拡大と為替市場						高橋
第7回	高度経済成長と高インフレーション						高橋
第8回	市場経済と中央銀行の金融政策						高橋

第 9 回	デジタル情報経済と工業経済	高橋
第 1 0 回	非市場経済と地球環境問題の浮上	高橋
第 1 1 回	デジタル情報経済によるグローバル化経済	高橋
第 1 2 回	低成長時代のデフレーションとその悪循環	高橋
第 1 3 回	脱カーボン(グリーンエコノミー)時代の産業構造	高橋
第 1 4 回	市場経済と国家財政との関係強化	高橋
第 1 5 回	経済のグローバル化と地球環境	高橋
第 1 6 回	期末単位認定試験	高橋
教科書		
教・書籍名 1		教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	『ど素人でもわかる経済学の本 - 日常が学びに変わる! -』	参・出版社名 1 株式会社シナノ
参・著者名 1	崔真激	参・ I S B N 1 ISBN978-4-7981-5850-1
参・書籍名 2	『父が娘に語る経済の話』	参・出版社名 2 ダイヤモンド社
参・著者名 2	ダイヤモンド社	参・ I S B N 2 ISBN978-4-478-10551-1

授業科目名	社会学			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-SI-0-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	△	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 11. 住み続けられるまちづくりを 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリシップで目標を達成しよう						
到達目標	社会学は受講者自身が生活する場所と、生活そのものを見直す学問である。社会学を知る。これがテーマである。学問分野として社会に浸透しているため基礎概念や独自の発想を理解することも大切である。有り体に言えば、公務員試験などの受験科目になっているからである。従って、到達目標は社会学の基礎知識の取得である。社会学的思考法について知ることも目標の一つとしておきたい。						
授業概要	社会学それ自体の形成（社会学史）－これには自然法概念のような法学、政治学、経済学などの基礎となった概念の理解も必要となるが－について述べるが、今日、社会学はまた実践的な仮説を担う応用科学でもある。その基礎となる理論社会学、実践的なテーマに基づいて産業、家族、地域、福祉などへの社会学的アプローチについて学ぶ。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	授業態度（20％）、レポート試験（50％）、筆記試験（30％）として、これらを総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本講義の到達目標の達成に向けて、各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスを。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。期末試験やレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週水曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	社会学という学問					大下 朋子	
第2回	そもそも「社会」とは何だろう					大下 朋子	
第3回	家族の絆とは何か					大下 朋子	
第4回	夫婦・親子の関係					大下 朋子	
第5回	住縁で結ばれた集団：地域的共同体のゆくえ					大下 朋子	
第6回	メディアとは何か					大下 朋子	
第7回	活字メディアと近代社会					大下 朋子	
第8回	マルチメディアと複製技術					大下 朋子	
第9回	情報化社会とは					大下 朋子	
第10回	インターネットと公共圏					大下 朋子	
第11回	社会的地位は測定できるか					大下 朋子	
第12回	産業化と階層構造の変化					大下 朋子	
第13回	階層間対立と政策					大下 朋子	
第14回	仕事と家族をめぐる問題					大下 朋子	
第15回	NPO・NGOと市民社会					大下 朋子	
第16回	単位認定試験（筆記試験／レポート試験）					大下 朋子	
教科書							

教・書籍名 1	適宜、参考文献を指示する。講義用のレジュメを配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	よくわかる社会学〔第 2 版〕	参・出版社名 1	ミネルヴァ書房
参・著者名 1	宇都宮 京子	参・ I S B N 1	978-4-623-05381-0
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	環境科学				担当者	大下 浩司			
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年				ナンバリング	GE-NM-0-001			
必修・選択	選択	単位数	2単位		時間数	30時間		授業形態	講義
年次	1年		開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目									
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考		◎	DP 4. コミュニケーション・表現力		○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感			DP 8. 学科項目		○
SDGs 関連項目	2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／6. 安全な水とトイレを世界中に／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／13. 気候変動に具体的な対策を／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう								
									
到達目標	地球環境を科学的に理解し論理的に思考できるようになることをテーマとして、地球環境全般に関わる知識を修得して科学的に理解し、論理的に考える能力を身につけることを到達目標とする。								
授業概要	身の回りから地球規模の環境に関わる諸問題に対し、大学生が身につけておくべき知識を修得して理解する。このために、問題に含まれる諸課題を整理して、言語的な情報を非言語的なイメージで表現し、これらの関係性を論理的に理解する。そして、環境に関わる諸問題について、授業担当者を含めた受講者らとディスカッションする。これらを学生が主体となって取り組めるように授業を行なう。								
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション								
評価方法と割合	地球環境を科学的に理解し論理的に思考する力を確認するための単位認定試験（40%）、発表（30%）、主体的に問題に取り組み論理的に思考しようとする姿勢を授業態度（30%）として評価する。								
ルーブリック評価	無し								
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。								
履修条件・注意事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は予め連絡すること。他の受講生らが迷惑に感じる言動は控えること。								
実務経験のある教員	該当しない	内容							
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を理解し必要に応じて情報収集しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ内容を振り返り、理解を深め疑問点を明らかにすること。								
オフィスアワー	個人研究室にて金曜日3限に実施。								
授業計画								担当者	
第1回	多種多様な環境問題							大下浩司	
第2回	環境問題を考える							大下浩司	
第3回	環境問題を整理する							大下浩司	
第4回	環境問題の核心を捉える							大下浩司	
第5回	グループワークの総括							大下浩司	
第6回	地球温暖化							大下浩司	
第7回	酸性雨							大下浩司	
第8回	バイオマス							大下浩司	
第9回	水							大下浩司	
第10回	オゾン層							大下浩司	
第11回	SDGs の概要							大下浩司	
第12回	環境問題の関わるSDGs							大下浩司	
第13回	環境問題に関する発表1							大下浩司	
第14回	環境問題に関する発表2							大下浩司	
第15回	環境問題に関する発表3							大下浩司	
第16回	単位認定試験							大下浩司	
教科書									
教・書籍名1	適宜、資料を配布する。					教・出版社名1			

教・著者名1		教・I S B N 1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名1	トコトンやさしい環境汚染の本	参・出版社名1	日刊工業新聞社
参・著者名1	大岩敏男、大木久光、高堂彰二、保坂義男	参・I S B N 1	978-4-526-07300-7
参・書籍名2	トコトンやさしい地球科学の本	参・出版社名2	日刊工業新聞社
参・著者名2	地球科学研究会	参・I S B N 2	978-4-526-05524-9

授業科目名		物理学			担当者		高木 秀明		
配当学科・研究科		2019～ 2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング		GE-NM-0-002		
必修・選択		選択	単位数	2単位		時間数	30	授業形態	講義
年次		1年		開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜2限
ディプロマポリシー対応項目									
D P 1. 知識・技能		D P 2. 情報の活用		D P 3.主体的な学びと論理的な思考			D P 4. コミュニケーション・表現力		
D P 5. グローバルな視野と地域貢献活動		D P 6. 課題解決力		D P 7. 自己効力感			D P 8. 学科項目		
S D G s 関連項目		7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／13. 気候変動に具体的な対策を 							
到達目標		身の回りにある物品や事象を平易な物理学の知識を使って理解することをテーマとする。到達目標は、それぞれの事象が物理学のどの分野に相当するのか、おおよその数値で把握できるようになることとする。							
授業概要		身の回りにある物品や事象は物理学の知識に基づいて説明できる。たとえば、虹はなぜ七色（日本では）なのか？なぜ、夏と冬で音の伝わり方違うのか？真夏のエアコンの効き具合等々。内容として、力学・波・熱・電磁気の各分野について、高等学校で物理を学んでいない学生も対象として授業を構成している。アクティブラーニングとして、数回の演示実験を交えながら授業を進めていく。							
アクティブラーニングの内容		その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）							
評価方法と割合		単位認定試験80%、課題・ポートフォリオの提出物の内容20%。							
ルーブリック評価									
課題や試験のフィードバック方法		筆記試験の結果はユニバーサルパスポート上で模範解答とコメントを入れて掲示する。							
履修条件・注意事項		授業内容によって討論をおこなうため、ノート作成と復習も必要である。 試験では、到達目標の理解度を見るため、特に復習が必要である。 到達目標、授業内容、評価方法を詳しく説明するので、初回の授業は必ず出席すること。							
実務経験のある教員		該当しない	内容						
事前学習・事後学習とその時間		各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点をまとめた上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。							
オフィスアワー		1号棟1階個人研究室にて金曜日2時限に実施。							
授業計画								担当者	
第1回	数と物理量							高木	
第2回	速度・加速度							高木	
第3回	力と運動							高木	
第4回	振動と波							高木	
第5回	音と波動現象							高木	
第6回	光と色							高木	
第7回	光と色の演示実験							高木	
第8回	物質の構造と性質							高木	
第9回	仕事、エネルギー、エントロピー							高木	
第10回	さまざまなエネルギー							高木	
第11回	熱力学法則に関する演示実験							高木	
第12回	電気と磁気							高木	
第13回	電磁気							高木	
第14回	古典物理学と現代物理学							高木	
第15回	量子物理学							高木	
第16回	単位認定試験－筆記試験							高木	
教科書									
教・書籍名1	ゼロからわかる物理					教・出版社名1	丸善出版株式会社		
教・著者名1	志村忠夫					教・I S B N 1	ISBN978-4-621-08432-8		

教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	PHISICS FOR FUTURE PRESIDENTS -THE SCIENCE BEHIND THE HEADLINES	参・出版社名 1	W. W. NORTON
参・著者名 1	Richard A. MULLER	参・ I S B N 1	ISBN 978-0-393-33711-2
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	化学			担当者	高木 秀明		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-NM-0-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／12. つくる責任・つかう責任 						
到達目標	身の回りにある物品の成り立ちや効能を化学の知識を使って理解することをテーマとする。到達目標は、それぞれが化学のどの分野に相当するのかを把握できるようになることとする。						
授業概要	身の回りにある物品は、化学の知識に基づいてつくられている。古来から日常生活の便宜性を向上させることと一緒に学問が確立してきた。もちろん、錬金術のように思い通りの成果が出なかったものもある。 あえて縦書きの教科書を使用し、記述されている項目の記憶を目的とするのではなく、予習・復習を超えた自修によって、イメージとしてつかんでもらう。そのため、授業では、様々な資料を提示し、理解を深めるような内容とする。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	単位認定試験80%、確認課題・ポートフォリオ等の提出物の内容20%。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎回の確認テストは、次回に、コメントを入れて、返却する。単位認定試験の結果は、模範解答に解説を加え、ユニバーサルパスポート上で公開する。						
履修条件・注意事項	授業内容によって討論をおこなうため、ノート作成と復習も必要である。 試験では、到達目標の理解度を見るため、特に復習が必要である。 到達目標、授業内容、評価方法を詳しく説明するので、初回の授業は必ず出席すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点をまとめた上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。参考書は、教科書の原著で、著者は、著名な科学者で科学エッセイのベストセラー作家でもあるPeter ATKINS氏である。英文表現に興味ある学生は、精読を勧める。						
オフィスアワー	1号棟1階114研究室にて火曜日4時限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	化学の起源						高木
第2回	化学の対象・成り立ち						高木
第3回	周期表と原子・電子						高木
第4回	化学結合						高木
第5回	熱力学と反応						高木
第6回	自由エネルギー・エントロピー						高木
第7回	化学平衡						高木
第8回	化学反応の進みかた						高木
第9回	基本の化学反応						高木
第10回	物質をみる						高木
第11回	物質を分ける（演示実験）－実習						高木
第12回	物質を操作してつくる						高木
第13回	化学と自然						高木
第14回	化学製品						高木
第15回	化学と人間活動						高木

第 1 6 回	単位認定試験－筆記試験		高木
教科書			
教・書籍名 1	サイエンス・パレット104 化学－美しい原理と恵み	教・出版社名 1	丸善出版株式会社
教・著者名 1	渡辺 正 訳	教・I S B N 1	ISBN978-4-621-08809-8
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	What is chemistry ?	参・出版社名 1	Oxford University Press
参・著者名 1	Peter Atkins	参・I S B N 1	ISBN978-0-19-968398-7
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	統計学			担当者	佐藤 匡		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	GE-NM-0-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用	◎	DP3.主体的な学びと論理的な思考	△	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	自然現象や社会現象についての量的データを統計的に整理したり分析したりすることは、計画立案や意思決定によく行われていることである。つまり、社会ではデータを整理し分析する能力が求められるとも言い換えることができる。 本講義は、その統計学の入門をテーマとして、外国学科のディプロマポリシーに従って、目的達成のためにどのようなデータを集め、それをどのように整理して、分析結果をどのように読み取るかという思考・判断能力を身に付けるのが到達目標である。						
授業概要	統計学はむずかしいと感じている人も多いが、身近なことに統計学がうまく応用されて役立っていることも多い。統計学の手法を使って数値データを分析することにより、あいまいな事柄に科学的な説得力を持たせることができる。 本講義では、その分析に必要な知識である、Excelを活用してのデータの入力、度数分布表、ヒストグラム、平均と分散、仮説検定、散布図と相関係数などについて学習する。 講義内容に対応してパソコンを使用して適宜演習が行われる。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「統計の基礎的知識の理解」の予習復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物30%、記述統計を中心とした理解度を問う試験の成績を40%として最終的に総合評価が行われる。これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準とされる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	受講者数は、パソコン教室の定員以内とする。 教室の定員のため抽選となることがある。抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 第1回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。						
実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員が理事を務めているNPO全国要約筆記問題研究会（会員数約1,300人）では、全国の自治体に対して要約筆記者養成の現状調査を行っている。また、パソコン要約筆記全体投影の読みやすさについて、首都圏の聴覚障がい者にアンケートや読みやすさの調査を行っている。その分析では本講義の知識が活用されている。				
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。						
	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日 3 時限目						

オフィスアワー	高梁キャンパス254研究室火曜日 4 時限目
	秋学期：
	岡山キャンパス131研究室火曜日 2 時限目
	高梁キャンパス254研究室金曜日 3 時限目
予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。	

授業計画		担当者
第 1 回	オリエンテーション・スキル確認テスト・統計処理の概要	佐藤 匡
第 2 回	Excelの操作	佐藤 匡
第 3 回	度数分布表	佐藤 匡
第 4 回	ヒストグラム	佐藤 匡
第 5 回	データの散らばり具合	佐藤 匡
第 6 回	平均と分散	佐藤 匡
第 7 回	標準偏差	佐藤 匡
第 8 回	乱数とシミュレーション	佐藤 匡
第 9 回	検定の考え方	佐藤 匡
第 1 0 回	検定の実際	佐藤 匡
第 1 1 回	いろいろなグラフ	佐藤 匡
第 1 2 回	散布図	佐藤 匡
第 1 3 回	相関関係と因果関係	佐藤 匡
第 1 4 回	相関係数	佐藤 匡
第 1 5 回	回帰分析、まとめ	佐藤 匡
第 1 6 回	単位認定試験	佐藤 匡

教科書			
教・書籍名 1	統計学の図鑑	教・出版社名 1	技術評論社
教・著者名 1	涌井良幸・涌井貞美	教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名		数学			担当者		大下 浩司		
配当学科・研究科		2019～ 2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング		GE-NM-0-005		
必修・選択		選択	単位数	2単位		時間数	30時間	授業形態	演習
年次		1年		開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目									
DP 1. 知識・技能		◎	DP 2. 情報の活用		◎	DP 3.主体的な学びと論理的な思考		◎	DP 4. コミュニケーション・表現力
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動			DP 6. 課題解決力		△	DP 7. 自己効力感			DP 8. 学科項目
SDGs 関連項目		9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／12. つくる責任・つかう責任／17. パートナリーシップで目標を達成しよう 							
到達目標		迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。							
授業概要		数的推理・資料解釈・判断推理・空間把握に関する課題を数学的かつ論理的に理解する力を身につける。具体的には、方程式や確率等の数的推理、データやグラフ等の資料解釈、論証や対応関係等の判断推理、立体図形や展開図等の空間把握に関する比較的身近な問題について考え、自ら解法を見つけ出し答えを導き出す。必要に応じて、解法を見つけ出すために必要な情報を収集する。更には、助言を適宜得ながら学生同士が教えあい学びあい、課題に対する数的理解を深める。							
アクティブラーニングの内容		その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）							
評価方法と割合		数的理解力を把握するための単位認定試験（80%）、授業への積極的な参加態度（20%）をもとに総合評価する。							
ルーブリック評価		無し							
課題や試験のフィードバック方法		内容に応じて適宜指示する。							
履修条件・注意事項		やむを得ず遅刻・欠席する場合は予め連絡すること。他の受講生らが迷惑に感じる言動は控えること。							
実務経験のある教員		該当しない	内容						
事前学習・事後学習とその時間		予習と復習には各2時間を要する。時間をかけて問題に向き合い、多角的な視点や柔軟な思考を意識して予習・復習に取り組むこと。							
オフィスアワー		金曜日3限（113研究室）							
授業計画								担当者	
第1回		数的推理：濃度						大下浩司	
第2回		数的推理：速さ・距離・時間						大下浩司	
第3回		数的推理：ものの値段と個数						大下浩司	
第4回		数的推理：定価・原価・利益						大下浩司	
第5回		数的推理：割合と値段						大下浩司	
第6回		数的推理：仕事算						大下浩司	
第7回		資料解釈：表の読み取り＆資料の読み取り						大下浩司	
第8回		数的推理：順列と組み合わせ						大下浩司	
第9回		数的推理：確率のとりえ方						大下浩司	
第10回		判断推理：集合						大下浩司	
第11回		判断推理：推論						大下浩司	
第12回		判断推理：ものの流れと比率＆ブラックボックス						大下浩司	
第13回		資料解釈：グラフの領域						大下浩司	
第14回		判断推理：論証						大下浩司	
第15回		空間把握：立体の展開図・断面						大下浩司	
第16回		単位認定試験						大下浩司	
教科書									
教・書籍名1		2024年度版 ドリル式 SPI問題集						教・出版社名1	
教・著者名1		柳本新二						教・I S B N 1	
教・書籍名2								教・出版社名2	

教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	生き方			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他3年			ナンバリング	FS-FS-3-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も 16. 平和と公正をすべての人に						
到達目標	「先達に学ぶ、人生のより良い『生き方』」をテーマとし、これまで日本を創ってきた人々、豊かで平和な社会を築いてきた人々の<生>の声を聞き、学生一人ひとりが、この国や社会のためにできることは何か、また自らが幸福な人生を送るために何をすればよいのか…等、それぞれが自分のあるべき将来について考える。そうすることで、今の自分を見つめ直すことができるようになる。また、自分の<志>を確認できるようになる。						
授業概要	国際社会に雄飛して、自分と自国について誇りをもって語れるような生き方、そして自分だけが幸せになるのではなく、周りにいる人々を幸せにするような生き方とは一体どういうものなのか。各分野の専門家から、どう生きるべきかを講義する。倫理学、哲学、物理学、科学思想、あらゆる学問の根底にある人生の問題が、この講義で語られるだろう。各講師は、若い頃、どのような<志>を抱き、夢にチャレンジし、失敗を繰り返し、目標に向かって歩んできたかを、具体的な体験を交えて語っていく。それらは、グローバル化時代の地域社会を担う次世代に向けての、貴重なメッセージとなるだろう。 なお、コロナ禍が収束していない現状を踏まえ、岡山県外在住の講師の授業に関しては、TeamsまたはZoomを使ったオンライン授業とする。ただし、履修学生は講義室で対面授業と同様に受講することとする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	「自分を見つめ直すことができるようになる」という目標への到達度について、各学生の<気づき>を計るために、授業での質問や発表等を通じて総合的に評価する。また、「自分の<志>を確認できるようになる」の到達度について、知識および認識力を計るための試験を行って評価する。授業毎試験（30%）、授業への積極的な参加態度（20%）、単位認定試験（50%）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	各回のミニテストは、コメントを付し、返却する。最終レポートは、コメントを付し返却する。						
履修条件・注意事項	生きることの意味を問うことに関心を持っていること。 講義予定表は第1回授業時に配布する。外部講師の都合で、日程変更があり得るので、ユニパの連絡並びに掲示板の掲示に注意すること。 コロナ禍の為、授業の一部をオンライン授業で実施する場合があります。						
実務経験のある教員	該当する	内容	本科目の教員は、すべて外部の経験豊富な講師を招聘する。ビジネス、文化芸術、保健医療などの分野における実務専門家である。				
事前学習・事後学習とその時間	予習として、授業計画に記載されている各講師について、以下のことを下調べしなくてはならない。①略歴について、②専門分野について、③著作について、③講師が大切にしてきたこと、である。復習は、講師が書いた記事や著作、推薦した書物を読んでみることである。復習の成果は最終週の単位認定試験で問われる。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室において、毎週金曜日5限をオフィスアワーとします。						
授業計画						担当者	
第1回	生き方を学ぶ					加計美也子・畝	
第2回	生き方					藤原恵子・畝	
第3回	生き方					ロベルト・ベネス、畝	
第4回	生き方					大原謙一郎・畝	
第5回	生き方					黒住宗晴・畝	
第6回	生き方					原田正道・畝	

第 7 回	生き方	桑原裕、 畝	
第 8 回	生き方	栗栖基、 畝	
第 9 回	生き方	大藤剛宏、 畝	
第 1 0 回	生き方	室瀬和美、 畝	
第 1 1 回	生き方	江原啓之、 畝	
第 1 2 回	生き方	大岡弘武、 畝	
第 1 3 回	生き方	松田正己、 畝	
第 1 4 回	生き方	伊藤健介、 畝	
第 1 5 回	生き方	難波健、 畝	
第 1 6 回	最終試験（レポート）	畝	
教科書			
教・書籍名 1	予習復習の課題とは別に参考文献として適宜指定する。		教・出版社名 1
教・著者名 1			教・ I S B N 1
教・書籍名 2			教・出版社名 2
教・著者名 2			教・ I S B N 2
参考書			
参・書籍名 1			参・出版社名 1
参・著者名 1			参・ I S B N 1
参・書籍名 2			参・出版社名 2
参・著者名 2			参・ I S B N 2

授業科目名	日本のことば			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本のことばでは、社会言語学的な視点から日本語の言語としての特徴や日本人の特性について理解する。その理解を通して、学生は日本人が長い歴史の中で培ってきた言語感覚について理解を深めるとともに、その特性を教授することができるようになる。また、日本語を母語としない人に日本語を教える教員を養成するために必要とされる「言語政策とことば」「日本語の構造」（日本語分析、音韻・音声体系、文字と表記、形態・語彙体系、文法体系、意味体系、語用論的規範など）の内容についても理解する。						
授業概要	言葉を話すことは人間が人間であることの本質とかかわり、長い歴史の中で、日本人は日本語、あるいはやまとことばを生み出した。その特徴を理解することによって、日本人の発想の原点やその価値体系や世界観を知ることができる。ときに英語などのインド・ヨーロッパ語と比較しながら、日本語が成り立つ背景を理解し、季節・年齢・立場などによって区別される表現や言語感覚の習得を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	講義への出席を含めて話の聞き方、意見の出し方などを平常点として20点、講義内容をテーマとして出された持ち帰り試験が50点、そして筆記試験を30点として、これらを総合した100点満点で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本科目は日本語教員養成コースの必修科目であり、本コースの取得を目指す者は必ず履修しなければならない。単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験（400字×10枚以上）の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので要注意のこと。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週水曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	日本のことばの概括					大下 朋子	
第2回	ことばの文化的文脈とコミュニケーション					大下 朋子	
第3回	ことばの意味確定度不十分性とコンテキスト					大下 朋子	
第4回	日本語から日本人を考える					大下 朋子	
第5回	日本人の言語意識と行動様式					大下 朋子	
第6回	日本人の価値体系とことば					大下 朋子	
第7回	日本語から日本人を考える					大下 朋子	
第8回	ヨーロッパ諸語の自称詞と対称詞					大下 朋子	
第9回	日本語における自称詞と対称詞の構造					大下 朋子	
第10回	遊牧のパーソナリティと契約の精神					大下 朋子	
第11回	西洋社会の原理「愛のアイデア」と個人					大下 朋子	
第12回	日本的共同体の中の個					大下 朋子	
第13回	和の哲学と日本的共同体					大下 朋子	
第14回	日本語の構造					大下 朋子	

第 1 5 回	言語政策とことば	大下 朋子	
第 1 6 回	単位認定試験（筆記試験／レポート試験）	大下 朋子	
教科書			
教・書籍名 1	テキストは使用しない。資料を配付し、講読すべき文献は適宜指示する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	日本の芸術			担当者	高木 秀明、山崎 仙狹		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／11. 住み続けられるまちづくりを  						
到達目標	「外国の人々に伝えるための日本の芸術を理解する。」をテーマとして、国際交流の場面でもよく話題にあがる茶の道と関連する香・庭・花・道具について歴史的な背景と現代の作法などを学び、外国の人々に伝える場面において自ら考え、行動に結びつけるための能力を身につける。英語力がつけば、本講義で身につけたことを英語で表現できるようになる。 具体的には、本講義を単位修得したのち、2年次秋学期には英語で本講義で得た知識を外国の人々に説明できるようになることを到達目標とする。						
授業概要	外国の人々に日本固有の〈美〉とはどのようなものかと尋ねられたら、どう答えたらよいのだろうか。本講義では、日本人が創造してきた〈美〉に関するものから日本の茶の道を中心にそれを取り巻く菓子・香・庭・花・道具そして心がけや立居振舞について学び、日本人に共通して流れている美的感性とそれに基づく心がけや立居振舞について考えながら、幅広い教養としての日本の芸術に関する知識を身につける。そして、この科目で得た能力をさらに英語で表現できるようになることも念頭において、授業に取り組んでいただく。						
アクティブラーニングの内容	実習／フィールドワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	発言頻度や発言内容等、授業への取り組み度によって達成度を評価する。また、最終到達目標が、英語で説明できるようになるためには、全15回の内容は、理解できていないといけない。したがって、成績評価は、授業内での質問に対する応答（50％）、内容確認のための単位認定試験（50％）のウエイトにより評価する。ただし、他の受講生に迷惑となる受講態度が認められた場合には減点する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業内に課した課題については、学生一人ひとりにコメントを付して返却する。						
履修条件・注意事項	実践的な作法等を学ぶ授業が主であるので、真摯な姿勢で受講すること。特に和室での授業もあるので、毎回、ソックス等を着用するなど、身支度にも気を付けること。 授業で使用する懐紙、茶、菓子、花など、各自で使用・制作した教材は必ず自宅に持ち帰ること。 学外で授業を土日に行う場合がある。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、茶道・華道・禅を実践している実務家による科目である。また、それらを海外でも実践されている。地域・日本・海外という場における日本の芸術文化を実践・体系的に学ぶことができる科目である。				
事前学習・事後学習とその時間	予習として、日本の文化について、日々の生活の中でも疑問をもちそれを解決するよう調べることを勧める。授業内容を正確に理解するために、ノート作成と復習が必要である。						
オフィスアワー	火曜日4時限高木研究室で行う。						
授業計画						担当者	
第1回	茶の来た道					山崎	
第2回	中国・日本の茶の歴史					山崎	
第3回	栄西について					山崎	
第4回	栄西踊りについて－フィールドワークと実習、栄西生誕の地にて奉納踊り					山崎	
第5回	栄西とお茶					山崎	
第6回	菓子のこと－ルーツから現在まで（菓子の歴史）					山崎	
第7回	菓子のこと－ルーツから現在まで（1500年代の菓子をつくる）－実習					山崎	
第8回	香のこと（香の歴史・種類・目的）					山崎	
第9回	庭のこと（庭から露路への歴史）－実習					山崎	

第 1 0 回	花のこと（花の歴史）	山崎
第 1 1 回	花のこと（花をアレンジする）－実習	山崎
第 1 2 回	道具のこと（茶碗・食事の仕方）－実習	山崎
第 1 3 回	染のこと（紅花で布をそめる）－実習	山崎
第 1 4 回	心がけ－日本人として知っておきたい文化と常識	山崎
第 1 5 回	立居振舞（和室にて菓子と抹茶について）－実習	山崎
第 1 6 回	単位認定試験－筆記試験	山崎
教科書		
教・書籍名 1	使用しない（必要に応じプリントを配布する）	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	日本の歴史			担当者	國方 久史		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／16. 平和と公正をすべての人に  						
到達目標	我々は、高度に発達しつつも、なお不安定な現代社会に生きている。この混沌として不確実な社会の中で生活していくには、一定の指針を持たなければならない。茫洋たる大海に船を発進させるとき、高性能で堅牢な羅針盤が必要となる。そこで、歴史を正しく、しかも貪欲に学習してほしい。吸収した知識を有効に活用していけば、羅針盤は自ずと手に入るであろう。歴史はそれ自体そっくり繰り返しはしない。しかし、過去を真剣に吟味することによって、私たちは啓発的な遺産や教訓に目を開かされることになる。						
授業概要	日本の歴史を先史・古代から現代までを、いくつかのテーマを選んで講義する。それにより、日本の歴史の大きな流れを把握することが可能となるように配列したつもりである。大いなる好奇心と豊かな想像力をもって授業に取り組むならば、上に述べた羅針盤を手に入れることができるであろう。それにより、物事を自ら考え判断できる自立した主体となることが可能となるであろう。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	この科目では、知識の修得程度を確認するための試験（50％）、自ら調べまとめる能力を確認するための課題レポート（50％）で評価する。評価のために実施した課題は、授業中にフィードバックするので、単位認定試験までに必ず見直しを行うこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	数回の課題を科しているが、後日学生に返還し、それを基に全体で討議している。学生個々の考え方をできるだけ尊重し、正解はこれしかないということ为避免、多様な考え方が存在することに気づいてほしいと考えている。						
履修条件・注意事項	授業の三分の一以上を欠席した者は、単位認定試験を受験できないので注意すること。『日本の歴史ノート』を準備するので毎時間持参し、整理すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	課題の作成には教科書の予習・復習（各30時間）が必要である。						
オフィスアワー	授業後あるいは火曜日の昼休み。事務室。						
授業計画						担当者	
第1回	旧石器時代～農耕社会の成立					國方 久史	
第2回	古墳とヤマト政権					國方 久史	
第3回	改革の時代					國方 久史	
第4回	律令国家の展開					國方 久史	
第5回	摂関政治と院政					國方 久史	
第6回	鎌倉幕府の成立と衰退					國方 久史	
第7回	室町幕府の成立～戦国時代へ					國方 久史	
第8回	幕藩体制の確立					國方 久史	

第 9 回	幕藩体制の展開	國方 久史	
第 1 0 回	幕藩体制の動揺	國方 久史	
第 1 1 回	近代国家の成立	國方 久史	
第 1 2 回	近代日本とアジア	國方 久史	
第 1 3 回	近代日本と世界	國方 久史	
第 1 4 回	占領下の日本～高度成長の時代へ	國方 久史	
第 1 5 回	激動する世界と日本	國方 久史	
第 1 6 回	単位認定試験	國方 久史	
教科書			
教・書籍名 1	使用しない	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	詳説日本史B	参・出版社名 1	山川出版社
参・著者名 1	石井・五味他	参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	日本の経済				担当者	高橋 正巳			
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年				ナンバリング	FS-FS-2-005			
必修・選択	選択	単位数	2単位		時間数	30		授業形態	講義
年次	2年		開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜4限	
ディプロマポリシー対応項目									
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考		◎	DP 4. コミュニケーション・表現力		◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感		○	DP 8. 学科項目		○
SDGs 関連項目	1 貧困をなくそう 2 飢餓をゼロに 3 すべての人に健康と福祉を 4 質の高い教育をみんなに 8 働きがいも経済成長も 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任、つかう責任 13 気候変動に具体的な対策を 14 海の豊かさを守ろう 15 陸の豊かさを守ろう 16 平和と公正をすべての人に 17 パートナリシップで目標を達成しよう								
到達目標	テーマ：世界との関わりで成り立つ「日本の経済」について 到達目標：現代日本の経済は日本だけでなく世界経済との関わりでプラスもマイナスの成長も成り立っている。 日本の経済という日本の社会経済の現状や成立のみを理解すればよい訳ではない。ただ、やはりそうした中に日本の独自性もまた見られるのも事実である。そこで、現代経済の現状を見つつ日本の社会経済を論じながら世界の中にあることを学生は理解できる。								
授業概要	戦後の日本経済が奇跡的な復活を終えると高度経済成長が20年間続いた。しかし、その後安定成長となるものの1990年頃にはバブル崩壊となった。戦後からこの時期までは、多数の中間層が形成され貧困格差も失業もそれほど大問題とはならなかった。しかも日本の独自な特性が発揮され日本経済は順調であった。ただ、かつての日本人が持っていた花鳥風月との一体的な生活をすっかり忘れ去った人も増加した。そして現代の低迷する日本経済を考えると、表面的にはDXが主導する産業の再建でよいのだが、これは科学技術と組織変革から実施される。だが、これはアジア世界へすぐに移入されてたちまち日本経済のライバルとなる。「地球の危機」への対応も必須だから日本の経済が果たさなければならぬ課題は膨大である。								
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）								
評価方法と割合	講義への意見や態度に10点、読書レポート（レジュメ）、小論および報告に60点、および試験に30点で、これを総合的に評価する。								
ルーブリック評価									
課題や試験のフィードバック方法	「小論試験」やレジュメなどは日時を指定して本人に返却する								
履修条件・注意事項	1年対象の経済学を履修していることが望ましい。また、テレビや新聞のニュースをチェックし社会経済に関する記事を読む。さらに日本語で専門分野の文章を書くことを嫌わない。これらを学生は主体的に実施する。								
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和51年大学経済学部卒、昭和57年大学院社会学研究科修士課程修了、昭和60年大学院社会学研究科博士課程満期修了退学。経済学や社会経済に関して35年以上の研究歴を持っており、本学では経済学や日本の文化経済も担当している。						
事前学習・事後学習とその時間	各講義時間の項目に関して、事前学習に90分間を使い理解に務める。その際に専門的な語彙もまとめる。講義後には復習に90分間を使い、さらに理解を深めて修得する。それでもよく判らない語彙や事項は次の講義のとき質問して解決を図る。								
オフィスアワー	毎週木曜日に岡山キャンパスの個人研究室で13：30～15：00まで								
授業計画								担当者	
第1回	オリエンテーション							高橋	
第2回	産業革命における工業経済の成立							高橋	
第3回	三段階の産業革命と近代日本の工業化							高橋	
第4回	市場経済と工業経済と貨幣経済							高橋	
第5回	戦後の日本経済と産業構造							高橋	
第6回	加工貿易型の日本経済と高度経済成長							高橋	
第7回	1970年代の二大ショックの意味と日本経済の海外展開							高橋	
第8回	安定経済成長の陰で進行する政府の赤字財政							高橋	
第9回	プラザ合意がバブル崩壊を準備したのか							高橋	

第 1 0 回	なぜ 4 分の 1 世紀以上もデフレーションだったのか	高橋
第 1 1 回	デジタル情報経済の登場とゼロ金利政策	高橋
第 1 2 回	日本銀行の金融緩和と経済成長ゼロ	高橋
第 1 3 回	テック企業は巨大経済格差を解消できるか	高橋
第 1 4 回	世界経済は成長、日本経済は一人負け	高橋
第 1 5 回	地球環境への対応策としてのSDG s と日本経済	高橋
第 1 6 回	期末単位認定試験	高橋
教科書		
教・書籍名 1		教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	『日本経済 ー企業からの革命』	参・出版社名 1 日本経済新聞社
参・著者名 1	野口悠紀雄	参・ I S B N 1 ISBN 4 - 532 - 35002 - 6
参・書籍名 2	『会社がなくなる！ ーこれから始まる「大企業の中小化」に備えよ！ ー』	参・出版社名 2 講談社現代新書
参・著者名 2	丹羽宇一郎	参・ I S B N 2 ISBN 978 - 4 - 06 - 524959 - 8

授業科目名	クールジャパン論			担当者	カルロス・ガルシア、イアン・ウォーナー、金沢 真弓、ジョン・フォーセツ		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	FS-FS-2-006		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 						
到達目標	This course of lectures is designed to educate Japanese students how they themselves can formally and informally speak compellingly, and at length, in English, about Japan and things Japanese. Specifically, it is designed to improve student awareness in regard to 'good' and 'positive' Japan-centered topics that are likely to appeal to, interest, impress, inform, educate and potentially benefit non-Japanese English language users of all ages and backgrounds.						
授業概要	Each weekly lecture, and all related practical activities, will focus on one or more specific 'things Japanese' that the lecturer - drawing on his / her own personal knowledge gained inside and outside of Japan - contends to be 'positive, impressive, cool and thus noteworthy' in an objective, international comparative sense. In other words, he / she will talk about choice aspects and facets of current Japanese civilization (be they in the realm of governance, public policy, administration, business, education, R&D and / or the liberal arts, etc) that appear to be 'positive, impressive, cool and thus noteworthy' by international standards, AND which are likely to be entirely unknown or barely familiar to all but tiny minorities of non-Japanese persons.						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	100% = Coursework (including homework and mini-tests, etc). There will be NO final EXAM. TEST. Students will be continuously appraised regarding coursework. Each lecturer will: a) check attendance and general student lesson-time performance. b) award 25% (max.) of each student's final (overall) grade score.						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	Teachers communicate with - and provide feedback to - all students in the following ways. Firstly, teachers return marked, commented on and corrected (printed and / or digital) course-work and homework worksheets and question papers to students. Secondly, teachers provide students with Correct / Model Answer (printed and / or digital) handout documents. Thirdly, teachers brief students accordingly, in writing, as and when necessary, via KIU e-mail. Fourthly, teachers brief students, verbally, as and when necessary / whenever teachers deem it to be necessary or preferable before during and after lessons. Fifthly, teachers additionally regularly encourage all students to liaise with teachers verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, teachers also regularly encourage and urge all						

	students to contact via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime and to - especially - to physically visit their offices, as and whenever they see fit / think best and want to.	
履修条件・注意事項	This course will be conducted solely in English. Students should be mature and 'PROACTIVE' at all times and thus: 01) be alert, focused and highly motivated throughout each and every lesson; 02) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 03) study textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as frequently as possible; 04) come to each lesson ready and eager to speak with - and listen to - their teacher and classmates, in English.	
実務経験のある教員	該当する	内容 (Ian Warner) I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.
事前学習・事後学習とその時間	Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments. In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments, students should: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING in English regularly and as much as possible.	
オフィスアワー	Students can - and should: a) talk (directly, face-to-face) to each teacher before, during and / or after each lesson, if / whenever they need assistance and advice / guidance. b) visit each teacher's office and / or contact each teacher via KIU Gmail. Ian Warner's office - Room 133 Tuesdays* - Periods 1, 2, 3, 4, and / or 5 Wednesdays* - Periods 1, 2, 3, 4, and / or 5 Thursdays* - Periods 1, 2, 3, 4, and / or 5 * = Unless at staff meetings	

		Students can also e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp Lunch-time meetings - and meetings after 6:20pm - are also possible.	
授業計画		担当者	
第 1 回	Lecture and related activities: Landscape	Fawsitt	
第 2 回	Lecture and related activities: Animals	Fawsitt	
第 3 回	Lecture and related activities: Fruit	Fawsitt	
第 4 回	Lecture and related activities: Flowers	Fawsitt	
第 5 回	What's 'Cool Japan'?	Kanazawa	
第 6 回	Do you agree these things are cool or not? - Service at a restaurant, - Capsule Hotels;	Kanazawa	
第 7 回	Discussion: Let's find out 'Cool Japan' around us;	Kanazawa	
第 8 回	Group presentation	Kanazawa	
第 9 回	People and Customs	Garcia	
第 1 0 回	Items Unique to Japan	Garcia	
第 1 1 回	Technology	Garcia	
第 1 2 回	Group Presentations	Garcia	
第 1 3 回	Transportation [Lecture and related activities]	Warner	
第 1 4 回	Places & Environment [Lecture and related activities]	Warner	
第 1 5 回	Products, Companies and additional Cool Things [Lecture and related activities]	Warner	
第 1 6 回			
教科書			
教・書籍名 1	Each instructor will supply students with all necessary study materials and information on a weekly basis, before, during and / or after each lesson.	教・出版社名 1	

教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	DK Eyewitness Travel Guide: Japan Paperback (14/12/2021 or earlier / older) Students do NOT have to BUY this book. This book is in the KIU Okayama Campus Library.	参・出版社名 1	Publisher: DK Eyewitness Travel: Revised Edition: 14/12/2021
参・著者名 1		参・ I S B N 1	ISBN-10: 024152041X ISBN-13: 978-0241520413
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	日本論－ジャパノロジー			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他3年			ナンバリング	FS-FS-3-007		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう  						
到達目標	「日本」を対象として論じようとするとき、客観的に観察する態度は不可欠である。受講者が日本という対象を論じるべく、客観的に日本を観察する態度を身に付けることにある。授業では内外の他者の日本論を概観するが、受講者に特定の事象を提示して考察してもらうこともある。学生自身の日本観を持ち、日本論を展開できる能力を身につけることを到達目標とする。						
授業概要	「日本」を対象として論じようとするとき、客観的に観察する態度は不可欠である。アウトサイド・イン、インサイド・アウトといった立ち位置のことである。当授業の目的は受講者が日本という対象を論じるべく、かかる態度を身に着けることにある。授業では内外の他者の日本論を概観するが、受講者に特定の事象を提示して考察してもらうこともある。自身の日本観を持ち日本論を展開してもらいたい。 なお、コロナ禍が収束していない現状を踏まえ、岡山県外在住の飛島客員教授の授業に関しては、Zoomを使ったオンライン授業とする。ただし、履修学生は講義室で対面授業と同様に受講することとする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	各講義の小レポート（50％）、最終レポート（50％）で総合的に評価する。これに90％を乗じたものを基礎評価点とするが、最終レポートに加え、参考図書を2冊読んで比較分析したレポートを提出した学生には、最大10％の評価点を加算する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題レポートや最終レポートは、コメントを付し学生に返却する。						
履修条件・注意事項	積極的な授業参加を期待する。受け身の授業態度は避ける。 コロナ禍の為、授業の一部をオンライン授業で実施する場合があります。そのため、授業の順番が変更になる可能性があります。						
実務経験のある教員	該当する	内容	本科目の担当教員全員(飛島客員教授を含む)は、ビジネス、海外留学、海外勤務、研修生・留学生の受入れなどを通じて、日本とは何か？を日本人以外の人たちに説明並びに質問に対する回答をおこなうことを実務経験してきた者である。 これらの経験を、講義やグループディスカッションに活かし、リアリティの高い講義を行う。				
事前学習・事後学習とその時間	教員が紹介する日本論、日本人論などの論文、著作を読み込むこと。特定の分野で、日本とは何か？インド人にとっての日本とは？日本のよいところ、悪いところなどのテーマで、小論を書き自分の考えをまとめる。外国のニュース（BBCなど）などで、日本はどのように見られているのか、確認する。 授業前に1時間の予習、授業後に1時間の復習を必要とする。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室にて、金曜日4限目をオフィスアワーとします。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション・日本論とは？					畝	
第2回	日本 アイルランド人の視点					フォーセット	
第3回	佐賀に住んで感じたこと					フォーセット	
第4回	近代日本史の視点（1）					飛島・畝	
第5回	近代日本史の視点（2）					飛島・畝	

第 6 回	京都に住んで感じたこ t	フォーセット
第 7 回	近代日本史の視点 (3)	飛島・畝
第 8 回	近代日本史の視点 (4)	飛島・畝
第 9 回	岡山に住んで感じるこ t	フォーセット
第 1 0 回	日本論 (1) 社会	畝
第 1 1 回	日本論 (2) 社会その2	畝
第 1 2 回	日本論 (3) 政治	畝
第 1 3 回	日本論 (4) 世界の中の日本	畝
第 1 4 回	日本論 (5) 世界の中の日本その2	畝
第 1 5 回	再考日本論：日本とは？日本人とは？	畝
第 1 6 回	単位認定試験（レポート）	畝
教科書		
教・書籍名 1	必要資料は配布する	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	参考文献リストは、第 1 回授業で配布する。	参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	英語学Ⅰ			担当者	金沢 真弓		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年／2020年度 吉備国際大学 学部生その他1年			ナンバリング	FS-FS-1-101		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	○	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：英語学的見地から「英語」を理解し、英語の未来を考察する。 到達目標： 1) わたしたちが使っている現代英語は、どこからきて、どのようにして変化してきたのかを探究し、理解できるようにする。 2) 英語が発展してきた背景を学ぶとともに、英語学的見地から、英語の音、スペル、文法の変化を学習し、説明できるようにする。 3) 様々な国で使われている多様な英語の存在を理解し、受容する。						
授業概要	国際語としての英語は、どのようにして生まれ変化してきたのか、その社会的・文化的背景から探っていくと共に幅広い知識を身につける。また、音声記号や文字記号と意味の生成についても考察する。テキスト以外の資料を読むことが必要であり、受講者は英語学におけるテーマを決めて発表する。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション						
評価方法と割合	学期末試験 (50%),発表 (30%), レビューシート (20%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レビューシートは、毎週チェックし、返す。						
履修条件・注意事項	毎回ハンドアウトを配布するので、第1日目授業からファイルを準備しておくこと。 授業計画の内容は進捗状況に応じて変更が生じる場合がある						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	テーマに関する資料を読むこと。						
オフィスアワー	木曜日 4時限目(15:10 - 16:40)						
授業計画						担当者	
第1回	1. ガイダンス（授業の目標、進め方について説明） 英語学とは					金沢真弓	
第2回	2. 言葉の起源と言語研究					金沢真弓	
第3回	英語の発音とスペリング					金沢真弓	
第4回	英語の語彙の多様性と 標準英語の成立					金沢真弓	
第5回	英語のバリエーション					金沢真弓	
第6回	ことばと音声					金沢真弓	
第7回	英語ができるしくみ					金沢真弓	
第8回	文ができるしくみ					金沢真弓	
第9回	意味の拡張					金沢真弓	
第10回	ことばの意味とコンテキスト					金沢真弓	
第11回	英語と文化					金沢真弓	
第12回	ことばと社会					金沢真弓	
第13回	日本の英語教育と教授法					金沢真弓	
第14回	まとめと復習					金沢真弓	

第 1 5 回	発表	金沢真弓	
第 1 6 回	定期試験	金沢真弓	
教科書			
教・書籍名 1	はじめての英語学	教・出版社名 1	研究社
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	英語学Ⅱ			担当者	金沢 真弓		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-102		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：英語の基礎である文法・構文の知識を確実に定着させ、自己表現のための土台を強化する。 到達目標：文法の基本事項の定着。						
授業概要	英文法・英語構文の基本事項を復習し、関連例文をとおしてポイントの内容をさらに深く理解します。多種多様な多くの設問に取り組んで、不確かな文法・構文の知識を確実にしていきます。さらに、最後に短いエッセイを読みながら文構造や文法の応用学習にすすみます。エッセイの中の英語表現を使って英文作成にもチャレンジします。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	定期試験（40％） 中間試験（30％） 小テスト（30％）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎週実施する小テストはスコア提示をして返却する。						
履修条件・注意事項	予習・復習をすること。辞書持参。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	各ユニットの単語学習、文法の練習をすること。						
オフィスアワー	月曜日4時限目(15:10-16:40)						
授業計画						担当者	
第1回	コースガイダンス 文法テスト					金沢真弓	
第2回	文の構成－主語と述語					金沢真弓	
第3回	様々な疑問文					金沢真弓	
第4回	動詞の時制Ⅰ－ 現在形・過去形・未来形					金沢真弓	
第5回	動詞の時制Ⅱ－ 現在完了・過去完了					金沢真弓	
第6回	形容詞・副詞					金沢真弓	
第7回	使役動詞					金沢真弓	
第8回	中間テスト					金沢真弓	
第9回	前置詞・接続詞					金沢真弓	
第10回	助動詞Ⅰ－ 助動詞の働き					金沢真弓	
第11回	助動詞Ⅱ－ 依頼・申し出の言い方					金沢真弓	
第12回	不定詞・動名詞					金沢真弓	
第13回	分詞					金沢真弓	
第14回	仮定法					金沢真弓	
第15回	復習・まとめ					金沢真弓	
第16回	期末試験					金沢真弓	
教科書							
教・書籍名1						教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	

教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	マーフィーのケンブリッジ英文法	参・出版社名 1	Cambridge Publishing Press
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	英語学Ⅲ			担当者	金沢 真弓		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-103		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ： 英語の多文化性の需要と相互理解を図る 到達目標： 1) 英語の国際的普及がもたらした英語文化の多様化について理解し、またそれによって生じた新しい問題の提起と解決策を見つけ出していく。2) 世界の英語に関する事情や情報を知り、英語による円滑なコミュニケーションの方法を考えることができるようにする。						
授業概要	現代の英語の国際性や多様性に関するデータや事例、エピソードを英語で読み、内容理解だけでなく、使用されている語句を学習する。テーマに基づいて、ペアやグループによるディスカッションによる意見交換、または口頭で発表する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	Final Test (40%), Presentation (30%), Worksheet (30%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎週提出するワークシートはコメントを書き返却する。						
履修条件・注意事項	受講に際し予習・復習が必要。 授業計画の内容は進捗状況に応じて変更が生じる場合がある。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	配布資料などは前もって読んでおくこと。						
オフィスアワー	木曜日 4時限目(15:10 - 16:40)						
授業計画						担当者	
第1回	コースガイダンス What is English as an international language					金沢真弓	
第2回	Why is English so important ?					金沢真弓	
第3回	McDonald's stores in India do not serve beef burgers					金沢真弓	
第4回	World Englishes					金沢真弓	
第5回	More non-native speakers than native speakers					金沢真弓	
第6回	English as an Asian language					金沢真弓	
第7回	English in Singapore					金沢真弓	
第8回	English in India					金沢真弓	
第9回	Expanding English as a multicultural language					金沢真弓	
第10回	English as a multicultural language and diversity management					金沢真弓	
第11回	That restaurant is very delicious					金沢真弓	
第12回	English as a Japanese Language for international communication					金沢真弓	
第13回	Can you or can't you read French, after all?					金沢真弓	
第14回	Am I responding to a question in the right way ?					金沢真弓	
第15回	発表					金沢真弓	
第16回	学期末テスト					金沢真弓	
教科書							
教・書籍名1	Understanding English Across Cultures				教・出版社名1	Kinseido	
教・著者名1	Nobuyuki Honna 他				教・ISBN1		

教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	英語学Ⅳ			担当者	ジョン・フォーセット		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年／2020年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	FS-FS-2-104		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	△	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	△	DP 7. 自己効力感	△	DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	日本語と英語の文法もしくは言語的特徴を比較し、それぞれの言語がどのように異なるかを考察する。英語を第2言語として使用する日本および日英語圏の人にとって、何が理解しやすく、また逆に難しいかについて学習する。						
授業概要	毎回の授業において、英語の言語特徴を調べる（例えば単数形、複数形など）。その特徴は英語学習者の英語学習にどのような影響があるのかを考える。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	定期試験の成績（40％）、予習・レポート・プレゼン・授業姿勢（60％）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業中学生在が聞き取ったことについてコメントと助言する。						
履修条件・注意事項	学生達が自分で言語的な特徴を調べるからインターネットを使いながら積極的にメモをとるの必要がある。The teacher will speak 100% native English!						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	学生がほとんどの授業に前の授業の課題のしらべの結果を発表しますので、学生が書いたメモの整理とまとめることが大事。						
オフィスアワー	1700～1800～ Generally evenings are best, except for Friday when I sometimes go home earlier. Room 134						
授業計画						担当者	
第1回	本の英語					Fawsitt	
第2回	米英語対英語？					Fawsitt	
第3回	五十音対アルファベット					Fawsitt	
第4回	単数形と複数形					Fawsitt	
第5回	You」は日本語で？					Fawsitt	
第6回	感情をどう示すか					Fawsitt	
第7回	アクセント・ピッチ					Fawsitt	
第8回	中国の英語					Fawsitt	
第9回	呼吸とリズム					Fawsitt	
第10回	インドの英語					Fawsitt	
第11回	転音とシュワ					Fawsitt	
第12回	ヨーロッパのまちまちな英語					Fawsitt	
第13回	冠詞(articles)					Fawsitt	
第14回	時制					Fawsitt	
第15回	プレゼン「私と英語」					Fawsitt	
第16回	定期試験					Fawsitt	
教科書							
教・書籍名1	授業中に適宜資料を配付する				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		

教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	WORDS on the MOVE	参・出版社名 1	PICADOR
参・著者名 1	John McWhorter	参・ I S B N 1	978-1-250-14378-5
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	英語文学Ⅰ			担当者	今林 修		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-105		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	文学理論と文体論を援用しながら、英語で書かれた代表的な児童文学を丹念に読み込むことにより、文学に特有な英語表現に親しみ、深い読解力の涵養と多様な文化の理解を促し、真の国際人としての文学研究の重要性を説く。						
授業概要	代表的な英語で書かれた児童文学をテキストにして、文学理論と文体論を援用しながら、丹念に読み込むことにより、文学特有の英語表現に親しみ、多様な文化理解に役立て、文学研究の重要性を理解させる。また、学習者の立場から教育者の立場に立つと英語文学がどのように違って見えるのかという点も考察させたい。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業での発表（40％）とレポート（60％）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義中に行う。						
履修条件・注意事項	集中講義形式で実施。コロナ禍の為、オンライン授業で実施する可能性があります。 授業中の私語は厳禁。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	授業で一部を取り上げた文学作品は、できるだけ最後まで読むようにしましょう。						
オフィスアワー	授業終了後、適宜に対応。						
授業計画						担当者	
第1回	導入 英語文学と英語教育					今林 修	
第2回	Eric Carle, The Very Hungry Caterpillar					今林 修	
第3回	Eric Carle, The Very Quiet Cricket					今林 修	
第4回	Beatrix Potter, The Tale of Peter Rabbit					今林 修	
第5回	Beatrix Potter, The Tale of Two Bad Mice					今林 修	
第6回	W. Awdry, Thomas the Tank Engine					今林 修	
第7回	W. Awdry, Henry the Green Engine					今林 修	
第8回	A.A, Milne, Winnie the Pooh					今林 修	
第9回	A.A, Milne, The House at Pooh Corner					今林 修	
第10回	C.S. Lewis, The Lion, the Witch and the Wardrobe					今林 修	

第 1 1 回	C.S. Lewis, The Last Battle	今林 修
第 1 2 回	J.K. Rowling, Harry Potter and the Philosopher's Stone	今林 修
第 1 3 回	J.K. Rowling, Harry Potter and the Sorcerer's Stone	今林 修
第 1 4 回	Lewis Carrol, Alice's Adventures in Wonderland	今林 修
第 1 5 回	Lewis Carrol, Through the Looking-Glass	今林 修
第 1 6 回	まとめとレポート	今林 修
教科書		
教・書籍名 1	毎回、ハンドアウトを配布する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	毎回配布するハンドアウトに随時記載する。	参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ I S B N 2

授業科目名	英語文学Ⅱ			担当者	今林 修		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-106		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	文学理論と文体論を援用しながら、英語で書かれたキャンノンと称される代表的な文学テキストを丹念に読み込むことにより、文学特有の英語表現に親しみ、深い読解力の涵養と多様な文化理解を促し、正しい文学批評の能力を身につけ、現代の国際人としての文学研究の重要性とその教育への応用を学ぶ。						
授業概要	文学理論と文体論を援用しながら、年代順に英語で書かれたキャンノンと称される代表的な英文学テキストを文学特有の英語表現、多様な文化に注目しながら、丹念に読み込む。できるだけ多くの代表的な英文学のテキストに触れることにより、各テキストの独自性に気づかせる。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業での発表（40％）とレポート（60％）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業中に行ないます。						
履修条件・注意事項	集中講義形式で実施。コロナ禍の為、オンライン授業で実施する可能性があります。 授業中の私語は厳禁。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	授業で一部を取り上げた文学作品は、できるだけ最後まで読むようにしましょう。						
オフィスアワー	授業終了後、適宜に対応。						
授業計画						担当者	
第1回	英語文学史とキャンノン					今林 修	
第2回	Geoffrey Chaucer, General Prologue to the Canterbury Tales					今林 修	
第3回	Edmund Spenser, The Faerie Queene					今林 修	
第4回	William Shakespeare, Romeo and Juliet					今林 修	
第5回	William Shakespeare, Hamlet					今林 修	
第6回	Richard Brinsley Sheridan, The Rivals					今林 修	
第7回	Oliver Goldsmith, She Stoops to Conquer					今林 修	
第8回	Oliver Goldsmith, The Vicar of Wakefield					今林 修	
第9回	Daniel Defoe, Robinson Crusoe					今林 修	

第 1 0 回	Jonathan Swift, Gulliver's Travels	今林 修	
第 1 1 回	Jane Austen, Pride and Prejudice	今林 修	
第 1 2 回	Jane Austen, Mansfield Park	今林 修	
第 1 3 回	Charles Dickens, Oliver Twist	今林 修	
第 1 4 回	Charles Dickens, Great Expectations	今林 修	
第 1 5 回	精読とは	今林 修	
第 1 6 回	まとめとレポート	今林 修	
教科書			
教・書籍名 1	毎回、ハンドアウトを配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	毎回配布するハンドアウトに随時記載する。	参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	英語音声学Ⅰ			担当者	イアン・ウォーナー		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-107		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Theme: Maximizing student English language pronunciation competency by ensuring thorough basic phonological understanding (and - in so doing - enhancing listening comprehension / aural competency). Aim: To make student pronunciation of English language words 'sufficiently accurate' and thus 'correct' - or at least 'functional' and 'acceptable' vis-a-vis 1 and 2-way oral communication and especially the reading of familiar and unfamiliar (typed / printed) common words (both aloud and silently, to oneself).						
授業概要	The course will center on the study of English vowel and consonant sounds in order to help students become effective and efficient English language users. It will necessarily entail optimally extensive and intensive weekly pronunciation practice intended to bring student pronunciation performance as near as possible to 'received' and / or internationally accepted pronouncing 'norms', 'best practices' and 'ideals'. 'Sufficiently accurate' and thus 'correct' - or at least 'functional' and 'acceptable'- pronunciation, in line with such norms, best practices and 'ideals', is a vital skill that all 'non-native' students of English must strive to acquire and develop to an advanced degree. Those who fail to pronounce words in a 'sufficiently accurate' and thus 'correct' - or at least 'functional' and 'acceptable' - manner will frequently not be understood (in full or part) - and be misunderstood by their interlocutors - especially by non-compatriot users of English. Moreover, such a failing - in the worst scenario - is likely to impede and limit the general development of all 4 core language skills (Listening, Reading, Speaking and Writing). In sum, English as foreign language (EFL) students must develop and retain the capacity to 'correctly' identify and produce the component syllable sounds of most commonly used words (regardless of whether their definitional meanings are known or unknown), whenever they are 'correctly' or 'acceptably' i) typed and printed or ii) pronounced by others. In other words, such students must be assisted in their efforts to become competent and proficient (visual and aural) identifiers and (oral) utterers of individual whole words, their component speech sounds (i.e. phonemes) and respective corresponding grapheme representations.						
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／グループワーク						
評価方法と割合	60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview and / or recording assignment, depending on student numbers). [Students will be continuously appraised regarding coursework.] Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.						

ループリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	I communicate with - and provide feedback to - all students in the following ways. Firstly, I return marked, commented on and corrected (printed and / or digital) course-work and homework worksheets and question papers to students. Secondly, I provide students with Correct / Model Answer (printed and / or digital) handout documents. Thirdly, I brief students accordingly, in writing, as and when necessary, via KIU e-mail. Fourthly, I brief students, verbally, as and when necessary / whenever I deem it to be necessary or preferable before during and after lessons. In the case of student's Oral Communication / Speaking and Phonetics (pronouncing practice) sound-audio recordings (that are submitted to me via KIU e-mail) I supply detailed assessments as and when I think it necessary and likely to be beneficial i.e. read, comprehended, heeded / acted upon, and have a positive, rather than negative, effect / impact on the student(s) concerned. Fifthly, I additionally regularly encourage all students to liaise with me verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, I also regularly encourage and urge all students to contact me via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime and to - especially - to physically visit my office, as and whenever they see fit / think best and want to.
履修条件・注意事項	This course will be conducted solely in English. Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate. Students should be mature, adequately / sufficiently interested and engaged, and 'PROACTIVE' at all times, and therefore: 01) be - and remain - alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) come to each lesson ready and eager to speak / communicate with their teacher and classmates in English; 03) come to each lesson ready and eager to listen to their teacher(s) and classmates in English; 04) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 05) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as much and frequently as possible; 06) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, ideally and / or often at some length; 07) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 08) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 09) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 10) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 11) study (relevant) textbook pages - and all teacher-distributed materials - as much as possible before, during and after each lesson; 12) strive to finish / complete and submit all required classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well and 'on time', before specified deadlines;

	13) finish / submit all required classroom and homework assignments 'on time', before specified deadlines; 14) aim to fully understand - and 'master' - everything that their teacher tells them, especially those things that they are told they will likely to be tested on during (end-of-term) examinations, etc; 15) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 16) communicate with - and request help from - their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 17) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 18) tell the teacher immediately if they think that any textbook or lesson-related activity is / was too easy or difficult; 19) communicate with their teacher frequently, especially if they feel confused about a lesson-related topic; 20) request help from their teacher whenever they think that they would benefit from such; 21) generally try to maximize the amount of time that they practice English language oral communication with their teacher and one another; 22) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times. 23) do an adequate / sufficient amount of revision prior to all tests and - above all - the final, end-of-term exam.		
実務経験のある教員	該当する	内容	I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.
事前学習・事後学習とその時間	In addition to completing all homework assignments , students SHOULD: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible; The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.		

オフィスアワー	In Ian Warner's office - Room 133 You can contact Ian WARNER by e-mail via: escadero@gmail.com or Microsoft TEAMS. Tell Ian WARNER if you prefer to use FaceTime, Skype or LINE. If you want / need to talk to Ian WARNER - face-to-face - for a long time, go to Room 133. You can talk with Ian WARNER whenever you see him in Room 133 on Tuesdays, Wednesdays and Thursdays. The best time to talk to Ian WARNER in Room 133 is on Wednesdays at:

授業計画		担当者
第1回	母音vowels 1～3 [æ] [ʌ] [ɑ]	Warner
第2回	母音vowels 4～6 [a:] [a:r] [ə:r]	Warner
第3回	母音vowels 7～9 [ə] [ər] [i]	Warner
第4回	母音vowels 10～12 [i:] [u] [u:]	Warner
第5回	母音vowels 13～15 [e] [ɔ:] [ɔ:r]	Warner
第6回	母音vowels 16～18 [ai] [aiər] [au]	Warner
第7回	母音vowels 19～21 [auər] [ei] [ɔi]	Warner
第8回	母音vowels 22～24 [ou] [ju:] [iər]	Warner
第9回	母音vowels 25～26 [uər][eər]	Warner
第10回	子音 consonants 1～5 [l] [r] [p] [b] [t]	Warner
第11回	子音 consonants 6～10 [d] [k] [g] [m] [n]	Warner
第12回	子音 consonants 11～15 [ŋ] [f] [v] [h] [s]	Warner
第13回	子音 consonants 16～20 [z] [θ] [ʒ] [ʃ] [ʒ]	Warner
第14回	子音 consonants 21～24 [ʃ] [dʒ] [j] [w]	Warner
第15回	復習・まとめ Review	Warner
第16回	Final EXAM. TEST	Warner

教科書			
教・書籍名1	1) Clear Speech [4th Edition] (2017) 2) English Pronunciation in Use - Intermediate (2017)	教・出版社名1	Cambridge University Press
教・著者名1	1) Judy B. Gilbert === 2) Mark Hancock	教・ISBN1	1) ISBN-10: 1108659330 ISBN-13: 978-1108659338 === 2) ISBN-10: 1108403697 ISBN-13: 978-1108403696
教・書籍名2	Pronouncing Dictionary [18th Edition] (2011) Students do NOT need to buy this book. Certain specific pages will be used in lesson time.	教・出版社名2	Cambridge University Press
教・著者名2	Daniel Jones	教・ISBN2	ISBN-10: 0521152550 ISBN-13: 978-0521152556

参考書			
	Ship or Sheep? [3rd Edition] (2006)		Cambridge University

参・書籍名 1	Certain specific pages will be used in lesson time.	参・出版社名 1	Press
参・著者名 1	Ann Baker	参・ I S B N 1	ISBN-10: 052160673X ISBN-13: 978-0521606738
参・書籍名 2	A large number of suitably challenging English language news reports and journalistic articles - sourced mainly from major Anglo-American, European, Japanese and East-Asian news agencies, newspapers and news and current affairs magazines - will be utilized on a weekly basis.	参・出版社名2	
参・著者名2	Additional supplementary reading, listening (audio) and speaking materials and activities will be supplied (weekly) by the teacher.	参・ I S B N 2	

授業科目名	英語音声学Ⅱ			担当者	イアン・ウォーナー		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-108		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Theme: For intonation and rhythm: linking, elision, assimilation, dropping of sound Aim: Building on progress made in English phonetics I, the aim of this course is to provide students with a greater, more comprehensive understanding and mastery of English language pronunciation.						
授業概要	From the viewpoint of supersegmental features, this course will focus on syllables, stress, rhythm and intonation etc. of English to learn natural English pronunciation. This course will emphasize practical aspect so that students can communicate in English with natural pronunciation in oral communication. 'Sufficiently accurate' and thus 'correct' - or at least 'functional' and 'acceptable'- pronunciation, in line with such norms, best practices and 'ideals', is a vital skill that all 'non-native' students of English must strive to acquire and develop to an advanced degree. Those who fail to pronounce words in a 'sufficiently accurate' and thus 'correct' - or at least 'functional' and 'acceptable' - manner will frequently not be understood (in full or part) - and be misunderstood by their interlocutors - especially by non-compatriot users of English. Moreover, such a failing - in the worst scenario - is likely to impede and limit the general development of all 4 core language skills (Listening, Reading, Speaking and Writing). In sum, English as foreign language (EFL) students must develop and retain the capacity to 'correctly' identify and produce the component syllable sounds of most commonly used words (regardless of whether their definitional meanings are known or unknown), whenever they are 'correctly' or 'acceptably' i) typed and printed or ii) pronounced by others. In other words, such students must be assisted in their efforts to become competent and proficient (visual and aural) identifiers and (oral) utterers of individual whole words, their component speech sounds (i.e. phonemes) and respective corresponding grapheme representations.						
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview) [Students will be continuously appraised regarding coursework.] Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	I communicate with - and provide feedback to - all students in the following ways. Firstly, I return marked, commented on and corrected (printed and / or digital) course-work and homework worksheets and question						

	papers to students. Secondly, I provide students with Correct / Model Answer (printed and / or digital) handout documents. Thirdly, I brief students accordingly, in writing, as and when necessary, via KIU e-mail. Fourthly, I brief students, verbally, as and when necessary / whenever I deem it to be necessary or preferable before during and after lessons. In the case of student's Oral Communication / Speaking and Phonetics (pronouncing practice) sound-audio recordings (that are submitted to me via KIU e-mail) I supply detailed assessments as and when I think it necessary and likely to be beneficial i.e. read, comprehended, heeded / acted upon, and have a positive, rather than negative, effect / impact on the student(s) concerned. Fifthly, I additionally regularly encourage all students to liaise with me verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, I also regularly encourage and urge all students to contact me via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime and to - especially - to physically visit my office, as and whenever they see fit / think best and want to.
履修条件・注意事項	This course will be conducted solely in English. Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate. Students should be mature, adequately / sufficiently interested and engaged, and 'PROACTIVE' at all times, and therefore: 01) be - and remain - alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) come to each lesson ready and eager to speak / communicate with their teacher and classmates in English; 03) come to each lesson ready and eager to listen to their teacher(s) and classmates in English; 04) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 05) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as much and frequently as possible; 06) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, ideally and / or often at some length; 07) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 08) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 09) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 10) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 11) study (relevant) textbook pages - and all teacher-distributed materials - as much as possible before, during and after each lesson; 12) strive to finish / complete and submit all required classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well and 'on time', before specified deadlines; 13) finish / submit all required classroom and homework assignments 'on time', before specified deadlines; 14) aim to fully understand - and 'master' - everything that their teacher tells them, especially those things that they are told they will likely to be tested on during (end-of-term) examinations, etc; 15) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail;

	16) communicate with - and request help from - their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 17) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 18) tell the teacher immediately if they think that any textbook or lesson-related activity is / was too easy or difficult; 19) communicate with their teacher frequently, especially if they feel confused about a lesson-related topic; 20) request help from their teacher whenever they think that they would benefit from such; 21) generally try to maximize the amount of time that they practice English language oral communication with their teacher and one another; 22) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times. 23) do an adequate / sufficient amount of revision prior to all tests and - above all - the final, end-of-term exam.		
実務経験のある教員	該当する	内容	I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.
事前学習・事後学習と その時間	1) Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor. 2) Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor. Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face. 3) Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments. In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments , students should: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible;		

	The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of-term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.		
オフィスアワー	In Ian Warner's office - Room 133 Mondays - N/A Tuesdays - 1, 2, 3, 4, 5, 6 Wednesdays - 1, 2, 3, 4, 5, 6 Thursdays - 1, 2, 3, 4, 5, 6 Fridays - Periods 1, 2, 3, 4, 5, 6 * = Unless at staff meetings Students can also e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp Lunch-time meetings - and meetings after 6:20pm - are also possible.		
授業計画		担当者	
第 1 回	Syllables	Warner	
第 2 回	Vowels and Vowel Rules	Warner	
第 3 回	Word Stress and Vowel Length	Warner	
第 4 回	Word Stress and Vowel Clarity	Warner	
第 5 回	Word Stress Patterns	Warner	
第 6 回	Sentence Focus: Emphasizing Content Words	Warner	
第 7 回	Sentence Focus: De-Emphasizing Structure Words	Warner	
第 8 回	Choosing the Focus Word	Warner	
第 9 回	Emphasizing Structure Words	Warner	
第 1 0 回	Constituents and Stops: /s/ and /t/	Warner	
第 1 1 回	Constituents and Stops: /r/ and /d/; /l/ and /d/	Warner	
第 1 2 回	Voicing	Warner	
第 1 3 回	Voicing and Syllable Length Aspiration	Warner	
第 1 4 回	Sibilants	Warner	
第 1 5 回	Thought Groups	Warner	
第 1 6 回	Final EXAM. TEST	Warner	
教科書			
教・書籍名 1	Clear Speech [4th Edition] (2012)	教・出版社名 1	Cambridge University Press
教・著者名 1	Judy B. Gilbert	教・I S B N 1	ISBN-10: 1108659330 ISBN-13: 978-1108659338
教・書籍名 2	English Pronunciation in Use - Intermediate (2014)	教・出版社名 2	Cambridge University Press
教・著者名 2	Mark Hancock	教・I S B N 2	ISBN-10: 1108403697 ISBN-13: 978-

			1108403696
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2	A large number of suitably challenging English language news reports and journalistic articles - sourced mainly from major Anglo-American, European, Japanese and East-Asian news agencies, newspapers and news and current affairs magazines - will be utilized on a weekly basis.	参・出版社名2	
参・著者名2	Additional supplementary reading, listening (audio) and speaking materials and activities will be supplied (weekly) by the teacher.	参・ I S B N 2	

授業科目名	英語リーディングⅠ（Ａクラス）			担当者	カルロス・ガルシア		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-201		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	This course will focus on reading comprehension with critical thinking and vocabulary practice. Through various exercises, we will try to develop reading skills and overall language ability. The aim is for students to understand the main idea and details of a text, summarize it in their own words, answer questions, and give their opinion on the topic.						
授業概要	Classes will have in-class reading, questions and answers, and topic discussions of homework. We will learn by studying topics and situations. Students can share their own opinions on many issues.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	Students will be evaluated by class participation, homework, quizzes, and exams. 1) 60%: assignments, homework, participation. 2) 40%: Final Exam						
ルーブリック評価	n/a						
課題や試験のフィードバック方法	Oral and written notes on assignments and in lectures						
履修条件・注意事項	Students should prepare for each class by doing the homework assignments, checking vocabulary, and background information. Vocabulary will be a big part of understanding text, so it is suggested that students study the vocabulary words from each unit, as well as any unknown words in the text. This course is conducted in English. If possible, this class will be held in a CALL (Computer Assisted Language Learning) room and use the CALL system.						
実務経験のある教員	該当しない	内容	n/a				
事前学習・事後学習とその時間	Students should look through the unit to become familiar with the content, and get an idea what types of topics and vocabulary words will be used. Doing digital book exercises are encouraged because students can check their answers and work at their own pace. Finding books at an appropriate level to read for pleasure is highly encouraged.						
オフィスアワー	Wednesday: 9:00 am - 11:00 am, or by appointment. Research Room 132.						
授業計画						担当者	
第1回	1) Course overview					Garcia	
第2回	2) Guessing meaning from context					Garcia	
第3回	3) Identifying text organization					Garcia	
第4回	4) Inferring meaning					Garcia	
第5回	5) Antonyms					Garcia	
第6回	6) Words with different meanings					Garcia	
第7回	7) Prefixes					Garcia	
第8回	8) Identifying reference words					Garcia	
第9回	Skimming and scanning					Garcia	
第10回	10) Separating fact from fiction					Garcia	
第11回	11) Suffixes					Garcia	

第 1 2 回	12) Synonyms	Garcia	
第 1 3 回	13) Selecting key information	Garcia	
第 1 4 回	14) Word groups	Garcia	
第 1 5 回	15) Course review	Garcia	
第 1 6 回	16) Final Exam	Garcia	
教科書			
教・書籍名 1	TBD	教・出版社名 1	TBD
教・著者名 1	TBD	教・ I S B N 1	TBD
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	英語リーディングⅠ（Ｂクラス）			担当者	カルロス・ガルシア		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-201		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	This course will focus on reading comprehension with critical thinking and vocabulary practice. Through various exercises, we will try to develop reading skills and overall language ability. The aim is for students to understand the main idea and details of a text, summarize it in their own words, answer questions, and give their opinion on the topic.						
授業概要	Classes will have in-class reading, questions and answers, and topic discussions of homework. We will learn by studying topics and situations. Students can share their own opinions on many issues.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	Students will be evaluated by class participation, homework, quizzes, and exams. 1) 60%: assignments, homework, participation. 2) 40%: Final Exam						
ルーブリック評価	n/a						
課題や試験のフィードバック方法	Oral and written notes on assignments and in lectures						
履修条件・注意事項	Students should prepare for each class by doing the homework assignments, checking vocabulary, and background information. Vocabulary will be a big part of understanding text, so it is suggested that students study the vocabulary words from each unit, as well as any unknown words in the text. This course is conducted in English. If possible, this class will be held in a CALL (Computer Assisted Language Learning) room and use the CALL system.						
実務経験のある教員	該当しない	内容	n/a				
事前学習・事後学習とその時間	Students should look through the unit to become familiar with the content, and get an idea what types of topics and vocabulary words will be used. Doing digital book exercises are encouraged because students can check their answers and work at their own pace. Finding books at an appropriate level to read for pleasure is highly encouraged.						
オフィスアワー	n/a						
授業計画						担当者	
第1回	1) Course overview					Garcia	
第2回	2) Guessing meaning from context					Garcia	
第3回	3) Identifying text organization					Garcia	
第4回	4) Inferring meaning					Garcia	
第5回	5) Antonyms					Garcia	
第6回	6) Words with different meanings					Garcia	
第7回	7) Prefixes					Garcia	
第8回	8) Identifying reference words					Garcia	
第9回	Skimming and scanning					Garcia	
第10回	10) Separating fact from fiction					Garcia	
第11回	11) Suffixes					Garcia	

第 1 2 回	12) Synonyms	Garcia	
第 1 3 回	13) Selecting key information	Garcia	
第 1 4 回	14) Word groups	Garcia	
第 1 5 回	15) Course review	Garcia	
第 1 6 回	16) Final Exam	Garcia	
教科書			
教・書籍名 1	TBD	教・出版社名 1	TBD
教・著者名 1	TBD	教・ I S B N 1	TBD
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	英語リーディングⅡ（Ａクラス）			担当者	イアン・ウォーナー		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-202		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／6. 安全な水とトイレを世界中に／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／8. 働きがいも経済成長も 						
到達目標	Theme: Helping students to further develop their Reading Comprehension skills (and thus vocabulary, pronunciation and syntactic / grammar) knowledge-awareness. Main Aims / Objectives: The aim of this course is to further develop student ability to accurately and otherwise efficiently understand and 'digest' a diverse range of texts (of appropriate length and complexity) within comparatively short(er) periods of time. By the end of this course, students should therefore be better able to: - ascertain and understand the information contained within (mostly teacher assigned) study texts; - ascertain and understand the gist, 'messages' and thus likely main intended 'purpose(s)' of (mostly teacher assigned) study texts; - comprehensively summarize (verbally and in writing) study text content; - comprehensively describe and explain (verbally and in writing) study text content; - express their own opinions and responses regarding study text content;						
授業概要	Students will be expected, encouraged and helped to read, analyze, explain and provide personnel, opinion-based critical assessments of assigned study texts verbally and in writing. Students will thus be given ample weekly opportunities to talk, discuss and write about assigned study text content and relevant related topics. Students will be given - on a weekly basis - ample opportunity to practice and thereby improve not only their vocabulary / word recognition, pronunciation and syntactic / grammar knowledge-awareness but also their Oral Communication (OC) and Writing communication skills, as they attempt to determine the gist and / or full meaning and intent of assigned study texts. Students will be expected, encouraged and helped to engage wholeheartedly, enthusiastically and intellectually with assigned reading materials and to be eager to describe and comment on them in appropriate detail and for an appropriate length of time. In other words, students will be expected, encouraged and helped to say and / or write 'enough' words and sentences in the time available (and thus to avoid being too slow, hesitant, unforthcoming or reticent). Student comprehension performance will be constantly assessed via appraisal of oral / verbal and written reports and verbal and written answers to the teacher's verbal and written questioning. For verbal reporting, pronunciation, intonation, audibility, syntax / word order, grammar correctness, 'message' coherence, vocabulary usage / articulateness and the general apparent level of success and eagerness vis-a-vis 'making oneself understood' will be prioritized, considered and assessed.						

	For written reporting, syntax / word order, grammar correctness, 'message' coherence, vocabulary usage / articulateness and the general apparent level of success and eagerness vis-a-vis 'making oneself understood' will be prioritized, considered and assessed.
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview) [Students will be continuously appraised regarding coursework.] Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	I communicate with - and provide feedback to - all students in the following ways. Firstly, I return marked, commented on and corrected (printed and / or digital) course-work and homework worksheets and question papers to students. Secondly, I provide students with Correct / Model Answer (printed and / or digital) handout documents. Thirdly, I brief students accordingly, in writing, as and when necessary, via KIU e-mail. Fourthly, I brief students, verbally, as and when necessary / whenever I deem it to be necessary or preferable before during and after lessons. Fifthly, I additionally regularly encourage all students to liaise with me verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, I also regularly encourage and urge all students to contact me via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime and to - especially - to physically visit my office, as and whenever they see fit / think best and want to.
	This course will be conducted solely in English. Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate. Students should be mature, adequately / sufficiently interested and engaged, and 'PROACTIVE' at all times, and therefore: 01) be - and remain - alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) come to each lesson ready and eager to speak / communicate with their teacher and classmates in English; 03) come to each lesson ready and eager to listen to their teacher(s) and classmates in English; 04) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 05) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson,

履修条件・注意事項	thoroughly and as much and frequently as possible; 06) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, ideally and / or often at some length; 07) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 08) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 09) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 10) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 11) study (relevant) textbook pages - and all teacher-distributed materials - as much as possible before, during and after each lesson; 12) strive to finish / complete and submit all required classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well and 'on time', before specified deadlines; 13) finish / submit all required classroom and homework assignments 'on time', before specified deadlines; 14) aim to fully understand - and 'master' - everything that their teacher tells them, especially those things that they are told they will likely to be tested on during (end-of-term) examinations, etc; 15) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 16) communicate with - and request help from - their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 17) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 18) tell the teacher immediately if they think that any textbook or lesson-related activity is / was too easy or difficult; 19) communicate with their teacher frequently, especially if they feel confused about a lesson-related topic; 20) request help from their teacher whenever they think that they would benefit from such; 21) generally try to maximize the amount of time that they practice English language oral communication with their teacher and one another; 22) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times. 23) do an adequate / sufficient amount of revision prior to all tests and - above all - the final, end-of-term exam.		
実務経験のある教員	該当する	内容	I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.
事前学習・事後学習との時間	1) Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor. 2) Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor.		

		Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face. 3) Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments. In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments , students should: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible; The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of-term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.
オフィスアワー		In Ian Warner's office - Room 133 Mondays - N/A Tuesdays - 3, 4, 5, 6 Wednesdays - 3, 4, 5, 6 Thursdays - 1, 2, 3, 4, 5, 6 Fridays - Periods 1, 2, 3, 4, 5, 6 * = Unless at staff meetings Students can also e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp Lunch-time meetings - and meetings after 6:20pm - are also possible.
授業計画		担当者
第 1 回	U-01 (Main Text, etc)	Warner
第 2 回	U-02 (Main Text, etc)	Warner
第 3 回	U-03 (Main Text, etc)	Warner
第 4 回	U-04 (Main Text, etc)	Warner
第 5 回	U-05 (Main Text, etc)	Warner
第 6 回	U-06 (Main Text, etc)	Warner
第 7 回	U-07 (Main Text, etc)	Warner
第 8 回	U-08 (Main Text, etc)	Warner
第 9 回	U-09 (Main Text, etc)	Warner
第 1 0 回	U-10 (Main Text, etc)	Warner

第 1 1 回	U-11 (Main Text, etc)	Warner
第 1 2 回	U-12 (Main Text, etc)	Warner
第 1 3 回	U-13 (Main Text, etc)	Warner
第 1 4 回	U-14 (Main Text, etc)	Warner
第 1 5 回	U-15 (Main Text, etc)	Warner
第 1 6 回	Final EXAM. TEST	Warner

教科書

教・書籍名 1	Reading Pass - Intro (2013)	教・出版社名 1	Nan'un-Do Co., Ltd.
教・著者名 1	Andrew E. Bennett	教・I S B N 1	ISBN-10: 4523177201 ISBN-13: 978-4-523-17720-3
教・書籍名 2	Suitably challenging English language texts (including news reports and journalistic articles) sourced from books and major Anglo-American, European, Japanese and East-Asian news agencies, newspapers and news and current affairs magazines - will also be utilized on a weekly basis.	教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1	Reader's Forum: Preface Simply English An Introduction to Today's Key Concepts (2017)	参・出版社名 1	Nan'un-Do Co., Ltd.
参・著者名 1	Jim Knudsen	参・I S B N 1	ISBN: 9784523178293
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・I S B N 2	

授業科目名	英語リーディングⅡ（Ｂクラス）			担当者	イアン・ウォーナー		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-202		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	○
SDGs関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／6. 安全な水とトイレを世界中に／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／8. 働きがいも経済成長も 						
到達目標	Theme: Helping students to further develop their Reading Comprehension skills (and thus vocabulary, pronunciation and syntactic / grammar) knowledge-awareness. Main Aims / Objectives: The aim of this course is to further develop student ability to accurately and otherwise efficiently understand and 'digest' a diverse range of texts (of appropriate length and complexity) within comparatively short(er) periods of time. By the end of this course, students should therefore be better able to: 1) ascertain and understand the information contained within (mostly teacher assigned) study texts; 2) ascertain and understand the gist, 'messages' and thus likely main intended 'purpose(s)' of (mostly teacher assigned) study texts; 3) comprehensively summarize (verbally and in writing) study text content; 4) comprehensively describe and explain (verbally and in writing) study text content; 5) express their own opinions and responses regarding study text content;						
授業概要	Students will be expected, encouraged and helped to read, analyze, explain and provide personnel, opinion-based critical assessments of assigned study texts verbally and in writing. Students will thus be given ample weekly opportunities to talk, discuss and write about assigned study text content and relevant related topics. Students will be given - on a weekly basis - ample opportunity to practice and thereby improve not only their vocabulary / word recognition, pronunciation and syntactic / grammar knowledge-awareness but also their Oral Communication (OC) and Writing communication skills, as they attempt to determine the gist and / or full meaning and intent of assigned study texts. Students will be expected, encouraged and helped to engage wholeheartedly, enthusiastically and intellectually with assigned reading materials and to be eager to describe and comment on them in appropriate detail and for an appropriate length of time. In other words, students will be expected, encouraged and helped to say and / or write 'enough' words and sentences in the time available (and thus to avoid being too slow, hesitant, unforthcoming or reticent). Student comprehension performance will be constantly assessed via appraisal of oral / verbal and written reports and verbal and written answers to the teacher's verbal and written questioning. For verbal reporting, pronunciation, intonation, audibility, syntax / word order, grammar correctness, 'message' coherence, vocabulary usage / articulateness and the general apparent level of success and eagerness vis-a-vis 'making oneself understood' will be prioritized, considered and assessed.						

	For written reporting, syntax / word order, grammar correctness, 'message' coherence, vocabulary usage / articulateness and the general apparent level of success and eagerness vis-a-vis 'making oneself understood' will be prioritized, considered and assessed.
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview) [Students will be continuously appraised regarding coursework.] Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	I communicate with - and provide feedback to - all students in the following ways. Firstly, I return marked, commented on and corrected (printed and / or digital) course-work and homework worksheets and question papers to students. Secondly, I provide students with Correct / Model Answer (printed and / or digital) handout documents. Thirdly, I brief students accordingly, in writing, as and when necessary, via KIU e-mail. Fourthly, I brief students, verbally, as and when necessary / whenever I deem it to be necessary or preferable before during and after lessons. Fifthly, I additionally regularly encourage all students to liaise with me verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, I also regularly encourage and urge all students to contact me via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime and to - especially - to physically visit my office, as and whenever they see fit / think best and want to.
	This course will be conducted solely in English. Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate. Students should be mature, adequately / sufficiently interested and engaged, and 'PROACTIVE' at all times, and therefore: 01) be - and remain - alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) come to each lesson ready and eager to speak / communicate with their teacher and classmates in English; 03) come to each lesson ready and eager to listen to their teacher(s) and classmates in English; 04) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 05) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as much and frequently as possible;

履修条件・注意事項	06) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, ideally and / or often at some length; 07) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 08) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 09) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 10) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 11) study (relevant) textbook pages - and all teacher-distributed materials - as much as possible before, during and after each lesson; 12) strive to finish / complete and submit all required classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well and 'on time', before specified deadlines; 13) finish / submit all required classroom and homework assignments 'on time', before specified deadlines; 14) aim to fully understand - and 'master' - everything that their teacher tells them, especially those things that they are told they will likely to be tested on during (end-of-term) examinations, etc; 15) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 16) communicate with - and request help from - their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 17) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 18) tell the teacher immediately if they think that any textbook or lesson-related activity is / was too easy or difficult; 19) communicate with their teacher frequently, especially if they feel confused about a lesson-related topic; 20) request help from their teacher whenever they think that they would benefit from such; 21) generally try to maximize the amount of time that they practice English language oral communication with their teacher and one another; 22) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times. 23) do an adequate / sufficient amount of revision prior to all tests and - above all - the final, end-of-term exam.		
実務経験のある教員	該当する	内容	I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.
事前学習・事後学習とその時間	1) Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor. 2) Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor. Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete		

		them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face. 3) Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments. In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments , students should: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible; The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.
オフィスアワー		In Ian Warner's office - Room 133 Mondays - N/A Tuesdays - 3, 4, 5, 6 Wednesdays - 3, 4, 5, 6 Thursdays - 1, 2, 3, 4, 5, 6 Fridays - Periods 1, 2, 3, 4, 5, 6 * = Unless at staff meetings Students can also e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp Lunch-time meetings - and meetings after 6:20pm - are also possible.
授業計画		担当者
第 1 回	U-01 (Main Text, etc)	Warner
第 2 回	U-02 (Main Text, etc)	Warner
第 3 回	U-03 (Main Text, etc)	Warner
第 4 回	U-04 (Main Text, etc)	Warner
第 5 回	U-05 (Main Text, etc)	Warner
第 6 回	U-06 (Main Text, etc)	Warner
第 7 回	U-07 (Main Text, etc)	Warner
第 8 回	U-08 (Main Text, etc)	Warner
第 9 回	U-09 (Main Text, etc)	Warner
第 1 0 回	U-10 (Main Text, etc)	Warner
第 1 1 回	U-11 (Main Text, etc)	Warner
第 1 2 回	U-12 (Main Text, etc)	Warner

第 1 3 回	U-13 (Main Text, etc)	Warner
第 1 4 回	U-14 (Main Text, etc)	Warner
第 1 5 回	U-15 (Main Text, etc)	Warner
第 1 6 回	Final EXAM. TEST	Warner
教科書		
教・書籍名 1	Reading Pass - Intro (2013)	教・出版社名 1 Nan'un-Do Co., Ltd.
教・著者名 1	Andrew E. Bennett	教・I S B N 1 ISBN-10: 4523177201 ISBN-13: 978-4-523-17720-3
教・書籍名 2	Suitably challenging English language texts (including news reports and journalistic articles) sourced from books and major Anglo-American, European, Japanese and East-Asian news agencies, newspapers and news and current affairs magazines - will also be utilized on a weekly basis.	教・出版社名2
教・著者名2		教・I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	Reader's Forum: Preface Simply English An Introduction to Today's Key Concepts (2017)	参・出版社名 1 Nan'un-Do Co., Ltd.
参・著者名 1	Jim Knudsen	参・I S B N 1 ISBN: 9784523178293
参・書籍名 2		参・出版社名2
参・著者名2		参・I S B N 2

授業科目名	エクステンシブ・リーディング（Aクラス）			担当者	カルロス・ガルシア		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-203		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	One goal of this course is to expose students to different types of reading material they may encounter in the real world. Students should become familiar with and understand different kinds of material, and have a high level of comprehension. Another goal is to help students become faster and more fluid readers.						
授業概要	Students will be introduced to various materials and have to understand the content enough to answer detailed questions about it. Students may be asked to verbally summarize an article, or write their opinion of the reading material. The focus will be reading, but other skills will be integrated as well.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	Students will be evaluated by class participation, homework, quizzes, and exams. 1) 60%: assignments, homework, participation. 2) 40%: Final Exam						
ルーブリック評価	n/a						
課題や試験のフィードバック方法	Oral feedback, comments on assignments.						
履修条件・注意事項	Students should arrive on time, do all assignments in class, and do all homework. The in class activities and homework serve as practice, so it is advised that students do these to help improve their writing skills. Asking questions in class or visiting office hours to get help will also be very beneficial. Extra reading for pleasure is encouraged to help become a faster, more confident, and better overall reader. This course is conducted in English.						
実務経験のある教員	該当しない	内容	n/a				
事前学習・事後学習とその時間	Reading for pleasure at an appropriate level will be very beneficial. Also, review the material before and after class to help you retain the information from class. Doing the exercises in the digital book will also help as you can check your answers and try them repeatedly.						
オフィスアワー	Wednesday 9:00 am to 11:00 am, or by appointment.						
授業計画						担当者	
第1回	1) Course introduction					Garcia	
第2回	2) Adjectives and Infinitives					Garcia	
第3回	3) Subject/Object Pronouns					Garcia	
第4回	4) Possessive Pronouns					Garcia	
第5回	5) Will/Won't be able to					Garcia	
第6回	6) Past Simple Questions					Garcia	
第7回	7) Articles					Garcia	
第8回	8) Present Simple					Garcia	
第9回	9) Irregular Verbs					Garcia	
第10回	10) Relative Clauses with 'who'					Garcia	
第11回	11) Superlative Adjectives					Garcia	

第 1 2 回	12) Verb Patterns	Garcia
第 1 3 回	13) Present Continuous	Garcia
第 1 4 回	14) Predicting	Garcia
第 1 5 回	15) Content/semester review	Garcia
第 1 6 回	16) Final Exam	Garcia
教科書		
教・書籍名 1	TBD	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ I S B N 2

授業科目名	エクステンシブ・リーディング（Ｂクラス）			担当者	カルロス・ガルシア		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-203		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	One goal of this course is to expose students to different types of reading material they may encounter in the real world. Students should become familiar with and understand different kinds of material, and have a high level of comprehension. Another goal is to help students become faster and more fluid readers.						
授業概要	Students will be introduced to various materials and have to understand the content enough to answer detailed questions about it. Students may be asked to verbally summarize an article, or write their opinion of the reading material. The focus will be reading, but other skills will be integrated as well.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	Students will be evaluated by class participation, homework, quizzes, and exams. 1) 60%: assignments, homework, participation. 2) 40%: Final Exam						
ルーブリック評価	n/a						
課題や試験のフィードバック方法	Oral feedback, comments on assignments.						
履修条件・注意事項	Students should arrive on time, do all assignments in class, and do all homework. The in class activities and homework serve as practice, so it is advised that students do these to help improve their writing skills. Asking questions in class or visiting office hours to get help will also be very beneficial. Extra reading for pleasure is encouraged to help become a faster, more confident, and better overall reader. This course is conducted in English.						
実務経験のある教員	該当しない	内容	n/a				
事前学習・事後学習とその時間	Reading for pleasure at an appropriate level will be very beneficial. Also, review the material before and after class to help you retain the information from class. Doing the exercises in the digital book will also help as you can check your answers and try them repeatedly.						
オフィスアワー	Wednesday 9:00 am to 11:00 am, or by appointment.						
授業計画						担当者	
第1回	1) Course introduction					Garcia	
第2回	2) Adjectives and Infinitives					Garcia	
第3回	3) Subject/Object Pronouns					Garcia	
第4回	4) Possessive Pronouns					Garcia	
第5回	5) Will/Won't be able to					Garcia	
第6回	6) Past Simple Questions					Garcia	
第7回	7) Articles					Garcia	
第8回	8) Present Simple					Garcia	
第9回	9) Irregular Verbs					Garcia	
第10回	10) Relative Clauses with 'who'					Garcia	
第11回	11) Superlative Adjectives					Garcia	

第 1 2 回	12) Verb Patterns	Garcia
第 1 3 回	13) Present Continuous	Garcia
第 1 4 回	14) Predicting	Garcia
第 1 5 回	15) Content/semester review	Garcia
第 1 6 回	16) Final Exam	Garcia
教科書		
教・書籍名 1	TBD	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ I S B N 2

授業科目名	メディア英語			担当者	カルロス・ガルシア		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	FS-FS-2-204		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
D P 1. 知識・技能	◎	D P 2. 情報の活用	◎	D P 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	D P 4. コミュニケーション・表現力	◎
D P 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	D P 6. 課題解決力	◎	D P 7. 自己効力感	◎	D P 8. 学科項目	△
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	The main goal of this class will be to give students the chance to use English in various media platforms. Students will use the four English skills (reading, writing, listening, speaking) to present their ideas and interact with each other.						
授業概要	Students will use websites, apps, blogs, video, social media, and others forms of media to react and interact with each other and share ideas. Depending on the experience, interest, and capability of students, we will decide what types of projects and activities we want to do or learn in class. The hope is that students learn to use English across different platforms to communicate with others.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	Students will be evaluated by class participation, assignments, and projects. 1) 80%: assignments, homework, participation. 2) 20%: Final Project						
ルーブリック評価	n/a						
課題や試験のフィードバック方法	Written feedback, oral feedback.						
履修条件・注意事項	Students should arrive on time, make good use of class time, and do all assignments. The in-class activities and activities will require both in-class and out of class time, so it is advised that students keep up with assignments. Students are encouraged to ask questions in class or visit office hours to get help if needed. Students should engage in kind, courteous, and respectful netiquette. This course is conducted in English.						
実務経験のある教員	該当しない	内容	n/a				
事前学習・事後学習とその時間	Because many projects and activities may require time outside of class, it is best if students start early and ask questions often. Dealing with technology always has the chance to encounter problems, so practicing and experimenting with apps and websites is encouraged.						
オフィスアワー	Wednesday: 9:00 am - 11:00 am, or by appointment.						
授業計画						担当者	
第1回	1) Course Overview					Garcia	
第2回	2) Creating a blog					Garcia	
第3回	3) Making a teaching video					Garcia	
第4回	4) Print ad					Garcia	
第5回	5) Product commercial					Garcia	
第6回	6) Webpage design					Garcia	
第7回	7) Slide presentation					Garcia	
第8回	8) Interview video					Garcia	
第9回	9) Chain story					Garcia	
第10回	10) Action story					Garcia	

第 1 1 回	11) Voice over	Garcia	
第 1 2 回	12) Voice thread	Garcia	
第 1 3 回	13) Creating an interactive survey	Garcia	
第 1 4 回	14) Creating game review	Garcia	
第 1 5 回	15) Project planning	Garcia	
第 1 6 回	16) Final Project	Garcia	
教科書			
教・書籍名 1	No Book	教・出版社名 1	
教・著者名 1	n/a	教・ I S B N 1	n/a
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	英語ライティングⅠ（Ａクラス）			担当者	ジョン・フォーセット		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-205		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	△	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／11. 住み続けられるまちづくりを／15. 陸の豊かさを守ろう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Writing is good because we create language that we can use for speaking also. We can learn about our grammar and practice using new words. In this we will try to communicate our ideas and opinions faster. We also will try to learn 500 new words.						
授業概要	In each class there will be a vocabulary quiz and practice. We will discuss and research topics we think are interesting. We will read model writing and then try to write our own texts.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	Final exam 40% Course work 60%: Quizzes, written work, and cooperation with other students will all receive points.						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	Papers will be returned with general and particular comments and suggestions. Students requiring further feedback are strongly encouraged to consult with the lecturer about their work. The teacher will speak 100% native English!						
履修条件・注意事項	In order to practice it is good to write a lot. Don't try to write perfect English. Try to write YOUR English. The teacher will speak 100% native English!						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	Vocabulary is extremely important and is vital to every aspect of your learning. As soon as possible design a portable vocabulary study program that you can access quickly and easily whether in public or private spaces.						
オフィスアワー	1700-1800 Room 134; Except on Fridays when I am usually not on campus.						
授業計画						担当者	
第1回	about me					Fawsitt	
第2回	my friends					Fawsitt	
第3回	my home town					Fawsitt	
第4回	my school					Fawsitt	
第5回	my dream					Fawsitt	
第6回	food					Fawsitt	
第7回	sport					Fawsitt	
第8回	jobs					Fawsitt	
第9回	nature					Fawsitt	

第 1 0 回	travel	Fawsitt
第 1 1 回	festivals	Fawsitt
第 1 2 回	health	Fawsitt
第 1 3 回	mistakes	Fawsitt
第 1 4 回	regrets	Fawsitt
第 1 5 回	next term	Fawsitt
第 1 6 回	exam	Fawsitt

教科書			
教・書籍名 1	English Writing Manual	教・出版社名 1	BTB Press
教・著者名 1	David Baker	教・ I S B N 1	9.78491E+12
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	英語ライティングⅠ（Ｂクラス）			担当者	ジョン・フォーセット		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-205		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	△	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／11. 住み続けられるまちづくりを／15. 陸の豊かさを守ろう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Writing is good because we create language that we can use for speaking also. We can learn about our grammar and practice using new words. In this we will try to communicate our ideas and opinions faster. We also will try to learn 500 new words.						
授業概要	In each class there will be a vocabulary quiz and practice. We will discuss and research topics we think are interesting. We will read model writing and then try to write our own texts.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	Final exam 40% Course work 60%: Quizzes, written work, and cooperation with other students will all receive points.						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	Papers will be returned with general and particular comments and suggestions. Students requiring further feedback are strongly encouraged to consult with the lecturer about their work. The teacher will speak 100% native English!						
履修条件・注意事項	In order to practice it is good to write a lot. Don't try to write perfect English. Try to write YOUR English. The teacher will speak 100% native English!						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	Vocabulary is extremely important and is vital to every aspect of your learning. As soon as possible design a portable vocabulary study program that you can access quickly and easily whether in public or private spaces.						
オフィスアワー	1700-1800 Room 134; Except on Fridays when I am usually not on campus.						
授業計画						担当者	
第1回	about me					Fawsitt	
第2回	my friends					Fawsitt	
第3回	my home town					Fawsitt	
第4回	my school					Fawsitt	
第5回	my dream					Fawsitt	
第6回	food					Fawsitt	
第7回	sport					Fawsitt	
第8回	jobs					Fawsitt	
第9回	nature					Fawsitt	

第 1 0 回	travel	Fawsitt
第 1 1 回	festivals	Fawsitt
第 1 2 回	health	Fawsitt
第 1 3 回	mistakes	Fawsitt
第 1 4 回	regrets	Fawsitt
第 1 5 回	next term	Fawsitt
第 1 6 回	exam	Fawsitt
教科書		
教・書籍名 1	English Writing Manual	教・出版社名 1 BTB Press
教・著者名 1	David Baker	教・ I S B N 1 9.78491E+12
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	英語ライティングⅡ（Ａクラス）			担当者	カルロス・ガルシア		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-206		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	This course will help students develop basic English writing skills, understand writing as a process, and build a foundation for becoming an independent writer. Students will learn paragraph structure, as well as how to express personal ideas clearly. We will have textbook, workbook, free writing, and online practice to help give students a variety of writing practice.						
授業概要	We will do a variety of exercises and practice that help students focus on and improve their writing skills. Students will be expected to write at a higher level than the previous semester, but the ability to communicate clearly is preferable to making perfect grammatical sentences. This class will focus on writing, but some activities and exercises will integrate other skills (reading, listening, and speaking) to help students' overall improvement.						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	Students will be evaluated by class participation, homework, quizzes, and exams. 1) 60%: assignments, homework, participation. 2) 40%: Final Exam						
ルーブリック評価	n/a						
課題や試験のフィードバック方法	n/a						
履修条件・注意事項	Students should arrive on time, do all assignments in class, and submit all homework on time. Writing activities and homework will be a combination of hand written and typed. We will also do some practice in English typing skills, so practicing on your own will be beneficial. This course is conducted in English.						
実務経験のある教員	該当しない	内容	n/a				
事前学習・事後学習とその時間	It will be helpful for students to look through the book before each class. To get a better understanding of the material and vocabulary, it is recommended that students study and practice the vocabulary taught in each unit. Homework, digital book exercises, and in class practice provide valuable practice, so students are encouraged to do all of these things to help improve their skills. Students are encouraged to ask questions in class, or visit office hours to get help if needed.						
オフィスアワー	Wednesday 9:00 am to 11:00 am, or by appointment.						
授業計画						担当者	
第1回	1) Paragraph formatting					Garcia	
第2回	2) Sentence structure					Garcia	
第3回	3) Nouns, subject pronouns					Garcia	
第4回	4) Topic sentences					Garcia	
第5回	5) Writing complete sentences					Garcia	
第6回	6) Phrasal verbs					Garcia	
第7回	7) Prepositions of time, capitalization					Garcia	

第 8 回	8) Supporting sentences	Garcia
第 9 回	9) Present progressive / simple present tense	Garcia
第 1 0 回	10) Simple and compound sentences	Garcia
第 1 1 回	11) Concluding sentences	Garcia
第 1 2 回	12) Sentence fragments	Garcia
第 1 3 回	13) Adverbs of probability	Garcia
第 1 4 回	14) Sentences with future time	Garcia
第 1 5 回	15) Run-on sentences	Garcia
第 1 6 回	16) Final Exam	Garcia

教科書

教・書籍名 1	Longman Academic Writing Series 1	教・出版社名 1	Pearson
教・著者名 1	Linda Butler	教・I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・I S B N 2	

授業科目名	英語ライティングⅡ（Ｂクラス）			担当者	カルロス・ガルシア		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-206		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	This course will help students develop basic English writing skills, understand writing as a process, and build a foundation for becoming an independent writer. Students will learn paragraph structure, as well as how to express personal ideas clearly. We will have textbook, workbook, free writing, and online practice to help give students a variety of writing practice.						
授業概要	We will do a variety of exercises and practice that help students focus on and improve their writing skills. Students will be expected to write at a higher level than the previous semester, but the ability to communicate clearly is preferable to making perfect grammatical sentences. This class will focus on writing, but some activities and exercises will integrate other skills (reading, listening, and speaking) to help students' overall improvement.						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	Students will be evaluated by class participation, homework, quizzes, and exams. 1) 60%: assignments, homework, participation. 2) 40%: Final Exam						
ルーブリック評価	n/a						
課題や試験のフィードバック方法	Comments on assignments and in-lecture comments.						
履修条件・注意事項	Students should arrive on time, do all assignments in class, and submit all homework on time. Writing activities and homework will be a combination of hand written and typed. We will also do some practice in English typing skills, so practicing on your own will be beneficial. This course is conducted in English.						
実務経験のある教員	該当しない	内容	n/a				
事前学習・事後学習とその時間	It will be helpful for students to look through the book before each class. To get a better understanding of the material and vocabulary, it is recommended that students study and practice the vocabulary taught in each unit. Homework, digital book exercises, and in class practice provide valuable practice, so students are encouraged to do all of these things to help improve their skills. Students are encouraged to ask questions in class, or visit office hours to get help if needed.						
オフィスアワー	Wednesday 9:00 am to 11:00 am, or by appointment.						
授業計画						担当者	
第1回	1) Paragraph formatting					Garcia	
第2回	2) Sentence structure					Garcia	
第3回	3) Nouns, subject pronouns					Garcia	
第4回	4) Topic sentences					Garcia	
第5回	5) Writing complete sentences					Garcia	
第6回	6) Phrasal verbs					Garcia	
第7回	7) Prepositions of time, capitalization					Garcia	

第 8 回	8) Supporting sentences	Garcia
第 9 回	9) Present progressive / simple present tense	Garcia
第 1 0 回	10) Simple and compound sentences	Garcia
第 1 1 回	11) Concluding sentences	Garcia
第 1 2 回	12) Sentence fragments	Garcia
第 1 3 回	13) Adverbs of probability	Garcia
第 1 4 回	14) Sentences with future time	Garcia
第 1 5 回	15) Run-on sentences	Garcia
第 1 6 回	16) Final Exam	Garcia

教科書

教・書籍名 1	Longman Academic Writing Series 1	教・出版社名 1	Pearson
教・著者名 1	Linda Butler	教・I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・I S B N 2	

授業科目名	プラクティカル・ライティング			担当者	ジョン・フォーセット		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-207		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	△	DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	To become familiar with, and be able to create or complete, various documents and texts that are used in social, business, official, and academic fields, as well as those that are commonly needed in everyday situations.						
授業概要	We will read examples of forms, documents, emails, reports and letters, among other texts, and create scenarios linked to students' lives that require the creation of similar texts.						
アクティブラーニングの内容	PBL／実習／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	Prompt and complete submission of papers is highly valued.						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	Papers will be returned with general and particular comments and suggestions. Students requiring further feedback are strongly encouraged to consult with the lecturer about their work.						
履修条件・注意事項	As vocabulary is absolutely vital for written communication, students must be prepared to participate in vocabulary building, involving regular practice and quizzes. The teacher will speak 100% native English!						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	Students must learn and practice vocabulary in their free time.						
オフィスアワー	1700～1800 in room 134; Generally evenings are best, except for Friday when I sometimes go home earlier or am away.						
授業計画						担当者	
第1回	short messages					Fawsitt	
第2回	filling forms					Fawsitt	
第3回	creating forms					Fawsitt	
第4回	posting to the internet					Fawsitt	
第5回	questionnaires					Fawsitt	
第6回	reports					Fawsitt	
第7回	summaries					Fawsitt	
第8回	letters of enquiry					Fawsitt	
第9回	reviews / evaluations					Fawsitt	
第10回	requests					Fawsitt	
第11回	thanks (bread and butter notes)					Fawsitt	
第12回	complaints					Fawsitt	
第13回	felicitations					Fawsitt	
第14回	condolences					Fawsitt	
第15回	translating					Fawsitt	
第16回	Exam					Fawsitt	
教科書							

教・書籍名 1	Samples of various text styles will be viewed digitally or in paper format.	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N2	

授業科目名	アカデミック・ライティング			担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-208		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習 excercises
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	This course mainly aims to improve the linguistic and cultural competence of students with special focus on writing skills in English. 海外研修や英語での学修にとって必要な言語的および文化的な英語の素養を習得し、大学生としてふさわしい知的水準の文章を英語で書けるようになることを到達目標とする。						
授業概要	さまざまなテーマについて英語で論述できるように、実践的な英語ライティングの向上を図る。特にボキャブラリーの強化を図り、自らの見解を英語で明確かつ正確に表現できるようになることが期待される。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション						
評価方法と割合	In-class activities (授業での積極性 20%, how actively you participate in classroom sessions), comprehension of reading assignments (英語ライティングの課題の達成度20%, you should be ready for writing assignments in English), mid-term report with short presentation (中間レポートとその内容のプレゼンテーション30%, you will be advised how to prepare for the mid-term report and presentation), final presentations and class discussion (最終プレゼンテーションとその内容についてのクラス討論30%).						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等については、授業およびメール等によってフィードバックする。						
履修条件・注意事項	講義は英語のみで行い日本語は用いない。 授業では多くの英語テキストを読み、自ら英語で文章を書くことが基本である。したがって、受講に際しては、必ず予習・復習に取り組み、疑問点は教員に確認すること。真摯に自らの英語力の向上を目指す受講生を歓迎する。 The instruction language is only English (no Japanese). You are expected to be really serious to improve your English proficiency, especially writing skills in English.						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、授業内容に沿って課題を課す。 Preparation for class sessions (30 hours) and following-up studies (30 hours) after class sessions are required. At each class session home assignments will be delivered to students.						
オフィスアワー	13:30-15:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
授業計画						担当者	
第1回	Guidance to this course					Merviö	
第2回	variety of texts					Merviö	
第3回	writing reflections					Merviö	
第4回	essays writing exercises					Merviö	
第5回	vocabulary exercises					Merviö	
第6回	grammar exercises					Merviö	
第7回	writing short essays					Merviö	
第8回	summarizing journal articles					Merviö	
第9回	presentation exercises					Merviö	
第10回	individual essay writing					Merviö	
第11回	presenting your essay					Merviö	

第 1 2 回	academic writing	Merviö
第 1 3 回	essays and academic writing	Merviö
第 1 4 回	debates on essay contents	Merviö
第 1 5 回	presentation of your text	Merviö
第 1 6 回	final test	Merviö
教科書		
教・書籍名 1	BBC News http://www.bbc.com/news	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・I S B N 1
教・書籍名 2	New York Times https://www.nytimes.com/	教・出版社名 2
教・著者名 2		教・I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	National Geographic https://www.nationalgeographic.com/	参・出版社名 1
参・著者名 1		参・I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・I S B N 2

	during and after lessons. In the case of student's Oral Communication / Speaking and Phonetics (pronouncing practice) sound-audio recordings (that are submitted to me via KIU e-mail) I supply detailed assessments as and when I think it necessary and likely to be beneficial i.e. read, comprehended, heeded / acted upon, and have a positive, rather than negative, effect / impact on the student(s) concerned. Fifthly, I additionally regularly encourage all students to liaise with me verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, I also regularly encourage and urge all students to contact me via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime and to - especially - to physically visit my office, as and whenever they see fit / think best and want to.
履修条件・注意事項	This course will be conducted solely in English. Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate. Students should be mature, adequately / sufficiently interested and engaged, and 'PROACTIVE' at all times, and therefore: 01) be - and remain - alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) come to each lesson ready and eager to speak / communicate with their teacher and classmates in English; 03) come to each lesson ready and eager to listen to their teacher(s) and classmates in English; 04) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 05) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as much and frequently as possible; 06) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, ideally and / or often at some length; 07) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 08) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 09) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 10) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 11) study (relevant) textbook pages - and all teacher-distributed materials - as much as possible before, during and after each lesson; 12) strive to finish / complete and submit all required classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well and 'on time', before specified deadlines; 13) finish / submit all required classroom and homework assignments 'on time', before specified deadlines; 14) aim to fully understand - and 'master' - everything that their teacher tells them, especially those things that they are told they will likely to be tested on during (end-of-term) examinations, etc; 15) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 16) communicate with - and request help from - their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 17) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 18) tell the teacher immediately if they think that any textbook or lesson-related activity is / was too easy or

	difficult; 19) communicate with their teacher frequently, especially if they feel confused about a lesson-related topic; 20) request help from their teacher whenever they think that they would benefit from such; 21) generally try to maximize the amount of time that they practice English language oral communication with their teacher and one another; 22) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times. 23) do an adequate / sufficient amount of revision prior to all tests and - above all - the final, end-of-term exam.		
実務経験のある教員	該当する	内容	I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.
事前学習・事後学習とその時間	1) Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor. 2) Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor. Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face. 3) Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments. In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments , students should: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible; The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.		

オフィスアワー	In Ian Warner's office - Room 133 You can contact Ian WARNER by e-mail via: escadero@gmail.com or Microsoft TEAMS. Tell Ian WARNER if you prefer to use FaceTime, Skype or LINE. If you want / need to talk to Ian WARNER - face-to-face - for a long time, go to Room 133. You can talk with Ian WARNER whenever you see him in Room 133 on Tuesdays, Wednesdays and Thursdays. The best time to talk to Ian WARNER in Room 133 is on Wednesdays at:
授業計画	
第 1 回	Unit 01 Family
第 2 回	Unit 02 Friends
第 3 回	Unit 03 Culture
第 4 回	Unit 05 Sport, Hobbies
第 5 回	Unit 06 Work
第 6 回	Unit 07 Food
第 7 回	Unit 09 Health
第 8 回	Unit 10 Movies
第 9 回	Unit 11 Traveling
第 1 0 回	Unit 12 Music
第 1 1 回	Unit 14 Shopping
第 1 2 回	Unit 15 Internet
第 1 3 回	Unit 16 Weather
第 1 4 回	Unit 17 Feelings
第 1 5 回	Unit 18 The Future
第 1 6 回	Final EXAM. TEST
教科書	
教・書籍名 1	English Listening and Speaking Patterns 1 (2017)
教・著者名 1	Andrew E. Bennett
教・書籍名 2	
教・著者名 2	
参考書	
参・書籍名 1	Collins Easy Learning English Conversation: Book 1 (2015)
参・著者名 1	
参・書籍名 2	Talk Time 2: Everyday English Conversation (2006)

参・著者名2	Susan Stempleski	参・I S B N 2	ISBN-10: 0194392910 ISBN-13: 978-0194392914
--------	------------------	-------------	--

	during and after lessons. In the case of student's Oral Communication / Speaking and Phonetics (pronouncing practice) sound-audio recordings (that are submitted to me via KIU e-mail) I supply detailed assessments as and when I think it necessary and likely to be beneficial i.e. read, comprehended, heeded / acted upon, and have a positive, rather than negative, effect / impact on the student(s) concerned. Fifthly, I additionally regularly encourage all students to liaise with me verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, I also regularly encourage and urge all students to contact me via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime and to - especially - to physically visit my office, as and whenever they see fit / think best and want to.
履修条件・注意事項	This course will be conducted solely in English. Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate. Students should be mature, adequately / sufficiently interested and engaged, and 'PROACTIVE' at all times, and therefore: 01) be - and remain - alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) come to each lesson ready and eager to speak / communicate with their teacher and classmates in English; 03) come to each lesson ready and eager to listen to their teacher(s) and classmates in English; 04) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 05) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as much and frequently as possible; 06) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, ideally and / or often at some length; 07) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 08) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 09) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 10) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 11) study (relevant) textbook pages - and all teacher-distributed materials - as much as possible before, during and after each lesson; 12) strive to finish / complete and submit all required classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well and 'on time', before specified deadlines; 13) finish / submit all required classroom and homework assignments 'on time', before specified deadlines; 14) aim to fully understand - and 'master' - everything that their teacher tells them, especially those things that they are told they will likely to be tested on during (end-of-term) examinations, etc; 15) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 16) communicate with - and request help from - their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 17) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 18) tell the teacher immediately if they think that any textbook or lesson-related activity is / was too easy or

	difficult; 19) communicate with their teacher frequently, especially if they feel confused about a lesson-related topic; 20) request help from their teacher whenever they think that they would benefit from such; 21) generally try to maximize the amount of time that they practice English language oral communication with their teacher and one another; 22) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times. 23) do an adequate / sufficient amount of revision prior to all tests and - above all - the final, end-of-term exam.		
実務経験のある教員	該当する	内容	I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.
事前学習・事後学習とその時間	1) Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor. 2) Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor. Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face. 3) Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments. In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments , students should: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible; The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.		

オフィスアワー	In Ian Warner's office - Room 133 You can contact Ian WARNER by e-mail via: escadero@gmail.com or Microsoft TEAMS. Tell Ian WARNER if you prefer to use FaceTime, Skype or LINE. If you want / need to talk to Ian WARNER - face-to-face - for a long time, go to Room 133. You can talk with Ian WARNER whenever you see him in Room 133 on Tuesdays, Wednesdays and Thursdays. The best time to talk to Ian WARNER in Room 133 is on Wednesdays at:
授業計画	
第 1 回	Unit 01 Family
第 2 回	Unit 02 Friends
第 3 回	Unit 03 Culture
第 4 回	Unit 05 Sport, Hobbies
第 5 回	Unit 06 Work
第 6 回	Unit 07 Food
第 7 回	Unit 09 Health
第 8 回	Unit 10 Movies
第 9 回	Unit 11 Traveling
第 1 0 回	Unit 12 Music
第 1 1 回	Unit 14 Shopping
第 1 2 回	Unit 15 Internet
第 1 3 回	Unit 16 Weather
第 1 4 回	Unit 17 Feelings
第 1 5 回	Unit 18 The Future
第 1 6 回	Final EXAM. TEST
教科書	
教・書籍名 1	English Listening and Speaking Patterns 1 (2017)
教・著者名 1	Andrew E. Bennett
教・書籍名 2	
教・著者名 2	
参考書	
参・書籍名 1	Collins Easy Learning English Conversation: Book 1 (2015)
参・著者名 1	
参・書籍名 2	Talk Time 2: Everyday English Conversation (2006)

参・著者名2

Susan Stempleski

参・I S B N 2

ISBN-13: 978-
0194392914

授業科目名	英語オーラルコミュニケーションⅡ（Aクラス）			担当者	カルロス・ガルシア		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-210		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
D P 1. 知識・技能	◎	D P 2. 情報の活用	○	D P 3.主体的な学びと論理的な思考	○	D P 4. コミュニケーション・表現力	◎
D P 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	D P 6. 課題解決力	○	D P 7. 自己効力感	◎	D P 8. 学科項目	△
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	The goal of this class will be to develop confidence with conversation skills. Communicating with confidence means expressing yourself accurately, fluently, and appropriately. Students will do various speaking tasks in class to maximize speaking opportunities.						
授業概要	Students will participate in a variety of speaking activities and assignments that will help improve speaking speed, understandability, and fluidity. Worksheets, videos, online practice, websites, computer apps, games, and partner activities will all serve to give students plenty of practice. Other skills include, but are not limited to, pronunciation, intonation, rhythm, stress, and speed. Emphasis will be placed on overcoming shyness and hesitation to communicate clearly.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	Students will be evaluated by class participation, assignments, and activities. 1) 80%: assignments, activities, participation. 2) 20%: Final Exam						
ルーブリック評価	n/a						
課題や試験のフィードバック方法	Oral feedback						
履修条件・注意事項	Students are expected to be ready and willing to speak and communicate in English. Because there will be a lot of pair work in this class, students are expected to participate and give their best effort at all times. Unwillingness to participate will affect other students. This course is conducted in English.						
実務経験のある教員	該当しない	内容	n/a				
事前学習・事後学習とその時間	Speaking is hard to “study”, but you can practice by speaking as much as possible in class, and stop by office hours of any native teacher a few times a week to practice speaking. The more you speak, the better you will become.						
オフィスアワー	Wednesday 9:00 am to 11:00 am, or by appointment.						
授業計画						担当者	
第1回	1) Formal and informal language					Garcia	
第2回	2) Reduction of ‘to’					Garcia	
第3回	3) Asking for repetition					Garcia	
第4回	4) Intonation in question tags					Garcia	
第5回	5) Expressing preferences					Garcia	
第6回	6) Contrastive stress in returning questions					Garcia	
第7回	7) Talking about time					Garcia	
第8回	8) asking/giving opinions					Garcia	
第9回	9) Final ‘s’ sounds					Garcia	
第10回	10) Personality traits					Garcia	
第11回	11) giving/receiving compliments					Garcia	
第12回	12) Listen for descriptions					Garcia	

第 1 3 回	13) Reduction of 'do you'	Garcia	
第 1 4 回	14) Asking follow-up questions	Garcia	
第 1 5 回	15) Sequence markers	Garcia	
第 1 6 回	16) Final Exam	Garcia	
教科書			
教・書籍名 1	No Book	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	英語オーラルコミュニケーションⅡ（Ｂクラス）			担当者	カルロス・ガルシア		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-210		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	The goal of this class will be to develop confidence with conversation skills. Communicating with confidence means expressing yourself accurately, fluently, and appropriately. Students will do various speaking tasks in class to maximize speaking opportunities.						
授業概要	Students will participate in a variety of speaking activities and assignments that will help improve speaking speed, understandability, and fluidity. Worksheets, videos, online practice, websites, computer apps, games, and partner activities will all serve to give students plenty of practice. Other skills include, but are not limited to, pronunciation, intonation, rhythm, stress, and speed. Emphasis will be placed on overcoming shyness and hesitation to communicate clearly.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	Students will be evaluated by class participation, assignments, and activities. 1) 80%: assignments, activities, participation. 2) 20%: Final Exam						
ルーブリック評価	n/a						
課題や試験のフィードバック方法	Oral feedback						
履修条件・注意事項	Students are expected to be ready and willing to speak and communicate in English. Because there will be a lot of pair work in this class, students are expected to participate and give their best effort at all times. Unwillingness to participate will affect other students. This course is conducted in English.						
実務経験のある教員	該当しない	内容	n/a				
事前学習・事後学習とその時間	Speaking is hard to “study”, but you can practice by speaking as much as possible in class, and stop by office hours of any native teacher a few times a week to practice speaking. The more you speak, the better you will become.						
オフィスアワー	Wednesday 9:00 am to 11:00 am, or by appointment.						
授業計画						担当者	
第1回	1) Formal and informal language					Garcia	
第2回	2) Reduction of ‘to’					Garcia	
第3回	3) Asking for repetition					Garcia	
第4回	4) Intonation in question tags					Garcia	
第5回	5) Expressing preferences					Garcia	
第6回	6) Contrastive stress in returning questions					Garcia	
第7回	7) Talking about time					Garcia	
第8回	8) asking/giving opinions					Garcia	
第9回	9) Final ‘s’ sounds					Garcia	
第10回	10) Personality traits					Garcia	
第11回	11) giving/receiving compliments					Garcia	
第12回	12) Listen for descriptions					Garcia	

第 1 3 回	13) Reduction of 'do you'	Garcia	
第 1 4 回	14) Asking follow-up questions	Garcia	
第 1 5 回	15) Sequence markers	Garcia	
第 1 6 回	16) Final Exam	Garcia	
教科書			
教・書籍名 1	No Book	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	英語オーラルコミュニケーション演習Ⅰ			担当者	イアン・ウォーナー		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-211		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Theme: Improving student ability to participate effectively, creatively and confidently in authentic, real-life, everyday English language conversation, discussion and debate. Target: This course is intended to improve student English speaking ability. Students who enroll on this course will therefore receive progressively more advanced - and demanding / challenging - briefs and instruction. At the end of the course, students should be: a) better able to communicate more effectively in all 'real-life' situations and; b) have more confidence regarding communicating effectively in all 'real-life' situations; c) better prepared to enroll on the similar but more advanced English Oral Communication Exercise II course. Major emphasis will therefore - on a weekly basis - be placed on speaking for longer, extended periods of time (usually 5-10 minutes) about single assigned topics / issues, in order to foster greater levels of creativity, articulateness and expansiveness / elaboration.						
授業概要	English Oral Communication Exercises I will give students 30 hours (not including homework assignment completion) in which to intensively consider and practice Oral Communication. Throughout each weekly lesson, students will do activities and receive instruction, training and advice intended to assist and guide them in their efforts to expand and enhance their English language speaking skills and articulateness. Students will have opportunity to i) practice and thereby improve existing key skills; ii) learn various new key and / or important skills; and iii) expand vocabulary knowledge in order to raise their overall ability to understand, enter into and maintain authentic, real-life, everyday English language conversation. Students will necessarily study numerous topics including pronunciation, intonation and diction etc, and be advised at every stage about how best to express themselves clearly, efficiently and confidently. Crucially, students will be required, helped and encouraged - on a systematic, weekly basis - to speak 'in detail' and 'comprehensively' in response to each and every OC question and prompt that their instructor a) gives them and b) tells them to self-select / create. Whenever necessary therefore, major emphasis will be placed on overcoming shyness, reticence and any other presently constraining deficiencies / shortcomings that presently impede or prevent good oral communication competency.						

アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview and / or monologue) [Students will be continuously appraised regarding coursework.] Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail. Students should try to speak as much as possible, constantly think about 'what more' than can say / add, and give due consideration to pronunciation, vocabulary and syntax / sentence structure.
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	I communicate with - and provide feedback to - all students in the following ways. Firstly, I return marked, commented on and corrected (printed and / or digital) course-work and homework worksheets and question papers to students. Secondly, I provide students with Correct / Model Answer (printed and / or digital) handout documents. Thirdly, I brief students accordingly, in writing, as and when necessary, via KIU e-mail. Fourthly, I brief students, verbally, as and when necessary / whenever I deem it to be necessary or preferable before during and after lessons. In the case of student's Oral Communication / Speaking and Phonetics (pronouncing practice) sound-audio recordings (that are submitted to me via KIU e-mail) I supply detailed assessments as and when I think it necessary and likely to be beneficial i.e. read, comprehended, heeded / acted upon, and have a positive, rather than negative, effect / impact on the student(s) concerned. Fifthly, I additionally regularly encourage all students to liaise with me verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, I also regularly encourage and urge all students to contact me via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime.
	This course will be conducted solely in English. Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate. Students should be mature, adequately / sufficiently interested and engaged, and 'PROACTIVE' at all times, and therefore: 01) be - and remain - alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) come to each lesson ready and eager to speak / communicate with their teacher and classmates in English; 03) come to each lesson ready and eager to listen to their teacher(s) and classmates in English; 04) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 05) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson,

履修条件・注意事項	thoroughly and as much and frequently as possible; 06) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, ideally and / or often at some length; 07) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 08) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 09) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 10) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 11) study (relevant) textbook pages - and all teacher-distributed materials - as much as possible before, during and after each lesson; 12) strive to finish / complete and submit all required classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well and 'on time', before specified deadlines; 13) finish / submit all required classroom and homework assignments 'on time', before specified deadlines; 14) aim to fully understand - and 'master' - everything that their teacher tells them, especially those things that they are told they will likely to be tested on during (end-of-term) examinations, etc; 15) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 16) communicate with - and request help from - their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 17) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 18) tell the teacher immediately if they think that any textbook or lesson-related activity is / was too easy or difficult; 19) communicate with their teacher frequently, especially if they feel confused about a lesson-related topic; 20) request help from their teacher whenever they think that they would benefit from such; 21) generally try to maximize the amount of time that they practice English language oral communication with their teacher and one another; 22) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times. 23) do an adequate / sufficient amount of revision prior to all tests and - above all - the final, end-of-term exam.		
実務経験のある教員	該当する	内容	I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.
事前学習・事後学習と その時間	1) Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor. 2) Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor.		

		Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face. 3) Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments. In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments, students should: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible; The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of-term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.
オフィスアワー		In Ian Warner's office - Room 133 You can contact Ian WARNER by e-mail via: escadero@gmail.com or Microsoft TEAMS. Tell Ian WARNER if you prefer to use FaceTime, Skype or LINE. If you want / need to talk to Ian WARNER - face-to-face - for a long time, go to Room 133. You can talk with Ian WARNER whenever you see him in Room 133 on Tuesdays, Wednesdays and Thursdays. The best time to talk to Ian WARNER in Room 133 is on Wednesdays at:
授業計画		担当者
第 1 回	Various Topics	Warner
第 2 回	Various Topics	Warner
第 3 回	Various Topics	Warner
第 4 回	Various Topics	Warner
第 5 回	Various Topics	Warner
第 6 回	Various Topics	Warner
第 7 回	Various Topics	Warner
第 8 回	Various Topics	Warner
第 9 回	Various Topics	Warner
第 1 0 回	Various Topics	Warner
第 1 1 回	Various Topics	Warner
第 1 2 回	Various Topics	Warner
第 1 3 回	Various Topics	Warner
第 1 4 回	Various Topics	Warner

第 1 5 回	Various Topics	Warner
第 1 6 回	Final EXAM. TEST	Warner
教科書		
教・書籍名 1	Speak Now 3	教・出版社名 1 Oxford University Press
教・著者名 1	Jack C Richards, David Bohlke	教・I S B N 1 ISBN-10: 0194030172 ISBN-13: 978-0194030175
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	Easy Learning English Conversation Book 1	参・出版社名 1 Harpercollins Publishers
参・著者名 1		参・I S B N 1 ISBN-10: 9780008101749 ISBN-13: 978-0008101749
参・書籍名 2	Easy Learning English Conversation Book 2	参・出版社名 2
参・著者名 2	Harpercollins Publishers	参・I S B N 2 978-0-00-810175-6

授業科目名	英語オーラルコミュニケーション演習Ⅱ			担当者	イアン・ウォーナー		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-212		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Theme: Improving student ability to participate effectively, creatively and confidently in authentic, real-life, everyday English language conversation, discussion and debate. Target: This course is intended to improve student English speaking ability. Students who enroll on this course will therefore receive progressively more advanced - and demanding / challenging - briefs, instruction. At the end of this course, students should: a) better able - and more willing - to communicate effectively in all 'real-life' situations; b) have more confidence regarding communicating effectively in all 'real-life' situations; Major emphasis will therefore - on a weekly basis - be placed on speaking for longer, extended periods of time (usually 5-20 minutes) about single assigned topics / issues, in order to foster greater levels of creativity, articulateness and expansiveness. This 'English Oral Communication Exercise II' course is intended primarily for students who have already completed the 'English Oral Communication Exercise I' course. Students who enroll on this 'English Oral Communication Exercise II' course will therefore receive more advanced and demanding / challenging briefs, instruction and advice compared to that given at the end of 'English Oral Communication Exercise I' course.						
授業概要	English Oral Communication Exercises II will give students 30 hours (not including homework assignments) in which to intensively consider and practice Oral Communication. Throughout each weekly lesson, students will do activities and receive instruction, training and advice intended to assist and guide them in their efforts to expand and enhance their English language speaking skills and articulateness. Students will have opportunity to i) practice and thereby improve existing key skills; ii) learn various new key and / or important skills; and iii) expand vocabulary knowledge in order to raise their overall ability to understand, enter into and maintain authentic, real-life, everyday English language conversation. Students will necessarily study numerous topics including pronunciation, intonation and diction etc, and be advised at every stage about how best to express themselves clearly, efficiently and confidently. As with English Oral Communication Exercises I, students will be required, helped and encouraged - on a systematic, weekly basis - to speak 'in detail' and 'comprehensively' in response to each and every OC question and prompt that their instructor a) gives them and b) tells them to self-select / create. Whenever necessary therefore, major emphasis will be placed on overcoming shyness, reticence and any other presently constraining						

	deficiencies / shortcomings that presently impede or prevent good oral communication competency. As stated above, English Oral Communication Exercises II speaking topics / prompts will generally be more advanced / complex and thus challenging compared to those employed in English Oral Communication Exercises I lessons. Also, much greater / major emphasis will be placed on the clear and thorough-going voicing of student personal opinion - vis-a-vis discussion and debate topics - in monologue, pair-working and small group formats (primarily monologue, in order to maximize each student's speaking time).
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview and / or monologue) [Students will be continuously appraised regarding coursework.] Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail. Students should try to speak as much as possible, constantly think about 'what more' than can say / add, and give due consideration to pronunciation, vocabulary and syntax / sentence structure.
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	I communicate with - and provide feedback to - all students in the following ways. Firstly, I return marked, commented on and corrected (printed and / or digital) course-work and homework worksheets and question papers to students. Secondly, I provide students with Correct / Model Answer (printed and / or digital) handout documents. Thirdly, I brief students accordingly, in writing, as and when necessary, via KIU e-mail. Fourthly, I brief students, verbally, as and when necessary / whenever I deem it to be necessary or preferable before during and after lessons. In the case of student's Oral Communication / Speaking and Phonetics (pronouncing practice) sound-audio recordings (that are submitted to me via KIU e-mail) I supply detailed assessments as and when I think it necessary and likely to be beneficial i.e. read, comprehended, heeded / acted upon, and have a positive, rather than negative, effect / impact on the student(s) concerned. Fifthly, I additionally regularly encourage all students to liaise with me verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, I also regularly encourage and urge all students to contact me via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime and to - especially - to physically visit my office, as and whenever they see fit / think best and want to.
	This course will be conducted solely in English. Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate.

履修条件・注意事項	Students should be mature, adequately / sufficiently interested and engaged, and 'PROACTIVE' at all times, and therefore: 01) be - and remain - alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) come to each lesson ready and eager to speak / communicate with their teacher and classmates in English; 03) come to each lesson ready and eager to listen to their teacher(s) and classmates in English; 04) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 05) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as much and frequently as possible; 06) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, ideally and / or often at some length; 07) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 08) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 09) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 10) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 11) study (relevant) textbook pages - and all teacher-distributed materials - as much as possible before, during and after each lesson; 12) strive to finish / complete and submit all required classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well and 'on time', before specified deadlines; 13) finish / submit all required classroom and homework assignments 'on time', before specified deadlines; 14) aim to fully understand - and 'master' - everything that their teacher tells them, especially those things that they are told they will likely to be tested on during (end-of-term) examinations, etc; 15) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 16) communicate with - and request help from - their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 17) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 18) tell the teacher immediately if they think that any textbook or lesson-related activity is / was too easy or difficult; 19) communicate with their teacher frequently, especially if they feel confused about a lesson-related topic; 20) request help from their teacher whenever they think that they would benefit from such; 21) generally try to maximize the amount of time that they practice English language oral communication with their teacher and one another; 22) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times. 23) do an adequate / sufficient amount of revision prior to all tests and - above all - the final, end-of-term exam.
	I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received

実務経験のある教員	該当する	内容	Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.
事前学習・事後学習とその時間	In addition to completing all homework assignments , students SHOULD: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) Listen to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible; The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.		
オフィスアワー	In Ian Warner's office - Room 133 Mondays - N/A Tuesdays - 3, 4, 5, 6 Wednesdays - 3, 4, 5, 6 Thursdays - 1, 2, 3, 4, 5, 6 Fridays - Periods 1, 2, 3, 4, 5, 6 * = Unless at staff meetings Students can also e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp Lunch-time meetings - and meetings after 6:20pm - are also possible.		
授業計画			担当者
第 1 回	Various Topics		Warner
第 2 回	Various Topics		Warner
第 3 回	Various Topics		Warner
第 4 回	Various Topics		Warner
第 5 回	Various Topics		Warner
第 6 回	Various Topics		Warner
第 7 回	Various Topics		Warner
第 8 回	Various Topics		Warner
第 9 回	Various Topics		Warner
第 1 0 回	Various Topics		Warner
第 1 1 回	Various Topics		Warner
第 1 2 回	Various Topics		Warner

第 1 3 回	Various Topics		Warner
第 1 4 回	Various Topics		Warner
第 1 5 回	Various Topics		Warner
第 1 6 回	Final EXAM. TEST		Warner
教科書			
教・書籍名 1	Speak Now 3	教・出版社名 1	Oxford University Press
教・著者名 1	Jack C Richards, David Bohlke	教・ I S B N 1	ISBN10: 0194030172 ISBN13: 978-0194030175
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	Easy Learning English Conversation Book 1	参・出版社名 1	Harpercollins Publishers
参・著者名 1		参・ I S B N 1	ISBN-10: 9780008101749 ISBN-13: 978-0008101749
参・書籍名 2	Easy Learning English Conversation Book 2	参・出版社名 2	Harpercollins Publishers
参・著者名 2		参・ I S B N 2	978-0-00-810175-6

授業科目名	プレゼンテーション英語			担当者	カルロス・ガルシア		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-213		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
D P 1. 知識・技能	◎	D P 2. 情報の活用	◎	D P 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	D P 4. コミュニケーション・表現力	◎
D P 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	D P 6. 課題解決力	○	D P 7. 自己効力感	◎	D P 8. 学科項目	△
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	The main purpose of this class will be to help students learn to communicate information effectively through presentations. The focus will not only be on what you say, but how you say it.						
授業概要	Students will learn techniques to become better, more interesting presenters, as well as the PowerPoint skills to making and using slides effectively. Attention will be paid to what is being said, but the focus of the class will be on how the information is presented both visually and verbally.						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	Students will be evaluated by class participation, assignments, and projects. 1) 80%: assignments, homework, peer feedback, and participation. 2) 20%: Final Presentation						
ルーブリック評価	n/a						
課題や試験のフィードバック方法	Written feedback.						
履修条件・注意事項	Students should arrive on time, do all assignments in class and stay on task, and make good use of their class time. The content covered in class will be expected to be applied in presentation, demonstrating a knowledge of the skills. Asking questions in class or visiting office hours to get help will also be very beneficial. Practicing at home is encouraged to help become a calmer, more confident, and better overall presenter. This course is conducted in English.						
実務経験のある教員	該当しない	内容	n/a				
事前学習・事後学習とその時間	Taking time to experiment with PowerPoint and presenting skill will be important to improving. Some recommended tips are getting feedback from peers, recording yourself for evaluation, and asking for help when you need it.						
オフィスアワー	Wednesday 9:00 am to 11:00 am, or by appointment.						
授業計画						担当者	
第1回	1) Course overview					Garcia	
第2回	2) Reading off slides					Garcia	
第3回	3) Bullet points and text					Garcia	
第4回	4) Eye contact and interaction					Garcia	
第5回	5) Use of pictures					Garcia	
第6回	6) Overcoming nerves					Garcia	
第7回	7) Font color and size					Garcia	
第8回	8) Using time efficiently					Garcia	
第9回	9) Use of animation and transitions					Garcia	
第10回	10) Understanding your audience					Garcia	
第11回	11) Displaying data					Garcia	
第12回	12) Making it personal, story telling					Garcia	
第13回	13) Using body language and gestures					Garcia	

第 1 4 回	14) Speaking with passion	Garcia
第 1 5 回	15) Slide control	Garcia
第 1 6 回	16) Final Presentation	Garcia
教科書		
教・書籍名 1	No Book	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	ディスカッション英語（Aクラス）			担当者	ジョン・フォーセット		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-214		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／10. 人や国の不平等をなくそう／13. 気候変動に具体的な対策を／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	社会問題等の物事について意見交換と説明ができる英語表現力を身につける。						
授業概要	授業の前半、学生が少人数グループでヨーロッパの有名な人物の人生とその背景について調べる。その後「日本のチャーチル」は例えば誰でしょうなどの具体的な議論を行うことで、ディスカッションを深める。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	定期試験の成績（40％）、予習・レポート・プレゼン・授業姿勢（60％）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	Whole-class and individual on-the-spot feedback will be provided verbally.						
履修条件・注意事項	積極参加を重視します。The teacher will speak 100% native English!						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	語彙練習をしっかりと取り込むこと。						
オフィスアワー	1700～1800～ generally evenings are best, in room 134, except for Friday when I sometimes go home earlier or am working off campus						
授業計画						担当者	
第1回	コース紹介など						Fawsitt
第2回	ウインストン・チャーチル						Fawsitt
第3回	ミハエル・ゴルバチョフ						Fawsitt
第4回	ロバート・キャバ						Fawsitt
第5回	アンネ・フランク						Fawsitt
第6回	ジークムント・フロイト						Fawsitt
第7回	アルベルト・アインシュタイン						Fawsitt
第8回	フランツ・カフカ						Fawsitt
第9回	パブロ・ピカソ						Fawsitt
第10回	ココ・シャネル						Fawsitt
第11回	ジョン・レノン						Fawsitt
第12回	チャールズ・チャプリン						Fawsitt
第13回	J・K・ローリング						Fawsitt
第14回	オードリー・ヘップバーン						Fawsitt
第15回	プレゼン「私のアイコン」						Fawsitt
第16回	定期試験						Fawsitt
教科書							
教・書籍名1	European Icons					教・出版社名1	山口書店
教・著者名1	Eric Gerwehr / Yugo Tada					教・ISBN1	978-4-8411-1464-5 C7082
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	
参考書							

参・書籍名 1	授業中に適宜資料を配付する	参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	ディスカッション英語（Bクラス）			担当者	ジョン・フォーセット		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-214		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／10. 人や国の不平等をなくそう／13. 気候変動に具体的な対策を／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	社会問題等の物事について意見交換と説明ができる英語表現力を身につける。						
授業概要	授業の前半、学生が少人数グループでヨーロッパの有名な人物の人生とその背景について調べる。その後「日本のチャーチル」は例えば誰でしょうなどの具体的な議論を行うことで、ディスカッションを深める。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	定期試験の成績（40％）、予習・レポート・プレゼン・授業姿勢（60％）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	Whole-class and individual on-the-spot feedback will be provided verbally.						
履修条件・注意事項	積極参加を重視します。The teacher will speak 100% native English!						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	語彙練習をしっかりと取り込むこと。						
オフィスアワー	1700～1800～ generally evenings are best, in room 134, except for Friday when I sometimes go home earlier or am working off campus						
授業計画						担当者	
第1回	コース紹介など						Fawsitt
第2回	ウインストン・チャーチル						Fawsitt
第3回	ミハエル・ゴルバチョフ						Fawsitt
第4回	ロバート・キャバ						Fawsitt
第5回	アンネ・フランク						Fawsitt
第6回	ジークムント・フロイト						Fawsitt
第7回	アルベルト・アインシュタイン						Fawsitt
第8回	フランツ・カフカ						Fawsitt
第9回	パブロ・ピカソ						Fawsitt
第10回	ココ・シャネル						Fawsitt
第11回	ジョン・レノン						Fawsitt
第12回	チャールズ・チャプリン						Fawsitt
第13回	J・K・ローリング						Fawsitt
第14回	オードリー・ヘップバーン						Fawsitt
第15回	プレゼン「私のアイコン」						Fawsitt
第16回	定期試験						Fawsitt
教科書							
教・書籍名1	European Icons					教・出版社名1	山口書店
教・著者名1	Eric Gerwehr / Yugo Tada					教・ISBN1	978-4-8411-1464-5 C7082
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	
参考書							

参・書籍名 1	授業中に適宜資料を配付する	参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	アクティブ英語Ⅰ（Aクラス）			担当者	イアン・ウォーナー		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-301		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	○
SDGs関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Theme: Fostering comprehensive communication skills Goal: To make it possible to use vocabulary and basic expressions with high frequency and to use them in conversation. Extend non-verbal communication skills such as gestures through pairs or group activities with classmates. This course should help students to attain up to CEFR B1 level.						
授業概要	In order to effectively communicate in English, students must focus on improving “speaking” and “listening” fluency. However, all 4 core language skills and will be required, practiced and further developed in these classes to ensure comprehensive English ability enhancement. This course will make it possible for students to better convey their thoughts in English about familiar, interesting and important topics and things. Students will also be able to learn more about basic cultural norms and manners of English speaking countries.						
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview) [Students will be continuously appraised regarding coursework.] Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	I communicate with - and provide feedback to - all students in the following ways. Firstly, I return marked, commented on and corrected (printed and / or digital) course-work and homework worksheets and question papers to students. Secondly, I provide students with Correct / Model Answer (printed and / or digital) handout documents. Thirdly, I brief students accordingly, in writing, as and when necessary, via KIU e-mail. Fourthly, I brief students, verbally, as and when necessary / whenever I deem it to be necessary or preferable before during and after lessons. In the case of student's Oral Communication / Speaking and Phonetics (pronouncing practice) sound-audio recordings (that are submitted to me via KIU e-mail) I supply detailed assessments as and when I think it necessary and likely to be beneficial i.e. read, comprehended, heeded / acted upon, and have a positive, rather than negative, effect / impact on the student(s) concerned. Fifthly, I additionally regularly encourage all students to liaise with me verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, I also regularly encourage and urge all students to						

	contact me via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime and to - especially - to physically visit my office, as and whenever they see fit / think best and want to.
履修条件・注意事項	This course will be conducted solely in English. Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate. Students should be mature, adequately / sufficiently interested and engaged, and 'PROACTIVE' at all times, and therefore: 01) be - and remain - alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) come to each lesson ready and eager to speak / communicate with their teacher and classmates in English; 03) come to each lesson ready and eager to listen to their teacher(s) and classmates in English; 04) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 05) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as much and frequently as possible; 06) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, ideally and / or often at some length; 07) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 08) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 09) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 10) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 11) study (relevant) textbook pages - and all teacher-distributed materials - as much as possible before, during and after each lesson; 12) strive to finish / complete and submit all required classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well and 'on time', before specified deadlines; 13) finish / submit all required classroom and homework assignments 'on time', before specified deadlines; 14) aim to fully understand - and 'master' - everything that their teacher tells them, especially those things that they are told they will likely to be tested on during (end-of-term) examinations, etc; 15) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 16) communicate with - and request help from - their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 17) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 18) tell the teacher immediately if they think that any textbook or lesson-related activity is / was too easy or difficult; 19) communicate with their teacher frequently, especially if they feel confused about a lesson-related topic; 20) request help from their teacher whenever they think that they would benefit from such; 21) generally try to maximize the amount of time that they practice English language oral communication with their teacher and one another; 22) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times. 23) do an adequate / sufficient amount of revision prior to all tests and - above all - the final, end-of-term exam

	exam.		
実務経験のある教員	該当する	内容	I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.
事前学習・事後学習とその時間	1) Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor. 2) Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor. Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face. 3) Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments. In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments , students should: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible; The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.		

オフィスアワー	In Ian Warner's office - Room 133 You can contact Ian WARNER by e-mail via: escadero@gmail.com or Microsoft TEAMS. Tell Ian WARNER if you prefer to use FaceTime, Skype or LINE. If you want / need to talk to Ian WARNER - face-to-face - for a long time, go to Room 133. You can talk with Ian WARNER whenever you see him in Room 133 on Tuesdays, Wednesdays and Thursdays. The best time to talk to Ian WARNER in Room 133 is on Wednesdays at:

授業計画		担当者
第 1 回	Unit 01 - "I'm looking for Old Main Hall" [Talking to a stranger; understanding directions.]	Warner
第 2 回	Unit 02 - "I have an appointment" [Asking personal questions; offering assistance.]	Warner
第 3 回	Unit 03 - "Are you looking for a place to stay?" [Making a suggestion; inviting; showing interest]	Warner
第 4 回	Unit 04 - "I'll be glad to room with you guys?" [Introducing someone; offering; giving a house tour.]	Warner
第 5 回	Unit 05 - "The experience is really important." (An internship described) [Talking about the future.]	Warner
第 6 回	Unit 06 - "I'll get right on it." (An internship experienced) [Giving a compliment / instructions]	Warner
第 7 回	Unit 07 - "Just tell me." [Making a suggestion; confirming; apologising in casual situations.]	Warner
第 8 回	Unit 08 - "Don't worry about it." [Apologising in serious situations; responding to an apology.]	Warner
第 9 回	Unit 09 - "Come here and give me a hug." [Making a proposal, etc.]	Warner
第 1 0 回	Unit 10 - "I love you Mom." [Taking one's leave; inviting; declining an offer.]	Warner
第 1 1 回	Unit 11 - "I deserve a better grade." [Making an appointment; making and argument; compromising.]	Warner
第 1 2 回	Unit 12 - "Any other questions?" [Confirming; giving advice; making requests.]	Warner
第 1 3 回	Review: Units 1-4	Warner
第 1 4 回	Review: Units 5-8	Warner
第 1 5 回	Review: Units 9-12	Warner
第 1 6 回	Final EXAM. TEST	Warner

教科書			
教・書籍名 1	Campus Encounters - Understanding American University Life	教・出版社名 1	Macmillan Language

			House, 2011
教・著者名 1	Hiroto Ohyagi / Masako Taura	教・ I S B N 1	ISBN-10: 4777360474 ISBN-13: 978-4777360475
教・書籍名 2	Students do NOT need to buy this book.	教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	アクティブ英語Ⅰ（Ｂクラス）			担当者	イアン・ウォーナー		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-301		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	○
SDGs関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Theme: Fostering comprehensive communication skills Goal: To make it possible to use vocabulary and basic expressions with high frequency and to use them in conversation. Extend non-verbal communication skills such as gestures through pairs or group activities with classmates. This course should help students to attain up to CEFR B1 level.						
授業概要	In order to effectively communicate in English, students must focus on improving “speaking” and “listening” fluency. However, all 4 core language skills will be required, practiced and further developed in these classes to ensure comprehensive English ability enhancement. This course will make it possible for students to better convey their thoughts in English about familiar, interesting and important topics and things. Students will also be able to learn more about basic cultural norms and manners of English speaking countries.						
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview) [Students will be continuously appraised regarding coursework.] Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	I communicate with - and provide feedback to - all students in the following ways. Firstly, I return marked, commented on and corrected (printed and / or digital) course-work and homework worksheets and question papers to students. Secondly, I provide students with Correct / Model Answer (printed and / or digital) handout documents. Thirdly, I brief students accordingly, in writing, as and when necessary, via KIU e-mail. Fourthly, I brief students, verbally, as and when necessary / whenever I deem it to be necessary or preferable before during and after lessons. In the case of student's Oral Communication / Speaking and Phonetics (pronouncing practice) sound-audio recordings (that are submitted to me via KIU e-mail) I supply detailed assessments as and when I think it necessary and likely to be beneficial i.e. read, comprehended, heeded / acted upon, and have a positive, rather than negative, effect / impact on the student(s) concerned. Fifthly, I additionally regularly encourage all students to liaise with me verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, I also regularly encourage and urge all students to						

	contact me via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime and to - especially - to physically visit my office, as and whenever they see fit / think best and want to.		
履修条件・注意事項	This course will be conducted solely in English. Students should be 'PROACTIVE' at all times and thus (1) come to each lesson ready and eager to speak / communicate with their teacher and classmates in English; (2) come to each lesson ready and eager to listen to their teacher(s) and classmates in English; (3) be alert, focussed and highly motivated throughout each / every lesson; (4) be ready to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, ideally at some length; (5) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; (6) study (relevant) textbook pages - and all teacher-distributed materials - as much as possible before, during and after each lesson; (7) Aim to fully understand - and 'master' - everything that their teacher tells them, especially those things that they are told they will likely to be tested on during (end-of-term) examinations, etc; (8) Bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; (9) Finish / submit all required classroom and homework assignments 'on time', before specified deadlines; (10) communicate with their teacher frequently, especially if they feel confused about a lesson-related topic; (11) request help from their teacher whenever they think that they would benefit from such; (12) tell the teacher immediately if they think any textbook or lesson activity is / was too easy or difficult; (13) generally try to maximize the amount of time that they practice English language oral communication with their teacher and one another; (14) do an adequate / sufficient amount of revision prior to the final, end-of-term exam.		
実務経験のある教員	該当する	内容	I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.
事前学習・事後学習とその時間	1) Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor. 2) Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor. Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face. 3) Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments. In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments , students should: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is;		

	g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible; The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.	
オフィスアワー	In Ian Warner's office - Room 133 You can contact Ian WARNER by e-mail via: escadero@gmail.com or Microsoft TEAMS. Tell Ian WARNER if you prefer to use FaceTime, Skype or LINE. If you want / need to talk to Ian WARNER - face-to-face - for a long time, go to Room 133. You can talk with Ian WARNER whenever you see him in Room 133 on Tuesdays, Wednesdays and Thursdays. The best time to talk to Ian WARNER in Room 133 is on Wednesdays at:	
授業計画		担当者
第 1 回	Unit 01 - "I'm looking for Old Main Hall" [Talking to a stranger; understanding directions.]	Warner
第 2 回	Unit 02 - "I have an appointment" [Asking personal questions; offering assistance]	Warner
第 3 回	Unit 03 - "Are you looking for a place to stay?" [Making a suggestion; inviting; showing interest]	Warner
第 4 回	Unit 04 - "I'll be glad to room with you guys?" [Introducing someone; offering; giving a house tour]	Warner
第 5 回	Unit 05 - "The experience is really important." (An internship described) [Talking about the future]	Warner
第 6 回	Unit 06 - "I'll get right on it." (An internship experienced) [Giving a compliment / instructions]	Warner
第 7 回	Unit 07 - "Just tell me." [Making a suggestion; confirming; apologising in casual situations]	Warner
第 8 回	Unit 08 - "Don't worry about it." [Apologising in serious situations; responding to an apology]	Warner
第 9 回	Unit 09 - "Come here and give me a hug." [Making a proposal, etc.]	Warner
	Unit 10 - "I love you Mom."	

第 1 0 回	[Taking one's leave; inviting; declining an offer]	Warner
第 1 1 回	Unit 11 - "I deserve a better grade." [Making an appointment; making and argument; compromising]	Warner
第 1 2 回	Unit 12 - "Any other questions?" [Confirming; giving advice; making requests]	Warner
第 1 3 回	Review: Units 1-4	Warner
第 1 4 回	Review: Units 5-8	Warner
第 1 5 回	Review: Units 9-12	Warner
第 1 6 回	Final EXAM. TEST	Warner
教科書		
教・書籍名 1	Campus Encounters - Understanding American University Life	教・出版社名 1 Macmillan Language House, 2011
教・著者名 1	Hiroto Ohyagi / Masako Taura	教・I S B N 1 ISBN-10: 4777360474 ISBN-13: 978-4777360475
教・書籍名 2	Students do NOT need to buy this book.	教・出版社名 2
教・著者名 2		教・I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・I S B N 2

授業科目名	アクティブ英語Ⅱ（Ａクラス）			担当者	金沢 真弓		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-302		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ:様々な場面・状況に応じて、英語でコミュニケーションをとる 到達目標：日本または海外におけるいろいろな状況の中で、その場面に相応しい英語表現を使うことができる。 また、国によって異なる英語の発音やリズムに慣れ、理解し、対応することができる。英語運用能力CEFR B1レベル以上 を目標とする。						
授業概要	授業では、CD・DVDを活用し、様々な国籍・業種に携わる人々のインタビューをとおして、実社会で使用されている英語を聴きとり、理解する。また、役に立つ英語表現を使い、ペア・ワークやグループ・ワークにてスピーキングの練習をする。あらゆる業種について書かれた簡単な英文パッセージを読んで、素早く要点を理解し、グループ活動で自分の意見を言い表す。最後に、職業における自分の希望・意見などを発表する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	1. 学期末テスト(30%) 2. スピーキングテスト(30%) 3. 課題(30%) 4. 授業参加度(10%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は毎週回答を提示する。						
履修条件・注意事項	課題提出の期限厳守						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習が必要。前もってテキストを読み理解しておくこと。						
オフィスアワー	木曜日3時限目(13:30-15:00)						
授業計画						担当者	
第1回	Listening&Speaking-Sales can be like acting.					金沢真弓	
第2回	Listening&Speaking Travel opens up the world					金沢真弓	
第3回	Listening&Speaking Translating is more than					金沢真弓	
第4回	Listening&Speaking Serve up the best possible service					金沢真弓	
第5回	Listening&Speaking Toast your success					金沢真弓	
第6回	Listening&Speaking Teaching is helping others perform their best					金沢真弓	
第7回	Listening&Speaking Build a happy life					金沢真弓	
第8回	Speaking Test (Interview)					金沢真弓	
第9回	Listening&Speaking Life is like riding a bicycle					金沢真弓	
第10回	Listening&Speaking Trade ideas for positive change					金沢真弓	

第 1 1 回	Listening&Speaking Connect workers workers with companies	金沢真弓	
第 1 2 回	Listening&Speaking Connect workers workers with companies	金沢真弓	
第 1 3 回	Listening&Speaking What's the recipe for success?	金沢真弓	
第 1 4 回	Listening&Speaking Help animals for a better society	金沢真弓	
第 1 5 回	Speaking Review	金沢真弓	
第 1 6 回	定期試験	金沢真弓	
教科書			
教・書籍名 1	Working in Japan	教・出版社名 1	Cengage Publishing
教・著者名 1	Alice Gordenker / John Rucynski	教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	アクティブ英語Ⅱ（Ｂクラス）			担当者	金沢 真弓		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-302		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ:様々な場面・状況に応じて、英語でコミュニケーションをとる 到達目標：日本または海外におけるいろいろな状況の中で、その場面に相応しい英語表現を使うことができる。 また、国によって異なる英語の発音やリズムに慣れ、理解し、対応することができる。英語運用能力CEFR B1レベル以上 を目標とする。						
授業概要	授業では、CD・DVDを活用し、様々な国籍・業種に携わる人々のインタビューをとおして、実社会で使用されている英語を聴きとり、理解する。また、役に立つ英語表現を使い、ペア・ワークやグループ・ワークにてスピーキングの練習をする。あらゆる業種について書かれた簡単な英文パッセージを読んで、素早く要点を理解し、グループ活動で自分の意見を言い表す。最後に、職業における自分の希望・意見などを発表する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	1. 学期末テスト(30%) 2. スピーキングテスト(30%) 3. 課題(30%) 4. 授業参加度(10%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は毎週回答を提示する。						
履修条件・注意事項	課題提出の期限厳守						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習が必要。前もってテキストを読み理解しておくこと。						
オフィスアワー	木曜日3時限目(13:30-15:00)						
授業計画						担当者	
第1回	Listening&Speaking-Sales can be like acting.					金沢真弓	
第2回	Listening&Speaking Travel opens up the world					金沢真弓	
第3回	Listening&Speaking Translating is more than					金沢真弓	
第4回	Listening&Speaking Serve up the best possible service					金沢真弓	
第5回	Listening&Speaking Toast your success					金沢真弓	
第6回	Listening&Speaking Teaching is helping others perform their best					金沢真弓	
第7回	Listening&Speaking Build a happy life					金沢真弓	
第8回	Speaking Test (Interview)					金沢真弓	
第9回	Listening&Speaking Life is like riding a bicycle					金沢真弓	
第10回	Listening&Speaking Trade ideas for positive change					金沢真弓	

第 1 1 回	Listening&Speaking Connect workers workers with companies	金沢真弓	
第 1 2 回	Listening&Speaking Connect workers workers with companies	金沢真弓	
第 1 3 回	Listening&Speaking What's the recipe for success?	金沢真弓	
第 1 4 回	Listening&Speaking Help animals for a better society	金沢真弓	
第 1 5 回	Speaking Review	金沢真弓	
第 1 6 回	定期試験	金沢真弓	
教科書			
教・書籍名 1	Working in Japan	教・出版社名 1	Cengage Publishing
教・著者名 1	Alice Gordenker / John Rucynski	教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	インテグレイテッド・イングリッシュⅠ			担当者	カルロス・ガルシア		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-303		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Integrated English we will try to develop our language ability through combining and linking the several modes of expression and comprehension via varying available media. This will lead to mutual development and reinforcement of skills.						
授業概要	少人数グループで様々な国の英語を聞き、その内容をメモし、他のグループメンバーと相談の上で、その英語の内容を口頭もしくは文章で再現（作り直し）する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	定期試験の成績（40％）、予習・レポート・プレゼン・授業姿勢（60％）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	Most feedback will be all-class and in person. According to needs paper-based work will be returned with written comments.						
履修条件・注意事項	As far as possible the class will be used for practice and preparation. Students will be expected to manage their own learning as far as possible. For example they must be ready to create and edit their own vocabulary lists. Students will use different language materials according to their needs. The teacher will speak 100% native English!						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	It is important to schedule times every day for study. Making a vocabulary learning system that you like and that helps you learn as fast as possible is very important.						
オフィスアワー	17:00-18:00 on most weekdays except Fridays when I may be away. My office is room 134 on the third floor of the main building.						
授業計画						担当者	
第1回	日本の犯罪率が低いのはなぜ？					Fawsitt	
第2回	スマホ時代のコミュニケーション					Fawsitt	
第3回	喫煙天国の落とし穴					Fawsitt	
第4回	危うい日本の食文化					Fawsitt	
第5回	なぜ,有名人は離婚率が高いのか？					Fawsitt	
第6回	スポーツは世界の共通言語？					Fawsitt	
第7回	日本の道路をより安全にする方法					Fawsitt	
第8回	男のいじめと女のいじめ					Fawsitt	
第9回	同性愛とカミングアウト					Fawsitt	
第10回	ジェンダーと男女差別					Fawsitt	
第11回	親はいつまで子供と一緒に寝る？					Fawsitt	
第12回	日本の人口問題					Fawsitt	
第13回	パラサイトシングルは悪か？					Fawsitt	
第14回	アイドルの涙					Fawsitt	
第15回	男性ファッション					Fawsitt	
第16回	定期試験					Fawsitt	
教科書							
教・書籍名1	We will use original materials and open source media.				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		

教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	授業中に適宜資料を配付する	参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	インテグレイテッド・イングリッシュⅡ			担当者	ジョン・フォーセット		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-304		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／6. 安全な水とトイレを世界中に／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／13. 気候変動に具体的な対策を／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	For students to actively use many forms and sources of input to develop their ability to communicate their goals and values in their professional and personal lives. Students will develop further awareness of global trends and issues.						
授業概要	In class, students will gather information about topics from many English sources and practice speaking about them with partners and in groups. They will also be asked to write reports on the topics they have discussed.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	定期試験の成績（40％）、予習・レポート・プレゼン・授業姿勢（60％）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	Written work will be returned with comments and advice. Oral work will be given direct feedback in the class, usually to the whole class.						
履修条件・注意事項	As far as possible the class will be used for practice and preparation. Completion will be then done outside class, and final production or presentation at the beginning of the next class. Students will be expected to manage their own learning as far as possible. For example they must be ready create and edit their own vocabulary lists. Students will use different language materials according to their needs. The teacher will speak 100% native English!						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	Each week homework will be assigned once this is completed the next most important item will be student's vocabulary lists. It is important to schedule times every day for study and practice. Making a vocabulary learning system that you like and that helps you learn as fast as possible is very important.						
オフィスアワー	17:00-18:00 on weekdays except Friday.						
授業計画						担当者	
第1回	Introduction and orientation					フォーセット	
第2回	Global population trends					フォーセット	
第3回	Fossil fuels					フォーセット	
第4回	Global heating					フォーセット	
第5回	Plastic					フォーセット	
第6回	Cars and the future					フォーセット	
第7回	Science and agriculture					フォーセット	
第8回	Water					フォーセット	
第9回	Migration					フォーセット	
第10回	Conflict patterns					フォーセット	
第11回	Robots					フォーセット	
第12回	Ageing societies					フォーセット	
第13回	Renewable energy					フォーセット	

第 1 4 回	The future I (presentation)	フォーセット	
第 1 5 回	The future II (presentation)	フォーセット	
第 1 6 回	Term exam	フォーセット	
教科書			
教・書籍名 1	Students will access materials online and receive handouts and audio-visual materials in class.	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	ビジネス英語Ⅰ			担当者	金沢 真弓		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-305		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
D P 1. 知識・技能		D P 2. 情報の活用		D P 3.主体的な学びと論理的な思考		D P 4. コミュニケーション・表現力	
D P 5. グローバルな視野と地域貢献活動		D P 6. 課題解決力		D P 7. 自己効力感		D P 8. 学科項目	
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	To understand basic business vocabulary and expressions in various business situations. To develop speaking fluency and listening comprehension. To understand the differences between casual English and formal English and to be able to use them according to the situation.						
授業概要	This course introduces basic business English expressions. There are practical speaking tasks and listening activities, which provide a model of key language to develop your language skills. You will also practice writing: messages and notes, emails, memos, letters and short reports.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	1. Final Test (40%) 2. Review Test (30%) 3. Vocabulary Quiz (30%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	After each weekly quiz, it is checked and gives explanation.						
履修条件・注意事項	Students are expected to participate actively in every class. Changes in the lesson plan may occur depending on progress						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習との時間	Study vocabulary beforehand. Review and preview for each unit are necessary.						
オフィスアワー	Tuesday 13:30-15:00						
授業計画						担当者	
第1回	コースガイド Introduction of Business English					金沢真弓	
第2回	Self-introduction and small talk					金沢真弓	
第3回	In the office					金沢真弓	
第4回	Telephone conversation - basic expression					金沢真弓	
第5回	Telephone conversation - scheduling					金沢真弓	
第6回	Short speech					金沢真弓	
第7回	Confirm the itinerary					金沢真弓	
第8回	Review Test					金沢真弓	
第9回	Advice for sight seeing					金沢真弓	
第10回	Job hunting					金沢真弓	
第11回	Interview					金沢真弓	
第12回	Meeting - agree or disagree					金沢真弓	
第13回	Meeting - Objection					金沢真弓	
第14回	Dealing with complaint					金沢真弓	
第15回	Appologising					金沢真弓	

第 1 6 回	Final Test		金沢真弓
教科書			
教・書籍名 1	Politeness in Business Context	教・出版社名 1	三修社
教・著者名 1	Misa Fujio	教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	ビジネス英語 II			担当者	金沢 真弓		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-306		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
D P 1. 知識・技能	◎	D P 2. 情報の活用	◎	D P 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	D P 4. コミュニケーション・表現力	◎
D P 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	D P 6. 課題解決力	○	D P 7. 自己効力感	◎	D P 8. 学科項目	◎
S D G s 関連項目	17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	To learn about the business world and see how key language is used in real contexts Be familiar with key business concepts and developments, and to understand how business works in different cultures. To understand vocabulary and expressions in various business situation. To develop speaking fluency and listening comprehension.						
授業概要	This course introduces a practical approach to help you develop important business skills: presentations, attending meetings, telephoning, negotiating and socialising. There are practical speaking tasks and listening activities, which provide a model of key language to develop your language skills. you will practice writing: messages and notes, emails, memos, letters and short reports. Also, some some articles from the newspaper and magazines will be provided, which will help you to find out how other cultures approach business situations.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	1. Final Examination (40%) 2. Mid-term examination (30%) 3. Vocabulary Quiz (30%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	Weekly quiz is checked and explanation is provided.						
履修条件・注意事項	This course is conducted in English and Japanese. Students are expected to participate actively in every class. Changes in the lesson plan may occur depending on progress						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	Study vocabulary beforehand. Review and preview are necessary.						
オフィスアワー	Tuesday 13:30-15:00						
授業計画						担当者	
第1回	Corse guidance Introduction of Business English					金沢真弓	
第2回	Explaining your job					金沢真弓	
第3回	Checking information					金沢真弓	
第4回	Being polite					金沢真弓	
第5回	Describing products					金沢真弓	
第6回	Telling a story					金沢真弓	
第7回	Making predictions					金沢真弓	
第8回	Making an appointment					金沢真弓	
第9回	Explaining what to do					金沢真弓	

第 1 0 回	Making suggestions	金沢真弓
第 1 1 回	Describing a graph	金沢真弓
第 1 2 回	Expressing arguments	金沢真弓
第 1 3 回	Dealing with problems	金沢真弓
第 1 4 回	Managing time	金沢真弓
第 1 5 回	Finding creative solutions	金沢真弓
第 1 6 回	Final test	金沢真弓
教科書		
教・書籍名 1	Intelligent Business Pre-Intermediate	教・出版社名 1 Pearson
教・著者名 1	Christine Johonson	教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ I S B N 2

授業科目名	TOEICストラテジーⅠ（Aクラス）				担当者	金沢 真弓		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年				ナンバリング	FS-FS-1-307		
必修・選択	選択	単位数	2単位		時間数	30	授業形態	演習
年次	1年		開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜4限
ディプロマポリシー対応項目								
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	△	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 							
到達目標	テーマ：英語力の向上とTOEICの問題の解き方に精通する 到達目標：TOEIC400 - 500							
授業概要	TOEIC問題形式を使い、パート別に問題形式に慣れることから始める。問題の特徴とその解き方を学び、練習問題を重ねていく。テストに出る頻出単語や英語表現を学習し、シャドーイングなどでリスニングのスキルアップ、速読の練習などを行う。							
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）							
評価方法と割合	定期試験（50％）、中間テスト（30％）、小テスト（20％）							
ルーブリック評価								
課題や試験のフィードバック方法	小テストは、毎週実施し回答を提示する。							
履修条件・注意事項	学内実施のTOEIC IP受験 CALLシステム活用							
実務経験のある教員	該当しない	内容						
事前学習・事後学習とその時間	テキストの音読、単語の学習							
オフィスアワー	木曜日3時限目(13:30-15:00)							
授業計画							担当者	
第1回	リスニングー写真の描写 リーディングー表・用紙						金沢真弓	
第2回	リスニングー疑問文 リーディングー広告						金沢真弓	
第3回	リスニングー日常場面での会話 リーディングー品詞						金沢真弓	
第4回	リスニングーアナウンス リーディングー動詞						金沢真弓	
第5回	リスニングー物の状態と位置 リーディングーチャット						金沢真弓	
第6回	リスニングー基本構文 リーディングー手紙						金沢真弓	
第7回	リスニングー電話での会話 リーディングー代名詞・関係代名詞						金沢真弓	
第8回	中間テスト						金沢真弓	
第9回	リスニングーラジオ放送 リーディングー接続し・前置詞						金沢真弓	
第10回	リスニングーYES・NO 疑問文 リーディングーダブルパッセージ						金沢真弓	
第11回	リスニングーオフィスでの会話 リーディングー復習						金沢真弓	

第 1 2 回	リスニングー留守番電話 リーディングートリプルパッセージ	金沢真弓	
第 1 3 回	リスニングーオフィスでの会話 リーディングー長文読解	金沢真弓	
第 1 4 回	リスニングーPart 1、2 の復讐 リーディングー時制・代名詞・語彙問題	金沢真弓	
第 1 5 回	リスニングートーク、スピーチの一部 リーディングーつながりことば、分の挿入	金沢真弓	
第 1 6 回	学期末試験	金沢真弓	
教科書			
教・書籍名 1	Mastery Drills for The TOEIC L&R Test All in One	教・出版社名 1	桐原書店
教・著者名 1	早川幸治	教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	TOEICストラテジーⅠ（Ｂクラス）			担当者	金沢 真弓		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-307		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ：英語力の向上とTOEICの問題の解き方に精通する 到達目標：TOEIC400 - 500						
授業概要	TOEIC問題形式を使い、パート別に問題形式に慣れることから始める。問題の特徴とその解き方を学び、練習問題を重ねていく。テストに出る頻出単語や英語表現を学習し、シャドーイングなどでリスニングのスキルアップ、速読の練習などを行う。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	定期試験（50％）、中間テスト（30％）、小テスト（20％）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	小テストは、毎週実施し回答を提示する。						
履修条件・注意事項	学内実施のTOEIC IP受験 CALLシステム活用						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	テキストの音読、単語の学習						
オフィスアワー	木曜日3時限目(13:30-15:00)						
授業計画						担当者	
第1回	リスニングー写真の描写 リーディングー表・用紙					金沢真弓	
第2回	リスニングー疑問文 リーディングー広告					金沢真弓	
第3回	リスニングー日常場面での会話 リーディングー品詞					金沢真弓	
第4回	リスニングーアナウンス リーディングー動詞					金沢真弓	
第5回	リスニングー物の状態と位置 リーディングーチャット					金沢真弓	
第6回	リスニングー基本構文 リーディングー手紙					金沢真弓	
第7回	リスニングー電話での会話 リーディングー代名詞・関係代名詞					金沢真弓	
第8回	中間テスト					金沢真弓	
第9回	リスニングーラジオ放送 リーディングー接続し・前置詞					金沢真弓	
第10回	リスニングーYES・NO 疑問文 リーディングーダブルパッセージ					金沢真弓	
第11回	リスニングーオフィスでの会話 リーディングー復習					金沢真弓	

第 1 2 回	リスニングー留守番電話 リーディングートリプルパッセージ	金沢真弓	
第 1 3 回	リスニングーオフィスでの会話 リーディングー長文読解	金沢真弓	
第 1 4 回	リスニングーPart 1、2 の復讐 リーディングー時制・代名詞・語彙問題	金沢真弓	
第 1 5 回	リスニングートーク、スピーチの一部 リーディングーつながりことば、分の挿入	金沢真弓	
第 1 6 回	学期末試験	金沢真弓	
教科書			
教・書籍名 1	Mastery Drills for The TOEIC L&R Test All in One	教・出版社名 1	桐原書店
教・著者名 1	早川幸治	教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	TOEICストラテジーⅡ			担当者	カルロス・ガルシア		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-308		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
D P 1. 知識・技能	◎	D P 2. 情報の活用	◎	D P 3.主体的な学びと論理的な思考	○	D P 4. コミュニケーション・表現力	○
D P 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	D P 6. 課題解決力	○	D P 7. 自己効力感	○	D P 8. 学科項目	△
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	The TOEIC listening and reading test measures the everyday listening and reading skills of people working in an international workplace environment. The test consists of four different kinds of listening passages, and four different kinds of reading sections. This course will focus on listening and reading in the style of the TOEIC questions. That includes listening and reading within a given time limit. Of course this course will slow down and examine individual questions to help students understand the content as well as the best techniques to answer the questions quickly and correctly.						
授業概要	While the focus of the course will be on improving the overall TOEIC test score, there will also be a focus on practicing general reading and listening skills, as well as grammar skills and test taking techniques. The goal is to not only improve reading and listening for the TOEIC test, but for daily use in the future.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	Students will be evaluated by class participation, quizzes, and exams. 1) 80%: assignments, quizzes, participation. 2) 20%: Final Exam						
ルーブリック評価	TOEIC standards scoring.						
課題や試験のフィードバック方法	Oral feedback, test and quiz scores.						
履修条件・注意事項	Students are required to attend class on time. Students are encouraged to listen carefully, take notes, and participate in each class. This will help students engage with the material and concepts to aid in overall understanding and performance. The pace of class and the skills that are covered will be determined by the teacher according to the overall level of the class. This course is conducted in English.						
実務経験のある教員	該当しない	内容	n/a				
事前学習・事後学習とその時間	Try your best in each class, take notes, and review all material after each class. If you have questions, ask in class, or visit office hours.						
オフィスアワー	Wednesday 9:00 - 11:00, or by appointment.						
授業計画						担当者	
第1回	1. Course introduction					Garcia	
第2回	2. Using the photo to predict what you will hear.					Garcia	
第3回	3. Thinking about the meaning of factual questions.					Garcia	
第4回	4. Skimming to predict the context before listening.					Garcia	
第5回	5. Identifying parts of speech.					Garcia	
第6回	6. Using context to choose the correct verb form.					Garcia	
第7回	7. Scanning question to decide which to answer first.					Garcia	
第8回	8. Listening for the correct verb.					Garcia	
第9回	9. Answering direct questions.					Garcia	
第10回	10. Being aware of word distractors.					Garcia	

第 1 1 回	11. Different kinds of what questions.	Garcia
第 1 2 回	12. Choosing gerunds and infinitives correctly.	Garcia
第 1 3 回	13. Choosing the correct part of speech.	Garcia
第 1 4 回	14. Using context to answer vocabulary questions.	Garcia
第 1 5 回	15. Using what you learned to infer meaning.	Garcia
第 1 6 回	16. Final Exam.	Garcia

教科書

教・書籍名 1	Tactics for TOEIC Listen and Reading Test	教・出版社名 1	Oxford University Press
教・著者名 1	Grant Trew	教・I S B N 1	978-0-19-452953-2
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・I S B N 2	

授業科目名	ラーニング・スキルズ			担当者	金沢 真弓		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-309		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	Theme: Explore English learning strategies Goals: Develop the four essential English skills - Listening, Reading, Speaking and Writing						
授業概要	There are different ways to learn English. We will explore and try out the various learning strategies to improve the four essential four skills. Find out what kind of learner you are and them more feectively. You will learn how to set goals, select materials and tools, do the task, check and reflect on self-assessment. In the end of the course, you will share your learning strategies with your classmates through making presentation.						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	Presentation (20%),Learning sheet(20%), Worksheet(30%),Final Report(30%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	Comment is provided for each report.						
履修条件・注意事項	Students are expected to participate actively in every class. Complete assignment on time. Changes in the lesson plan may occur depending on progress						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	Practice with the materials introduced in every class.						
オフィスアワー	Tuesday 15:10-16:40						
授業計画						担当者	
第1回	Course guidance What are learning skills?					金沢真弓	
第2回	Listening strategy dictation, overlap, shadowing					金沢真弓	
第3回	Listening Strategy shadowing, fast listening					金沢真弓	
第4回	Reading strategy scanning, skimming					金沢真弓	
第5回	Reading strategy reading fast					金沢真弓	
第6回	Speaking self-talk					金沢真弓	
第7回	Speaking role play					金沢真弓	
第8回	Review Listening, Reading and Speaking strategies					金沢真弓	
第9回	Writing					金沢真弓	

	describing a photo		
第 1 0 回	Writing journaling	金沢真弓	
第 1 1 回	Making own learning sheet	金沢真弓	
第 1 2 回	Review-Using listening strategy	金沢真弓	
第 1 3 回	Review-Using speaking strategy	金沢真弓	
第 1 4 回	Review-Using reading strategy	金沢真弓	
第 1 5 回	Review-Using writing strategy	金沢真弓	
第 1 6 回	Final test	金沢真弓	
教科書			
教・書籍名 1		教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	British Council Learning English Website http://learnenglish.britishcouncil.org/en	参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	リサーチ・スキルズ			担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-310		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Theme: research methods and methodology Goals: The students will acquire the basic knowledge about various research methods and methodology in order to conduct research by themselves.						
授業概要	This course introduces various alternatives for conducting research by studying distinctive features with respective research methods and methodology. This course will help the students to learn how different world views as methodological basis affect selection of specific method(s) in research activities.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	Participation in discussion 20%, presentations 35%, and final test (written exam) 45%.						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等については、授業およびメール等によってフィードバックする。						
履修条件・注意事項	履修条件：授業は英語のみで行い日本語は用いない。日本人学生についてはTOEICスコア650以上または同等の英語力が最低限の語学要件であるので留意すること。Instruction language is only English (no Japanese). TOEIC score 650 or equivalent English proficiency is the minimum requirement for prospective students.						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、授業内容に沿って課題を課す。 Preparation for class sessions (30 hours) and following-up studies (30 hours) after class sessions are required. At each class session home assignments will be delivered to students.						
オフィスアワー	13:30-15:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
授業計画						担当者	
第1回	introduction					Merviö	
第2回	variations of research methods					Merviö	
第3回	qualitative research					Merviö	
第4回	interview and interviewees					Merviö	
第5回	text analysis					Merviö	
第6回	discourse analysis					Merviö	
第7回	interpretations and analysis					Merviö	
第8回	quantitative research					Merviö	
第9回	questionnaires					Merviö	
第10回	statistical interpretations					Merviö	
第11回	what is methodology?					Merviö	
第12回	our worldview(s)					Merviö	
第13回	research question(s)					Merviö	
第14回	reflective research					Merviö	
第15回	concluding discussion					Merviö	
第16回	final test					Merviö	

教科書			
教・書籍名 1	Research Design: Qualitative, Quantitative, and Mixed Methods Approaches	教・出版社名 1	SAGE Publications
教・著者名 1	Creswell, John W. & Creswell, J. David	教・I S B N 1	978-1506386768
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	How to Write a Research Proposal and Thesis: A Manual for Students and Researchers	参・出版社名 1	Createspace Independent Publishing
参・著者名 1	Hamid, Mohamed E.	参・I S B N 1	978-1482675054
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	日本文化論			担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-401		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義 lecture
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Goals and Theme Goals : One of the main goals of this class is to explore various interpretations on Japanese culture and traditions under globalization. By studying the academic research literature and intellectual discourse on Japanese culture, students will be able to become familiar with theoretical frameworks for making sense of cultural interpretations on identities and traditions in the contemporary world. Theme : Japanese culture and traditions in the precarious world.						
授業概要	Course Outline The course consists of three units: (1) academic discourse on cultural identities, (2) theories on culture and traditions, and (3) contemporary research on Japanese culture. Students will read several academic articles and/or book chapters, participate into discussions, write short essays, and give presentations.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	participation to class activities (25%), mid-term presentation (35%), final test (final presentation 40%).						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等については、授業においてフィードバックする。						
履修条件・注意事項	講義は英語のみで行い日本語は用いない。TOEIC650以上または同等の英語力が最低限の履修条件である。 The instruction language is only English (no Japanese). TOEIC650 or equivalent English proficiency is the minimum requirement for prospective students.						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、授業内容に沿って課題を課す。 Preparation for class sessions (30 hours) and following-up studies (30 hours) after class sessions are required. At each class session home assignments will be delivered to students.						
オフィスアワー	11:30-13:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
授業計画						担当者	
第1回	Introduction: What is culture?					Merviö	
第2回	Japanese Studies and Japanology					Merviö	
第3回	Orientalism					Merviö	
第4回	Ethnicity					Merviö	
第5回	Identities					Merviö	
第6回	Otherness - we and they					Merviö	
第7回	Change and continuity					Merviö	

第 8 回	“High culture” in Japan	Merviö
第 9 回	Japanese popular culture	Merviö
第 1 0 回	Cultural traditions	Merviö
第 1 1 回	Cultural hybridity	Merviö
第 1 2 回	Multilayered perspectives	Merviö
第 1 3 回	Japanese youth	Merviö
第 1 4 回	Children and family in Japan	Merviö
第 1 5 回	Concluding discussion	Merviö
第 1 6 回	final test	Merviö

教科書

教・書籍名 1	Introduction to Japanese Culture	教・出版社名 1	Tuttle Publishing
教・著者名 1	Sosnoski, Daniel	教・ I S B N 1	978-4805313138
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1	An Introduction to Japanese Society, 4th edition, 2014	参・出版社名 1	Cambridge University Press.
参・著者名 1	Sugimoto, Yoshio	参・ I S B N 1	978-1107626676
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	芸術文化論			担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-402		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義/lecture
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
D P 1. 知識・技能	◎	D P 2. 情報の活用		D P 3.主体的な学びと論理的な思考		D P 4. コミュニケーション・表現力	○
D P 5. グローバルな視野と地域貢献活動		D P 6. 課題解決力		D P 7. 自己効力感		D P 8. 学科項目	
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／16. 平和と公正をすべての人に  						
到達目標	Goals and Theme Goals：The students will acquire a broad overview to art and culture, including basic knowledge of aesthetics and art history essential to cultural life and personal fulfillment. Theme：Art, culture and aesthetics						
授業概要	Course Outline In this course the students will discuss developments of art history in different areas of the world, especially in the West and Asia. The students will explore how we can appreciate art with knowledge and experience of aesthetics, and how we can make sense of “art and culture” in our societies as well as in our own lives.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	Participation in class activities（35%）, in-class presentation（35%）, and final test（30%）.						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等については、授業およびメール等によってフィードバックする。						
履修条件・注意事項	履修条件：授業は英語のみで行い日本語は用いない。日本人学生についてはTOEICスコア650以上または同等の英語力が最低限の語学要件である。 Instruction language is only English (no Japanese). TOEIC score 650 or equivalent English proficiency is the minimum requirement for prospective students.						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、授業内容に沿って課題を課す。 Preparation for class sessions (30 hours) and following-up studies (30 hours) after class sessions are required. At each class session home assignments will be delivered to students.						
オフィスアワー	11:30-13:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
授業計画						担当者	
第1回	Orientation					Merviö	
第2回	Researching art					Merviö	
第3回	Ancient Egyptian art					Merviö	
第4回	Ancient Greek art					Merviö	
第5回	Ancient Roman art					Merviö	
第6回	Modern age					Merviö	
第7回	Christianity and art					Merviö	
第8回	Renaissance					Merviö	
第9回	Impressionism					Merviö	
第10回	Cubism					Merviö	
第11回	Expressionism					Merviö	
第12回	Modernism					Merviö	

第 1 3 回	Post-modernism	Merviö
第 1 4 回	Contemporary art	Merviö
第 1 5 回	Concluding discussion	Merviö
第 1 6 回	final test	Merviö
教科書		
教・書籍名 1	The Tomb in Ancient Egypt: Royal and Private Sepulcheres from the Early Dynastic Period to the Romans	教・出版社名 1 Thames & Hudson
教・著者名 1	Dodson, Aidan & Ikram, Salima	教・I S B N 1 978-0500051399
教・書籍名 2		教・出版社名2
教・著者名2		教・I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	Ancient Mythological Images and their Interpretation: An Introduction to Iconology, Semiotics and Image Studies in Classical Art History	参・出版社名 1 Cambridge University Press
参・著者名 1	Lorenz, Katharina	参・I S B N 1 978-0521195089
参・書籍名 2		参・出版社名2
参・著者名2		参・I S B N 2

授業科目名	国際関係論			担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-403		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義 lecture
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Theme : Interdisciplinary approaches to international relations. Course goals: This course aims to analyze those global social issues that influence us in various aspects. In order to understand the dynamics of consequences of globalization students will learn such interdisciplinary approaches with social scientific orientation. Students will be able to broaden their world views to multilayered structure of international relations.						
授業概要	Course Outline The course examines different theoretical frameworks that are useful for understanding international relations. It will be discussed how human societies have been coping with different challenges of globalization at various levels and actors in international relations. Each class session will encourage students to develop their “critical thinking”.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	participation to class activities (25%), mid-term presentation (35%), final presentation (40%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等については、授業やメール等でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	講義は英語のみで行い日本語は用いない。TOEIC650以上または同等の英語力が最低限の履修条件である。 The instruction language is only English (no Japanese). TOEIC650or equivalent English proficiency is the minimum requirement for prospective students.						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、授業内容に沿って課題を課す。 Preparation for class sessions (30 hours) and following-up studies (30 hours) after class sessions are required. At each class session home assignments will be delivered to students.						
オフィスアワー	11:30-13:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
授業計画						担当者	
第1回	Globalizing world					Merviö	
第2回	Defining globalization					Merviö	
第3回	Natural disasters and humans					Merviö	
第4回	Social and cultural minorities					Merviö	
第5回	Vulnerability and social risks					Merviö	
第6回	Social justice					Merviö	
第7回	Our life under globalization					Merviö	
第8回	Mid-term in class debates					Merviö	
第9回	International communities					Merviö	
第10回	Global social issues					Merviö	
第11回	Human well-being					Merviö	

第 1 2 回	Health issues	Merviö
第 1 3 回	Information technology	Merviö
第 1 4 回	World "with Covid-19"	Merviö
第 1 5 回	Concluding discussion	Merviö
第 1 6 回	final test	Merviö
教科書		
教・書籍名 1	Global Inequality: A New Approach for the Age of Globalization	教・出版社名 1 Belknap Press: An Imprint of Harvard University Press
教・著者名 1	Milanovic, Branko	教・I S B N 1 978-0674737136
教・書籍名 2		教・出版社名2
教・著者名2		教・I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	Introduction to International Relations: Theories and Approaches, 2013 (5th edition)	参・出版社名 1 Oxford University Press
参・著者名 1	Jackson, Robert & Sorensen, Georg	参・I S B N 1 978-0198707554
参・書籍名 2		参・出版社名2
参・著者名2		参・I S B N 2

授業科目名	国際政治経済学			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-404		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう 						
到達目標	国際政治経済学（International Political Economy通称IPE）に関する基礎的な理論をサーベイし、専門用語も含んだ英語による当該分野の理解力を深める。また、国際情勢について英語で議論できるよう、基礎的な知見を身につけ英語で専門性の高いディスカッションをうまくこなせるようになることを目指す。						
授業概要	現在の国際政治経済学の理論をまず、キーワードをもとに理解し、それらを英語でディスカッションをすることにより学習する。そのうえで、現在話題になっている国際政治経済情勢をいくつか事例として取り上げ、それぞれの課題に対する理解を深める。そして、それらの解決策などをグループディスカッションで探っていく。また、英語でのプレゼンテーションを行い、高度な表現力とディベート能力を養う。多角的に国際政治経済情勢を分析できるようになることを目指す。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	クラスディスカッション＆プレゼンテーション50％ レポート（英語）50％						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	個人発表やグループ・プレゼンテーションに関しては、その場で講評を行う。最終レポートは、コメントを付し、返却する。						
履修条件・注意事項	この授業はすべて英語で講義がなされ、学生同士のディスカッションもすべて英語で行なわれるので、留意すること。配布資料なども英語である。 授業の進め方の詳細に関しては、第1回授業において教員から説明を行なう。						
実務経験のある教員	該当する	内容	本講義の担当教員は、国際協力機構JICAで長年勤務し、プロジェクトの計画実施においては、国際政治経済情勢の分析を行っている。JICA勤務の間、外務省、大使館、経済開発協力機構OECDに出向勤務を通じて、情勢分析、二国間・多国間外交交渉などの経験を積んでいる。 講義の節目節目において、これらの経験を共有し、リアリティのあるものとしたい。				
事前学習・事後学習とその時間	英字新聞や英語ニュースなどで時事問題をフォローする。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室において、金曜日5限目をオフィスアワーとします。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーションと国際政治経済学の重要性					畝	
第2回	IPE基礎概念					畝	
第3回	文明の衝突その1					畝	
第4回	文明の衝突その2					畝	
第5回	文明の衝突その3					畝	
第6回	グローバリゼーションと世界経済その1					畝	
第7回	グローバリゼーションと世界経済その2					畝	
第8回	開発途上国問題（中進国の罠など）					畝	
第9回	国際経済問題に関するグループ発表その1					畝	
第10回	国際経済問題に関するグループ発表その2					畝	
第11回	国際経済問題に関するグループ発表その3					畝	

第 1 2 回	国際経済問題に関するグループ発表その4	畝	
第 1 3 回	国際経済問題に関するグループ発表その5	畝	
第 1 4 回	ソフトパワー、言論外交、科学技術外交	畝	
第 1 5 回	講義の総括とグループ・ディスカッション	畝	
第 1 6 回	最終試験（レポート）	畝	
教科書			
教・書籍名 1		教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	The Instant Economist	参・出版社名 1	PLUME
参・著者名 1	Timothy Talar	参・ I S B N 1	978-0-452-29752-4
参・書籍名 2	International Political Economy	参・出版社名2	Routledge
参・著者名2	Thomas Oatley	参・ I S B N 2	978-1-138-39034-8

授業科目名	地球環境論			担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-405		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義 lecture
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Goals and Theme Goals : The students will acquire a broad overview to academic discourses, debates, and research approaches related to social sciences-oriented environmental studies. The students will discuss how global environmental issues have been studied in social sciences. The interdisciplinary nature of environmental studies will be addressed by discussing the links with natural sciences and other relevant approaches. Theme : theoretical analysis of environmental studies						
授業概要	Course Outline This course demonstrates that global environmental issues are manifested in different modes in different societies. The global environmental issues will be studied with comparative perspectives and with emphasis on nature protection and conservation.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	Participation in discussion 20%, presentations 35%, and final test (written exam) 45%.						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等については、授業およびメール等によってフィードバックする。						
履修条件・注意事項	履修条件：授業は英語のみで行い日本語は用いない。日本人学生についてはTOEICスコア650以上または同等の英語力が最低限の語学要件であるので留意すること。 Instruction language is only English (no Japanese). TOEIC score 650 or equivalent English proficiency is the minimum requirement for prospective students.						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、授業内容に沿って課題を課す。 Preparation for class sessions (30 hours) and following-up studies (30 hours) after class sessions are required. At each class session home assignments will be delivered to students.						
オフィスアワー	13:30-15:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
授業計画						担当者	
第1回	introduction					Merviö	
第2回	environmental issues and studies					Merviö	
第3回	environmental issues in Europe					Merviö	
第4回	ecology in Europe					Merviö	
第5回	The EU environmental policy					Merviö	
第6回	environmental issues in USA					Merviö	
第7回	environmental issues in Canada					Merviö	
第8回	environmental issues in Asia					Merviö	

第 9 回	reflexive modernisation		Merviö
第 1 0 回	global warming		Merviö
第 1 1 回	theories of ecology		Merviö
第 1 2 回	avian fauna and humans		Merviö
第 1 3 回	theories of governance		Merviö
第 1 4 回	environmental governance		Merviö
第 1 5 回	concluding discussion		Merviö
第 1 6 回	final test		Merviö
教科書			
教・書籍名 1	Earth Democracy: Justice, Sustainability, and Peace	教・出版社名 1	North Atlantic Books
教・著者名 1	Shiva, Vandana	教・I S B N 1	978-1623170417
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	Globalisation and the Quest for Social and Environmental Justice: The Relevance of International Law in an Evolving World Order	参・出版社名 1	Routledge
参・著者名 1	Alam, Shawkat ほか	参・I S B N 1	978-0415813181
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・I S B N 2	

授業科目名	多文化教育論			担当者	秀 真一郎		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-406		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Goals : This course focuses on the meanings of Multicultural Education for children. It is more popular to meet multicultural situation in Japan. That means we need to think about the similarities and differences between our culture and others. We will find this course the knowledge of Multicultural Education and how important to provide Multicultural Education to children. Theme : Multicultural understandings and Educational effects for children						
授業概要	The American multicultural situation would be very helpful to understand it. Therefore, we will meet multicultural education in American school situations, and study the meaning of multicultural education. Then, we will think how we should understand multicultural education in Japan through activities and group discussion.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	Semester final examination : 40%, Presentation: 40%, Participation : 20%						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	In each practice, I will give evaluation feedback to your contents. Therefore, you would better take it for your understanding.						
履修条件・注意事項	Students will be encouraged to communicate in English, take a positive attitude. Be free to speak out what you think in a lecture's topic. Students will meet many different thoughts, so take them into yourself and know what is your thoughts.						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	Students will need not only knowledge but also theory about your own Multicultural Education. Before taking each lesson, students will need study and understand the topic. After a lesson, students will need to take back what the lecture' main point is, and understand what you got and didn't get. Before and after lessons, it would take 2hours each for understanding contents.						
オフィスアワー	30 minutes before each lecture, and 30 minutes after each lecture.						
授業計画						担当者	
第1回	Course introduction (What is the Culture?)					Hide	
第2回	Goals and Misconceptions					Hide	
第3回	Citizenship Education and Diversity in a Global Age					Hide	
第4回	Dimensions and School Characteristics					Hide	
第5回	Curriculum Transformation					Hide	
第6回	Knowledge Construction and Curriculum Reform					Hide	
第7回	Knowledge Components					Hide	
第8回	Teaching with Powerful Ideas					Hide	
第9回	School Reform and Intergroup Education					Hide	
第10回	Multicultural Benchmarks					Hide	
第11回	Practice: Comparing New Year's ceremony in different countries					Hide	
第12回	Practice: National Flag					Hide	

第 1 3 回	Practice: Language differences	Hide
第 1 4 回	Practice: Multicultural Education Evaluation Checklist	Hide
第 1 5 回	Conclusion: What does Multicultural Education mean for children?	Hide
第 1 6 回	Final exam	Hide
教科書		
教・書籍名 1	Give handouts appropriately	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	An Introduction to Multicultural Education 5th edition	参・出版社名 1
参・著者名 1	James A. Banks	参・ I S B N 1
参・書籍名 2	Lessons from Abroad: How Other Countries Educate Their Children	参・出版社名2
参・著者名2	Richard P. McAdams	参・ I S B N 2

授業科目名	人間行動研究			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国4年			ナンバリング	FS-FS-4-407		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	人間はいつも同じ事をしているわけではなく、行動は変化し発達する。ヒトの行動はその周囲の状況と深く関わっている。人間と環境の出会いに創発する行動という出来事を追うためには、周囲を含めて人間のふるまいをとらえる観察が必要となる。本演習では近年の行動科学、認知科学の知見を概観的に学ぶ。その上で、グループワークを通して、実社会で活用できる、人間の行動について研究する方法を学ぶ。						
授業概要	人間はいつも同じ事をしているわけではなく、行動は変化し発達する。なぜ、人間は特定の行動をとるのであろうか？なぜ、個人ではしないことを、グループとなると行動してしまうのか？そして、時代と共に、環境変化に応じて、人間の行動変容もおきる。これらの原因は何であるのかを、事例毎に検証していく。 人間の行動はその周囲の状況と深く関わっている。人間と環境の出会いに創発する行動という出来事を追うためには、周囲を含めて人間のふるまいをとらえる観察が必要となる。本演習では近年の行動科学、認知科学の知見を概観する。特定テーマに関し、受講者でロールプレイなどをグループワークを通して行う。それらを通じて、人間行動研究に必要な方法を具体的に指導する。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	レポートや課題が出されたら提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になる。また、討論のときは積極的に発言すること。参加態度も評価となるので注意すること。専門科目の演習であるので、課題に基づく発表を特に評価する。 最終評価は、学期末に提出する理解度を確認するためのレポート（30％）、課題に基づく発表（40％）、毎回の授業参加度（20％）、授業態度（10％）に基づき総合的に判断します。 レポート、授業での発表については、教員のコメントを提出後、並びに、発表終了後にフィードバックします。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	個人発表並びにグループ発表の後、講評を行う。						
履修条件・注意事項	本講義はすべて英語で行われること。 予習課題については授業時に提示されるので、担当教員の指示に従うこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	授業に出席するだけでは単位を取得するための十分な学修とはいえません。 そのため、1) 指定する参考書、資料を事前に読み込み、自分の考えをまとめておくこと、2) 指示に従って、必ずノートを取り、その内容を復習をすること、3) レポートを最後に提出してもらうので、予習復習を怠らず、準備すること。 なお、基本的な概念などは、日本語の参考図書、資料を読み込んで理解に努めること。 目安として、予習・復習には、最低各2時間が必要です。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日3限目、4限目をオフィスアワーにします。						
授業計画						担当者	
第1回	What is human behavior ?						畝
第2回	Learn about human body (1) Students' presentation						畝
第3回	Learn about human body (2) Students' presentation						畝
第4回	Learn about human body (3) Students' presentation						畝
第5回	Case study Students' presentation (1)						畝
第6回	Case study Students' presentation (2)						畝
第7回	Case study Students' presentation (3)						畝

第 8 回	Case study Students' presentation (4)	畝	
第 9 回	Case study Students' presentation (5)	畝	
第 1 0 回	Case study Students' presentation (6)	畝	
第 1 1 回	Case study Students' presentation (7)	畝	
第 1 2 回	Case study Students' presentation (8)	畝	
第 1 3 回	Case study Students' presentation (9)	畝	
第 1 4 回	Review	畝	
第 1 5 回	Final lecture and next steps	畝	
第 1 6 回	最終試験（英語でのレポート）Term paper	畝	
教科書			
教・書籍名 1	担当教員がその都度参考図書の指定をし、予習資料を配付する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	国際開発研究			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-408		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／6. 安全な水とトイレを世界中に／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／13. 気候変動に具体的な対策を 						
到達目標	発展する国と発展しない国があるが、なぜそのようなことが起こるのであろうか？日本は世界第3位の開発援助国である。なぜ日本は発展が遅れている、いわゆる開発途上国を支援するのであろうか？その支援をする理由と目的を多角的に考えてみる。国際益なのか、国益なのか？日本の復興経験からの視点では何が言えるのであろうか？この講義・演習を通じて、日本のソフトパワーである開発協力について、その概念、歴史、手法などを学び、グループ・ディスカッションやプレゼンテーションを経験することにより、自分のことばで、そして、簡単な英語で、国際開発の重要性を語ることができることを目指す。						
授業概要	世界にはまだ多くの開発途上国、地域が残されており、その開発問題は、貧困や基本的人権に関わる課題を有しており、戦争、紛争などの原因となっている。そのため、国際社会はこれまで、ミレニアム開発目標MDGsをつくり、さらに持続的開発目標SDGsをつくり全世界で取り組むことが国連で決議された。本演習では、これまでの国際社会の取り組みをレビューすると共に、開発途上国の開発問題をその課題毎に、分析すると共に、多角的な視点で解決策を模索する方法を学ぶ。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	指定された課題に関するプレゼンテーション（30点）、ディスカッションなどの参加度・貢献度（20点）、最終レポートの内容（50点）で、総合的な評価を行なう。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	個人発表やグループ発表については、その場で講評を行う。最終レポートについては、コメントを付し、返却する。						
履修条件・注意事項	この授業はすべて英語で講義がなされ、学生同士のディスカッションもすべて英語で行なわれるので、留意すること。配布資料なども英語である。 授業の進め方の詳細に関しては、第1回授業において教員から説明を行なう。						
実務経験のある教員	該当する	内容	実務経験教員： 担当教員は、国際協力機構で35年間勤務し、その間、外務省、在コートジボアール日本大使館、経済開発協力機構に外向した経験のある者である。二国間・多国間ベースの国際開発に関して、政策面、具体的なプログラム、プロジェクトレベルの実務面までを含め、多くの経験を有している。 これらの経験をもとに、実際のプロジェクトの事例紹介、開発課題の核心的問題などを解説する。				
事前学習・事後学習とその時間	英語の文献、資料の読み込みがあるので、予習に最低2時間。授業内容の理解を深めるために、復習は2時間以上必要。プレゼンテーションの準備には通常、情報検索に2時間、PPTスライド作成に3時間程度かかる。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室にて、金曜日4限目をオフィスアワーとする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション						畝
第2回	経済成長、開発、開発途上国						畝
第3回	開発協力、国際協力とは何か						畝
第4回	日本の政府開発援助（ODA）と国別発表第1回						畝

第 5 回	ODAの歴史	畝	
第 6 回	ODA政策と実施、第2回国別発表	畝	
第 7 回	国際協力機構（JICA）とは	畝	
第 8 回	新しいアプローチMDG s から S D G s へ	畝	
第 9 回	第1回開発課題別グループ発表	畝	
第 1 0 回	第2回開発課題別グループ発表	畝	
第 1 1 回	第3回開発課題別グループ発表	畝	
第 1 2 回	第4回開発課題別グループ発表	畝	
第 1 3 回	平和構築・復興支援	畝	
第 1 4 回	ケース・スタディ ウガンダ北部支援	畝	
第 1 5 回	講義総括とグループ・ディスカッション	畝	
第 1 6 回	最終試験（レポート）	畝	
教科書			
教・書籍名 1	授業テーマに応じて必要な英文資料を配付する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	Japan's Development Assistance -Foreign Aid and the Post-2015 Agenda-	参・出版社名 1	palgrave macmillan
参・著者名 1	Eds. KATO, H., PAGE, J., and Y. SHIMOMURA	参・ I S B N 1	ISBN 978-1-137-50537-8
参・書籍名 2	途上国の産業人材育成	参・出版社名 2	日本評論社
参・著者名 2	山田肖子・大野泉 編著	参・ I S B N 2	978-4-535-55970-7

授業科目名	日本の文化経済			担当者	高橋 正巳		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他3年			ナンバリング	FS-FS-3-501		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	○	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	テーマ：日本には古くは「道徳経済」があった 到達目標：「日本の文化経済」を学ぶことは「地球の危機」に対応する倫理道徳と一体的な社会経済であることを理解する。 「日本の文化」は倫理道徳性という文化価値を核として成り立っており、それが「相手の立場に立つ」とか「他者を大切にすること」の源泉だった。そして、これは日本が古くからSDGsの基盤となる文化価値を持っていたのだが、現在の日本人はそれを忘れていたので、今こそ思い出すべきである。						
授業概要	現代の社会経済の出発点は約250年前に英国で始まる産業革命である。ただ、ここに登場した社会経済は「活動の自由」が個人原則であるように倫理道徳を排除したものだった。もちろん当時の西洋人はそれを大歓迎したが、約150年前に西洋（フランス）からそのシステムを持ち帰った、たとえば渋沢栄一をはじめとして、日本人の多くはそれを違和感を持って迎えたのである。渋沢は倫理道徳的な特性をもつ「日本の文化」を基盤に500もの会社づくりがあったが「道徳経済」を基底に据えたものであった。わが国は当時はすでにSDGsを目標とした社会経済だったと言ってよい。ところが、戦後はそれをほとんど忘れてしまったので、現在は渋沢時代の「日本の文化経済」を呼び戻し復活を考える時である。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	自学自修による「持ち帰り試験」(50点)、プレゼンテーションなどアクティブラーニング(20点)、定期末試験(20点)、講義中での積極的な参加(10点)とで総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	「持ち帰り試験」と「定期末試験」は日時を指定して本人に返却する						
履修条件・注意事項	「経済学」と「日本の経済」を履修しているのが望ましい。また、テレビや新聞のニュースをチェックし社会経済に関する記事を読む。さらに日本語で専門分野の文章を書くことを嫌わない。これらを学生は主体的に実施すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和51年大学経済学部卒、昭和57年大学院社会学研究科修士課程修了、昭和60年大学院社会学研究科博士課程満期修了退学。日本の文化を基礎とする社会経済の研究を始めてから35年以上のキャリアとなり、本校では経済学や日本の経済、あるいは宗教学関連のものを学生に教えてきた。				
事前学習・事後学習とその時間	各講義時間の項目に関して、事前学習に90分間を使い理解に務める。その際に専門的な語彙もまとめる。講義後には復習に90分間を使い、さらに理解を深めて修得する。それでもよく判らない語彙や事項は次の講義のとき質問して解決を図る。						
オフィスアワー	毎週木曜日に個人研究室で13：30～15：00まで						
授業計画						担当者	
第1回	オフィスアワー					高橋	
第2回	ナッジ的人間と非合理性の経済					高橋	
第3回	欲望への対応としての日本文化					高橋	
第4回	精神修養こそ知足の経済					高橋	
第5回	智仁勇を持つ人物が組織のリーダー					高橋	

第 6 回	天地人の徳に生きる利殖法	高橋
第 7 回	社会経済のリーダーがもつ敬天愛人	高橋
第 8 回	なぜ「道德の経済」が必要なのか	高橋
第 9 回	一木一草の理に従う日本文化	高橋
第 1 0 回	儒教の道德と日本の経済思想	高橋
第 1 1 回	人の心をつかむ文化価値	高橋
第 1 2 回	生きがいと日本の文化経済	高橋
第 1 3 回	文化価値なき生産経済の終焉	高橋
第 1 4 回	日本的サービスは文化価値の源泉	高橋
第 1 5 回	SDG s の精神基盤だった日本の文化	高橋
第 1 6 回	期末単位認定試験	高橋
教科書		
教・書籍名 1		教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	『論語と算盤』	参・出版社名 1 角川ソフィア文庫
参・著者名 1	洪沢栄一	参・ I S B N 1 ISBN978-4-04-409001-2
参・書籍名 2	『文化経済学への招待』	参・出版社名 2 芙蓉書房出版
参・著者名 2	佐々木晃彦	参・ I S B N 2 ISBN4-8295-0177-4

授業科目名	地域観光資源			担当者	大下 浩司		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-502		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	地域の魅力を知り、観光資源としての活用に関して学ぶことをテーマとして、地域の歴史、文化、風土、伝統、交通、経済、産業についての知識を修得して理解し、論理的に考える能力を身につけることを到達目標とする。						
授業概要	地域との関係性、地域の魅力、地域の現状、地域の観光資源に関する知識を修得し理解する。さらに、これらの知識と理解を深めるために、地域の魅力、観光地などを自ら調べ考え、観光プランを作成し、その内容をまとめ発表する。発表内容に関し受講生らとディスカッションする。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識と論理的思考力を確認するための単位認定試験（40％）、発表（30％）、主体的に問題に取り組み論理的に思考しようとする姿勢を授業態度（30％）として評価する。						
ルーブリック評価	無し						
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を理解し必要に応じて情報収集しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ内容を振り返り、理解を深め疑問点を明らかにすること。						
オフィスアワー	個人研究室にて金曜日3限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	地域観光資源とは					大下浩司	
第2回	地域との関わり					大下浩司	
第3回	地域の魅力を探る					大下浩司	
第4回	地域の魅力を再探索					大下浩司	
第5回	地域の魅力のまとめ					大下浩司	
第6回	観光プランの立案					大下浩司	
第7回	観光プランの作成					大下浩司	
第8回	観光プランの推敲					大下浩司	
第9回	観光プランの完成					大下浩司	
第10回	観光プランのまとめ					大下浩司	
第11回	地域観光資源に関する発表1					大下浩司	
第12回	地域観光資源に関する発表2					大下浩司	
第13回	地域観光資源に関する発表3					大下浩司	
第14回	地域観光資源に関する発表4					大下浩司	
第15回	地域観光資源に関する発表5					大下浩司	
第16回	単位認定試験					大下浩司	
教科書							
教・書籍名1	予習・復習しやすいように適宜資料を配布する。					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	

参考書			
参・書籍名 1	予習・復習しやすいように適宜資料を配布する。	参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	企業戦略マーケティング概論			担当者	佐藤 匡		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-503		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	△	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs関連項目	4 質の高い教育をみんなに 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 17 パートナリシップで目標を達成しよう						
到達目標	戦後日本の経済発展の礎となったのはアメリカから導入されたマーケティングやオペレーションズ・リサーチ（Operations Research；OR）の考え方であった。 本講義では、学科のディプロマポリシーに従って、マーケティングにおいて活用されるオペレーションズ・リサーチを取り上げる。 授業ではアクティブラーニングも加えながら、ORを活用した市場戦略のおもしろさを理解する。 到達目標は、経済の身近にある事象への問題意識が持て、初歩的な常識が身に付くことである。						
授業概要	ORはむずかしいと感じる人も多いかもしれないが、身近なことにORがうまく応用されて役立っていることも多い。 本講義では、ORの中でも入門的な在庫管理、ABC分析、日程計画とガントチャート、PERT、乱数とシミュレーション、安定結婚問題、投票力指数、線形計画、ランチェスター戦略、散布図（相関図）、相関分析と回帰分析、相関係数を学ぶ。 講義内容に対応してパソコンを使用して適宜演習を行う。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「オペレーションズ・リサーチとマーケティングの理解」の予習復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物30%、オペレーションズ・リサーチの理解度を問う試験の成績を40%として最終的に総合評価が行われる。これらの3つの評価がバランスよく得られていることが単位認定（到達目標）の判断基準とされる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	受講者数は、パソコン教室の定員以内とする。 教室の定員のため抽選となることがある。抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 第1回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。 教科書は用いず、毎回講義の終わりに次回の学習資料が配布される。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	教科書は用いず、講義の終わりに次回の学習資料が配布される。各回の講義に対し、予習としてその資料を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。						
	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日 3時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日 4時限目						

オフィスアワー		秋学期：	
		岡山キャンパス131研究室火曜日 2 時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日 3 時限目	
		予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。	
		授業計画	
第 1 回	オリエンテーション・スキル確認テスト		佐藤 匡
第 2 回	フェルミ推定		佐藤 匡
第 3 回	Excelの応用操作		佐藤 匡
第 4 回	在庫管理		佐藤 匡
第 5 回	在庫管理練習問題		佐藤 匡
第 6 回	ABC分析		佐藤 匡
第 7 回	ABC分析練習問題		佐藤 匡
第 8 回	日程計画とガントチャート、PERT		佐藤 匡
第 9 回	日程計画練習問題		佐藤 匡
第 1 0 回	乱数とシミュレーション		佐藤 匡
第 1 1 回	安定結婚問題と投票力指数		佐藤 匡
第 1 2 回	線形計画		佐藤 匡
第 1 3 回	ランチェスター戦略		佐藤 匡
第 1 4 回	散布図（相関図）、相関分析と回帰分析		佐藤 匡
第 1 5 回	相関係数		佐藤 匡
第 1 6 回	単位認定試験		佐藤 匡
教科書			
教・書籍名 1	教科書は使用せず、講義内で学習資料を適宜配付する。		教・出版社名 1
教・著者名 1			教・ I S B N 1
教・書籍名 2			教・出版社名2
教・著者名2			教・ I S B N 2
参考書			
参・書籍名 1			参・出版社名 1
参・著者名 1			参・ I S B N 1
参・書籍名 2			参・出版社名2
参・著者名2			参・ I S B N 2

授業科目名	国際ビジネス論			担当者	高橋 正巳		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-504		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／4. 質の高い教育をみんなに／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／11. 住み続けられるまちづくりを／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	テーマ：賢い消費者に提供するサービス提供ビジネス 達目標：国際的なビジネス活動はサービスの時代であることを理解する。 誰もがお金も欲しいがゆとりやヒマも欲しい。否、生きがいがないと嫌だ。この思いは今や世界的に共通になりつつあり、ビジネス活動においても文化価値を考慮しなければならなくなってきた。しかも、近年は海外から日本の文化が注目されている。そこで、講義では国際化時代の日本におけるビジネス活動は文化価値のサービスとビジネス活動を分離してはならないことを、学生が理解し説明できることを目標とする。						
授業概要	現代のビジネスは世界的な価値サービスを提供する時代に突入したと言える。たとえば和菓子を買ったとききれいな化粧箱を、さらに日本の文化を感じさせてくれる包装紙で包んでくれる。ただ、忘れてならないのはビジネスにおける「信頼」や「ミッション性」である。というのも、消費者が世界的に「賢く」なり、受ける「サービス水準」を高めなければならないのが現在のビジネス活動だからである。そのためには、ビジネスで「サービス価値」を提供するノウハウを知らなければならぬし自らに身に付ける必要がある。この講義ではそれらをできるだけ事例などを取り上げながら話を進める予定である。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	自学自修による「持ち帰り試験」(50点)、プレゼンテーションなどアクティブラーニング(20点)、定期末試験(20点)、講義中での積極的な参加(10点)とで総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	「持ち帰り試験」と「定期末試験」は日時を指定して本人に返却する						
履修条件・注意事項	テレビや新聞のニュースをチェックする。社会経済に関する記事を読む。日本語で専門分野の文章を書くこと。これらを主体的に実施する。						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和51年大学経済学部卒、昭和57年大学院社会学研究科修士課程修了、昭和60年大学院社会学研究科博士課程満期修了退学。本学の「国際ビジネス論」を担当する正規の教授である。				
事前学習・事後学習とその時間	各講義時間の項目に関して、事前学習に90分間で理解するために専門的な語彙をまとめる。さらに、講義を受けた後で復習し90分間使い、さらに理解して修得すると同時によく判らなかった語彙を抜き出して、次の講義のとき質問する。						
オフィスアワー	岡山キャンパスで、毎週木曜日に個人研究室で13：30～15：00まで						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					高橋	
第2回	「市場の飽和」の時代のマーケティング					高橋	
第3回	国際ビジネスに不可欠な<信頼>					高橋	
第4回	OMOマーケティングって何？					高橋	
第5回	ビジネス活動に必要なミッション性					高橋	
第6回	SDGsはビジネスの経営課題					高橋	
第7回	「賢い消費者」がビジネスの相手					高橋	
第8回	日本人ビジネスマンは日本的経営を忘れていないか					高橋	
第9回	国際ビジネスはあなたが主人公					高橋	

第 1 0 回	経営戦略は S T P と 4 P とのミックスから	高橋
第 1 1 回	コア・サービスと補完サービスとの融合	高橋
第 1 2 回	デジタルトランスフォーメーション(D X)と非合理性	高橋
第 1 3 回	「見える化」と図解思考が説明力の基礎	高橋
第 1 4 回	文章の図式化はビジネスの武器	高橋
第 1 5 回	自己と組織と社会とをU理論から見る	高橋
第 1 6 回	期末単位認定試験	高橋
教科書		
教・書籍名 1		教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	国際ビジネスの進化	参・出版社名 1 有斐閣
参・著者名 1	ジェフリー・ジョーンズ	参・ I S B N 1 ISBN 4 - 641 - 16048 - 1
参・書籍名 2	見るだけでわかる！ ビジネス書図鑑 - ああのベストセラーって、要するにこんなことを言ってたんだ！	参・出版社名 2 株式会社ディスカバー トゥエンティ ワン
参・著者名 2	グロービス	参・ I S B N 2 ISBN 9 7 8 - 4 - 7993 - 2381 - 6

授業科目名	ビジネスの基礎知識			担当者	長光 正明		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-505		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	AL
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 17. パートナリシップで目標を達成しよう						
到達目標	ビジネスの基礎的・基本的な知識と技術を習得し、ビジネスの意義や役割について理解するとともに、ビジネスに必要な創造的な能力と実践的なスキルを育てることを目標とする。さらにマーケティングに関する知識と技術をし、マーケティングの意義や役割について理解するとともに、企業におけるマーケティング活動を計画的、合理的に行うスキルを身に付けることを目標とする。						
授業概要	ビジネスの基本である売買取引の基礎編とマーケティングの基礎編からなり、企業人として必要な基礎的・実践的な課題を考察しながら、アクティブラーニング（AL）の実践として課題解決型学習（PBL）方法による各課題に対する解決について、グループ演習としてグループ内でのディスカッション及びその課題解決結果のプレゼンテーションを主体とした授業を行う。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	ビジネスに関する課題解決型学習における参加態度や発言参加頻度（70％）、修得知識の確認試験（30％）で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎回出題されるPBL課題は、各自生徒による課題解決案を考えた後、発表を行い、教師のコメントによりフィードバックする。						
履修条件・注意事項	授業にはパソコンを使用する。ネット接続可能なノートパソコンを持参すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	教師は国際コンサルタント会社の現役代表として、また岡山商工会議所及びJETROの貿易投資アドバイザーとして、30年以上に渡り中小企業等の国内外ビジネスのコンサルタントとして活躍している。本科目は、この経験と知見を活かした授業構成になっている。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回出す課題及びデジタルテキストが、講師のサイト（最初の授業時に説明する）にアップされているので、授業の予習・復習を各2時間程度してくること。						
オフィスアワー	授業の終了後適宜に対応。						
授業計画						担当者	
第1回	売買取引の条件					長光 正明	
第2回	売買取引の締結					長光 正明	
第3回	売買取引の履行					長光 正明	
第4回	代金決済					長光 正明	
第5回	売買に関する計算					長光 正明	
第6回	マーケティングの基本					長光 正明	
第7回	戦略					長光 正明	
第8回	SWOT分析					長光 正明	
第9回	市場調査					長光 正明	

第 1 0 回	販売促進	長光 正明
第 1 1 回	販売計画	長光 正明
第 1 2 回	消費者行動	長光 正明
第 1 3 回	製品計画	長光 正明
第 1 4 回	仕入計画	長光 正明
第 1 5 回	販売価格	長光 正明
第 1 6 回	単位認定試験	長光 正明

教科書

教・書籍名 1	使用しない。講師のWEBサイトのデジタルテキストを利用する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1	授業進行にしたがって、必要に応じ、参考サイトを参考書として案内する。	参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	貿易実務			担当者	長光 正明			
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-506			
必修・選択	選択	単位数	2単位		時間数	30	授業形態	AL
年次	3年		開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜4限
ディプロマポリシー対応項目								
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用			DP 3.主体的な学びと論理的な思考			DP 4. コミュニケーション・表現力
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力			DP 7. 自己効力感			DP 8. 学科項目
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／17. パートナリシップで目標を達成しよう 							
到達目標	国際ビジネスの基礎的・基本的な知識と技術を習得し、国際ビジネスの意義や役割について理解するとともに、国際ビジネスに必要な創造的な能力と実践的なスキルを育てることを目標とする。本科目では国際ビジネスにおける、モノの国際間移動に係る貿易を中心とする。							
授業概要	国際ビジネスの企業人として必要な基礎的・実践的な課題を考察しながら、アクティブラーニング（AL）の実践として課題解決型学習（PBL）方法による各課題に対する解決について、グループ演習としてグループ内でのディスカッション及びその課題解決結果のプレゼンテーションを主体とした授業を行う。							
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション							
評価方法と割合	国際ビジネスに関する課題解決型学習における参加態度や発言参加頻度（70％）、修得知識の確認試験（30％）で評価する。							
ルーブリック評価								
課題や試験のフィードバック方法	毎回出題されるPBL課題は、各自生徒による課題解決案を考えた後、発表を行い、教師のコメントによりフィードバックする。							
履修条件・注意事項	授業にはパソコンを使用する。ネット接続可能なノートパソコンを持参すること。							
実務経験のある教員	該当する	内容	教師は国際コンサルタント会社の現役代表として、また岡山商工会議所及びJETROの貿易投資アドバイザーとして、30年以上に渡り中小企業等の国内外ビジネスのコンサルタントとして活躍している。本科目は、この経験と知見を活かした授業構成になっている。					
事前学習・事後学習とその時間	毎回出す課題及びデジタルテキストが、講師のサイト（最初の授業時に説明する）にアップしているので、授業の予習・復習を各2時間程度してくること。							
オフィスアワー	授業の終了後適宜に対応。							
授業計画							担当者	
第1回	貿易と国際売買取引						長光 正明	
第2回	国内取引と国際取引の違い						長光 正明	
第3回	貿易取引の全体像						長光 正明	
第4回	輸出入の定義：関税法						長光 正明	
第5回	貿易取引の形態：直接貿易と間接貿易 販売店と販売代理店						長光 正明	
第6回	国際取引の輸送						長光 正明	
第7回	国際取引の梱包						長光 正明	
第8回	国際取引の引渡場所と価格体系						長光 正明	
第9回	国際取引の決済と仕組み						長光 正明	
	国際取引の貨物保険							

第 1 0 回		長光 正明
第 1 1 回	貿易取引契約を律する法律	長光 正明
第 1 2 回	英文価格表の構成とHSコード	長光 正明
第 1 3 回	船積書類－インボイスと梱包明細書	長光 正明
第 1 4 回	船積書類－保険証券	長光 正明
第 1 5 回	船積書類－船荷証券	長光 正明
第 1 6 回	単位認定試験	長光 正明
教科書		
教・書籍名 1	使用しない。講師のWEBサイトのデジタルテキストを利用する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	授業進行にしたがって、必要に応じ、参考サイトを参考書として案内する。	参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	I T 応用論			担当者	佐藤 匡		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-507		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	△	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4 質の高い教育をみんなに 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 17 パートナリシップで目標を達成しよう						
到達目標	種々のソフトウェアのデータの相互活用方法を理解しておくことは、日本と世界を取り巻く社会問題の理解、また自己の生活の中にある諸問題を発見し主体的に解決する上で、パソコンを有効に活用するための予備知識として非常に有用なことである。 本講義では、外国学科のディプロマポリシーに従って、コンピュータを中心としたデータの受け渡しをテーマとして学習する。CAD・3次元コンピュータグラフィックスなどを使いこなし、データの相互有効活用ができるようになることを到達目標とする。						
授業概要	3次元CGソフトによりモデリングの概念とGUIを学習する。講義により圧縮ファイルについて理解する。建築CADによる建築平面図作成を通してGUIとファイルシステムについて学習する。これらを通して上級コンピュータリテラシーを習得し、またこれらのデータをソフト間で受け渡しして相互に活用することで、ITを応用した問題解決手法を学ぶ。 講義の内容に対応してパソコンを使用して適宜演習をおこなう。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「コンピュータやソフトによるデータの受け渡しの知識の理解」の予習復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物50%、データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を20%として最終的に総合評価が行われる。これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準となる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	受講者数は、パソコン教室の定員以内とする。 教室の定員のため抽選となることがある。抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修をどちらにするか迷っている場合は注意すること。 指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 第1回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。 教科書は用いず、講義の終わりに次回の学習資料が配布される。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。						
実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員は、前職で企業のIT部門（システム管理部門）に従事し、パソコンと汎用コンピュータと電話回線を組み合わせた比較的規模の大きい基幹システムから、パソコンによる段ボール箱設計と段ボール箱へのデザインを作るDTPシステムまでを開発運用した経験を持つ。その他データウェアハウスによるOLAPの運用経験を持つほか、労働省（当時）が全国で運営するコンピュータカレッジの中の一校においてCGコースを2年間担当した経験を持つ。				
事前学習・事後学習とその時間	教科書は用いず、講義の終わりに適宜次回の学習資料が配布される。次回の講義に先立って、予習としてその資料を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進度と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて用語の説明が求められ、その状況が積極的な参						

	加態度として成績評価の得点とされる。		
オフィスアワー	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日 3 時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日 4 時限目 秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日 2 時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日 3 時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。		
授業計画		担当者	
第 1 回	オリエンテーション・スキル確認テスト		佐藤 匡
第 2 回	C A D の概要と G U I		佐藤 匡
第 3 回	C A D による基本描画		佐藤 匡
第 4 回	C A D の環境設定		佐藤 匡
第 5 回	C A D による幾何学図形制作		佐藤 匡
第 6 回	C A D による間取り図面壁芯制作		佐藤 匡
第 7 回	C A D による間取り図面への間仕切り制作		佐藤 匡
第 8 回	C A D による間取り図面への住宅機器配置		佐藤 匡
第 9 回	C G の基礎知識・ 3 次元ポリゴンモデラー操作		佐藤 匡
第 1 0 回	3 次元ポリゴンモデラーによる動物のモデリング		佐藤 匡
第 1 1 回	3 次元ポリゴンモデラーによる乗用車のモデリング		佐藤 匡
第 1 2 回	3 次元ポリゴンモデラーによる自由課題モデリング		佐藤 匡
第 1 3 回	データの管理方法		佐藤 匡
第 1 4 回	ITを応用した問題解決		佐藤 匡
第 1 5 回	まとめと質疑応答		佐藤 匡
第 1 6 回	単位認定試験		佐藤 匡
教科書			
教・書籍名 1	教科書は使用せず、講義内で学習資料を適宜配付する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	グローバル人材論			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-508		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も 						
到達目標	この講義では、どこでも活躍できる「グローバルな人材となること」をテーマとする。そもそも、グローバル人材とは何か？どのような資質、資格、経験を持った人材のことなのであろうか？どのような学修、経験を積みればそのような人材になれるのであろうか。多角的に学修を進める。いくつかの分野で活躍している「グローバル人材」を外部講師として招聘し、いろいろな角度から講義をしてもらい、それをもとに全体ディスカッションを行なう。これらを通じて、自分なりのグローバル人材の姿を持つことを目標とする。また、英文履歴書が書けるようになる。						
授業概要	グローバル人材に関しては、さまざまな考え、見方、理解がなされており、概念が確立していない用語であることは間違いない。グローバル人材と一般的に見做される人たちは、自分たちのことをそのように呼ばれることに違和感を覚えている。なぜ、そのような違和感を覚えるのか、などに関し、教員の講義とそれに基づく学生間でのディスカッションを進めることにより、理解を深める。外部講師の講義とそれに基づくディスカッションも多角的な理解を進める上で、重要となる。グローバルに活躍できる人材とは何か、この授業を通じて常に考えてもらう。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	各回の講義で実施するミニ・テストの結果（30点）、ディスカッションの参加度・発表（40点）、最終レポートの内容（30点）を総合して評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	各回のミニテスト、最終レポートは、コメントを付して学生に返却します。発表に関しては、発表後、所見を共有します。						
履修条件・注意事項	講義を聴き、ディスカッションに積極的に参加すること。新聞、テレビ、WEB情報などを通じて、グローバルに活躍できる人材とは何か、常に考えてもらいたい。次の授業までに調べる課題を出したりするので、教員の指示に従って準備すること。指定された読むべき図書については授業前に読んでくること。 外部講師の都合により、講義の順番が前後することがある。						
実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員は、35年間、国際協力機構で勤務をし、その間、外務省、大使館、国際機関勤務の経験もしているグローバル人材である。また、招聘する外部講師は特定分野で秀でた海外経験などを有するグローバル人材である。これらの経験を、講義などの節目節目で共有し、内容をリアリティの高いものにする。				
事前学習・事後学習とその時間	復習を重視する。授業後、配付資料を読み返したり、ディスカッションの結果を振り返り、理解を深めること。復習には最低2時間必要。自分の関心に従い、グローバル人材と見做される人たちの自伝や著作を読むこと。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室にて、金曜日4限目をオフィスアワーとします。						
授業計画						担当者	
第1回	グローバル人材とは？					畝	
第2回	ボランティア事業概要とキャリア					外部講師・畝	
第3回	グローバル人材を調べる					畝	
第4回	セネガルと日本の懸け橋となって					外部講師・畝	
第5回	調査結果の発表					畝	
第6回	英文履歴書を書いてみよう					畝	
第7回	フィリピンでの経験を地域おこしに					外部講師・畝	
第8回	グローバルに働くとは？					畝	
第9回	どこにいても自分らしく					外部講師・畝	

第 1 0 回	国際機関で働く	畝	
第 1 1 回	グアテマラでの活動を振り返る	外部講師・畝	
第 1 2 回	地元での就職を考える	畝	
第 1 3 回	日本の経験を活かしたブータンの観光開発	外部講師・畝	
第 1 4 回	地域おこし	畝	
第 1 5 回	グローバル人材再考	畝	
第 1 6 回	最終試験（レポート）	畝	
教科書			
教・書籍名 1	資料を配付する。必要に応じて図書を指定する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	問題解決とシステム技法			担当者	湧田 英明		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-509		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう  						
到達目標	問題を発見し、分析する。解決策を探して解決に到る。簡単なことのように思えるが、筋道を立てて行うとなると案外、難しい。どのようにするか、そのコツを教えたい。これが本講義のテーマであり、目標であるが、だが、出来るようになるかと言えば、受講者の努力次第と言うほかない。すべての糸口になる問題発見にしたところで、誰でも発見できるわけではない。何事もないかのように見える日常の中で、「問題はないか」と問いつづける人にだけ問題は見えてくる。そうした姿勢を持てるようになることが、実社会から期待されていることであり、当科目の到達目標なのである。						
授業概要	問題とは何だろうか。そこから初めて、発見のための手法、問題分析の手法、解決策の捻出、その選択まで、いくつかの手法を提示する。技法の習得は、実際に使ってみるよりない。演習課題として提起され受講者画挑むことになる。 また、講義を通して、問題解決に必要なコミュニケーション能力として、社会文化能力、対人関係能力、異文化調整能力等についても考察する。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	単位認定試験70% 課題の達成30%						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は講義時間内に解説評価する。試験は結果を全体の評価表を配付して質問に答える。こととする。						
履修条件・注意事項	毎回、予習復習を兼ねた課題（講義資料）が出る。それが受講する為の要件となっている。本科目は日本語教員養成コースの必修科目であり、本コースの取得を目指す者は必ず履修しなければならない。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	課題提出のための予習復習。						
オフィスアワー	講義の前後 時間を設ける。						
授業計画						担当者	
第1回	導入と受講上の注意					湧田 英明	
第2回	問題とは何か 問題の定義					湧田 英明	
第3回	問題発見から問題解決の過程 問題を「正しく」発見する					湧田 英明	
第4回	問題状況の把握 モレ無くムラ無くモトを断つ					湧田 英明	
第5回	問題を分析する 特性要因を特定する					湧田 英明	
第6回	作品（課題）発表と講評方法					湧田 英明	

第 7 回	問題解決に向けて 解決に向かう態度・姿勢	湧田 英明	
第 8 回	発想法	湧田 英明	
第 9 回	作品（課題）発表と講評	湧田 英明	
第 1 0 回	解決策は出そろったか	湧田 英明	
第 1 1 回	意思決定	湧田 英明	
第 1 2 回	意思決定理論の射程	湧田 英明	
第 1 3 回	問題解決とその評価	湧田 英明	
第 1 4 回	ハードな手法とソフトな手法	湧田 英明	
第 1 5 回	総括	湧田 英明	
第 1 6 回	単位認定試験「筆記試験」	湧田 英明	
教科書			
教・書籍名 1	指定しない。レジメを配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	専門日本語（科学）			担当者	大下 浩司		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-601		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	6. 安全な水とトイレを世界中に／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／12. つくる責任・つかう責任／13. 気候変動に具体的な対策を／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう 						
到達目標	日本および海外における科学的事柄について学ぶことをテーマとして、談話理解と言語学習を含む言語理解の過程、言語の習得過程と学習ストラテジーを含む言語習得・発達に関する知識を修得して理解し、各事象を論理的に考える能力を身につけることを到達目標とする。						
授業概要	科学を題材として談話理解と言語学習を含む言語理解の過程、言語の習得過程と学習ストラテジーを含む言語習得・発達、科学的事象の言語理解と非言語理解、科学的情報の収集・インプット・アウトプットについての知識を修得し理解する。さらに、これらの知識と理解を深めるために、日本および海外における科学的なトピックスについて自ら調べ考え、その内容をまとめ発表する。発表内容に関し受講生らとディスカッションする。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識と論理的思考力を確認するための単位認定試験（40％）、発表（30％）、主体的に問題に取り組み論理的に思考しようとする姿勢を授業態度（30％）として評価する。						
ルーブリック評価	無し						
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。 本科目は日本語教員養成コースの必修科目であり、本コースの取得を目指す者は必ず履修しなければならない。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を理解し必要に応じて情報収集しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ内容を振り返り、理解を深め疑問点を明らかにすること。						
オフィスアワー	個人研究室にて金曜日3限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	専門日本語（科学）とは						大下浩司
第2回	言語理解の過程（談話理解）						大下浩司
第3回	言語理解の過程（言語学習）						大下浩司
第4回	言語習得・発達（習得過程）						大下浩司
第5回	言語習得・発達（学習ストラテジー）						大下浩司
第6回	科学的事象の言語理解						大下浩司
第7回	科学的事象の非言語理解						大下浩司
第8回	科学的情報の収集						大下浩司
第9回	科学的情報のインプット						大下浩司
第10回	科学的情報のアウトプット						大下浩司
第11回	科学に関する発表1						大下浩司
第12回	科学に関する発表2						大下浩司
第13回	科学に関する発表3						大下浩司
第14回	科学に関する発表4						大下浩司
第15回	科学に関する発表5						大下浩司
第16回	単位認定試験（レポート試験）						大下浩司
教科書							

教・書籍名 1	予習・復習しやすいように適宜資料を配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	予習・復習しやすいように適宜資料を配布する。	参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	専門日本語（産業）			担当者	高木 秀明		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-602		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう  						
到達目標	「人間の生活や社会の基盤となる『産業』の分野で使用される語彙を理解する」ことをテーマとし、「「身の回りの物品の製造から供給、国土交通、ライフラインなど産業に関するニュースなどで見つけ、日本語を学習している人たちにわかりやすく説明し、学習者らの日本語運用能力の向上をサポートできるようになる」を到達目標とする。						
授業概要	「産業」という言葉を聞いて身近ではあるが、具体的に日本語で説明することは難しい。言葉にはルーツがあって、文明が興った太古から語り継がれているものもあれば、つい最近になって使用されるようになる言葉もある。「産業」を分類し、各分類で使用される言葉をメディアで取り上げられるニュースや時事問題から日常生活への関わりを理解するところからスタートする。日常生活や日々、社会で使われる語彙を運用する能力を修得する。課題発表や討論も交える。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業中の求める課題（60％）、単位認定試験（40％）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題発表ごとに口頭で発表グループごとに講評する。聴講側から、コメントを収集し、必要に応じて公表する。						
履修条件・注意事項	各回ノートを取り、配布資料はファイルに綴じる、同じ受講学生の意見や質問にも耳を傾け、適宜記録すること。各課題の各受講学生の回答状況を共有することも大事である。本科目は日本語教員養成コースの必修科目であり、本コースの取得を目指す者は必ず履修しなければならない。グループワークを実施する際、Web等を利用して情報収集する。また、スライド資料を作成したりもするので、毎回、各自がノートPCを持参することが望ましい。本科目は日本語教員養成コースの必修科目であり、本コースの取得を目指す者は必ず履修しなければならない。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習および復習は、各回2時間を必要とする。予習・復習以外にも時事問題にかかわる語彙を理解するために、メディアで取り上げられる内容を深く考察することをすすめる。						
オフィスアワー	火曜日4時限、1号棟1階114研究室で実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーションー産業を取り巻くコミュニケーションとことば					高木	
第2回	社会活動における産業					高木	
第3回	農業における語彙					高木	
第4回	農業における語彙の課題発表					高木	
第5回	漁業における語彙					高木	
第6回	漁業における語彙の課題発表					高木	
第7回	鉱業における語彙					高木	
第8回	鉱業における語彙の課題発表					高木	
第9回	建設業における語彙					高木	
第10回	建設業における語彙の課題発表					高木	
第11回	ライフラインにおける語彙					高木	
第12回	ライフラインにおける語彙の課題発表					高木	
第13回	運輸業における語彙					高木	
第14回	運輸業における語彙の課題発表					高木	
第15回	産業における語彙の重要性					高木	
第16回	単位認定試験ーレポート試験					高木	

教科書			
教・書籍名1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・I S B N 1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名1	豊かな語彙力を育てる	参・出版社名1	ココ出版
参・著者名1	石黒 圭	参・I S B N 1	978-4866760049
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	専門日本語（ＩＴ）			担当者	佐藤 匡		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-603		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	「IT関連の専門用語（日本語）について理解を深める」ことをテーマに、コンピュータ、オペレーティングシステム、アプリケーションソフト、ネットワークの基礎概念やセキュリティ保護の考え方などを理解することを到達目標とする。外国学科のディプロマポリシーに従って、外来語にも焦点を当て、また学習の題材として、プログラミング言語にも触れる。 コンピュータの共通言語であるプログラミング言語を学ぶことで、よりITが身近になる。 解説するプログラミング言語としては、JavaScript、VBA、HTML/CSSを取り上げる。						
授業概要	前半は、教科書だけでなく、日経パソコン、日経PC21、教育家庭新聞などを参考に、最新のIT用語を理解する。 後半は、JavaScript、VBA、HTML/CSSの仕組みを、実際にプログラムを作りながらIT用語を確認する。 講義内容に対応してパソコンを使用して適宜演習を行う。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「IT関連の専門用語（日本語・外来語）について理解」の予習復習を確認するため、講義内で毎回専門用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物30%、専門用語の理解度を問う試験の成績を40%として最終的に総合評価が行われる。これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準とされる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	受講者数は、パソコン教室の定員以内とする。 教室の定員のため抽選となることがある。抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 第1回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。 教科書は用いず、講義の終わりに次回の学習資料が配布される。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。 本科目は日本語教員養成コースの必修科目であり、本コースの取得を目指す者は必ず履修しなければならない。						
実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員は、前職で企業のIT部門（システム管理部門）に従事し、パソコンと汎用コンピュータと電話回線を組み合わせた比較的規模の大きい基幹システムから、パソコンによる段ボール箱設計と段ボール箱へのデザインを作るDTPシステムまでを開発運用した経験を持つ。その他データウェアハウスによるOLAPの運用経験を持つほか、労働省（当時）が全国で運営するコンピュータカレッジの中の一校においてCGコースを2年間担当した経験を持つ。				
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。						

オフィスアワー	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日 3 時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日 4 時限目 秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日 2 時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日 3 時限目
	予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。

授業計画		担当者
第 1 回	オリエンテーション・スキル確認テスト	佐藤 匡
第 2 回	パソコン用語解説	佐藤 匡
第 3 回	インターネット用語解説	佐藤 匡
第 4 回	入出力用語解説	佐藤 匡
第 5 回	システム用語・日本語教育とICT・情報処理と著作権の解説	佐藤 匡
第 6 回	VBAプログラミング	佐藤 匡
第 7 回	HTML基礎	佐藤 匡
第 8 回	HTMLタグ	佐藤 匡
第 9 回	CSSの使い方	佐藤 匡
第 1 0 回	ハイパーリンク	佐藤 匡
第 1 1 回	HTMLにおいての画像の扱い	佐藤 匡
第 1 2 回	JavaScript導入	佐藤 匡
第 1 3 回	JavaScript基礎	佐藤 匡
第 1 4 回	JavaScript応用	佐藤 匡
第 1 5 回	JavaScript関数	佐藤 匡
第 1 6 回	単位認定試験（レポート試験）	佐藤 匡

教科書			
教・書籍名 1	よくわかるマスター 令和4-5年度版	教・出版社名 1	富士通FOM出版
	ITパスポート試験 対策テキスト & 過去問題集 FPT2108		
教・著者名 1		教・ I S B N 1	978-4-938927-42-4
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	

参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	色彩の科学			担当者	大下 浩司		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-604		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／11. 住み続けられるまちづくりを／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	色彩に関する知識を身に付けることをテーマとして、この知識をもとに色彩について論理的に考える力を養うことを到達目標とする。						
授業概要	絵画や染織品、それらの科学調査をもとに、光によって生み出される色彩に関する知識を学び、この知識をもとに色彩の関わる現象について論理的に考える力を身に付けます。絵画や染織品の色彩と構図を題材とし、感性と理性によるプロファイリング手法についても理解を深めます。さらに、文献調査や発表、ディスカッションを通じて色彩の科学を学びます。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識と論理的思考力を確認するための単位認定試験（40%）、発表（30%）、主体的に問題に取り組み論理的に思考しようとする姿勢を授業態度（30%）として評価する。						
ルーブリック評価	無し						
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。						
履修条件・注意事項	適宜、資料や課題を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を理解し必要に応じて情報収集しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ内容を振り返り、理解を深め疑問点を明らかにすること。						
オフィスアワー	個人研究室にて金曜日 3 限に実施。						
授業計画						担当者	
第 1 回	色彩と絵画					大下浩司	
第 2 回	色彩と絵画の分類					大下浩司	
第 3 回	分析の結果と色彩に関する考察					大下浩司	
第 4 回	色彩を感じる眼と光					大下浩司	
第 5 回	色彩心理と印象					大下浩司	
第 6 回	混色と色彩分割					大下浩司	
第 7 回	色彩の錯視					大下浩司	
第 8 回	色彩分析（絵画の科学調査法）					大下浩司	
第 9 回	色彩分析の事例紹介（ゴッホ）					大下浩司	
第 1 0 回	色彩分析の事例紹介（モネ、ルノワール）					大下浩司	
第 1 1 回	色彩に関する発表 1					大下浩司	
第 1 2 回	色彩に関する発表 2					大下浩司	
第 1 3 回	色彩に関する発表 3					大下浩司	
第 1 4 回	色彩に関する発表 4					大下浩司	
第 1 5 回	色彩に関する発表 5					大下浩司	
第 1 6 回	単位認定試験					大下浩司	
教科書							
教・書籍名 1	適宜、資料を配布する。					教・出版社名 1	
教・著者名 1						教・ I S B N 1	
教・書籍名 2						教・出版社名 2	

教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	適宜、資料を配布する。	参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	モノをはかる技術			担当者	高木 秀明		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-605		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／12. つくる責任・つかう責任 						
到達目標	「『はかる』技術を理解する」をテーマとして、歴史的な背景や有用性などを書籍・学術論文・企業の説明資料などを通して理解する。「『はかる』技術を一般の人に説明できるようになる」を到達目標とする。						
授業概要	「はかる」行為というのは、学問的にみても、他分野にわたっている。また、歴史的にさかのぼると農耕がはじまったところから「はかる」技術が確立しているようである。様々な方向から「はかる」技術やその内面にある科学的なアプローチを読み解くことができるようになる。アクティブラーニングのディスカッションの手法を取り入れ、知識が十分得られた上で互いの思考を尊重しながら深めていく。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業中の求める課題（20%）、単位認定試験（80%）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	グループワークでの成果は、次の回で講評する。						
履修条件・注意事項	各回ノートを取り、配布資料はファイルに綴じる、同じ受講学生の意見や質問にも耳を傾け、適宜記録すること。各課題の各受講学生の回答状況を共有することも大事である。Web上の情報を収集する回もあるのでノートPCの持参が望ましい回には、その旨を記載している。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習および復習は、各回2時間を必要とする。予習・復習以外にも時事問題にかかわる「はかる」技術を理解するために、メディアで取り上げられる内容を深く考察することをすすめる。						
オフィスアワー	金曜日 2 時限、1号棟1階114研究室で実施。						
授業計画						担当者	
第1回	「はかる」の基礎					高木	
第2回	「はかる」の共通言語－単位と度量衡					高木	
第3回	メートル法					高木	
第4回	「質量」の再定義					高木	
第5回	環境をはかる－グループワーク					高木	
第6回	環境をはかる重要性－グループワーク					高木	
第7回	感覚をはかる－グループワーク					高木	
第8回	周囲の意味をはかる－グループワーク					高木	
第9回	空からはかる－グループワーク					高木	
第10回	空からはかる－リモートセンシング体験（グループディスカッション）					高木	
第11回	空間をはかる－グループディスカッション					高木	
第12回	空間をはかる（身体）－グループワーク					高木	
第13回	音をはかる－実習（音の高低の調査）					高木	
第14回	音をはかる－実習（楽器の調査）					高木	
第15回	喩えではかる					高木	
第16回	単位認定試験－筆記試験					高木	
教科書							
教・書籍名1	プリントを配布する。					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	

教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	中公新書1918 〈はかる〉科学	参・出版社名 1	中央公論新社
参・著者名 1	阪上 孝・後藤 武 編著	参・I S B N 1	978-4-12-101918-9
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	ロジカルシンキング			担当者	高木 秀明		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-606		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	「論理思考能力を開発する。」をテーマとして、自分の持っている情報や意見を言語によって明快かつ効果的に相手に表現し、伝達できる能力を養うことを到達目標とする。						
授業概要	論理的な思考の下に事象をとらえる論理学的方法を学ぶことで、事実関係に基づき、思考のつながり、推論の仕方や論証のつながりなどの筋道を明確にし、論理的に話す、書くことができるようになる。 本講義では、短文などの例示を通して、論理的に思考し、それらを正確に伝える（「話す・書く」）方法を学ぶ。 外部講師として招聘される、論理思考を実践している自然科学分野の研究者の講義（2回）も聴講する。アクティブラーニングとして演習実験や自ら体験実験に参加する実習形式の授業を行う。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	単位認定試験と参加型学習形態の授業の中での発言頻度や発言内容等、授業への参加態度、そして課題レポートにより総合評価する。成績評価は、レポート試験（40％）、発言（40％）、課題レポート（20％）のウエイトにより評価する。ただし、議論が成立しないような他の受講生に迷惑となる受講態度が認められた場合には減点する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題の記述内容など次の回冒頭で紹介し、講評を加える。単位認定試験の模範解答、解説は、ユニバーサルパスポート上で公開する。						
履修条件・注意事項	授業内容によって討論をおこなうため、ノート作成と復習も必要である。 試験では、到達目標の理解度を見るため、特に復習が必要である。 到達目標、授業内容、評価方法を詳しく説明するので、初回の授業は必ず出席すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	自然科学分野の研究や教授をされている外部講師を招聘し、専門外の本学科の学生が分かりやすく、自然現象や自然科学のとらえ方を学び、論理的思考力を養う回を設けている。				
事前学習・事後学習とその時間	事前に出した課題を元に、参加型学習形態で授業をおこなうため、課題作成の予習が必要である。具体的には教科書を先に読み、わからない用語は、参考書1「入門！論理学」あるいは図書館等で論理学の初歩的な書籍で調べる。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室にて、金曜日2時限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	ロジック（論理）とは					高木	
第2回	外部講師の先生のお話－演習実験とロジック思考の実践					高木・外部講師	
第3回	論理的推論と説得的議論の検討					高木	
第4回	論理的に考えるための基本					高木	
第5回	論理学と日常言語の落差					高木	
第6回	推論の実際					高木	
第7回	三段論法					高木	
第8回	立論と反論					高木	
第9回	論証の型					高木	
第10回	レトリック的推論					高木	
第11回	論証の型					高木	
第12回	準論理的論証					高木	
第13回	事実に基づく論証					高木	
第14回	外部講師の先生のお話－演習実験とロジック実践の解説					高木・外部講師	

第 1 5 回	誤謬推理と詭弁		高木
第 1 6 回	単位認定試験－筆記試験		高木
教科書			
教・書籍名 1	実践ロジカル・シンキング入門	教・出版社名 1	大修館書店
教・著者名 1	野内良三	教・ I S B N 1	4-469-21276-8
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	入門！論理学	参・出版社名 1	中央公論新社
参・著者名 1	野矢茂樹	参・ I S B N 1	4-12-101862-1
参・書籍名 2	Being Logical: A Guide to Good Thinking	参・出版社名2	New York: Random House Trade
参・著者名2	D. Q. McNerny	参・ I S B N 2	978-0812971156

授業科目名	人と地域の社会学			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他3年			ナンバリング	FS-FS-3-607		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	本講義では、われわれの生活の場としての地域が抱える社会問題を発見し、これらの課題について自ら解決できる思考力と行動力を養う。また、社会的な視点から、なぜこれらの問題が生じているのか、その原因を探り、論理的思考を修得する。その上で、国内外で地域社会の再生に向け取り組み活躍している人物や営利・非営利組織について調べ、今後の研究や仕事に活用する力を身に付けることができる。学生自身、「自分の生まれ育った地域」の課題や現状を調べ、自ら考え問題解決の方法などを考えることを目指す。						
授業概要	「地域再生」をテーマに、日本だけでなく海外の地域社会が直面している課題や再生に向けた取り組みなどについて理解を深める。具体的には、工業化－都市化型の市場経済が拡張する一方で、地域が過疎化、少子高齢化、耕作放棄地の拡大、文化遺産・伝統文化の衰退などに直面している原因を探り、これらの課題に対する政府の役割、地域社会の取り組みなどについて一緒に考える。そこで発見した課題や問題を整理し、若者世代がこれらの問題とどう向き合い、どのように解決していけば良いのか一緒に考える。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	学習態度（20％）、プレゼンテーション（30％）、持ち帰り試験（50％）として、これらを総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験（400字×8枚以上）のレポートを提出しなければ単位の認定はしないので要注意のこと。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週水曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	人と地域の社会学の概括					大下 朋子	
第2回	動揺する地域社会－人間生活を問い直す－					大下 朋子	
第3回	グローバル化とローカル化					大下 朋子	
第4回	工業社会から情報社会への転換					大下 朋子	
第5回	非市場主義の地域再生－ヨーロッパの事例－					大下 朋子	
第6回	環境と文化による地域再生					大下 朋子	
第7回	市場主義にもとづく地域再生の失敗－アメリカや日本の事例－					大下 朋子	
第8回	人間の生活の場を創造する地域社会					大下 朋子	
第9回	食-職-福祉-環境をつなぐ地域再生の取り組み①					大下 朋子	
第10回	食-職-福祉-環境をつなぐ地域再生の取り組み②					大下 朋子	
第11回	地方の衰退×社会貢献志向					大下 朋子	
第12回	子どもの減少×保育所不足					大下 朋子	

第 1 3 回	放置された施設×非日常空間への欲求	大下 朋子	
第 1 4 回	ローカル食×食の安全問題	大下 朋子	
第 1 5 回	広大な土地と自然×ツーリズム産業	大下 朋子	
第 1 6 回	単位認定試験（プレゼンテーション／レポート試験）	大下 朋子	
教科書			
教・書籍名 1	毎回レジュメを配布するが、テキストは講義内容により随時指定する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	地域再生の経済学―豊かさを問い直す―	参・出版社名 1	中公新書
参・著者名 1	神野直彦	参・ I S B N 1	4-12-101657-2 C1233
参・書籍名 2	脱成長の地域再生	参・出版社名 2	NTT出版
参・著者名 2	神野直彦・高橋伸彰	参・ I S B N 2	978-4-7571-4259-6 C0031

授業科目名	異文化理解			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-608		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	5. ジェンダー平等を実現しよう／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	テーマ：異文化を受信し、日本文化を発信することで、多文化共生の生き方をさぐる。 到達目標：人、モノ、おカネ、情報が自由に世界を飛び回る時代。日本と異なる文化への理解が避けて通れない。同時に日本的なものを世界に伝えないと日本は世界の中で埋没する。自分自身の考えを常に国際社会の中でとらえ、判断できるようにすることを到達目標とする。その必要なスキルを獲得する。						
授業概要	グローバル化によって世界はフラットになったと言われる。しかし、一方では各地の地域紛争、民族間の対立は深まるばかりだ。異文化理解がいかに難しいか、そして大切な事例をあげて研究する。欧米文化の普遍性、中国の価値観、イスラムとの共生などについて、グループ討論、各自の意見のプレゼンテーションなどを交えながら、参加型学習で進める。 15回の授業において、コミュニケーションストラテジー、待遇・敬意表現、言語・非言語行動、異文化間教育、異文化コミュニケーション、コミュニケーション教育に関して概念を講義すると共に、参加型学習で理解を深める。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	授業への参加度（30％）、プレゼンテーション（30％）、最終レポートの成績（40％）による総合評価						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	個人発表、グループ発表の後に、講評を行いフィードバックする。						
履修条件・注意事項	ワールドニュースを必ず観ること。毎週、世界で起こっていることに関して、各自発表する。 本科目は日本語教員養成コースの必修科目であり、本コースの取得を目指す者は必ず履修しなければならない。						
実務経験のある教員	該当する	内容	本講義の担当教員は、米国に通算2ヶ年留学し、国際協力機構JICAで長年勤務し、その間、コートジボアール日本大使館、JICAケニア事務所、フランスにある国際機関OECDに勤務した経験があるほか、多くの外国要人の接遇経験もある。そのため、多くの異文化経験を体験している。 これらの経験は、講義、ディスカッションなどの際、共有することにより、内容をリアリティあるものとする。				
事前学習・事後学習とその時間	各週の国際ニュースについて、ウォッチする。 参考図書などを読んで特定テーマに関し調べることなど、授業1回当たり、事前学習1時間、復習1時間の自己学修を必要とする。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室において、金曜日4限目をオフィスアワーとします。						
授業計画						担当者	
第1回	異文化を理解する					畝	
第2回	文化とは（その1）					畝	
第3回	文化とは（その2）					畝	
第4回	異文化適応					畝	
第5回	異文化シミュレーション					外部講師、畝	
第6回	違いに気づく					畝	
第7回	異文化の認識					畝	

第 8 回	差別を考える	畝	
第 9 回	異文化トレーニング	外部講師、畝	
第 1 0 回	世界の価値観	畝	
第 1 1 回	異文化受容	畝	
第 1 2 回	自分を知る	畝	
第 1 3 回	非言語コミュニケーション	畝	
第 1 4 回	アサーティブ・コミュニケーション	畝	
第 1 5 回	多文化共生社会の実現に向けて	畝	
第 1 6 回	最終試験（レポート）	畝	
教科書			
教・書籍名 1	資料を作成し、学生に配布	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	①異文化理解 ②文明の衝突 ③異文化は面白い	参・出版社名 1	①岩波新書 ②集英社 ③講談社
参・著者名 1	①青木保著 ②サミュエル・ハンチントン著 ③選書メチエ編集部編	参・ I S B N 1	①ISBN4-00-430740-6 ②ISBN4-08-773292-4 ③ISBN4-06-258227-9
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	インターンシップⅠ			担当者	大下 浩司			
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-701			
必修・選択	選択（留学生は必修）	単位数	2単位		時間数	60時間	授業形態	実習
年次	2年		開講期	2022年度春学期			曜日・時限	実習
ディプロマポリシー対応項目								
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	○	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	○	
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任 							
到達目標	就業体験を通じて社会人に向けての自己啓発力と自己教育力を養うことをテーマとして、企業が大学生に求める前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力を身につけることを到達目標とする。							
授業概要	本学が協定を結んでいるD-INTERNSHIPの龍の仕事展に参加し、企業スタッフとなって企業文化展の会場で企業PRや物販を行う。この龍の仕事展でのインターンシップを通じて、地元を代表とする企業を知り、企業を通して地域の文化や歴史・風土を理解すると共に、地域戦略の思考を学び、社会人に求められる自己啓発力や自己教育力を育てる。							
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習							
評価方法と割合	実習先の担当者による評価（80%）と事前事後指導の評価（20%）をもとに評定する。							
ルーブリック評価	無し							
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。							
履修条件・注意事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は予め連絡すること。他の受講生らが迷惑に感じる言動は控えること。 なお、留学生は、日本語能力試験N2以上の取得を本科目の履修条件とする。							
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、地元企業において実務経験をもつ実習先の担当者が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。					
事前学習・事後学習とその時間	事前指導・実習・事後指導において適宜課題を提示するので、必要な時間数を確保し課題に取り組むこと。							
オフィスアワー	個人研究室にて金曜日3限に実施。							
授業計画							担当者	
第1回	事前指導（担当者：大下浩司）							
第2回	実習中の心構え等について指導する。							
第3回	実習（担当者：実習先の担当者）							
第4回	D-INTERNSHIPの実習担当者から指導を受ける。毎日の学修内容を実習ノートに記録し、実習後提出する。							
第5回	事後指導（担当者：大下浩司）							
第6回	受講者が実習内容を自己点検・自己評価し改善策を考え実習報告書にまとめ、提出する。報告会にて発表する。							
第7回	実習先と実習期間							
第8回	龍の仕事展をインターンシップとして提供するD-INTERNSHIPのプログラムによる。							
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
第16回								
第17回								
第18回								

第 1 9 回		
第 2 0 回		
第 2 1 回		
第 2 2 回		
第 2 3 回		
第 2 4 回		
第 2 5 回		
第 2 6 回		
第 2 7 回		
第 2 8 回		
第 2 9 回		
第 3 0 回		
第 3 1 回		
第 3 2 回		

教科書			
教・書籍名 1	実習ノートおよび資料を配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	インターンシップⅡ			担当者	大下 浩司			
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-702			
必修・選択	選択（留学生は必修）	単位数	1単位		時間数	30時間	授業形態	実習
年次	2年		開講期	2022年度春学期			曜日・時限	実習
ディプロマポリシー対応項目								
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	○	
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も / 11. 住み続けられるまちづくりを / 12. つくる責任・つかう責任 							
到達目標	就業体験を通じて社会人に向けての自己啓発力と自己教育力を養うことをテーマとして、企業が大学生に求める前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力を身につけることを到達目標とする。							
授業概要	本学が協定を結んでいるD-INTERNSHIPの龍の仕事展に参加し、企業スタッフとなって企業文化展の会場で企業PRや物販を行う。この龍の仕事展でのインターンシップを通じて、地元を代表とする企業を知り、企業を通して地域の文化や歴史・風土を理解すると共に、地域戦略の思考を学び、社会人に求められる自己啓発力や自己教育力を育てる。							
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習							
評価方法と割合	実習先の担当者による評価（80%）と事前事後指導の評価（20%）をもとに評定する。							
ルーブリック評価	無し							
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。							
履修条件・注意事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は予め連絡すること。他の受講生らが迷惑に感じる言動は控えること。 なお、留学生は、日本語能力試験N 2 以上の取得を本科目の履修条件とする。							
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、地元企業において実務経験をもつ実習先の担当者が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。					
事前学習・事後学習とその時間	事前指導・実習・事後指導において適宜課題を提示するので、必要な時間数を確保し課題に取り組むこと。							
オフィスアワー	個人研究室にて金曜日 3 限に実施。							
授業計画							担当者	
第 1 回	事前指導（担当者：大下浩司）							
第 2 回	実習中の心構え等について指導する。							
第 3 回	実習（担当者：実習先の担当者）							
第 4 回	D-INTERNSHIPの実習担当者から指導を受ける。毎日の学修内容を実習ノートに記録し、実習後提出する。							
第 5 回	事後指導（担当者：大下浩司）							
第 6 回	受講者が実習内容を自己点検・自己評価し改善策を考え実習報告書にまとめ、提出する。報告会にて発表する。							
第 7 回	実習先と実習期間							
第 8 回	龍の仕事展をインターンシップとして提供するD-INTERNSHIPのプログラムによる。							
第 9 回								
第 1 0 回								
第 1 1 回								
第 1 2 回								
第 1 3 回								
第 1 4 回								
第 1 5 回								
第 1 6 回								
教科書								
教・書籍名 1	実習ノートおよび資料を配布する。					教・出版社名 1		

教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	インターンシップⅢ			担当者	大下 浩司		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-703		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	60時間	授業形態	実習
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	実習
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任 						
到達目標	就業体験を通じて企業が大学生に求めるスキルを身につけることをテーマとして、前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力を養うことを到達目標とする。						
授業概要	本学が協定を結んだ企業・企業団体において就業体験をする。事前指導・実習・事後指導では、前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力の意味を考え解釈し、それらを実践できるように心掛ける。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	実習担当者の評価（80%）と事前事後指導の評価（20%）をもとに評定する。						
ルーブリック評価	無し						
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。						
履修条件・注意事項	インターンシップⅠ・Ⅱの単位修得者のみ履修できる。インターンシップⅢ・Ⅳの履修方法は実習先によって異なる。これについては別途周知する。指定されたスケジュールに遅刻・欠席することなく出席すること。課題の提出は締め切りの期日を守る。受講態度によっては中断することもある。 なお、留学生は、日本語能力試験N2以上の取得を本科目の履修条件とする。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、企業において実務経験をもつ実習先の担当者が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	事前指導・実習・事後指導において適宜課題を提示するので、必要な時間数を確保し課題に取り組むこと。						
オフィスアワー	個人研究室にて金曜日3限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	事前指導（担当者：大下浩司）						
第2回	受講生の興味や適性に基づき実習先を決定し、受講生自らが実習先の企業について調べる。						
第3回	実習中の心構え等についても指導する。						
第4回	実習（担当者：実習先の担当者）						
第5回	実習先の担当者から指導を受ける。毎日の学修内容を実習ノートに記録し、実習後提出する。						
第6回	事後指導（担当者：大下浩司）						
第7回	受講者が実習内容を自己点検・自己評価し改善策を考え実習報告書にまとめ、提出する。報告会にて発表する。						
第8回	実習先と実習期間						
第9回	実習先は本学が協定を結んだ企業・企業団体とする。						
第10回	インターンシップⅢ・Ⅳは倉敷路地市庭または協定企業における10日間の実習とする。						
第11回	インターンシップⅢのみの履修は協定企業5日間の実習とする。						
第12回							
第13回							
第14回							
第15回							
第16回							
第17回							
第18回							
第19回							
第20回							

第 2 1 回		
第 2 2 回		
第 2 3 回		
第 2 4 回		
第 2 5 回		
第 2 6 回		
第 2 7 回		
第 2 8 回		
第 2 9 回		
第 3 0 回		
第 3 1 回		
第 3 2 回		
教科書		
教・書籍名 1	実習ノートおよび資料を配布する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ I S B N 2

授業科目名	インターンシップⅣ				担当者	大下 浩司		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年				ナンバリング	FS-FS-3-704		
必修・選択	選択	単位数	1単位		時間数	30時間	授業形態	実習
年次	3年		開講期	2022年度春学期			曜日・時限	実習
ディプロマポリシー対応項目								
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	○	
SDGs 関連項目	8 働きがいも経済成長も 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任、つかう責任							
到達目標	就業体験を通じて企業が大学生に求めるスキルを身につけることをテーマとして、前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力を養うことを到達目標とする。							
授業概要	本学が協定を結んだ企業・企業団体において就業体験をする。事前指導・実習・事後指導では、前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力の意味を考え解釈し、それらを実践できるように心掛ける。							
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習							
評価方法と割合	実習担当者の評価（80％）と事前事後指導の評価（20％）をもとに評定する。							
ルーブリック評価	無し							
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。							
履修条件・注意事項	インターンシップⅠ・Ⅱの単位修得者のみ履修できる。インターンシップⅢ・Ⅳの履修方法は実習先によって異なる。これについては別途周知する。指定されたスケジュールに遅刻・欠席することなく出席すること。課題の提出は締め切りの期日を守る。受講態度によっては中断することもある。 なお、留学生は、日本語能力試験N2以上の取得を本科目の履修条件とする。							
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、企業において実務経験をもつ実習先の担当者が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。					
事前学習・事後学習とその時間	事前指導・実習・事後指導において適宜課題を提示するので、必要な時間数を確保し課題に取り組むこと。							
オフィスアワー	個人研究室にて金曜日3限に実施。							
授業計画							担当者	
第1回	事前指導（担当者：大下浩司）							
第2回	受講生の興味や適性に基づき実習先を決定し、受講生自らが実習先の企業について調べる。							
第3回	実習中の心構え等についても指導する。							
第4回	実習（担当者：実習先の担当者）							
第5回	実習先の担当者から指導を受ける。毎日の学修内容を実習ノートに記録し、実習後提出する。							
第6回	事後指導（担当者：大下浩司）							
第7回	受講者が実習内容を自己点検・自己評価し改善策を考え実習報告書にまとめ、提出する。報告会にて発表する。							
第8回	実習先と実習期間							
第9回	実習先は本学が協定を結んだ企業・企業団体とする。							
第10回	インターンシップⅢ・Ⅳは倉敷路地市庭または協定企業における10日間の実習とする。							
第11回	インターンシップⅢのみの履修は協定企業5日間の実習とする。							
第12回								
第13回								
第14回								
第15回								
第16回								
教科書								
教・書籍名1	実習ノートおよび資料を配布する。					教・出版社名1		
教・著者名1						教・ISBN1		
教・書籍名2						教・出版社名2		

教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	スタディー・アブロード事前指導			担当者	金沢 真弓、畝 伊智朗、池上 真由美		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-705		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も 						
到達目標	2年次より開講の「スタディー・アブロードⅠ～Ⅳ」に向けての事前準備を行う。 実際に海外留学、インターンシップ、ボランティア、に参加するため必要となる基礎知識、情報、技能を習得する。 そして、十分に留学先・国状、大学や受け入れ先機関を理解し、積極的に留学計画をたて、有意義な留学体験ができるようになる。						
授業概要	留学体験のある本学卒業生、在学生の体験談を聞き、アドバイスをしてもらおう。それによって、留学の意義、魅力を理解し、また、リスク管理を可能にし、安心して出かけられるようになる。また、必要書類、実務的な手続き、海外でのマナー等について理解を深め、留学に備える。 また、異文化理解のための講義、語学研修、リスク管理のシミュレーション、ワークショップによる課題発見、自己理解、留学計画書の作成、報告書の書き方等を習得する。各自の関心のある国に関して、自ら情報収集し、クラスで発表する。事前準備を徹底し、楽しんで留学に出かけられる体制を整える。 その後留学先を決定し、スタディー・アブロードⅠⅡにつなげるべく個人対応を行う。 授業は一方的な講義が中心ではなく、学生自身が能動的な活動を求める参加型学習を織り込む。アクティブ・ラーニング（AL）を組み込んでいる。授業回により異なるが、グループ・ディスカッション、発表、リサーチ、プロファイル作成など多種多様なALを活用し、事前準備の深化を図る。 交換留学をするためには、TOEIC450点以上が求められるため、留学前にTOEIC450点をクリアすることを目標に掲げている。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	積極的な授業参加態度(20%)、授業記録(20%)、受講生のプレゼンテーション(30%)、留学計画書（30%）により評価を行う						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎授業のポートフォリオに、授業、他学生の発表・作品への感想、意見、授業の所感を書いてもらっている。留学準備計画書の案を提出してもらったり、My Profileを作成し提出してもらっている。ポートフォリオに関しては、毎回、担当教員がコメントを書き、フィードバックを行う。My Profileや留学計画の発表に関しては、学生からの質問、コメントを勧奨している。						
履修条件・注意事項	・語学や、異文化理解、現地での計画を立てられるように、自分でも積極的に情報収集する。そして自分の調べたこと、留学、インターンシップ、ボランティア計画について発表する。 ・毎回ポートフォリオ用紙に記入し提出し、留学前ポートフォリオを完成させていく。 ・授業中しっかり聞き理解を深め、書き留め、留学前ポートフォリオ完成を目指す。						
実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員3名は、学生時代、米国への長期留学を経験しているのみならず、その後も、海外からの留学生、研修生、研修団などの受け入れ経験が豊富である。 これらの経験を、講義並びにワークをする際、情報共有し、内容にリアリティを持たせる。 留学ガイドブックやウェブ情報からは知れないTipsを学生に共有できる。				
事前学習・事後学習とその時間	予習として60分程度かけて毎回の授業内容を確認し、それに関する情報収集をし、質問を準備しておく。 復習として、60分程度かけて毎回の内容の理解度を確認し、ポートフォリオを確認しておく。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日4限目をオフィスアワーにします。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション、受け入れ先、事前準備						池上、金沢、畝
第2回	留学ワークショップ						池上、金沢、畝

第 3 回	留学体験談と質疑応答	池上、金沢、畝
第 4 回	職業調べ	池上、金沢、畝
第 5 回	留学フェア	池上、金沢、畝
第 6 回	語学力アップの方略	池上、金沢、畝
第 7 回	My Profile作り	池上、金沢、畝
第 8 回	留学先の決定	池上、金沢、畝
第 9 回	留学準備計画の立案・発表準備①	池上、金沢、畝
第 1 0 回	留学準備計画の立案・発表準備②	池上、金沢、畝
第 1 1 回	学生による発表①	池上、金沢、畝
第 1 2 回	学生による発表②	池上、金沢、畝
第 1 3 回	学生による発表③	池上、金沢、畝
第 1 4 回	学生による発表④	池上、金沢、畝
第 1 5 回	学生による発表⑤	池上、金沢、畝
第 1 6 回	リスクマネジメント、2 年生に向けて	池上、金沢、畝

教科書

教・書籍名 1	適宜印刷物を配付 初回授業で配付する「ポートフォリオファイル」を毎回必ず持参のこと。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	スタディー・アブロードⅠ 春学期出発			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-706		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	120	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	実習
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	「外国で学修活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、本国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、次のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。						
授業概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間（120時間）以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動＋実践活動」プランにそって実習する。 コロナ禍の情勢によっては、感染症危険度が下がらず、物理的に留学することができない事態もありえる。その場合は、教育提携校のオンライン授業を受講することにより、本科目の単位を認定することもある。いわゆる「オンライン留学」である。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、事前指導において、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告および実習ノート（毎週提出するポートフォリオ）によって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。所定の活動時間の達成（30％）、実習ノート（ポートフォリオの提出・内容）（30％）、事前・事後指導（10％）、報告書・プレゼンテーション（20％）、特別配慮加算・減算（△10％～10％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎週提出される実習ノート（ポートフォリオ）については、担当指導教員が読み、コメント欄にコメントなどを記載し、フィードバックを行う。実習の成果は、留学報告会において発表を行い、関係教員並びに学生から、質問、コメントを行うことにより、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	履修条件は、「スタディー・アブロード事前指導」に合格し、世界標準の英語力テスト（TOEIC、TOEFL、IELTSのいずれか）を受験していることである。なお、120時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	受け入れ先のプログラムに従う。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日4限目をオフィスアワーにします。						
授業計画						担当者	
第1回	The host institution, location, and locality					NA	
第2回	Living conditions					NA	
第3回	Language: local English vs your English					NA	
第4回	Safety: possible emergencies and your response					NA	

第 5 回	Health: water, food, medicine, disease	NA
第 6 回	Money: cost of living, common sense, and etiquette	NA
第 7 回	Nature, weather, insects, animals	NA
第 8 回	Transport: public and private, traffic	NA
第 9 回	Local culture, art and history	NA
第 1 0 回	Everyday customs	NA
第 1 1 回	Social relationships and interaction, gender, age, equality	NA
第 1 2 回	Values: norms, morality, religious taboos	NA
第 1 3 回	Communicating about Japan - How is Japan viewed by ordinary people?	NA
第 1 4 回	When in Rome - The travellers responsibilities	NA
第 1 5 回	What you have learned and message to Japan	NA
第 1 6 回	留学先の状況に応じて、以上の内容を学び活動する。	NA
第 1 7 回	Ditto	NA
第 1 8 回	Ditto	NA
第 1 9 回	Ditto	NA
第 2 0 回	Ditto	NA
第 2 1 回	Ditto	NA
第 2 2 回	Ditto	NA
第 2 3 回	Ditto	NA
第 2 4 回	Ditto	NA
第 2 5 回	Ditto	NA
第 2 6 回	Ditto	NA
第 2 7 回	Ditto	NA
第 2 8 回	Ditto	NA
第 2 9 回	Ditto	NA
第 3 0 回	Ditto	NA
第 3 1 回	Ditto	NA
第 3 2 回	Ditto	NA

教科書

教・書籍名 1	受け入れ先のプログラムに従う。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	スタディー・アブロードⅠ 秋学期出発			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-706		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	120	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	実習
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	「外国で学修活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、本国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、次のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。						
授業概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間（120時間）以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動＋実践活動」プランにそって実習する。 コロナ禍の情勢によっては、感染症危険度が下がらず、物理的に留学することができない事態もありえる。その場合は、教育提携校のオンライン授業を受講することにより、本科目の単位を認定することもある。いわゆる「オンライン留学」である。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、事前指導において、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告および実習ノート（毎週提出するポートフォリオ）によって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。所定の活動時間の達成（30％）、実習ノート（ポートフォリオの提出・内容）（30％）、事前・事後指導（10％）、報告書・プレゼンテーション（20％）、特別配慮加算・減算（△10％～10％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎週提出される実習ノート（ポートフォリオ）については、担当指導教員が読み、コメント欄にコメントなどを記載し、フィードバックを行う。実習の成果は、留学報告会において発表を行い、関係教員並びに学生から、質問、コメントを行うことにより、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	履修条件は、「スタディー・アブロード事前指導」に合格し、世界標準の英語力テスト（TOEIC、TOEFL、IELTSのいずれか）を受験していることである。なお、120時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	受け入れ先のプログラムに従う。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日4限目をオフィスアワーにします。						
授業計画						担当者	
第1回	The host institution, location, and locality					NA	
第2回	Living conditions					NA	
第3回	Language: local English vs your English					NA	
第4回	Safety: possible emergencies and your response					NA	

第 5 回	Health: water, food, medicine, disease	NA
第 6 回	Money: cost of living, common sense, and etiquette	NA
第 7 回	Nature, weather, insects, animals	NA
第 8 回	Transport: public and private, traffic	NA
第 9 回	Local culture, art and history	NA
第 1 0 回	Everyday customs	NA
第 1 1 回	Social relationships and interaction, gender, age, equality	NA
第 1 2 回	Values: norms, morality, religious taboos	NA
第 1 3 回	Communicating about Japan - How is Japan viewed by ordinary people?	NA
第 1 4 回	When in Rome - The travellers responsibilities	NA
第 1 5 回	What you have learned and message to Japan	NA
第 1 6 回	留学先の状況に応じて、以上の内容を学び活動する。	NA
第 1 7 回	Ditto	NA
第 1 8 回	Ditto	NA
第 1 9 回	Ditto	NA
第 2 0 回	Ditto	NA
第 2 1 回	Ditto	NA
第 2 2 回	Ditto	NA
第 2 3 回	Ditto	NA
第 2 4 回	Ditto	NA
第 2 5 回	Ditto	NA
第 2 6 回	Ditto	NA
第 2 7 回	Ditto	NA
第 2 8 回	Ditto	NA
第 2 9 回	Ditto	NA
第 3 0 回	Ditto	NA
第 3 1 回	Ditto	NA
第 3 2 回	Ditto	NA

教科書

教・書籍名 1	受け入れ先のプログラムに従う。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	スタディー・アブロードⅠ 2年次秋学期出発			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-706		
必修・選択	必修	単位数	4単位	時間数	120	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	実習
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	「外国で学修活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、本国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、次のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。						
授業概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間（120時間）以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動＋実践活動」プランにそって実習する。 コロナ禍の情勢によっては、感染症危険度が下がらず、物理的に留学することができない事態もありえる。その場合は、教育提携校のオンライン授業を受講することにより、本科目の単位を認定することもある。いわゆる「オンライン留学」である。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、事前指導において、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告および実習ノート（毎週提出するポートフォリオ）によって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。所定の活動時間の達成（30％）、実習ノート（ポートフォリオの提出・内容）（30％）、事前・事後指導（10％）、報告書・プレゼンテーション（20％）、特別配慮加算・減算（△10％～10％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎週提出される実習ノート（ポートフォリオ）については、担当指導教員が読み、コメント欄にコメントなどを記載し、フィードバックを行う。実習の成果は、留学報告会において発表を行い、関係教員並びに学生から、質問、コメントを行うことにより、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	履修条件は、「スタディー・アブロード事前指導」に合格し、世界標準の英語力テスト（TOEIC、TOEFL、IELTSのいずれか）を受験していることである。なお、120時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	受け入れ先のプログラムに従う。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日4限目をオフィスアワーにします。						
授業計画						担当者	
第1回	The host institution, location, and locality					NA	
第2回	Living conditions					NA	
第3回	Language: local English vs your English					NA	
第4回	Safety: possible emergencies and your response					NA	

第 5 回	Health: water, food, medicine, disease	NA
第 6 回	Money: cost of living, common sense, and etiquette	NA
第 7 回	Nature, weather, insects, animals	NA
第 8 回	Transport: public and private, traffic	NA
第 9 回	Local culture, art and history	NA
第 1 0 回	Everyday customs	NA
第 1 1 回	Social relationships and interaction, gender, age, equality	NA
第 1 2 回	Values: norms, morality, religious taboos	NA
第 1 3 回	Communicating about Japan - How is Japan viewed by ordinary people?	NA
第 1 4 回	When in Rome - The travellers responsibilities	NA
第 1 5 回	What you have learned and message to Japan	NA
第 1 6 回	留学先の状況に応じて、以上の内容を学び活動する。	NA
第 1 7 回	Ditto	NA
第 1 8 回	Ditto	NA
第 1 9 回	Ditto	NA
第 2 0 回	Ditto	NA
第 2 1 回	Ditto	NA
第 2 2 回	Ditto	NA
第 2 3 回	Ditto	NA
第 2 4 回	Ditto	NA
第 2 5 回	Ditto	NA
第 2 6 回	Ditto	NA
第 2 7 回	Ditto	NA
第 2 8 回	Ditto	NA
第 2 9 回	Ditto	NA
第 3 0 回	Ditto	NA
第 3 1 回	Ditto	NA
第 3 2 回	Ditto	NA

教科書

教・書籍名 1	受け入れ先のプログラムに従う。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	スタディー・アブロードⅡ 春学期出発			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-707		
必修・選択	必修	単位数	6単位	時間数	120	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	実習
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も 16. 平和と公正をすべての人に						
到達目標	「外国で学修活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、本国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、次のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。						
授業概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間（120時間）以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動＋実践活動」プランにそって実習する。 コロナ禍の情勢によっては、感染症危険度が下がり、物理的に留学することができない事態もありえる。その場合は、教育提携校のオンライン授業を受講することにより、本科目の単位を認定することもある。いわゆる「オンライン留学」である。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、事前指導において、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告および実習ノート（毎週提出するポートフォリオ）によって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。所定の活動時間の達成（30％）、実習ノート（ポートフォリオの提出・内容）（30％）、事前・事後指導（10％）、報告書・プレゼンテーション（20％）、特別配慮加算・減算（△10％～10％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎週提出される実習ノート（ポートフォリオ）については、担当指導教員が読み、コメント欄にコメントなどを記載し、フィードバックを行う。実習の成果は、留学報告会において発表を行い、関係教員並びに学生から、質問、コメントを行うことにより、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	履修条件は、「スタディー・アブロード事前指導」に合格し、世界標準の英語力テスト（TOEIC、TOEFL、IELTSのいずれか）を受験していることである。なお、120時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	受け入れ先のプログラムに従う。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日4限目をオフィスアワーにします。						
授業計画						担当者	
第1回	The host institution, location, and locality						NA
第2回	Living conditions						NA
第3回	Language: local English vs your English						NA
第4回	Safety: possible emergencies and your response						NA

第 5 回	Health: water, food, medicine, disease	NA
第 6 回	Money: cost of living, common sense, and etiquette	NA
第 7 回	Nature, weather, insects, animals	NA
第 8 回	Transport: public and private, traffic	NA
第 9 回	Local culture, art and history	NA
第 1 0 回	Everyday customs	NA
第 1 1 回	Social relationships and interaction, gender, age, equality	NA
第 1 2 回	Values: norms, morality, religious taboos	NA
第 1 3 回	Communicating about Japan - How is Japan viewed by ordinary people?	NA
第 1 4 回	When in Rome - The travellers responsibilities	NA
第 1 5 回	What you have learned and message to Japan	NA
第 1 6 回	留学先の状況に応じて、以上の内容を学び活動する。	NA
第 1 7 回	Ditto	NA
第 1 8 回	Ditto	NA
第 1 9 回	Ditto	NA
第 2 0 回	Ditto	NA
第 2 1 回	Ditto	NA
第 2 2 回	Ditto	NA
第 2 3 回	Ditto	NA
第 2 4 回	Ditto	NA
第 2 5 回	Ditto	NA
第 2 6 回	Ditto	NA
第 2 7 回	Ditto	NA
第 2 8 回	Ditto	NA
第 2 9 回	Ditto	NA
第 3 0 回	Ditto	NA
第 3 1 回	Ditto	NA
第 3 2 回	Ditto	NA

教科書

教・書籍名 1	受け入れ先のプログラムに従う。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	スタディー・アブロードⅡ 秋学期出発			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-707		
必修・選択	必修	単位数	6単位	時間数	180	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	実習
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	「外国で学修活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、本国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、次のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。						
授業概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間（180時間）以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動＋実践活動」プランにそって実習する。 コロナ禍の情勢によっては、感染症危険度が下がらず、物理的に留学することができない事態もありえる。その場合は、教育提携校のオンライン授業を受講することにより、本科目の単位を認定することもある。いわゆる「オンライン留学」である。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、事前指導において、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告および実習ノート（毎週提出するポートフォリオ）によって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。所定の活動時間の達成（30％）、実習ノート（ポートフォリオの提出・内容）（30％）、事前・事後指導（10％）、報告書・プレゼンテーション（20％）、特別配慮加算・減算（△10％～10％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎週提出される実習ノート（ポートフォリオ）については、担当指導教員が読み、コメント欄にコメントなどを記載し、フィードバックを行う。実習の成果は、留学報告会において発表を行い、関係教員並びに学生から、質問、コメントを行うことにより、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	履修条件は、「スタディー・アブロード事前指導」に合格し、世界標準の英語力テスト（TOEIC、TOEFL、IELTSのいずれか）を受験していることである。なお、120時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	受け入れ先のプログラムに従う。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日4限目をオフィスアワーにします。						
授業計画						担当者	
第1回	The host institution, location, and locality					NA	
第2回	Living conditions					NA	
第3回	Language: local English vs your English					NA	
第4回	Safety: possible emergencies and your response					NA	

第 5 回	Health: water, food, medicine, disease	NA
第 6 回	Money: cost of living, common sense, and etiquette	NA
第 7 回	Nature, weather, insects, animals	NA
第 8 回	Transport: public and private, traffic	NA
第 9 回	Local culture, art and history	NA
第 1 0 回	Everyday customs	NA
第 1 1 回	Social relationships and interaction, gender, age, equality	NA
第 1 2 回	Values: norms, morality, religious taboos	NA
第 1 3 回	Communicating about Japan - How is Japan viewed by ordinary people?	NA
第 1 4 回	When in Rome - The travellers responsibilities	NA
第 1 5 回	What you have learned and message to Japan	NA
第 1 6 回	留学先の状況に応じて、以上の内容を学び活動する。	NA
第 1 7 回	Ditto	NA
第 1 8 回	Ditto	NA
第 1 9 回	Ditto	NA
第 2 0 回	Ditto	NA
第 2 1 回	Ditto	NA
第 2 2 回	Ditto	NA
第 2 3 回	Ditto	NA
第 2 4 回	Ditto	NA
第 2 5 回	Ditto	NA
第 2 6 回	Ditto	NA
第 2 7 回	Ditto	NA
第 2 8 回	Ditto	NA
第 2 9 回	Ditto	NA
第 3 0 回	Ditto	NA
第 3 1 回	Ditto	NA
第 3 2 回	Ditto	NA

教科書

教・書籍名 1	受け入れ先のプログラムに従う。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	スタディー・アブロードⅡ 2年次秋学期出発			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-707		
必修・選択	必修	単位数	6単位	時間数	180	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	実習
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	「外国で学修活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、本国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、次のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。						
授業概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間（180時間）以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動＋実践活動」プランにそって実習する。 コロナ禍の情勢によっては、感染症危険度が下がらず、物理的に留学することができない事態もありえる。その場合は、教育提携校のオンライン授業を受講することにより、本科目の単位を認定することもある。いわゆる「オンライン留学」である。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、事前指導において、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告および実習ノート（毎週提出するポートフォリオ）によって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。所定の活動時間の達成（30％）、実習ノート（ポートフォリオの提出・内容）（30％）、事前・事後指導（10％）、報告書・プレゼンテーション（20％）、特別配慮加算・減算（△10％～10％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎週提出される実習ノート（ポートフォリオ）については、担当指導教員が読み、コメント欄にコメントなどを記載し、フィードバックを行う。実習の成果は、留学報告会において発表を行い、関係教員並びに学生から、質問、コメントを行うことにより、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	履修条件は、「スタディー・アブロード事前指導」に合格し、世界標準の英語力テスト（TOEIC、TOEFL、IELTSのいずれか）を受験していることである。なお、120時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	受け入れ先のプログラムに従う。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日4限目をオフィスアワーにします。						
授業計画						担当者	
第1回	The host institution, location, and locality					NA	
第2回	Living conditions					NA	
第3回	Language: local English vs your English					NA	
第4回	Safety: possible emergencies and your response					NA	

第 5 回	Health: water, food, medicine, disease	NA
第 6 回	Money: cost of living, common sense, and etiquette	NA
第 7 回	Nature, weather, insects, animals	NA
第 8 回	Transport: public and private, traffic	NA
第 9 回	Local culture, art and history	NA
第 1 0 回	Everyday customs	NA
第 1 1 回	Social relationships and interaction, gender, age, equality	NA
第 1 2 回	Values: norms, morality, religious taboos	NA
第 1 3 回	Communicating about Japan - How is Japan viewed by ordinary people?	NA
第 1 4 回	When in Rome - The travellers responsibilities	NA
第 1 5 回	What you have learned and message to Japan	NA
第 1 6 回	留学先の状況に応じて、以上の内容を学び活動する。	NA
第 1 7 回	Ditto	NA
第 1 8 回	Ditto	NA
第 1 9 回	Ditto	NA
第 2 0 回	Ditto	NA
第 2 1 回	Ditto	NA
第 2 2 回	Ditto	NA
第 2 3 回	Ditto	NA
第 2 4 回	Ditto	NA
第 2 5 回	Ditto	NA
第 2 6 回	Ditto	NA
第 2 7 回	Ditto	NA
第 2 8 回	Ditto	NA
第 2 9 回	Ditto	NA
第 3 0 回	Ditto	NA
第 3 1 回	Ditto	NA
第 3 2 回	Ditto	NA

教科書

教・書籍名 1	受け入れ先のプログラムに従う。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	スタディー・アブロードⅢ 春学期出発			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-708		
必修・選択	必修	単位数	6単位	時間数	120	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	実習
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	「外国で学修活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、本国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、次のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。						
授業概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間（120時間）以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動＋実践活動」プランにそって実習する。 コロナ禍の情勢によっては、感染症危険度が下がらず、物理的に留学することができない事態もありえる。その場合は、教育提携校のオンライン授業を受講することにより、本科目の単位を認定することもある。いわゆる「オンライン留学」である。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、事前指導において、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告および実習ノート（毎週提出するポートフォリオ）によって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。所定の活動時間の達成（30％）、実習ノート（ポートフォリオの提出・内容）（30％）、事前・事後指導（10％）、報告書・プレゼンテーション（20％）、特別配慮加算・減算（△10％～10％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎週提出される実習ノート（ポートフォリオ）については、担当指導教員が読み、コメント欄にコメントなどを記載し、フィードバックを行う。実習の成果は、留学報告会において発表を行い、関係教員並びに学生から、質問、コメントを行うことにより、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	履修条件は、「スタディー・アブロード事前指導」に合格し、世界標準の英語力テスト（TOEIC、TOEFL、IELTSのいずれか）を受験していることである。なお、120時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	受け入れ先のプログラムに従う。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日4限目をオフィスアワーにします。						
授業計画						担当者	
第1回	The host institution, location, and locality					NA	
第2回	Living conditions					NA	
第3回	Language: local English vs your English					NA	
第4回	Safety: possible emergencies and your response					NA	

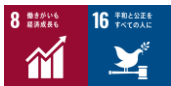
第 5 回	Health: water, food, medicine, disease	NA
第 6 回	Money: cost of living, common sense, and etiquette	NA
第 7 回	Nature, weather, insects, animals	NA
第 8 回	Transport: public and private, traffic	NA
第 9 回	Local culture, art and history	NA
第 1 0 回	Everyday customs	NA
第 1 1 回	Social relationships and interaction, gender, age, equality	NA
第 1 2 回	Values: norms, morality, religious taboos	NA
第 1 3 回	Communicating about Japan - How is Japan viewed by ordinary people?	NA
第 1 4 回	When in Rome - The travellers responsibilities	NA
第 1 5 回	What you have learned and message to Japan	NA
第 1 6 回	留学先の状況に応じて、以上の内容を学び活動する。	NA
第 1 7 回	Ditto	NA
第 1 8 回	Ditto	NA
第 1 9 回	Ditto	NA
第 2 0 回	Ditto	NA
第 2 1 回	Ditto	NA
第 2 2 回	Ditto	NA
第 2 3 回	Ditto	NA
第 2 4 回	Ditto	NA
第 2 5 回	Ditto	NA
第 2 6 回	Ditto	NA
第 2 7 回	Ditto	NA
第 2 8 回	Ditto	NA
第 2 9 回	Ditto	NA
第 3 0 回	Ditto	NA
第 3 1 回	Ditto	NA
第 3 2 回	Ditto	NA

教科書

教・書籍名 1	受け入れ先のプログラムに従う。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	スタディー・アブロードⅢ 秋学期出発			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-708		
必修・選択	必修	単位数	6単位	時間数	180	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	実習
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	「外国で学修活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、本国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、次のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。						
授業概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間（180時間）以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動＋実践活動」プランにそって実習する。 コロナ禍の情勢によっては、感染症危険度が下がらず、物理的に留学することができない事態もありえる。その場合は、教育提携校のオンライン授業を受講することにより、本科目の単位を認定することもある。いわゆる「オンライン留学」である。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、事前指導において、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告および実習ノート（毎週提出するポートフォリオ）によって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。所定の活動時間の達成（30％）、実習ノート（ポートフォリオの提出・内容）（30％）、事前・事後指導（10％）、報告書・プレゼンテーション（20％）、特別配慮加算・減算（△10％～10％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎週提出される実習ノート（ポートフォリオ）については、担当指導教員が読み、コメント欄にコメントなどを記載し、フィードバックを行う。実習の成果は、留学報告会において発表を行い、関係教員並びに学生から、質問、コメントを行うことにより、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	履修条件は、「スタディー・アブロード事前指導」に合格し、世界標準の英語力テスト（TOEIC、TOEFL、IELTSのいずれか）を受験していることである。なお、120時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	受け入れ先のプログラムに従う。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日4限目をオフィスアワーにします。						
授業計画						担当者	
第1回	The host institution, location, and locality					NA	
第2回	Living conditions					NA	
第3回	Language: local English vs your English					NA	
第4回	Safety: possible emergencies and your response					NA	

第 5 回	Health: water, food, medicine, disease	NA
第 6 回	Money: cost of living, common sense, and etiquette	NA
第 7 回	Nature, weather, insects, animals	NA
第 8 回	Transport: public and private, traffic	NA
第 9 回	Local culture, art and history	NA
第 1 0 回	Everyday customs	NA
第 1 1 回	Social relationships and interaction, gender, age, equality	NA
第 1 2 回	Values: norms, morality, religious taboos	NA
第 1 3 回	Communicating about Japan - How is Japan viewed by ordinary people?	NA
第 1 4 回	When in Rome - The travellers responsibilities	NA
第 1 5 回	What you have learned and message to Japan	NA
第 1 6 回	留学先の状況に応じて、以上の内容を学び活動する。	NA
第 1 7 回	Ditto	NA
第 1 8 回	Ditto	NA
第 1 9 回	Ditto	NA
第 2 0 回	Ditto	NA
第 2 1 回	Ditto	NA
第 2 2 回	Ditto	NA
第 2 3 回	Ditto	NA
第 2 4 回	Ditto	NA
第 2 5 回	Ditto	NA
第 2 6 回	Ditto	NA
第 2 7 回	Ditto	NA
第 2 8 回	Ditto	NA
第 2 9 回	Ditto	NA
第 3 0 回	Ditto	NA
第 3 1 回	Ditto	NA
第 3 2 回	Ditto	NA

教科書

教・書籍名 1	受け入れ先のプログラムに従う。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	スタディー・アブロードⅣ 春学期出発			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-709		
必修・選択	必修	単位数	6単位	時間数	120	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	実習
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も / 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	「外国で学修活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、本国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、次のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。						
授業概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間（120時間）以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動+実践活動」プランにそって実習する。 コロナ禍の情勢によっては、感染症危険度が下がらず、物理的に留学することができない事態もありえる。その場合は、教育提携校のオンライン授業を受講することにより、本科目の単位を認定することもある。いわゆる「オンライン留学」である。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、事前指導において、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告および実習ノート（毎週提出するポートフォリオ）によって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。所定の活動時間の達成（30％）、実習ノート（ポートフォリオの提出・内容）（30％）、事前・事後指導（10％）、報告書・プレゼンテーション（20％）、特別配慮加算・減算（△10％～10％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎週提出される実習ノート（ポートフォリオ）については、担当指導教員が読み、コメント欄にコメントなどを記載し、フィードバックを行う。実習の成果は、留学報告会において発表を行い、関係教員並びに学生から、質問、コメントを行うことにより、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	履修条件は、「スタディー・アブロード事前指導」に合格し、世界標準の英語力テスト（TOEIC、TOEFL、IELTSのいずれか）を受験していることである。なお、120時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	受け入れ先のプログラムに従う。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日4限目をオフィスアワーにします。						
授業計画						担当者	
第1回	The host institution, location, and locality					NA	
第2回	Living conditions					NA	
第3回	Language: local English vs your English					NA	
第4回	Safety: possible emergencies and your response					NA	

第 5 回	Health: water, food, medicine, disease	NA
第 6 回	Money: cost of living, common sense, and etiquette	NA
第 7 回	Nature, weather, insects, animals	NA
第 8 回	Transport: public and private, traffic	NA
第 9 回	Local culture, art and history	NA
第 1 0 回	Everyday customs	NA
第 1 1 回	Social relationships and interaction, gender, age, equality	NA
第 1 2 回	Values: norms, morality, religious taboos	NA
第 1 3 回	Communicating about Japan - How is Japan viewed by ordinary people?	NA
第 1 4 回	When in Rome - The travellers responsibilities	NA
第 1 5 回	What you have learned and message to Japan	NA
第 1 6 回	留学先の状況に応じて、以上の内容を学び活動する。	NA
第 1 7 回	Ditto	NA
第 1 8 回	Ditto	NA
第 1 9 回	Ditto	NA
第 2 0 回	Ditto	NA
第 2 1 回	Ditto	NA
第 2 2 回	Ditto	NA
第 2 3 回	Ditto	NA
第 2 4 回	Ditto	NA
第 2 5 回	Ditto	NA
第 2 6 回	Ditto	NA
第 2 7 回	Ditto	NA
第 2 8 回	Ditto	NA
第 2 9 回	Ditto	NA
第 3 0 回	Ditto	NA
第 3 1 回	Ditto	NA
第 3 2 回	Ditto	NA

教科書

教・書籍名 1	受け入れ先のプログラムに従う。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	スタディー・アブロードⅣ 秋学期出発			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-709		
必修・選択	必修	単位数	6単位	時間数	180	授業形態	実習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	実習
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も / 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	「外国で学修活動をしたり、実践活動をしたりする」をテーマとして、本国以外の国で授業を受けたり、様々な活動に参加したりする。到達目標は、次のことができるようになることである。外国人に日本について語れるようになる。実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる。様々な異文化体験を通じて、他者の意見が聞けるようになる。また、国際人としての認識と知見を身につけて、自分の意見が言えるようになる。						
授業概要	本学園と受け入れ合意のできている大学などへ留学し、英語を中心とする外国語学修、インターンシップ、ボランティア、フィールドワーク等の実践活動を行う。6週間（180時間）以上の実習となるが、この授業には、実習前の準備と、実習中・実習後の報告も含まれている。なお、交換留学先や、実践活動の受け入れ先は、世界情勢や相手側の事情により、その年度によって多少変化する。それぞれの受け入れ条件は異なっている。特に英語力は世界標準で明示されているので要注意である。海外で何をやりたいのか、また、留学を将来の生き方や仕事にどう結びつけるのか、一人ひとりが真剣に考えて「学修活動＋実践活動」プランにそって実習する。 コロナ禍の情勢によっては、感染症危険度が下がらず、物理的に留学することができない事態もありえる。その場合は、教育提携校のオンライン授業を受講することにより、本科目の単位を認定することもある。いわゆる「オンライン留学」である。						
アクティブラーニングの内容	実習						
評価方法と割合	「実践活動を自ら立案し、それを実行できるようになる」という目標への到達度について、事前指導において、各学生の積極性を計るための実習計画書で評価する。また、「他者の意見が聞け、自分の意見が言えるようになる」の到達度について、学修・実践活動中の経過報告および実習ノート（毎週提出するポートフォリオ）によって評価する。「外国人に日本について語れるようになる」の到達度について帰国後の報告書・報告会でのプレゼンテーションで評価を行う。所定の活動時間の達成（30％）、実習ノート（ポートフォリオの提出・内容）（30％）、事前・事後指導（10％）、報告書・プレゼンテーション（20％）、特別配慮加算・減算（△10％～10％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎週提出される実習ノート（ポートフォリオ）については、担当指導教員が読み、コメント欄にコメントなどを記載し、フィードバックを行う。実習の成果は、留学報告会において発表を行い、関係教員並びに学生から、質問、コメントを行うことにより、フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	履修条件は、「スタディー・アブロード事前指導」に合格し、世界標準の英語力テスト（TOEIC、TOEFL、IELTSのいずれか）を受験していることである。なお、120時間の学修活動以外に、余暇時間を使って予習・復習を行うものとする。交換留学で英語授業を受ける場合は、予習として、分からない単語・熟語を辞書で調べるのみならず、授業のテーマについて図書館で下調べしておかなければならない。復習としては、授業で出てきた新出語彙・表現や理解できた内容についてノートに整理しておく必要がある。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	受け入れ先のプログラムに従う。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日4限目をオフィスアワーにします。						
授業計画						担当者	
第1回	The host institution, location, and locality					NA	
第2回	Living conditions					NA	
第3回	Language: local English vs your English					NA	
第4回	Safety: possible emergencies and your response					NA	

第 5 回	Health: water, food, medicine, disease	NA
第 6 回	Money: cost of living, common sense, and etiquette	NA
第 7 回	Nature, weather, insects, animals	NA
第 8 回	Transport: public and private, traffic	NA
第 9 回	Local culture, art and history	NA
第 1 0 回	Everyday customs	NA
第 1 1 回	Social relationships and interaction, gender, age, equality	NA
第 1 2 回	Values: norms, morality, religious taboos	NA
第 1 3 回	Communicating about Japan - How is Japan viewed by ordinary people?	NA
第 1 4 回	When in Rome - The travellers responsibilities	NA
第 1 5 回	What you have learned and message to Japan	NA
第 1 6 回	留学先の状況に応じて、以上の内容を学び活動する。	NA
第 1 7 回	Ditto	NA
第 1 8 回	Ditto	NA
第 1 9 回	Ditto	NA
第 2 0 回	Ditto	NA
第 2 1 回	Ditto	NA
第 2 2 回	Ditto	NA
第 2 3 回	Ditto	NA
第 2 4 回	Ditto	NA
第 2 5 回	Ditto	NA
第 2 6 回	Ditto	NA
第 2 7 回	Ditto	NA
第 2 8 回	Ditto	NA
第 2 9 回	Ditto	NA
第 3 0 回	Ditto	NA
第 3 1 回	Ditto	NA
第 3 2 回	Ditto	NA

教科書

教・書籍名 1	受け入れ先のプログラムに従う。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	高木 秀明		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-801		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用	○	DP3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の基礎演習Ⅰでは、大学での学びに必要な基礎力、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。本演習では、講義や人の意見を聞く（聞く力）、本を読む（読む力）自分の意見を整理して話す（話す力）、書く（書く力）、の4つの力を習得する。また知的好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を身につけることができる。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を学ぶと同時に、大学教師や仲間との接し方も学ぶ。						
授業概要	本演習では、まず、「大学での学び」「教養力」とは何かなど、大学での学ぶ姿勢を習得する。また、就職活動に向けてどのような対策が必要なのかについても学ぶ。「聞く」「読む」「話す」「書く」の4つの力は大学生として大切な能力であり、ある程度訓練が必要である。本演習を通して、講義の聴き方とノートの取り方、図書館と利用法、読書の仕方、情報の集め方、レポートの書き方などを心得る。またディスカッションやプレゼンテーションを通して、相手の意見に耳を傾け、自分の意見を整理し話すことも訓練する。基礎演習Ⅰはその入門編と位置づける。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60%）と、積極的・能動的に受講する姿勢やレポート課題の内容（40%）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	基礎演習Ⅰは、皆さんにとって「割り当てられた」科目ですから、担当の先生を自分で選んだわけではありません。ひとまず高校までのクラス担任のよう適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週火曜日4限をオフィスアワーとする。						
授業計画						担当者	
第1回	基礎演習Ⅰの概説					高木	
第2回	学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）					高木	
第3回	大学で学ぶこと・教養力					高木	
第4回	就職対策・キャリア教育について（合同）					高木	
第5回	英語学習方法と英語資格（合同）					金沢	
第6回	中間ふりかえり					高木	
第7回	キャンパスライフの心得「警察における犯罪被害者支援」（合同）					外部講師・池上	
第8回	講義の聴き方とノートの取り方					高木	
第9回	図書館の利用法と読書の仕方					高木	
第10回	情報収集の仕方					高木	
第11回	TOEIC IP練習					金沢	
第12回	レポートの書き方					高木	
第13回	発表の仕方（要旨をつくって発表する）					高木	

第 1 4 回	グループディスカッション	高木	
第 1 5 回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）	高木	
第 1 6 回	単位認定試験	高木	
教科書			
教・書籍名 1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	大下 浩司		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-801		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用	○	DP3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の基礎演習Ⅰでは、大学での学びに必要な基礎力、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。本演習では、講義や人の意見を聞く（聞く力）、本を読む（読む力）自分の意見を整理して話す（話す力）、書く（書く力）、の4つの力を習得する。また知的好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を身につけることができる。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を学ぶと同時に、大学教師や仲間との接し方も学ぶ。						
授業概要	本演習では、まず、「大学での学び」「教養力」とは何かなど、大学での学ぶ姿勢を習得する。また、就職活動に向けてどのような対策が必要なのかについても学ぶ。「聞く」「読む」「話す」「書く」の4つの力は大学生として大切な能力であり、ある程度訓練が必要である。本演習を通して、講義の聴き方とノートの取り方、図書館と利用法、読書の仕方、情報の集め方、レポートの書き方などを心得る。またディスカッションやプレゼンテーションを通して、相手の意見に耳を傾け、自分の意見を整理し話すことも訓練する。基礎演習Ⅰはその入門編と位置づける。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60%）と、積極的・能動的に受講する姿勢やレポート課題の内容（40%）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	基礎演習Ⅰの概説						大下浩司
第2回	学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）						大下浩司
第3回	大学で学ぶこと・教養力						大下浩司
第4回	就職対策・キャリア教育について(合同)						高木
第5回	英語学習方法と英語資格(合同)						金沢
第6回	中間ふりかえり						大下浩司
第7回	キャンパスライフの心得「警察における犯罪被害者支援」(合同)						外部講師・池上
第8回	講義の聴き方とノートの取り方						大下浩司
第9回	図書館の利用法と読書の仕方						大下浩司
第10回	情報収集の仕方						大下浩司
第11回	TOEIC IP練習						金沢
第12回	レポートの書き方						大下浩司
第13回	発表の仕方（要旨をつくって発表する）						大下浩司
第14回	グループディスカッション						大下浩司
第15回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）						大下浩司

第 1 6 回	単位認定試験		大下浩司
教科書			
教・書籍名 1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-801		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	外国学科の基礎演習Ⅰでは、大学での学びに必要な基礎力、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。本演習では、講義や人の意見を聞く（聞く力）、本を読む（読む力）自分の意見を整理して話す（話す力）、書く（書く力）、の4つの力を習得する。また知的好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を身につけることができる。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を学ぶと同時に、大学教師や仲間との接し方も学ぶ。						
授業概要	本演習では、まず、「大学での学び」「教養力」とは何かなど、大学での学ぶ姿勢を習得する。また、就職活動に向けてどのような対策が必要なのかについても学ぶ。「聞く」「読む」「話す」「書く」の4つの力は大学生として大切な能力であり、ある程度訓練が必要である。本演習を通して、講義の聴き方とノートの取り方、図書館と利用法、読書の仕方、情報の集め方、レポートの書き方などを心得る。またディスカッションやプレゼンテーションを通して、相手の意見に耳を傾け、自分の意見を整理し話すことも訓練する。基礎演習Ⅰはその入門編と位置づける。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60%）と、積極的・能動的に受講する姿勢やレポート課題の内容（40%）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週木曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	基礎演習Ⅰの概説					大下(朋)	
第2回	学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）					大下(朋)	
第3回	大学で学ぶこと・教養力					大下(朋)	
第4回	就職対策・キャリア教育について(合同)					高木	
第5回	英語学習方法と英語資格(合同)					金沢	
第6回	中間ふりかえり					大下(朋)	
第7回	キャンパスライフの心得「警察における犯罪被害者支援」(合同)					外部講師・池上	
第8回	講義の聴き方とノートの取り方					大下(朋)	
第9回	図書館の利用法と読書の仕方					大下(朋)	
第10回	情報収集の仕方					大下(朋)	
第11回	TOEIC IP練習					金沢	
第12回	レポートの書き方					大下(朋)	
第13回	発表の仕方（要旨をつくって発表する）					大下(朋)	
第14回	グループディスカッション					大下(朋)	
第15回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）					大下(朋)	

第 1 6 回	単位認定試験		大下(朋)
教科書			
教・書籍名 1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-801		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の基礎演習Ⅰでは、大学での学びに必要な基礎力、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。本演習では、講義や人の意見を聞く（聞く力）、本を読む（読む力）自分の意見を整理して話す（話す力）、書く（書く力）、の4つの力を習得する。また知的好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を身につけることができる。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を学ぶと同時に、大学教師や仲間との接し方も学ぶ。						
授業概要	本演習では、まず、「大学での学び」「教養力」とは何かなど、大学での学ぶ姿勢を習得する。また、就職活動に向けてどのような対策が必要なのかについても学ぶ。「聞く」「読む」「話す」「書く」の4つの力は大学生として大切な能力であり、ある程度訓練が必要である。本演習を通して、講義の聴き方とノートの取り方、図書館と利用法、読書の仕方、情報の集め方、レポートの書き方などを心得る。またディスカッションやプレゼンテーションを通して、相手の意見に耳を傾け、自分の意見を整理し話すことも訓練する。基礎演習Ⅰはその入門編と位置づける。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60%）と、積極的・能動的に受講する姿勢やレポート課題の内容（40%）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日4限をオフィスアワーとする。						
授業計画						担当者	
第1回	基礎演習Ⅰの概説						畝
第2回	学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）						畝
第3回	大学で学ぶこと・教養力						畝
第4回	就職対策・キャリア教育について(合同)						高木、畝
第5回	英語学習方法と英語資格(合同)						金沢、畝
第6回	中間ふりかえり						畝
第7回	キャンパスライフの心得「警察における犯罪被害者支援」(合同)						外部講師・池上、畝
第8回	講義の聴き方とノートの取り方						畝
第9回	図書館の利用法と読書の仕方						畝
第10回	情報収集の仕方						畝
第11回	TOEIC IP練習						金沢、畝
第12回	レポートの書き方						畝
第13回	発表の仕方（要旨をつくって発表する）						畝
第14回	グループディスカッション						畝
第15回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）						畝

第 1 6 回	単位認定試験		畝
教科書			
教・書籍名 1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	池上 真由美		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-801		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用	○	DP3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	外国学科の基礎演習Ⅰでは、大学での学びに必要な基礎力、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。本演習では、講義や人の意見を聞く（聞く力）、本を読む（読む力）自分の意見を整理して話す（話す力）、書く（書く力）、の4つの力を習得する。また知的好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を身につけることができる。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を学ぶと同時に、大学教師や仲間との接し方も学ぶ。						
授業概要	本演習では、まず、「大学での学び」「教養力」とは何かなど、大学での学ぶ姿勢を習得する。また、就職活動に向けてどのような対策が必要なのかについても学ぶ。「聞く」「読む」「話す」「書く」の4つの力は大学生として大切な能力であり、ある程度訓練が必要である。本演習を通して、講義の聴き方とノートの取り方、図書館と利用法、読書の仕方、情報の集め方、レポートの書き方などを心得る。またディスカッションやプレゼンテーションを通して、相手の意見に耳を傾け、自分の意見を整理し話すことも訓練する。基礎演習Ⅰはその入門編と位置づける						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60%）と、積極的・能動的に受講する姿勢やレポート課題の内容（40%）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室112にて、毎週火曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	基礎演習Ⅰの概説						池上
第2回	学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）						池上

第 3 回	大学で学ぶこと・教養力	池上
第 4 回	就職対策・キャリア教育について(合同)	高木
第 5 回	英語学習方法と英語資格(合同)	金沢
第 6 回	中間ふりかえり	池上
第 7 回	キャンパスライフの心得 「警察における犯罪被害者支援」(合同)	外部講師・池上
第 8 回	講義の聴き方とノートを取り方	池上
第 9 回	図書館の利用法と読書の仕方	池上
第 1 0 回	情報収集の仕方	池上
第 1 1 回	TOEIC IP練習	金沢
第 1 2 回	レポートの書き方	池上
第 1 3 回	発表の仕方（要旨をつくって発表する）	池上
第 1 4 回	グループディスカッション	池上
第 1 5 回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）	池上
第 1 6 回	単位認定試験	池上

教科書

教・書籍名 1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-801		
必修・選択	必須	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／5. ジェンダー平等を実現しよう／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／13. 気候変動に具体的な対策を／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	外国学科の基礎演習Ⅰでは、大学での学びに必要な基礎力、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。本演習では、講義や人の意見を聞く（聞く力）、本を読む（読む力）自分の意見を整理して話す（話す力）、書く（書く力）、の4つの力を習得する。また知的好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を身につけることができる。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を学ぶと同時に、大学教師や仲間との接し方も学ぶ。						
授業概要	本演習では、まず、「大学での学び」「教養力」とは何か、就職活動に向けてどのような対策が必要なのかについて考えます。また、人の意見を聴いたり、話をまとめたりする大学生として大切な能力です。これらの力は、ある程度訓練しなければ身につけません。本演習を通して、講義の聴き方とノートの取り方、図書館と利用法、読書の仕方、情報の集め方、レポートの書き方などを習得し、自分の意見を整理し、話せる力も訓練しましょう。基礎演習Ⅰはその入門編と言ってよいでしょう。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション						
評価方法と割合	「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60%）と、積極的・能動的に受講する姿勢やレポート課題の内容（40%）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週水曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	基礎演習Ⅰの概説						加藤
第2回	学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）						加藤
第3回	大学で学ぶこと・教養力						加藤
第4回	就職対策・キャリア教育について(合同)						高木
第5回	英語学習方法と英語資格(合同)						金沢
第6回	中間ふりかえり						加藤
第7回	キャンパスライフの心得「警察における犯罪被害者支援」(合同)						外部講師・池上
第8回	講義の聴き方とノートの取り方						加藤
第9回	図書館の利用法と読書の仕方						加藤
第10回	情報収集の仕方						加藤
第11回	TOEIC IP練習						金沢
第12回	レポートの書き方						加藤
第13回	発表の仕方（要旨をつくって発表する）						加藤
第14回	グループディスカッション						加藤
第15回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）						加藤

第 1 6 回	単位認定試験		加藤
教科書			
教・書籍名 1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	高橋 正巳		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-801		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用	○	DP3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の基礎演習Ⅰでは、大学での学びに必要な基礎力、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。本演習では、講義や人の意見を聞く（聞く力）、本を読む（読む力）自分の意見を整理して話す（話す力）、書く（書く力）、の4つの力を習得する。また知的好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を身につけることができる。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を学ぶと同時に、大学教師や仲間との接し方も学ぶ。						
授業概要	本演習では、まず、「大学での学び」「教養力」とは何かなど、大学での学ぶ姿勢を習得する。また、就職活動に向けてどのような対策が必要なのかについても学ぶ。「聞く」「読む」「話す」「書く」の4つの力は大学生として大切な能力であり、ある程度訓練が必要である。本演習を通して、講義の聴き方とノートの取り方、図書館と利用法、読書の仕方、情報の集め方、レポートの書き方などを心得る。またディスカッションやプレゼンテーションを通して、相手の意見に耳を傾け、自分の意見を整理し話すことも訓練する。基礎演習Ⅰはその入門編と位置づける。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60%）と、積極的・能動的に受講する姿勢やレポート課題の内容（40%）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和51年大学経済学部卒、昭和57年大学院社会学研究科修士課程修了、昭和60年大学院社会学研究科博士課程満期修了退学。				
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階 124研究室 毎週木曜日 4時限目がオフィスアワー						
授業計画						担当者	
第1回	基礎演習Ⅰの概説					高橋	
第2回	学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）					高橋	
第3回	大学で学ぶこと・教養力					高橋	
第4回	就職対策・キャリア教育について(合同)					高木	
第5回	英語学習方法と英語資格(合同)					金沢	
第6回	中間ふりかえり					高橋	
第7回	キャンパスライフの心得 「警察における犯罪被害者支援」(合同)					外部講師・池上	
第8回	講義の聴き方とノートの取り方					高橋	
第9回	図書館の利用法と読書の仕方					高橋	
第10回	情報収集の仕方					高橋	
第11回	TOEIC IP練習					金沢	
第12回	レポートの書き方					高橋	
第13回	発表の仕方（要旨をつくって発表する）					高橋	
第14回	グループディスカッション					高橋	

第15回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）		高橋
第16回	単位認定試験		高橋
教科書			
教・書籍名1	基礎演習テキスト	教・出版社名1	吉備国際大学外国語学部
教・著者名1	吉備国際大学外国語学部外国学科編	教・I S B N 1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・I S B N 1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	佐藤 匡		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-801		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の基礎演習Ⅰでは、大学での学びに必要な基礎力、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。本演習では、講義や人の意見を聞く（聞く力）、本を読む（読む力）自分の意見を整理して話す（話す力）、書く（書く力）、の4つの力を習得する。また知的好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を身につけることができる。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を学ぶと同時に、大学教師や仲間との接し方も学ぶ。						
授業概要	本演習では、まず、「大学での学び」「教養力」とは何かなど、大学での学ぶ姿勢を習得する。また、就職活動に向けてどのような対策が必要なのかについても学ぶ。「聞く」「読む」「話す」「書く」の4つの力は大学生として大切な能力であり、ある程度訓練が必要である。本演習を通して、講義の聴き方とノートの取り方、図書館と利用法、読書の仕方、情報の集め方、レポートの書き方などを心得る。またディスカッションやプレゼンテーションを通して、相手の意見に耳を傾け、自分の意見を整理し話すことも訓練する。基礎演習Ⅰはその入門編と位置づける。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60%）と、積極的・能動的に受講する姿勢やレポート課題の内容（40%）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日 3 時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日 4 時限目 秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日 2 時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日 3 時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。						
授業計画						担当者	
第1回	基礎演習Ⅰの概説					佐藤 匡	
第2回	学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）					佐藤 匡	
第3回	大学で学ぶこと・教養力 研究倫理に基づく責任ある研究活動について					佐藤 匡	
第4回	就職対策・キャリア教育について(合同)					高木	
第5回	英語学習方法と英語資格(合同)					金沢	
第6回	中間ふりかえり					佐藤 匡	

第 7 回	キャンパスライフの心得 「警察における犯罪被害者支援」(合同)	外部講師・池上	
第 8 回	講義の聴き方とノートの取り方	佐藤 匡	
第 9 回	図書館の利用法と読書の仕方	佐藤 匡	
第 1 0 回	情報収集の仕方	佐藤 匡	
第 1 1 回	TOEIC IP練習	金沢	
第 1 2 回	レポートの書き方	佐藤 匡	
第 1 3 回	発表の仕方（要旨をつくって発表する）	佐藤 匡	
第 1 4 回	グループディスカッション	佐藤 匡	
第 1 5 回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）	佐藤 匡	
第 1 6 回	単位認定試験	佐藤 匡	
教科書			
教・書籍名 1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	基礎演習Ⅰ			担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-801		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用	○	DP3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の基礎演習Ⅰでは、大学での学びに必要な基礎力、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。本演習では、講義や人の意見を聞く（聞く力）、本を読む（読む力）自分の意見を整理して話す（話す力）、書く（書く力）、の4つの力を習得する。また知的好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を身につけることができる。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を学ぶと同時に、大学教師や仲間との接し方も学ぶ。						
授業概要	本演習では、まず、「大学での学び」「教養力」とは何かなど、大学での学ぶ姿勢を習得する。また、就職活動に向けてどのような対策が必要なのかについても学ぶ。「聞く」「読む」「話す」「書く」の4つの力は大学生として大切な能力であり、ある程度訓練が必要である。本演習を通して、講義の聴き方とノートの取り方、図書館と利用法、読書の仕方、情報の集め方、レポートの書き方などを心得る。またディスカッションやプレゼンテーションを通して、相手の意見に耳を傾け、自分の意見を整理し話すことも訓練する。基礎演習Ⅰはその入門編と位置づける。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60%）と、積極的・能動的に受講する姿勢やレポート課題の内容（40%）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日2限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	基礎演習Ⅰの概説					メルヴィオ ミカ	
第2回	学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）					メルヴィオ ミカ	
第3回	大学で学ぶこと・教養力					メルヴィオ ミカ	
第4回	就職対策・キャリア教育について(合同)					高木	
第5回	英語学習方法と英語資格(合同)					金沢	
第6回	中間ふりかえり					メルヴィオ ミカ	
第7回	キャンパスライフの心得「警察における犯罪被害者支援」(合同)					外部講師・池上	
第8回	講義の聴き方とノートの取り方					メルヴィオ ミカ	
第9回	図書館の利用法と読書の仕方					メルヴィオ ミカ	
第10回	情報収集の仕方					メルヴィオ ミカ	
第11回	TOEIC IP練習					金沢	
第12回	レポートの書き方					メルヴィオ ミカ	
第13回	発表の仕方（要旨をつくって発表する）					メルヴィオ ミカ	
第14回	グループディスカッション					メルヴィオ ミカ	
第15回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）					メルヴィオ ミカ	

第 1 6 回	単位認定試験		メルヴィオ ミカ
教科書			
教・書籍名 1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	高木 秀明		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-802		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の基礎演習で、学生は大学での学び、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。特に、基礎演習Ⅱでは、オムニバス形式で先生方の研究に関する話を聞き、自らの研究テーマについても考える。オムニバス講義や演習を通して、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を養うと同時に、自ら知的好奇心を持って情報収集やプレゼンテーションに取り組み、自ら学ぶ姿勢を身につける。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を身につける。						
授業概要	本演習は、基礎演習Ⅰを継承する科目であり、先生方の研究に関する話を聞きつつ、自分の研究テーマを発見する。大学ではディスカッションやプレゼンテーションなど、自分の意見を発言する機会も増えるため、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を総合的に発揮する力を養う必要がある。自分の研究テーマに関する情報収集、文献や論文の要旨を作って発表することを通して、その総合力を身につける。基礎演習Ⅱでは、自分の研究テーマの発見を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	オムニバス講義の小レポート（40％）ならびに「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60％）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	オムニバス授業は、教員の研究紹介を行うが、オムニバス授業後は、チューター毎に指定された教室に分かれて、基礎知識の確認と振り返りを行うので注意すること。適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週木曜日2限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	基礎演習Ⅱの概説／学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）						全教員／高木
第2回	Which do you choose?						池上／高木
第3回	絵画および染織品の非破壊科学調査						大下（浩）／高木
第4回	トンボちゃんのインドでのもの思い						大下（朋）／高木
第5回	No attack, no chance.						佐藤／高木
第6回	化学→コンピュータ→電子工作						高木／高木
第7回	アフリカの空を飛ぶ						畝／高木
第8回	オムニバス授業のふりかえり						高木
第9回	2年生になる心構え						高木
第10回	ゼミ分け説明会						全教員／高木
第11回	研究テーマに関する情報収集						高木
第12回	文献や論文の要旨のまとめ方						高木
第13回	文献や論文の要旨の発表①						高木
第14回	文献や論文の要旨の発表②						高木
第15回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）						高木

第 1 6 回	単位認定試験（レポート試験）		高木
教科書			
教・書籍名 1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	大下 浩司		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-802		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用	○	DP3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の基礎演習で、学生は大学での学び、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。特に、基礎演習Ⅱでは、オムニバス形式で先生方の研究に関する話を聞き、自らの研究テーマについても考える。オムニバス講義や演習を通して、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を養うと同時に、自ら知的好奇心を持って情報収集やプレゼンテーションに取り組み、自ら学ぶ姿勢を身につける。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を身につける。						
授業概要	本演習は、基礎演習Ⅰを継承する科目であり、先生方の研究に関する話を聞きつつ、自分の研究テーマを発見する。大学ではディスカッションやプレゼンテーションなど、自分の意見を発言する機会も増えるため、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を総合的に発揮する力を養う必要がある。自分の研究テーマに関する情報収集、文献や論文の要旨を作って発表することを通して、その総合力を身につける。基礎演習Ⅱでは、自分の研究テーマの発見を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	オムニバス講義の小レポート（40％）ならびに「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60％）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	オムニバス授業は、教員の研究紹介を行うが、オムニバス授業後は、チューター毎に指定された教室に分かれて、基礎知識の確認と振り返りを行うので注意すること。適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	基礎演習Ⅱの概説 学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）					全教員	
第2回	Which do you choose?					池上真由美／大下	
第3回	絵画および染織品の非破壊科学調査					大下浩司	
第4回	トンボちゃんのインドでのもの思い					大下朋子／大下	
第5回	No attack, no chance.					佐藤匡／大下	
第6回	化学→コンピュータ→電気工作					高木秀明／大下	
第7回	アフリカの空を飛ぶ					畠伊智朗／大下	
第8回	オムニバス授業のふりかえり					チューター	
第9回	2年生になる心構え					チューター	
第10回	ゼミ分け説明会					全教員	
第11回	研究テーマに関する情報収集					チューター	
第12回	文献や論文の要旨のまとめ方					チューター	
第13回	文献や論文の要旨の発表①					チューター	
第14回	文献や論文の要旨の発表②					チューター	

第15回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）		チューター
第16回	単位認定試験（レポート試験）		チューター
教科書			
教・書籍名1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-802		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	外国学科の基礎演習で、学生は大学の学び、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。特に、基礎演習Ⅱでは、オムニバス形式で先生方の研究に関する話を聞き、自らの研究テーマについても考える。オムニバス講義や演習を通して、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を養うと同時に、自ら知的好奇心を持って情報収集やプレゼンテーションに取り組み、自ら学ぶ姿勢を身につける。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を身につける。						
授業概要	本演習は、基礎演習Ⅰを継承する科目であり、先生方の研究に関する話を聞きつつ、自分の研究テーマを発見する。大学ではディスカッションやプレゼンテーションなど、自分の意見を発言する機会も増えるため、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を総合的に発揮する力を養う必要がある。自分の研究テーマに関する情報収集、文献や論文の要旨を作って発表することを通して、その総合力を身につける。基礎演習Ⅱでは、自分の研究テーマの発見を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	オムニバス講義の小レポート（40％）ならびに「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60％）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	オムニバス授業は、教員の研究紹介を行うが、オムニバス授業後は、チューター毎に指定された教室に分かれて、基礎知識の確認と振り返りを行うので注意すること。適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週木曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	基礎演習Ⅱの概説 学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）					全教員	
第2回	Which do you choose?					池上真由美・大下朋子	
第3回	絵画および染織品の非破壊科学調査					大下浩司・大下朋子	
第4回	トンボちゃんのインドでのもの思い					大下朋子	
第5回	No attack, no chance.					佐藤匡・大下朋子	
第6回	化学→コンピュータ→電気工作					高木秀明・大下朋子	
第7回	アフリカの空を飛ぶ					畝伊智朗・大下朋子	
第8回	オムニバス授業のふりかえり					大下朋子	
第9回	2年生になる心構え					大下朋子	
第10回	ゼミ分け説明会					全教員	
第11回	研究テーマに関する情報収集					大下朋子	
第12回	文献や論文の要旨のまとめ方					大下朋子	
第13回	文献や論文の要旨の発表①					大下朋子	
第14回	文献や論文の要旨の発表②					大下朋子	

第15回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）		大下朋子
第16回	単位認定試験（レポート試験）		大下朋子
教科書			
教・書籍名1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・I S B N 1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・I S B N 1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-802		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の基礎演習で、学生は大学での学び、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。特に、基礎演習Ⅱでは、オムニバス形式で先生方の研究に関する話を聞き、自らの研究テーマについても考える。オムニバス講義や演習を通して、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を養うと同時に、自ら知的好奇心を持って情報収集やプレゼンテーションに取り組み、自ら学ぶ姿勢を身につける。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を身につける。						
授業概要	本演習は、基礎演習Ⅰを継承する科目であり、先生方の研究に関する話を聞きつつ、自分の研究テーマを発見する。大学ではディスカッションやプレゼンテーションなど、自分の意見を発言する機会も増えるため、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を総合的に発揮する力を養う必要がある。自分の研究テーマに関する情報収集、文献や論文の要旨を作って発表することを通して、その総合力を身につける。基礎演習Ⅱでは、自分の研究テーマの発見を目指す。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	オムニバス講義の小レポート（40％）ならびに「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60％）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	オムニバス授業は、教員の研究紹介を行うが、オムニバス授業後は、チューター毎に指定された教室に分かれて、基礎知識の確認と振り返りを行うので注意すること。適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	基礎演習Ⅱの概説 学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）						全教員
第2回	Which do you choose?						池上、畝
第3回	絵画および染織品の非破壊科学調査						大下（浩）、畝
第4回	トンボちゃんのインドでのもの思い						大下（朋）、畝
第5回	No attack, no chance.						佐藤、畝
第6回	化学→コンピュータ→電気工作						高木、畝
第7回	アフリカの空を飛ぶ						畝
第8回	オムニバス授業のふりかえり						畝
第9回	2年生になる心構え						畝
第10回	ゼミ分け説明会						全教員
第11回	研究テーマに関する情報収集						畝
第12回	文献や論文の要旨のまとめ方						畝

第 1 3 回	文献や論文の要旨の発表①	畝
第 1 4 回	文献や論文の要旨の発表②	畝
第 1 5 回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）	畝
第 1 6 回	単位認定試験	畝
教科書		
教・書籍名 1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ I S B N 2

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	池上 真由美		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-802		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用	○	DP3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	外国学科の基礎演習で、学生は大学での学び、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。特に、基礎演習Ⅱでは、オムニバス形式で先生方の研究に関する話を聞き、自らの研究テーマについても考える。オムニバス講義や演習を通して、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を養うと同時に、自ら知的好奇心を持って情報収集やプレゼンテーションに取り組み、自ら学ぶ姿勢を身につける。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を身につける。						
授業概要	本演習は、基礎演習Ⅰを継承する科目であり、先生方の研究に関する話を聞きつつ、自分の研究テーマを発見する。大学ではディスカッションやプレゼンテーションなど、自分の意見を発言する機会も増えるため、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を総合的に発揮する力を養う必要がある。自分の研究テーマに関する情報収集、文献や論文の要旨を作って発表することを通して、その総合力を身につける。基礎演習Ⅱでは、自分の研究テーマの発見を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	オムニバス講義の小レポート（40％）ならびに「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60％）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	オムニバス授業は、教員の研究紹介を行うが、オムニバス授業後は、チューター毎に指定された教室に分かれて、基礎知識の確認と振り返りを行うので注意すること。適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室112にて、毎週火曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	基礎演習Ⅱの概説 学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）					全教員	
第2回	Which do you choose?					池上真由美	

第 3 回	絵画および染織品の非破壊科学調査	大下浩司
第 4 回	トンボちゃんのインドでのもの思い	大下朋子
第 5 回	No attack, no chance.	佐藤 匡
第 6 回	化学→コンピュータ→電気工作	高木秀明
第 7 回	アフリカの空を飛ぶ	畠伊智朗
第 8 回	オムニバス授業のふりかえり	池上
第 9 回	2年生になる心構え	池上
第 1 0 回	ゼミ分け説明会	全教員
第 1 1 回	研究テーマに関する情報収集	池上
第 1 2 回	文献や論文の要旨のまとめ方	池上
第 1 3 回	文献や論文の要旨の発表①	池上
第 1 4 回	文献や論文の要旨の発表②	池上
第 1 5 回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）	池上
第 1 6 回	単位認定試験（レポート試験）	池上
教科書		
教・書籍名 1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-802		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用	○	DP3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／13. 気候変動に具体的な対策を 						
到達目標	外国学科の基礎演習で、学生は大学での学び、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。特に、基礎演習Ⅱでは、オムニバス形式で先生方の研究に関する話を聞き、自らの研究テーマについても考える。オムニバス講義や演習を通して、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を養うと同時に、自ら知的好奇心を持って情報収集やプレゼンテーションに取り組み、自ら学ぶ姿勢を身につける。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を身につける。						
授業概要	本演習は、基礎演習Ⅰを継承する科目であり、先生方の研究に関する話を聞きつつ、自分の研究テーマを発見する。大学ではディスカッションやプレゼンテーションなど、自分の意見を発言する機会も増えるため、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を総合的に発揮する力を養う必要がある。自分の研究テーマに関する情報収集、文献や論文の要旨を作って発表することを通して、その総合力を身につける。基礎演習Ⅱでは、自分の研究テーマの発見を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション						
評価方法と割合	オムニバス講義の小レポート（40％）ならびに「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60％）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	オムニバス授業は、教員の研究紹介を行うが、オムニバス授業後は、チューター毎に指定された教室に分かれて、基礎知識の確認と振り返りを行うので注意すること。適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週木曜日2限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					全員	
第2回	私の研究テーマ「育てる！」					池上／加藤	
第3回	絵画・染織品の科学調査					大下(浩)／加藤	
第4回	トンボちゃんのインドでのもの思いー学生期ー					大下(朋)／加藤	
第5回	南フランスでカタリ派研究に至る経緯について					加藤	
第6回	No attack, no chance.					佐藤／加藤	
第7回	化学→コンピュータ→電気工作					高木／加藤	
第8回	「そんなあ、まさかあ」のアホな田舎モン					高橋／加藤	
第9回	会計検査院に出向して					畝／加藤	
第10回	Art, as I see it					メルヴィオ／加藤	
第11回	ゼミ分け説明会(全体)／研究テーマの発見(チューター)					全員	
第12回	研究テーマに関する情報収集（各研究室）					加藤	

第 1 3 回	文献や論文の要旨のまとめ方（各研究室）	加藤	
第 1 4 回	文献や論文の要旨のまとめ（各研究室）	加藤	
第 1 5 回	文献や論文の要旨の発表（各研究室）	加藤	
第 1 6 回	単位認定試験（レポート）	加藤	
教科書			
教・書籍名 1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	高橋 正巳		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-802		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	外国学科の基礎演習で、学生は大学の学び、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。特に、基礎演習Ⅱでは、オムニバス形式で先生方の研究に関する話を聞き、自らの研究テーマについても考える。オムニバス講義や演習を通して、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を養うと同時に、自ら知的好奇心を持って情報収集やプレゼンテーションに取り組み、自ら学ぶ姿勢を身につける。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を身につける。						
授業概要	本演習は、基礎演習Ⅰを継承する科目であり、先生方の研究に関する話を聞きつつ、自分の研究テーマを発見する。大学ではディスカッションやプレゼンテーションなど、自分の意見を発言する機会も増えるため、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を総合的に発揮する力を養う必要がある。自分の研究テーマに関する情報収集、文献や論文の要旨を作って発表することを通して、その総合力を身につける。基礎演習Ⅱでは、自分の研究テーマの発見を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	オムニバス講義の小レポート（40％）ならびに「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60％）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	オムニバス授業は、教員の研究紹介を行うが、オムニバス授業後は、チューター毎に指定された教室に分かれて、基礎知識の確認と振り返りを行うので注意すること。適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和51年大学経済学部卒、昭和57年大学院社会学研究科修士課程修了、昭和60年大学院社会学研究科博士課程満期修了退学。現在は本学の特任教授。				
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週木曜日3限がオフィスアワーの時間。						
授業計画						担当者	
第1回	基礎演習Ⅱの概説 学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）					全教員	
第2回	Which do you choose?					池上真由美/高橋正巳	
第3回	絵画および染織品の非破壊科学調査					大下浩司/高橋正巳	
第4回	トンボちゃんのインドでのもの思い					大下朋子/高橋正巳	
第5回	No attack, no chance.					佐藤匡/高橋正巳	
第6回	化学→コンピュータ→電気工作					高木秀明/高橋正巳	
第7回	アフリカの空を飛ぶ					畝伊智朗/高橋正巳	
第8回	オムニバス授業のふりかえり					高橋	
第9回	2年生になる心構え					高橋	
第10回	ゼミ分け説明会					全教員	
第11回	研究テーマに関する情報収集					高橋	
第12回	文献や論文の要旨のまとめ方					高橋	
第13回	文献や論文の要旨の発表①					高橋	

第 1 4 回	文献や論文の要旨の発表②	高橋
第 1 5 回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）	高橋
第 1 6 回	単位認定試験（レポート試験）	高橋
教科書		
教・書籍名 1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	基礎演習Ⅱ			担当者	佐藤 匡		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-802		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	外国学科の基礎演習で、学生は大学の学び、大学生の心得、将来に向けての心構えなどを習得する。特に、基礎演習Ⅱでは、オムニバス形式で先生方の研究に関する話を聞き、自らの研究テーマについても考える。オムニバス講義や演習を通して、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を養うと同時に、自ら知的好奇心を持って情報収集やプレゼンテーションに取り組み、自ら学ぶ姿勢を身につける。2年生からはゼミに所属し、卒業研究に向けた準備が始まるが、その入り口として「学ぶ力」を身につける。						
授業概要	本演習は、基礎演習Ⅰを継承する科目であり、先生方の研究に関する話を聞きつつ、自分の研究テーマを発見する。大学ではディスカッションやプレゼンテーションなど、自分の意見を発言する機会も増えるため、「聞く」、「読む」、「話す」、「書く」の4つの力を総合的に発揮する力を養う必要がある。自分の研究テーマに関する情報収集、文献や論文の要旨を作って発表することを通して、その総合力を身につける。基礎演習Ⅱでは、自分の研究テーマの発見を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	オムニバス講義の小レポート（40％）ならびに「大学での学び」に必要な基礎的な知識や技能の到達度を確認する学修ルーブリック（60％）で総合的に評価する。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	オムニバス授業は、教員の研究紹介を行うが、オムニバス授業後は、チューター毎に指定された教室に分かれて、基礎知識の確認と振り返りを行うので注意すること。適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日 3時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日 4時限目 秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日 2時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日 3時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。						
授業計画						担当者	
第1回	基礎演習Ⅱの概説 学修ポートフォリオについて（学期目標の設定）					全教員	
第2回	Which do you choose?					池上 真由美・佐藤 匡	
第3回	絵画および染織品の非破壊科学調査					大下 浩司・佐藤 匡	
第4回	トンボちゃんのインドでのもの思い					大下 朋子・佐藤 匡	
第5回	No attack, no chance.					佐藤 匡	
第6回	化学→コンピュータ→電気工作					高木 秀明・佐藤 匡	

第 7 回	アフリカの空を飛ぶ	畠伊 智朗・佐藤 匡	
第 8 回	オムニバス授業のふりかえり	佐藤 匡	
第 9 回	2年生になる心構え	佐藤 匡	
第 1 0 回	ゼミ分け説明会	全教員	
第 1 1 回	研究倫理に基づく責任ある研究活動について 研究テーマに関する情報収集	佐藤 匡	
第 1 2 回	文献や論文の要旨のまとめ方	佐藤 匡	
第 1 3 回	文献や論文の要旨の発表①	佐藤 匡	
第 1 4 回	文献や論文の要旨の発表②	佐藤 匡	
第 1 5 回	学修ポートフォリオについて（学期目標の振り返り）	佐藤 匡	
第 1 6 回	単位認定試験（レポート試験）	佐藤 匡	
教科書			
教・書籍名 1	基礎演習テキストを配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	高木 秀明		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	FS-FS-2-803		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の演習Ⅰでは、基礎演習で習得した大学での学びや心得を基礎に、大学生が身につけておくべき時事問題などの知識や見聞を広める。2年生からゼミに所属し、卒業研究に向けた第1ステップとして、日本や世界の生活、社会、経済などを取り巻く課題を理解し、自分の研究テーマを発見する論理的思考を修得する。また、これらについて適切に情報収集したり、文献を読んで整理し発表やディスカッションしたりすることができる。演習Ⅰでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力に加えて、主体的な学びと論理的な思考、課題発見力、好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を養う。						
授業概要	興味に関わらず生活、社会、経済、海外などに目を向け、これらの時事問題について大学生が身につけておくべき知識を修得し整理して論理的に理解する。そして、受講者がこれらの問題に関する情報を収集して発表しディスカッションする。中間まとめと最終まとめでは、自らの研究テーマについても考える。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55%）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45%）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	個人研究室にて火曜日4時限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅰの概説					高木	
第2回	生活に関する時事問題について－情報収集					高木	
第3回	生活に関する時事問題について－発表					高木	
第4回	生活に関する時事問題について－ディスカッション					高木	
第5回	社会に関する時事問題について－情報収集					高木	
第6回	社会に関する時事問題について－発表					高木	
第7回	社会に関する時事問題について－ディスカッション					高木	
第8回	中間まとめ（自らの研究テーマについて考える）					高木	
第9回	経済に関する時事問題について－情報収集					高木	
第10回	経済に関する時事問題について－発表					高木	
第11回	経済に関する時事問題について－ディスカッション					高木	
第12回	海外に関する時事問題について－情報収集					高木	
第13回	海外に関する時事問題について－発表					高木	
第14回	海外に関する時事問題について－ディスカッション					高木	
第15回	最終まとめ（自らの研究テーマについて考える）					高木	

第 1 6 回	単位認定試験	高木
教科書		
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	大下 浩司		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	FS-FS-2-803		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の演習Ⅰでは、基礎演習で習得した大学での学びや心得を基礎に、大学生が身につけておくべき時事問題などの知識や見聞を広める。2年生からゼミに所属し、卒業研究に向けた第1ステップとして、日本や世界の生活、社会、経済などを取り巻く課題を理解し、自分の研究テーマを発見する論理的思考を修得する。また、これらについて適切に情報収集したり、文献を読んで整理し発表やディスカッションしたりすることができる。演習Ⅰでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力に加えて、主体的な学びと論理的な思考、課題発見力、好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を養う。						
授業概要	興味に関わらず生活、社会、経済、海外などに目を向け、これらの時事問題について大学生が身につけておくべき知識を修得し整理して論理的に理解する。そして、受講者がこれらの問題に関する情報を収集して発表しディスカッションする。中間まとめと最終まとめでは、自らの研究テーマについても考える。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55%）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45%）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅰの概説					大下浩司	
第2回	生活に関する時事問題について情報収集					大下浩司	
第3回	生活に関する時事問題について発表					大下浩司	
第4回	生活に関する時事問題についてディスカッション					大下浩司	
第5回	社会に関する時事問題について情報収集					大下浩司	
第6回	社会に関する時事問題について発表					大下浩司	
第7回	社会に関する時事問題についてディスカッション					大下浩司	
第8回	中間まとめ（自らの研究テーマについて考える）					大下浩司	
第9回	経済に関する時事問題について情報収集					大下浩司	
第10回	経済に関する時事問題について発表					大下浩司	
第11回	経済に関する時事問題についてディスカッション					大下浩司	
第12回	海外に関する時事問題について情報収集					大下浩司	
第13回	海外に関する時事問題について発表					大下浩司	
第14回	海外に関する時事問題についてディスカッション					大下浩司	
第15回	最終まとめ（自らの研究テーマについて考える）					大下浩司	
第16回	単位認定試験					大下浩司	

教科書			
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・I S B N 2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	FS-FS-2-803		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	外国学科の演習Ⅰでは、基礎演習で習得した大学での学びや心得を基礎に、大学生が身につけておくべき時事問題などの知識や見聞を広める。2年生からゼミに所属し、卒業研究に向けた第1ステップとして、日本や世界の生活、社会、経済などを取り巻く課題を理解し、自分の研究テーマを発見する論理的思考を修得する。また、これらについて適切に情報収集したり、文献を読んで整理し発表やディスカッションしたりすることができる。演習Ⅰでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力に加えて、主体的な学びと論理的な思考、課題発見力、好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を養う。						
授業概要	興味に関わらず生活、社会、経済、海外などに目を向け、これらの時事問題について大学生が身につけておくべき知識を修得し整理して論理的に理解する。そして、受講者がこれらの問題に関する情報を収集して発表しディスカッションする。中間まとめと最終まとめでは、自らの研究テーマについても考える。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55%）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45%）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。レポート試験については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週水曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅰの概説					大下(朋)	
第2回	生活に関する時事問題について情報収集					大下(朋)	
第3回	生活に関する時事問題について発表					大下(朋)	
第4回	生活に関する時事問題についてディスカッション					大下(朋)	
第5回	社会に関する時事問題について情報収集					大下(朋)	
第6回	社会に関する時事問題について発表					大下(朋)	
第7回	社会に関する時事問題についてディスカッション					大下(朋)	
第8回	中間まとめ（自らの研究テーマについて考える）					大下(朋)	
第9回	経済に関する時事問題について情報収集					大下(朋)	
第10回	経済に関する時事問題について発表					大下(朋)	
第11回	経済に関する時事問題についてディスカッション					大下(朋)	
第12回	海外に関する時事問題について情報収集					大下(朋)	
第13回	海外に関する時事問題について発表					大下(朋)	
第14回	海外に関する時事問題についてディスカッション					大下(朋)	

第 1 5 回	最終まとめ（自らの研究テーマについて考える）	大下(朋)
第 1 6 回	1 6. 単位認定試験（レポート試験）	大下(朋)
教科書		
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ I S B N 2

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	FS-FS-2-803		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／8. 働きがいも経済成長も／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	外国学科の演習Ⅰでは、基礎演習で習得した大学での学びや心得を基礎に、大学生が身につけておくべき時事問題などの知識や見聞を広める。2年生からゼミに所属し、卒業研究に向けた第1ステップとして、日本や世界の生活、社会、経済などを取り巻く課題を理解し、自分の研究テーマを発見する論理的思考を修得する。また、これらについて適切に情報収集したり、文献を読んで整理し発表やディスカッションしたりすることができる。演習Ⅰでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力に加えて、主体的な学びと論理的な思考、課題発見力、好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を養う。						
授業概要	興味に関わらず生活、社会、経済、海外などに目を向け、これらの時事問題について大学生が身につけておくべき知識を修得し整理して論理的に理解する。そして、受講者がこれらの問題に関する情報を収集して発表しディスカッションする。中間まとめと最終まとめでは、自らの研究テーマについても考える。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55%）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45%）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。 参考書、資料などは教員が用意する。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅰの概説					畝	
第2回	生活に関する時事問題について情報収集					畝	
第3回	生活についての時事問題について発表					畝	
第4回	生活についての時事問題ディスカッション					畝	
第5回	社会についての時事問題情報収集					畝	
第6回	社会についての時事問題発表					畝	
第7回	社会についての時事問題ディスカッション					畝	
第8回	中間まとめ（自らの研究テーマについて考える）					畝	
第9回	経済についての時事問題情報収集					畝	
第10回	経済についての時事問題発表					畝	
第11回	経済についての時事問題ディスカッション					畝	
第12回	海外に関する時事問題について情報収集					畝	
第13回	海外に関する時事問題について発表					畝	

第 1 4 回	海外に関する時事問題についてディスカッション	畝	
第 1 5 回	最終まとめ（研究テーマについて考える）	畝	
第 1 6 回	単位認定試験	畝	
教科書			
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	池上 真由美		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	FS-FS-2-803		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	外国学科の演習Ⅰでは、基礎演習で習得した大学での学びや心得を基礎に、大学生が身につけておくべき時事問題などの知識や見聞を広める。2年生からゼミに所属し、卒業研究に向けた第1ステップとして、日本や世界の生活、社会、経済などを取り巻く課題を理解し、自分の研究テーマを発見する論理的思考を修得する。また、これらについて適切に情報収集したり、文献を読んで整理し発表やディスカッションしたりすることができる。演習Ⅰでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力に加えて、主体的な学びと論理的な思考、課題発見力、好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を養う。						
授業概要	興味に関わらず生活、社会、経済、海外などに目を向け、これらの時事問題について大学生が身につけておくべき知識を修得し整理して論理的に理解する。そして、受講者がこれらの問題に関する情報を収集して発表しディスカッションする。中間まとめと最終まとめでは、自らの研究テーマについても考える。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55%）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45%）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室112にて、毎週火曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅰの概説					池上	
第2回	生活に関する時事問題について情報収集					池上	
第3回	生活に関する時事問題について発表					池上	

第４回	生活に関する時事問題についてディスカッション	池上	
第５回	社会に関する時事問題について情報収集	池上	
第６回	社会に関する時事問題について発表	池上	
第７回	社会に関する時事問題についてディスカッション	池上	
第８回	中間まとめ（自らの研究テーマについて考える）	池上	
第９回	経済に関する時事問題について情報収集	池上	
第１０回	経済に関する時事問題について発表	池上	
第１１回	経済に関する時事問題についてディスカッション	池上	
第１２回	海外に関する時事問題について情報収集	池上	
第１３回	海外に関する時事問題について発表	池上	
第１４回	海外に関する時事問題についてディスカッション	池上	
第１５回	最終まとめ（自らの研究テーマについて考える）	池上	
第１６回	単位認定試験	池上	
教科書			
教・書籍名１	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名１	
教・著者名１		教・ＩＳＢＮ１	
教・書籍名２		教・出版社名２	
教・著者名２		教・ＩＳＢＮ２	
参考書			
参・書籍名１		参・出版社名１	
参・著者名１		参・ＩＳＢＮ１	
参・書籍名２		参・出版社名２	
参・著者名２		参・ＩＳＢＮ２	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	FS-FS-2-803		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを 						
到達目標	外国学科の演習Ⅰでは、基礎演習で習得した大学での学びや心得を基礎に、大学生が身につけておくべき時事問題などの知識や見聞を広める。2年生からゼミに所属し、卒業研究に向けた第1ステップとして、日本や世界の生活、社会、経済などを取り巻く課題を理解し、自分の研究テーマを発見する論理的思考を修得する。また、これらについて適切に情報収集したり、文献を読んで整理し発表やディスカッションしたりすることができる。演習Ⅰでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力に加えて、主体的な学びと論理的な思考、課題発見力、好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を養う。						
授業概要	興味に関わらず生活、社会、経済、海外などに目を向け、これらの時事問題について大学生が身につけておくべき知識を修得し整理して論理的に理解する。そして、受講者がこれらの問題に関する情報を収集して発表しディスカッションする。中間まとめと最終まとめでは、自らの研究テーマについても考える。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55%）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45%）として評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅰの概説					加藤	
第2回	生活に関する時事問題について情報収集					加藤	
第3回	生活に関する時事問題について発表					加藤	
第4回	生活に関する時事問題についてディスカッション					加藤	
第5回	社会に関する時事問題について情報収集					加藤	
第6回	社会に関する時事問題について発表					加藤	
第7回	社会に関する時事問題についてディスカッション					加藤	
第8回	中間まとめ（自らの研究テーマについて考える）					加藤	

第 9 回	経済に関する時事問題について情報収集	加藤	
第 1 0 回	経済に関する時事問題について発表	加藤	
第 1 1 回	経済に関する時事問題についてディスカッション	加藤	
第 1 2 回	海外に関する時事問題について情報収集	加藤	
第 1 3 回	海外に関する時事問題について発表	加藤	
第 1 4 回	海外に関する時事問題についてディスカッション	加藤	
第 1 5 回	演習Ⅰのまとめと夏休み課題	加藤	
第 1 6 回	単位認定試験	加藤	
教科書			
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	高橋 正巳		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	FS-FS-2-803		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	外国学科の演習Ⅰでは、基礎演習で習得した大学での学びや心得を基礎に、大学生が身につけておくべき時事問題などの知識や見聞を広める。2年生からゼミに所属し、卒業研究に向けた第1ステップとして、日本や世界の生活、社会、経済などを取り巻く課題を理解し、自分の研究テーマを発見する論理的思考を修得する。また、これらについて適切に情報収集したり、文献を読んで整理し発表やディスカッションしたりすることができる。演習Ⅰでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力に加えて、主体的な学びと論理的な思考、課題発見力、好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を養う。						
授業概要	興味に関わらず生活、社会、経済、海外などに目を向け、これらの時事問題について大学生が身につけておくべき知識を修得し整理して論理的に理解する。そして、受講者がこれらの問題に関する情報を収集して発表しディスカッションする。中間まとめと最終まとめでは、自らの研究テーマについても考える。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（65%）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45%）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和51年大学経済学部卒、昭和57年大学院社会学研究科修士課程修了、昭和60年大学院社会学研究科博士課程満期修了退学。本学の特任教授である。				
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週木曜日3限がオフィスアワーの時間。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅰの概説					高橋	
第2回	生活に関する時事問題について情報収集					高橋	
第3回	生活に関する時事問題について発表					高橋	
第4回	生活に関する時事問題についてディスカッション					高橋	
第5回	社会に関する時事問題について情報収集					高橋	
第6回	社会に関する時事問題について発表					高橋	
第7回	社会に関する時事問題についてディスカッション					高橋	
第8回	中間まとめ（自らの研究テーマについて考える）					高橋	
第9回	経済に関する時事問題について情報収集					高橋	
第10回	経済に関する時事問題について発表					高橋	
第11回	経済に関する時事問題についてディスカッション					高橋	
第12回	海外に関する時事問題について情報収集					高橋	
第13回	海外に関する時事問題について発表					高橋	

第 1 4 回	海外に関する時事問題についてディスカッション	高橋	
第 1 5 回	最終まとめ（自らの研究テーマについて考える）	高橋	
第 1 6 回	1 6 . 単位認定試験	高橋	
教科書			
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	佐藤 匡		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他2年			ナンバリング	FS-FS-2-803		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の演習Ⅰでは、基礎演習で習得した大学での学びや心得を基礎に、大学生が身につけておくべき時事問題などの知識や見聞を広める。2年生からゼミに所属し、卒業研究に向けた第1ステップとして、日本や世界の生活、社会、経済などを取り巻く課題を理解し、自分の研究テーマを発見する論理的思考を修得する。また、これらについて適切に情報収集したり、文献を読んで整理し発表やディスカッションしたりすることができる。演習Ⅰでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力に加えて、主体的な学びと論理的な思考、課題発見力、好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を養う。						
授業概要	興味に関わらず生活、社会、経済、海外などに目を向け、これらの時事問題について大学生が身につけておくべき知識を修得し整理して論理的に理解する。そして、受講者がこれらの問題に関する情報を収集して発表しディスカッションする。中間まとめと最終まとめでは、自らの研究テーマについても考える。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55%）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45%）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日 3時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日 4時限目 秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日 2時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日 3時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅰの概説					佐藤 匡	
第2回	生活に関する時事問題について情報収集					佐藤 匡	
第3回	生活に関する時事問題について発表					佐藤 匡	
第4回	生活に関する時事問題についてディスカッション					佐藤 匡	
第5回	社会に関する時事問題について情報収集					佐藤 匡	
第6回	社会に関する時事問題について発表					佐藤 匡	
第7回	社会に関する時事問題についてディスカッション					佐藤 匡	
第8回	中間まとめ（自らの研究テーマについて考える）					佐藤 匡	

	研究倫理に基づく責任ある研究活動について		
第 9 回	経済に関する時事問題について情報収集	佐藤 匡	
第 1 0 回	経済に関する時事問題について発表	佐藤 匡	
第 1 1 回	経済に関する時事問題についてディスカッション	佐藤 匡	
第 1 2 回	海外に関する時事問題について情報収集	佐藤 匡	
第 1 3 回	海外に関する時事問題について発表	佐藤 匡	
第 1 4 回	海外に関する時事問題についてディスカッション	佐藤 匡	
第 1 5 回	最終まとめ（自らの研究テーマについて考える）	佐藤 匡	
第 1 6 回	単位認定試験	佐藤 匡	
教科書			
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	高木 秀明		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-804		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の演習Ⅱでは、演習Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第2ステップとして、自分の研究テーマについて具体的に考え、研究を進めるための幅広い知識と多角的な視野を養う。自分の研究テーマについて適切に情報収集したり、文献を読んで整理し発表やディスカッションしたりしながら、主体的に研究を進める論理的思考力を身につける。演習Ⅱでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力に加えて、主体的な学びと論理的な思考、課題発見力、好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を修得する。						
授業概要	自らの研究テーマについて具体的に考える。研究の分野、内容、テーマの順に具体的に絞り込んでいく。研究テーマを絞り込めたら情報収集し内容をまとめ発表資料を作成する。中間まとめでは研究テーマについて概要を発表する。その後、計画を立て研究に着手する。まずは、関連分野の文献や資料を収集し内容を理解する。最終まとめでは、調べた内容について論点を整理し発表する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55%）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45%）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	個人研究室にて金曜日2時限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅱの概説					高木	
第2回	研究分野を考える					高木	
第3回	研究内容を考える					高木	
第4回	研究テーマを絞り込む					高木	
第5回	研究テーマについて情報収集する					高木	
第6回	研究テーマについて発表内容を考える					高木	
第7回	研究テーマについて発表資料を作成する					高木	
第8回	中間まとめ（自らの研究テーマについて発表する）					高木	
第9回	研究計画を立てる					高木	
第10回	研究計画について話し合う					高木	
第11回	研究計画を再考し修正する					高木	
第12回	文献・資料の探し方を学ぶ					高木	
第13回	文献・資料を探す					高木	
第14回	文献・資料を読む					高木	
第15回	最終まとめ（自らの研究テーマについて発表する）					高木	

第 1 6 回	単位認定試験	高木
教科書		
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	大下 浩司		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-804		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の演習Ⅱでは、演習Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第2ステップとして、自分の研究テーマについて具体的に考え、研究を進めるための幅広い知識と多角的な視野を養う。自分の研究テーマについて適切に情報収集したり、文献を読んで整理し発表やディスカッションしたりしながら、主体的に研究を進める論理的思考力を身につける。演習Ⅱでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力に加えて、主体的な学びと論理的な思考、課題発見力、好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を修得する。						
授業概要	自らの研究テーマについて具体的に考える。研究の分野、内容、テーマの順に具体的に絞り込んでいく。研究テーマを絞り込めたら情報収集し内容をまとめ発表資料を作成する。中間まとめでは研究テーマについて概要を発表する。その後、計画を立て研究に着手する。まずは、関連分野の文献や資料を収集し内容を理解する。最終まとめでは、調べた内容について論点を整理し発表する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55％）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45％）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅱの概説						大下浩司
第2回	研究分野を考える						大下浩司
第3回	研究内容を考える						大下浩司
第4回	研究テーマを絞り込む						大下浩司
第5回	研究テーマについて情報収集する						大下浩司
第6回	研究テーマについて発表内容を考える						大下浩司
第7回	研究テーマについて発表資料を作成する						大下浩司
第8回	中間まとめ（自らの研究テーマについて発表する）						大下浩司
第9回	研究計画を立てる						大下浩司
第10回	研究計画について話し合う						大下浩司
第11回	研究計画を再考し修正する						大下浩司
第12回	文献・資料の探し方を学ぶ						大下浩司
第13回	文献・資料を探す						大下浩司
第14回	文献・資料を読む						大下浩司
第15回	最終まとめ（自らの研究テーマについて発表する）						大下浩司
第16回	単位認定試験						大下浩司
教科書							

教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-804		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	外国学科の演習Ⅱでは、演習Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第2ステップとして、自分の研究テーマについて具体的に考え、研究を進めるための幅広い知識と多角的な視野を養う。自分の研究テーマについて適切に情報収集したり、文献を読んで整理し発表やディスカッションしたりしながら、主体的に研究を進める論理的思考力を身につける。演習Ⅱでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力に加えて、主体的な学びと論理的な思考、課題発見力、好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を修得する。						
授業概要	自らの研究テーマについて具体的に考える。研究の分野、内容、テーマの順に具体的に絞り込んでいく。研究テーマを絞り込めたら情報収集し内容をまとめ発表資料を作成する。中間まとめでは研究テーマについて概要を発表する。その後、計画を立て研究に着手する。まずは、関連分野の文献や資料を収集し内容を理解する。最終まとめでは、調べた内容について論点を整理し発表する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55%）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45%）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週木曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅱの概説					大下(朋)	
第2回	研究分野を考える					大下(朋)	
第3回	研究内容を考える					大下(朋)	
第4回	研究テーマを絞り込む					大下(朋)	
第5回	研究テーマについて情報収集する					大下(朋)	
第6回	研究テーマについて発表内容を考える					大下(朋)	
第7回	研究テーマについて発表資料を作成する					大下(朋)	
第8回	中間まとめ（自らの研究テーマについて発表する）					大下(朋)	
第9回	研究計画を立てる					大下(朋)	
第10回	研究計画について話し合う					大下(朋)	
第11回	研究計画を再考し修正する					大下(朋)	
第12回	文献・資料の探し方を学ぶ					大下(朋)	
第13回	文献・資料を探す					大下(朋)	
第14回	文献・資料を読む					大下(朋)	
第15回	最終まとめ（自らの研究テーマについて発表する）					大下(朋)	

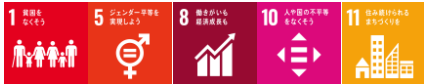
第 1 6 回	単位認定試験（レポート試験）		大下(朋)	
教科書				
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。		教・出版社名 1	
教・著者名 1			教・ I S B N 1	
教・書籍名 2			教・出版社名 2	
教・著者名 2			教・ I S B N 2	
参考書				
参・書籍名 1			参・出版社名 1	
参・著者名 1			参・ I S B N 1	
参・書籍名 2			参・出版社名 2	
参・著者名 2			参・ I S B N 2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-804		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4 質の高い教育をみんなに 8 働きがいも経済成長も 10 人や国の不平等をなくそう 11 住み続けられるまちづくりを 16 平和と公正をすべての人に						
到達目標	外国学科の演習Ⅱでは、演習Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第2ステップとして、自分の研究テーマについて具体的に考え、研究を進めるための幅広い知識と多角的な視野を養う。自分の研究テーマについて適切に情報収集したり、文献を読んで整理し発表やディスカッションしたりしながら、主体的に研究を進める論理的思考力を身につける。演習Ⅱでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力に加えて、主体的な学びと論理的な思考、課題発見力、好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を修得する。						
授業概要	自らの研究テーマについて具体的に考える。研究の分野、内容、テーマの順に具体的に絞り込んでいく。研究テーマを絞り込めたら情報収集し内容をまとめ発表資料を作成する。中間まとめでは研究テーマについて概要を発表する。その後、計画を立て研究に着手する。まずは、関連分野の文献や資料を収集し内容を理解する。最終まとめでは、調べた内容について論点を整理し発表する。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55%）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45%）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。 参考書、資料は教員が準備する。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅱの概説						畝
第2回	研究分野を考える						畝
第3回	研究内容を考える						畝
第4回	研究テーマを絞り込む						畝
第5回	研究テーマについて情報収集する						畝
第6回	研究テーマについて発表内容を考える						畝
第7回	研究テーマについて発表資料を作成する						畝
第8回	中間まとめ（自らの研究テーマについて発表する）						畝
第9回	研究計画を立てる						畝
第10回	研究計画について話し合う						畝
第11回	研究計画を再考し修正する						畝
第12回	文献・資料の探し方を学ぶ						畝
第13回	文献・資料を探す						畝
第14回	文献・資料を読む						畝

第 1 5 回	最終まとめ（自らの研究テーマについて発表する）	畝	
第 1 6 回	単位認定試験	畝	
教科書			
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	池上 真由美		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-804		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	外国学科の演習Ⅱでは、演習Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第2ステップとして、自分の研究テーマについて具体的に考え、研究を進めるための幅広い知識と多角的な視野を養う。自分の研究テーマについて適切に情報収集したり、文献を読んで整理し発表やディスカッションしたりしながら、主体的に研究を進める論理的思考力を身につける。演習Ⅱでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力に加えて、主体的な学びと論理的な思考、課題発見力、好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を修得する。						
授業概要	自らの研究テーマについて具体的に考える。研究の分野、内容、テーマの順に具体的に絞っていき、研究テーマを絞り込めたら情報収集し内容をまとめ発表資料を作成する。中間まとめでは研究テーマについて概要を発表する。その後、計画を立て研究に着手する。まずは、関連分野の文献や資料を収集し内容を理解する。最終まとめでは、調べた内容について論点を整理し発表する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55％）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45％）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。		
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室112にて、毎週火曜日3限をオフィスアワーの時間とする。		
授業計画			担当者
第1回	演習Ⅱの概説		池上
第2回	研究分野を考える		池上
第3回	研究内容を考える		池上
第4回	研究テーマを絞り込む		池上
第5回	研究テーマについて情報収集する		池上
第6回	研究テーマについて発表内容を考える		池上
第7回	研究テーマについて発表資料を作成する		池上
第8回	中間まとめ（自らの研究テーマについて発表する）		池上
第9回	研究計画を立てる		池上
第10回	研究計画について話し合う		池上
第11回	研究計画を再考し修正する		池上
第12回	文献・資料の探し方を学ぶ		池上
第13回	文献・資料を探す		池上
第14回	文献・資料を読む		池上
第15回	最終まとめ（自らの研究テーマについて発表する）		池上
第16回	単位認定試験		池上
教科書			
教・書籍名1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-804		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを 						
到達目標	外国学科の演習Ⅱでは、演習Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第2ステップとして、自分の研究テーマについて具体的に考え、研究を進めるための幅広い知識と多角的な視野を養う。自分の研究テーマについて適切に情報収集したり、文献を読んで整理し発表やディスカッションしたりしながら、主体的に研究を進める論理的思考力を身につける。演習Ⅱでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力に加えて、主体的な学びと論理的な思考、課題発見力、好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を修得する。						
授業概要	自らの研究テーマについて具体的に考える。研究の分野、内容、テーマの順に具体的に絞り込んでいく。研究テーマを絞り込めたら情報収集し内容をまとめ発表資料を作成する。中間まとめでは研究テーマについて概要を発表する。その後、計画を立て研究に着手する。まずは、関連分野の文献や資料を収集し内容を理解する。最終まとめでは、調べた内容について論点を整理し発表する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55%）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45%）として評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅱの概説						加藤
第2回	研究分野を考える						加藤
第3回	研究内容を考える						加藤
第4回	研究テーマを絞り込む						加藤
第5回	研究テーマについて情報収集する						加藤
第6回	研究テーマについて発表内容を考える						加藤
第7回	研究テーマについて発表資料を作成する						加藤
	中間まとめ（自らの研究テーマについて発表する）						

第 8 回		加藤
第 9 回	研究計画を立てる	加藤
第 1 0 回	研究計画について話し合う	加藤
第 1 1 回	研究計画を再考し修正する	加藤
第 1 2 回	文献・資料の探し方を学ぶ	加藤
第 1 3 回	文献・資料を探す	加藤
第 1 4 回	文献・資料を読む	加藤
第 1 5 回	最終まとめ（自らの研究テーマについて発表する）	加藤
第 1 6 回	単位認定試験	加藤
教科書		
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	高橋 正巳		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-804		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	外国学科の演習Ⅱでは、演習Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第2ステップとして、自分の研究テーマについて具体的に考え、研究を進めるための幅広い知識と多角的な視野を養う。自分の研究テーマについて適切に情報収集したり、文献を読んで整理し発表やディスカッションしたりしながら、主体的に研究を進める論理的思考力を身につける。演習Ⅱでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力に加えて、主体的な学びと論理的な思考、課題発見力、好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を修得する。						
授業概要	自らの研究テーマについて具体的に考える。研究の分野、内容、テーマの順に具体的に絞り込んでいく。研究テーマを絞り込めたら情報収集し内容をまとめ発表資料を作成する。中間まとめでは研究テーマについて概要を発表する。その後、計画を立て研究に着手する。まずは、関連分野の文献や資料を収集し内容を理解する。最終まとめでは、調べた内容について論点を整理し発表する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（65％）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45％）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週木曜日3限がオフィスアワーの時間。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅱの概説					高橋	
第2回	研究分野を考える					高橋	
第3回	研究内容を考える					高橋	
第4回	研究テーマを絞り込む					高橋	
第5回	研究テーマについて情報収集する					高橋	
第6回	研究テーマについて発表内容を考える					高橋	
第7回	研究テーマについて発表資料を作成する					高橋	
第8回	中間まとめ（自らの研究テーマについて発表する）					高橋	
第9回	研究計画を立てる					高橋	
第10回	研究計画について話し合う					高橋	
第11回	研究計画を再考し修正する					高橋	
第12回	文献・資料の探し方を学ぶ					高橋	
第13回	文献・資料を探す					高橋	
第14回	文献・資料を読む					高橋	
第15回	最終まとめ（自らの研究テーマについて発表する）					高橋	

第 1 6 回	単位認定試験		高橋
教科書			
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	佐藤 匡		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-804		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の演習Ⅱでは、演習Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第2ステップとして、自分の研究テーマについて具体的に考え、研究を進めるための幅広い知識と多角的な視野を養う。自分の研究テーマについて適切に情報収集したり、文献を読んで整理し発表やディスカッションしたりしながら、主体的に研究を進める論理的思考力を身につける。演習Ⅱでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力に加えて、主体的な学びと論理的な思考、課題発見力、好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を修得する。						
授業概要	自らの研究テーマについて具体的に考える。研究の分野、内容、テーマの順に具体的に絞り込んでいく。研究テーマを絞り込めたら情報収集し内容をまとめ発表資料を作成する。中間まとめでは研究テーマについて概要を発表する。その後、計画を立て研究に着手する。まずは、関連分野の文献や資料を収集し内容を理解する。最終まとめでは、調べた内容について論点を整理し発表する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55%）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45%）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日 3 時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日 4 時限目 秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日 2 時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日 3 時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅱの概説					佐藤 匡	
第2回	研究分野を考える					佐藤 匡	
第3回	研究内容を考える					佐藤 匡	
第4回	研究テーマを絞り込む					佐藤 匡	
第5回	研究テーマについて情報収集する					佐藤 匡	
第6回	研究テーマについて発表内容を考える					佐藤 匡	
第7回	研究テーマについて発表資料を作成する					佐藤 匡	
第8回	中間まとめ（自らの研究テーマについて発表する） 研究倫理に基づく責任ある研究活動について					佐藤 匡	

第 9 回	研究計画を立てる	佐藤 匡
第 1 0 回	研究計画について話し合う	佐藤 匡
第 1 1 回	研究計画を再考し修正する	佐藤 匡
第 1 2 回	文献・資料の探し方を学ぶ	佐藤 匡
第 1 3 回	文献・資料を探す	佐藤 匡
第 1 4 回	文献・資料を読む	佐藤 匡
第 1 5 回	最終まとめ（自らの研究テーマについて発表する）	佐藤 匡
第 1 6 回	単位認定試験	佐藤 匡
教科書		
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	高木 秀明		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他3年			ナンバリング	FS-FS-3-805		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の演習Ⅲでは、演習Ⅱで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第3ステップとして、自らの研究テーマを見直し、知的好奇心と自ら学ぶ姿勢を持って主体的に研究を進める力を養う。また、自分の研究テーマについて適切に情報収集したり、文献を読んで整理し発表やディスカッションしたりしながら、自ら社会問題や課題を解決に導く力を養う。演習Ⅲでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力を総合的に発揮する総合力、情報を活用する力、主体的な学びと論理的な思考、課題解決力の修得を目指す。						
授業概要	演習Ⅰ・Ⅱを通じて考えた研究テーマを練り直す。先行研究に関する論文や書籍を調べ熟読し、先行研究の目的・方法・結果・結論・残された課題などの要点を整理する。幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養うために、なるべく多くの論文や書籍を読み、要点を整理する。そして、先行研究と自らが着想した研究を比較し、独自性や特色などを付け加え研究を進める。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55%）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45%）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	個人研究室にて火曜日4時限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅲの概説					高木	
第2回	研究テーマの見直し					高木	
第3回	研究テーマの見直しと発表					高木	
第4回	研究テーマの見直しとディスカッション					高木	
第5回	関係する文献の調べ直し1					高木	
第6回	関係する文献の調べ直しと発表1					高木	
第7回	関係する文献の調べ直しとディスカッション1					高木	
第8回	論点整理					高木	
第9回	関係する文献の調べ直し2					高木	
第10回	関係する文献の調べ直しと発表2					高木	
第11回	関係する文献の調べ直しとディスカッション2					高木	
第12回	研究計画の見直し					高木	
第13回	研究計画の見直しと発表					高木	
第14回	研究計画の見直しとディスカッション					高木	
第15回	最終まとめ（自らの研究テーマについて発表する）					高木	
第16回	単位認定試験					高木	

教科書			
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・I S B N 2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	大下 浩司		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他3年			ナンバリング	FS-FS-3-805		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の演習Ⅲでは、演習Ⅱで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第3ステップとして、自らの研究テーマを見直し、知的好奇心と自ら学ぶ姿勢を持って主体的に研究を進める力を養う。また、自分の研究テーマについて適切に情報収集したり、文献を読んで整理し発表やディスカッションしたりしながら、自ら社会問題や課題を解決に導く力を養う。演習Ⅲでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力を総合的に発揮する総合力、情報を活用する力、主体的な学びと論理的な思考、課題解決力の修得を目指す。						
授業概要	演習Ⅰ・Ⅱを通じて考えた研究テーマを練り直す。先行研究に関する論文や書籍を調べ熟読し、先行研究の目的・方法・結果・結論・残された課題などの要点を整理する。幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養うために、なるべく多くの論文や書籍を読み、要点を整理する。そして、先行研究と自らが着想した研究を比較し、独自性や特色などを付け加え研究を進める。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55%）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45%）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅲの概説					大下浩司	
第2回	研究テーマの見直し					大下浩司	
第3回	研究テーマの見直しと発表					大下浩司	
第4回	研究テーマの見直しとディスカッション					大下浩司	
第5回	関係する文献の調べ直し1					大下浩司	
第6回	関係する文献の調べ直しと発表1					大下浩司	
第7回	関係する文献の調べ直しとディスカッション1					大下浩司	
第8回	論点整理					大下浩司	
第9回	関係する文献の調べ直し2					大下浩司	
第10回	関係する文献の調べ直しと発表2					大下浩司	
第11回	関係する文献の調べ直しとディスカッション2					大下浩司	
第12回	研究計画の見直し					大下浩司	
第13回	研究計画の見直しと発表					大下浩司	
第14回	研究計画の見直しとディスカッション					大下浩司	
第15回	最終まとめ（自らの研究テーマについて発表する）					大下浩司	
第16回	単位認定試験					大下浩司	

教科書			
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他3年			ナンバリング	FS-FS-3-805		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	外国学科の演習Ⅲでは、演習Ⅱで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第3ステップとして、自らの研究テーマを見直し、知的的好奇心と自ら学ぶ姿勢を持って主体的に研究を進める力を養う。また、自分の研究テーマについて適切に情報収集したり、文献を読んで整理し発表やディスカッションしたりしながら、自ら社会問題や課題を解決に導く力を養う。演習Ⅲでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力を総合的に発揮する総合力、情報を活用する力、主体的な学びと論理的な思考、課題解決力の修得を目指す。						
授業概要	演習Ⅰ・Ⅱを通じて考えた研究テーマを練り直す。先行研究に関する論文や書籍を調べ熟読し、先行研究の目的・方法・結果・結論・残された課題などの要点を整理する。幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養うために、なるべく多くの論文や書籍を読み、要点を整理する。そして、先行研究と自らが着想した研究を比較し、独自性や特色などを付け加え研究を進める。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55%）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45%）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週木曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅲの概説					大下(朋)	
第2回	研究テーマの見直し					大下(朋)	
第3回	研究テーマの見直しと発表					大下(朋)	
第4回	研究テーマの見直しとディスカッション					大下(朋)	
第5回	関係する文献の調べ直し1					大下(朋)	
第6回	関係する文献の調べ直しと発表1					大下(朋)	
第7回	関係する文献の調べ直しとディスカッション1					大下(朋)	
第8回	論点整理					大下(朋)	
第9回	関係する文献の調べ直し2					大下(朋)	
第10回	関係する文献の調べ直しと発表2					大下(朋)	
第11回	関係する文献の調べ直しとディスカッション2					大下(朋)	
第12回	研究計画の見直し					大下(朋)	
第13回	研究計画の見直しと発表					大下(朋)	
第14回	研究計画の見直しとディスカッション					大下(朋)	

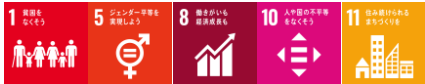
第 1 5 回	最終まとめ（自らの研究テーマについて発表する）	大下(朋)
第 1 6 回	単位認定（レポート試験）	大下(朋)
教科書		
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ I S B N 2

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他3年			ナンバリング	FS-FS-3-805		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／8. 働きがいも経済成長も／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	外国学科の演習Ⅲでは、演習Ⅱで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第3ステップとして、自らの研究テーマを見直し、知的好奇心と自ら学ぶ姿勢を持って主体的に研究を進める力を養う。また、自分の研究テーマについて適切に情報収集したり、文献を読んで整理し発表やディスカッションしたりしながら、自ら社会問題や課題を解決に導く力を養う。演習Ⅲでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力を総合的に発揮する総合力、情報を活用する力、主体的な学びと論理的な思考、課題解決力の修得を目指す。						
授業概要	演習Ⅰ・Ⅱを通じて考えた研究テーマを練り直す。先行研究に関する論文や書籍を調べ熟読し、先行研究の目的・方法・結果・結論・残された課題などの要点を整理する。幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養うために、なるべく多くの論文や書籍を読み、要点を整理する。そして、先行研究と自らが着想した研究を比較し、独自性や特色などを付け加え研究を進める。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55％）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45％）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。 参考図書、資料は教員が準備する。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅲの概説					畝	
第2回	研究テーマの見直し					畝	
第3回	研究テーマの見直しと発表					畝	
第4回	研究テーマの見直しとディスカッション					畝	
第5回	関係する文献の調べ直し1					畝	
第6回	関係する文献の調べ直しと発表1					畝	
第7回	関係する文献の調べ直しとディスカッション1					畝	
第8回	論点整理					畝	
第9回	関係する文献の調べ直し2					畝	
第10回	関係する文献の調べ直しと発表2					畝	
第11回	関係する文献の調べ直しとディスカッション2					畝	
第12回	研究計画の見直し					畝	
第13回	研究計画の見直しと発表					畝	

第 1 4 回	研究計画の見直しとディスカッション	畝	
第 1 5 回	研究計画最終化、振り返り	畝	
第 1 6 回	単位認定試験	畝	
教科書			
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	池上 真由美		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他3年			ナンバリング	FS-FS-3-805		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	外国学科の演習Ⅲでは、演習Ⅱで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第3ステップとして、自らの研究テーマを見直し、知的好奇心と自ら学ぶ姿勢を持って主体的に研究を進める力を養う。また、自分の研究テーマについて適切に情報収集したり、文献を読んで整理し発表やディスカッションしたりしながら、自ら社会問題や課題を解決に導く力を養う。演習Ⅲでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力を総合的に発揮する総合力、情報を活用する力、主体的な学びと論理的な思考、課題解決力の修得を目指す。						
授業概要	演習Ⅰ・Ⅱを通じて考えた研究テーマを練り直す。先行研究に関する論文や書籍を調べ熟読し、先行研究の目的・方法・結果・結論・残された課題などの要点を整理する。幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養うために、なるべく多くの論文や書籍を読み、要点を整理する。そして、先行研究と自らが着想した研究を比較し、独自性や特色などを付け加え研究を進める。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55％）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45％）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理し						

の時間	ておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。		
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室112にて、毎週火曜日3限をオフィスアワーの時間とする。		
授業計画		担当者	
第1回	演習Ⅲの概説	池上	
第2回	研究テーマの見直し	池上	
第3回	研究テーマの見直しと発表	池上	
第4回	研究テーマの見直しとディスカッション	池上	
第5回	関係する文献の調べ直し1	池上	
第6回	関係する文献の調べ直しと発表1	池上	
第7回	関係する文献の調べ直しとディスカッション1	池上	
第8回	論点整理	池上	
第9回	関係する文献の調べ直し2	池上	
第10回	関係する文献の調べ直しと発表2	池上	
第11回	関係する文献の調べ直しとディスカッション2	池上	
第12回	研究計画の見直し	池上	
第13回	研究計画の見直しと発表	池上	
第14回	研究計画の見直しとディスカッション	池上	
第15回	最終まとめ（自らの研究テーマについて発表する）	池上	
第16回	単位認定試験	池上	
教科書			
教・書籍名1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他3年			ナンバリング	FS-FS-3-805		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを 						
到達目標	外国学科の演習Ⅲでは、演習Ⅱで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第3ステップとして、自らの研究テーマを見直し、知的的好奇心と自ら学ぶ姿勢を持って主体的に研究を進める力を養う。また、自分の研究テーマについて適切に情報収集したり、文献を読んで整理し発表やディスカッションしたりしながら、自ら社会問題や課題を解決に導く力を養う。演習Ⅲでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力を総合的に発揮する総合力、情報を活用する力、主体的な学びと論理的な思考、課題解決力の修得を目指す。						
授業概要	演習Ⅰ・Ⅱを通じて考えた研究テーマを練り直す。先行研究に関する論文や書籍を調べ熟読し、先行研究の目的・方法・結果・結論・残された課題などの要点を整理する。幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養うために、なるべく多くの論文や書籍を読み、要点を整理する。そして、先行研究と自らが着想した研究を比較し、独自性や特色などを付け加え研究を進める。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55%）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45%）として評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと						
オフィスアワー	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅲの概説					加藤	
第2回	研究テーマの見直し					加藤	
第3回	研究テーマの見直しと発表					加藤	
第4回	研究テーマの見直しとディスカッション					加藤	
第5回	関係する文献の調べ直し1					加藤	
第6回	関係する文献の調べ直しと発表1					加藤	
第7回	関係する文献の調べ直しとディスカッション1					加藤	
第8回	論点整理					加藤	
第9回	関係する文献の調べ直し2					加藤	
第10回	関係する文献の調べ直しと発表2					加藤	

第 1 1 回	関係する文献の調べ直しとディスカッション2	加藤	
第 1 2 回	研究計画の見直し	加藤	
第 1 3 回	研究計画の見直しと発表	加藤	
第 1 4 回	研究計画の見直しとディスカッション	加藤	
第 1 5 回	最終まとめ（自らの研究テーマについて発表する）	加藤	
第 1 6 回	単位認定試験	加藤	
教科書			
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	佐藤 匡		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他3年			ナンバリング	FS-FS-3-805		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさも守ろう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	外国学科の演習Ⅲでは、演習Ⅱで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第3ステップとして、自らの研究テーマを見直し、知的的好奇心と自ら学ぶ姿勢を持って主体的に研究を進める力を養う。また、自分の研究テーマについて適切に情報収集したり、文献を読んで整理し発表やディスカッションしたりしながら、自ら社会問題や課題を解決に導く力を養う。演習Ⅲでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力を総合的に発揮する総合力、情報を活用する力、主体的な学びと論理的な思考、課題解決力の修得を目指す。						
授業概要	演習Ⅰ・Ⅱを通じて考えた研究テーマを練り直す。先行研究に関する論文や書籍を調べ熟読し、先行研究の目的・方法・結果・結論・残された課題などの要点を整理する。幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養うために、なるべく多くの論文や書籍を読み、要点を整理する。そして、先行研究と自らが着想した研究を比較し、独自性や特色などを付け加え研究を進める。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55%）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45%）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日 3時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日 4時限目 秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日 2時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日 3時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅲの概説					佐藤 匡	
第2回	研究テーマの見直し					佐藤 匡	
第3回	研究テーマの見直しと発表					佐藤 匡	
第4回	研究テーマの見直しとディスカッション					佐藤 匡	
第5回	関係する文献の調べ直し1					佐藤 匡	
第6回	関係する文献の調べ直しと発表1					佐藤 匡	

第 7 回	関係する文献の調べ直しとディスカッション1	佐藤 匡
第 8 回	論点整理 研究倫理に基づく責任ある研究活動について	佐藤 匡
第 9 回	関係する文献の調べ直し2	佐藤 匡
第 1 0 回	関係する文献の調べ直しと発表2	佐藤 匡
第 1 1 回	関係する文献の調べ直しとディスカッション2	佐藤 匡
第 1 2 回	研究計画の見直し	佐藤 匡
第 1 3 回	研究計画の見直しと発表	佐藤 匡
第 1 4 回	研究計画の見直しとディスカッション	佐藤 匡
第 1 5 回	最終まとめ（自らの研究テーマについて発表する）	佐藤 匡
第 1 6 回	単位認定試験	佐藤 匡

教科書			
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他3年			ナンバリング	FS-FS-3-805		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用	○	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	外国学科の演習Ⅲでは、演習Ⅱで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第3ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマの見直し、関係する文献を調べ直し、テーマや関係文献の論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。多くの文献を読んで、幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養いましょう。また、発表技術の向上を意識して、ゼミ活動に積極的に参画しよう。						
授業概要	演習Ⅰ・Ⅱを通じて考えた研究テーマを練り直す。先行研究に関する論文や書籍を調べ熟読し、先行研究の目的・方法・結果・結論・残された課題などの要点を整理する。幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養うために、なるべく多くの論文や書籍を読み、要点を整理する。そして、先行研究と自らが着想した研究を比較し、独自性や特色などを付け加え研究を進める。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	単位認定試験（55％）、学習ルーブリック（45％）						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等については、授業およびメール等によってフィードバックする。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	11:30-13:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅲの概説					Merviö	
第2回	研究テーマの見直し					Merviö	
第3回	研究テーマの見直しと発表					Merviö	
第4回	研究テーマの見直しとディスカッション					Merviö	
第5回	関係する文献の調べ直し1					Merviö	
第6回	関係する文献の調べ直しと発表1					Merviö	
第7回	関係する文献の調べ直しとディスカッション1					Merviö	
第8回	論点整理					Merviö	
第9回	関係する文献の調べ直し2 再確認					Merviö	
第10回	関係する文献の調べ直しと発表2 プレゼンテーションの準備					Merviö	
第11回	関係する文献の調べ直しとディスカッション2 要点整理					Merviö	
第12回	研究計画の見直し、再確認					Merviö	
第13回	研究計画の見直しと発表					Merviö	
第14回	研究計画の修正・推敲					Merviö	
第15回	最終まとめ（自らの研究テーマについて発表する）					Merviö	
第16回	単位認定試験					Merviö	
教科書							
教・書籍名1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	

教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	資料を適宜配布する。	参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	高木 秀明		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-806		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の演習Ⅳでは、演習Ⅲで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第4ステップとして、自らの研究テーマを絞り込み、知的好奇心と自ら学ぶ姿勢を持って主体的に研究を進める力を養う。また、自分の研究テーマについて関連する文献をいくつか特定し熟読したり、テーマや関連する文献の論点をまとめ、発表やディスカッションを行ったりしながら、自ら社会問題や課題を解決に導く力を養う。演習Ⅳでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力を総合的に発揮する総合力、情報を活用する力、主体的な学びと論理的な思考、課題解決力のさらなる修得を目指す。						
授業概要	4年生で取り組む卒業研究に向けて、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通じて考えた研究テーマを推敲する。研究に関する論文や書籍などの文献を調べ、関連の深い文献を絞り込み熟読する。テーマや関係文献の論点をまとめ、発表やディスカッションを行う。先行研究の要点を整理し自らの研究に活かすとともに、研究の着想方法、研究手法や考察の仕方についても学ぶ。そして、卒業研究の研究計画の素案をつくることを目標とする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55%）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45%）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	個人研究室にて金曜日2時限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅳの概説					高木	
第2回	研究テーマの見直し					高木	
第3回	研究テーマの見直しと発表					高木	
第4回	研究テーマの見直しとディスカッション					高木	
第5回	関係する文献の調べ直し1					高木	
第6回	関係する文献の調べ直しと発表1					高木	
第7回	関係する文献の調べ直しとディスカッション1					高木	
第8回	論点整理					高木	
第9回	関係する文献の調べ直し2					高木	
第10回	関係する文献の調べ直しと発表2					高木	
第11回	関係する文献の調べ直しとディスカッション2					高木	
第12回	研究計画の見直し					高木	
第13回	研究計画の見直しと発表					高木	
第14回	研究計画の見直しとディスカッション					高木	

第 1 5 回	最終まとめ（自らの研究テーマについて発表する）	高木	
第 1 6 回	単位認定試験	高木	
教科書			
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	大下 浩司		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-806		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の演習Ⅳでは、演習Ⅲで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第4ステップとして、自らの研究テーマを絞り込み、知的好奇心と自ら学ぶ姿勢を持って主体的に研究を進める力を養う。また、自分の研究テーマについて関連する文献をいくつか特定し熟読したり、テーマや関連する文献の論点をまとめ、発表やディスカッションを行ったりしながら、自ら社会問題や課題を解決に導く力を養う。演習Ⅳでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力を総合的に発揮する総合力、情報を活用する力、主体的な学びと論理的な思考、課題解決力のさらなる修得を目指す。						
授業概要	4年生で取り組む卒業研究に向けて、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通じて考えた研究テーマを推敲する。研究に関する論文や書籍などの文献を調べ、関連の深い文献を絞り込み熟読する。テーマや関係文献の論点をまとめ、発表やディスカッションを行う。先行研究の要点を整理し自らの研究に活かすとともに、研究の着想方法、研究手法や考察の仕方についても学ぶ。そして、卒業研究の研究計画の素案をつくることを目標とする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55%）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45%）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅳの概説					大下浩司	
第2回	研究テーマの見直し					大下浩司	
第3回	研究テーマの見直しと発表					大下浩司	
第4回	研究テーマの見直しとディスカッション					大下浩司	
第5回	関係する文献の調べ直し1					大下浩司	
第6回	関係する文献の調べ直しと発表1					大下浩司	
第7回	関係する文献の調べ直しとディスカッション1					大下浩司	
第8回	論点整理					大下浩司	
第9回	関係する文献の調べ直し2					大下浩司	
第10回	関係する文献の調べ直しと発表2					大下浩司	
第11回	関係する文献の調べ直しとディスカッション2					大下浩司	
第12回	研究計画の見直し					大下浩司	
第13回	研究計画の見直しと発表					大下浩司	
第14回	研究計画の見直しとディスカッション					大下浩司	
第15回	最終まとめ（自らの研究テーマについて発表する）					大下浩司	
第16回	単位認定試験					大下浩司	

教科書			
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・I S B N 2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-806		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	外国学科の演習Ⅳでは、演習Ⅲで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第4ステップとして、自らの研究テーマを絞り込み、知的的好奇心と自ら学ぶ姿勢を持って主体的に研究を進める力を養う。また、自分の研究テーマについて関連する文献をいくつか特定し熟読したり、テーマや関連する文献の論点をまとめ、発表やディスカッションを行ったりしながら、自ら社会問題や課題を解決に導く力を養う。演習Ⅳでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力を総合的に発揮する総合力、情報を活用する力、主体的な学びと論理的な思考、課題解決力のさらなる修得を目指す。						
授業概要	4年生で取り組む卒業研究に向けて、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通じて考えた研究テーマを推敲する。研究に関する論文や書籍などの文献を調べ、関連の深い文献を絞り込み熟読する。テーマや関係文献の論点をまとめ、発表やディスカッションを行う。先行研究の要点を整理し自らの研究に活かすとともに、研究の着想方法、研究手法や考察の仕方についても学ぶ。そして、卒業研究の研究計画の素案をつくることを目標とする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55%）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45%）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週木曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅳの概説					大下(朋)	
第2回	研究テーマの見直し					大下(朋)	
第3回	研究テーマの見直しと発表					大下(朋)	
第4回	研究テーマの見直しとディスカッション					大下(朋)	
第5回	関係する文献の調べ直し1					大下(朋)	
第6回	関係する文献の調べ直しと発表1					大下(朋)	
第7回	関係する文献の調べ直しとディスカッション1					大下(朋)	
第8回	論点整理					大下(朋)	
第9回	関係する文献の調べ直し2					大下(朋)	
第10回	関係する文献の調べ直しと発表2					大下(朋)	
第11回	関係する文献の調べ直しとディスカッション2					大下(朋)	
第12回	研究計画の見直し					大下(朋)	
第13回	研究計画の見直しと発表					大下(朋)	
第14回	研究計画の見直しとディスカッション					大下(朋)	

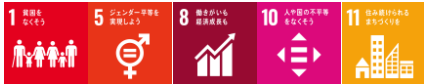
第 1 5 回	最終まとめ（自らの研究テーマについて発表する）	大下(朋)
第 1 6 回	単位認定試験	大下(朋)
教科書		
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ I S B N 2

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-806		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／8. 働きがいも経済成長も／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	外国学科の演習Ⅳでは、演習Ⅲで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第4ステップとして、自らの研究テーマを絞り込み、知的好奇心と自ら学ぶ姿勢を持って主体的に研究を進める力を養う。また、自分の研究テーマについて関連する文献をいくつか特定し熟読したり、テーマや関連する文献の論点をまとめ、発表やディスカッションを行ったりしながら、自ら社会問題や課題を解決に導く力を養う。演習Ⅳでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力を総合的に発揮する総合力、情報を活用する力、主体的な学びと論理的な思考、課題解決力のさらなる修得を目指す。						
授業概要	4年生で取り組む卒業研究に向けて、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通じて考えた研究テーマを推敲する。研究に関する論文や書籍などの文献を調べ、関連の深い文献を絞り込み熟読する。テーマや関係文献の論点をまとめ、発表やディスカッションを行う。先行研究の要点を整理し自らの研究に活かすとともに、研究の着想方法、研究手法や考察の仕方についても学ぶ。そして、卒業研究の研究計画の素案をつくることを目標とする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55％）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45％）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。 参考文献、資料は教員が準備する。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅳの概説					畝	
第2回	研究テーマの見直し					畝	
第3回	研究テーマの見直しと発表					畝	
第4回	研究テーマの見直しとディスカッション					畝	
第5回	関係する文献の調べ直し1					畝	
第6回	関係する文献の調べ直しと発表1					畝	
第7回	換気する文献の調べ直しとディスカッション1					畝	
第8回	論点整理					畝	
第9回	関係する文献の調べ直し2					畝	
第10回	関係する文献の調べ直しと発表2					畝	
第11回	関係する文献の調べ直しとディスカッション2					畝	
第12回	研究計画の見直し					畝	
第13回	研究計画の見直しと発表					畝	

第 1 4 回	研究計画の見直しとディスカッション	畝	
第 1 5 回	最終まとめ（自らの研究テーマについて発表する）	畝	
第 1 6 回	単位認定試験	畝	
教科書			
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	池上 真由美		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-806		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 10. 人や国の不平等をなくそう 16. 平和と公正をすべての人に						
到達目標	外国学科の演習Ⅳでは、演習Ⅲで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第4ステップとして、自らの研究テーマを絞り込み、知的好奇心と自ら学ぶ姿勢を持って主体的に研究を進める力を養う。また、自分の研究テーマについて関連する文献をいくつか特定し熟読したり、テーマや関連する文献の論点をまとめ、発表やディスカッションを行ったりしながら、自ら社会問題や課題を解決に導く力を養う。演習Ⅳでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力を総合的に発揮する総合力、情報を活用する力、主体的な学びと論理的な思考、課題解決力のさらなる修得を目指す。						
授業概要	4年生で取り組む卒業研究に向けて、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通じて考えた研究テーマを推敲する。研究に関係する論文や書籍などの文献を調べ、関連の深い文献を絞り込み熟読する。テーマや関係文献の論点をまとめ、発表やディスカッションを行う。先行研究の要点を整理し自らの研究に活かすとともに、研究の着想方法、研究手法や考察の仕方についても学ぶ。そして、卒業研究の研究計画の素案をつくることを目標とする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55％）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45％）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理し						

の時間	ておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。		
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室112にて、毎週火曜日4限をオフィスアワーの時間とする。		
授業計画		担当者	
第1回	演習Ⅳの概説	池上	
第2回	研究テーマの見直し	池上	
第3回	研究テーマの見直しと発表	池上	
第4回	研究テーマの見直しとディスカッション	池上	
第5回	関係する文献の調べ直し1	池上	
第6回	関係する文献の調べ直しと発表1	池上	
第7回	関係する文献の調べ直しとディスカッション1	池上	
第8回	論点整理	池上	
第9回	関係する文献の調べ直し2	池上	
第10回	関係する文献の調べ直しと発表2	池上	
第11回	関係する文献の調べ直しとディスカッション2	池上	
第12回	研究計画の見直し	池上	
第13回	研究計画の見直しと発表	池上	
第14回	研究計画の見直しとディスカッション	池上	
第15回	最終まとめ（自らの研究テーマについて発表する）	池上	
第16回	単位認定試験	池上	
教科書			
教・書籍名1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1		参・出版社名1	
参・著者名1		参・ISBN1	
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ISBN2	

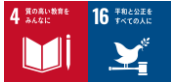
授業科目名	演習Ⅳ			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-806		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを 						
到達目標	外国学科の演習Ⅳでは、演習Ⅲで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第4ステップとして、自らの研究テーマを絞り込み、知的好奇心と自ら学ぶ姿勢を持って主体的に研究を進める力を養う。また、自分の研究テーマについて関連する文献をいくつか特定し熟読したり、テーマや関連する文献の論点をまとめ、発表やディスカッションを行ったりしながら、自ら社会問題や課題を解決に導く力を養う。演習Ⅳでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力を総合的に発揮する総合力、情報を活用する力、主体的な学びと論理的な思考、課題解決力のさらなる修得を目指す。						
授業概要	4年生で取り組む卒業研究に向けて、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通じて考えた研究テーマを推敲する。研究に関する論文や書籍などの文献を調べ、関連の深い文献を絞り込み熟読する。テーマや関係文献の論点をまとめ、発表やディスカッションを行う。先行研究の要点を整理し自らの研究に活かすとともに、研究の着想方法、研究手法や考察の仕方についても学ぶ。そして、卒業研究の研究計画の素案をつくることを目標とする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55％）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45％）として評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週火曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅳの概説					加藤	
第2回	研究テーマの見直し					加藤	
第3回	研究テーマの見直しと発表					加藤	
第4回	研究テーマの見直しとディスカッション					加藤	
第5回	関係する文献の調べ直し1					加藤	
第6回	関係する文献の調べ直しと発表1					加藤	
第7回	関係する文献の調べ直しとディスカッション1					加藤	
第8回	論点整理					加藤	

第 9 回	関係する文献の調べ直し2	加藤	
第 1 0 回	関係する文献の調べ直しと発表2	加藤	
第 1 1 回	関係する文献の調べ直しとディスカッション2	加藤	
第 1 2 回	研究計画の見直し	加藤	
第 1 3 回	研究計画の見直しと発表	加藤	
第 1 4 回	研究計画の見直しとディスカッション	加藤	
第 1 5 回	最終まとめ（自らの研究テーマについて発表する）	加藤	
第 1 6 回	単位認定試験	加藤	
教科書			
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	佐藤 匡		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-806		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	外国学科の演習Ⅳでは、演習Ⅲで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第4ステップとして、自らの研究テーマを絞り込み、知的的好奇心と自ら学ぶ姿勢を持って主体的に研究を進める力を養う。また、自分の研究テーマについて関連する文献をいくつか特定し熟読したり、テーマや関連する文献の論点をまとめ、発表やディスカッションを行ったりしながら、自ら社会問題や課題を解決に導く力を養う。演習Ⅳでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力を総合的に発揮する総合力、情報を活用する力、主体的な学びと論理的な思考、課題解決力のさらなる修得を目指す。						
授業概要	4年生で取り組む卒業研究に向けて、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通じて考えた研究テーマを推敲する。研究に関する論文や書籍などの文献を調べ、関連の深い文献を絞り込み熟読する。テーマや関係文献の論点をまとめ、発表やディスカッションを行う。先行研究の要点を整理し自らの研究に活かすとともに、研究の着想方法、研究手法や考察の仕方についても学ぶ。そして、卒業研究の研究計画の素案をつくることを目標とする。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55％）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45％）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日 3時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日 4時限目 秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日 2時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日 3時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅳの概説					佐藤 匡	
第2回	研究テーマの見直し					佐藤 匡	
第3回	研究テーマの見直しと発表					佐藤 匡	
第4回	研究テーマの見直しとディスカッション					佐藤 匡	
第5回	関係する文献の調べ直し1					佐藤 匡	
第6回	関係する文献の調べ直しと発表1					佐藤 匡	

第 7 回	関係する文献の調べ直しとディスカッション1	佐藤 匡
第 8 回	論点整理 研究倫理に基づく責任ある研究活動について	佐藤 匡
第 9 回	関係する文献の調べ直し2	佐藤 匡
第 1 0 回	関係する文献の調べ直しと発表2	佐藤 匡
第 1 1 回	関係する文献の調べ直しとディスカッション2	佐藤 匡
第 1 2 回	研究計画の見直し	佐藤 匡
第 1 3 回	研究計画の見直しと発表	佐藤 匡
第 1 4 回	研究計画の見直しとディスカッション	佐藤 匡
第 1 5 回	最終まとめ（自らの研究テーマについて発表する）	佐藤 匡
第 1 6 回	単位認定試験	佐藤 匡

教科書			
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	演習Ⅳ			担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-806		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	外国学科の演習Ⅳでは、演習Ⅲで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第4ステップの準備活動を行います。指導教員の指示に従い、自らの研究テーマの絞り込み、関係する文献をいくつか特定し熟読し、テーマや関係文献の論点をまとめ、ゼミで発表し、討議します。卒業論文の研究計画の素案をつくることを目標に、積極的なゼミ活動への参画をしましょう。						
授業概要	4年生で取り組む卒業研究に向けて、演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを通じて考えた研究テーマを推敲する。研究に関する論文や書籍などの文献を調べ、関連の深い文献を絞り込み熟読する。先行研究の要点を整理し自らの研究に活かすとともに、研究の着想方法、研究手法や考察の仕方についても学ぶ。そして、卒業研究に関する計画の素案を作る。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	単位認定試験（55％）、学習ルーブリック（45％）						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	評価の対象となる課題等については、授業やメール等でフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて。毎週金曜日2時限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅳの概説					Merviö	
第2回	研究テーマの見直し					Merviö	
第3回	研究テーマの見直しと発表					Merviö	
第4回	研究テーマの見直しとディスカッション					Merviö	
第5回	関係する文献の調べ直し1					Merviö	
第6回	関係する文献の調べ直しと発表1					Merviö	
第7回	関係する文献の調べ直しとディスカッション1					Merviö	
第8回	論点整理					Merviö	
第9回	関係する文献の調べ直し2					Merviö	
第10回	関係する文献の調べ直しと発表2					Merviö	
第11回	関係する文献の調べ直しとディスカッション2					Merviö	
第12回	研究計画の見直し					Merviö	
第13回	研究計画の見直しと発表					Merviö	
第14回	研究計画の見直しとディスカッション					Merviö	
第15回	最終まとめ（自らの研究テーマについて発表する）					Merviö	
第16回	単位認定試験					Merviö	
教科書							
教・書籍名1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	
参考書							

参・書籍名 1	資料を適宜配布する。	参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	卒業研究Ⅰ			担当者	高木 秀明		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国4年			ナンバリング	FS-FS-4-807		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の卒業研究Ⅰでは、これまで演習科目で学んだ内容などをもとに、卒業研究を進め、本格的に論文執筆を始める。自分の研究テーマについて文献を読んで整理し、発表やディスカッションしたりする中で、演習科目の評価基準となる9つの力を修得し、総合的に発揮できるようになる。また、論文執筆や報告会を通して、論拠に基づいて、相手に分かりやすく書く文章力や説明力を修得する。						
授業概要	論文執筆に必要な文献や資料を収集し、それらを熟読し、発表やディスカッションを行いながら、卒論の執筆を進める。論文草稿の作成、研究方法や調査方法の決定も行う。文献やインターネット等で収集した情報のうち有用なものを吟味して活用する力、論理的に思考し、説得力のある文章を書いたり、話したりする力は、社会人として必要な能力である。本演習において、学生は、適宜、関連文献の発表やディスカッションなどを行い、これらの力を養うとともに、互いに様々な知識を共有し合いながら、卒業論文の完成を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45％）、卒業論文題目・計画書の内容（20％）、中間報告の内容（20％）、特別配点（15％）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。卒業論文の内容を点検し、必要に応じて添削を行う。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。卒業論文完成に向け、春学期は「卒業論文題目・計画書」を作成し、5月下旬に卒論計画発表会を行い、発表後「卒業論文題目・計画書」を提出すること。7月下旬に実施する中間報告会では、卒業論文の進捗状況を発表すること。最終評価者である担当教員と本専攻の教員で相互に評価する。外部評価者に参考意見を求めることもある。また、作成した本演習への積極的な参加も評価の基準となるので、毎回参加すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	卒業論文の執筆には、多くの時間を要する。研究内容を充実させるため、予習と復習を各2時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、論文の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週火曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	卒業研究Ⅰの概説					高木	
第2回	研究テーマの設定					高木	
第3回	文献・資料の収集					高木	
第4回	卒業論文題目・計画書の作成(1)題目の決定					高木	
第5回	卒業論文題目・計画書の作成(2)問題設定					高木	
第6回	卒業論文題目・計画書の作成(3)論文執筆の手順					高木	
第7回	卒論計画発表会(卒業論文題目・計画について)					全教員	
第8回	論文・関連文献を読む(1)					高木	
第9回	論文・関連文献を読む(2)					高木	
第10回	論文・関連文献の発表(1)					高木	
第11回	論文・関連文献の発表(2)					高木	

第 1 2 回	卒業論文の執筆(1)	高木	
第 1 3 回	卒業論文の執筆(2)	高木	
第 1 4 回	卒業論文の執筆(3)	高木	
第 1 5 回	卒業論文の執筆(4)	高木	
第 1 6 回	中間報告会（卒業論文の進捗状況①）	全教員	
教科書			
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	卒業研究Ⅰ			担当者	大下 浩司		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国4年			ナンバリング	FS-FS-4-807		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の卒業研究Ⅰでは、これまで演習科目で学んだ内容などをもとに、卒業研究を進め、本格的に論文執筆を始める。自分の研究テーマについて文献を読んで整理し、発表やディスカッションしたりする中で、演習科目の評価基準となる9つの力を修得し、総合的に発揮できるようになる。また、論文執筆や報告会を通して、論拠に基づいて、相手に分かりやすく書く文章力や説明力を修得する。						
授業概要	論文執筆に必要な文献や資料を収集し、それらを熟読し、発表やディスカッションを行いながら、卒論の執筆を進める。論文草稿の作成、研究方法や調査方法の決定も行う。文献やインターネット等で収集した情報のうち有用なものを吟味して活用する力、論理的に思考し、説得力のある文章を書いたり、話したりする力は、社会人として必要な能力である。本演習において、学生は、適宜、関連文献の発表やディスカッションなどを行い、これらの力を養うとともに、互いに様々な知識を共有し合いながら、卒業論文の完成を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45％）、卒業論文題目・計画書の内容（20％）、中間報告の内容（20％）、特別配点（15％）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。卒業論文の内容を点検し、必要に応じて添削を行う。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。卒業論文完成に向け、春学期は「卒業論文題目・計画書」を作成し、5月下旬に卒論計画発表会を行い、発表後「卒業論文題目・計画書」を提出すること。7月下旬に実施する中間報告会では、卒業論文の進捗状況を発表すること。最終評価者である担当教員と本専攻の教員で相互に評価する。外部評価者に参考意見を求めることもある。また、作成した本演習への積極的な参加も評価の基準となるので、毎回参加すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	卒業論文の執筆には、多くの時間を要する。研究内容を充実させるため、予習と復習を各2時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、論文の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	卒業研究Ⅰの概説					大下浩司	
第2回	研究テーマの設定					大下浩司	
第3回	文献・資料の収集					大下浩司	
第4回	卒業論文題目・計画書の作成(1)題目の決定					大下浩司	
第5回	卒業論文題目・計画書の作成(2)問題設定					大下浩司	
第6回	卒業論文題目・計画書の作成(3)論文執筆の手順					大下浩司	
第7回	卒論計画発表会(卒業論文題目・計画について)					全員	
第8回	論文・関連文献を読む(1)					大下浩司	
第9回	論文・関連文献を読む(2)					大下浩司	
第10回	論文・関連文献の発表(1)					大下浩司	
第11回	論文・関連文献の発表(2)					大下浩司	
第12回	卒業論文の執筆(1)					大下浩司	
第13回	卒業論文の執筆(2)					大下浩司	

第 1 4 回	卒業論文の執筆(3)	大下浩司
第 1 5 回	卒業論文の執筆(4)	大下浩司
第 1 6 回	中間報告会（卒業論文の進捗状況①）	全員
教科書		
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	卒業研究Ⅰ			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国4年			ナンバリング	FS-FS-4-807		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	外国学科の卒業研究Ⅰでは、これまで演習科目で学んだ内容などをもとに、卒業研究を進め、本格的に論文執筆を始める。自分の研究テーマについて文献を読んで整理し、発表やディスカッションしたりする中で、演習科目の評価基準となる9つの力を修得し、総合的に発揮できるようになる。また、論文執筆や報告会を通して、論拠に基づいて、相手に分かりやすく書く文章力や説明力を修得する。						
授業概要	論文執筆に必要な文献や資料を収集し、それらを熟読し、発表やディスカッションを行いながら、卒論の執筆を進める。論文草稿の作成、研究方法や調査方法の決定も行う。文献やインターネット等で収集した情報のうち有用なものを吟味して活用する力、論理的に思考し、説得力のある文章を書いたり、話したりする力は、社会人として必要な能力である。本演習において、学生は、適宜、関連文献の発表やディスカッションなどを行い、これらの力を養うとともに、互いに様々な知識を共有し合いながら、卒業論文の完成を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45％）、卒業論文題目・計画書の内容（20％）、中間報告の内容（20％）、特別配点（15％）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。卒業論文の内容を点検し、必要に応じて添削を行う。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。卒業論文完成に向け、春学期は「卒業論文題目・計画書」を作成し、5月下旬に卒論計画発表会を行い、発表後「卒業論文題目・計画書」を提出すること。7月下旬に実施する中間報告会では、卒業論文の進捗状況を発表すること。最終評価者である担当教員と本専攻の教員で相互に評価する。外部評価者に参考意見を求めることもある。また、作成した本演習への積極的な参加も評価の基準となるので、毎回参加すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	卒業論文の執筆には、多くの時間を要する。研究内容を充実させるため、予習と復習を各2時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、論文の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週木曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	卒業研究Ⅰの概説						大下朋子
第2回	研究テーマの設定						大下朋子
第3回	文献・資料の収集						大下朋子
第4回	卒業論文題目・計画書の作成(1)題目の決定						大下朋子
第5回	卒業論文題目・計画書の作成(2)問題設定						大下朋子
第6回	卒業論文題目・計画書の作成(3)論文執筆の手順						大下朋子
第7回	卒論計画発表会(卒業論文題目・計画について)						全教員
第8回	論文・関連文献を読む(1)						大下朋子
第9回	論文・関連文献を読む(2)						大下朋子
第10回	論文・関連文献の発表(1)						大下朋子
第11回	論文・関連文献の発表(2)						大下朋子

第 1 2 回	卒業論文の執筆(1)	大下朋子	
第 1 3 回	卒業論文の執筆(2)	大下朋子	
第 1 4 回	卒業論文の執筆(3)	大下朋子	
第 1 5 回	卒業論文の執筆(4)	大下朋子	
第 1 6 回	中間報告会（卒業論文の進捗状況①）	全教員	
教科書			
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	卒業研究Ⅰ			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国4年			ナンバリング	FS-FS-4-807		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の卒業研究Ⅰでは、これまで演習科目で学んだ内容などをもとに、卒業研究を進め、本格的に論文執筆を始める。自分の研究テーマについて文献を読んで整理し、発表やディスカッションしたりする中で、演習科目の評価基準となる9つの力を修得し、総合的に発揮できるようになる。また、論文執筆や報告会を通して、論拠に基づいて、相手に分かりやすく書く文章力や説明力を修得する。特に、この授業では、スタディ・アブロードやインターンシップなどで自ら体験した問題や課題を、図表やマトリックスなどを活用しビジュアル化する技術を学ぶ。中間発表、研究計画発表で使う発表用PPTスライドを作ることを通じて、プレゼンテーションの構造や論理構成を学ぶ。						
授業概要	論文執筆に必要な文献や資料を収集し、それらを熟読し、発表やディスカッションを行いながら、卒論の執筆を進める。論文草稿の作成、研究方法や調査方法の決定も行う。文献やインターネット等で収集した情報のうち有用なものを吟味して活用する力、論理的に思考し、説得力のある文章を書いたり、話したりする力は、社会人として必要な能力である。本演習において、学生は、適宜、関連文献の発表やディスカッションなどを行い、これらの力を養うとともに、互いに様々な知識を共有し合いながら、卒業論文の完成を目指す。 特に、本演習では、研究成果を英語で発表することになっている。これらは重要な経験である。発表には効果的な発表技術があり、これを習得することは学会発表のみならず、様々な場面で有用となる。実社会においては、効果的な発表技術を有する人材が求められている。 本演習では、プレゼンテーションの構造や論理構成を理解した上で、スタディ・アブロード、インターンシップなどで自ら体験した問題や課題を理解した上で、図表やマトリックスなどを活用しビジュアル化し、実際に発表PPTスライドを作成する。 春学期においては、卒業論文の執筆を秋学期に行うことを前提として、卒業論文研究の研究計画を作成し、それを研究計画PPTスライドにとりまとめる。そして、PPTスライドを使って、研究計画の発表を行う。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45％）、卒業論文題目・計画書の内容（20％）、中間報告の内容（20％）、特別配点（15％）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。卒業論文の内容を点検し、必要に応じて添削を行う。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本演習においては、卒業論文完成に向け、春学期は、5月下旬に中間発表会を行い、卒業論文の研究計画素案を発表し、担当教員他からのコメントを踏まえ、研究計画の修正を行う。7月下旬に実施する研究計画報告会では、卒業論文の進捗状況を盛り込みつつ、研究計画の発表を行う。発表へのコメントなどを踏まえ、研究題目・研究計画書を英語で作成し提出する。最終評価者である担当教員と関係教員で相互に評価する。外部評価者に参考意見を求めることもある。また、本演習への積極的な参加も評価の基準となるので、毎回参加すること。 この演習はすべて英語で行われること。 各自の研究内容に応じて、参考図書、論文などを指定する。進捗状況の報告、相談は、学生が積極的に担当教員と行うこと。 プレゼンテーションの英語は、英語教員の協力を得て、チェックを怠らないこと。						

実務経験のある教員	該当しない	内容	
事前学習・事後学習とその時間	卒業論文の執筆には、多くの時間を要する。研究内容を充実させるため、予習と復習を各2時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、論文の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。		
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日4限目をオフィスアワーにします。		
授業計画			担当者
第1回	オリエンテーション		畝
第2回	英語で論文を書くこと（1）		畝
第3回	英語で論文を書くこと（2）		畝
第4回	先行研究を探す		畝
第5回	個別指導		畝
第6回	個別指導		畝
第7回	中間発表準備		畝
第8回	中間発表（tbc）		関係教員
第9回	中間発表の振り返り		畝
第10回	研究目的、先行研究、研究方法		畝
第11回	個別指導		畝
第12回	個別指導		畝
第13回	研究計画の作成		畝
第14回	研究計画の発表準備		畝
第15回	研究計画発表会		関係教員
第16回	研究計画発表会の振り返り		畝
教科書			
教・書籍名1	担当教員が受講生の研究内容に応じ参考図書の指定をし、予習資料を配付する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	黒木登志夫『知的文章とプレゼンテーション』	参・出版社名1	中公新書
参・著者名1	酒井聡樹『これから学会発表する若者のために』	参・ISBN1	共立出版
参・書籍名2	木下是雄『理科系の作文技術』	参・出版社名2	中公新書
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	卒業研究Ⅰ			担当者	池上 真由美			
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国4年			ナンバリング	FS-FS-4-807			
必修・選択	必修	単位数	2単位		時間数	30	授業形態	演習
年次	4年		開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目								
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	○	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 10. 人や国の不平等をなくそう 11. 住み続けられるまちづくりを 16. 平和と公正をすべての人に							
到達目標	外国学科の卒業研究Ⅰでは、これまで演習科目で学んだ内容などをもとに、卒業研究を進め、本格的に論文執筆を始める。自分の研究テーマについて文献を読んで整理し、発表やディスカッションしたりする中で、演習科目の評価基準となる9つの力を修得し、総合的に発揮できるようになる。また、論文執筆や報告会を通して、論拠に基づいて、相手に分かりやすく書く文章力や説明力を修得する。							
授業概要	論文執筆に必要な文献や資料を収集し、それらを熟読し、発表やディスカッションを行いながら、卒論の執筆を進める。論文草稿の作成、研究方法や調査方法の決定も行う。文献やインターネット等で収集した情報のうち有用なものを吟味して活用する力、論理的に思考し、説得力のある文章を書いたり、話したりする力は、社会人として必要な能力である。本演習において、学生は、適宜、関連文献の発表やディスカッションなどを行い、これらの力を養うとともに、互いに様々な知識を共有し合いながら、卒業論文の完成を目指す。							
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク							
評価方法と割合	本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45％）、卒業論文題目・計画書の内容（20％）、中間報告の内容（20％）、特別配点（15％）として評価する。							
ルーブリック評価								
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。卒業論文の内容を点検し、必要に応じて添削を行う。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。							
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。卒業論文完成に向け、春学期は「卒業論文題目・計画書」を作成し、5月下旬に卒論計画発表会を行い、発表後「卒業論文題目・計画書」を提出すること。7月下旬に実施する中間報告会では、卒業論文の進捗状況を発表すること。最終評価者である担当教員と本専攻の教員で相互に評価する。外部評価者に参考意見を求めることもある。また、作成した本演習への積極的な参加も評価の基準となるので、毎回参加すること。							
実務経験のある教員	該当しない	内容						
事前学習・事後学習とその時間	卒業論文の執筆には、多くの時間を要する。研究内容を充実させるため、予習と復習を各2時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、論文の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。							
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室112にて、毎週火曜日3限をオフィスアワーの時間とする。							
授業計画							担当者	
第1回	卒業研究Ⅰの概説						池上	
第2回	研究テーマの設定						池上	
第3回	文献・資料の収集						池上	
第4回	卒業論文題目・計画書の作成(1)題目の決定						池上	

第 5 回	卒業論文題目・計画書の作成(2)問題設定	池上
第 6 回	卒業論文題目・計画書の作成(3)論文執筆の手順	池上
第 7 回	卒論計画発表会(卒業論文題目・計画について)	全員
第 8 回	論文・関連文献を読む(1)	池上
第 9 回	論文・関連文献を読む(2)	池上
第 1 0 回	論文・関連文献の発表 (1)	池上
第 1 1 回	論文・関連文献の発表 (2)	池上
第 1 2 回	卒業論文の執筆(1)	池上
第 1 3 回	卒業論文の執筆(2)	池上
第 1 4 回	卒業論文の執筆(3)	池上
第 1 5 回	卒業論文の執筆(4)	池上
第 1 6 回	中間報告会 (卒業論文の進捗状況①)	全員
教科書		
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	卒業研究Ⅰ			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国4年			ナンバリング	FS-FS-4-807		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを 						
到達目標	外国学科の卒業研究Ⅰでは、これまで演習科目で学んだ内容などをもとに、卒業研究を進め、本格的に論文執筆を始める。自分の研究テーマについて文献を読んで整理し、発表やディスカッションしたりする中で、演習科目の評価基準となる9つの力を修得し、総合的に発揮できるようになる。また、論文執筆や報告会を通して、論拠に基づいて、相手に分かりやすく書く文章力や説明力を修得する。						
授業概要	論文執筆に必要な文献や資料を収集し、それらを熟読し、発表やディスカッションを行いながら、卒論の執筆を進める。論文草稿の作成、研究方法や調査方法の決定も行う。文献やインターネット等で収集した情報のうち有用なものを吟味して活用する力、論理的に思考し、説得力のある文章を書いたり、話したりする力は、社会人として必要な能力である。本演習において、学生は、適宜、関連文献の発表やディスカッションなどを行い、これらの力を養うとともに、互いに様々な知識を共有し合いながら、卒業論文の完成を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	本演習の到達目標に対する到達度を確保するための学修ルーブリック（45％）、卒業論文題目・計画書の内容（20％）、中間報告の内容（20％）、特別配点（15％）として評価する						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。卒業論文の内容を点検し、必要に応じて添削を行う。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。卒業論文完成に向け、春学期は「卒業論文題目・計画書」を作成し、5月下旬に卒論計画発表会を行い、発表後「卒業論文題目・計画書」を提出すること。7月下旬に実施する中間報告会では、卒業論文の進捗状況を発表すること。最終評価者である担当教員と本専攻の教員で相互に評価する。外部評価者に参考意見を求めることもある。また、作成した本演習への積極的な参加も評価の基準となるので、毎回参加すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	卒業論文の執筆には、多くの時間を要する。研究内容を充実させるため、予習と復習を各2時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、論文の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	毎週水曜日3限目（1号棟2階123研究室）						
授業計画						担当者	
第1回	卒業研究Ⅰの概説					加藤	
第2回	研究テーマの設定					加藤	
第3回	文献・資料の収集					加藤	
第4回	卒業論文題目・計画書の作成(1)題目の決定					加藤	
第5回	卒業論文題目・計画書の作成(2)問題設定					加藤	
第6回	卒業論文題目・計画書の作成(3)論文執筆の手順					加藤	

第 7 回	卒論計画発表会(卒業論文題目・計画について)	全員	
第 8 回	論文・関連文献を読む(1)	加藤	
第 9 回	論文・関連文献を読む(2)	加藤	
第 1 0 回	論文・関連文献の発表 (1)	加藤	
第 1 1 回	論文・関連文献の発表 (2)	加藤	
第 1 2 回	卒業論文の執筆(1)	加藤	
第 1 3 回	卒業論文の執筆(2)	加藤	
第 1 4 回	卒業論文の執筆(3)	加藤	
第 1 5 回	卒業論文の執筆(4)	加藤	
第 1 6 回	中間報告会 (卒業論文の進捗状況①)	加藤	
教科書			
教・書籍名 1	研究内容に応じて文献・資料などを適宜指示する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名		卒業研究Ⅰ		担当者		高橋 正巳				
配当学科・研究科		2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国4年		ナンバリング		FS-FS-4-807				
必修・選択		必修		単位数	2単位		時間数	30	授業形態	演習
年次		4年		開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜4限	
ディプロマポリシー対応項目										
DP 1. 知識・技能		○	DP 2. 情報の活用		◎	DP 3.主体的な学びと論理的な思考		◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		△	DP 6. 課題解決力		◎	DP 7. 自己効力感		◎	DP 8. 学科項目 ◎	
SDGs 関連項目		3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリーシップで目標を達成しよう 								
到達目標		外国学科の卒業研究Ⅰでは、これまで演習科目で学んだ内容などをもとに、卒業研究を進め、本格的に論文執筆を始める。自分の研究テーマについて文献を読んで整理し、発表やディスカッションしたりする中で、演習科目の評価基準となる9つの力を修得し、総合的に発揮できるようになる。また、論文執筆や報告会を通して、論拠に基づいて、相手に分かりやすく書く文章力や説明力を修得する。								
授業概要		論文執筆に必要な文献や資料を収集し、それらを熟読し、発表やディスカッションを行いながら、卒論の執筆を進める。論文草稿の作成、研究方法や調査方法の決定も行う。文献やインターネット等で収集した情報のうち有用なものを吟味して活用する力、論理的に思考し、説得力のある文章を書いたり、話したりする力は、社会人として必要な能力である。本演習において、学生は、適宜、関連文献の発表やディスカッションなどを行い、これらの力を養うとともに、互いに様々な知識を共有し合いながら、卒業論文の完成を目指す。								
アクティブラーニングの内容		ディスカッション／プレゼンテーション								
評価方法と割合		本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45%）、卒業論文題目・計画書の内容（20%）、中間報告の内容（20%）、特別配点（15%）として評価する。								
ルーブリック評価		/uprx/gaikoku.pdf								
課題や試験のフィードバック方法		本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。卒業論文の内容を点検し、必要に応じて添削を行う。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。								
履修条件・注意事項		適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。卒業論文完成に向け、春学期は「卒業論文題目・計画書」を作成し、5月下旬に卒論計画発表会を行い、発表後「卒業論文題目・計画書」を提出すること。7月下旬に実施する中間報告会では、卒業論文の進捗状況を発表すること。最終評価者である担当教員と本専攻の教員で相互に評価する。外部評価者に参考意見を求めることもある。また、作成した本演習への積極的な参加も評価の基準となるので、毎回参加すること。								
実務経験のある教員		該当する	内容	昭和51年大学経済学部卒、昭和57年大学院社会学研究科修士課程修了、昭和60年大学院社会学研究科博士課程満期修了退学。本学の特任教授である。						
事前学習・事後学習とその時間		卒業論文の執筆には、多くの時間を要する。研究内容を充実させるため、予習と復習を各2時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、論文の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。								
オフィスアワー		1号棟2階の124研究室にて、毎週木曜日3限をオフィスアワーの時間とする。								
授業計画										担当者
第1回	卒業研究Ⅰの概説									大下朋子
第2回	研究テーマの設定									高橋
第3回	文献・資料の収集									高橋
第4回	卒業論文題目・計画書の作成(1)題目の決定									高橋
第5回	卒業論文題目・計画書の作成(2)問題設定									高橋
第6回	卒業論文題目・計画書の作成(3)論文執筆の手順									高橋
第7回	卒論計画発表会(卒業論文題目・計画について)									全教員
第8回	論文・関連文献を読む(1)									高橋
第9回	論文・関連文献を読む(2)									高橋
第10回	論文・関連文献の発表(1)									高橋

第 1 1 回	論文・関連文献の発表 (2)	高橋
第 1 2 回	卒業論文の執筆(1)	高橋
第 1 3 回	卒業論文の執筆(2)	高橋
第 1 4 回	卒業論文の執筆(3)	高橋
第 1 5 回	卒業論文の執筆(4)	高橋
第 1 6 回	中間報告会 (卒業論文の進捗状況①)	全教員
教科書		
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	卒業研究Ⅰ			担当者	佐藤 匡		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国4年			ナンバリング	FS-FS-4-807		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の卒業研究Ⅰでは、これまで演習科目で学んだ内容などをもとに、卒業研究を進め、本格的に論文執筆を始める。自分の研究テーマについて文献を読んで整理し、発表やディスカッションしたりする中で、演習科目の評価基準となる9つの力を修得し、総合的に発揮できるようになる。また、論文執筆や報告会を通して、論拠に基づいて、相手に分かりやすく書く文章力や説明力を修得する。						
授業概要	論文執筆に必要な文献や資料を収集し、それらを熟読し、発表やディスカッションを行いながら、卒論の執筆を進める。論文草稿の作成、研究方法や調査方法の決定も行う。文献やインターネット等で収集した情報のうち有用なものを吟味して活用する力、論理的に思考し、説得力のある文章を書いたり、話したりする力は、社会人として必要な能力である。本演習において、学生は、適宜、関連文献の発表やディスカッションなどを行い、これらの力を養うとともに、互いに様々な知識を共有し合いながら、卒業論文の完成を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45％）、卒業論文題目・計画書の内容（20％）、中間報告の内容（20％）、特別配点（15％）として評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。卒業論文の内容を点検し、必要に応じて添削を行う。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。卒業論文完成に向け、春学期は「卒業論文題目・計画書」を作成し、5月下旬に卒論計画発表会を行い、発表後「卒業論文題目・計画書」を提出すること。7月下旬に実施する中間報告会では、卒業論文の進捗状況を発表すること。最終評価者である担当教員と本専攻の教員で相互に評価する。外部評価者に参考意見を求めることもある。また、作成した本演習への積極的な参加も評価の基準となるので、毎回参加すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	卒業論文の執筆には、多くの時間を要する。研究内容を充実させるため、予習と復習を各2時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、論文の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日 3 時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日 4 時限目 秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日 2 時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日 3 時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。						
授業計画						担当者	
第1回	卒業研究Ⅰの概説					佐藤 匡	
第2回	研究テーマの設定					佐藤 匡	
第3回	文献・資料の収集					佐藤 匡	
第4回	卒業論文題目・計画書の作成(1)題目の決定					佐藤 匡	
第5回	卒業論文題目・計画書の作成(2)問題設定					佐藤 匡	

第 6 回	卒業論文題目・計画書の作成(3)論文執筆の手順	佐藤 匡
第 7 回	卒論計画発表会(卒業論文題目・計画について)	佐藤 匡
第 8 回	論文・関連文献を読む(1)	佐藤 匡
第 9 回	論文・関連文献を読む(2)	佐藤 匡
第 1 0 回	論文・関連文献の発表 (1)	佐藤 匡
第 1 1 回	論文・関連文献の発表 (2)	佐藤 匡
第 1 2 回	卒業論文の執筆(1)	佐藤 匡
第 1 3 回	卒業論文の執筆(2)	佐藤 匡
第 1 4 回	卒業論文の執筆(3)	佐藤 匡
第 1 5 回	卒業論文の執筆(4)	佐藤 匡
第 1 6 回	中間報告会 (卒業論文の進捗状況①)	全員
教科書		
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	卒業研究Ⅰ			担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国4年			ナンバリング	FS-FS-4-807		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の卒業研究Ⅰでは、これまで演習科目で学んだ内容などをもとに、卒業研究を進め、本格的に論文執筆を始める。自分の研究テーマについて文献を読んで整理し、発表やディスカッションしたりする中で、演習科目の評価基準となる9つの力を修得し、総合的に発揮できるようになる。また、論文執筆や報告会を通して、論拠に基づいて、相手に分かりやすく書く文章力や説明力を修得する。						
授業概要	論文執筆に必要な文献や資料を収集し、それらを熟読し、発表やディスカッションを行いながら、卒論の執筆を進める。論文草稿の作成、研究方法や調査方法の決定も行う。文献やインターネット等で収集した情報のうち有用なものを吟味して活用する力、論理的に思考し、説得力のある文章を書いたり、話したりする力は、社会人として必要な能力である。本演習において、学生は、適宜、関連文献の発表やディスカッションなどを行い、これらの力を養うとともに、互いに様々な知識を共有し合いながら、卒業論文の完成を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45％）、卒業論文題目・計画書の内容（20％）、中間報告の内容（20％）、特別配点（15％）として評価する。						
ルーブリック評価	/URL/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。卒業論文の内容を点検し、必要に応じて添削を行う。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。卒業論文完成に向け、春学期は「卒業論文題目・計画書」を作成し、5月下旬に卒論計画発表会を行い、発表後「卒業論文題目・計画書」を提出すること。7月下旬に実施する中間報告会では、卒業論文の進捗状況を発表すること。最終評価者である担当教員と本専攻の教員で相互に評価する。外部評価者に参考意見を求めることもある。また、作成した本演習への積極的な参加も評価の基準となるので、毎回参加すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	卒業論文の執筆には、多くの時間を要する。研究内容を充実させるため、予習と復習を各2時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、論文の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	卒業研究Ⅰの概説					Merviö, Mika	
第2回	研究テーマの設定					Merviö, Mika	
第3回	文献・資料の収集					Merviö, Mika	
第4回	卒業論文題目・計画書の作成(1)題目の決定					Merviö, Mika	
第5回	卒業論文題目・計画書の作成(2)問題設定					Merviö, Mika	
第6回	卒業論文題目・計画書の作成(3)論文執筆の手順					Merviö, Mika	
第7回	卒論計画発表会(卒業論文題目・計画について)					全員	
第8回	論文・関連文献を読む(1)					Merviö, Mika	
第9回	論文・関連文献を読む(2)					Merviö, Mika	
第10回	論文・関連文献の発表(1)					Merviö, Mika	
第11回	論文・関連文献の発表(2)					Merviö, Mika	
第12回	卒業論文の執筆(1)					Merviö, Mika	
第13回	卒業論文の執筆(2)					Merviö, Mika	

第 1 4 回	卒業論文の執筆(3)	Merviö, Mika
第 1 5 回	卒業論文の執筆(4)	Merviö, Mika
第 1 6 回	中間報告会（卒業論文の進捗状況①）	全員
教科書		
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	卒業研究Ⅱ			担当者	高木 秀明		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国4年			ナンバリング	FS-FS-4-808		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の卒業研究Ⅱでは、卒業研究Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究を進め、卒業論文を完成させる。自分の研究テーマについて先行研究や関連文献を読んで整理するだけでなく、発表やディスカッション、卒論執筆をする中で、演習科目の評価基準となる9つの力を修得し、総合的に発揮できるようになる。また、論文執筆や報告会を通して、論拠に基づいて、相手に分かりやすく書く文章力や説明力を修得する。研究規範を遵守した研究活動のもとで得た成果を卒業研究論文として発表することができる。						
授業概要	論文執筆に必要な文献や資料を収集し、それらを熟読し、発表やディスカッションを行いながら、卒論の執筆を進める。具体的には、先行研究・課題文献の発表、文献・資料・データの収集と分析、論文の見直しを行う。情報の活用力、論理的思考、説得力のある文章を書く力、説明力などは、社会人として必要な能力である。本演習において、学生は、適宜、関連文献の発表やディスカッションなどを行い、これらの力を養うとともに、互いに様々な知識を共有し合い、卒業論文を完成させる。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45％）、中間報告会の内容（20％）、卒論審査会の内容（20％）、特別配点（15％）として評価する。11月下旬の中間報告では、執筆中の卒業論文の内容をまとめ発表する。指導教員と本専攻の教員で相互に評価する。卒業論文は、提出期日を守り、必ず提出すること。2月上旬に、教員が主査・副査となり卒論審査会（口頭試問）を行い評価する。外部評価者に参考意見を求めることもある。また、本演習への参加態度も評価の基準となるので、毎回積極的に参加すること。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。卒業論文の内容を点検し、必要に応じて添削を行う。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。指示された課題は提出期限を守って必ず提出すること。必ず、担当教員に論文執筆の進捗状況を報告し、相談しながら計画的に論文を執筆すること。卒業論文は、ゼミ担当の先生が内容を確認し、フィードバックするので、各自見直しを行い、論文の完成を目指すこと。また、受講生は中間報告会(11月下旬)と卒論審査会(2月上旬)に必ず出席すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	卒業論文の執筆には、多くの時間を要する。研究内容を充実させるため、予習と復習を各2時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、論文の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週火曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	卒業研究Ⅱの概説						高木
第2回	研究テーマと学術的背景						高木
第3回	先行研究・課題文献の発表(1)						高木
第4回	先行研究・課題文献の発表(2)						高木
第5回	研究規範遵守について						高木
第6回	文献・資料・データの収集と分析(1)						高木
第7回	文献・資料・データの収集と分析(2)						高木
第8回	中間報告会（卒業論文の進捗状況②）						全教員
第9回	論文の見直し(1) はじめと結語						高木
第10回	論文の見直し(2) 本論の推敲						高木

第 1 1 回	論文の見直し(3) 結論の推敲	高木
第 1 2 回	論文の見直し(4) 最終確認	高木
第 1 3 回	要旨の作成(1)	高木
第 1 4 回	要旨の作成(2)	高木
第 1 5 回	口頭試問対策	高木
第 1 6 回	卒論審査会－口頭試問	全教員
教科書		
教・書籍名 1	使用しない。研究内容に応じて文献・資料などを適宜指示する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	使用しない。研究内容に応じて文献・資料などを適宜指示する。	参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	卒業研究Ⅱ			担当者	大下 浩司		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国4年			ナンバリング	FS-FS-4-808		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の卒業研究Ⅱでは、卒業研究Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究を進め、卒業論文を完成させる。自分の研究テーマについて先行研究や関連文献を読んで整理するだけでなく、発表やディスカッション、卒論執筆をする中で、演習科目の評価基準となる9つの力を修得し、総合的に発揮できるようになる。また、論文執筆や報告会を通して、論拠に基づいて、相手に分かりやすく書く文章力や説明力を修得する。研究規範を遵守した研究活動のもとで得た成果を卒業研究論文として発表することができる。						
授業概要	論文執筆に必要な文献や資料を収集し、それらを熟読し、発表やディスカッションを行いながら、卒論の執筆を進める。具体的には、先行研究・課題文献の発表、文献・資料・データの収集と分析、論文の見直しを行う。情報の活用力、論理的思考、説得力のある文章を書く力、説明力などは、社会人として必要な能力である。本演習において、学生は、適宜、関連文献の発表やディスカッションなどを行い、これらの力を養うとともに、互いに様々な知識を共有し合い、卒業論文を完成させる。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	本演習の到達目標に対する到達度を確保するための学修ルーブリック（45％）、中間報告会の内容（20％）、卒論審査会の内容（20％）、特別配点（15％）として評価する。11月下旬の中間報告では、執筆中の卒業論文の内容をまとめ発表する。指導教員と本専攻の教員で相互に評価する。卒業論文は、提出期日を守り、必ず提出すること。2月上旬に、教員が主査・副査となり卒論審査会（口頭試問）を行い評価する。外部評価者に参考意見を求めることもある。また、本演習への参加態度も評価の基準となるので、毎回積極的に参加すること。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。卒業論文の内容を点検し、必要に応じて添削を行う。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。指示された課題は提出期限を守って必ず提出すること。必ず、担当教員に論文執筆の進捗状況を報告し、相談しながら計画的に論文を執筆すること。卒業論文は、ゼミ担当の先生が内容を確認し、フィードバックするので、各自見直しを行い、論文の完成を目指すこと。また、受講生は中間報告会(11月下旬)と卒論審査会(2月上旬)に必ず出席すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	卒業論文の執筆には、多くの時間を要する。研究内容を充実させるため、予習と復習を各2時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、論文の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	卒業研究Ⅱの概説						大下浩司
第2回	研究テーマと学術的背景						大下浩司
第3回	先行研究・課題文献の発表(1)						大下浩司
第4回	先行研究・課題文献の発表(2)						大下浩司
第5回	研究規範遵守について						大下浩司
第6回	文献・資料・データの収集と分析(1)						大下浩司
第7回	文献・資料・データの収集と分析(2)						大下浩司
第8回	中間報告会（卒業論文の進捗状況②）						全員
第9回	論文の見直し(1) はじめと結語						大下浩司
第10回	論文の見直し(2) 本論の推敲						大下浩司

第 1 1 回	論文の見直し(3) 結論の推敲	大下浩司
第 1 2 回	論文の見直し(4) 最終確認	大下浩司
第 1 3 回	要旨の作成(1)	大下浩司
第 1 4 回	要旨の作成(2)	大下浩司
第 1 5 回	口頭試問対策	大下浩司
第 1 6 回	卒論審査会	全員
教科書		
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	卒業研究Ⅱ			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国4年			ナンバリング	FS-FS-4-808		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	外国学科の卒業研究Ⅱでは、卒業研究Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究を進め、卒業論文を完成させる。自分の研究テーマについて先行研究や関連文献を読んで整理するだけでなく、発表やディスカッション、卒論執筆をする中で、演習科目の評価基準となる9つの力を修得し、総合的に発揮できるようになる。また、論文執筆や報告会を通して、論拠に基づいて、相手に分かりやすく書く文章力や説明力を修得する。研究規範を遵守した研究活動のもとで得た成果を卒業研究論文として発表することができる。						
授業概要	論文執筆に必要な文献や資料を収集し、それらを熟読し、発表やディスカッションを行いながら、卒論の執筆を進める。具体的には、先行研究・課題文献の発表、文献・資料・データの収集と分析、論文の見直しを行う。情報の活用力、論理的思考、説得力のある文章を書く力、説明力などは、社会人として必要な能力である。本演習において、学生は、適宜、関連文献の発表やディスカッションなどを行い、これらの力を養うとともに、互いに様々な知識を共有し合い、卒業論文を完成させる。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45％）、中間報告会の内容（20％）、卒論審査会の内容（20％）、特別配点（15％）として評価する。11月下旬の中間報告では、執筆中の卒業論文の内容をまとめ発表する。指導教員と本専攻の教員で相互に評価する。卒業論文は、提出期日を守り、必ず提出すること。2月上旬に、教員が主査・副査となり卒論審査会（口頭試問）を行い評価する。外部評価者に参考意見を求めることもある。また、本演習への参加態度も評価の基準となるので、毎回積極的に参加すること。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。卒業論文の内容を点検し、必要に応じて添削を行う。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。指示された課題は提出期限を守って必ず提出すること。必ず、担当教員に論文執筆の進捗状況を報告し、相談しながら計画的に論文を執筆すること。卒業論文は、ゼミ担当の先生が内容を確認し、フィードバックするので、各自見直しを行い、論文の完成を目指すこと。また、受講生は中間報告会(11月下旬)と卒論審査会(2月上旬)に必ず出席すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	卒業論文の執筆には、多くの時間を要する。研究内容を充実させるため、予習と復習を各2時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、論文の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週木曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	卒業研究Ⅱの概説					大下朋子	
第2回	研究テーマと学術的背景					大下朋子	
第3回	先行研究・課題文献の発表(1)					大下朋子	
第4回	先行研究・課題文献の発表(2)					大下朋子	
第5回	研究規範遵守について					大下朋子	
第6回	文献・資料・データの収集と分析(1)					大下朋子	
第7回	文献・資料・データの収集と分析(2)					大下朋子	
第8回	中間報告会（卒業論文の進捗状況②）					大下朋子	

第 9 回	論文の見直し(1) はじめと結語	大下朋子	
第 1 0 回	論文の見直し(2) 本論の推敲	大下朋子	
第 1 1 回	論文の見直し(3) 結論の推敲	大下朋子	
第 1 2 回	論文の見直し(4) 最終確認	大下朋子	
第 1 3 回	要旨の作成(1)	大下朋子	
第 1 4 回	要旨の作成(2)	大下朋子	
第 1 5 回	口頭試問対策	大下朋子	
第 1 6 回	卒論審査会	大下朋子	
教科書			
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	卒業研究Ⅱ			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国4年			ナンバリング	FS-FS-4-808		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の卒業研究Ⅱでは、卒業研究Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究を進め、卒業論文を完成させる。自分の研究テーマについて先行研究や関連文献を読んで整理するだけでなく、発表やディスカッション、卒論執筆をする中で、演習科目の評価基準となる9つの力を修得し、総合的に発揮できるようになる。また、論文執筆や報告会を通して、論拠に基づいて、相手に分かりやすく書く文章力や説明力を修得する。研究規範を遵守した研究活動のもとで得た成果を卒業研究論文として発表することができる。 本演習では特に、卒業論文を英語で書き、そのプレゼンテーションを英語で行うもの。 春学期の卒業研究Ⅰで作成した研究計画をもとに研究を進め、1) 卒業論文を英語で書き、提出すること、2) その研究成果を発表するPPTスライドを英語で作成すること、3) 学内の発表会で、卒業研究の成果をPPTをもとに英語で発表することである。						
授業概要	論文執筆に必要な文献や資料を収集し、それらを熟読し、発表やディスカッションを行いながら、卒論の執筆を進める。具体的には、先行研究・課題文献の発表、文献・資料・データの収集と分析、論文の見直しを行う。情報の活用力、論理的思考、説得力のある文章を書く力、説明力などは、社会人として必要な能力である。本演習において、学生は、適宜、関連文献の発表やディスカッションなどを行い、これらの力を養うとともに、互いに様々な知識を共有し合い、卒業論文を完成させる。 本演習では特に、卒業論文（英語A4版10頁以上を目安）を作成し、英語による成果発表を行う。研究成果を発表する機会を2回設け、卒業研究Ⅰで学修した発表技術をもとに、英語で研究発表を行う。英語で自らの見解や議論を明確に伝達、説明する力を身につけ、卒業論文を英語で発表できるまでを指導する。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45%）、中間報告会の内容（20%）、卒論発表会の内容（20%）、特別配点（15%）として評価する。11月下旬の中間報告では、執筆中の卒業論文の内容をまとめ発表する。担当教員と関係教員で相互に評価する。卒業論文は、提出期日を守り、必ず提出すること。提出論文は、担当教員並びに関係教員が主査・副査となり、評価する。1月下旬または2月上旬に、卒論発表会を行い、担当教員並びに関係教員が相互に評価する。外部評価者に参考意見を求めることもある。また、本演習への参加態度も評価の基準となるので、毎回積極的に参加すること。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。卒業論文の内容を点検し、必要に応じて添削を行う。発表やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。指示された課題は提出期限を守って必ず提出すること。必ず、担当教員に論文執筆の進捗状況を報告し、相談しながら計画的に論文を執筆すること。卒業論文は、ゼミ担当の先生が内容を確認し、フィードバックするので、各自見直しを行い、論文の完成を目指すこと。また、受講生は中間報告会(11月下旬)と卒論発表会(1月下旬または2月上旬)に必ず出席すること。 この授業はすべて英語で行われる。 各自の研究内容に応じて、参考図書、論文などを指定する。進捗状況の報告、相談は、学生が積極的に担当教員と行うこと。 卒業論文の英語は、英語教員の協力を得て、チェックを怠らないこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					

事前学習・事後学習とその時間		卒業論文の執筆には、多くの時間を要する。研究内容を充実させるため、予習と復習を各2時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、論文の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。	
オフィスアワー		1号棟1階個人研究室において、金曜日4限目をオフィスアワーにします。	
		授業計画	担当者
第1回	オリエンテーション・研究規範遵守について		畝
第2回	研究計画の再確認		畝
第3回	進捗状況の発表		畝
第4回	個別指導		畝
第5回	個別指導		畝
第6回	中間発表準備・個別指導		畝
第7回	中間発表準備・個別指導		畝
第8回	中間発表（tbc）		関係教員
第9回	分析・考察・結論のドラフト（1）		畝
第10回	分析・考察・結論のドラフト（2）		畝
第11回	分析・考察・結論のドラフト（3）		畝
第12回	方法論・先行研究レビュー・はじめにのドラフト		畝
第13回	論文ドラフトの最終化		畝
第14回	卒論発表会に向けた準備		畝
第15回	卒論発表会		関係教員
第16回	振り返り		畝
教科書			
教・書籍名1	担当教員が受講生の研究内容に応じ参考図書の指定をし、参考資料を配付する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・ISBN1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ISBN2	
参考書			
参・書籍名1	黒木登志夫『知的文章とプレゼンテーション』	参・出版社名1	中公新書
参・著者名1	酒井聡樹『これから学会発表する若者のために』	参・ISBN1	共立出版
参・書籍名2	木下是雄『理科系の作文技術』	参・出版社名2	中公新書
参・著者名2		参・ISBN2	

授業科目名	卒業研究Ⅱ			担当者	池上 真由美		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国4年			ナンバリング	FS-FS-4-808		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 10. 人や国の不平等をなくそう 11. 住み続けられるまちづくりを 16. 平和と公正をすべての人に						
到達目標	外国学科の卒業研究Ⅱでは、卒業研究Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究を進め、卒業論文を完成させる。自分の研究テーマについて先行研究や関連文献を読んで整理するだけでなく、発表やディスカッション、卒論執筆をする中で、演習科目の評価基準となる9つの力を修得し、総合的に発揮できるようになる。また、論文執筆や報告会を通して、論拠に基づいて、相手に分かりやすく書く文章力や説明力を修得する。研究規範を遵守した研究活動のもとで得た成果を卒業研究論文として発表することができる。						
授業概要	論文執筆に必要な文献や資料を収集し、それらを熟読し、発表やディスカッションを行いながら、卒論の執筆を進める。具体的には、先行研究・課題文献の発表、文献・資料・データの収集と分析、論文の見直しを行う。情報の活用力、論理的思考、説得力のある文章を書く力、説明力などは、社会人として必要な能力である。本演習において、学生は、適宜、関連文献の発表やディスカッションなどを行い、これらの力を養うとともに、互いに様々な知識を共有し合い、卒業論文を完成させる。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／フィールドワーク						
評価方法と割合	本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45%）、中間報告会の内容（20%）、卒論審査会の内容（20%）、特別配点（15%）として評価する。11月下旬の中間報告では、執筆中の卒業論文の内容をまとめ発表する。指導教員と本専攻の教員で相互に評価する。卒業論文は、提出期日を守り、必ず提出すること。外部評価者に参考意見を求めることもある。また、本演習への参加態度も評価の基準となるので、毎回積極的に参加すること。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。卒業論文の内容を点検し、必要に応じて添削を行う。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。指示された課題は提出期限を守って必ず提出すること。必ず、担当教員に論文執筆の進捗状況を報告し、相談しながら計画的に論文を執筆すること。卒業論文は、ゼミ担当の先生が内容を確認し、フィードバックするので、各自見直しを行い、論文の完成を目指すこと。また、受講生は中間報告会と卒論審査会に必ず出席すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	卒業論文の執筆には、多くの時間を要する。研究内容を充実させるため、予習と復習を各2時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、論文の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室112にて、毎週火曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	卒業研究Ⅱの概説					池上	
第2回	研究テーマと学術的背景					池上	
第3回	先行研究・課題文献の発表(1)					池上	
第4回	先行研究・課題文献の発表(2)					池上	
第5回	研究規範遵守について					池上	
第6回	文献・資料・データの収集と分析(1)					池上	
第7回	文献・資料・データの収集と分析(2)					池上	
第8回	中間報告会（卒業論文の進捗状況②）					全員	

第 9 回	論文の見直し(1) はじめと結語	池上	
第 1 0 回	論文の見直し(2) 本論の推敲	池上	
第 1 1 回	論文の見直し(3) 結論の推敲	池上	
第 1 2 回	論文の見直し(4) 最終確認	池上	
第 1 3 回	要旨の作成(1)	池上	
第 1 4 回	要旨の作成(2)	池上	
第 1 5 回	口頭試問対策	池上	
第 1 6 回	卒論審査会	全員	
教科書			
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	卒業研究Ⅱ			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国4年			ナンバリング	FS-FS-4-808		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを 						
到達目標	外国学科の卒業研究Ⅱでは、卒業研究Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究を進め、卒業論文を完成させる。自分の研究テーマについて先行研究や関連文献を読んで整理するだけでなく、発表やディスカッション、卒論執筆をする中で、演習科目の評価基準となる9つの力を修得し、総合的に発揮できるようになる。また、論文執筆や報告会を通して、論拠に基づいて、相手に分かりやすく書く文章力や説明力を修得する。研究規範を遵守した研究活動のもとで得た成果を卒業研究論文として発表することができる。						
授業概要	論文執筆に必要な文献や資料を収集し、それらを熟読し、発表やディスカッションを行いながら、卒論の執筆を進める。具体的には、先行研究・課題文献の発表、文献・資料・データの収集と分析、論文の見直しを行う。情報の活用力、論理的思考、説得力のある文章を書く力、説明力などは、社会人として必要な能力である。本演習において、学生は、適宜、関連文献の発表やディスカッションなどを行い、これらの力を養うとともに、互いに様々な知識を共有し合い、卒業論文を完成させる。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45%）、中間報告会の内容（20%）、卒論審査会の内容（20%）、特別配点（15%）として評価する。11月下旬の中間報告では、執筆中の卒業論文の内容をまとめ発表する。指導教員と本専攻の教員で相互に評価する。卒業論文は、提出期日を守り、必ず提出すること。2月上旬に、教員が主査・副査となり卒論審査会（口頭試問）を行い評価する。外部評価者に参考意見を求めることもある。また、本演習への参加態度も評価の基準となるので、毎回積極的に参加すること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。卒業論文の内容を点検し、必要に応じて添削を行う。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。指示された課題は提出期限を守って必ず提出すること。必ず、担当教員に論文執筆の進捗状況を報告し、相談しながら計画的に論文を執筆すること。卒業論文は、ゼミ担当の先生が内容を確認し、フィードバックするので、各自見直しを行い、論文の完成を目指すこと。また、受講生は中間報告会(11月下旬)と卒論審査会(2月上旬)に必ず出席すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	卒業論文の執筆には、多くの時間を要する。研究内容を充実させるため、予習と復習を各2時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、論文の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週水曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	卒業研究Ⅱの概説					加藤	
第2回	研究テーマと学術的背景					加藤	
第3回	先行研究・課題文献の発表(1)					加藤	
第4回	先行研究・課題文献の発表(2)					加藤	

第 5 回	研究規範遵守について	加藤
第 6 回	文献・資料・データの収集と分析(1)	加藤
第 7 回	文献・資料・データの収集と分析(2)	加藤
第 8 回	中間報告会（卒業論文の進捗状況②）	全員
第 9 回	論文の見直し(1) はじめと結語	加藤
第 1 0 回	論文の見直し(2) 本論の推敲	加藤
第 1 1 回	論文の見直し(3) 結論の推敲	加藤
第 1 2 回	論文の見直し(4) 最終確認	加藤
第 1 3 回	要旨の作成(1)	加藤
第 1 4 回	要旨の作成(2)	加藤
第 1 5 回	口頭試問対策	加藤
第 1 6 回	卒論審査会	全員
教科書		
教・書籍名 1	研究内容に応じて文献・資料などを適宜配布する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	卒業研究Ⅱ			担当者	高橋 正巳		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国4年			ナンバリング	FS-FS-4-808		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	外国学科の卒業研究Ⅱでは、卒業研究Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究を進め、卒業論文を完成させる。自分の研究テーマについて先行研究や関連文献を読んで整理するだけでなく、発表やディスカッション、卒論執筆をする中で、演習科目の評価基準となる9つの力を修得し、総合的に発揮できるようになる。また、論文執筆や報告会を通して、論拠に基づいて、相手に分かりやすく書く文章力や説明力を修得する。研究規範を遵守した研究活動のもとで得た成果を卒業研究論文として発表することができる。						
授業概要	論文執筆に必要な文献や資料を収集し、それらを熟読し、発表やディスカッションを行いながら、卒論の執筆を進める。具体的には、先行研究・課題文献の発表、文献・資料・データの収集と分析、論文の見直しを行う。情報の活用力、論理的思考、説得力のある文章を書く力、説明力などは、社会人として必要な能力である。本演習において、学生は、適宜、関連文献の発表やディスカッションなどを行い、これらの力を養うとともに、互いに様々な知識を共有し合い、卒業論文を完成させる。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45％）、中間報告会の内容（20％）、卒論審査会の内容（20％）、特別配点（15％）として評価する。11月下旬の中間報告では、執筆中の卒業論文の内容をまとめ発表する。指導教員と本専攻の教員で相互に評価する。卒業論文は、提出期日を守り、必ず提出すること。2月上旬に、教員が主査・副査となり卒論審査会（口頭試問）を行い評価する。外部評価者に参考意見を求めることもある。また、本演習への参加態度も評価の基準となるので、毎回積極的に参加すること。						
ルーブリック評価	/URL/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。卒業論文の内容を点検し、必要に応じて添削を行う。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。指示された課題は提出期限を守って必ず提出すること。必ず、担当教員に論文執筆の進捗状況を報告し、相談しながら計画的に論文を執筆すること。卒業論文は、ゼミ担当の先生が内容を確認し、フィードバックするので、各自見直しを行い、論文の完成を目指すこと。また、受講生は中間報告会(11月下旬)と卒論審査会(2月上旬)に必ず出席すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和51年大学経済学部卒、昭和57年大学院社会学研究科修士課程修了、昭和60年大学院社会学研究科博士課程満期修了退学。本学の特任教授である。				
事前学習・事後学習とその時間	卒業論文の執筆には、多くの時間を要する。研究内容を充実させるため、予習と復習を各2時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、論文の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の124人研究室にて、毎週木曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	卒業研究Ⅱの概説					高橋	
第2回	研究テーマと学術的背景					高橋	
第3回	先行研究・課題文献の発表(1)					高橋	
第4回	先行研究・課題文献の発表(2)					高橋	
第5回	研究規範遵守について					高橋	
第6回	文献・資料・データの収集と分析(1)					高橋	
第7回	文献・資料・データの収集と分析(2)					高橋	

第 8 回	中間報告会（卒業論文の進捗状況②）	高橋	
第 9 回	論文の見直し(1) はじめと結語	高橋	
第 1 0 回	論文の見直し(2) 本論の推敲	高橋	
第 1 1 回	論文の見直し(3) 結論の推敲	高橋	
第 1 2 回	論文の見直し(4) 最終確認	高橋	
第 1 3 回	要旨の作成(1)	高橋	
第 1 4 回	要旨の作成(2)	高橋	
第 1 5 回	口頭試問対策	高橋	
第 1 6 回	卒論審査会	高橋	
教科書			
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	卒業研究Ⅱ			担当者	佐藤 匡		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国4年			ナンバリング	FS-FS-4-808		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	◎	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	◎	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の卒業研究Ⅱでは、卒業研究Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究を進め、卒業論文を完成させる。自分の研究テーマについて先行研究や関連文献を読んで整理するだけでなく、発表やディスカッション、卒論執筆をする中で、演習科目の評価基準となる9つの力を修得し、総合的に発揮できるようになる。また、論文執筆や報告会を通して、論拠に基づいて、相手に分かりやすく書く文章力や説明力を修得する。研究規範を遵守した研究活動のもとで得た成果を卒業研究論文として発表することができる。						
授業概要	論文執筆に必要な文献や資料を収集し、それらを熟読し、発表やディスカッションを行いながら、卒論の執筆を進める。具体的には、先行研究・課題文献の発表、文献・資料・データの収集と分析、論文の見直しを行う。情報の活用力、論理的思考、説得力のある文章を書く力、説明力などは、社会人として必要な能力である。本演習において、学生は、適宜、関連文献の発表やディスカッションなどを行い、これらの力を養うとともに、互いに様々な知識を共有し合い、卒業論文を完成させる。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45％）、中間報告会の内容（20％）、卒論審査会の内容（20％）、特別配点（15％）として評価する。11月下旬の中間報告では、執筆中の卒業論文の内容をまとめ発表する。指導教員と本専攻の教員で相互に評価する。卒業論文は、提出期日を守り、必ず提出すること。2月上旬に、教員が主査・副査となり卒論審査会（口頭試問）を行い評価する。外部評価者に参考意見を求めることもある。また、本演習への参加態度も評価の基準となるので、毎回積極的に参加すること。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。卒業論文の内容を点検し、必要に応じて添削を行う。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。指示された課題は提出期限を守って必ず提出すること。必ず、担当教員に論文執筆の進捗状況を報告し、相談しながら計画的に論文を執筆すること。卒業論文は、ゼミ担当の先生が内容を確認し、フィードバックするので、各自見直しを行い、論文の完成を目指すこと。また、受講生は中間報告会(11月下旬)と卒論審査会(2月上旬)に必ず出席すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	卒業論文の執筆には、多くの時間を要する。研究内容を充実させるため、予習と復習を各2時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、論文の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日 3 時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日 4 時限目 秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日 2 時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日 3 時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。						
授業計画						担当者	
第1回	卒業研究Ⅱの概説					佐藤 匡	
第2回	研究テーマと学術的背景					佐藤 匡	

第 3 回	先行研究・課題文献の発表(1)	佐藤 匡
第 4 回	先行研究・課題文献の発表(2)	佐藤 匡
第 5 回	研究規範遵守について	佐藤 匡
第 6 回	文献・資料・データの収集と分析(1)	佐藤 匡
第 7 回	文献・資料・データの収集と分析(2)	佐藤 匡
第 8 回	中間報告会（卒業論文の進捗状況②）	全員
第 9 回	論文の見直し(1) はじめと結語	佐藤 匡
第 1 0 回	論文の見直し(2) 本論の推敲	佐藤 匡
第 1 1 回	論文の見直し(3) 結論の推敲	佐藤 匡
第 1 2 回	論文の見直し(4) 最終確認	佐藤 匡
第 1 3 回	要旨の作成(1)	佐藤 匡
第 1 4 回	要旨の作成(2)	佐藤 匡
第 1 5 回	口頭試問対策	佐藤 匡
第 1 6 回	卒論審査会	全員
教科書		
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	卒業研究Ⅱ			担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国4年			ナンバリング	FS-FS-4-808		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の卒業研究Ⅱでは、卒業研究Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究を進め、卒業論文を完成させる。自分の研究テーマについて先行研究や関連文献を読んで整理するだけでなく、発表やディスカッション、卒論執筆をする中で、演習科目の評価基準となる9つの力を修得し、総合的に発揮できるようになる。また、論文執筆や報告会を通して、論拠に基づいて、相手に分かりやすく書く文章力や説明力を修得する。研究規範を遵守した研究活動のもとで得た成果を卒業研究論文として発表することができる。						
授業概要	論文執筆に必要な文献や資料を収集し、それらを熟読し、発表やディスカッションを行いながら、卒論の執筆を進める。具体的には、先行研究・課題文献の発表、文献・資料・データの収集と分析、論文の見直しを行う。情報の活用力、論理的思考、説得力のある文章を書く力、説明力などは、社会人として必要な能力である。本演習において、学生は、適宜、関連文献の発表やディスカッションなどを行い、これらの力を養うとともに、互いに様々な知識を共有し合い、卒業論文を完成させる。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45％）、中間報告会の内容（20％）、卒論審査会の内容（20％）、特別配点（15％）として評価する。11月下旬の中間報告では、執筆中の卒業論文の内容をまとめ発表する。指導教員と本専攻の教員で相互に評価する。卒業論文は、提出期日を守り、必ず提出すること。2月上旬に、教員が主査・副査となり卒論審査会（口頭試問）を行い評価する。外部評価者に参考意見を求めることもある。また、本演習への参加態度も評価の基準となるので、毎回積極的に参加すること。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。卒業論文の内容を点検し、必要に応じて添削を行う。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。指示された課題は提出期限を守って必ず提出すること。必ず、担当教員に論文執筆の進捗状況を報告し、相談しながら計画的に論文を執筆すること。卒業論文は、ゼミ担当の先生が内容を確認し、フィードバックするので、各自見直しを行い、論文の完成を目指すこと。また、受講生は中間報告会(11月下旬)と卒論審査会(2月上旬)に必ず出席すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	卒業論文の執筆には、多くの時間を要する。研究内容を充実させるため、予習と復習を各2時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、論文の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室にて、毎週金曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	卒業研究Ⅱの概説						Merviö, Mika
第2回	研究テーマと学術的背景						Merviö, Mika
第3回	先行研究・課題文献の発表(1)						Merviö, Mika
第4回	先行研究・課題文献の発表(2)						Merviö, Mika
第5回	研究規範遵守について						Merviö, Mika
第6回	文献・資料・データの収集と分析(1)						Merviö, Mika
第7回	文献・資料・データの収集と分析(2)						Merviö, Mika
第8回	中間報告会（卒業論文の進捗状況②）						全員
第9回	論文の見直し(1) はじめと結語						Merviö, Mika
第10回	論文の見直し(2) 本論の推敲						Merviö, Mika

第 1 1 回	論文の見直し(3) 結論の推敲	Merviö, Mika
第 1 2 回	論文の見直し(4) 最終確認	Merviö, Mika
第 1 3 回	要旨の作成(1)	Merviö, Mika
第 1 4 回	要旨の作成(2)	Merviö, Mika
第 1 5 回	口頭試問対策	Merviö, Mika
第 1 6 回	卒論審査会	全員
教科書		
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	英語科教育法Ⅰ（前半8回）			担当者	池上 真由美		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	TC-FS-2-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜2限 金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 10. 人や国の不平等をなくそう 16. 平和と公正をすべての人に						
到達目標	「英語教授法と授業計画案の作成」をテーマとし、英語教育に係る基礎理論を理解し、その指導法、教材、学習者、教師、評価に関する実施方法の習得を目標とする。						
授業概要	本講義では、英語を教えるために必要な基礎理論（教育法・教材・学習者・指導者・授業案等）を体系的に学び、模擬授業を行って教育実習に役立つ実践力を身につけていけるようにする。さらに、中学校・高等学校学習指導要領が指定する英語科の指導目標・学習内容を理解したうえで、英語教員になるために必要な知識と英語教授法を把握し、教育の現場でそれぞれどのような英語授業を計画・実施していけばよいのか、どのような教師を目指すのかを、ディスカッション・タスクを交えて習得する。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	テーマ「英語教授法と授業計画案の作成」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、単位認定試験の成績（50％）、日頃の授業態度やマイクロ・ティーチング・模擬授業への取組（50％）による総合評価を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題やコメント用紙の内容は、次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめてフィードバックする。また、模擬授業の指導案や教材作成の課題については、各個人に改善点をフィードバックするので、提案を受けて可能な限りの改訂を行い再提出すること。						
履修条件・注意事項	教職課程の履修者のみ						
実務経験のある教員	該当する	内容	小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	予習課題にしっかり取り組み授業に臨むこと。参加型の授業形態になるので問題意識を持って積極的に発言をし、授業後はきちんと復習をすること。発表や試験を実施するので真剣に取り組むこと。予習および復習、発表準備には、週当たり4時間以上を要する。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室112にて、毎週火曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	英語という言葉の特質					池上	
第2回	日本社会における英語					池上	
第3回	日本の外国語教育					池上	

第 4 回	コミュニケーション能力		池上
第 5 回	第二言語習得のプロセス		池上
第 6 回	言語適性		池上
第 7 回	動機付け		池上
第 8 回	学習方略		池上
第 9 回	授業改善の工夫		池上
第 1 0 回	模擬授業と振り返り①		池上
第 1 1 回	模擬授業と振り返り②		池上
第 1 2 回	模擬授業と振り返り③		池上
第 1 3 回	模擬授業と振り返り④		池上
第 1 4 回	模擬授業と振り返り⑤		池上
第 1 5 回	模擬授業のまとめ		池上
第 1 6 回	単位認定試験		池上
教科書			
教・書籍名 1	中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領	教・出版社名 1	
教・著者名 1	文部科学省	教・I S B N 1	
教・書籍名 2	実践的英語科教育法	教・出版社名 2	大修館書店
教・著者名 2	酒井英樹、廣盛友人、吉田達弘	教・I S B N 2	978-4-469-24622-3
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・I S B N 2	

授業科目名	英語科教育法Ⅱ（後半8回）			担当者	池上 真由美		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	TC-FS-2-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜2限 金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	「英語教授法と授業計画書の作成」をテーマとし、到達目標：英語教育に係る基礎理論を理解し、その指導法、教材、学習者、教師、評価に関する実施方法の習得を目標とする。						
授業概要	本講義では、英語を教えるために必要な基礎理論（教育法・教材・学習者・指導者・授業案等）を体系的に学び、模擬授業を行って教育実習に役立つ実践力を身につけていけるようにする。さらに、中学校・高等学校学習指導要領が指定する英語科の指導目標・学習内容を理解したうえで、英語教員になるために必要な知識と英語教授法を把握し、教育の現場でそれぞれどのような英語授業を計画・実施していけばよいのか、どのような教師を目指すのかを、ディスカッション・タスクを交えて習得する。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	テーマ「英語教授法と授業計画書の作成」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業での発表等を通じて総合的に評価する。具体的には、単位認定試験の成績（50％）、日頃の授業態度やマイクロ・ティーチング・模擬授業への取組（50％）による総合評価を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題やコメント用紙の内容は、次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめてフィードバックする。また、模擬授業の指導案や教材作成の課題については、各個人に改善点をフィードバックするので、提案を受けて可能な限りの改訂を行い再提出すること。						
履修条件・注意事項	教職課程の履修者のみ						
実務経験のある教員	該当する	内容	小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	予習課題にしっかり取り組み授業に臨むこと。参加型の授業形態になるので問題意識を持って積極的に発言をし、授業後はきちんと復習をすること。発表や試験を実施するので真剣に取り組むこと。予習および復習、発表準備には、週当たり4時間以上を要する。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室112にて、毎週火曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	学習評価					池上	
	小学校の授業づくり						

第 2 回		池上
第 3 回	中学校の授業づくり	池上
第 4 回	高等学校の授業づくり	池上
第 5 回	多様な学習形態	池上
第 6 回	個別指導の工夫・ICTを活用した教材づくり	池上
第 7 回	音声と文字の指導	池上
第 8 回	文法指導	池上
第 9 回	授業改善の工夫	池上
第 1 0 回	模擬授業と振り返り①	池上
第 1 1 回	模擬授業と振り返り②	池上
第 1 2 回	模擬授業と振り返り③	池上
第 1 3 回	模擬授業と振り返り④	池上
第 1 4 回	模擬授業と振り返り⑤	池上
第 1 5 回	模擬授業のまとめ	池上
第 1 6 回	単位認定試験	池上

教科書			
教・書籍名 1	中学校学習指導要領・高等学校学習指導要領	教・出版社名 1	
教・著者名 1	文部科学省	教・ I S B N 1	
教・書籍名 2	実践的英語科教育法	教・出版社名 2	大修館書店
教・著者名 2	酒井英樹、廣盛友人、吉田達弘	教・ I S B N 2	978-4-469-24622-3

参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	英語科教育法Ⅲ（前半8回）			担当者	池上 真由美		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	TC-FS-3-003		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜3限 金曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	△	DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	「日本の中等教育現場の教育指導」をテーマとし、日本の中等教育現場における多様な学習志向に対応できる教育指導力の構築と、時代の要請に応じた新しい指導実践力の習得を目標とする。						
授業概要	新学習指導要領に準拠した英語科教科法テキストに沿って、英語教科教育指導に必要な事項を徹底的に学ぶ。特に、これからの時代の英語教師に求められる資質を高めることを重視する。日本の中等教育の課題を理解し、教育実習に向けて教育現場の指導に対応できる実践的指導力の育成を目指す。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	テーマ「日本の中等教育現場の教育指導」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や模擬授業への取組等を通じて総合的に評価する。具体的には、単位認定試験の成績（50％）、日頃のテストや授業態度などの平常点（50％）による総合評価を行う。 なお、日頃の課題や発表については、授業中にフィードバックを行うので、単位認定に関する定期テストまでに見直しをしておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題やコメント用紙の内容は、次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめてフィードバックする。また、模擬授業の指導案や教材作成の課題については、各個人に改善点をフィードバックするので、提案を受けて可能な限りの改訂を行い再提出すること。						
履修条件・注意事項	教職課程の履修者のみ、「英語科教育法Ⅰ」「英語科教育法Ⅱ」を履修又は修得していること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎時間の予習課題にしっかり準備をして授業に臨むこと。参加型の授業形態になるので問題意識を持って積極的に発言をし、授業後はきちんと復習をするようにする。模擬授業のための指導案や教材作成には、特に真剣に取り組む、万全の準備をして臨むこと。予習および復習、発表準備には、週当たり4時間以上を要する。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室112にて、毎週火曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	新しい時代の英語教師を目指して					池上	
第2回	英語教育課程；言語習得と教授法					池上	
第3回	学習者論；教師論					池上	
第4回	音声と文字の指導					池上	

第 5 回	リスニング指導		池上
第 6 回	スピーキング指導		池上
第 7 回	リーディング指導		池上
第 8 回	ライティング指導		池上
第 9 回	模擬授業と振り返り①		池上
第 1 0 回	模擬授業と振り返り②		池上
第 1 1 回	模擬授業と振り返り③		池上
第 1 2 回	模擬授業と振り返り④		池上
第 1 3 回	模擬授業と振り返り⑤		池上
第 1 4 回	模擬授業のまとめ		池上
第 1 5 回	これからの英語教員に求められる資質・能力		池上
第 1 6 回	単位認定試験		池上
教科書			
教・書籍名 1	実践的英語科教育法	教・出版社名 1	大修館書店
教・著者名 1	酒井英樹、廣盛友人、吉田達弘	教・I S B N 1	978-4-469-24622-3
教・書籍名 2	若い英語教師のための教材研究入門	教・出版社名 2	大学教育出版
教・著者名 2	小橋 雅彦	教・I S B N 2	978-4-86692-129-7
参考書			
参・書籍名 1	世界一わかりやすい中学英語の授業	参・出版社名 1	KADOKAWA
参・著者名 1	関 正生	参・I S B N 1	978-4-04-604482-2
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・I S B N 2	

授業科目名	英語科教育法Ⅳ（後半8回）			担当者	池上 真由美		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	TC-FS-3-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜3限 金曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	△	DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 10. 人や国の不平等をなくそう 16. 平和と公正をすべての人に						
到達目標	「日本の中等教育現場の教育指導」をテーマとし、日本の中等教育現場における多様な学習志向に対応できる教育指導力の構築と、時代の要請に応じた新しい指導実践力の習得を目標とする。						
授業概要	新学習指導要領に準拠した英語科教科法テキストに沿って、英語教科教育指導に必要な事項を徹底的に学ぶ。特に、これからの時代の英語教師に求められる資質を高めることを重視する。日本の中等教育の課題を理解し、教育実習に向けて教育現場の指導に対応できる実践的指導力の育成を目指す。 また、国内外でグローバル化が進む現代・未来にあっては、国境を越えて人々が交流する多文化共生社会を意識した英語教育が求められている。CLILなどの最新の教授法の理論とその実践的アプローチについても学び、参加型・双方向でインタラクティブな英語の授業方法について考える実践的な学びの場としたい。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	テーマ「日本の中等教育現場の教育指導」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や模擬授業への取組等を通じて総合的に評価する。具体的には、単位認定試験の成績（50％）、日頃のテストや授業態度などの平常点（50％）による総合評価を行う。 なお、日頃の課題や発表については、授業中にフィードバックを行うので、単位認定に関する定期テストまでに見直しをしておくこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題やコメント用紙の内容は、次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめてフィードバックする。また、模擬授業の指導案や教材作成の課題については、各個人に改善点をフィードバックするので、提案を受けて可能な限りの改訂を行い再提出すること。						
履修条件・注意事項	教職課程の履修者のみ、「英語科教育法Ⅰ」「英語科教育法Ⅱ」「英語科教育法Ⅲ」を履修又は修得していること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	毎時間の予習課題にしっかり準備をして授業に臨むこと。参加型の授業形態になるので問題意識を持って積極的に発言をし、授業後はきちんと復習をするようにする。模擬授業のための指導案や教材作成には、特に真剣に取り組む、万全の準備をして臨むこと。予習および復習、発表準備には、週当たり4時間以上を要する。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室112にて、毎週火曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	英語教育の目標と本質（国際英語論コミュニケーション能力）						池上
	授業分析：印象に残る英語の授業と問題のある授業						

第 2 回		池上
第 3 回	学習者中心で相互作用のあるコミュニカティブな英語の授業	池上
第 4 回	国際理解教育としての英語教育	池上
第 5 回	教材研究のあり方、ICTを活用した授業づくり	池上
第 6 回	意欲を引き出すめあてと発問の作り方	池上
第 7 回	実態に応じた教材開発①	池上
第 8 回	実態に応じた教材開発②	池上
第 9 回	模擬授業と振り返り①	池上
第 1 0 回	模擬授業と振り返り②	池上
第 1 1 回	模擬授業と振り返り③	池上
第 1 2 回	模擬授業と振り返り④	池上
第 1 3 回	模擬授業と振り返り⑤	池上
第 1 4 回	模範授業と授業分析①	池上
第 1 5 回	模範授業と授業分析②	池上
第 1 6 回	単位認定試験	池上
教科書		
教・書籍名 1	実践的英語科教育法	教・出版社名 1 大修館書店
教・著者名 1	酒井英樹、廣盛友人、吉田達弘	教・ I S B N 1 978-4-469-24622-3
教・書籍名 2	若い英語教師のための教材研究入門	教・出版社名 2 大学教育出版
教・著者名 2	小橋 雅彦	教・ I S B N 2 978-4-86692-129-7
参考書		
参・書籍名 1	世界一わかりやすい中学英語の授業	参・出版社名 1 KADOKAWA
参・著者名 1	関 正生	参・ I S B N 1 978-4-04-604482-2
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	教育原論			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	TC-FS-1-005		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	△
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感	△	DP 8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	【授業のテーマ】 教育の思想及び制度の歴史を学ぶことにより、教育はどのような要因によって成り立ち、左右されてきたかを理解し、その知識・理解をもとに今後の教育の在り方について考察する力量を身に着ける 【到達目標】 1. 学生は教育の基本概念を理解し、適切に用いることができる 2. 学生は代表的な教育思想家の学習論・教育思想・社会観・子ども観を理解し、説明できる 3. 学生は近代公教育（学校）をはじめとする主要な教育制度の成立および変遷を理解し、説明できる 4. 学生は家庭、社会における教育について理解し、それをもとに学校教育の役割を理解し、説明できる 5. 学生は上記の学習を通じて教育の本質について考察し、今後の教育制度（学校など）の役割について自身の考えを表現できる						
授業概要	本講義は教育の歴史を概括的に学ぶ科目である。この講義では歴史的事象もさることながら、社会が変動する中で子ども観・教育観・学習観がいかに変容し、それに伴い家庭教育、地域社会（共同体）の教育、学校教育がいかに変容していくのかを理解してもらいたい。その結果、多様な教育実践・制度の相互作用などを理解し、各自の教育に関する意見を構築できるようにしていく。 本講義は大きく6つの段階に分けて展開する。1・2回目では教育の基礎概念について理解するとともに家庭などにおける日常的（非組織的）な学びの在り方について触れる。その後、教育思想がどのような社会観・子ども観によって形成されるのかを古代・中世・近代・現代のそれぞれに区分し紹介する。特に近代公教育制度の成立については、学校教育の本質にかかわる事項であるので若干詳細に検討する。その後、特に1990年代後半以降の現代社会の在り方を考察し、現在教育という営為がどのように社会の課題と向き合い、新たな実践を生み出しているのかを考察する。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	各回の講義の振り返りを行う学習記録（15％）、レポート（15％）、定期試験（70％）で評価する。なお、評価に関わる事項の詳細については初回講義で説明する。						
ルーブリック評価	本講義は規定ルーブリックは用いない。						
課題や試験のフィードバック方法	学習記録は各回担当者のコメントを付して返却される。レポート及び筆記試験については、再試験日程発表の際に総括的にフィードバックを行う。その後、ユニバーサルパスポートなどで個別のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは必ず学生便覧を確認してから履修すること。加えて、教職課程として履修するものは将来教員になる者とみなすので、それにふさわしい授業態度で臨むこと。また、教職課程を履修しないものの履修も可能であるが、その場合でも教職課程を取っているものと同等の態度などで臨むこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	各回講義の予習と復習を行っていただく（学習記録用紙）。予習のために、基礎的な用語や歴史について教科書や参考書を用いて学習する必要がある。講義後の復習として講義内容を振り返り、重要事項や各自の考え方の変化を振り返る課題を課す。配布資料を読みなし、理解を振り返る学習を進めること。各回講義ごとに約2時間の学習が必要である。						
オフィスアワー	水曜日4限 研究室（9301）						
授業計画						担当者	

第 1 回	教育の基礎概念	倉知典弘
第 2 回	教育の源形態－家庭・共同体による教育	倉知典弘
第 3 回	古代の教育思想（1）西洋の教育思想	倉知典弘
第 4 回	第 4 回：古代の教育思想（2）日本の教育思想	倉知典弘
第 5 回	中世の教育思想（1）宗教と教育	倉知典弘
第 6 回	第 6 回：中世の教育思想（2）ルネサンスと教育	倉知典弘
第 7 回	近代の教育思想（1）産業革命と教育	倉知典弘
第 8 回	近代の教育思想（2）近代教育制度の成立	倉知典弘
第 9 回	近代の教育思想（3）教育学の成立と展開	倉知典弘
第 1 0 回	現代の教育思想（1）新教育運動の諸相	倉知典弘
第 1 1 回	現代の教育思想（2）戦争と教育	倉知典弘
第 1 2 回	現代の教育思想（3）東西冷戦下の教育	倉知典弘
第 1 3 回	現代社会と教育（1）現代社会の課題と教育	倉知典弘
第 1 4 回	現代社会と教育（2）子どもの生活世界の変容と教育	倉知典弘
第 1 5 回	第15回：現代社会と教育（3）－まとめにかえて	倉知典弘
第 1 6 回	筆記試験	倉知典弘
教科書		
教・書籍名 1	『教育思想史』（有斐閣アルマ）	教・出版社名 1 有斐閣
教・著者名 1	今井康雄編	教・ I S B N 1 978-4641123847
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	教育の歴史と思想	参・出版社名 1 ミネルヴァ書房
参・著者名 1	石村華代・軽部勝一郎編	参・ I S B N 1 978-4623065844
参・書籍名 2	新訂 学習指導要領は国民形成の設計書: その能力観と人間像の歴史的変遷	参・出版社名 2 東北大学出版会
参・著者名 2	水原克敏	参・ I S B N 2 978-4861633171

授業科目名	教職論			担当者	池上 真由美		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	TC-FS-1-006		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 8. 働きがいも経済成長も 16. 平和と公正をすべての人に						
到達目標	教職についての基礎的な知識（教職の歴史と社会的使命，教員の職務，教員養成と研修，服務規程，「チームとしての学校」の一員としての役割等）について理解するとともに，教員としての自らの適性について考えることを目標とする。						
授業概要	教師，教職，人を教えるという行為など，教育という営みをめぐる哲学的，原理的な課題からはじまり，学校教育，教員の使命と役割，学校における教員のさまざまな活動について理解する。また，これからの学校においては，「チームとしての学校」の体制の中で，一人の教員として自らの専門性を発揮し組織の一員として課題解決に当たる資質・能力が求められることを理解する。さらに，グループ討議等を通して，教員をめざすにあたり，自分には求められる資質・能力があるか，自分は教職に向いているかを真剣に考える場をもつようにする。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	〔試験〕60%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する。） 〔提出物〕20%（レポート課題，コメント用紙等により評価する。） 〔授業への参画状況〕20%（発表及び発言内容，教職への意欲や態度等を総合的に評価する。）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は，ルーブリックを添付して授業でフィードバックする。コメント用紙の内容は，次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめて，フィードバックする。						
履修条件・注意事項	基本的に毎時行う予習課題の発表，グループ・ディスカッションなどに積極的に参加することが望まれる。なお，授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は，小中学校教員としての実務経験を持つ教員が，その経験を活かし，教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習課題をもとに，目的意識をもって授業を受けること。 復習として，授業で配付したプリントの内容を，理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお，それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室112にて，毎週火曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	教師の歴史と教師論					池上	
第2回	求められる教員の資質の変遷					池上	
第3回	教育的諸問題と教職の課題					池上	
第4回	教員の仕事と役割①（種類と職階，関係づくり）					池上	
第5回	教員の仕事と役割②（教科指導）					池上	
第6回	教員の仕事と役割③（教科外指導）					池上	

第 7 回	教員の仕事と役割④（進路指導）	池上	
第 8 回	教員の仕事と役割⑤（学級経営・学校経営・校務分掌）	池上	
第 9 回	教員の仕事と役割⑥（教育相談）	池上	
第 1 0 回	教員の仕事と役割⑦（学級崩壊）	池上	
第 1 1 回	教員の研修	池上	
第 1 2 回	服務規程	池上	
第 1 3 回	小中学校の教員	池上	
第 1 4 回	高等学校・特別支援学校の教員	池上	
第 1 5 回	教員養成と教職課程	池上	
第 1 6 回	筆記試験	池上	
教科書			
教・書籍名 1	教職論 教師を志すすべての人へ 第2版	教・出版社名 1	
教・著者名 1	教職問題研究会	教・ I S B N 1	978-4-623-05305-6
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	教育行政学			担当者	倉知 典弘		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	TC-FS-1-007		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	授業のテーマ 現在日本の教育制度の仕組み、意義、基本原理を理解するとともに教育制度の一部である学校の経営やその制度的背景について理解する。そのうえで、社会や子どもを取り巻く課題に教育制度・学校経営がどの程度対応できているのかを考え、将来の教育制度・学校経営のあるべき姿を考察する。 到達目標 1. 学生は教育行政・公教育の原理、理念、作用及び仕組みを理解し、説明できる 2. 学生は学校、教育機関の目的を理解し、その目標をどのように達成しようとしているか理解し、説明できる 3. 学生は学校経営の組織体制及びマネジメント手法について理解し、説明できる 4. 学生は子どもたちをめぐる問題に対する制度的・経営的対応を理解し、対応の仕方を考察できる 5. 学生は現在の教育改革及び行財政改革の基本的な方向を理解し、説明できる 6. 学生は子どもや社会の現状、行財政改革の現状などの正確な理解をもとに今後の教育行政・学校経営のあるべき姿について自身の意見を提示できる						
授業概要	本講義は、教育制度の理解を深める段階と教育制度の理解をもとに学校経営を理解することを目的としている。まず最初に公教育が存在する理由を「公共性」概念及び「公共財」概念を紐解くことにより明らかにする（第1回）。そのうえで現状の法制・機構・仕組みについて検討する。その後、教育行政の理念を諸外国の事例や裁判での論争事例をもとに批判的に検討していく（第2回～第7回）。 以上のような教育行政全体の動向・課題を明らかにしたのち、その制度によって支えられている学校経営について「組織マネジメント」及び「問題行動」「子どもの現状」への対応という観点から解説及び討議を行う。特に近年注目されている「学校安全・危機管理」「チームとしての学校」「地域社会との連携」については詳細に検討を行い、学校経営の在り方を考える示唆を提示したい（第8回～第14回）。そして、最後に今後の教育行政と学校経営の在り方について総括的な議論を行い、教員になる学生の教職意識の向上に役立てる（第15回）。 本講義では日本の事例を主に扱うが諸外国に先進的な事例や参考になる事例がある場合には適宜それを紹介するので、日本の現状を批判的に見つめるための視野を身に付けてもらいたい。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	学習記録の提出（15％）及びレポート課題（15％）及び定期試験（70％）で評価する。評価に関わる詳細は初回講義の際に示す。						
ルーブリック評価	本講義は規定ルーブリックは用いない。						
課題や試験のフィードバック方法	習記録は各回担当者のコメントを付して返却される。レポート及び筆記試験については、再試験日程発表の際に総括的にフィードバックを行う。その後、ユニバーサルパスポートなどで個別のフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本講義は、教員免許状取得のための講義であり、卒業要件に当てはまるか否かは必ず学生便覧を確認してから履修すること。加えて、教職課程として履修するものは将来教員になる者とみなすので、それにふさわしい授業態度で臨むこと。また、教職課程を履修しないものの履修も可能であるが、その場合でも教職課程を取っているものと同等の態度などで臨むこと						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習として1) 講義に取り上げる予定の法令調べ 2) 講義にかかわる事項の調べ 3) テーマに関わる論述課題を課す（2時間程度）。論述課題の内容は講義でも取り上げる。 復習として1) 講義のキーワードのまとめ 2) 論述課題 3) 講義の振り返りを課す（2時間程度）						
オフィスアワー	水曜日4限 研究室（9301）にて						

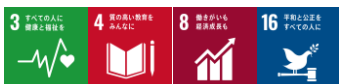
授業計画		担当者	
第 1 回	公教育の基本原理と教育行政：教育の公共性について	倉知典弘	
第 2 回	教育の法制の概要：教育の法律主義について	倉知典弘	
第 3 回	教育行政の機構：教育行政のガバナンス	倉知典弘	
第 4 回	教育の中立性確保：宗教的中立と政治的中立	倉知典弘	
第 5 回	教育の義務制と機会均等：教育福祉の観点から	倉知典弘	
第 6 回	教育機関の設置・管理：学校と社会教育・生涯学習	倉知典弘	
第 7 回	教育職員に関わる法制：養成・採用・服務を中心に	倉知典弘	
第 8 回	学校の組織体制：チームとしての学校を中心に	倉知典弘	
第 9 回	学校経営計画と評価：PDCAサイクル	倉知典弘	
第 1 0 回	学校における教育活動：教育課程	倉知典弘	
第 1 1 回	学校における生徒指導：「問題行動」とその制度的対応	倉知典弘	
第 1 2 回	学校経営の諸課題(1)地域社会との連携	倉知典弘	
第 1 3 回	学校経営の諸課題(2)学校安全・学校保健	倉知典弘	
第 1 4 回	学校経営の諸課題(3)子どもの現状とその制度的対応	倉知典弘	
第 1 5 回	現代教育改革と教育行政・学校経営	倉知典弘	
第 1 6 回	筆記試験	倉知典弘	
教科書			
教・書籍名 1	教育行政学 第 3 版 子ども・若者の未来を拓く	教・出版社名 1	八千代出版
教・著者名 1	横井敏郎編	教・ I S B N 1	9784842917849
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	教育小六法	参・出版社名 1	学陽書房
参・著者名 1	市川須美子、小野田正利、勝野 正章、窪田 眞二、中嶋 哲彦、成嶋隆	参・ I S B N 1	978-4313011953
参・書籍名 2	中学校学習指導要領（最新版） 高等学校学習指導要領（最新版）	参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	教育心理学			担当者	藤原 直子		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	TC-FS-1-008		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	△	DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	1. 教育心理学の重要性を理解し、教育領域に有用な心理学的知識とその活用を学ぶ 2. 児童生徒の心の発達プロセス理解と、それに適合した、あるいは促進させる教育心理学的アプローチのあり方を身につける 3. 児童生徒の示す心理的問題や、教育上特別な支援が必要な児童生徒の心理学的理解と、具体的な支援に寄与する教育心理学的知識を身につける						
授業概要	この講義では、教育領域における心理学的理論と知識、および教育領域に適用可能な心理学的手法を学ぶ。まず教育心理学の理論と方法を概観し、児童生徒個人の心理的発達の諸側面を学んでいく。そして、学習理論や動機づけの理論に基づいて児童生徒にアプローチする心理学的知識と手法についても解説し、さまざまな学校現場における諸問題や児童生徒の困難さに対する支援方法を学ぶ。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション						
評価方法と割合	評価は、講義内で行う小テスト・レポート・振り返りシート、学期末に実施する単位認定試験の得点を総合して行う。評価の内訳は、講義内の小テスト20％、レポート・演習課題20％、単位認定試験60％で、総合100点満点中60点以上を単位認定の対象とする。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	講義内の小テストや演習課題について、講義内で回答・フィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	講義をしっかり聴き積極的な学びに努めること。 プリント等を配布するので、ファイルを用意しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、幼稚園・小学校での教員経験、小中高등학교でのスクールカウンセラーの実務経験がある教員が担当する。教育現場における現状や課題、教員として必要とされる心理学の知識や支援方法について教授し、実践に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	1. 初回授業にて配布する「講義計画」に基づいて、テキストの該当ページを事前に読み予習する。 2. 授業内で定期的に実施する小テストの内容をもとに、復習を行う。 3. 授業終了時に配布する「まとめプリント」の空欄を記入し、復習を行う。 以上のような予習・復習に、毎回1～2時間を要する。						
オフィスアワー	集中講義であるため、授業開始前、昼休憩、授業終了後をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション、教育心理学とは					藤原直子	
第2回	心身の発達①：発達の基礎的な理論と乳幼児期の発達					藤原直子	
第3回	心身の発達②：児童期					藤原直子	
第4回	心身の発達③：青年期以降					藤原直子	
第5回	学習と知識獲得					藤原直子	
第6回	認知的情報処理と記憶					藤原直子	
第7回	動機づけと学習					藤原直子	
第8回	認知発達と学習支援					藤原直子	
第9回	学級集団と学習支援					藤原直子	
第10回	個性や個人差と学習支援					藤原直子	
第11回	教育評価					藤原直子	
第12回	障害の基本的理解と学校教育における配慮					藤原直子	
第13回	困難さを抱える子どもへの教育的支援					藤原直子	

第 1 4 回	子どもの情緒・適応の理解と心理的支援	藤原直子	
第 1 5 回	学校教育を取り巻く諸問題と教育心理学	藤原直子	
第 1 6 回	レポート試験	藤原直子	
教科書			
教・書籍名 1	よくわかる教職エクササイズ② 教育心理学	教・出版社名 1	ミネルヴァ書房
教・著者名 1	森田健宏・田爪宏二	教・ I S B N 1	978-4-623-08177-6
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	特別支援教育（外国全8回）				担当者	藤原 直子		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年				ナンバリング	TC-FS-3-009		
必修・選択	選択	単位数	1単位		時間数	15	授業形態	講義
年次	3年		開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
ディプロマポリシー対応項目								
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力		
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目		△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／10. 人や国の不平等をなくそう 							
到達目標	発達障害をはじめとする特別な支援を必要とする幼児・児童および生徒の障害特性を理解し、適切な指導方法・支援方法に関する知識を身につけることを目標とする。 さらに、特別支援教育の理念とシステムを学び、保護者や他の教員、関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を習得する。							
授業概要	特別支援教育の対象であるそれぞれの障害の特性と心理的特徴について理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくための具体的な方法を学ぶ。							
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク							
評価方法と割合	講義内で行う小テスト・レポート・振り返りシート、学期末に実施する単位認定試験の得点を総合して行う。評価の内訳は、講義内の小テスト20%、レポート・演習課題20%、単位認定試験60%で、総合100点満点中60点以上を単位認定の対象とする。							
ルーブリック評価								
課題や試験のフィードバック方法	講義内の小テストや演習課題について、講義内で回答・フィードバックを行う。							
履修条件・注意事項	講義をしっかり聴き積極的な学びに努めること。 プリント等を配布するので、ファイルを用意しておくこと。							
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、教育現場における障害児者に対する心理的支援の実務経験（幼稚園・小学校での教員、小中高等学校でのスクールカウンセラー、特別支援教育に関する巡回相談）がある教員が担当し、教育現場における現状や課題、教員として必要とされる特別支援に関する知識や支援方法について教授する。					
事前学習・事後学習とその時間	①初回授業にて配布する「講義計画」に基づいて、テキストの該当ページを事前に読み予習する。 ②授業内で実施する小テストの内容をもとに、復習を行う。 ③授業内で配布するプリントの空欄を記入し、復習を行う。 以上のような予習・復習に、毎回1～2時間を要する。							
オフィスアワー	10号館2階の個人研究室において、毎週月曜日4限目をオフィスアワーとする。							
授業計画							担当者	
第1回	特別支援教育の制度と理念、学校における支援体制及び連携						藤原直子	
第2回	特別支援教育の実際、指導計画の作成						藤原直子	
第3回	発達障害児の心身の発達・心理的特性						藤原直子	
第4回	自閉スペクトラム症（ASD）の児童生徒への理解と支援						藤原直子	
第5回	注意欠如多動症（ADHD）の児童生徒への理解と支援						藤原直子	
第6回	限局性学習症（LD）の児童生徒への理解と支援						藤原直子	
第7回	様々な障害のある児童生徒の特性と支援、まとめ						藤原直子	
第8回	試験						藤原直子	
第9回								
第10回								
第11回								
第12回								
第13回								
第14回								

第 1 5 回			
第 1 6 回			
教科書			
教・書籍名 1	教員と教員になりたい人のための特別支援教育のテキスト	教・出版社名 1	学研教育みらい
教・著者名 1	小林倫代（編・著）	教・I S B N 1	978-4-05-801762-3
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・I S B N 2	

授業科目名	教育課程論（後半 8 回）				担当者	池上 真由美		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年				ナンバリング	TC-FS-1-010		
必修・選択	選択	単位数	1単位		時間数	15	授業形態	講義・AL
年次	1年	開講期	2022年度秋学期				曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目								
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	△	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	○	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／8. 働きがいも経済成長も／16. 平和と公正をすべての人に 							
到達目標	教育課程の編成と実施などについての基礎的・基本的な知識を修得し、学校や地域の特性と教師の創意・工夫を生かした魅力ある教育課程を編成するための方略について理解する、また、編成した教育課程を実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルについて理解することを目標とする。							
授業概要	教育課程とは何か、教育課程の変遷、教育課程の法体系と学習指導要領、新学習指導要領・新教育要領の改訂のポイントなどについて理解する。また、編成した教育課程を実施・評価し改善するカリキュラム・マネジメントのプロセスを、実践例を通して学び、演習やグループワーク等を行うことで、カリキュラム・マネジメント力を養う。							
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク							
評価方法と割合	〔試験〕 60%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する。） 〔提出物〕 20%（レポート課題、コメント用紙等により評価する。） 〔授業への参画状況〕 20%（発表及び発言内容、教職への意欲や態度等を総合的に評価する。）							
ルーブリック評価								
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題、コメント用紙の内容は、次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめて、フィードバックする。							
履修条件・注意事項	基本的に毎時行う予習課題の発表、グループ・ディスカッションなどに積極的に参加することが望まれる。なお、授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。							
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。					
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習課題をもとに、目的意識をもって授業を受けること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。							
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室112にて、毎週火曜日4限をオフィスアワーの時間とする。							
授業計画							担当者	
第1回	教育課程とは何か						池上	
第2回	教育の目的と教育課程の編成						池上	
	現代日本の教育課程の変遷							

第 3 回		池上
第 4 回	新学習指導要領等の改訂のポイント「社会に開かれた教育課程」「学びの地図」「主体的・対話的で深い学び」	池上
第 5 回	近年の教育改革の動向および今後の課題	池上
第 6 回	幼稚園・小学校・中学校教育・高等学校教育における教育課程	池上
第 7 回	教育課程の法と行政、実践・カリキュラム・マネジメント	池上
第 8 回	筆記試験	池上
第 9 回		
第 1 0 回		
第 1 1 回		
第 1 2 回		
第 1 3 回		
第 1 4 回		
第 1 5 回		
第 1 6 回		
教科書		
教・書籍名 1	はじめて学ぶ教育課程	教・出版社名 1 ミネルヴァ書房
教・著者名 1	広岡義之	教・ I S B N 1 978-4-623-07559-1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	道徳教育の理論と方法			担当者	川上 はる江		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	TC-FS-2-011		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・討論・模擬授業
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	【テーマ】道徳教育について，基礎理論を理解し，併せて実践的指導力(道徳科の授業力)を身に付けることができる。 【到達目標】 1) 基礎的知識として，道徳教育の歴史，道徳性の発達理論，道徳教育の役割と意義を理解する。 2) 道徳の読み物資料の分析の仕方，指導案の書き方を学修し，指導案を作成することができる。 3) 作成した指導案を基に模擬授業を実施する。 4) 道徳科の評価について考え方を理解することができる。						
授業概要	道徳教育の基礎知識である，道徳教育の歴史，道徳性の発達理論，道徳の授業理論について，各自で課題を決めて学修し，パワーポイント資料にまとめ発表する。また，実践力育成という視点から，グループで，道徳の読み物資料を基に道徳的価値の分析を行い，道徳的価値について学びを深める。その後，学習指導案を作成し，模擬授業の実施，相互評価，改善点の話し合いという一連の過程を通して，質の高い授業力を身に付ける。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	最終試験（50％）授業全般にわたっての理解度を記述式及び空所補充の試験によって確認する。 提出物 （20％）レポート課題、学習指導案，プリントの記載内容によって評価する。 授業への参加状況（30％）パワーポイントの発表，模擬授業，発言及び発言内容により総合的に判断する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎時間の課題（小プリント，レポート）については点数，コメントを付けて返す。模擬授業については，評価の視点を示し，授業後コメントを付けて返却する。						
履修条件・注意事項	事前に出されたプリントをする。テキストを必ず持参する。						
実務経験のある教員	該当する	内容	小学校教諭，教育センター研究員，小学校校長として38年間の実務経験を有する教員が，その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	予習 2時間 事前に出された予習プリントをしておくこと。 復習 2時間 学習した内容の要点をまとめておくこと。						
オフィスアワー	月5限 木3限 昼休み （10号館 個人研究室 10309）						
授業計画						担当者	
第1回	15回の授業予定，道徳教育を学ぶ視点，道徳教育で培う道徳性。						川上
第2回	道徳教育の目標，学校における道徳教育の実際，全体計画，年間計画						川上
第3回	道徳資料の読み方 授業構成の仕方 資料1（視点A）						川上
第4回	学修指導案の書き方 資料を基に作成						川上
第5回	道徳教育の歴史 戦前，戦後の道徳教育の比較						川上
第6回	道徳性の発達理論 フロイト，ピアジェ						川上
第7回	道徳性の発達理論 コールバーグ，ブル						川上
第8回	総合単元的な道徳学習，統合的な道徳学習						川上
第9回	教材研究 学習指導案作成 資料2（視点B）						川上
第10回	模擬授業1（演習）相互評価 授業後の検討・①②グループ						川上
第11回	模擬授業2（演習） 相互評価 授業後の検討 ③④グループ						川上
第12回	教材研究 学習指導案作成 資料3（視点D）						川上
第13回	模擬授業3 相互評価 授業後の検討 ⑤⑥グループ						川上
第14回	道徳科の評価 評価の基本的な考え方 具体例						川上

第 1 5 回	道徳教育の理論と方法 学習のまとめ		川上
第 1 6 回	定期試験（筆記試験）		川上
教科書			
教・書籍名 1	道徳教育を学ぶ人のために（四訂版）	教・出版社名 1	世界思想社
教・著者名 1	小寺正一 藤永芳純 他	教・ I S B N 1	978-4-7907-0
教・書籍名 2	中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編	教・出版社名 2	教育出版
教・著者名 2	文部科学省	教・ I S B N 2	978-4-316-30084-9
参考書			
参・書籍名 1	楽しく豊かな「道徳の時間」をつくる	参・出版社名 1	ミネルヴァ書房
参・著者名 1	横山利弘 牧崎幸夫 他	参・ I S B N 1	978-4-623-08085-4
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法			担当者	川上 はる江		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	TC-FS-2-012		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義 演習 AL
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 6. 安全な水とトイレを世界中に 11. 住み続けられるまちづくりを 						
到達目標	【テーマ】 特別活動、総合的な学習の時間について基礎的知識を理解し、実践的指導力を身に付ける。 【到達目標】 1. 特別活動・総合的な学習の時間の意義、目標、教育課程上の位置づけ、内容を理解する。 2. 特別活動の内容の種類と関連性を理解し、学級活動の年間計画、学習指導案を作成することができる。 3. 総合的な学習の時間の課題を決めて単元計画を作成し、その強みと探求の過程について説明することができる。 4. 特別活動・総合的な学習の時間の評価の考え方を理解することができる。						
授業概要	特別活動・総合的な学習の時間の特徴を考慮しながら、下記の内容を実践的に学修する。 ①特別活動の目標、教育課程上の位置づけ、学級活動、クラブ活動、生徒会活動等の内容については、事前にプリントで予習しておく。そして、講義の中でグループワークを通して主体的に学びを深める。 ②学級活動指導案作成の仕方については、実際に作成することを通して学修する。 ③総合的な学習の時間の目標、教育課程上の位置づけ、特徴については、予習プリントで事前に学修しておき、講義の中でグループワークを通して主体的に学びを深める。 ④全体計画、年間計画、単元計画、思考ツール等は作成、活用することを通して、学修する。						
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／グループワーク						
評価方法と割合	最終試験（50％） 授業全般にわたっての理解度を記述式及び空所補充の試験によって確認する。 提出物 （20％） レポート課題、学習指導案、プリントの記載内容によって評価する。 授業への参加状況（30％） パワーポイントの発表、模擬授業、発言及び発言内容により総合的に判断する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポート、小テストは採点して助言を添えて返却する。単元計画、年間計画、学習指導案はコメントを付けて説明する。						
履修条件・注意事項	事前に配布された予習プリントをする。						
実務経験のある教員	該当する	内容	小学校教諭，教育センター研究員，小学校校長として38年間の実務経験を有する教員が，その経験を活かし教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	予習 2時間 事前に出された予習プリントをする。 復習 2時間 学習したことの要点をまとめる。						
オフィスアワー	月5限 木3限 昼休み （10号館，個人研究室 10309）						
授業計画						担当者	
第1回	授業予定 特別活動の目標 特質						川上
第2回	特別活動の内容（学級活動 学校行事 生徒会活動）と全体計画						川上
第3回	学級活動の目標、内容、年間計画						川上
第4回	学級活動の年間計画作成（演習）						川上
第5回	学校行事、生徒会活動の目標、内容、具体的活動						川上
第6回	学級活動の指導案の書き方 指導案作成						川上
第7回	模擬授業 代表グループ①②						川上
第8回	学級活動とSEL						川上/GT（中学校教諭）
第9回	総合的な学習の時間の意義、目標						川上

第 1 0 回	総合的な学習の時間の歴史 教育課程上の位置づけ	川上
第 1 1 回	総合的な学習の時間 全体計画 単元計画	川上
第 1 2 回	単元計画の考え方 作成の仕方	川上
第 1 3 回	作成した単元計画の発表 (グループ内で情報交換)	川上
第 1 4 回	思考ツールと活用例 (演習)	川上
第 1 5 回	総合的な学習の時間の評価	川上
第 1 6 回	定期試験 (筆記試験)	川上
教科書		
教・書籍名 1	新しい教職教育講座 9 特別活動	教・出版社名 1 ミネルヴァ書房
教・著者名 1	中村 豊/原 清治	教・ I S B N 1 978-623-08192-9
教・書籍名 2	新しい教職教育講座 8 総合的な学習の時間	教・出版社名2 ミネルヴァ書房
教・著者名2	森田真樹 / 篠原正典	教・ I S B N 2 978-4-623-08191-2
参考書		
参・書籍名 1	中学校学習指導要領 解説 総合的な学習の時間	参・出版社名 1 東山書房
参・著者名 1	文部科学省	参・ I S B N 1 978-4-8278-1561-0
参・書籍名 2	中学校学習指導要領 解説 特別活動	参・出版社名2 978-4-8278-1562-7
参・著者名2	文部科学省	参・ I S B N 2 東山書房

授業科目名	教育の方法と技術			担当者	井上 克彦		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	TC-FS-2-013		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	情報通信技術を効果的に活用した学習指導や、児童生徒に情報活用能力（情報モラル含む）を育成するための基礎的な知識や技能を身に付ける。 具体的には次のとおりである。 1 情報通信技術を効果的に活用した基礎的な指導法を身に付けている。 2 児童生徒が情報通信機器を活用する上で、基本的な操作の指導を身に付けている。 3 個別な学びと協働的な学びの実現や、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善の必要性を理解している。 4 特別な支援を必要とする児童生徒への情報通信技術の必要性和留意点を理解している。 5 校務システムの活用例や情報セキュリティの重要性について理解している。						
授業概要	本講義では、情報通信技術を活用した教育の理論や方法について理解し、基礎的な指導法を身に付ける。また、「GIGAスクール構想」について理解を深める。各教科におけるICT活用授業、情報モラルに関する授業、タブレット端末を活用した授業の3つについて受講者全員が具体的な授業を構想（簡易指導案）を作成し、分担して模擬授業を行う。						
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	模擬授業、指導案（30％）、授業への参加態度（20％）、単位認定試験（50％）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業中のフィードバックや指導案等は個別にも行う。						
履修条件・注意事項	「中学校学習指導要領」または「高等学校学習指導要領」のどちらかを免許状を取得する学校種を毎回持参する。その他については、必要に応じて関係資料を配付する。ノートは必ず作成し、配付資料も整理しておくこと。毎回の講義の予習、復習も行なってほしい。なお、模擬授業の際は作成した指導案を印刷し、全員分、配付すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この教科は、小学校教員、校長としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	情報機器を活用した学習指導案が作成でき、模擬授業が実施できるよう教材研究に取り組んでいただきたい。予習・復習が2時間程度必要。						
オフィスアワー	毎授業終了時に教室にて実施						
授業計画						担当者	
第1回	情報通信技術の活用の意義と理論（GIGAスクール構想含む）					井上 克彦	
第2回	情報通信技術を効果的に活用した学習指導（GIGAスクール構想含む）					井上 克彦	
第3回	各教科における情報通信機器の活用（実物投影機、PC、タブレット端末等）					井上 克彦	
第4回	教員のICT活用指導力A（教材研究・評価）、B（授業における教員の活用）					井上 克彦	
第5回	教員のICT活用指導力C（児童生徒の活用）、D（情報モラル）、E（校務での活用）					井上 克彦	
第6回	各教科におけるICT活用（動画コンテンツの視聴とその討議）					井上 克彦	
第7回	各教科におけるICTを活用した模擬授業の構想（指導案作成、実物投影機、PCの活用）					井上 克彦	
第8回	各教科におけるICTを活用した模擬授業の発表と評価（発表：前半グループ）					井上 克彦	
第9回	情報モラルにおける模擬授業の構想（指導案作成及びコンテンツ選定）					井上 克彦	
第10回	情報モラルにおける模擬授業の発表と評価（発表：後半グループ）					井上 克彦	

第 1 1 回	特別支援教育の観点からの I C T 活用について		井上 克彦
第 1 2 回	各教科におけるタブレット端末を活用した模擬授業の構想		井上 克彦
第 1 3 回	各教科におけるタブレット端末を活用した模擬授業の発表と評価（発表：後半グループ）		井上 克彦
第 1 4 回	学校における情報セキュリティの重要性について		井上 克彦
第 1 5 回	授業のまとめと振り返り		井上 克彦
第 1 6 回	単位認定試験		井上 克彦
教科書			
教・書籍名 1	中学校学習指導要領	教・出版社名 1	東洋館出版社
教・著者名 1	文部科学省	教・ I S B N 1	10 4827815402
教・書籍名 2	高等学校学習指導要領	教・出版社名 2	東山書房
教・著者名 2	文部科学省	教・ I S B N 2	978-4-8278-1567-2
参考書			
参・書籍名 1	教育の情報化に関する手引き	参・出版社名 1	製本版はなし。下記ページに公開 https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/zyouhou/detail/mext_00117.html
参・著者名 1	文部科学省	参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	生徒・進路指導論			担当者	藤井 和郎		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	TC-FS-2-014		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	△	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 5. ジェンダー平等を実現しよう 10. 人や国の不平等をなくそう 16. 平和と公正をすべての人に						
到達目標	【テーマ】生徒指導、進路指導及びキャリア教育の意義や原理を学び学校組織の一員として生徒指導、進路指導及びキャリア教育を進めていくために必要な知識・技術や素養を身に付ける。 【到達目標】 1 生徒指導の意義や原理を理解することができる。 2 すべての生徒を対象とした学級・学年・学校における生徒指導の進め方を理解することができる。 3 生徒の抱える主な生徒指導上の課題の形態と、養護教諭等の教職員、外部の専門家、関係機関等との校内外の連携も含めた対応の在り方を理解することができる。 4 進路指導・キャリア教育の意義や原理を理解することができる。 5 すべての生徒を対象としたキャリア教育の考え方と指導の在り方を理解することができる。 6 生徒が抱える個別のキャリア教育上の課題に向き合う指導の考え方と在り方を理解することができる。						
授業概要	生徒指導は、一人一人の生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じ行われる重要な教育活動であり、キャリア教育は、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むための教育活動である。授業では、生徒指導の目標や生徒指導の機能を捉え直した上で、生徒指導の今日的課題を踏まえた実践について知識・理解を深める。また、キャリア教育及びそれに包含される進路指導について意義や原理などを学ぶ。毎回の授業では反転授業及び「個人学習1→グループ学習→全体学習→個人学習2」という流れを原則としたグループワークを取り入れた主体的・対話的な学習を行う。それにより、課題に対する理解が深まることを意図している。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク						
評価方法と割合	〔試験〕50％（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する） 〔提出物〕20％（レポート課題や学習プリントの記載内容等により評価する） 〔授業への参画状況〕30％（予習プリントや振り返り用紙の記載内容、授業中の発表及び発言内容、教職への意欲や態度等を総合的に評価する）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は授業の中で、試験は個別にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	座席指定により編成されたグループでの協議に積極的に参加すること。 授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、中学校教員、生徒指導主事、校長及び教育行政の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習プリントにより、次時の学習内容を把握すること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。						
オフィスアワー	金曜日授業終了後 213教室						
授業計画						担当者	
第1回	生徒指導の意義と原理						藤井
第2回	学校における生徒指導体制、教育相談						藤井
第3回	生徒指導に関する法制度等、学校と家庭・地域・関係機関との連携						藤井
第4回	生徒指導の進め方（児童生徒全体への指導）						藤井

第 5 回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：問題行動）	藤井
第 6 回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：不登校）	藤井
第 7 回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：いじめ）	藤井
第 8 回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：発達障害）	藤井
第 9 回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：児童虐待）	藤井
第 1 0 回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：愛着障害）	藤井
第 1 1 回	生徒指導の進め方（個別の課題を抱える児童生徒への指導：性的マイノリティ）	藤井
第 1 2 回	キャリア教育とは何か	藤井
第 1 3 回	中学校におけるキャリア教育推進のために	藤井
第 1 4 回	中学校におけるキャリア教育の実践	藤井
第 1 5 回	生徒指導の今後の方向性	藤井
第 1 6 回	試験	藤井
教科書		
教・書籍名 1	生徒指導提要	教・出版社名 1 教育図書
教・著者名 1	文部科学省	教・ I S B N 1 978-4-87730-274-0
教・書籍名 2	中学校キャリア教育の手引き	教・出版社名2 教育出版
教・著者名2	文部科学省	教・ I S B N 2 978-4-316-30026-9
参考書		
参・書籍名 1	中学校学習指導要領(平成29年告示)	参・出版社名 1 東山書房
参・著者名 1	文部科学省	参・ I S B N 1
参・書籍名 2	高等学校学習指導要領(平成30年告示)	参・出版社名2 東山書房
参・著者名2	文部科学省	参・ I S B N 2

授業科目名	教育相談の基礎			担当者	藤井 和郎		
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	TC-FS-2-015		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／16. 平和と公正をすべての人に  						
到達目標	【テーマ】学校教育相談を進める際の基礎的知識を学ぶとともに、カウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解する。 【到達目標】 1 教育相談の意義と理論 (1)学校における教育相談の意義と課題を理解することができる。 (2)教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解することができる。 2 教育相談の方法 (1)生徒の不応や問題行動の意味並びに生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解することができる。 (2)学校におけるカウンセリングマインドの必要性を理解することができる。 (3)受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解することができる。 3 教育相談の展開 (1)職種の校務分掌に応じて、生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。 (2)いじめ、不登校、虐待、非行等の課題に対する、生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解することができる。 (3)教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組の必要性を理解することができる。 (4)地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解することができる。						
授業概要	教育相談は、生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。授業では、予防・開発的教育相談について理解し、さらに不応や問題行動等の課題への支援のための基礎的知識を学ぶ。毎回の授業では反転授業及び「個人学習 1→グループ学習→全体学習→個人学習 2」という流れを原則としたグループワークを取り入れた主体的・対話的な学習を行う。それにより、課題に対する理解が深まることを意図している。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク						
評価方法と割合	〔試験〕 50％（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する） 〔提出物〕 20％（レポート課題や学習プリントの記載内容等により評価する） 〔授業への参画状況〕 30％（予習プリントや振り返り用紙の記載内容、授業中の発表及び発言内容、教職への意欲や態度等を総合的に評価する）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は授業の中で、試験は個別にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	座席指定により編成されたグループでの協議に積極的に参加すること。 授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、中学校教員、生徒指導主事、校長及び教育行政の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習プリントにより、次時の学習内容を把握すること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。						
オフィスアワー	金曜日授業終了後 213教室						
授業計画						担当者	

第 1 回	学校教育相談とは	藤井	
第 2 回	学校教育相談の定義と歴史	藤井	
第 3 回	子どもの理解と指導	藤井	
第 4 回	子どもの発達と発達課題	藤井	
第 5 回	生徒指導と学校教育相談	藤井	
第 6 回	カウンセリングの理論と実際	藤井	
第 7 回	豊かな授業を創造する教育相談的アプローチ	藤井	
第 8 回	学級経営と学校教育相談	藤井	
第 9 回	来談者中心カウンセリング	藤井	
第 1 0 回	ブリーフカウンセリング	藤井	
第 1 1 回	社会性と情動の学習(SEL)	藤井	
第 1 2 回	学級担任が行う学校教育相談	藤井	
第 1 3 回	子どもの話の聴き方	藤井	
第 1 4 回	事例検討	藤井	
第 1 5 回	保護者との連携	藤井	
第 1 6 回	試験	藤井	
教科書			
教・書籍名 1	使用しない(必要に応じプリントを配布する)	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	生徒指導提要	参・出版社名 1	教育図書
参・著者名 1	文部科学省	参・ I S B N 1	978-4-87730-274-0
参・書籍名 2	中学校学習指導要領(平成29年告示)	参・出版社名 2	東山書房
参・著者名 2	文部科学省	参・ I S B N 2	

授業科目名	教育実習指導			担当者	大下 浩司、池上 真由美			
配当学科・研究科	2019～ 2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	TC-FS-3-016			
必修・選択	選択	単位数	1単位		時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	3年		開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目								
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	△	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	◎	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 							
到達目標	「教育実習の準備と教職意識の明確化」をテーマとして、教育実習に最低限必要な知識・技術の習得と確認、および自分自身の問題点の確認と克服を目標とする。							
授業概要	次年度、教育実習を行うための事前・事後指導にあたる。教職意識を高めるとともに、実習に向けた基本的な知識や技能の習得をめざす。授業は、学校の実態、学校教育の内容と方法などについて、小・中・高等学校の現場の先生方にも協力頂きながら進める。また、受講者は全員、正規の授業時間内だけでなく、時間外においても、自分で作成した指導案をもとに模擬授業を行い、実習に向けての問題点の把握、改善に努めなくてはならない。また、4年次の教育実習終了後にも事後指導としての時間を何回か設けるので、必ず出席し、教師としての実践力の向上に努めなくてはならない。							
アクティブラーニングの内容	反転授業／ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）							
評価方法と割合	テーマ「教育実習の準備と教職意識の明確化」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や模擬授業への取組等を通じて総合的に評価する。具体的には、単位認定試験の成績（50％）、日頃のテストや授業態度などの平常点（50％）による総合評価を行う。 なお、日頃の課題や発表については、授業中にフィードバックを行うので、単位認定に関する定期テストまでに見直しをしておくこと。							
ルーブリック評価								
課題や試験のフィードバック方法	課題やコメント用紙の内容は、次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめてフィードバックする。また、模擬授業の指導案や教材作成の課題については、各個人に改善点をフィードバックするので、提案を受けて可能な限りの改訂を行い再提出すること。							
履修条件・注意事項	教育実習を行うための必須単位である。 教師という自覚を高めるためにも、欠席・遅刻には厳しく対処する。 授業時間外にも模擬授業をする可能性もあるので承知しておくこと。 講義概要の欄にも記したが、厳密にはこの授業は後期のみの15回で終了するのではなく、実習終了後（次年度）にも事後指導として継続し、評価の対象とする。							
実務経験のある教員	該当する	内容	小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習をしっかりし、配付資料・ノート等をもとに、授業内容を深く理解しておくこと。（2時間） 教職意識の明確化と基礎学力の向上に努めること。 様々な話題(新聞等)に興味を持って触れておくこと。 指導案の作成の学習については、他の教科と関連づけながら進めること。							
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室112にて、毎週火曜日3限をオフィスアワーの時間とする。							
授業計画							担当者	
	教育実習の目的と心得							

第 1 回		池上・大下
第 2 回	4 年生による実習経験談及び実習に向けた準備	池上
第 3 回	小学校外国語教育の現状	池上
第 4 回	中学校における英語の授業づくり	池上・外部講師
第 5 回	高等学校における英語の授業づくり	池上・外部講師
第 6 回	外国語教育における小中連携の在り方	池上
第 7 回	学校現場における危機管理	池上・外部講師
第 8 回	教材研究の進め方①	池上
第 9 回	教材研究の進め方② (ICTの活用)	池上
第 1 0 回	道徳の授業の実際	池上
第 1 1 回	特別活動の授業の実際	池上
第 1 2 回	模擬授業と授業研究①	池上・大下
第 1 3 回	模擬授業と授業研究②	池上・大下
第 1 4 回	模擬授業と授業研究③	池上・大下
第 1 5 回	模擬授業の総括、教育実習に向けて	池上
第 1 6 回	単位認定試験	池上
教科書		
教・書籍名 1	英語科教育実習ハンドブック	教・出版社名 1 大修館書店
教・著者名 1	加藤茂夫・杉山敏・荒木美恵子	教・ I S B N 1 978-4-469-24644-5
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	教育実習Ⅰ（外国）			担当者	大下 浩司、池上 真由美		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国4年			ナンバリング	TC-FS-4-017		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	60	授業形態	実習
年次	4年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	実習
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	テーマは「学校における教育実習」であり、到達目標は、教師としての指導力の基礎となる実践的知識・技術の習得である。						
授業概要	教育実習は、教員免許取得のための必修科目であり、中学校、または高等学校での実習を通して、大学で学んできた知識や技術を現場における実際の教育活動と結びつけるためのものである。そのために、3週間にわたる実数期間中に、授業実習のみならず、学校はどんな活動をするところか、教師はどんな仕事をしているのか、生徒の実態はどうか、授業はどのように行われているのかなどについて、観察したり、参加したりしなくてはならない。 実習期間は実習校によって違いがあるが、基本的には5～6月を中心とした3週間である。 学校での実習終了後、大学で事後指導としての授業もある。						
アクティブラーニングの内容	実習／フィールドワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	実習校からの成績評価（70％）、実習日誌・最終レポート（20％）、事前説明会及び事後反省会等への出席態度（10％）により評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	実習先では、日々の研修を行いながら、指導案等を作成し、教材準備をすることが求められる。余裕をもって取り組むことができるように早め早めに行動するように心がけること。また、授業参観を積極的にし、他の先生方の指導法をしっかりと観察して実習記録にまとめ、実習後の振り返りに役立てるようにする。また、担当教員の方の指導助言や実習日誌のコメントをしっかりと受け止め、指導力の向上に努めること。						
履修条件・注意事項	3年次に行われる「教育実習指導」の単位の他、学生便覧で指示してある授業科目の単位を取得していない者は実習に参加できない。また、教職志望意識の低い者、大学での学業成績が全般に著しく低い者も実習を辞退していただく。 実習校での事前打ち合わせがある場合もあるので注意しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	英語科指導法Ⅰ～Ⅳの模擬授業・マイクロティーチング等を通して学んだことをもとに、事前の教材研究をしっかりと実習に臨むようにする。また、道徳や特別活動の授業にも備え、指導案を準備しておくこと。実習後は、実習日誌をもとに体験を振り返り、成果をレポートにまとめる。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室112にて、毎週火曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	5～6月を中心に3週間の実習					各実習校の指導担当教諭（池上・大下）	
第2回							
第3回							
第4回							

第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 1 0 回		
第 1 1 回		
第 1 2 回		
第 1 3 回		
第 1 4 回		
第 1 5 回		
第 1 6 回		
第 1 7 回		
第 1 8 回		
第 1 9 回		
第 2 0 回		
第 2 1 回		
第 2 2 回		
第 2 3 回		
第 2 4 回		
第 2 5 回		
第 2 6 回		
第 2 7 回		
第 2 8 回		
第 2 9 回		
第 3 0 回		
第 3 1 回		
第 3 2 回		
教科書		
教・書籍名 1		教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編 英語編	参・出版社名 1 開隆館出版販売
参・著者名 1	文部科学省	参・ I S B N 1 4304051784
参・書籍名 2	中学校学習指導要領解説 外国語編	参・出版社名 2 開隆館出版販売
参・著者名 2	文部科学省	参・ I S B N 2 978-4304042102

授業科目名	教育実習Ⅱ（外国）			担当者	大下 浩司、池上 真由美		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国4年			ナンバリング	TC-FS-4-018		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	60	授業形態	実習
年次	4年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	実習
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	○	DP8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	テーマは「学校における教育実習」であり、到達目標は、教師としての指導力の基礎となる実践的知識・技術の習得である。						
授業概要	教育実習は、教員免許取得のための必修科目であり、中学校、または高等学校での実習を通して、大学で学んできた知識や技術を現場における実際の教育活動と結びつけるためのものである。そのために、3週間にわたる実数期間中に、授業実習のみならず、学校はどんな活動をするところか、教師はどんな仕事をしているのか、生徒の実態はどうか、授業はどのように行われているのかなどについて、観察したり、参加したりしなくてはならない。 実習期間は実習校によって違いがあるが、基本的には5～6月を中心とした3週間である。 学校での実習終了後、大学で事後指導としての授業もある。						
アクティブラーニングの内容	実習／フィールドワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	実習校からの成績評価（70％）、実習日誌・最終レポート（20％）、事前説明会及び事後反省会等への出席態度（10％）により評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	実習先では、日々の研修を行いながら、指導案等を作成し、教材準備をすることが求められる。余裕をもって取り組むことができるように早め早めに行動するように心がけること。また、授業参観を積極的にし、他の先生方の指導法をしっかりと観察して実習記録にまとめ、実習後の振り返りに役立てるようにする。また、担当教員の方の指導助言や実習日誌のコメントをしっかりと受け止め、指導力の向上に努めること。						
履修条件・注意事項	3年次に行われる「教育実習指導」の単位の他、学生便覧で指示してある授業科目の単位を取得していない者は実習に参加できない。また、教職志望意識の低い者、大学での学業成績が全般に著しく低い者も実習を辞退していただく。 実習校での事前打ち合わせがある場合もあるので注意しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	英語科指導法Ⅰ～Ⅳの模擬授業・マイクロティーチング等を通して学んだことをもとに、事前の教材研究をしっかりと実習に臨むようにする。また、道徳や特別活動の授業にも備え、指導案を準備しておくこと。実習後は、実習日誌をもとに体験を振り返り、成果をレポートにまとめる。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室112にて、毎週火曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	5～6月を中心に3週間の実習					各実習校の指導担当教諭（池上・大下）	
第2回							
第3回							
第4回							

第 5 回		
第 6 回		
第 7 回		
第 8 回		
第 9 回		
第 1 0 回		
第 1 1 回		
第 1 2 回		
第 1 3 回		
第 1 4 回		
第 1 5 回		
第 1 6 回		
第 1 7 回		
第 1 8 回		
第 1 9 回		
第 2 0 回		
第 2 1 回		
第 2 2 回		
第 2 3 回		
第 2 4 回		
第 2 5 回		
第 2 6 回		
第 2 7 回		
第 2 8 回		
第 2 9 回		
第 3 0 回		
第 3 1 回		
第 3 2 回		
教科書		
教・書籍名 1		教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 外国語編 英語編	参・出版社名 1 開隆館出版販売
参・著者名 1	文部科学省	参・ I S B N 1 4304051784
参・書籍名 2	中学校学習指導要領解説 外国語編	参・出版社名 2 開隆館出版販売
参・著者名 2	文部科学省	参・ I S B N 2 978-4304042102

授業科目名	教職実践演習（中・高）			担当者	池上 真由美		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国4年			ナンバリング	TC-FS-4-019		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	△	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	これまでの学生の履修状況をふまえ、教師として必要な知識、技能の補完がテーマである。到達目標は、教師らしくなることである。						
授業概要	以下の3点を中心に、学校の先生方の協力のもと、講義、討議、ロールプレイングなどを行いながら演習を進める。 1. 教育実習を振り返り、総括するとともに、教師として必要な資質能力、自分に不足している資質能力等について討議・検討する。 2. 学級経営やPTA活動などの学校教育の諸活動のあり方について実践的に学ぶ。 3. 教科の指導に必要な知識・技能などを見直し、指導力向上のための取組を検討する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	教材研究と模擬授業への取組（50％）、日頃の発表や授業態度などの平常点（50％）による総合評価を行う。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題やコメント用紙の内容は、次の講義の始めにパワーポイントのスライドに要点をまとめてフィードバックする。また、模擬授業の指導案や教材作成の課題については、各個人に改善点をフィードバックするので、提案を受けて可能な限りの改訂を行い再提出すること。						
履修条件・注意事項	教育実習を終えていることが基本要件であり、将来、教職に就くという強い意志を持っている学生が対象の演習である。 外部講師の方の都合により、授業日程が変わることもあるので、注意すること。 教職カルテを持参すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	小中学校教員としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	教職に就こうとする自覚と向上心を高めるべく、すべての面での学修に真剣に取り組むこと。 4月から教師として勤められるように、自分に不足する資質・能力を向上させるように自己陶冶に努めること。 課題レポート等の作成（4時間以上必要）により、教育現場での活動についての理解を深めること。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室112にて、毎週火曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					全員	
第2回	教育実習を振り返る					池上	
第3回	教材研究の在り方（英語）					池上	

第 4 回	中学校における英語の授業づくり	池上・外部講師	
第 5 回	高等学校における英語の授業づくり	池上・外部講師	
第 6 回	学校現場における危機管理	池上・外部講師	
第 7 回	道徳の授業の実際	池上	
第 8 回	これからの道徳の授業	池上	
第 9 回	授業分析①	池上	
第 1 0 回	授業分析②	池上	
第 1 1 回	授業分析③	池上	
第 1 2 回	模擬授業①（英語）	全員	
第 1 3 回	模擬授業②（英語）	全員	
第 1 4 回	模擬授業③（道徳）	全員	
第 1 5 回	模擬授業④、授業づくりの総括	全員	
第 1 6 回	単位認定試験	池上	
教科書			
教・書籍名 1	適宜、資料を配付する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	介護等体験の研究（前半8回）			担当者	森井 康幸		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	TC-FS-1-020		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 10. 人や国の不平等をなくそう 11. 住み続けられるまちづくりを 16. 平和と公正をすべての人に						
到達目標	介護等体験の意義・目的の理解と、体験施設の概要や活動内容を把握すること、あわせて教職意識の明確化を図ることを目標とする。						
授業概要	次年度以降実施する「介護等体験」の事前指導に当たる。特別支援学校の先生や福祉施設の方に、それぞれの学校や施設の概要やそこでの介護等体験における注意事項等を講義していただく。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	受講態度（40％）と毎回課されるレポート（60％）により評価する。レポートは内容確認後返却する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎回課されるレポートに対して、授業内で総評を述べるか、コメントをつけて返却する。						
履修条件・注意事項	介護等体験を行うことが義務づけられている小学校・中学校の教員免許状取得希望者には必修科目である。 教員志望者に対する講義ということで、受講態度等にはシビアである。 講義予定回数は8回であり、実施日程にはくれぐれも注意すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	特別支援学校や種々の福祉現場において働いておられる方々を外部講師としてお迎えしてお話ししていただく。				
事前学習・事後学習とその時間	予習:テキストの該当箇所を精読。授業で該当する施設について、図書館等で調べておくこと。（2時間） 復習・課題:外部講師の方のお話を整理してレポートにまとめること。（2時間） 日頃から、自分の教師適正について考えておくように。						
オフィスアワー	月曜4限、10号館4階、教員研究室。						
授業計画						担当者	
第1回	介護等体験の意義・目的（第1部1～3章）						
第2回	介護等体験の実際（第2部2章、3章）						
第3回	高齢者福祉施設の概要と介護等体験（外部）						
第4回	児童福祉施設の概要と介護等体と介護等体験（外部）						
第5回	知的障害者福祉施設と介護等体験の概要と介護等体験（外部）						
第6回	特別支援学校（養護学校）の概要と介護等体験（外部）						
第7回	特別支援学校（盲学校）と介護等体験（外部）						
第8回	まとめ・試験（第1部4章）						
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
第13回							
第14回							
第15回							
第16回							
教科書							
教・書籍名1	教師をめざす人の介護等体験ハンドブック 五訂版					教・出版社名1	大修館書店
教・著者名1	現代教師養成研究会（編）					教・ISBN1	9.78447E+12
教・書籍名2						教・出版社名2	

教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	日本文化論			担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-401		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義 lecture
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
D P 1. 知識・技能	◎	D P 2. 情報の活用		D P 3.主体的な学びと論理的な思考	○	D P 4. コミュニケーション・表現力	
D P 5. グローバルな視野と地域貢献活動		D P 6. 課題解決力		D P 7. 自己効力感		D P 8. 学科項目	
S D G s 関連項目	1 6. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Goals and Theme Goals : One of the main goals of this class is to explore various interpretations on Japanese culture and traditions under globalization. By studying the academic research literature and intellectual discourse on Japanese culture, students will be able to become familiar with theoretical frameworks for making sense of cultural interpretations on identities and traditions in the contemporary world. Theme : Japanese culture and traditions in the precarious world.						
授業概要	Course Outline The course consists of three units: (1) academic discourse on cultural identities, (2) theories on culture and traditions, and (3) contemporary research on Japanese culture. Students will read several academic articles and/or book chapters, participate into discussions, write short essays, and give presentations.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	participation to class activities (25%), mid-term presentation (35%), final test (final presentation 40%).						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等については、授業においてフィードバックする。						
履修条件・注意事項	講義は英語のみで行い日本語は用いない。TOEIC650以上または同等の英語力が最低限の履修条件である。 The instruction language is only English (no Japanese). OEIC score 650 or equivalent English proficiency is the minimum requirement for prospective students.						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、授業内容に沿って課題を課す。 Preparation for class sessions (30 hours) and following-up studies (30 hours) after class sessions are required. At each class session home assignments will be delivered to students.						
オフィスアワー	11:30-13:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
授業計画						担当者	
第1回	Introduction: What is culture?					Merviö	
第2回	Japanese Studies and Japanology					Merviö	
第3回	Orientalism					Merviö	
第4回	Ethnicity					Merviö	
第5回	Identities					Merviö	
第6回	Otherness - we and they					Merviö	
第7回	Change and continuity					Merviö	

第 8 回	“High culture” in Japan	Merviö
第 9 回	Japanese popular culture	Merviö
第 1 0 回	Cultural traditions	Merviö
第 1 1 回	Cultural hybridity	Merviö
第 1 2 回	Multilayered perspectives	Merviö
第 1 3 回	Japanese youth	Merviö
第 1 4 回	Children and family in Japan	Merviö
第 1 5 回	Concluding discussion	Merviö
第 1 6 回	final test	Merviö

教科書

教・書籍名 1	Introduction to Japanese Culture	教・出版社名 1	Tuttle Publishing
教・著者名 1	Sosnoski, Daniel	教・ I S B N 1	978-4805313138
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1	An Introduction to Japanese Society, 4th edition, 2014	参・出版社名 1	Cambridge University Press.
参・著者名 1	Sugimoto, Yoshio	参・ I S B N 1	978-1107626676
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	国際関係論Ⅰ			担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-403		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義 lecture
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Theme : Interdisciplinary approaches to international relations. Course goals: This course aims to analyze those global social issues that influence us in various aspects. In order to understand the dynamics of consequences of globalization students will learn such interdisciplinary approaches with social scientific orientation. Students will be able to broaden their world views to multilayered structure of international relations.						
授業概要	Course Outline The course examines different theoretical frameworks that are useful for understanding international relations. It will be discussed how human societies have been coping with different challenges of globalization at various levels and actors in international relations. Each class session will encourage students to develop their “critical thinking”.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	participation to class activities (25%), mid-term presentation (35%), final presentation (40%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等については、授業やメール等でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	講義は英語のみで行い日本語は用いない。TOEIC650以上または同等の英語力が最低限の履修条件である。 The instruction language is only English (no Japanese). TOEIC650 or equivalent English proficiency is the minimum requirement for prospective students.						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、授業内容に沿って課題を課す。 Preparation for class sessions (30 hours) and following-up studies (30 hours) after class sessions are required. At each class session home assignments will be delivered to students.						
オフィスアワー	11:30-13:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
授業計画						担当者	
第1回	Globalizing world					Merviö	
第2回	Defining globalization					Merviö	
第3回	Natural disasters and humans					Merviö	
第4回	Social and cultural minorities					Merviö	
第5回	Vulnerability and social risks					Merviö	
第6回	Social justice					Merviö	
第7回	Our life under globalization					Merviö	
第8回	Mid-term in class debates					Merviö	
第9回	International communities					Merviö	
第10回	Global social issues					Merviö	
第11回	Human well-being					Merviö	

第 1 2 回	Health issues	Merviö
第 1 3 回	Information technology	Merviö
第 1 4 回	World "with Covid-19"	Merviö
第 1 5 回	Concluding discussion	Merviö
第 1 6 回	final test	Merviö
教科書		
教・書籍名 1	Global Inequality: A New Approach for the Age of Globalization	教・出版社名 1 Belknap Press: An Imprint of Harvard University Press
教・著者名 1	Milanovic, Branko	教・I S B N 1 978-0674737136
教・書籍名 2		教・出版社名2
教・著者名2		教・I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	Introduction to International Relations: Theories and Approaches, 2013 (5th edition)	参・出版社名 1 Oxford University Press
参・著者名 1	Jackson, Robert & Sorensen, Georg	参・I S B N 1 978-0198707554
参・書籍名 2		参・出版社名2
参・著者名2		参・I S B N 2

授業科目名	日本語教材の研究			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年／2022年度 吉備国際大学 学部生その他3年			ナンバリング	SS-FS-3-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリーシップで目標を達成しよう  						
到達目標	本講義では、日本語教授のためにどのような教材・教具があり、それをどのように授業に活用するかを理解し、修得する。主に、授業レベルに合った教材や教具を的確に選び、これらを活用し、授業計画を立てたり、授業資料を作成したりしながら日本語教授の実践力を身につける。受講生同士が互いに評価しあうことで、自らの可能性を高めていくことができる。また、日本語教育を必要とする人々へのまなざしと行動力を養う。						
授業概要	主体的に教材・教具の検討を行う。学習者に正確な発音と文型を習得させるための文型練習のための教材・教具とはどのようなものか、また、流暢な日本語の会話力や説明力の習得のための教材やテキストとはどのようなものかについて考えよう。その教材をもとに各人が授業計画を立て教案を作成し、模擬授業も行う予定である。模擬授業を通して気づいた問題点や改善点について議論し、日本語教授の技術と能力を鍛える。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	本講義内で作成した教案や教材を用いて模擬授業を行い評価する。模擬授業の成果を40％、準備段階として教案、教材・プリントの作成に積極的に取り組んだかを40％、授業の反省点や改善点、感想を含めたレポートを20％とし、これらを総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	模擬授業やレポート提出によって単位認定を行うが、それだけでは評価しない。一つの授業を組み立てるまでの教材研究に取り組む姿勢・態度、努力や工夫も考慮する。教材研究や模擬授業をよりよいものにするためには、授業以外での予習・復習に心がけること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	自己学修として、日本語教育実習（4年次開講）に向け、講義内容や配布資料をもとに教案を作成したり、模擬授業のための教材研究を行ったりすること。毎週の講義内容を踏まえて、事前に2時間以上の予習と、また授業後は、授業内容の見直し、課題などを含む2時間以上の復習に努めること。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週木曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	日本語教材の研究の概括					大下 朋子	
第2回	教材・教具の種類（1）					大下 朋子	
第3回	教材・教具の種類（2）					大下 朋子	
第4回	教材の作成・導入（1）					大下 朋子	
第5回	教材の作成・導入（2）					大下 朋子	
第6回	教案作成Ⅰ					大下 朋子	
第7回	模擬授業（1）					大下 朋子	
第8回	模擬授業（2）					大下 朋子	
第9回	教材・教具の見直し（1）					大下 朋子	
第10回	教材・教具の見直し（2）					大下 朋子	
第11回	教案作成Ⅱ					大下 朋子	
第12回	模擬授業（3）					大下 朋子	
第13回	模擬授業（4）					大下 朋子	
第14回	模擬授業（5）					大下 朋子	

第 1 5 回	授業のまとめ	大下 朋子
第 1 6 回	単位認定試験（レポート試験・課題提出）	大下 朋子
教科書		
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	日本語教育実習			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2019～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国4年			ナンバリング	SS-FS-4-002		
必修・選択	選択	単位数	1単位	時間数	30	授業形態	実習
年次	4年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	実習
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／11. 住み続けられるまちづくりを／17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本語教員養成コース修了のための必修科目であり、学生は外国人に対して日本語を教授する実践力を修得する。具体的には、教材の捉え方、授業の流れ、教科書や教具の活用について考慮しながら、学生に合った授業の教材や教具を準備し、教壇実習を行う実践力を養う。						
授業概要	本実習では、現場での日本語教授の体験を通して、日本語教員養成コースで学んできた教材の活用、知識や技術を実際に授業で実践し、日本語教授の能力を修得する。半期30時間の教育実習を行う。学生の日本語レベルに合った教材や教具を的確に決定する判断力を養い、学習者が積極的に学習できるよう工夫し、応用する能力を身に付ける。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／実習						
評価方法と割合	実習の受け入れ機関からの実習評価を60点、実習記録・最終レポート30点、その他の学習態度10点で総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、実習に向けた準備（教材、教具の選定、教案・教材の作成、板書計画、授業運営など）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	3年次開講科目「日本語教材の研究」の他、本学が定める日本語教員養成に関する科目の単位を取得した学生のみ履修することができる。また、日本語教育実習を行うために、原則として3年修了時まで、日本人の場合、日本語検定3級、留学生の場合、日本語能力試験N1に合格しておかなければならない。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、日本語教師としての実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	実習準備には多くの時間を要する。教育実習の内容を充実させるため、予習と復習を各2時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に準備し、理解できない点などは担当教員に質問すること。復習として、実習の準備や教壇実習のふり返りを主体的に行うこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週水曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	半期30時間の教育実習を実施する。					実習校の担当者（大下(朋)）	
第2回							
第3回							
第4回							
第5回							
第6回							
第7回							
第8回							
第9回							
第10回							
第11回							
第12回							
第13回							
第14回							

第 1 5 回		
第 1 6 回		
教科書		
教・書籍名 1	実習準備に合わせて資料を配布する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ I S B N 2

Syllabus

外国語学部

外国学科

2018 年度入学生

授業科目名	吉備国際大から世界へ			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-KE-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／6. 安全な水とトイレを世界中に／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／13. 気候変動に具体的な対策を／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	テーマ： Think Globally Act Locally.グローバルに物事を見る、グローバルに考える。実践はローカルに。 到達目標： ヒト、モノ、カネ、情報が自由に世界を飛び回る時代。グローバル化、国際化が進展する現代では、グローバルな視点で日本を見直す必要がある。日本の事情・都合だけで、政治・外交、経済、企業経営などを行なうことはできない。そのため、グローバルな視点で事象を観察、評価、判断できる能力が求められる。社会科学分野の基本概念を学ぶことを通じて、グローバルな視点を学び、世界の常識を学びながら、グローバル人材としての基本的思考を確立することを目指す。						
授業概要	将来、社会で活躍する学生は、国際関係、国際経済、難民問題、その他多くのグローバル事象を複眼的に検討し、日本の事情を理解した上で、自分の意見が言える必要がある。そして、それを踏まえつつ、地域社会で実践する。それがグローバル人材。そのため、社会科学の多くの視点、手法を学びつつ、それを通じて世界の常識を認識できるようになる。グローバル人材として当然知っておくべき基本的な内容を学べる授業である。 具体的なイシューを題材として、講義を行なう。その際、経験的方法、量的論証、批判的思考方法の手法・視点を取り入れる。自己教育力を身につけてもらうため、問題解決型学習の実践も取り入れる。グループに課題を与え、実態を調査し解決策を検討する。その成果は、授業で発表を行なってもらう。 この科目が、他の教養科目の学修深化の一助となると共に、海外留学での学びや専門科目を履修する上での基礎を築くものとした。 なお、履修者の興味、関心などに基づき、ディスカッションのやり方、テーマなどは適宜調整する。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業への参加度・コメント（40％）、グループ・プレゼンテーション（20％）、最終レポートの成績（40％）により、総合評価をおこなう。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	グループ・プレゼンテーションの結果は、各プレゼンテーションの後で、それぞれ講評を行う。最終レポートに関しては、コメントを付し、授業または事務室を経由して、返却する。						
履修条件・注意事項	ワールドニュースを必ず観ること。チェックすること。世界で起きていることに関して、興味関心を持つこと。 本科目は日本語教員養成コースの必修科目であり、本コースの取得を目指すものは必ず履修しなければならない。						
実務経験のある教員	該当する	内容	本講義の担当教員は、米国に通算2ヶ年留学し、国際協力機構JICAで長年勤務し、その間、コートジボアール日本大使館、JICAケニア事務所、フランスにある国際機関経済協力開発機構（OECD）に勤務した経験があるほか、多くの外国要人の接遇経験もある。 それらの実務経験で学んだ暗黙知（本、論文、ネット記事などになっていないもの）を、授業の節目節目で共有し、講義にリアリティを持たせる。				

事前学習・事後学習とその時間		毎日、新聞を読む。ネットニュースなどをチェックする。参考図書などを読んで特定テーマに関し調べることなど、授業1回当たり、事前学習1時間、復習1時間の自己学修を必要とする。	
オフィスアワー		岡山キャンパス1階117号研究室にて、毎週金曜日4限目をオフィス・アワーとします。	
授業計画		担当者	
第1回	オリエンテーション グローバル・スタディーズで学ぶこと		畝
第2回	国境とは何か？		畝
第3回	人はなぜ移動するのか？		畝
第4回	なぜ、自衛隊を軍隊と呼ばないのか？		畝
第5回	国連憲章と日本国憲法		畝
第6回	ジェンダー、LGBT、少数民族		畝
第7回	グループ・プレゼンテーション		畝
第8回	価値、価格はどのように決まるのか？		畝
第9回	自由貿易は本当に世界を豊かにするのか？		畝
第10回	産業の空洞化、技術流出とは何か？何が問題なのか？		畝
第11回	多国籍企業とは何だろうか？		畝
第12回	高齢化社会の課題		畝
第13回	世界の教育問題、日本の教育問題。		畝
第14回	なぜ、Liberal Artsを学ぶのか？		畝
第15回	グループ・プレゼンテーションと総括		畝
第16回	最終試験（レポート）		畝
教科書			
教・書籍名1		教・出版社名1	
教・著者名1		教・I S B N 1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名1	国際関係論 同時代史への羅針盤	参・出版社名1	中公新書
参・著者名1	中嶋嶺雄	参・I S B N 1	4-12-101106-6
参・書籍名2	経済学を味わう 東大1、2年生に大人気の授業	参・出版社名2	日本評論社
参・著者名2	市村英彦ほか	参・I S B N 2	978-4-535-55955-4

授業科目名	地域学概論			担当者	高橋 正巳		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-KE-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	15	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜4限 金曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	○	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	◎	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	
SDGs関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	<きびこく学・前半8回> 本学の教育目標である「地域創成に実践的に役立つ人材の養成」を達成するための導入的教育として位置づけられる科目である。テーマとしては、順正学園及び大学が、立地する地元地域社会の中で発展を遂げてきた歴史、ならびに地域の歴史や文化、人々の生活等について理解を深めるとともに、地域社会の現状を理解し、地域創成に向けて取り組むべき課題について学ぶことがあげられる。 到達目標としては次の2点があげられる。 ①順正学園及び大学の歴史ならびに地域社会の歴史的特性や現状を理解し、地域創成のための取り組むべき課題を理解できる。 ②地域創成に向けて、学生としてどのような貢献ができるか考え、チャレンジする態度を涵養できる。 <SDGs概論・後半8回> 「地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGsの必要性と意義の理解」をテーマとし、SDGsの概要について学ぶ。 到達目標は以下の通り。 ①地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGs策定の背景が理解できる。 ②SDGsについて全体像を把握し、その概要を説明できる。 ③SDGsの各目標を自分事として捉えることができる。 ④SDGsの達成に向けて必要な取り組みを実行することができる。						
授業概要	<きびこく学・前半8回> 順正学園及び大学が、立地する地域の中で発展を遂げてきた歩み(歴史)を概観するとともに、地元地域で様々な活動を展開されている方々を講師に招き、地域の歴史や文化、人々の生活ならびに地域社会の現状や課題等についてご講演いただき、地域の特性や課題について理解を深める。また、毎回の講義の中で、学生の立場で地域の課題解決や発展にどのような貢献ができるのか考え、生活の主体者として地域創成に向けて取り組む姿勢を涵養することができるよう、レポート課題に取り組む。 <SDGs概論・後半8回> 2030年までの国際目標である「持続可能な開発目標SDGs」について、その背景や目的を学ぶと共に、SDGsの17の目標について概要を学ぶ。また、SDGs達成に向けて実際にどのような取り組みが行われているかを学ぶ。そして、学生自らがその実現に向け、何ができるか、また何をしなければならないかを考え、実行しようとする能力を身につける。 授業は全学科の学生が受講する合同授業と各学科の授業で構成されている。合同授業は、地球環境システムと人間社会システムの現状とSDGs策定の経緯およびSDGsの概要について講義形式で教授する。各学科の授業ではグループに分かれてSDGs達成に向けた施策をまとめ、グループ毎に発表をおこない課題解決能力を養う。						
アクティブラーニングの内容	PBL／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	<きびこく学・前半8回> 毎回授業時提出のレポート評価(70%)、第8回目を行う学修成果確認レポート作成の評価(30%)により、総合的に評価する。						

	<SDGs概論・後半8回> グループでの活動及び発表を評価する(50%)。最後に筆記試験を行いSDGsの理解度を評価する(50%)。 詳しい評価方法は、最初の授業時に説明する。	
ループリック評価		
課題や試験のフィードバック方法	<きびこく学・前半8回> 毎回の授業でレポート提出を課すが、次回の授業時までには内容を評価し返却する。 <SDGs概論・後半8回> 振り返りレポートを評価して次回授業で返却する。	
履修条件・注意事項	<きびこく学・前半8回> 地域の様々な立場にある外部講師による有益な講義を多く導入しているので、受講態度に十分留意して毎回必ず出席すること。 受講内容に関するレポート課題には、単に感想を述べるのではなく、真摯に、積極的に取り組むこと。 <SDGs概論・後半8回> ①初回の授業には、必ず出席すること。 ②学科別授業ではグループワークを行うことから、授業を欠席しないこと。 ③合同授業日と各学科授業日があるので注意すること。	
実務経験のある教員	該当する	内容 <きびこく学・前半8回> 授業を担当する複数の講師は、いずれも学園や大学の創設に中心的役割を担い尽力した講師や、地域社会の中で様々な活動を展開している実務経験の豊富な講師である。
事前学習・事後学習とその時間	<きびこく学・前半8回> 1) 事前にユニバを通じて配布する資料に十分目を通すとともに、インターネット等を通じて授業内容に関する情報を収集するなど、毎回2時間以上の事前学修を行い授業に参加すること。 2) 授業後には、学修内容を振り返り、不明な点や確認したいことなどを各自で調べるなど、毎回2時間以上の事後学修を行うこと。 <SDGs概論・後半8回> ユニバで配布する資料を基に事前学修をすること。また、授業終了後は必ず復習を行うこと。予習及び復習は各2時間程度行うこと。	
オフィスアワー	<きびこく学> 1号棟2階 124研究室 毎週木曜日 4時限目がオフィスアワー <SDGs概論> 1号棟2階 124研究室 毎週木曜日 4時限目がオフィスアワー	
授業計画		担当者
第1回	オリエンテーション 「きびこく学」、SDGs概論、地域学概論を学ぶ意義について	高橋
第2回	岡山地域の会社で仕事をするとは	宮原製作所経営企画部長 高橋
第3回	順正学園及び吉備国際大学の歴史について	順正学園理事 外国学科担当教員
第4回	岡山を見る目と番組制作	元NHK 村上チーフディレクター 高橋
第5回	岡山藩における芸術的遺産	ジャヤ柴原美術館(槌田学芸員) 高橋
第6回	なぜ笠岡湾にはカブトガニが生息しているのか	元笠岡カブトガニ博物館館長 高橋
第7回	岡山地域の問題発見	株式会社マイナビ

		高橋
第 8 回	地域問題解決へのプロジェクト相談	高橋
第 9 回	<SDGs概論・後半8回> SDGsとは何かーなぜ学ぶのか (オリエンテーションを含む)	井勝久喜、外国学科担当教員
第 1 0 回	2030アジェンダ採択までの経緯	井勝久喜、外国学科担当教員
第 1 1 回	SDGsが目指している世界	井勝久喜、外国学科担当教員
第 1 2 回	SDGsの17の目標	井勝久喜、外国学科担当教員
第 1 3 回	岡山市の健康寿命延伸施策について	保健福祉局保健福祉課福祉部保健管理課 高橋
第 1 4 回	岡山市の地方創生について	岡山市政策局政策部政策企画課 高橋
第 1 5 回	「男女共同参画」について	市民協働部女性が輝くまちづくり推進課
第 1 6 回	中学教育において持続可能性(SDG s)どう伝えているのか	岡山県立岡北中学校教諭 高橋

教科書			
教・書籍名 1	使用しない（毎回授業用資料を配布する）	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	『成長の限界 人類の選択』	参・出版社名 1	ダイヤモンド社
参・著者名 1	度ねラ・H / メドウズ他	参・ I S B N 1	ISBN4-478-87105-1
参・書籍名 2	『正義で地球は救えない』	参・出版社名 2	新潮社
参・著者名 2	池田清彦 & 養老孟司	参・ I S B N 2	ISBN978-4-10-423105-8

授業科目名	キャリア開発Ⅱ			担当者	高木 秀明		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	GE-CG-3-002		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も 						
到達目標	テーマ：自分に適している職業または進路を発見し、分析し、そして具体的に選択できるようになる。 到達目標：自分に適している職業または進路が選択できる。進路決定までの活動やその後の社会人活動において身につけるべき社会人基礎力が備わっていること。						
授業概要	就職や進学あるいはその後の社会人としての基礎力を身につけ、自分のキャリア形成をはかり、場合に応じて実践力を発揮できるようになる内容である。授業は外部講師によって構成されているが、社会で求められる人材とは何かを理解できるようになっている。グループワークなども取り入れられているが、受け身ではなく、自ら問いを立て、考えて実行する姿勢をもつことも最終目標とする。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業中に求める課題（30%）、レポート試験（70%）で評価をおこなう。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	添削のある課題は、返却し、フィードバックする。						
履修条件・注意事項	授業の配布物は、自分の就職活動などでも必要となるので、ファイルを作成して綴じることと、受講者一人ひとりが、卒業後の進路という共有しがたい情報を各回で得ることになるので、自分でノートつくること。各回でこれまでの回を振り返ることもあるので、1冊の専用ノートを用意することが望ましい。自己分析、業界分析を自ら行っておくこと。各種就活支援サイトやアプリを利用するため、毎回スマートフォンを充電して、出席すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習として吉備国際大学が制作したキャリアハンドブック内の各回に対応する項目ところ熟読し、不明な点は調べておくこと。授業で配布した資料をもとに毎回必ず復習すること。近い将来、それらをもとに自分自身で単独で行動することになる。						
オフィスアワー	金曜日2時限目1号棟1階114研究室にて実施。						
授業計画						担当者	
第1回	就職活動準備情報収集					高木、外部講師（マイナビ）	
第2回	インターンシップの必要性・申し込み方					高木、外部講師（シーズ）	
第3回	自分の傾向を学ぶ					高木、外部講師（リクナビ）	
第4回	自己分析・自己PR					高木、外部講師（ビザビ）	
第5回	エントリーとは・エントリーシート攻略					高木、外部講師（マイナビ・ベネッセ）	
第6回	乗り遅れるなWEB就活					高木、外部講師（シーズ）	
第7回	業界・職種を理解する					高木、外部講師（ディスコ）	
第8回	業界研究・職業教育					高木、外部講師（マイナビ）	
第9回	SPI(筆記試験)対策					高木、外部講師（リクナビ）	
第10回	社会人に必要なマナー					高木、外部講師（リクナビ）	

第 1 1 回	身だしなみ講座	高木、外部講師（JEI）	
第 1 2 回	エントリーシート攻略フォロー・自分を振り返る	高木、外部講師（ベネッセ）	
第 1 3 回	履歴書の書き方・応募書類の出し方	高木、外部講師（マイナビ）	
第 1 4 回	面接対策・GD/集団/個人/WEB	高木、外部講師（ビザビ）	
第 1 5 回	まとめ 内定お礼・内定辞退お詫び	高木、外部講師（マイナビ）	
第 1 6 回	単位認定試験－レポート試験	高木	
教科書			
教・書籍名 1	毎回、資料を配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	情報処理Ⅰ			担当者	高木 秀明		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-IT-1-001		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3.主体的な学びと 論理的な思考	△	DP 4. コミュニケー ション・表現力	
DP 5. グローバルな視 野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう  						
到達目標	全学共通の基礎教育科目として、高校までに習得したコンピュータリテラシーをもとに、入学してから半期の間 で、大学生に必要とされる必要最低限の一般教養としてのコンピュータスキルを身につけることを到達目標とす る。 コンピュータ基本操作および基礎的アプリケーションソフトの利用をおこなえるように学習し、学科のディプロマ ポリシーに従って、大学でITを活用した効率的な学習を行うための基礎知識を習得する。						
授業概要	情報モラルとセキュリティ、情報システムの利用と社会問題、OSの基本操作、インターネットの閲覧とブラウザの 基本操作、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用、ネットワーク、インターネットによる情報検 索、コンピュータによる問題解決、ハードウェアとソフトウェア、デジタルデータのしくみなどについて学習す る。 講義の内容に対応して、パソコンを使用し適宜演習が行われる。						
アクティブラーニングの 内容	実習						
評価方法と割合	「コンピュータスキル」の定着を確認するため、講義内で用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは 自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物 30%、試験の成績を40%として最終的に総合評価が行われる。これらの3つの評価をバランスよく得ていることが 単位認定（到達目標）の判断基準とされる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィード バック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	教科書は必ず初回の講義から持参すること。 講義は指定されたクラス・講義室で受講すること（受講者数はパソコン教室の定員以内とする）。 オリエンテーション等で、講義が始まる前までにコンピュータリテラシーのスキルを調べる「技能確認シート」が 実施される場合がある。このシート未受験者の履修はその理由によっては認められないこともある。 高校までで習得したコンピュータリテラシーを踏まえた講義であるため、受講前までに高校で得た知見を十分復習 しておくこと。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とそ の時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で 講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明が求められ、その状況が積極的 な参加態度として成績評価の得点とされる。						
オフィスアワー	火曜日4時限、1号棟1階114研究室で実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション（クラス・教科書、ログイン等確認、Teamsの操作）					高木	
第2回	パソコンのハードウェアと周辺機器					高木	
第3回	デジタルデータのしくみ（ビット/バイト・標準化・コード）					高木	
第4回	OSとアプリケーション					高木	
第5回	ファイルシステム操作					高木	
第6回	文書作成（ワープロソフト）操作					高木	

第 7 回	文書作成（ワープロソフト）課題	高木
第 8 回	表計算ソフト操作	高木
第 9 回	表計算ソフト課題	高木
第 1 0 回	プレゼンテーションソフト 操作	高木
第 1 1 回	プレゼンテーションソフト 課題	高木
第 1 2 回	ネットワークとインターネット	高木
第 1 3 回	インターネットによる情報検索・情報セキュリティ	高木
第 1 4 回	コンピュータの歴史・コンピュータによる問題解決	高木
第 1 5 回	情報モラルと社会問題、まとめ・質疑	高木
第 1 6 回	単位認定試験	高木
教科書		
教・書籍名 1	情報リテラシー 入門編 Windows11/Office2021対応（FPT2117）	教・出版社名 1 FOM出版
教・著者名 1		教・ I S B N 1 978-4-938927-54-7
教・書籍名 2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ I S B N 2

授業科目名	フランス語Ⅰ			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-LF-1-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	テーマ：「フランスの文化を理解し、かんたんなフランス語を話す」 到達目標：学生はフランスの文化について教養として語れるようになる。それらをフランス語で読み・発音できるようになる。フランスを旅行したときなどに、あいさつやかんたんな会話ができるようになる。						
授業概要	この講義は、一方向のレクチャーではなく、参加型双方向の授業で、フランス語のスキル習得のため、できるだけ大きな声を出して繰り返し発音することが求められる。フランス語の音節を正しく発音するための方法を知り、綴り字を正しく読むための理論と基礎文法を理解し、初歩的かつ日常的なフランス語会話に必要な語彙と例文を、フランスの歴史・地理・文化のなかから代表的なものを繰り返し発音して、暗唱できるようにする。初心者対象で、ABCと発音／つづり字の読み方から始められ、名詞・形容詞の性・数や冠詞などの基本文法が文化を学ぶなかで理解できるよう説明される。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「フランスの文化について教養として語れるようになる」という目標に対して、各自作成した報告書を提出する。「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業で質問に答えたり発表したりする。それらで総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための筆記試験を行って評価する。参加型学習を主体としていることから、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。授業毎試験（60％）、単位認定試験（40％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。						
履修条件・注意事項	毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に黒板に板書されたキーワードを読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また事後学習として、毎回課題を出すので、次回の授業時に提出（または発表）すること毎週、課題が出される。その課題について必ずノートを作成する必要がある。予習復習には各2時間程度を要する。その課題テーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。それに基づいて、参加型授業が行われるので、復習・予習は必須である。各2時間の学修時間を目安とする。						
オフィスアワー	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	スポーツ①ツール・ド・フランス					加藤健次	
第2回	映画①ヌーヴェル・ヴァーグから最強の二人まで					加藤健次	
第3回	音楽①サガンとブラームスはお好き？					加藤健次	
第4回	建築①ロマネスク様式					加藤健次	
第5回	食①パン					加藤健次	
第6回	旅①ブルターニュとモンサンミッシェル					加藤健次	
第7回	歴史①マリーアントワネット					加藤健次	
第8回	スポーツ②その他の自転車ロードレースとル・マン24時間耐久レース					加藤健次	
第9回	美術②ピカソ、マチス、キュビズムと現代アート					加藤健次	
第10回	音楽②ピアフとシャンソンの世界					加藤健次	

第 1 1 回	建築②ゴシック様式	加藤健次	
第 1 2 回	食②お菓子とショコラ	加藤健次	
第 1 3 回	旅②ロワール川と城	加藤健次	
第 1 4 回	文学①詩：ボードレールからコクトーまで	加藤健次	
第 1 5 回	旅③ブルゴーニュとヴェズレー教会	加藤健次	
第 1 6 回	筆記試験	加藤健次	
教科書			
教・書籍名 1		教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	はじめて学ぶフランスの歴史と文化	参・出版社名 1	ミネルヴァ書房
参・著者名 1	上垣 豊（編）	参・ I S B N 1	ISBN-10 : 4623087786 ISBN-13 : 978-4623087785
参・書籍名 2	ゼロからスタート フランス語 会話編	参・出版社名 2	Jリサーチ出版
参・著者名 2	鈴木文恵(著)	参・ I S B N 2	I S B N 1978-4-86392-103-0

授業科目名	フランス語Ⅱ			担当者	加藤 健次		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-LF-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	テーマ：「フランスの文化を理解し、日常的なフランス語を話すことができるようになる」 到達目標：学生はフランスの文化について理解する。それらをフランス語で読み・発音できるようになる。フランスを旅行した時などに、あいさつやその場に応じた会話ができるようになる。						
授業概要	これまでに習った文法や基本構文を復習しながら、フランス文化に関する練習問題をていねいに解いていく。フランス文化に関係した会話例文を正確に音読する指導を受ける。次週までに、それらを口に出して言えるようにしてくる。授業では、その例文を暗唱する。これを繰り返すことでフランスに精通し、フランス語の語彙力や発話力を身につけよう。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「フランスの文化について教養として語れるようになる」という目標に対して、各自作成した報告書を提出する。「かんたんなフランス語を話すことができるようになる」という目標への到達度について、各学生のスキル習熟度を計るために、授業で質問に答えたり発表したりする。それらで総合的に評価する。また、「技能習得のために必要な理論と方法を学ぶ」の到達度について、知識および表現力を計るための筆記試験を行って評価する。参加型学習を主体としていることから、授業中の発言頻度、発言内容、授業への参加態度を特に重視する。授業毎試験（60％）、単位認定試験（40％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業の終わりに課題を教員の前で発表するので、その場でフィードバックされる。						
履修条件・注意事項	毎回の授業で課題の発表や課題シートでの提出が求められるので、欠席するとその分確実に成績が下がる。出席するだけではなく、課題を提出しないと授業毎試験を受けられないので注意。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	事前学習として、各授業計画に記載されている部分について事前に黒板に板書されたキーワードを読み、理解できない点をまとめて授業を受けること。また事後学習として、毎回課題を出すので、次の授業時に提出（または発表）すること毎週、課題が出される。その課題について必ずノートを作成する必要がある。予習復習には各2時間程度を要する。その課題テーマに関連した語彙を覚え、応用できるように練習することである。それに基づいて、参加型授業が行われるので、復習・予習は必須である。各2時間の学修時間を目安とする。						
オフィスアワー	木曜日4限、岡山キャンパス123研究室にて。						
授業計画						担当者	
第1回	スポーツ③サッカー・リーグ・アン					加藤健次	
第2回	美術③マグリットとシュールレアリスム					加藤健次	
第3回	音楽③サティとミニマルミュージック					加藤健次	
第4回	建築③ルネサンス・バロック様式					加藤健次	
第5回	食③チーズ					加藤健次	
第6回	旅④プロヴァンスとアルル					加藤健次	
第7回	文学②文学②サンテグジュペリ『星の王子さま』					加藤健次	
第8回	スポーツ④ベタンク					加藤健次	
第9回	美術④スーラージュ、クラインに見る現代アート					加藤健次	
第10回	音楽④ジプシー音楽とジャズマヌーシュ					加藤健次	
第11回	食④ワイン					加藤健次	

第 1 2 回	旅⑤サンティアゴ・デ・コンポステーラの巡礼路	加藤健次	
第 1 3 回	哲学①デカルトと主体の哲学	加藤健次	
第 1 4 回	文学②文学③小説：ユゴーからル・クレジオまで	加藤健次	
第 1 5 回	食⑤Menuとコース料理	加藤健次	
第 1 6 回	筆記試験	加藤健次	
教科書			
教・書籍名 1		教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	はじめて学ぶフランスの歴史と文化	参・出版社名 1	ミネルヴァ書房
参・著者名 1	上垣 豊（編）	参・ I S B N 1	ISBN-10：4623087786 ISBN-13：978-4623087785
参・書籍名 2	ゼロからスタート フランス語 会話編	参・出版社名 2	Jリサーチ出版
参・著者名 2	鈴木文恵(著)	参・ I S B N 2	I S B N 1978-4-86392-103-0

授業科目名	中国語Ⅰ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-LC-1-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能の習得（入門編）。 到達目標： 学生は中国語を正しく発音するための方法を知り、初歩的な文法事項を理解し、初歩的かつ日常的な中国語会話に必要な語彙と文を読んだり聞き取ったりすることができるようになる。						
授業概要	中国語での読む・書く・話す力を伸ばすためには、まず発音を完全にマスターする必要がある。中国語には日本語にない捲舌音や有気音があり、発音が難しい。そのため、2ヶ月近く徹底的に練習を繰り返す。その後、初級文法や簡単な日常会話を練習することにより、前期終了時には挨拶や自己紹介ができるようになる。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「中国語を正しく発音するための方法を知り、初歩的な文法事項を理解し、初歩的かつ日常的な中国語会話に必要な語彙と文を読んだり聞き取ったりすることができるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（70％）、小テスト（20％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（10％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能のようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3）予習及び復習にが、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	1、中国語の声調に関する解説及び発声リズムの練習 2、単母音の発声練習					孫基然	
第2回	1、声調発声リズムの復習 2、単母音の発声復習 3、複合母音の発声練習					孫基然	
第3回	1、声調発声リズムの復習 2、単母音の発声復習 3、複合母音の発声復習 4、鼻音の発声練習					孫基然	
第4回	1、発音の復習 2、そり舌音の発声練習					孫基然	
第5回	1、発音の復習 2、子音の発声練習					孫基然	
第6回	1、発音総合復習 2、発音小テスト					孫基然	

	3、実施した小テストをフィードバックする。	
第7回	1、声調符号をつける位置 2、声調の変化 3、よく使うフレーズ	孫基然
第8回	1、人称代名詞 2、判断文 3、普通疑問文	孫基然
第9回	1、副詞「也」 2、副詞「的」 3、普通疑問文	孫基然
第10回	1、「喜歡」の使い方 2、形容詞述語文	孫基然
第11回	1、省略疑問文 2、年齢の聞き方と使い分け	孫基然
第12回	1、所有を表す「有」 2、完了を表す「了」 3、推測表現	孫基然
第13回	1、時刻の言い方 2、量詞の使い方	孫基然
第14回	1、省略疑問文 2、進行表現	孫基然
第15回	1、提案や勧誘の使い方 2、二重目的語を取る動詞	孫基然
第16回	筆記試験	孫基然
教科書		
教・書籍名1	中国への旅	教・出版社名1 朝日出版社
教・著者名1	山下輝彦、黄漢青	教・ISBN1 978-4-255-45332-3
教・書籍名2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ISBN2
参考書		
参・書籍名1		参・出版社名1
参・著者名1		参・ISBN1
参・書籍名2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ISBN2

授業科目名	中国語Ⅱ			担当者	孫 基然		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-LC-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	テーマ： 中国語によるコミュニケーション技能の習得（基礎編）。 到達目標： 学生は前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準4級の獲得へつなげていくことができるようになる。						
授業概要	中国語には、日本語にない捲舌音や有気音があり、発音が難しい。そのため、2ヵ月近く徹底的に練習を繰り返す必要がある。その後、初級文法や簡単な日常会話を練習し、Ⅱの終了時には挨拶や自己紹介ができるようになる。基礎的な文法事項、表現等を会話や筆記練習等で理解を深め、会話力、読解力、応用力を高める。担当教員は毎回必ず課題として出された単語や基本構文の暗唱をチェックする。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「前期で学習した中国語の基礎を基に、やや高度な文法事項、表現等を習得し、読解力と会話力を養い、総合的な中国語力の基礎をつくり中国語検定準4級の獲得へつなげていくことができるようになる」の到達度について、知識および能力を計るために、定期試験結果や授業態度等を通じて総合的に評価する。具体的には、知識修得状況を把握するための定期試験（70％）、小テスト（20％）、授業中の学びの程度を判定するため、授業への積極的な参加態度（10％）を合計して総合評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した小テストは、講義内でフィードバックすることから、試験までに見直しが必要である。						
履修条件・注意事項	毎回の授業において基本単語、基本文法及び日常会話が可能なようにテキストの指定されたページを毎回しっかり予習と復習すること。テキストを必ず購入すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	1）事前に課題を出し、それについて調べてきたことを元にして、参加型学習法によることから、予習が必須である。2）指示に従って必ずノートを作成し復習をすること。3）予習及び復習にが、各2時間程度を要する。						
オフィスアワー	6号館3階の個人研究室において、水曜日3時限目をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	1、助動詞「会」と「能」 2、選択疑問文					孫基然	
第2回	1、助動詞「想」 2、反復疑問文					孫基然	
第3回	1、経験表現 2、連動文					孫基然	
第4回	1、時量補語 2、存在表現					孫基然	
第5回	1、助動詞「会」と「能」 2、選択疑問文 3、比較表現					孫基然	
第6回	1、介詞「離」、「従」と「往」の使い方 2、動作の方式を表す「着」					孫基然	

	3、比較表現	
第 7 回	1、逆接を表す「雖然……、但是」 2、「的」の使い方 3、結果補語	孫基然
第 8 回	中間テスト	孫基然
第 9 回	中間テストをフィードバックする。	孫基然
第 1 0 回	1、逆接を表す「雖然……、但是」 2、「的」の使い方	孫基然
第 1 1 回	1、未来を表す表現 2、方法や方式を訪ねる表現	孫基然
第 1 2 回	1、介詞「給」 2、仮定表現	孫基然
第 1 3 回	1、「太……了」の文型 2、人民元の数え方 3、割引の言い方	孫基然
第 1 4 回	1、動詞の重ね型 2、「一边」と「一点」	孫基然
第 1 5 回	1、程度補語 2、介詞「為了」 3、方向補語と兼語文	孫基然
第 1 6 回	筆記試験	孫基然
教科書		
教・書籍名 1	中国への旅	教・出版社名 1 朝日出版社
教・著者名 1	山下輝彦、黄漢青	教・ I S B N 1 978-4-255-45332-3
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	文章表現入門			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-CH-1-001		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	大学生や社会人に求められる日本語表現力について学び、その文章表現を身に付けることができる。レポートの書き方、就職試験向けの作文・小論文の書き方の基礎を身に付けることを目指す。とりわけ文と文、あるいは語彙と語彙との接続的な文章表現、起承転結といった文章の構成などを理解し、実際に文章を書く訓練を行う。						
授業概要	日本語の文章表現の基礎を身につけるだけでなく、文章の組み立て方、推敲の仕方などについて学習する。レポートや就職試験向け作文の書き方などについて学ぶ。文の構成、語と語の対応、文と文の関わりなどを意識して、論理的に文章を書く訓練を行う。また、学生は書籍、新聞、雑誌などを素材に、ブレインストーミングを行い、主題を設定し、自分でも文章化してみる。人に意見や趣旨が明確に伝わる文章表現、論理的な文章の書き方などを修得する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク						
評価方法と割合	講義への出席を含めて話の聞き方、意見の出し方などを平常点として20点、講義内容をテーマとして出された持ち帰り試験が50点、そして単位認定試験を30点として、これらを総合した100点満点で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験（400字×5枚以上）の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので要注意のこと。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週水曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	文章表現入門の概説					大下 朋子	
第2回	大学生・職業人にはどのような日本語表現能力が求められるか					大下 朋子	
第3回	明文を書くためのスキルを磨こう					大下 朋子	
第4回	正確な文、明快な文を書くためには					大下 朋子	
第5回	簡潔な文を書くためには					大下 朋子	
第6回	パラグラフ・ライティングの基本					大下 朋子	
第7回	パラグラフ・ライティングの練習					大下 朋子	
第8回	パラグラフ・ライティングからレポート作成へ					大下 朋子	
第9回	観察しようーその構成と書き方①					大下 朋子	
第10回	観察しようーその構成と書き方②					大下 朋子	
第11回	準備しようー意見と根拠①					大下 朋子	
第12回	準備しようー意見と根拠②					大下 朋子	
第13回	レポート・小論文作成①					大下 朋子	
第14回	レポート・小論文作成②					大下 朋子	
第15回	レポート・小論文作成③					大下 朋子	
第16回	単位認定試験（筆記試験／レポート試験）					大下 朋子	

教科書			
教・書籍名 1	文章力・論理力を高める日本語トレーニング	教・出版社名 1	学事出版
教・著者名 1	松谷 英明	教・I S B N 1	978-4761919481
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・I S B N 2	

授業科目名	環境科学				担当者	大下 浩司			
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国1年				ナンバリング	GE-NM-1-001			
必修・選択	選択	単位数	2単位		時間数	30時間		授業形態	講義
年次	1年		開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜2限	
ディプロマポリシー対応項目									
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考		◎	DP 4. コミュニケーション・表現力		○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感			DP 8. 学科項目		○
SDGs 関連項目	2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／6. 安全な水とトイレを世界中に／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／13. 気候変動に具体的な対策を／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 								
到達目標	地球環境を科学的に理解し論理的に思考できるようになることをテーマとして、地球環境全般に関わる知識を修得して科学的に理解し、論理的に考える能力を身につけることを到達目標とする。								
授業概要	身の回りから地球規模の環境に関わる諸問題に対し、大学生が身につけておくべき知識を修得して理解する。このために、問題に含まれる諸課題を整理して、言語的な情報を非言語的なイメージで表現し、これらの関係性を論理的に理解する。そして、環境に関わる諸問題について、授業担当者を含めた受講者らとディスカッションする。これらを学生が主体となって取り組めるように授業を行なう。								
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション								
評価方法と割合	地球環境を科学的に理解し論理的に思考する力を確認するための単位認定試験（40%）、発表（30%）、主体的に問題に取り組み論理的に思考しようとする姿勢を授業態度（30%）として評価する。								
ルーブリック評価	無し								
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。								
履修条件・注意事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は予め連絡すること。他の受講生らが迷惑に感じる言動は控えること。								
実務経験のある教員	該当しない	内容							
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を理解し必要に応じて情報収集しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ内容を振り返り、理解を深め疑問点を明らかにすること。								
オフィスアワー	個人研究室にて金曜日3限に実施。								
授業計画								担当者	
第1回	多種多様な環境問題							大下浩司	
第2回	環境問題を考える							大下浩司	
第3回	環境問題を整理する							大下浩司	
第4回	環境問題の核心を捉える							大下浩司	
第5回	グループワークの総括							大下浩司	
第6回	地球温暖化							大下浩司	
第7回	酸性雨							大下浩司	
第8回	バイオマス							大下浩司	
第9回	水							大下浩司	
第10回	オゾン層							大下浩司	
第11回	SDGs の概要							大下浩司	
第12回	環境問題の関わるSDGs							大下浩司	
第13回	環境問題に関する発表1							大下浩司	
第14回	環境問題に関する発表2							大下浩司	
第15回	環境問題に関する発表3							大下浩司	
第16回	単位認定試験							大下浩司	
教科書									
教・書籍名1	適宜、資料を配布する。					教・出版社名1			

教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	トコトンやさしい環境汚染の本	参・出版社名 1	日刊工業新聞社
参・著者名 1	大岩敏男、大木久光、高堂彰二、保坂義男	参・ I S B N 1	978-4-526-07300-7
参・書籍名 2	トコトンやさしい地球科学の本	参・出版社名2	日刊工業新聞社
参・著者名2	地球科学研究会	参・ I S B N 2	978-4-526-05524-9

授業科目名		化学		担当者		高木 秀明									
配当学科・研究科		2018年度 吉備国際大学 外国語 外国1年				ナンバリング		GE-NM-1-004							
必修・選択		選択		単位数		2単位		時間数		30		授業形態		講義	
年次		1年			開講期		2022年度春学期					曜日・時限		金曜1限	
ディプロマポリシー対応項目															
D P 1. 知識・技能				D P 2. 情報の活用				D P 3.主体的な学びと論理的な思考				D P 4. コミュニケーション・表現力			
D P 5. グローバルな視野と地域貢献活動				D P 6. 課題解決力				D P 7. 自己効力感				D P 8. 学科項目			
S D G s 関連項目		7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／12. つくる責任・つかう責任 													
到達目標		身の回りにある物品の成り立ちや効能を化学の知識を使って理解することをテーマとする。到達目標は、それぞれが化学のどの分野に相当するのかを把握できるようになることとする。													
授業概要		身の回りにある物品は、化学の知識に基づいてつくられている。古来から日常生活の便宜性を向上させることと一緒に学問が確立してきた。もちろん、錬金術のように思い通りの成果が出なかったものもある。 あえて縦書きの教科書を使用し、記述されている項目の記憶を目的とするのではなく、予習・復習を超えた自修によって、イメージとしてつかんでもらう。そのため、授業では、様々な資料を提示し、理解を深めるような内容とする。													
アクティブラーニングの内容		その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）													
評価方法と割合		単位認定試験80%、確認課題・ポートフォリオ等の提出物の内容20%。													
ルーブリック評価															
課題や試験のフィードバック方法		毎回の確認テストは、次回に、コメントを入れて、返却する。単位認定試験の結果は、模範解答に解説を加え、ユニバーサルパスポート上で公開する。													
履修条件・注意事項		授業内容によって討論をおこなうため、ノート作成と復習も必要である。 試験では、到達目標の理解度を見るため、特に復習が必要である。 到達目標、授業内容、評価方法を詳しく説明するので、初回の授業は必ず出席すること。													
実務経験のある教員		該当しない		内容											
事前学習・事後学習とその時間		各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点をまとめた上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。参考書は、教科書の原著で、著者は、著名な科学者で科学エッセイのベストセラー作家でもあるPeter ATKINS氏である。英文表現に興味ある学生は、精読を勧める。													
オフィスアワー		1号棟1階114研究室にて火曜日4時限に実施。													
授業計画												担当者			
第1回		化学の起源										高木			
第2回		化学の対象・成り立ち										高木			
第3回		周期表と原子・電子										高木			
第4回		化学結合										高木			
第5回		熱力学と反応										高木			
第6回		自由エネルギー・エントロピー										高木			
第7回		化学平衡										高木			
第8回		化学反応の進みかた										高木			
第9回		基本の化学反応										高木			
第10回		物質をみる										高木			
第11回		物質を分ける（演示実験）－実習										高木			
第12回		物質を操作してつくる										高木			
第13回		化学と自然										高木			
第14回		化学製品										高木			
第15回		化学と人間活動										高木			

第 1 6 回	単位認定試験－筆記試験		高木
教科書			
教・書籍名 1	サイエンス・パレット104 化学－美しい原理と恵み	教・出版社名 1	丸善出版株式会社
教・著者名 1	渡辺 正 訳	教・ I S B N 1	ISBN978-4-621-08809-8
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	What is chemistry ?	参・出版社名 1	Oxford University Press
参・著者名 1	Peter Atkins	参・ I S B N 1	ISBN978-0-19-968398-7
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	数学			担当者	大下 浩司		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	GE-NM-1-007		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力	△	DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／12. つくる責任・つかう責任／17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	迅速かつ的確な数的理解力の育成をテーマとして、課題に含まれる諸要素と関係性を捉え、適宜情報収集しながら課題解決の方針を見つけ、結果を導き出す力を身につける。						
授業概要	数的推理・資料解釈・判断推理・空間把握に関する課題を数学的かつ論理的に理解する力を身につける。具体的には、方程式や確率等の数的推理、データやグラフ等の資料解釈、論証や対応関係等の判断推理、立体図形や展開図等の空間把握に関する比較的身近な問題について考え、自ら解法を見つけ出し答えを導き出す。必要に応じて、解法を見つけ出すために必要な情報を収集する。更には、助言を適宜得ながら学生同士が教えあい学びあい、課題に対する数的理解を深める。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	数的理解力を把握するための単位認定試験（80％）、授業への積極的な参加態度（20％）をもとに総合評価する。						
ルーブリック評価	無し						
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。						
履修条件・注意事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は予め連絡すること。他の受講生らが迷惑に感じる言動は控えること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習と復習には各2時間を要する。時間をかけて問題に向き合い、多角的な視点や柔軟な思考を意識して予習・復習に取り組むこと。						
オフィスアワー	金曜日3限（113研究室）						
授業計画						担当者	
第1回	数的推理：濃度					大下浩司	
第2回	数的推理：速さ・距離・時間					大下浩司	
第3回	数的推理：ものの値段と個数					大下浩司	
第4回	数的推理：定価・原価・利益					大下浩司	
第5回	数的推理：割合と値段					大下浩司	
第6回	数的推理：仕事算					大下浩司	
第7回	資料解釈：表の読み取り＆資料の読み取り					大下浩司	
第8回	数的推理：順列と組み合わせ					大下浩司	
第9回	数的推理：確率のとりえ方					大下浩司	
第10回	判断推理：集合					大下浩司	
第11回	判断推理：推論					大下浩司	
第12回	判断推理：ものの流れと比率＆ブラックボックス					大下浩司	
第13回	資料解釈：グラフの領域					大下浩司	
第14回	判断推理：論証					大下浩司	
第15回	空間把握：立体の展開図・断面					大下浩司	
第16回	単位認定試験					大下浩司	
教科書							
教・書籍名1	2024年度版 ドリル式 SPI問題集				教・出版社名1	永岡書店	
教・著者名1	柳本新二				教・ISBN1	ISBN 9784522460122	
教・書籍名2					教・出版社名2		

教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	日本のことば			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-002		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	日本のことばでは、社会言語学的な視点から日本語の言語としての特徴や日本人の特性について理解する。その理解を通して、学生は日本人が長い歴史の中で培ってきた言語感覚について理解を深めるとともに、その特性を教授することができるようになる。また、日本語を母語としない人に日本語を教える教員を養成するために必要とされる「言語政策とことば」「日本語の構造」（日本語分析、音韻・音声体系、文字と表記、形態・語彙体系、文法体系、意味体系、語用論的規範など）の内容についても理解する。						
授業概要	言葉を話すことは人間が人間であることの本質とかかわり、長い歴史の中で、日本人は日本語、あるいはやまとことばを生み出した。その特徴を理解することによって、日本人の発想の原点やその価値体系や世界観を知ることができる。ときに英語などのインド・ヨーロッパ語と比較しながら、日本語が成り立つ背景を理解し、季節・年齢・立場などによって区別される表現や言語感覚の習得を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション						
評価方法と割合	講義への出席を含めて話の聞き方、意見の出し方などを平常点として20点、講義内容をテーマとして出された持ち帰り試験が50点、そして筆記試験を30点として、これらを総合した100点満点で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	本科目は日本語教員養成コースの必修科目であり、本コースの取得を目指す者は必ず履修しなければならない。単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験（400字×10枚以上）の小論文を提出しなければ単位の認定はしないので要注意のこと。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週水曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	日本のことばの概括					大下 朋子	
第2回	ことばの文化的文脈とコミュニケーション					大下 朋子	
第3回	ことばの意味確定度不十分性とコンテキスト					大下 朋子	
第4回	日本語から日本人を考える					大下 朋子	
第5回	日本人の言語意識と行動様式					大下 朋子	
第6回	日本人の価値体系とことば					大下 朋子	
第7回	日本語から日本人を考える					大下 朋子	
第8回	ヨーロッパ諸語の自称詞と対称詞					大下 朋子	
第9回	日本語における自称詞と対称詞の構造					大下 朋子	
第10回	遊牧のパーソナリティと契約の精神					大下 朋子	
第11回	西洋社会の原理「愛のアイデア」と個人					大下 朋子	
第12回	日本的共同体の中の個					大下 朋子	
第13回	和の哲学と日本的共同体					大下 朋子	
第14回	日本語の構造					大下 朋子	

第 1 5 回	言語政策とことば	大下 朋子	
第 1 6 回	単位認定試験（筆記試験／レポート試験）	大下 朋子	
教科書			
教・書籍名 1	テキストは使用しない。資料を配付し、講読すべき文献は適宜指示する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	日本の歴史			担当者	國方 久史		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-004		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／16. 平和と公正をすべての人に  						
到達目標	我々は、高度に発達しつつも、なお不安定な現代社会に生きている。この混沌として不確実な社会の中で生活していくには、一定の指針を持たなければならない。茫洋たる大海に船を発進させるとき、高性能で堅牢な羅針盤が必要となる。そこで、歴史を正しく、しかも貪欲に学習してほしい。吸収した知識を有効に活用していけば、羅針盤は自ずと手に入るであろう。歴史はそれ自体そっくり繰り返しはしない。しかし、過去を真剣に吟味することによって、私たちは啓発的な遺産や教訓に目を開かされることになる。						
授業概要	日本の歴史を先史・古代から現代までを、いくつかのテーマを選んで講義する。それにより、日本の歴史の大きな流れを把握することが可能となるように配列したつもりである。大いなる好奇心と豊かな想像力をもって授業に取り組むならば、上に述べた羅針盤を手に入れることができるであろう。それにより、物事を自ら考え判断できる自立した主体となることが可能となるであろう。						
アクティブラーニングの内容							
評価方法と割合	この科目では、知識の修得程度を確認するための試験（50％）、自ら調べまとめる能力を確認するための課題レポート（50％）で評価する。評価のために実施した課題は、授業中にフィードバックするので、単位認定試験までに必ず見直しを行うこと。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	数回の課題を科しているが、後日学生に返還し、それを基に全体で討議している。学生個々の考え方をできるだけ尊重し、正解はこれしかないということ为避免、多様な考え方が存在することに気づいてほしいと考えている。						
履修条件・注意事項	授業の三分の一以上を欠席した者は、単位認定試験を受験できないので注意すること。『日本の歴史ノート』を準備するので毎時間持参し、整理すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	課題の作成には教科書の予習・復習（各30時間）が必要である。						
オフィスアワー	授業後あるいは火曜日の昼休み。事務室。						
授業計画						担当者	
第1回	旧石器時代～農耕社会の成立					國方 久史	
第2回	古墳とヤマト政権					國方 久史	
第3回	改革の時代					國方 久史	
第4回	律令国家の展開					國方 久史	
第5回	摂関政治と院政					國方 久史	
第6回	鎌倉幕府の成立と衰退					國方 久史	
第7回	室町幕府の成立～戦国時代へ					國方 久史	
第8回	幕藩体制の確立					國方 久史	

第 9 回	幕藩体制の展開	國方 久史	
第 1 0 回	幕藩体制の動揺	國方 久史	
第 1 1 回	近代国家の成立	國方 久史	
第 1 2 回	近代日本とアジア	國方 久史	
第 1 3 回	近代日本と世界	國方 久史	
第 1 4 回	占領下の日本～高度成長の時代へ	國方 久史	
第 1 5 回	激動する世界と日本	國方 久史	
第 1 6 回	単位認定試験	國方 久史	
教科書			
教・書籍名 1	使用しない	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	詳説日本史B	参・出版社名 1	山川出版社
参・著者名 1	石井・五味他	参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	クールジャパン論			担当者	カルロス・ガルシア、イアン・ウォーナー、金沢 真弓、ジョン・フォーセツ		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-006		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
D P 1. 知識・技能	◎	D P 2. 情報の活用	◎	D P 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	D P 4. コミュニケーション・表現力	◎
D P 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	D P 6. 課題解決力	○	D P 7. 自己効力感	◎	D P 8. 学科項目	◎
S D G s 関連項目	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 						
到達目標	This course of lectures is designed to educate Japanese students how they themselves can formally and informally speak compellingly, and at length, in English, about Japan and things Japanese. Specifically, it is designed to improve student awareness in regard to 'good' and 'positive' Japan-centered topics that are likely to appeal to, interest, impress, inform, educate and potentially benefit non-Japanese English language users of all ages and backgrounds.						
授業概要	Each weekly lecture, and all related practical activities, will focus on one or more specific 'things Japanese' that the lecturer - drawing on his / her own personal knowledge gained inside and outside of Japan - contends to be 'positive, impressive, cool and thus noteworthy' in an objective, international comparative sense. In other words, he / she will talk about choice aspects and facets of current Japanese civilization (be they in the realm of governance, public policy, administration, business, education, R&D and / or the liberal arts, etc) that appear to be 'positive, impressive, cool and thus noteworthy' by international standards, AND which are likely to be entirely unknown or barely familiar to all but tiny minorities of non-Japanese persons.						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	100% = Coursework (including homework and mini-tests, etc). There will be NO final EXAM. TEST. Students will be continuously appraised regarding coursework. Each lecturer will: a) check attendance and general student lesson-time performance. b) award 25% (max.) of each student's final (overall) grade score.						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	Teachers communicate with - and provide feedback to - all students in the following ways. Firstly, teachers return marked, commented on and corrected (printed and / or digital) course-work and homework worksheets and question papers to students. Secondly, teachers provide students with Correct / Model Answer (printed and / or digital) handout documents. Thirdly, teachers brief students accordingly, in writing, as and when necessary, via KIU e-mail. Fourthly, teachers brief students, verbally, as and when necessary / whenever teachers deem it to be necessary or preferable before during and after lessons. Fifthly, teachers additionally regularly encourage all students to liaise with teachers verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, teachers also regularly encourage and urge all students to contact via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime and to - especially - to physically visit their offices, as and whenever they see fit / think best and want to.						

履修条件・注意事項	This course will be conducted solely in English. Students should be mature and 'PROACTIVE' at all times and thus: 01) be alert, focused and highly motivated throughout each and every lesson; 02) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 03) study textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as frequently as possible; 04) come to each lesson ready and eager to speak with - and listen to - their teacher and classmates, in English.		
実務経験のある教員	該当する	内容	(Ian Warner) I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.
事前学習・事後学習とその時間	Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments. In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments, students should: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING in English regularly and as much as possible.		
オフィスアワー	Students can - and should: a) talk (directly, face-to-face) to each teacher before, during and / or after each lesson, if / whenever they need assistance and advice / guidance. b) visit each teacher's office and / or contact each teacher via KIU Gmail. Ian Warner's office - Room 133 Tuesdays* - Periods 1, 2, 3, 4, and / or 5 Wednesdays* - Periods 1, 2, 3, 4, and / or 5 Thursdays* - Periods 1, 2, 3, 4, and / or 5 * = Unless at staff meetings Students can also e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp		

		Lunch-time meetings - and meetings after 6:20pm - are also possible.	
授業計画		担当者	
第 1 回	Lecture and related activities: Landscape	Fawsitt	
第 2 回	Lecture and related activities: Animals	Fawsitt	
第 3 回	Lecture and related activities: Fruit	Fawsitt	
第 4 回	Lecture and related activities: Flowers	Fawsitt	
第 5 回	What's 'Cool Japan'?	Kanazawa	
第 6 回	Do you agree these things are cool or not? - Service at a restaurant, - Capsule Hotels;	Kanazawa	
第 7 回	Discussion: Let's find out 'Cool Japan' around us:	Kanazawa	
第 8 回	Group presentation	Kanazawa	
第 9 回	People and Customs	Garcia	
第 1 0 回	Items Unique to Japan	Garcia	
第 1 1 回	Technology	Garcia	
第 1 2 回	Group Presentations	Garcia	
第 1 3 回	Transportation [Lecture and related activities]	Warner	
第 1 4 回	Places & Environment [Lecture and related activities]	Warner	
第 1 5 回	Products, Companies and additional Cool Things [Lecture and related activities]	Warner	
第 1 6 回			
教科書			
教・書籍名 1	Each instructor will supply students with all necessary study materials and information on a weekly basis, before, during and / or after each lesson.	教・出版社名 1	

教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	DK Eyewitness Travel Guide: Japan Paperback (14/12/2021 or earlier / older) Students do NOT have to BUY this book. This book is in the KIU Okayama Campus Library.	参・出版社名 1	Publisher: DK Eyewitness Travel: Revised Edition: 14/12/2021
参・著者名 1		参・ I S B N 1	ISBN-10: 024152041X ISBN-13: 978-0241520413
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	英米文学Ⅱ			担当者	今林 修		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-106		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	集中講義
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	文学理論と文体論を援用しながら、英語で書かれたキャンノンと称される代表的な文学テキストを丹念に読み込むことにより、文学特有の英語表現に親しみ、深い読解力の涵養と多様な文化理解を促し、正しい文学批評の能力を身につけ、現代の国際人としての文学研究の重要性とその教育への応用を学ぶ。						
授業概要	文学理論と文体論を援用しながら、年代順に英語で書かれたキャンノンと称される代表的な英文学テキストを文学特有の英語表現、多様な文化に注目しながら、丹念に読み込む。できるだけ多くの代表的な英文学のテキストに触れることにより、各テキストの独自性に気づかせる。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業での発表（40％）とレポート（60％）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	授業中に行ないます。						
履修条件・注意事項	集中講義形式で実施。コロナ禍の為、オンライン授業で実施する可能性があります。 授業中の私語は厳禁。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	授業で一部を取り上げた文学作品は、できるだけ最後まで読むようにしましょう。						
オフィスアワー	授業終了後、適宜に対応。						
授業計画						担当者	
第1回	英語文学史とキャンノン					今林 修	
第2回	Geoffrey Chaucer, General Prologue to the Canterbury Tales					今林 修	
第3回	Edmund Spenser, The Faerie Queene					今林 修	
第4回	William Shakespeare, Romeo and Juliet					今林 修	
第5回	William Shakespeare, Hamlet					今林 修	
第6回	Richard Brinsley Sheridan, The Rivals					今林 修	
第7回	Oliver Goldsmith, She Stoops to Conquer					今林 修	
第8回	Oliver Goldsmith, The Vicar of Wakefield					今林 修	
第9回	Daniel Defoe, Robinson Crusoe					今林 修	

第 1 0 回	Jonathan Swift, Gulliver's Travels	今林 修	
第 1 1 回	Jane Austen, Pride and Prejudice	今林 修	
第 1 2 回	Jane Austen, Mansfield Park	今林 修	
第 1 3 回	Charles Dickens, Oliver Twist	今林 修	
第 1 4 回	Charles Dickens, Great Expectations	今林 修	
第 1 5 回	精読とは	今林 修	
第 1 6 回	まとめとレポート	今林 修	
教科書			
教・書籍名 1	毎回、ハンドアウトを配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	毎回配布するハンドアウトに随時記載する。	参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	英語音声学Ⅰ			担当者	イアン・ウォーナー		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-107		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Theme: Maximizing student English language pronunciation competency by ensuring thorough basic phonological understanding (and - in so doing - enhancing listening comprehension / aural competency). Aim: To make student pronunciation of English language words 'sufficiently accurate' and thus 'correct' - or at least 'functional' and 'acceptable' vis-a-vis 1 and 2-way oral communication and especially the reading of familiar and unfamiliar (typed / printed) common words (both aloud and silently, to oneself).						
授業概要	The course will center on the study of English vowel and consonant sounds in order to help students become effective and efficient English language users. It will necessarily entail optimally extensive and intensive weekly pronunciation practice intended to bring student pronunciation performance as near as possible to 'received' and / or internationally accepted pronouncing 'norms', 'best practices' and 'ideals'. 'Sufficiently accurate' and thus 'correct' - or at least 'functional' and 'acceptable'- pronunciation, in line with such norms, best practices and 'ideals', is a vital skill that all 'non-native' students of English must strive to acquire and develop to an advanced degree. Those who fail to pronounce words in a 'sufficiently accurate' and thus 'correct' - or at least 'functional' and 'acceptable' - manner will frequently not be understood (in full or part) - and be misunderstood by their interlocutors - especially by non-compatriot users of English. Moreover, such a failing - in the worst scenario - is likely to impede and limit the general development of all 4 core language skills (Listening, Reading, Speaking and Writing). In sum, English as foreign language (EFL) students must develop and retain the capacity to 'correctly' identify and produce the component syllable sounds of most commonly used words (regardless of whether their definitional meanings are known or unknown), whenever they are 'correctly' or 'acceptably' i) typed and printed or ii) pronounced by others. In other words, such students must be assisted in their efforts to become competent and proficient (visual and aural) identifiers and (oral) utterers of individual whole words, their component speech sounds (i.e. phonemes) and respective corresponding grapheme representations.						
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／グループワーク						
評価方法と割合	60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview and / or recording assignment, depending on student numbers). [Students will be continuously appraised regarding coursework.] Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and						

	photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.
ループリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	I communicate with - and provide feedback to - all students in the following ways. Firstly, I return marked, commented on and corrected (printed and / or digital) course-work and homework worksheets and question papers to students. Secondly, I provide students with Correct / Model Answer (printed and / or digital) handout documents. Thirdly, I brief students accordingly, in writing, as and when necessary, via KIU e-mail. Fourthly, I brief students, verbally, as and when necessary / whenever I deem it to be necessary or preferable before during and after lessons. In the case of student's Oral Communication / Speaking and Phonetics (pronouncing practice) sound-audio recordings (that are submitted to me via KIU e-mail) I supply detailed assessments as and when I think it necessary and likely to be beneficial i.e. read, comprehended, heeded / acted upon, and have a positive, rather than negative, effect / impact on the student(s) concerned. Fifthly, I additionally regularly encourage all students to liaise with me verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, I also regularly encourage and urge all students to contact me via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime and to - especially - to physically visit my office, as and whenever they see fit / think best and want to.
履修条件・注意事項	This course will be conducted solely in English. Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate. Students should be mature, adequately / sufficiently interested and engaged, and 'PROACTIVE' at all times, and therefore: 01) be - and remain - alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) come to each lesson ready and eager to speak / communicate with their teacher and classmates in English; 03) come to each lesson ready and eager to listen to their teacher(s) and classmates in English; 04) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 05) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as much and frequently as possible; 06) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, ideally and / or often at some length; 07) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 08) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 09) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 10) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 11) study (relevant) textbook pages - and all teacher-distributed materials - as much as possible before, during and after each lesson; 12) strive to finish / complete and submit all required classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well and 'on time', before specified deadlines;

	13) finish / submit all required classroom and homework assignments 'on time', before specified deadlines; 14) aim to fully understand - and 'master' - everything that their teacher tells them, especially those things that they are told they will likely to be tested on during (end-of-term) examinations, etc; 15) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 16) communicate with - and request help from - their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 17) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 18) tell the teacher immediately if they think that any textbook or lesson-related activity is / was too easy or difficult; 19) communicate with their teacher frequently, especially if they feel confused about a lesson-related topic; 20) request help from their teacher whenever they think that they would benefit from such; 21) generally try to maximize the amount of time that they practice English language oral communication with their teacher and one another; 22) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times. 23) do an adequate / sufficient amount of revision prior to all tests and - above all - the final, end-of-term exam.		
実務経験のある教員	該当する	内容	I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.
事前学習・事後学習とその時間	In addition to completing all homework assignments , students SHOULD: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible; The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.		

オフィスアワー	In Ian Warner's office - Room 133 You can contact Ian WARNER by e-mail via: escadero@gmail.com or Microsoft TEAMS. Tell Ian WARNER if you prefer to use FaceTime, Skype or LINE. If you want / need to talk to Ian WARNER - face-to-face - for a long time, go to Room 133. You can talk with Ian WARNER whenever you see him in Room 133 on Tuesdays, Wednesdays and Thursdays. The best time to talk to Ian WARNER in Room 133 is on Wednesdays at:

授業計画		担当者
第1回	母音vowels 1～3 [æ] [ʌ] [ɑ]	Warner
第2回	母音vowels 4～6 [a:] [a:r] [ə:r]	Warner
第3回	母音vowels 7～9 [ə] [ər] [i]	Warner
第4回	母音vowels 10～12 [i:] [u] [u:]	Warner
第5回	母音vowels 13～15 [e] [ɔ:] [ɔ:r]	Warner
第6回	母音vowels 16～18 [ai] [aiər] [au]	Warner
第7回	母音vowels 19～21 [auər] [ei] [ɔi]	Warner
第8回	母音vowels 22～24 [ou] [ju:] [iər]	Warner
第9回	母音vowels 25～26 [uər][eər]	Warner
第10回	子音 consonants 1～5 [l] [r] [p] [b] [t]	Warner
第11回	子音 consonants 6～10 [d] [k] [g] [m] [n]	Warner
第12回	子音 consonants 11～15 [ŋ] [f] [v] [h] [s]	Warner
第13回	子音 consonants 16～20 [z] [θ] [ʒ] [ʃ] [ʒ]	Warner
第14回	子音 consonants 21～24 [ʃ] [dʒ] [j] [w]	Warner
第15回	復習・まとめ Review	Warner
第16回	Final EXAM. TEST	Warner

教科書			
教・書籍名1	1) Clear Speech [4th Edition] (2017) 2) English Pronunciation in Use - Intermediate (2017)	教・出版社名1	Cambridge University Press
教・著者名1	1) Judy B. Gilbert === 2) Mark Hancock	教・ISBN1	1) ISBN-10: 1108659330 ISBN-13: 978-1108659338 === 2) ISBN-10: 1108403697 ISBN-13: 978-1108403696
教・書籍名2	Pronouncing Dictionary [18th Edition] (2011) Students do NOT need to buy this book. Certain specific pages will be used in lesson time.	教・出版社名2	Cambridge University Press
教・著者名2	Daniel Jones	教・ISBN2	ISBN-10: 0521152550 ISBN-13: 978-0521152556

参考書			
	Ship or Sheep? [3rd Edition] (2006)		Cambridge University

参・書籍名 1	Certain specific pages will be used in lesson time.	参・出版社名 1	Press
参・著者名 1	Ann Baker	参・ I S B N 1	ISBN-10: 052160673X ISBN-13: 978-0521606738
参・書籍名 2	A large number of suitably challenging English language news reports and journalistic articles - sourced mainly from major Anglo-American, European, Japanese and East-Asian news agencies, newspapers and news and current affairs magazines - will be utilized on a weekly basis.	参・出版社名2	
参・著者名2	Additional supplementary reading, listening (audio) and speaking materials and activities will be supplied (weekly) by the teacher.	参・ I S B N 2	

授業科目名	英語音声学Ⅱ			担当者	イアン・ウォーナー		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-108		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用		DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Theme: For intonation and rhythm: linking, elision, assimilation, dropping of sound Aim: Building on progress made in English phonetics I, the aim of this course is to provide students with a greater, more comprehensive understanding and mastery of English language pronunciation.						
授業概要	From the viewpoint of supersegmental features, this course will focus on syllables, stress, rhythm and intonation etc of English to learn natural English pronunciation. This course will emphasize practical aspect so that students can communicate in English with natural pronunciation in oral communication. 'Sufficiently accurate' and thus 'correct' - or at least 'functional' and 'acceptable'- pronunciation, in line with such norms, best practices and 'ideals', is a vital skill that all 'non-native' students of English must strive to acquire and develop to an advanced degree. Those who fail to pronounce words in a 'sufficiently accurate' and thus 'correct' - or at least 'functional' and 'acceptable' - manner will frequently not be understood (in full or part) - and be misunderstood by their interlocutors - especially by non-compatriot users of English. Moreover, such a failing - in the worst scenario - is likely to impede and limit the general development of all 4 core language skills (Listening, Reading, Speaking and Writing). In sum, English as foreign language (EFL) students must develop and retain the capacity to 'correctly' identify and produce the component syllable sounds of most commonly used words (regardless of whether their definitional meanings are known or unknown), whenever they are 'correctly' or 'acceptably' i) typed and printed or ii) pronounced by others. In other words, such students must be assisted in their efforts to become competent and proficient (visual and aural) identifiers and (oral) utterers of individual whole words, their component speech sounds (i.e. phonemes) and respective corresponding grapheme representations.						
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview) [Students will be continuously appraised regarding coursework.] Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	I communicate with - and provide feedback to - all students in the following ways. Firstly, I return marked, commented on and corrected (printed and / or digital) course-work and homework worksheets and question						

	papers to students. Secondly, I provide students with Correct / Model Answer (printed and / or digital) handout documents. Thirdly, I brief students accordingly, in writing, as and when necessary, via KIU e-mail. Fourthly, I brief students, verbally, as and when necessary / whenever I deem it to be necessary or preferable before during and after lessons. In the case of student's Oral Communication / Speaking and Phonetics (pronouncing practice) sound-audio recordings (that are submitted to me via KIU e-mail) I supply detailed assessments as and when I think it necessary and likely to be beneficial i.e. read, comprehended, heeded / acted upon, and have a positive, rather than negative, effect / impact on the student(s) concerned. Fifthly, I additionally regularly encourage all students to liaise with me verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, I also regularly encourage and urge all students to contact me via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime and to - especially - to physically visit my office, as and whenever they see fit / think best and want to.
履修条件・注意事項	This course will be conducted solely in English. Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate. Students should be mature, adequately / sufficiently interested and engaged, and 'PROACTIVE' at all times, and therefore: 01) be - and remain - alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) come to each lesson ready and eager to speak / communicate with their teacher and classmates in English; 03) come to each lesson ready and eager to listen to their teacher(s) and classmates in English; 04) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 05) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as much and frequently as possible; 06) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, ideally and / or often at some length; 07) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 08) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 09) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 10) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 11) study (relevant) textbook pages - and all teacher-distributed materials - as much as possible before, during and after each lesson; 12) strive to finish / complete and submit all required classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well and 'on time', before specified deadlines; 13) finish / submit all required classroom and homework assignments 'on time', before specified deadlines; 14) aim to fully understand - and 'master' - everything that their teacher tells them, especially those things that they are told they will likely to be tested on during (end-of-term) examinations, etc; 15) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 16) communicate with - and request help from - their teacher frequently, especially when they don't understand

	a lesson-related topic and require assistance; 17) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 18) tell the teacher immediately if they think that any textbook or lesson-related activity is / was too easy or difficult; 19) communicate with their teacher frequently, especially if they feel confused about a lesson-related topic; 20) request help from their teacher whenever they think that they would benefit from such; 21) generally try to maximize the amount of time that they practice English language oral communication with their teacher and one another; 22) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times. 23) do an adequate / sufficient amount of revision prior to all tests and - above all - the final, end-of-term exam.		
実務経験のある教員	該当する	内容	I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.
事前学習・事後学習とその時間	1) Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor. 2) Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor. Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face. 3) Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments. In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments, students should: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible;		

	The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.
オフィスアワー	In Ian Warner's office - Room 133 Mondays - N/A Tuesdays - 1, 2, 3, 4, 5, 6 Wednesdays - 1, 2, 3, 4, 5, 6 Thursdays - 1, 2, 3, 4, 5, 6 Fridays - Periods 1, 2, 3, 4, 5, 6 * = Unless at staff meetings Students can also e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp Lunch-time meetings - and meetings after 6:20pm - are also possible.

授業計画		担当者
第 1 回	Syllables	Warner
第 2 回	Vowels and Vowel Rules	Warner
第 3 回	Word Stress and Vowel Length	Warner
第 4 回	Word Stress and Vowel Clarity	Warner
第 5 回	Word Stress Patterns	Warner
第 6 回	Sentence Focus: Emphasizing Content Words	Warner
第 7 回	Sentence Focus: De-Emphasizing Structure Words	Warner
第 8 回	Choosing the Focus Word	Warner
第 9 回	Emphasizing Structure Words	Warner
第 1 0 回	Constituents and Stops: /s/ and /t/	Warner
第 1 1 回	Constituents and Stops: /r/ and /d/; /l/ and /d/	Warner
第 1 2 回	Voicing	Warner
第 1 3 回	Voicing and Syllable Length Aspiration	Warner
第 1 4 回	Sibilants	Warner
第 1 5 回	Thought Groups	Warner
第 1 6 回	Final EXAM. TEST	Warner

教科書			
教・書籍名 1	Clear Speech [4th Edition] (2012)	教・出版社名 1	Cambridge University Press
教・著者名 1	Judy B. Gilbert	教・ I S B N 1	ISBN-10: 1108659330 ISBN-13: 978-1108659338
教・書籍名 2	English Pronunciation in Use - Intermediate (2014)	教・出版社名 2	Cambridge University Press
教・著者名 2	Mark Hancock	教・ I S B N 2	ISBN-10: 1108403697 ISBN-13: 978-

			1108403696
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2	A large number of suitably challenging English language news reports and journalistic articles - sourced mainly from major Anglo-American, European, Japanese and East-Asian news agencies, newspapers and news and current affairs magazines - will be utilized on a weekly basis.	参・出版社名2	
参・著者名2	Additional supplementary reading, listening (audio) and speaking materials and activities will be supplied (weekly) by the teacher.	参・ I S B N 2	

授業科目名	英語リーディングⅠ			担当者	カルロス・ガルシア		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-201		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	This course will focus on reading comprehension with critical thinking and vocabulary practice. Through various exercises, we will try to develop reading skills and overall language ability. The aim is for students to understand the main idea and details of a text, summarize it in their own words, answer questions, and give their opinion on the topic.						
授業概要	Classes will have in-class reading, questions and answers, and topic discussions of homework. We will learn by studying topics and situations. Students can share their own opinions on many issues.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	Students will be evaluated by class participation, homework, quizzes, and exams. 1) 60%: assignments, homework, participation. 2) 40%: Final Exam						
ルーブリック評価	n/a						
課題や試験のフィードバック方法	Oral and written notes on assignments and in lectures						
履修条件・注意事項	Students should prepare for each class by doing the homework assignments, checking vocabulary, and background information. Vocabulary will be a big part of understanding text, so it is suggested that students study the vocabulary words from each unit, as well as any unknown words in the text. This course is conducted in English. If possible, this class will be held in a CALL (Computer Assisted Language Learning) room and use the CALL system.						
実務経験のある教員	該当しない	内容	n/a				
事前学習・事後学習とその時間	Students should look through the unit to become familiar with the content, and get an idea what types of topics and vocabulary words will be used. Doing digital book exercises are encouraged because students can check their answers and work at their own pace. Finding books at an appropriate level to read for pleasure is highly encouraged.						
オフィスアワー	n/a						
授業計画						担当者	
第1回	1) Course overview					Garcia	
第2回	2) Guessing meaning from context					Garcia	
第3回	3) Identifying text organization					Garcia	
第4回	4) Inferring meaning					Garcia	
第5回	5) Antonyms					Garcia	
第6回	6) Words with different meanings					Garcia	
第7回	7) Prefixes					Garcia	
第8回	8) Identifying reference words					Garcia	
第9回	Skimming and scanning					Garcia	
第10回	10) Separating fact from fiction					Garcia	
第11回	11) Suffixes					Garcia	

第 1 2 回	12) Synonyms	Garcia	
第 1 3 回	13) Selecting key information	Garcia	
第 1 4 回	14) Word groups	Garcia	
第 1 5 回	15) Course review	Garcia	
第 1 6 回	16) Final Exam	Garcia	
教科書			
教・書籍名 1	TBD	教・出版社名 1	TBD
教・著者名 1	TBD	教・ I S B N 1	TBD
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	英語リーディングⅡ			担当者	イアン・ウォーナー		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-202		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
D P 1. 知識・技能	○	D P 2. 情報の活用		D P 3.主体的な学びと論理的な思考	○	D P 4. コミュニケーション・表現力	◎
D P 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	D P 6. 課題解決力		D P 7. 自己効力感		D P 8. 学科項目	○
S D G s 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／6. 安全な水とトイレを世界中に／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／8. 働きがいも経済成長も 						
到達目標	Theme: Helping students to further develop their Reading Comprehension skills (and thus vocabulary, pronunciation and syntactic / grammar) knowledge-awareness. Main Aims / Objectives: The aim of this course is to further develop student ability to accurately and otherwise efficiently understand and 'digest' a diverse range of texts (of appropriate length and complexity) within comparatively short(er) periods of time. By the end of this course, students should therefore be better able to: 1) ascertain and understand the information contained within (mostly teacher assigned) study texts; 2) ascertain and understand the gist, 'messages' and thus likely main intended 'purpose(s)' of (mostly teacher assigned) study texts; 3) comprehensively summarize (verbally and in writing) study text content; 4) comprehensively describe and explain (verbally and in writing) study text content; 5) express their own opinions and responses regarding study text content;						
授業概要	Students will be expected, encouraged and helped to read, analyze, explain and provide personnel, opinion-based critical assessments of assigned study texts verbally and in writing. Students will thus be given ample weekly opportunities to talk, discuss and write about assigned study text content and relevant related topics. Students will be given - on a weekly basis - ample opportunity to practice and thereby improve not only their vocabulary / word recognition, pronunciation and syntactic / grammar knowledge-awareness but also their Oral Communication (OC) and Writing communication skills, as they attempt to determine the gist and / or full meaning and intent of assigned study texts. Students will be expected, encouraged and helped to engage wholeheartedly, enthusiastically and intellectually with assigned reading materials and to be eager to describe and comment on them in appropriate detail and for an appropriate length of time. In other words, students will be expected, encouraged and helped to say and / or write 'enough' words and sentences in the time available (and thus to avoid being too slow, hesitant, unforthcoming or reticent). Student comprehension performance will be constantly assessed via appraisal of oral / verbal and written reports and verbal and written answers to the teacher's verbal and written questioning. For verbal reporting, pronunciation, intonation, audibility, syntax / word order, grammar correctness, 'message' coherence, vocabulary usage / articulateness and the general apparent level of success and eagerness vis-a-vis 'making oneself understood' will be prioritized, considered and assessed.						

	For written reporting, syntax / word order, grammar correctness, 'message' coherence, vocabulary usage / articulateness and the general apparent level of success and eagerness vis-a-vis 'making oneself understood' will be prioritized, considered and assessed.
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／グループワーク
評価方法と割合	60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview) [Students will be continuously appraised regarding coursework.] Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail.
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	I communicate with - and provide feedback to - all students in the following ways. Firstly, I return marked, commented on and corrected (printed and / or digital) course-work and homework worksheets and question papers to students. Secondly, I provide students with Correct / Model Answer (printed and / or digital) handout documents. Thirdly, I brief students accordingly, in writing, as and when necessary, via KIU e-mail. Fourthly, I brief students, verbally, as and when necessary / whenever I deem it to be necessary or preferable before during and after lessons. Fifthly, I additionally regularly encourage all students to liaise with me verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, I also regularly encourage and urge all students to contact me via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime and to - especially - to physically visit my office, as and whenever they see fit / think best and want to.
	This course will be conducted solely in English. Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate. Students should be mature, adequately / sufficiently interested and engaged, and 'PROACTIVE' at all times, and therefore: 01) be - and remain - alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) come to each lesson ready and eager to speak / communicate with their teacher and classmates in English; 03) come to each lesson ready and eager to listen to their teacher(s) and classmates in English; 04) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 05) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as much and frequently as possible;

履修条件・注意事項	06) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, ideally and / or often at some length; 07) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 08) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 09) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 10) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 11) study (relevant) textbook pages - and all teacher-distributed materials - as much as possible before, during and after each lesson; 12) strive to finish / complete and submit all required classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well and 'on time', before specified deadlines; 13) finish / submit all required classroom and homework assignments 'on time', before specified deadlines; 14) aim to fully understand - and 'master' - everything that their teacher tells them, especially those things that they are told they will likely to be tested on during (end-of-term) examinations, etc; 15) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 16) communicate with - and request help from - their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 17) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 18) tell the teacher immediately if they think that any textbook or lesson-related activity is / was too easy or difficult; 19) communicate with their teacher frequently, especially if they feel confused about a lesson-related topic; 20) request help from their teacher whenever they think that they would benefit from such; 21) generally try to maximize the amount of time that they practice English language oral communication with their teacher and one another; 22) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times. 23) do an adequate / sufficient amount of revision prior to all tests and - above all - the final, end-of-term exam.		
実務経験のある教員	該当する	内容	I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.
事前学習・事後学習とその時間	1) Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor. 2) Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor. Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete		

		them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face. 3) Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments. In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments, students should: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible; The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.
オフィスアワー		In Ian Warner's office - Room 133 Mondays - N/A Tuesdays - 3, 4, 5, 6 Wednesdays - 3, 4, 5, 6 Thursdays - 1, 2, 3, 4, 5, 6 Fridays - Periods 1, 2, 3, 4, 5, 6 * = Unless at staff meetings Students can also e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp Lunch-time meetings - and meetings after 6:20pm - are also possible.
授業計画		担当者
第 1 回	U-01 (Main Text, etc)	Warner
第 2 回	U-02 (Main Text, etc)	Warner
第 3 回	U-03 (Main Text, etc)	Warner
第 4 回	U-04 (Main Text, etc)	Warner
第 5 回	U-05 (Main Text, etc)	Warner
第 6 回	U-06 (Main Text, etc)	Warner
第 7 回	U-07 (Main Text, etc)	Warner
第 8 回	U-08 (Main Text, etc)	Warner
第 9 回	U-09 (Main Text, etc)	Warner
第 1 0 回	U-10 (Main Text, etc)	Warner
第 1 1 回	U-11 (Main Text, etc)	Warner
第 1 2 回	U-12 (Main Text, etc)	Warner

第 1 3 回	U-13 (Main Text, etc)	Warner
第 1 4 回	U-14 (Main Text, etc)	Warner
第 1 5 回	U-15 (Main Text, etc)	Warner
第 1 6 回	Final EXAM. TEST	Warner
教科書		
教・書籍名 1	Reading Pass - Intro (2013)	教・出版社名 1 Nan'un-Do Co., Ltd.
教・著者名 1	Andrew E. Bennett	教・I S B N 1 ISBN-10: 4523177201 ISBN-13: 978-4-523-17720-3
教・書籍名 2	Suitably challenging English language texts (including news reports and journalistic articles) sourced from books and major Anglo-American, European, Japanese and East-Asian news agencies, newspapers and news and current affairs magazines - will also be utilized on a weekly basis.	教・出版社名2
教・著者名2		教・I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	Reader's Forum: Preface Simply English An Introduction to Today's Key Concepts (2017)	参・出版社名 1 Nan'un-Do Co., Ltd.
参・著者名 1	Jim Knudsen	参・I S B N 1 ISBN: 9784523178293
参・書籍名 2		参・出版社名2
参・著者名2		参・I S B N 2

授業科目名	英語ライティングⅡ			担当者	カルロス・ガルシア		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-206		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	△
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	This course will help students develop basic English writing skills, understand writing as a process, and build a foundation for becoming an independent writer. Students will learn paragraph structure, as well as how to express personal ideas clearly. We will have textbook, workbook, free writing, and online practice to help give students a variety of writing practice.						
授業概要	We will do a variety of exercises and practice that help students focus on and improve their writing skills. Students will be expected to write at a higher level than the previous semester, but the ability to communicate clearly is preferable to making perfect grammatical sentences. This class will focus on writing, but some activities and exercises will integrate other skills (reading, listening, and speaking) to help students' overall improvement.						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	Students will be evaluated by class participation, homework, quizzes, and exams. 1) 60%: assignments, homework, participation. 2) 40%: Final Exam						
ルーブリック評価	n/a						
課題や試験のフィードバック方法	n/a						
履修条件・注意事項	Students should arrive on time, do all assignments in class, and submit all homework on time. Writing activities and homework will be a combination of hand written and typed. We will also do some practice in English typing skills, so practicing on your own will be beneficial. This course is conducted in English.						
実務経験のある教員	該当しない	内容	n/a				
事前学習・事後学習とその時間	It will be helpful for students to look through the book before each class. To get a better understanding of the material and vocabulary, it is recommended that students study and practice the vocabulary taught in each unit. Homework, digital book exercises, and in class practice provide valuable practice, so students are encouraged to do all of these things to help improve their skills. Students are encouraged to ask questions in class, or visit office hours to get help if needed.						
オフィスアワー	Wednesday 9:00 am to 11:00 am, or by appointment.						
授業計画						担当者	
第1回	1) Paragraph formatting					Garcia	
第2回	2) Sentence structure					Garcia	
第3回	3) Nouns, subject pronouns					Garcia	
第4回	4) Topic sentences					Garcia	
第5回	5) Writing complete sentences					Garcia	
第6回	6) Phrasal verbs					Garcia	
第7回	7) Prepositions of time, capitalization					Garcia	

第 8 回	8) Supporting sentences	Garcia
第 9 回	9) Present progressive / simple present tense	Garcia
第 1 0 回	10) Simple and compound sentences	Garcia
第 1 1 回	11) Concluding sentences	Garcia
第 1 2 回	12) Sentence fragments	Garcia
第 1 3 回	13) Adverbs of probability	Garcia
第 1 4 回	14) Sentences with future time	Garcia
第 1 5 回	15) Run-on sentences	Garcia
第 1 6 回	16) Final Exam	Garcia

教科書

教・書籍名 1	Longman Academic Writing Series 1	教・出版社名 1	Pearson
教・著者名 1	Linda Butler	教・I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・I S B N 2	

授業科目名	アカデミック・ライティング			担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-208		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習 excercises
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	This course mainly aims to improve the linguistic and cultural competence of students with special focus on writing skills in English. 海外研修や英語での学修にとって必要な言語的および文化的な英語の素養を習得し、大学生としてふさわしい知的水準の文章を英語で書けるようになることを到達目標とする。						
授業概要	さまざまなテーマについて英語で論述できるように、実践的な英語ライティングの向上を図る。特にボキャブラリーの強化を図り、自らの見解を英語で明確かつ正確に表現できるようになることが期待される。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／プレゼンテーション						
評価方法と割合	In-class activities (授業での積極性 20%, how actively you participate in classroom sessions), comprehension of reading assignments (英語ライティングの課題の達成度20%, you should be ready for writing assignments in English), mid-term report with short presentation (中間レポートとその内容のプレゼンテーション30%, you will be advised how to prepare for the mid-term report and presentation), final presentations and class discussion (最終プレゼンテーションとその内容についてのクラス討論30%).						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等については、授業およびメール等によってフィードバックする。						
履修条件・注意事項	講義は英語のみで行い日本語は用いない。 授業では多くの英語テキストを読み、自ら英語で文章を書くことが基本である。したがって、受講に際しては、必ず予習・復習に取り組み、疑問点は教員に確認すること。真摯に自らの英語力の向上を目指す受講生を歓迎する。 The instruction language is only English (no Japanese). You are expected to be really serious to improve your English proficiency, especially writing skills in English.						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、授業内容に沿って課題を課す。 Preparation for class sessions (30 hours) and following-up studies (30 hours) after class sessions are required. At each class session home assignments will be delivered to students.						
オフィスアワー	13:30-15:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
授業計画						担当者	
第1回	Guidance to this course					Merviö	
第2回	variety of texts					Merviö	
第3回	writing reflections					Merviö	
第4回	essays writing exercises					Merviö	
第5回	vocabulary exercises					Merviö	
第6回	grammar exercises					Merviö	
第7回	writing short essays					Merviö	
第8回	summarizing journal articles					Merviö	
第9回	presentation exercises					Merviö	
第10回	individual essay writing					Merviö	
第11回	presenting your essay					Merviö	

第 1 2 回	academic writing	Merviö
第 1 3 回	essays and academic writing	Merviö
第 1 4 回	debates on essay contents	Merviö
第 1 5 回	presentation of your text	Merviö
第 1 6 回	final test	Merviö
教科書		
教・書籍名 1	BBC News http://www.bbc.com/news	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・I S B N 1
教・書籍名 2	New York Times https://www.nytimes.com/	教・出版社名 2
教・著者名 2		教・I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	National Geographic https://www.nationalgeographic.com/	参・出版社名 1
参・著者名 1		参・I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・I S B N 2

	during and after lessons. In the case of student's Oral Communication / Speaking and Phonetics (pronouncing practice) sound-audio recordings (that are submitted to me via KIU e-mail) I supply detailed assessments as and when I think it necessary and likely to be beneficial i.e. read, comprehended, heeded / acted upon, and have a positive, rather than negative, effect / impact on the student(s) concerned. Fifthly, I additionally regularly encourage all students to liaise with me verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, I also regularly encourage and urge all students to contact me via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime and to - especially - to physically visit my office, as and whenever they see fit / think best and want to.
履修条件・注意事項	This course will be conducted solely in English. Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate. Students should be mature, adequately / sufficiently interested and engaged, and 'PROACTIVE' at all times, and therefore: 01) be - and remain - alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) come to each lesson ready and eager to speak / communicate with their teacher and classmates in English; 03) come to each lesson ready and eager to listen to their teacher(s) and classmates in English; 04) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 05) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as much and frequently as possible; 06) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, ideally and / or often at some length; 07) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 08) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 09) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 10) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 11) study (relevant) textbook pages - and all teacher-distributed materials - as much as possible before, during and after each lesson; 12) strive to finish / complete and submit all required classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well and 'on time', before specified deadlines; 13) finish / submit all required classroom and homework assignments 'on time', before specified deadlines; 14) aim to fully understand - and 'master' - everything that their teacher tells them, especially those things that they are told they will likely to be tested on during (end-of-term) examinations, etc; 15) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 16) communicate with - and request help from - their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 17) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 18) tell the teacher immediately if they think that any textbook or lesson-related activity is / was too easy or

	difficult; 19) communicate with their teacher frequently, especially if they feel confused about a lesson-related topic; 20) request help from their teacher whenever they think that they would benefit from such; 21) generally try to maximize the amount of time that they practice English language oral communication with their teacher and one another; 22) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times. 23) do an adequate / sufficient amount of revision prior to all tests and - above all - the final, end-of-term exam.		
実務経験のある教員	該当する	内容	I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.
事前学習・事後学習とその時間	1) Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor. 2) Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor. Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face. 3) Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments. In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments , students should: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible; The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of- term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.		

オフィスアワー	In Ian Warner's office - Room 133 You can contact Ian WARNER by e-mail via: escadero@gmail.com or Microsoft TEAMS. Tell Ian WARNER if you prefer to use FaceTime, Skype or LINE. If you want / need to talk to Ian WARNER - face-to-face - for a long time, go to Room 133. You can talk with Ian WARNER whenever you see him in Room 133 on Tuesdays, Wednesdays and Thursdays. The best time to talk to Ian WARNER in Room 133 is on Wednesdays at:		
授業計画		担当者	
第 1 回	Unit 01 Family	Warner	
第 2 回	Unit 02 Friends	Warner	
第 3 回	Unit 03 Culture	Warner	
第 4 回	Unit 05 Sport, Hobbies	Warner	
第 5 回	Unit 06 Work	Warner	
第 6 回	Unit 07 Food	Warner	
第 7 回	Unit 09 Health	Warner	
第 8 回	Unit 10 Movies	Warner	
第 9 回	Unit 11 Traveling	Warner	
第 1 0 回	Unit 12 Music	Warner	
第 1 1 回	Unit 14 Shopping	Warner	
第 1 2 回	Unit 15 Internet	Warner	
第 1 3 回	Unit 16 Weather	Warner	
第 1 4 回	Unit 17 Feelings	Warner	
第 1 5 回	Unit 18 The Future	Warner	
第 1 6 回	Final EXAM. TEST	Warner	
教科書			
教・書籍名 1	English Listening and Speaking Patterns 1 (2017)	教・出版社名 1	Nan'un-do
教・著者名 1	Andrew E. Bennett	教・ I S B N 1	ISBN-10: 4523178429 ISBN-13: 978-4523178422
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	Collins Easy Learning English Conversation: Book 1 (2015)	参・出版社名 1	Harper Collins Publishers
参・著者名 1		参・ I S B N 1	ISBN-10: 0008101744 ISBN-13: 978-0008101749
参・書籍名 2	Talk Time 2: Everyday English Conversation (2006)	参・出版社名 2	Oxford University Press
参・著者名 2	Susan Stempleski	参・ I S B N 2	ISBN-10: 0194392910 ISBN-19: 78-0194392914

授業科目名	英語オーラルコミュニケーションⅡ			担当者	カルロス・ガルシア		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-210		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
D P 1. 知識・技能	◎	D P 2. 情報の活用	○	D P 3.主体的な学びと論理的な思考	○	D P 4. コミュニケーション・表現力	◎
D P 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	D P 6. 課題解決力	○	D P 7. 自己効力感	◎	D P 8. 学科項目	△
S D G s 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	The goal of this class will be to develop confidence with conversation skills. Communicating with confidence means expressing yourself accurately, fluently, and appropriately. Students will do various speaking tasks in class to maximize speaking opportunities.						
授業概要	Students will participate in a variety of speaking activities and assignments that will help improve speaking speed, understandability, and fluidity. Worksheets, videos, online practice, websites, computer apps, games, and partner activities will all serve to give students plenty of practice. Other skills include, but are not limited to, pronunciation, intonation, rhythm, stress, and speed. Emphasis will be placed on overcoming shyness and hesitation to communicate clearly.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	Students will be evaluated by class participation, assignments, and activities. 1) 80%: assignments, activities, participation. 2) 20%: Final Exam						
ルーブリック評価	n/a						
課題や試験のフィードバック方法	Oral feedback						
履修条件・注意事項	Students are expected to be ready and willing to speak and communicate in English. Because there will be a lot of pair work in this class, students are expected to participate and give their best effort at all times. Unwillingness to participate will affect other students. This course is conducted in English.						
実務経験のある教員	該当しない	内容	n/a				
事前学習・事後学習とその時間	Speaking is hard to “study”, but you can practice by speaking as much as possible in class, and stop by office hours of any native teacher a few times a week to practice speaking. The more you speak, the better you will become.						
オフィスアワー	Wednesday 9:00 am to 11:00 am, or by appointment.						
授業計画						担当者	
第1回	1) Formal and informal language					Garcia	
第2回	2) Reduction of ‘to’					Garcia	
第3回	3) Asking for repetition					Garcia	
第4回	4) Intonation in question tags					Garcia	
第5回	5) Expressing preferences					Garcia	
第6回	6) Contrastive stress in returning questions					Garcia	
第7回	7) Talking about time					Garcia	
第8回	8) asking/giving opinions					Garcia	
第9回	9) Final ‘s’ sounds					Garcia	
第10回	10) Personality traits					Garcia	
第11回	11) giving/receiving compliments					Garcia	
第12回	12) Listen for descriptions					Garcia	

第 1 3 回	13) Reduction of 'do you'	Garcia	
第 1 4 回	14) Asking follow-up questions	Garcia	
第 1 5 回	15) Sequence markers	Garcia	
第 1 6 回	16) Final Exam	Garcia	
教科書			
教・書籍名 1	No Book	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	英語オーラルコミュニケーション演習Ⅰ			担当者	イアン・ウォーナー		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-211		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Theme: Improving student ability to participate effectively, creatively and confidently in authentic, real-life, everyday English language conversation, discussion and debate. Target: This course is intended to improve student English speaking ability. Students who enroll on this course will therefore receive progressively more advanced - and demanding / challenging - briefs and instruction. At the end of the course, students should be: a) better able to communicate more effectively in all 'real-life' situations and; b) have more confidence regarding communicating effectively in all 'real-life' situations; c) better prepared to enroll on the similar but more advanced English Oral Communication Exercise II course. Major emphasis will therefore - on a weekly basis - be placed on speaking for longer, extended periods of time (usually 5-10 minutes) about single assigned topics / issues, in order to foster greater levels of creativity, articulateness and expansiveness / elaboration.						
授業概要	English Oral Communication Exercises I will give students 30 hours (not including homework assignment completion) in which to intensively consider and practice Oral Communication. Throughout each weekly lesson, students will do activities and receive instruction, training and advice intended to assist and guide them in their efforts to expand and enhance their English language speaking skills and articulateness. Students will have opportunity to i) practice and thereby improve existing key skills; ii) learn various new key and / or important skills; and iii) expand vocabulary knowledge in order to raise their overall ability to understand, enter into and maintain authentic, real-life, everyday English language conversation. Students will necessarily study numerous topics including pronunciation, intonation and diction etc, and be advised at every stage about how best to express themselves clearly, efficiently and confidently. Crucially, students will be required, helped and encouraged - on a systematic, weekly basis - to speak 'in detail' and 'comprehensively' in response to each and every OC question and prompt that their instructor a) gives them and b) tells them to self-select / create. Whenever necessary therefore, major emphasis will be placed on overcoming shyness, reticence and any other presently constraining deficiencies / shortcomings that presently impede or prevent good oral communication competency.						

アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview and / or monologue) [Students will be continuously appraised regarding coursework.] Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail. Students should try to speak as much as possible, constantly think about 'what more' than can say / add, and give due consideration to pronunciation, vocabulary and syntax / sentence structure.
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	I communicate with - and provide feedback to - all students in the following ways. Firstly, I return marked, commented on and corrected (printed and / or digital) course-work and homework worksheets and question papers to students. Secondly, I provide students with Correct / Model Answer (printed and / or digital) handout documents. Thirdly, I brief students accordingly, in writing, as and when necessary, via KIU e-mail. Fourthly, I brief students, verbally, as and when necessary / whenever I deem it to be necessary or preferable before during and after lessons. In the case of student's Oral Communication / Speaking and Phonetics (pronouncing practice) sound-audio recordings (that are submitted to me via KIU e-mail) I supply detailed assessments as and when I think it necessary and likely to be beneficial i.e. read, comprehended, heeded / acted upon, and have a positive, rather than negative, effect / impact on the student(s) concerned. Fifthly, I additionally regularly encourage all students to liaise with me verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, I also regularly encourage and urge all students to contact me via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime.
	This course will be conducted solely in English. Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate. Students should be mature, adequately / sufficiently interested and engaged, and 'PROACTIVE' at all times, and therefore: 01) be - and remain - alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) come to each lesson ready and eager to speak / communicate with their teacher and classmates in English; 03) come to each lesson ready and eager to listen to their teacher(s) and classmates in English; 04) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 05) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson,

履修条件・注意事項	thoroughly and as much and frequently as possible; 06) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, ideally and / or often at some length; 07) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 08) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 09) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 10) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 11) study (relevant) textbook pages - and all teacher-distributed materials - as much as possible before, during and after each lesson; 12) strive to finish / complete and submit all required classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well and 'on time', before specified deadlines; 13) finish / submit all required classroom and homework assignments 'on time', before specified deadlines; 14) aim to fully understand - and 'master' - everything that their teacher tells them, especially those things that they are told they will likely to be tested on during (end-of-term) examinations, etc; 15) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 16) communicate with - and request help from - their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 17) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 18) tell the teacher immediately if they think that any textbook or lesson-related activity is / was too easy or difficult; 19) communicate with their teacher frequently, especially if they feel confused about a lesson-related topic; 20) request help from their teacher whenever they think that they would benefit from such; 21) generally try to maximize the amount of time that they practice English language oral communication with their teacher and one another; 22) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times. 23) do an adequate / sufficient amount of revision prior to all tests and - above all - the final, end-of-term exam.		
実務経験のある教員	該当する	内容	I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.
事前学習・事後学習と その時間	1) Students should self-study all LESSON-TIME and HOMEWORK related Listening, Reading, Writing and / or Speaking materials that are given to them by the instructor. 2) Students are expected to do and complete all LESSON-TIME self-study assignments within the (lengths of) time specified / allocated by the instructor.		

	Students who finish such assignments early or decide that they require additional time in which to complete them should inform the instructor immediately or as soon as possible, in person / face-to-face. 3) Students should spend a minimum of 30 minutes on any and all HOMEWORK assignments. In addition to completing all LESSON-TIME and HOMEWORK assignments , students should: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) LISTEN to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible; The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of-term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.	
	In Ian Warner's office - Room 133 You can contact Ian WARNER by e-mail via: escadero@gmail.com or Microsoft TEAMS. Tell Ian WARNER if you prefer to use FaceTime, Skype or LINE. If you want / need to talk to Ian WARNER - face-to-face - for a long time, go to Room 133. You can talk with Ian WARNER whenever you see him in Room 133 on Tuesdays, Wednesdays and Thursdays. The best time to talk to Ian WARNER in Room 133 is on Wednesdays at:	
オフィスアワー		
授業計画		担当者
第 1 回	Various Topics	Warner
第 2 回	Various Topics	Warner
第 3 回	Various Topics	Warner
第 4 回	Various Topics	Warner
第 5 回	Various Topics	Warner
第 6 回	Various Topics	Warner
第 7 回	Various Topics	Warner
第 8 回	Various Topics	Warner
第 9 回	Various Topics	Warner
第 1 0 回	Various Topics	Warner
第 1 1 回	Various Topics	Warner
第 1 2 回	Various Topics	Warner

第 1 3 回	Various Topics	Warner
第 1 4 回	Various Topics	Warner
第 1 5 回	Various Topics	Warner
第 1 6 回	Final EXAM. TEST	Warner
教科書		
教・書籍名 1	Speak Now 3	教・出版社名 1 Oxford University Press
教・著者名 1	Jack C Richards, David Bohlke	教・I S B N 1 ISBN-10: 0194030172 ISBN-13: 978-0194030175
教・書籍名 2		教・出版社名2
教・著者名2		教・I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	Easy Learning English Conversation Book 1	参・出版社名 1 Harpercollins Publishers
参・著者名 1		参・I S B N 1 ISBN-10: 9780008101749 ISBN-13: 978-0008101749
参・書籍名 2	Easy Learning English Conversation Book 2	参・出版社名2
参・著者名2	Harpercollins Publishers	参・I S B N 2 978-0-00-810175-6

授業科目名	英語オーラルコミュニケーション演習Ⅱ			担当者	イアン・ウォーナー		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-212		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	○	DP 6. 課題解決力	◎	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Theme: Improving student ability to participate effectively, creatively and confidently in authentic, real-life, everyday English language conversation, discussion and debate. Target: This course is intended to improve student English speaking ability. Students who enroll on this course will therefore receive progressively more advanced - and demanding / challenging - briefs, instruction. At the end of this course, students should: a) better able - and more willing - to communicate effectively in all 'real-life' situations; b) have more confidence regarding communicating effectively in all 'real-life' situations; Major emphasis will therefore - on a weekly basis - be placed on speaking for longer, extended periods of time (usually 5-20 minutes) about single assigned topics / issues, in order to foster greater levels of creativity, articulateness and expansiveness. This 'English Oral Communication Exercise II' course is intended primarily for students who have already completed the 'English Oral Communication Exercise I' course. Students who enroll on this 'English Oral Communication Exercise II' course will therefore receive more advanced and demanding / challenging briefs, instruction and advice compared to that given at the end of 'English Oral Communication Exercise I' course.						
授業概要	English Oral Communication Exercises II will give students 30 hours (not including homework assignments) in which to intensively consider and practice Oral Communication. Throughout each weekly lesson, students will do activities and receive instruction, training and advice intended to assist and guide them in their efforts to expand and enhance their English language speaking skills and articulateness. Students will have opportunity to i) practice and thereby improve existing key skills; ii) learn various new key and / or important skills; and iii) expand vocabulary knowledge in order to raise their overall ability to understand, enter into and maintain authentic, real-life, everyday English language conversation. Students will necessarily study numerous topics including pronunciation, intonation and diction etc, and be advised at every stage about how best to express themselves clearly, efficiently and confidently. As with English Oral Communication Exercises I, students will be required, helped and encouraged - on a systematic, weekly basis - to speak 'in detail' and 'comprehensively' in response to each and every OC question and prompt that their instructor a) gives them and b) tells them to self-select / create. Whenever necessary therefore, major emphasis will be placed on overcoming shyness, reticence and any other presently constraining						

	deficiencies / shortcomings that presently impede or prevent good oral communication competency. As stated above, English Oral Communication Exercises II speaking topics / prompts will generally be more advanced / complex and thus challenging compared to those employed in English Oral Communication Exercises I lessons. Also, much greater / major emphasis will be placed on the clear and thorough-going voicing of student personal opinion - vis-a-vis discussion and debate topics - in monologue, pair-working and small group formats (primarily monologue, in order to maximize each student's speaking time).
アクティブラーニングの内容	PBL／反転授業／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション
評価方法と割合	60% = Coursework (Including homework and mini-tests) 40% = Final 'Term' Test Exam. (Interview and / or monologue) [Students will be continuously appraised regarding coursework.] Coursework = Direct verbal instruction combined with use of worksheets, audio and video files, texts and photos, etc, often delivered and collected via CALL system and / or e-mail. Students should try to speak as much as possible, constantly think about 'what more' than can say / add, and give due consideration to pronunciation, vocabulary and syntax / sentence structure.
ルーブリック評価	
課題や試験のフィードバック方法	I communicate with - and provide feedback to - all students in the following ways. Firstly, I return marked, commented on and corrected (printed and / or digital) course-work and homework worksheets and question papers to students. Secondly, I provide students with Correct / Model Answer (printed and / or digital) handout documents. Thirdly, I brief students accordingly, in writing, as and when necessary, via KIU e-mail. Fourthly, I brief students, verbally, as and when necessary / whenever I deem it to be necessary or preferable before during and after lessons. In the case of student's Oral Communication / Speaking and Phonetics (pronouncing practice) sound-audio recordings (that are submitted to me via KIU e-mail) I supply detailed assessments as and when I think it necessary and likely to be beneficial i.e. read, comprehended, heeded / acted upon, and have a positive, rather than negative, effect / impact on the student(s) concerned. Fifthly, I additionally regularly encourage all students to liaise with me verbally, as much as possible, primarily, though not exclusively during lesson time, above all if / when they think that they do not fully or well enough understand a particular topic or technical point that has just been taught, is being taught currently, or seems to be directly or indirectly related / associated to what has been taught / is being taught. Finally, I also regularly encourage and urge all students to contact me via e-mail, Microsoft TEAMS, Microsoft Skype, LINE and / or Apple FaceTime and to - especially - to physically visit my office, as and whenever they see fit / think best and want to.
	This course will be conducted solely in English. Students should prepare BEFORE each lesson but not worry if they don't immediately understand things and / or make mistakes. Not understanding and making mistakes are natural and central to learning. Learning how to do things well and / or correctly requires us to discover and remember what to do and what not to do. If students are able to understand and master lesson materials and activities immediately with little or no effort, those lesson materials and activities are simply too easy and less than optimally educational. Student learning goals and thus learning materials and activities must not be too easy or too difficult. They must be appropriate.

履修条件・注意事項	Students should be mature, adequately / sufficiently interested and engaged, and 'PROACTIVE' at all times, and therefore: 01) be - and remain - alert, focussed and highly motivated throughout each and every lesson; 02) come to each lesson ready and eager to speak / communicate with their teacher and classmates in English; 03) come to each lesson ready and eager to listen to their teacher(s) and classmates in English; 04) try to fully understand - and successfully master - all the main topics and activities mentioned in lesson time, especially those that the teacher tells them are important and / or likely to be tested in (end-of-term) examinations; 05) study (relevant) textbook pages and all teacher-distributed materials, before during and after each lesson, thoroughly and as much and frequently as possible; 06) be ready and eager to speak English in front of their classmates at least once during each lesson, ideally and / or often at some length; 07) be ready and eager to make more formal oral presentations in front of their teacher and classmates, in English; 08) come to each lesson ready and eager to write / type as required, in English; 09) try hard to communicate in English clearly, logically and expansively; 10) bring all required textbooks, log-in codes and dictionaries etc to each lesson; 11) study (relevant) textbook pages - and all teacher-distributed materials - as much as possible before, during and after each lesson; 12) strive to finish / complete and submit all required classroom and homework assignments properly, thoroughly, correctly and sufficiently well and 'on time', before specified deadlines; 13) finish / submit all required classroom and homework assignments 'on time', before specified deadlines; 14) aim to fully understand - and 'master' - everything that their teacher tells them, especially those things that they are told they will likely to be tested on during (end-of-term) examinations, etc; 15) REGULARLY discuss text-book and lesson content with their teacher face-to-face and / or by e-mail; 16) communicate with - and request help from - their teacher frequently, especially when they don't understand a lesson-related topic and require assistance; 17) try to maximize the amount of time that they practice English language Listening, Speaking and Oral Communication (OC) with their teacher and one another; 18) tell the teacher immediately if they think that any textbook or lesson-related activity is / was too easy or difficult; 19) communicate with their teacher frequently, especially if they feel confused about a lesson-related topic; 20) request help from their teacher whenever they think that they would benefit from such; 21) generally try to maximize the amount of time that they practice English language oral communication with their teacher and one another; 22) use the internet only for valid, course-work related purposes during each lesson and NOT use smartphones during lesson times. 23) do an adequate / sufficient amount of revision prior to all tests and - above all - the final, end-of-term exam.
	I am a native (British) English speaker with a London accent that is close to Received Pronunciation (RP). I have travelled widely in western Europe and Japan. I was a full-

実務経験のある教員	該当する	内容	time Assistant Language Teacher / Instructor (ALT) at numerous elementary, junior and especially senior high schools (throughout Chiba Prefecture) from 07/2003 until 03/2014.
事前学習・事後学習とその時間	In addition to completing all homework assignments , students SHOULD: a) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials regularly and frequently; b) Study the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials 'as much as possible'; c) Try to expand vocabulary knowledge very regularly and as much as possible; d) Listen to appropriate English listening materials very regularly and as much as possible; e) READ appropriate English reading materials very regularly and as much as possible; f) SPEAK English very regularly and as much as possible with teachers, classmates and other people, no matter what their first language is; g) Practice WRITING English sentences with pen, pencil or PC very regularly and as much as possible; The more time students spend studying the textbook(s) and / or all teacher-distributed materials, the better. Students SHOULD aim to fully understand - and 'master' - all topics that their teacher tells them are important / and or likely to be tested on during (end-of-term) examinations. Students can and should ask the teacher to recommend additional textbooks and materials at any time.		
オフィスアワー	In Ian Warner's office - Room 133 Mondays - N/A Tuesdays - 3, 4, 5, 6 Wednesdays - 3, 4, 5, 6 Thursdays - 1, 2, 3, 4, 5, 6 Fridays - Periods 1, 2, 3, 4, 5, 6 * = Unless at staff meetings Students can also e-mail Ian WARNER at any time: warner@kiui.ac.jp Lunch-time meetings - and meetings after 6:20pm - are also possible.		
授業計画			担当者
第 1 回	Various Topics		Warner
第 2 回	Various Topics		Warner
第 3 回	Various Topics		Warner
第 4 回	Various Topics		Warner
第 5 回	Various Topics		Warner
第 6 回	Various Topics		Warner
第 7 回	Various Topics		Warner
第 8 回	Various Topics		Warner
第 9 回	Various Topics		Warner
第 1 0 回	Various Topics		Warner
第 1 1 回	Various Topics		Warner
第 1 2 回	Various Topics		Warner
第 1 3 回	Various Topics		Warner

第 1 4 回	Various Topics	Warner
第 1 5 回	Various Topics	Warner
第 1 6 回	Final EXAM. TEST	Warner
教科書		
教・書籍名 1	Speak Now 3	教・出版社名 1 Oxford University Press
教・著者名 1	Jack C Richards, David Bohlke	教・I S B N 1 ISBN-10: 0194030172 ISBN-13: 978-0194030175
教・書籍名 2		教・出版社名2
教・著者名2		教・I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	Easy Learning English Conversation Book 1	参・出版社名 1 Harpercollins Publishers
参・著者名 1		参・I S B N 1 ISBN-10: 9780008101749 ISBN-13: 978-0008101749
参・書籍名 2	Easy Learning English Conversation Book 2	参・出版社名2 Harpercollins Publishers
参・著者名2		参・I S B N 2 978-0-00-810175-6

授業科目名	ディスカッション英語 (Bクラス)			担当者	ジョン・フォーセット		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-214		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	△	DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	1 貧困をなくそう／2 飢餓をゼロに／3 すべての人に健康と福祉を／4 質の高い教育をみんなに／5 ジェンダー平等を実現しよう／10 人や国の不平等をなくそう／13 気候変動に具体的な対策を／16 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	社会問題等の物事について意見交換と説明ができる英語表現力を身につける。						
授業概要	授業の前半、学生が少人数グループでヨーロッパの有名な人物の人生とその背景について調べる。その後「日本のチャーチル」は例えば誰でしょうなどの具体的な議論を行うことで、ディスカッションを深める。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	定期試験の成績（40％）、予習・レポート・プレゼン・授業姿勢（60％）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	Whole-class and individual on-the-spot feedback will be provided verbally.						
履修条件・注意事項	積極参加を重視します。The teacher will speak 100% native English!						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	語彙練習をしっかりと取り込むこと。						
オフィスアワー	1700~1800~ generally evenings are best, in room 134, except for Friday when I sometimes go home earlier or am working off campus						
授業計画						担当者	
第1回	コース紹介など					Fawsitt	
第2回	ウインストン・チャーチル					Fawsitt	
第3回	ミハエル・ゴルバチョフ					Fawsitt	
第4回	ロバート・キャパ					Fawsitt	
第5回	アンネ・フランク					Fawsitt	
第6回	ジークムント・フロイト					Fawsitt	
第7回	アルベルト・アインシュタイン					Fawsitt	
第8回	フランツ・カフカ					Fawsitt	
第9回	パブロ・ピカソ					Fawsitt	
第10回	ココ・シャネル					Fawsitt	
第11回	ジョン・レノン					Fawsitt	
第12回	チャールズ・チャプリン					Fawsitt	
第13回	J・K・ローリング					Fawsitt	
第14回	オードリー・ヘップバーン					Fawsitt	
第15回	プレゼン「私のアイコン」					Fawsitt	
第16回	定期試験					Fawsitt	
教科書							
教・書籍名1	European Icons				教・出版社名1	山口書店	
教・著者名1	Eric Gerwehr / Yugo Tada				教・ISBN1	978-4-8411-1464-5 C7082	
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		
参考書							

参・書籍名 1	授業中に適宜資料を配付する	参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	ディスカッション英語（Aクラス）			担当者	ジョン・フォーセット		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-214		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	○	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	◎
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP6. 課題解決力	○	DP7. 自己効力感	△	DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／10. 人や国の不平等をなくそう／13. 気候変動に具体的な対策を／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	社会問題等の物事について意見交換と説明ができる英語表現力を身につける。						
授業概要	授業の前半、学生が少人数グループでヨーロッパの有名な人物の人生とその背景ついて調べる。その後「日本のチャーチル」は例えば誰でしょうなどの具体的な議論を行うことで、ディスカッションを深める。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	定期試験の成績（40％）、予習・レポート・プレゼン・授業姿勢（60％）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	Whole-class and individual on-the-spot feedback will be provided verbally.						
履修条件・注意事項	積極参加を重視します。The teacher will speak 100% native English!						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	語彙練習をしっかりと取り込むこと。						
オフィスアワー	1700~1800~ generally evenings are best, in room 134, except for Friday when I sometimes go home earlier or am working off campus						
授業計画						担当者	
第1回	コース紹介など						Fawsitt
第2回	ウインストン・チャーチル						Fawsitt
第3回	ミハエル・ゴルバチョフ						Fawsitt
第4回	ロバート・キャバ						Fawsitt
第5回	アンネ・フランク						Fawsitt
第6回	ジークムント・フロイト						Fawsitt
第7回	アルベルト・アインシュタイン						Fawsitt
第8回	フランツ・カフカ						Fawsitt
第9回	パブロ・ピカソ						Fawsitt
第10回	ココ・シャネル						Fawsitt
第11回	ジョン・レノン						Fawsitt
第12回	チャールズ・チャプリン						Fawsitt
第13回	J・K・ローリング						Fawsitt
第14回	オードリー・ヘップバーン						Fawsitt
第15回	プレゼン「私のアイコン」						Fawsitt
第16回	定期試験						Fawsitt
教科書							
教・書籍名1	European Icons					教・出版社名1	山口書店
教・著者名1	Eric Gerwehr / Yugo Tada					教・ISBN1	978-4-8411-1464-5 C7082
教・書籍名2						教・出版社名2	
教・著者名2						教・ISBN2	
参考書							

参・書籍名 1	授業中に適宜資料を配付する	参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	インテグレイテッド・イングリッシュⅡ			担当者	ジョン・フォーセット		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-304		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3. 主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	◎
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／6. 安全な水とトイレを世界中に／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／13. 気候変動に具体的な対策を／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	For students to actively use many forms and sources of input to develop their ability to communicate their goals and values in their professional and personal lives. Students will develop further awareness of global trends and issues.						
授業概要	In class, students will gather information about topics from many English sources and practice speaking about them with partners and in groups. They will also be asked to write reports on the topics they have discussed.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／ディベート／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	定期試験の成績（40％）、予習・レポート・プレゼン・授業姿勢（60％）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	Written work will be returned with comments and advice. Oral work will be given direct feedback in the class, usually to the whole class.						
履修条件・注意事項	As far as possible the class will be used for practice and preparation. Completion will be then done outside class, and final production or presentation at the beginning of the next class. Students will be expected to manage their own learning as far as possible. For example they must be ready create and edit their own vocabulary lists. Students will use different language materials according to their needs. The teacher will speak 100% native English!						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	Each week homework will be assigned once this is completed the next most important item will be student's vocabulary lists. It is important to schedule times every day for study and practice. Making a vocabulary learning system that you like and that helps you learn as fast as possible is very important.						
オフィスアワー	17:00-18:00 on weekdays except Friday.						
授業計画						担当者	
第1回	Introduction and orientation					フォーセット	
第2回	Global population trends					フォーセット	
第3回	Fossil fuels					フォーセット	
第4回	Global heating					フォーセット	
第5回	Plastic					フォーセット	
第6回	Cars and the future					フォーセット	
第7回	Science and agriculture					フォーセット	
第8回	Water					フォーセット	
第9回	Migration					フォーセット	
第10回	Conflict patterns					フォーセット	
第11回	Robots					フォーセット	
第12回	Ageing societies					フォーセット	
第13回	Renewable energy					フォーセット	

第 1 4 回	The future I (presentation)	フォーセット	
第 1 5 回	The future II (presentation)	フォーセット	
第 1 6 回	Term exam	フォーセット	
教科書			
教・書籍名 1	Students will access materials online and receive handouts and audio-visual materials in class.	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	ビジネス英語Ⅱ			担当者	金沢 真弓		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-306		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
D P 1. 知識・技能	◎	D P 2. 情報の活用	◎	D P 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	D P 4. コミュニケーション・表現力	◎
D P 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	D P 6. 課題解決力	○	D P 7. 自己効力感	◎	D P 8. 学科項目	◎
S D G s 関連項目	17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	To learn about the business world and see how key language is used in real contexts Be familiar with key business concepts and developments, and to understand how business works in different cultures. To understand vocabulary and expressions in various business situation. To develop speaking fluency and listening comprehension.						
授業概要	This course introduces a practical approach to help you develop important business skills: presentations, attending meetings, telephoning, negotiating and socialising. There are practical speaking tasks and listening activities, which provide a model of key language to develop your language skills. you will practice writing: messages and notes, emails, memos, letters and short reports. Also, some some articles from the newspaper and magazines will be provided, which will help you to find out how other cultures approach business situations.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	1. Final Examination (40%) 2. Mid-term examination (30%) 3. Vocabulary Quiz (30%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	Weekly quiz is checked and explanation is provided.						
履修条件・注意事項	This course is conducted in English and Japanese. Students are expected to participate actively in every class. Changes in the lesson plan may occur depending on progress						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	Study vocabulary beforehand. Review and preview are necessary.						
オフィスアワー	Tuesday 13:30-15:00						
授業計画						担当者	
第1回	Corse guidance Introduction of Business English					金沢真弓	
第2回	Explaining your job					金沢真弓	
第3回	Checking information					金沢真弓	
第4回	Being polite					金沢真弓	
第5回	Describing products					金沢真弓	
第6回	Telling a story					金沢真弓	
第7回	Making predictions					金沢真弓	
第8回	Making an appointment					金沢真弓	
第9回	Explaining what to do					金沢真弓	

第 1 0 回	Making suggestions	金沢真弓
第 1 1 回	Describing a graph	金沢真弓
第 1 2 回	Expressing arguments	金沢真弓
第 1 3 回	Dealing with problems	金沢真弓
第 1 4 回	Managing time	金沢真弓
第 1 5 回	Finding creative solutions	金沢真弓
第 1 6 回	Final test	金沢真弓
教科書		
教・書籍名 1	Intelligent Business Pre-Intermediate	教・出版社名 1 Pearson
教・著者名 1	Christine Johonson	教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名2
参・著者名2		参・ I S B N 2

授業科目名	TOEICストラテジーⅠ（Aクラス）				担当者	金沢 真弓			
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国1年				ナンバリング	FS-FS-1-307			
必修・選択	選択	単位数	2単位		時間数	30		授業形態	演習
年次	1年		開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜4限	
ディプロマポリシー対応項目									
DP1. 知識・技能	◎	DP2. 情報の活用	◎	DP3.主体的な学びと論理的な思考		○	DP4. コミュニケーション・表現力		△
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP6. 課題解決力	△	DP7. 自己効力感		◎	DP8. 学科項目		◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 								
到達目標	テーマ：英語力の向上とTOEICの問題の解き方に精通する 到達目標：TOEIC400 - 500								
授業概要	TOEIC問題形式を使い、パート別に問題形式に慣れることから始める。問題の特徴とその解き方を学び、練習問題を重ねていく。テストに出る頻出単語や英語表現を学習し、シャドーイングなどでリスニングのスキルアップ、速読の練習などを行う。								
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）								
評価方法と割合	定期試験（50％）、中間テスト（30％）、小テスト（20％）								
ルーブリック評価									
課題や試験のフィードバック方法	小テストは、毎週実施し回答を提示する。								
履修条件・注意事項	学内実施のTOEIC IP受験 CALLシステム活用								
実務経験のある教員	該当しない	内容							
事前学習・事後学習とその時間	テキストの音読、単語の学習								
オフィスアワー	木曜日3時限目(13:30-15:00)								
授業計画								担当者	
第1回	リスニングー写真の描写 リーディングー表・用紙							金沢真弓	
第2回	リスニングー疑問文 リーディングー広告							金沢真弓	
第3回	リスニングー日常場面での会話 リーディングー品詞							金沢真弓	
第4回	リスニングーアナウンス リーディングー動詞							金沢真弓	
第5回	リスニングー物の状態と位置 リーディングーチャット							金沢真弓	
第6回	リスニングー基本構文 リーディングー手紙							金沢真弓	
第7回	リスニングー電話での会話 リーディングー代名詞・関係代名詞							金沢真弓	
第8回	中間テスト							金沢真弓	
第9回	リスニングーラジオ放送 リーディングー接続し・前置詞							金沢真弓	
第10回	リスニングーYES・NO 疑問文 リーディングーダブルパッセージ							金沢真弓	
第11回	リスニングーオフィスでの会話 リーディングー復習							金沢真弓	

第 1 2 回	リスニングー留守番電話 リーディングートリプルパッセージ	金沢真弓	
第 1 3 回	リスニングーオフィスでの会話 リーディングー長文読解	金沢真弓	
第 1 4 回	リスニングーPart 1、2 の復讐 リーディングー時制・代名詞・語彙問題	金沢真弓	
第 1 5 回	リスニングートーク、スピーチの一部 リーディングーつながりことば、分の挿入	金沢真弓	
第 1 6 回	学期末試験	金沢真弓	
教科書			
教・書籍名 1	Mastery Drills for The TOEIC L&R Test All in One	教・出版社名 1	桐原書店
教・著者名 1	早川幸治	教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	TOEICストラテジーⅠ（Ｂクラス）				担当者	金沢 真弓			
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国1年				ナンバリング	FS-FS-1-307			
必修・選択	選択	単位数	2単位		時間数	30		授業形態	演習
年次	1年		開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜1限	
ディプロマポリシー対応項目									
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3.主体的な学びと論理的な思考		○	DP 4. コミュニケーション・表現力		△
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	△	DP 6. 課題解決力	△	DP 7. 自己効力感		◎	DP 8. 学科項目		◎
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 								
到達目標	テーマ：英語力の向上とTOEICの問題の解き方に精通する 到達目標：TOEIC400 - 500								
授業概要	TOEIC問題形式を使い、パート別に問題形式に慣れることから始める。問題の特徴とその解き方を学び、練習問題を重ねていく。テストに出る頻出単語や英語表現を学習し、シャドーイングなどでリスニングのスキルアップ、速読の練習などを行う。								
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）								
評価方法と割合	定期試験（50％）、中間テスト（30％）、小テスト（20％）								
ルーブリック評価									
課題や試験のフィードバック方法	小テストは、毎週実施し回答を提示する。								
履修条件・注意事項	学内実施のTOEIC IP受験 CALLシステム活用								
実務経験のある教員	該当しない	内容							
事前学習・事後学習とその時間	テキストの音読、単語の学習								
オフィスアワー	木曜日3時限目(13:30-15:00)								
授業計画								担当者	
第1回	リスニングー写真の描写 リーディングー表・用紙							金沢真弓	
第2回	リスニングー疑問文 リーディングー広告							金沢真弓	
第3回	リスニングー日常場面での会話 リーディングー品詞							金沢真弓	
第4回	リスニングーアナウンス リーディングー動詞							金沢真弓	
第5回	リスニングー物の状態と位置 リーディングーチャット							金沢真弓	
第6回	リスニングー基本構文 リーディングー手紙							金沢真弓	
第7回	リスニングー電話での会話 リーディングー代名詞・関係代名詞							金沢真弓	
第8回	中間テスト							金沢真弓	
第9回	リスニングーラジオ放送 リーディングー接続し・前置詞							金沢真弓	
第10回	リスニングーYES・NO 疑問文 リーディングーダブルパッセージ							金沢真弓	
第11回	リスニングーオフィスでの会話 リーディングー復習							金沢真弓	

第 1 2 回	リスニングー留守番電話 リーディングートリプルパッセージ	金沢真弓	
第 1 3 回	リスニングーオフィスでの会話 リーディングー長文読解	金沢真弓	
第 1 4 回	リスニングーPart 1、2 の復讐 リーディングー時制・代名詞・語彙問題	金沢真弓	
第 1 5 回	リスニングートーク、スピーチの一部 リーディングーつながりことば、分の挿入	金沢真弓	
第 1 6 回	学期末試験	金沢真弓	
教科書			
教・書籍名 1	Mastery Drills for The TOEIC L&R Test All in One	教・出版社名 1	桐原書店
教・著者名 1	早川幸治	教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	リサーチ・スキルズ			担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-310		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・AL
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Theme: research methods and methodology Goals: The students will acquire the basic knowledge about various research methods and methodology in order to conduct research by themselves.						
授業概要	This course introduces various alternatives for conducting research by studying distinctive features with respective research methods and methodology. This course will help the students to learn how different world views as methodological basis affect selection of specific method(s) in research activities.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	Participation in discussion 20%, presentations 35%, and final test (written exam) 45%.						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等については、授業およびメール等によってフィードバックする。						
履修条件・注意事項	履修条件：授業は英語のみで行い日本語は用いない。日本人学生についてはTOEICスコア650以上または同等の英語力が最低限の語学要件であるので留意すること。Instruction language is only English (no Japanese). TOEIC score 650 or equivalent English proficiency is the minimum requirement for prospective students.						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、授業内容に沿って課題を課す。 Preparation for class sessions (30 hours) and following-up studies (30 hours) after class sessions are required. At each class session home assignments will be delivered to students.						
オフィスアワー	13:30-15:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
授業計画						担当者	
第1回	introduction					Merviö	
第2回	variations of research methods					Merviö	
第3回	qualitative research					Merviö	
第4回	interview and interviewees					Merviö	
第5回	text analysis					Merviö	
第6回	discourse analysis					Merviö	
第7回	interpretations and analysis					Merviö	
第8回	quantitative research					Merviö	
第9回	questionnaires					Merviö	
第10回	statistical interpretations					Merviö	
第11回	what is methodology?					Merviö	
第12回	our worldview(s)					Merviö	
第13回	research question(s)					Merviö	
第14回	reflective research					Merviö	
第15回	concluding discussion					Merviö	
第16回	final test					Merviö	

教科書			
教・書籍名 1	Research Design: Qualitative, Quantitative, and Mixed Methods Approaches	教・出版社名 1	SAGE Publications
教・著者名 1	Creswell, John W. & Creswell, J. David	教・I S B N 1	978-1506386768
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	How to Write a Research Proposal and Thesis: A Manual for Students and Researchers	参・出版社名 1	Createspace Independent Publishing
参・著者名 1	Hamid, Mohamed E.	参・I S B N 1	978-1482675054
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	専門英語Ⅲ			担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国4年			ナンバリング	FS-FS-4-313		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	exercises
年次	4年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	集中講義
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	The goal is to boost our professional communicative ability as much as possible. This class will focus on academic English and enhance the students' understanding on how it is used especially in social sciences and humanities. The students will improve the academic skills of reading and writing and will become able to express their ideas and opinions in intellectual manners.						
授業概要	A broad variety of texts is used as source material to motivate the students to think about various interesting issues and phenomena and by doing so to develop their own ideas that they can express in their own writing and presentations. After introducing a broad selection of texts/materials in class the students need to study and learn to use richer and vocabulary to express their own ideas about the topics of class work.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	Participation to class activities 15% Coursework 55% Final exam/presentation 30%						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等については、授業やメール等でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	授業は英語のみで行い日本語は用いない。TOEIC650以上または同等の英語力が最低限の履修条件である。 The instruction language is only English (no Japanese). TOEIC600 or equivalent English proficiency is the minimum requirement for prospective students.						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、授業内容に沿って課題を課す。 Preparation for class sessions (30 hours) and following-up studies (30 hours) after class sessions are required. At each class session home assignments will be delivered to students.						
オフィスアワー	11:30-13:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
授業計画						担当者	
第1回	1. Introduction (discussion about the course objectives)						Merviö
第2回	2. Theory and philosophy as the foundation of academic learning and academic language						Merviö
第3回	3. Narratives and traditions. Is history an art of a science or something else?						Merviö
第4回	4. Discourses of art history. Language and visual arts.						Merviö
第5回	5. Textual interpretation						Merviö
第6回	6. Discourses of culture and cultural history						Merviö
第7回	7. Discourses of language and multiculturalism						Merviö
第8回	8. Discourses of ethnicity						Merviö
第9回	9. Discourses of ideology						Merviö

第 1 0 回	10. Discourses of international relations	Merviö
第 1 1 回	11. Discourses of ethics, morality and religion	Merviö
第 1 2 回	12. Discourses of human rights	Merviö
第 1 3 回	13. Discourses of gender	Merviö
第 1 4 回	14. Discourses of environment and environmental issues	Merviö
第 1 5 回	15. Discourses of environmental history	Merviö
第 1 6 回	final test	Merviö

教科書

教・書籍名 1	Mostly online materials and printed handouts will be used.	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1	Information and materials will be provided in class.	参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	専門英語Ⅳ			担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国4年			ナンバリング	FS-FS-4-314		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	exercises
年次	4年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	The goal is to boost our professional communicative ability as much as possible. This class will focus on academic English and enhance the students' understanding on how it is used especially in social sciences and humanities. The students will improve the academic skills of reading and writing and will become able to express their ideas and opinions in intellectual manners.						
授業概要	A broad variety of texts is used as source material to motivate the students to think about various interesting issues and phenomena and by doing so to develop their own ideas that they can express in their own writing and presentations. After introducing a broad selection of texts/materials in class the students need to study and learn to use richer and vocabulary to express their own ideas about the topics of class work.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	Participation to class activities 15% Coursework 55% Final exam/presentation 30%						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等については、授業やメール等でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	授業は英語のみで行い日本語は用いない。TOEIC650以上または同等の英語力が最低限の履修条件である。 The instruction language is only English (no Japanese). TOEIC650 or equivalent English proficiency is the minimum requirement for prospective students.						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、授業内容に沿って課題を課す。 Preparation for class sessions (30 hours) and following-up studies (30 hours) after class sessions are required. At each class session home assignments will be delivered to students.						
オフィスアワー	11:30-13:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
授業計画						担当者	
第1回	1. Introduction (discussion about the course objectives)						Merviö
第2回	2. Theory and philosophy as the foundation of academic learning and academic language						Merviö
第3回	3. Narratives and traditions. Is history an art of a science or something else?						Merviö
第4回	4. Discourses of art history. Language and visual arts.						Merviö
第5回	5. Textual interpretation						Merviö
第6回	6. Discourses of culture and cultural history						Merviö
第7回	7. Discourses of language and multiculturalism						Merviö
第8回	8. Discourses of ethnicity						Merviö
第9回	9. Discourses of ideology						Merviö

第 1 0 回	10. Discourses of international relations	Merviö
第 1 1 回	11. Discourses of ethics, morality and religion	Merviö
第 1 2 回	12. Discourses of human rights	Merviö
第 1 3 回	13. Discourses of gender	Merviö
第 1 4 回	14. Discourses of environment and environmental issues	Merviö
第 1 5 回	15. Discourses of environmental history	Merviö
第 1 6 回	final test	Merviö

教科書

教・書籍名 1	Mostly online materials and printed handouts will be used.	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1	Information and materials will be provided in class.	参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	日本文化論			担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-401		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義 lecture
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
D P 1. 知識・技能	◎	D P 2. 情報の活用		D P 3.主体的な学びと論理的な思考	○	D P 4. コミュニケーション・表現力	
D P 5. グローバルな視野と地域貢献活動		D P 6. 課題解決力		D P 7. 自己効力感		D P 8. 学科項目	
S D G s 関連項目	1 6. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Goals and Theme Goals : One of the main goals of this class is to explore various interpretations on Japanese culture and traditions under globalization. By studying the academic research literature and intellectual discourse on Japanese culture, students will be able to become familiar with theoretical frameworks for making sense of cultural interpretations on identities and traditions in the contemporary world. Theme : Japanese culture and traditions in the precarious world.						
授業概要	Course Outline The course consists of three units: (1) academic discourse on cultural identities, (2) theories on culture and traditions, and (3) contemporary research on Japanese culture. Students will read several academic articles and/or book chapters, participate into discussions, write short essays, and give presentations.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	participation to class activities (25%), mid-term presentation (35%), final test (final presentation 40%).						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等については、授業においてフィードバックする。						
履修条件・注意事項	講義は英語のみで行い日本語は用いない。TOEIC650以上または同等の英語力が最低限の履修条件である。 The instruction language is only English (no Japanese). OEIC score 650 or equivalent English proficiency is the minimum requirement for prospective students.						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、授業内容に沿って課題を課す。 Preparation for class sessions (30 hours) and following-up studies (30 hours) after class sessions are required. At each class session home assignments will be delivered to students.						
オフィスアワー	11:30-13:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
授業計画						担当者	
第1回	Introduction: What is culture?					Merviö	
第2回	Japanese Studies and Japanology					Merviö	
第3回	Orientalism					Merviö	
第4回	Ethnicity					Merviö	
第5回	Identities					Merviö	
第6回	Otherness - we and they					Merviö	
第7回	Change and continuity					Merviö	

第 8 回	“High culture” in Japan	Merviö
第 9 回	Japanese popular culture	Merviö
第 1 0 回	Cultural traditions	Merviö
第 1 1 回	Cultural hybridity	Merviö
第 1 2 回	Multilayered perspectives	Merviö
第 1 3 回	Japanese youth	Merviö
第 1 4 回	Children and family in Japan	Merviö
第 1 5 回	Concluding discussion	Merviö
第 1 6 回	final test	Merviö

教科書

教・書籍名 1	Introduction to Japanese Culture	教・出版社名 1	Tuttle Publishing
教・著者名 1	Sosnoski, Daniel	教・ I S B N 1	978-4805313138
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1	An Introduction to Japanese Society, 4th edition, 2014	参・出版社名 1	Cambridge University Press.
参・著者名 1	Sugimoto, Yoshio	参・ I S B N 1	978-1107626676
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	国際関係論Ⅰ			担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス		
配当学科・研究科	2018～2021年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-403		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義 lecture
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Theme : Interdisciplinary approaches to international relations. Course goals: This course aims to analyze those global social issues that influence us in various aspects. In order to understand the dynamics of consequences of globalization students will learn such interdisciplinary approaches with social scientific orientation. Students will be able to broaden their world views to multilayered structure of international relations.						
授業概要	Course Outline The course examines different theoretical frameworks that are useful for understanding international relations. It will be discussed how human societies have been coping with different challenges of globalization at various levels and actors in international relations. Each class session will encourage students to develop their “critical thinking”.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	participation to class activities (25%), mid-term presentation (35%), final presentation (40%)						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等については、授業やメール等でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	講義は英語のみで行い日本語は用いない。TOEIC650以上または同等の英語力が最低限の履修条件である。 The instruction language is only English (no Japanese). TOEIC650 or equivalent English proficiency is the minimum requirement for prospective students.						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、授業内容に沿って課題を課す。 Preparation for class sessions (30 hours) and following-up studies (30 hours) after class sessions are required. At each class session home assignments will be delivered to students.						
オフィスアワー	11:30-13:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
授業計画						担当者	
第1回	Globalizing world					Merviö	
第2回	Defining globalization					Merviö	
第3回	Natural disasters and humans					Merviö	
第4回	Social and cultural minorities					Merviö	
第5回	Vulnerability and social risks					Merviö	
第6回	Social justice					Merviö	
第7回	Our life under globalization					Merviö	
第8回	Mid-term in class debates					Merviö	
第9回	International communities					Merviö	
第10回	Global social issues					Merviö	
第11回	Human well-being					Merviö	

第 1 2 回	Health issues	Merviö
第 1 3 回	Information technology	Merviö
第 1 4 回	World "with Covid-19"	Merviö
第 1 5 回	Concluding discussion	Merviö
第 1 6 回	final test	Merviö
教科書		
教・書籍名 1	Global Inequality: A New Approach for the Age of Globalization	教・出版社名 1 Belknap Press: An Imprint of Harvard University Press
教・著者名 1	Milanovic, Branko	教・I S B N 1 978-0674737136
教・書籍名 2		教・出版社名2
教・著者名2		教・I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	Introduction to International Relations: Theories and Approaches, 2013 (5th edition)	参・出版社名 1 Oxford University Press
参・著者名 1	Jackson, Robert & Sorensen, Georg	参・I S B N 1 978-0198707554
参・書籍名 2		参・出版社名2
参・著者名2		参・I S B N 2

授業科目名	地球環境論			担当者	メルヴィオ、ミカ・マルクス		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-406		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義 lecture
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Goals and Theme Goals : The students will acquire a broad overview to academic discourses, debates, and research approaches related to social sciences-oriented environmental studies. The students will discuss how global environmental issues have been studied in social sciences. The interdisciplinary nature of environmental studies will be addressed by discussing the links with natural sciences and other relevant approaches. Theme : theoretical analysis of environmental studies						
授業概要	Course Outline This course demonstrates that global environmental issues are manifested in different modes in different societies. The global environmental issues will be studied with comparative perspectives and with emphasis on nature protection and conservation.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	Participation in discussion 20%, presentations 35%, and final test (written exam) 45%.						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	評価のために実施した課題等については、授業およびメール等によってフィードバックする。						
履修条件・注意事項	履修条件：授業は英語のみで行い日本語は用いない。日本人学生についてはTOEICスコア650以上または同等の英語力が最低限の語学要件であるので留意すること。 Instruction language is only English (no Japanese). TOEIC score 650 or equivalent English proficiency is the minimum requirement for prospective students.						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	受講生の予習（30時間）と復習（30時間）のために、授業内容に沿って課題を課す。 Preparation for class sessions (30 hours) and following-up studies (30 hours) after class sessions are required. At each class session home assignments will be delivered to students.						
オフィスアワー	13:30-15:00 Fridays (Office 201, Okayama Campus).						
授業計画						担当者	
第1回	introduction					Merviö	
第2回	environmental issues and studies					Merviö	
第3回	environmental issues in Europe					Merviö	
第4回	ecology in Europe					Merviö	
第5回	The EU environmental policy					Merviö	
第6回	environmental issues in USA					Merviö	
第7回	environmental issues in Canada					Merviö	
第8回	environmental issues in Asia					Merviö	

第 9 回	reflexive modernisation		Merviö
第 1 0 回	global warming		Merviö
第 1 1 回	theories of ecology		Merviö
第 1 2 回	avian fauna and humans		Merviö
第 1 3 回	theories of governance		Merviö
第 1 4 回	environmental governance		Merviö
第 1 5 回	concluding discussion		Merviö
第 1 6 回	final test		Merviö
教科書			
教・書籍名 1	Earth Democracy: Justice, Sustainability, and Peace	教・出版社名 1	North Atlantic Books
教・著者名 1	Shiva, Vandana	教・I S B N 1	978-1623170417
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	Globalisation and the Quest for Social and Environmental Justice: The Relevance of International Law in an Evolving World Order	参・出版社名 1	Routledge
参・著者名 1	Alam, Shawkat ほか	参・I S B N 1	978-0415813181
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・I S B N 2	

授業科目名	多文化教育論			担当者	秀 真一郎		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-407		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／10. 人や国の不平等をなくそう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	Goals : This course focuses on the meanings of Multicultural Education for children. It is more popular to meet multicultural situation in Japan. That means we need to think about the similarities and differences between our culture and others. We will find this course the knowledge of Multicultural Education and how important to provide Multicultural Education to children. Theme : Multicultural understandings and Educational effects for children						
授業概要	The American multicultural situation would be very helpful to understand it. Therefore, we will meet multicultural education in American school situations, and study the meaning of multicultural education. Then, we will think how we should understand multicultural education in Japan through activities and group discussion.						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	Semester final examination : 40%, Presentation: 40%, Participation : 20%						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	In each practice, I will give evaluation feedback to your contents. Therefore, you would better take it for your understanding.						
履修条件・注意事項	Students will be encouraged to communicate in English, take a positive attitude. Be free to speak out what you think in a lecture's topic. Students will meet many different thoughts, so take them into yourself and know what is your thoughts.						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	Students will need not only knowledge but also theory about your own Multicultural Education. Before taking each lesson, students will need study and understand the topic. After a lesson, students will need to take back what the lecture' main point is, and understand what you got and didn't get. Before and after lessons, it would take 2hours each for understanding contents.						
オフィスアワー	30 minutes before each lecture, and 30 minutes after each lecture.						
授業計画						担当者	
第1回	Course introduction (What is the Culture?)					Hide	
第2回	Goals and Misconceptions					Hide	
第3回	Citizenship Education and Diversity in a Global Age					Hide	
第4回	Dimensions and School Characteristics					Hide	
第5回	Curriculum Transformation					Hide	
第6回	Knowledge Construction and Curriculum Reform					Hide	
第7回	Knowledge Components					Hide	
第8回	Teaching with Powerful Ideas					Hide	
第9回	School Reform and Intergroup Education					Hide	
第10回	Multicultural Benchmarks					Hide	
第11回	Practice: Comparing New Year's ceremony in different countries					Hide	
第12回	Practice: National Flag					Hide	

第 1 3 回	Practice: Language differences	Hide
第 1 4 回	Practice: Multicultural Education Evaluation Checklist	Hide
第 1 5 回	Conclusion: What does Multicultural Education mean for children?	Hide
第 1 6 回	Final exam	Hide
教科書		
教・書籍名 1	Give handouts appropriately	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名2
教・著者名2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	An Introduction to Multicultural Education 5th edition	参・出版社名 1
参・著者名 1	James A. Banks	参・ I S B N 1
参・書籍名 2	Lessons from Abroad: How Other Countries Educate Their Children	参・出版社名2
参・著者名2	Richard P. McAdams	参・ I S B N 2

授業科目名	人間行動研究			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国4年			ナンバリング	FS-FS-4-408		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	人間はいつも同じ事をしているわけではなく、行動は変化し発達する。ヒトの行動はその周囲の状況と深く関わっている。人間と環境の出会いに創発する行動という出来事を追うためには、周囲を含めて人間のふるまいをとらえる観察が必要となる。本演習では近年の行動科学、認知科学の知見を概観的に学ぶ。その上で、グループワークを通して、実社会で活用できる、人間の行動について研究する方法を学ぶ。						
授業概要	人間はいつも同じ事をしているわけではなく、行動は変化し発達する。なぜ、人間は特定の行動をとるのであろうか？なぜ、個人ではしないことを、グループとなると行動してしまうのか？そして、時代と共に、環境変化に応じて、人間の行動変容もおきる。これらの原因は何であるのかを、事例毎に検証していく。 人間の行動はその周囲の状況と深く関わっている。人間と環境の出会いに創発する行動という出来事を追うためには、周囲を含めて人間のふるまいをとらえる観察が必要となる。本演習では近年の行動科学、認知科学の知見を概観する。特定テーマに関し、受講者でロールプレイなどをグループワークを通して行う。それらを通じて、人間行動研究に必要な方法を具体的に指導する。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	レポートや課題が出されたら提出期限を守って必ず提出すること。これらは評価の対象になる。また、討論のときは積極的に発言すること。参加態度も評価となるので注意すること。専門科目の演習であるので、課題に基づく発表を特に評価する。 最終評価は、学期末に提出する理解度を確認するためのレポート（30％）、課題に基づく発表（40％）、毎回の授業参加度（20％）、授業態度（10％）に基づき総合的に判断します。 レポート、授業での発表については、教員のコメントを提出後、並びに、発表終了後にフィードバックします。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	個人発表並びにグループ発表の後、講評を行う。						
履修条件・注意事項	本講義はすべて英語で行われること。 予習課題については授業時に提示されるので、担当教員の指示に従うこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	授業に出席するだけでは単位を取得するための十分な学修とはいえません。 そのため、1) 指定する参考書、資料を事前に読み込み、自分の考えをまとめておくこと、2) 指示に従って、必ずノートを取り、その内容を復習をすること、3) レポートを最後に提出してもらうので、予習復習を怠らず、準備すること。 なお、基本的な概念などは、日本語の参考図書、資料を読み込んで理解に努めること。 目安として、予習・復習には、最低各2時間が必要です。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日3限目、4限目をオフィスアワーにします。						
授業計画						担当者	
第1回	What is human behavior ?						畝
第2回	Learn about human body (1) Students' presentation						畝
第3回	Learn about human body (2) Students' presentation						畝
第4回	Learn about human body (3) Students' presentation						畝
第5回	Case study Students' presentation (1)						畝
第6回	Case study Students' presentation (2)						畝
第7回	Case study Students' presentation (3)						畝

第 8 回	Case study Students' presentation (4)	畝	
第 9 回	Case study Students' presentation (5)	畝	
第 1 0 回	Case study Students' presentation (6)	畝	
第 1 1 回	Case study Students' presentation (7)	畝	
第 1 2 回	Case study Students' presentation (8)	畝	
第 1 3 回	Case study Students' presentation (9)	畝	
第 1 4 回	Review	畝	
第 1 5 回	Final lecture and next steps	畝	
第 1 6 回	最終試験（英語でのレポート） Term paper	畝	
教科書			
教・書籍名 1	担当教員がその都度参考図書の指定をし、予習資料を配付する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	国際開発研究				担当者	畝 伊智朗			
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国3年				ナンバリング	FS-FS-3-409			
必修・選択	選択	単位数	2単位		時間数	30		授業形態	講義・演習
年次	3年		開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜2限	
ディプロマポリシー対応項目									
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用			DP 3.主体的な学びと論理的な思考			DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力			DP 7. 自己効力感			DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／6. 安全な水とトイレを世界中に／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／13. 気候変動に具体的な対策を 								
到達目標	発展する国と発展しない国があるが、なぜそのようなことが起こるのであろうか？日本は世界第3位の開発援助国である。なぜ日本は発展が遅れている、いわゆる開発途上国を支援するのであろうか？その支援をする理由と目的を多角的に考えてみる。国際益なのか、国益なのか？日本の復興経験からの視点では何が言えるのであろうか？この講義・演習を通じて、日本のソフトパワーである開発協力について、その概念、歴史、手法などを学び、グループ・ディスカッションやプレゼンテーションを経験することにより、自分のことばで、そして、簡単な英語で、国際開発の重要性を語ることができることを目指す。								
授業概要	世界にはまだ多くの開発途上国、地域が残されており、その開発問題は、貧困や基本的人権に関わる課題を有しており、戦争、紛争などの原因となっている。そのため、国際社会はこれまで、ミレニアム開発目標MDGsをつくり、さらに持続的開発目標SDGsをつくり全世界で取り組むことが国連で決議された。本演習では、これまでの国際社会の取り組みをレビューすると共に、開発途上国の開発問題をその課題毎に、分析すると共に、多角的な視点で解決策を模索する方法を学ぶ。								
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション								
評価方法と割合	指定された課題に関するプレゼンテーション（30点）、ディスカッションなどの参加度・貢献度（20点）、最終レポートの内容（50点）で、総合的な評価を行なう。								
ルーブリック評価									
課題や試験のフィードバック方法	個人発表やグループ発表については、その場で講評を行う。最終レポートについては、コメントを付し、返却する。								
履修条件・注意事項	この授業はすべて英語で講義がなされ、学生同士のディスカッションもすべて英語で行なわれるので、留意すること。配布資料なども英語である。 授業の進め方の詳細に関しては、第1回授業において教員から説明を行なう。								
実務経験のある教員	該当する	内容	実務経験教員： 担当教員は、国際協力機構で35年間勤務し、その間、外務省、在コートジボアール日本大使館、経済開発協力機構に外向した経験のある者である。二国間・多国間ベースの国際開発に関して、政策面、具体的なプログラム、プロジェクトレベルの実務面までを含め、多くの経験を有している。 これらの経験をもとに、実際のプロジェクトの事例紹介、開発課題の核心的問題などを解説する。						
事前学習・事後学習とその時間	英語の文献、資料の読み込みがあるので、予習に最低2時間。授業内容の理解を深めるために、復習は2時間以上必要。プレゼンテーションの準備には通常、情報検索に2時間、PPTスライド作成に3時間程度かかる。								
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室にて、金曜日4限目をオフィスアワーとする。								
授業計画								担当者	
第1回	オリエンテーション							畝	
第2回	経済成長、開発、開発途上国							畝	
第3回	開発協力、国際協力とは何か							畝	
第4回	日本の政府開発援助（ODA）と国別発表第1回							畝	

第 5 回	ODAの歴史	畝
第 6 回	ODA政策と実施、第2回国別発表	畝
第 7 回	国際協力機構（JICA）とは	畝
第 8 回	新しいアプローチMDG s から S D G s へ	畝
第 9 回	第1回開発課題別グループ発表	畝
第 1 0 回	第2回開発課題別グループ発表	畝
第 1 1 回	第3回開発課題別グループ発表	畝
第 1 2 回	第4回開発課題別グループ発表	畝
第 1 3 回	平和構築・復興支援	畝
第 1 4 回	ケース・スタディ ウガンダ北部支援	畝
第 1 5 回	講義総括とグループ・ディスカッション	畝
第 1 6 回	最終試験（レポート）	畝
教科書		
教・書籍名 1	授業テーマに応じて必要な英文資料を配付する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	Japan's Development Assistance -Foreign Aid and the Post-2015 Agenda-	参・出版社名 1 palgrave macmillan
参・著者名 1	Eds. KATO, H., PAGE, J., and Y. SHIMOMURA	参・ I S B N 1 ISBN 978-1-137-50537-8
参・書籍名 2	途上国の産業人材育成	参・出版社名 2 日本評論社
参・著者名 2	山田肖子・大野泉 編著	参・ I S B N 2 978-4-535-55970-7

授業科目名	日本の文化経済			担当者	高橋 正巳		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-501		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	◎	DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／3. すべての人に健康と福祉を／4. 質の高い教育をみんなに／5. ジェンダー平等を実現しよう／8. 働きがいも経済成長も／11. 住み続けられるまちづくりを／12. つくる責任・つかう責任／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリーシップで目標を達成しよう						
							
到達目標	テーマ：日本には古くは「道徳経済」があった 到達目標：「日本の文化経済」を学ぶことは「地球の危機」に対応する倫理道徳と一体的な社会経済であることを理解する。 「日本の文化」は倫理道徳性という文化価値を核として成り立っており、それが「相手の立場に立つ」とか「他者を大切にすること」の源泉だった。そして、これは日本が古くからSDGsの基盤となる文化価値を持っていたのだが、現在の日本人はそれを忘れていたので、今こそ思い出すべきである。						
授業概要	現代の社会経済の出発点は約250年前に英国で始まる産業革命である。ただ、ここに登場した社会経済は「活動の自由」が個人原則であるように倫理道徳を排除したものだった。もちろん当時の西洋人はそれを大歓迎したが、約150年前に西洋（フランス）からそのシステムを持ち帰った、たとえば渋沢栄一をはじめとして、日本人の多くはそれを違和感を持って迎えたのである。渋沢は倫理道徳的な特性をもつ「日本の文化」を基盤に500もの会社づくりがあったが「道徳経済」を基底に据えたものであった。わが国は当時はすでにSDGsを目標とした社会経済だったと言ってよい。ところが、戦後はそれをほとんど忘れてしまったので、現在は渋沢時代の「日本の文化経済」を呼び戻し復活を考える時である。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	自学自修による「持ち帰り試験」(50点)、プレゼンテーションなどアクティブラーニング(20点)、定期末試験(20点)、講義中での積極的な参加(10点)とで総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	「持ち帰り試験」と「定期末試験」は日時を指定して本人に返却する						
履修条件・注意事項	「経済学」と「日本の経済」を履修しているのが望ましい。また、テレビや新聞のニュースをチェックし社会経済に関する記事を読む。さらに日本語で専門分野の文章を書くことを嫌わない。これらを学生は主体的に実施すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和51年大学経済学部卒、昭和57年大学院社会学研究科修士課程修了、昭和60年大学院社会学研究科博士課程満期修了退学。日本の文化を基礎とする社会経済の研究を始めてから35年以上のキャリアとなり、本校では経済学や日本の経済、あるいは宗教学関連のものを学生に教えてきた。				
事前学習・事後学習とその時間	各講義時間の項目に関して、事前学習に90分間を使い理解に務める。その際に専門的な語彙もまとめる。講義後には復習に90分間を使い、さらに理解を深めて修得する。それでもよく判らない語彙や事項は次の講義のとき質問して解決を図る。						
オフィスアワー	毎週木曜日に個人研究室で13：30～15：00まで						
授業計画						担当者	
第1回	オフィスアワー					高橋	
第2回	ナッジ的人間と非合理性の経済					高橋	
第3回	欲望への対応としての日本文化					高橋	
第4回	精神修養こそ知足の経済					高橋	
第5回	智仁勇を持つ人物が組織のリーダー					高橋	
第6回	天地人の徳に生きる利殖法					高橋	

第 7 回	社会経済のリーダーがもつ敬天愛人	高橋
第 8 回	なぜ「道德の経済」が必要なのか	高橋
第 9 回	一木一草の理に従う日本文化	高橋
第 1 0 回	儒教の道德と日本の経済思想	高橋
第 1 1 回	人の心をつかむ文化価値	高橋
第 1 2 回	生きがいと日本の文化経済	高橋
第 1 3 回	文化価値なき生産経済の終焉	高橋
第 1 4 回	日本的サービスは文化価値の源泉	高橋
第 1 5 回	SDG s の精神基盤だった日本の文化	高橋
第 1 6 回	期末単位認定試験	高橋
教科書		
教・書籍名 1		教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	『論語と算盤』	参・出版社名 1 角川ソフィア文庫
参・著者名 1	渋沢栄一	参・ I S B N 1 ISBN978-4-04-409001-2
参・書籍名 2	『文化経済学への招待』	参・出版社名 2 芙蓉書房出版
参・著者名 2	佐々木晃彦	参・ I S B N 2 ISBN4-8295-0177-4

授業科目名	産業考古学			担当者	大下 浩司		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-502		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	火曜1限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	○	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリーシップで目標を達成しよう 						
到達目標	地域の魅力を知り、観光資源としての活用に関して学ぶことをテーマとして、地域の歴史、文化、風土、伝統、交通、経済、産業についての知識を修得して理解し、論理的に考える能力を身につけることを到達目標とする。						
授業概要	地域との関係性、地域の魅力、地域の現状、地域の観光資源に関する知識を修得し理解する。さらに、これらの知識と理解を深めるために、地域の魅力、観光地などを自ら調べ考え、観光プランを作成し、その内容をまとめ発表する。発表内容に関し受講生らとディスカッションする。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識と論理的思考力を確認するための単位認定試験（40％）、発表（30％）、主体的に問題に取り組み論理的に思考しようとする姿勢を授業態度（30％）として評価する。						
ルーブリック評価	無し						
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を理解し必要に応じて情報収集しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ内容を振り返り、理解を深め疑問点を明らかにすること。						
オフィスアワー	個人研究室にて金曜日3限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	地域観光資源とは					大下浩司	
第2回	地域との関わり					大下浩司	
第3回	地域の魅力を探る					大下浩司	
第4回	地域の魅力を再探索					大下浩司	
第5回	地域の魅力のまとめ					大下浩司	
第6回	観光プランの立案					大下浩司	
第7回	観光プランの作成					大下浩司	
第8回	観光プランの推敲					大下浩司	
第9回	観光プランの完成					大下浩司	
第10回	観光プランのまとめ					大下浩司	
第11回	地域観光資源に関する発表1					大下浩司	
第12回	地域観光資源に関する発表2					大下浩司	
第13回	地域観光資源に関する発表3					大下浩司	
第14回	地域観光資源に関する発表4					大下浩司	
第15回	地域観光資源に関する発表5					大下浩司	
第16回	単位認定試験					大下浩司	
教科書							
教・書籍名1	予習・復習しやすいように適宜資料を配布する。				教・出版社名1		
教・著者名1					教・ISBN1		
教・書籍名2					教・出版社名2		
教・著者名2					教・ISBN2		

参考書			
参・書籍名 1	予習・復習しやすいように適宜資料を配布する。	参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	企業戦略マーケティング概論			担当者	佐藤 匡		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-504		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	△	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4 質の高い教育をみんなに 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 17 パートナリシップで目標を達成しよう						
到達目標	戦後日本の経済発展の礎となったのはアメリカから導入されたマーケティングやオペレーションズ・リサーチ（Operations Research；OR）の考え方であった。 本講義では、学科のディプロマポリシーに従って、マーケティングにおいて活用されるオペレーションズ・リサーチを取り上げる。 授業ではアクティブラーニングも加えながら、ORを活用した市場戦略のおもしろさを理解する。 到達目標は、経済の身近にある事象への問題意識が持て、初歩的な常識が身に付くことである。						
授業概要	ORはむずかしいと感じる人も多いかもしいが、身近なことにORがうまく応用されて役立っていることも多い。 本講義では、ORの中でも入門的な在庫管理、ABC分析、日程計画とガントチャート、PERT、乱数とシミュレーション、安定結婚問題、投票力指数、線形計画、ランチェスター戦略、散布図（相関図）、相関分析と回帰分析、相関係数を学ぶ。 講義内容に対応してパソコンを使用して適宜演習を行う。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「オペレーションズ・リサーチとマーケティングの理解」の予習復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物30%、オペレーションズ・リサーチの理解度を問う試験の成績を40%として最終的に総合評価が行われる。これらの3つの評価がバランスよく得られていることが単位認定（到達目標）の判断基準とされる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	受講者数は、パソコン教室の定員以内とする。 教室の定員のため抽選となることがある。抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 第1回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。 教科書は用いず、毎回講義の終わりに次回の学習資料が配布される。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	教科書は用いず、講義の終わりに次回の学習資料が配布される。各回の講義に対し、予習としてその資料を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。						
	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日 3 時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日 4 時限目						

オフィスアワー		秋学期：	
		岡山キャンパス131研究室火曜日 2 時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日 3 時限目	
		予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。	
		授業計画	
第 1 回	オリエンテーション・スキル確認テスト		佐藤 匡
第 2 回	フェルミ推定		佐藤 匡
第 3 回	Excelの応用操作		佐藤 匡
第 4 回	在庫管理		佐藤 匡
第 5 回	在庫管理練習問題		佐藤 匡
第 6 回	ABC分析		佐藤 匡
第 7 回	ABC分析練習問題		佐藤 匡
第 8 回	日程計画とガントチャート、PERT		佐藤 匡
第 9 回	日程計画練習問題		佐藤 匡
第 1 0 回	乱数とシミュレーション		佐藤 匡
第 1 1 回	安定結婚問題と投票力指数		佐藤 匡
第 1 2 回	線形計画		佐藤 匡
第 1 3 回	ランチェスター戦略		佐藤 匡
第 1 4 回	散布図（相関図）、相関分析と回帰分析		佐藤 匡
第 1 5 回	相関係数		佐藤 匡
第 1 6 回	単位認定試験		佐藤 匡
教科書			
教・書籍名 1	教科書は使用せず、講義内で学習資料を適宜配付する。		教・出版社名 1
教・著者名 1			教・ I S B N 1
教・書籍名 2			教・出版社名2
教・著者名2			教・ I S B N 2
参考書			
参・書籍名 1			参・出版社名 1
参・著者名 1			参・ I S B N 1
参・書籍名 2			参・出版社名2
参・著者名2			参・ I S B N 2

授業科目名	国際ビジネス論			担当者	高橋 正巳		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-505		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	◎	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	◎
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	1. 貧困をなくそう／2. 飢餓をゼロに／4. 質の高い教育をみんなに／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／8. 働きがいも経済成長も／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／11. 住み続けられるまちづくりを／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	テーマ：賢い消費者に提供するサービス提供ビジネス 達目標：国際的なビジネス活動はサービスの時代であることを理解する。 誰もがお金も欲しいがゆとりやヒマも欲しい。否、生きがいがなければ嫌だ。この思いは今や世界的に共通になりつつあり、ビジネス活動においても文化価値を考慮しなければならなくなってきた。しかも、近年は海外から日本の文化が注目されている。そこで、講義では国際化時代の日本におけるビジネス活動は文化価値のサービスとビジネス活動を分離してはならないことを、学生が理解し説明できることを目標とする。						
授業概要	現代のビジネスは世界的な価値サービスを提供する時代に突入したと言える。たとえば和菓子を買ったらきれいな化粧箱を、さらに日本の文化を感じさせてくれる包装紙で包んでくれる。ただ、忘れてならないのはビジネスにおける「信頼」や「ミッション性」である。というのも、消費者が世界的に「賢く」なり、受ける「サービス水準」を高めなければならないのが現在のビジネス活動だからである。そのためには、ビジネスで「サービス価値」を提供するノウハウを知らなければならぬし自らに身に付ける必要がある。この講義ではそれらをできるだけ事例などを取り上げながら話を進める予定である。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	自学自修による「持ち帰り試験」(50点)、プレゼンテーションなどアクティブラーニング(20点)、定期末試験(20点)、講義中での積極的な参加(10点)とで総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	「持ち帰り試験」と「定期末試験」は日時を指定して本人に返却する						
履修条件・注意事項	テレビや新聞のニュースをチェックする。社会経済に関する記事を読む。日本語で専門分野の文章を書くこと。これらを主体的に実施する。						
実務経験のある教員	該当する	内容	昭和51年大学経済学部卒、昭和57年大学院社会学研究科修士課程修了、昭和60年大学院社会学研究科博士課程満期修了退学。本学の「国際ビジネス論」を担当する正規の教授である。				
事前学習・事後学習とその時間	各講義時間の項目に関して、事前学習に90分間で理解するために専門的な語彙をまとめる。さらに、講義を受けた後で復習し90分間使い、さらに理解して修得すると同時によく判らなかった語彙を抜き出して、次の講義のとき質問する。						
オフィスアワー	岡山キャンパスで、毎週木曜日に個人研究室で13：30～15：00まで						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション					高橋	
第2回	「市場の飽和」の時代のマーケティング					高橋	
第3回	国際ビジネスに不可欠な<信頼>					高橋	
第4回	OMOマーケティングって何？					高橋	
第5回	ビジネス活動に必要なミッション性					高橋	
第6回	SDGsはビジネスの経営課題					高橋	
第7回	「賢い消費者」がビジネスの相手					高橋	
第8回	日本人ビジネスマンは日本的経営を忘れていないか					高橋	
第9回	国際ビジネスはあなたが主人公					高橋	

第 1 0 回	経営戦略は S T P と 4 P とのミックスから	高橋
第 1 1 回	コア・サービスと補完サービスとの融合	高橋
第 1 2 回	デジタルトランスフォーメーション(D X)と非合理性	高橋
第 1 3 回	「見える化」と図解思考が説明力の基礎	高橋
第 1 4 回	文章の図式化はビジネスの武器	高橋
第 1 5 回	自己と組織と社会とをU理論から見る	高橋
第 1 6 回	期末単位認定試験	高橋
教科書		
教・書籍名 1		教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	国際ビジネスの進化	参・出版社名 1 有斐閣
参・著者名 1	ジェフリー・ジョーンズ	参・ I S B N 1 ISBN 4 - 641 - 16048 - 1
参・書籍名 2	見るだけでわかる！ ビジネス書図鑑 - ああのベストセラーって、要するにこんなことを言っていたんだ！	参・出版社名 2 株式会社ディスカバー トゥエンティ ワン
参・著者名 2	グロービス	参・ I S B N 2 ISBN 9 7 8 - 4 - 7993 - 2381 - 6

授業科目名	ビジネスの基礎知識			担当者	長光 正明		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-506		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	AL
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 9. 産業と技術革新の基盤をつくろう 17. パートナリシップで目標を達成しよう						
到達目標	ビジネスの基礎的・基本的な知識と技術を習得し、ビジネスの意義や役割について理解するとともに、ビジネスに必要な創造的な能力と実践的なスキルを育てることを目標とする。さらにマーケティングに関する知識と技術をし、マーケティングの意義や役割について理解するとともに、企業におけるマーケティング活動を計画的、合理的に行うスキルを身に付けることを目標とする。						
授業概要	ビジネスの基本である売買取引の基礎編とマーケティングの基礎編からなり、企業人として必要な基礎的・実践的な課題を考察しながら、アクティブラーニング（AL）の実践として課題解決型学習（PBL）方法による各課題に対する解決について、グループ演習としてグループ内でのディスカッション及びその課題解決結果のプレゼンテーションを主体とした授業を行う。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	ビジネスに関する課題解決型学習における参加態度や発言参加頻度（70％）、修得知識の確認試験（30％）で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎回出題されるPBL課題は、各自生徒による課題解決案を考えた後、発表を行い、教師のコメントによりフィードバックする。						
履修条件・注意事項	授業にはパソコンを使用する。ネット接続可能なノートパソコンを持参すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	教師は国際コンサルタント会社の現役代表として、また岡山商工会議所及びJETROの貿易投資アドバイザーとして、30年以上に渡り中小企業等の国内外ビジネスのコンサルタントとして活躍している。本科目は、この経験と知見を活かした授業構成になっている。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回出す課題及びデジタルテキストが、講師のサイト（最初の授業時に説明する）にアップされているので、授業の予習・復習を各2時間程度してくること。						
オフィスアワー	授業の終了後適宜に対応。						
授業計画						担当者	
第1回	売買取引の条件					長光 正明	
第2回	売買取引の締結					長光 正明	
第3回	売買取引の履行					長光 正明	
第4回	代金決済					長光 正明	
第5回	売買に関する計算					長光 正明	
第6回	マーケティングの基本					長光 正明	
第7回	戦略					長光 正明	
第8回	SWOT分析					長光 正明	
第9回	市場調査					長光 正明	

第 1 0 回	販売促進	長光 正明
第 1 1 回	販売計画	長光 正明
第 1 2 回	消費者行動	長光 正明
第 1 3 回	製品計画	長光 正明
第 1 4 回	仕入計画	長光 正明
第 1 5 回	販売価格	長光 正明
第 1 6 回	単位認定試験	長光 正明

教科書			
教・書籍名 1	使用しない。講師のWEBサイトのデジタルテキストを利用する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	

参考書			
参・書籍名 1	授業進行にしたがって、必要に応じ、参考サイトを参考書として案内する。	参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	貿易実務			担当者	長光 正明		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-507		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	AL
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	月曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	国際ビジネスの基礎的・基本的な知識と技術を習得し、国際ビジネスの意義や役割について理解するとともに、国際ビジネスに必要な創造的な能力と実践的なスキルを育てることを目標とする。本科目では国際ビジネスにおける、モノの国際間移動に係る貿易を中心とする。						
授業概要	国際ビジネスの企業人として必要な基礎的・実践的な課題を考察しながら、アクティブラーニング（AL）の実践として課題解決型学習（PBL）方法による各課題に対する解決について、グループ演習としてグループ内でのディスカッション及びその課題解決結果のプレゼンテーションを主体とした授業を行う。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	国際ビジネスに関する課題解決型学習における参加態度や発言参加頻度（70％）、修得知識の確認試験（30％）で評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎回出題されるPBL課題は、各自生徒による課題解決案を考えた後、発表を行い、教師のコメントによりフィードバックする。						
履修条件・注意事項	授業にはパソコンを使用する。ネット接続可能なノートパソコンを持参すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	教師は国際コンサルタント会社の現役代表として、また岡山商工会議所及びJETROの貿易投資アドバイザーとして、30年以上に渡り中小企業等の国内外ビジネスのコンサルタントとして活躍している。本科目は、この経験と知見を活かした授業構成になっている。				
事前学習・事後学習とその時間	毎回出す課題及びデジタルテキストが、講師のサイト（最初の授業時に説明する）にアップしているので、授業の予習・復習を各2時間程度してくること。						
オフィスアワー	授業の終了後適宜に対応。						
授業計画						担当者	
第1回	貿易と国際売買取引					長光 正明	
第2回	国内取引と国際取引の違い					長光 正明	
第3回	貿易取引の全体像					長光 正明	
第4回	輸出入の定義：関税法					長光 正明	
第5回	貿易取引の形態：直接貿易と間接貿易 販売店と販売代理店					長光 正明	
第6回	国際取引の輸送					長光 正明	
第7回	国際取引の梱包					長光 正明	
第8回	国際取引の引渡場所と価格体系					長光 正明	
第9回	国際取引の決済と仕組み					長光 正明	
	国際取引の貨物保険						

第 1 0 回		長光 正明
第 1 1 回	貿易取引契約を律する法律	長光 正明
第 1 2 回	英文価格表の構成とHSコード	長光 正明
第 1 3 回	船積書類－インボイスと梱包明細書	長光 正明
第 1 4 回	船積書類－保険証券	長光 正明
第 1 5 回	船積書類－船荷証券	長光 正明
第 1 6 回	単位認定試験	長光 正明
教科書		
教・書籍名 1	使用しない。講師のWEBサイトのデジタルテキストを利用する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	授業進行にしたがって、必要に応じ、参考サイトを参考書として案内する。	参・出版社名 1
参・著者名 1		参・I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・I S B N 2

授業科目名	I T 応用論			担当者	佐藤 匡		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-3-509		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用	◎	DP3. 主体的な学びと論理的な思考	△	DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	種々のソフトウェアのデータの相互活用方法を理解しておくことは、日本と世界を取り巻く社会問題の理解、また自己の生活の中にある諸問題を発見し主体的に解決する上で、パソコンを有効に活用するための予備知識として非常に有用なことである。 本講義では、外国学科のディプロマポリシーに従って、コンピュータを中心としたデータの受け渡しをテーマとして学習する。CAD・3次元コンピュータグラフィックスなどを使いこなし、データの相互有効活用ができるようになることを到達目標とする。						
授業概要	3次元CGソフトによりモデリングの概念とGUIを学習する。講義により圧縮ファイルについて理解する。建築CADによる建築平面図作成を通してGUIとファイルシステムについて学習する。これらを通して上級コンピュータリテラシーを習得し、またこれらのデータをソフト間で受け渡しして相互に活用することで、ITを応用した問題解決手法を学ぶ。 講義の内容に対応してパソコンを使用して適宜演習をおこなう。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「コンピュータやソフトによるデータの受け渡しの知識の理解」の予習復習を確認するため、講義内で毎回用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物50%、データの形式を中心とした理解度を問う試験の成績を20%として最終的に総合評価が行われる。これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準となる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	受講者数は、パソコン教室の定員以内とする。 教室の定員のため抽選となることがある。抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修をどちらにするか迷っている場合は注意すること。 指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 第1回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。 教科書は用いず、講義の終わりに次回の学習資料が配布される。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。						
実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員は、前職で企業のIT部門（システム管理部門）に従事し、パソコンと汎用コンピュータと電話回線を組み合わせた比較的規模の大きい基幹システムから、パソコンによる段ボール箱設計と段ボール箱へのデザインを作るDTPシステムまでを開発運用した経験を持つ。その他データウェアハウスによるOLAPの運用経験を持つほか、労働省（当時）が全国で運営するコンピュータカレッジの中の一校においてCGコースを2年間担当した経験を持つ。				
事前学習・事後学習とその時間	教科書は用いず、講義の終わりに適宜次回の学習資料が配布される。次回の講義に先立って、予習としてその資料を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて用語の説明が求められ、その状況が積極的な参						

	加態度として成績評価の得点とされる。		
オフィスアワー	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日 3 時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日 4 時限目 秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日 2 時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日 3 時限目 予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。		
授業計画		担当者	
第 1 回	オリエンテーション・スキル確認テスト		佐藤 匡
第 2 回	C A D の概要と G U I		佐藤 匡
第 3 回	C A D による基本描画		佐藤 匡
第 4 回	C A D の環境設定		佐藤 匡
第 5 回	C A D による幾何学図形制作		佐藤 匡
第 6 回	C A D による間取り図面壁芯制作		佐藤 匡
第 7 回	C A D による間取り図面への間仕切り制作		佐藤 匡
第 8 回	C A D による間取り図面への住宅機器配置		佐藤 匡
第 9 回	C G の基礎知識・ 3 次元ポリゴンモデラー操作		佐藤 匡
第 1 0 回	3 次元ポリゴンモデラーによる動物のモデリング		佐藤 匡
第 1 1 回	3 次元ポリゴンモデラーによる乗用車のモデリング		佐藤 匡
第 1 2 回	3 次元ポリゴンモデラーによる自由課題モデリング		佐藤 匡
第 1 3 回	データの管理方法		佐藤 匡
第 1 4 回	ITを応用した問題解決		佐藤 匡
第 1 5 回	まとめと質疑応答		佐藤 匡
第 1 6 回	単位認定試験		佐藤 匡
教科書			
教・書籍名 1	教科書は使用せず、講義内で学習資料を適宜配付する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	グローバル人材論				担当者	畝 伊智朗			
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国3年				ナンバリング	FS-FS-3-510			
必修・選択	選択	単位数	2単位		時間数	30		授業形態	講義
年次	3年		開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜1限	
ディプロマポリシー対応項目									
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力			
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目			
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も 								
到達目標	この講義では、どこでも活躍できる「グローバルな人材となること」をテーマとする。そもそも、グローバル人材とは何か？どのような資質、資格、経験を持った人材のことなのであろうか？どのような学修、経験を積みればそのような人材になれるのであろうか。多角的に学修を進める。いくつかの分野で活躍している「グローバル人材」を外部講師として招聘し、いろいろな角度から講義をしてもらい、それをもとに全体ディスカッションを行なう。これらを通じて、自分なりのグローバル人材の姿を持つことを目標とする。また、英文履歴書が書けるようになる。								
授業概要	グローバル人材に関しては、さまざまな考え、見方、理解がなされており、概念が確立していない用語であることは間違いない。グローバル人材と一般的に見做される人たちは、自分たちのことをそのように呼ばれることに違和感を覚えている。なぜ、そのような違和感を覚えるのか、などに関し、教員の講義とそれに基づく学生間でのディスカッションを進めることにより、理解を深める。外部講師の講義とそれに基づくディスカッションも多角的な理解を進める上で、重要となる。グローバルに活躍できる人材とは何か、この授業を通じて常に考えてもらう。								
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション								
評価方法と割合	各回の講義で実施するミニ・テストの結果（30点）、ディスカッションの参加度・発表（40点）、最終レポートの内容（30点）を総合して評価する。								
ルーブリック評価									
課題や試験のフィードバック方法	各回のミニテスト、最終レポートは、コメントを付して学生に返却します。発表に関しては、発表後、所見を共有します。								
履修条件・注意事項	講義を聴き、ディスカッションに積極的に参加すること。新聞、テレビ、WEB情報などを通じて、グローバルに活躍できる人材とは何か、常に考えてもらいたい。次の授業までに調べる課題を出したりするので、教員の指示に従って準備すること。指定された読むべき図書については授業前に読んでくること。 外部講師の都合により、講義の順番が前後することがある。								
実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員は、35年間、国際協力機構で勤務をし、その間、外務省、大使館、国際機関勤務の経験もしているグローバル人材である。また、招聘する外部講師は特定分野で秀でた海外経験などを有するグローバル人材である。これらの経験を、講義などの節目節目で共有し、内容をリアリティの高いものにする。						
事前学習・事後学習とその時間	復習を重視する。授業後、配付資料を読み返したり、ディスカッションの結果を振り返り、理解を深めること。復習には最低2時間必要。自分の関心に従い、グローバル人材と見做される人たちの自伝や著作を読むこと。								
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室にて、金曜日4限目をオフィスアワーとします。								
授業計画								担当者	
第1回	グローバル人材とは？							畝	
第2回	ボランティア事業概要とキャリア							外部講師・畝	
第3回	グローバル人材を調べる							畝	
第4回	セネガルと日本の懸け橋となって							外部講師	
第5回	調査結果の発表							畝	
第6回	英文履歴書を書いてみよう							畝	
第7回	フィリピンでの経験を地域おこしに							外部講師・畝	
第8回	グローバルに働くとは？							畝	
第9回	どこにいても自分らしく							外部講師・畝	

第 1 0 回	国際機関で働く	畝
第 1 1 回	グアテマラでの活動を振り返る	外部講師・畝
第 1 2 回	地元での就職を考える	畝
第 1 3 回	日本の経験を活かしたブータンの観光開発	外部講師・畝
第 1 4 回	地域おこし	畝
第 1 5 回	グローバル人材再考	畝
第 1 6 回	最終試験（レポート）	畝
教科書		
教・書籍名 1	資料を配付する。必要に応じて図書を指定する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1		参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	調査と分析			担当者	佐藤 匡		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-601		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義と演習
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs関連項目	4 質の高い教育をみんなに 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 17 パートナリッで目標を達成しよう						
到達目標	「IT関連の専門用語（日本語）について理解を深める」ことをテーマに、コンピュータ、オペレーティングシステム、アプリケーションソフト、ネットワークの基礎概念やセキュリティ保護の考え方などを理解することを到達目標とする。外国学科のディプロマポリシーに従って、外来語にも焦点を当て、また学習の題材として、プログラミング言語にも触れる。 コンピュータの共通言語であるプログラミング言語を学ぶことで、よりITが身近になる。 解説するプログラミング言語としては、JavaScript、VBA、HTML/CSSを取り上げる。						
授業概要	前半は、教科書だけでなく、日経パソコン、日経PC21、教育家庭新聞などを参考に、最新のIT用語を理解する。 後半は、JavaScript、VBA、HTML/CSSの仕組みを、実際にプログラムを作りながらIT用語を確認する。 講義内容に対応してパソコンを使用して適宜演習を行う。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	「IT関連の専門用語（日本語・外来語）について理解」の予習復習を確認するため、講義内で毎回専門用語の説明が求められる。それに対する返答、あるいは自主的な発言やディスカッションへの積極的な参加態度が30%の重みづけで評価される。また、課題等の提出物30%、専門用語の理解度を問う試験の成績を40%として最終的に総合評価が行われる。これらの3つの評価をバランスよく得ていることが単位認定（到達目標）の判断基準とされる。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題は採点をして授業内でフィードバックする。						
履修条件・注意事項	受講者数は、パソコン教室の定員以内とする。 教室の定員のため抽選となることがある。抽選は第2回目の講義の中で担当教員が実施する。他の講義と履修を迷っている場合は注意すること。 指示があった場合は、指定されたスペックのノートパソコンを持参すること。 第1回の授業におけるオリエンテーション・スキル確認テスト未受験者は、その理由によっては履修を認められないことがあるので十分注意すること。 教科書は用いず、講義の終わりに次回の学習資料が配布される。 授業計画の内容は、進捗の状況に応じて相談の上変更になることがある。 本科目は日本語教員養成コースの必修科目であり、本コースの取得を目指す者は必ず履修しなければならない。						
実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員は、前職で企業のIT部門（システム管理部門）に従事し、パソコンと汎用コンピュータと電話回線を組み合わせた比較的規模の大きい基幹システムから、パソコンによる段ボール箱設計と段ボール箱へのデザインを作るDTPシステムまでを開発運用した経験を持つ。その他データウェアハウスによるOLAPの運用経験を持つほか、労働省（当時）が全国で運営するコンピュータカレッジの中の一校においてCGコースを2年間担当した経験を持つ。				
事前学習・事後学習とその時間	各回の講義に対し、予習として授業計画に記載されている部分の教科書を読み、理解できない点を洗い出した上で講義に臨むこと。また、復習として、その回で学習した専門用語の意味を簡潔に説明できるようにしておくこと。 授業の進捗と同程度の予習量復習量として、それぞれ90分の時間を最低でも確保すること。 予習復習の確認については、次回の講義時に指名あるいは挙手にて専門用語の説明が求められ、その状況が積極的な参加態度として成績評価の得点とされる。						

オフィスアワー	春学期： 岡山キャンパス131研究室水曜日 3 時限目 高梁キャンパス254研究室火曜日 4 時限目 秋学期： 岡山キャンパス131研究室火曜日 2 時限目 高梁キャンパス254研究室金曜日 3 時限目
	予約なしで直接研究室に来て構わないが、先に来た他の学生との対応の都合で待たせる可能性もあるので、メールにて事前に予約するほうが時間を有効に利用できる。

授業計画		担当者
第 1 回	オリエンテーション・スキル確認テスト	佐藤 匡
第 2 回	パソコン用語解説	佐藤 匡
第 3 回	インターネット用語解説	佐藤 匡
第 4 回	入出力用語解説	佐藤 匡
第 5 回	システム用語・日本語教育とICT・情報処理と著作権の解説	佐藤 匡
第 6 回	VBAプログラミング	佐藤 匡
第 7 回	HTML基礎	佐藤 匡
第 8 回	HTMLタグ	佐藤 匡
第 9 回	CSSの使い方	佐藤 匡
第 1 0 回	ハイパーリンク	佐藤 匡
第 1 1 回	HTMLにおいての画像の扱い	佐藤 匡
第 1 2 回	JavaScript導入	佐藤 匡
第 1 3 回	JavaScript基礎	佐藤 匡
第 1 4 回	JavaScript応用	佐藤 匡
第 1 5 回	JavaScript関数	佐藤 匡
第 1 6 回	単位認定試験（レポート試験）	佐藤 匡

教科書			
教・書籍名 1	よくわかるマスター 令和4-5年度版	教・出版社名 1	富士通FOM出版
	ITパスポート試験 対策テキスト & 過去問題集 FPT2108		
教・著者名 1		教・ I S B N 1	978-4-938927-42-4
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	

参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	色彩の科学Ⅰ			担当者	大下 浩司		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-602		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	金曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	6. 安全な水とトイレを世界中に／7. エネルギーをみんなに・そしてクリーンに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／12. つくる責任・つかう責任／13. 気候変動に具体的な対策を／14. 海の豊かさを守ろう／15. 陸の豊かさを守ろう 						
到達目標	日本および海外における科学的事柄について学ぶことをテーマとして、談話理解と言語学習を含む言語理解の過程、言語の習得過程と学習ストラテジーを含む言語習得・発達に関する知識を修得して理解し、各事象を論理的に考える能力を身につけることを到達目標とする。						
授業概要	科学を題材として談話理解と言語学習を含む言語理解の過程、言語の習得過程と学習ストラテジーを含む言語習得・発達、科学的事象の言語理解と非言語理解、科学的情報の収集・インプット・アウトプットについての知識を修得し理解する。さらに、これらの知識と理解を深めるために、日本および海外における科学的なトピックスについて自ら調べ考え、その内容をまとめ発表する。発表内容に関し受講生らとディスカッションする。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識と論理的思考力を確認するための単位認定試験（40％）、発表（30％）、主体的に問題に取り組み論理的に思考しようとする姿勢を授業態度（30％）として評価する。						
ルーブリック評価	無し						
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を理解し必要に応じて情報収集しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ内容を振り返り、理解を深め疑問点を明らかにすること。						
オフィスアワー	個人研究室にて金曜日3限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	専門日本語（科学）とは					大下浩司	
第2回	言語理解の過程（談話理解）					大下浩司	
第3回	言語理解の過程（言語学習）					大下浩司	
第4回	言語習得・発達（習得過程）					大下浩司	
第5回	言語習得・発達（学習ストラテジー）					大下浩司	
第6回	科学的事象の言語理解					大下浩司	
第7回	科学的事象の非言語理解					大下浩司	
第8回	科学的情報の収集					大下浩司	
第9回	科学的情報のインプット					大下浩司	
第10回	科学的情報のアウトプット					大下浩司	
第11回	科学に関する発表1					大下浩司	
第12回	科学に関する発表2					大下浩司	
第13回	科学に関する発表3					大下浩司	
第14回	科学に関する発表4					大下浩司	
第15回	科学に関する発表5					大下浩司	
第16回	単位認定試験（レポート試験）					大下浩司	
教科書							
教・書籍名1	予習・復習しやすいように適宜資料を配布する。					教・出版社名1	

教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	予習・復習しやすいように適宜資料を配布する。	参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	色彩の科学Ⅱ			担当者	大下 浩司		
配当学科・研究科	2018～2019年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-603		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能	○	DP2. 情報の活用	○	DP3.主体的な学びと論理的な思考	◎	DP4. コミュニケーション・表現力	○
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を／11. 住み続けられるまちづくりを／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	色彩に関する知識を身に付けることをテーマとして、この知識をもとに色彩について論理的に考える力を養うことを到達目標とする。						
授業概要	絵画や染織品、それらの科学調査をもとに、光によって生み出される色彩に関する知識を学び、この知識をもとに色彩の関わる現象について論理的に考える力を身に付けます。絵画や染織品の色彩と構図を題材とし、感性と理性によるプロファイリング手法についても理解を深めます。さらに、文献調査や発表、ディスカッションを通じて色彩の科学を学びます。						
アクティブラーニングの内容	プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識と論理的思考力を確認するための単位認定試験（40%）、発表（30%）、主体的に問題に取り組み論理的に思考しようとする姿勢を授業態度（30%）として評価する。						
ルーブリック評価	無し						
課題や試験のフィードバック方法	内容に応じて適宜指示する。						
履修条件・注意事項	適宜、資料や課題を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を理解し必要に応じて情報収集しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ内容を振り返り、理解を深め疑問点を明らかにすること。						
オフィスアワー	個人研究室にて金曜日3限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	色彩と絵画					大下浩司	
第2回	色彩と絵画の分類					大下浩司	
第3回	分析の結果と色彩に関する考察					大下浩司	
第4回	色彩を感じる眼と光					大下浩司	
第5回	色彩心理と印象					大下浩司	
第6回	混色と色彩分割					大下浩司	
第7回	色彩の錯視					大下浩司	
第8回	色彩分析（絵画の科学調査法）					大下浩司	
第9回	色彩分析の事例紹介（ゴッホ）					大下浩司	
第10回	色彩分析の事例紹介（モネ、ルノワール）					大下浩司	
第11回	色彩に関する発表1					大下浩司	
第12回	色彩に関する発表2					大下浩司	
第13回	色彩に関する発表3					大下浩司	
第14回	色彩に関する発表4					大下浩司	
第15回	色彩に関する発表5					大下浩司	
第16回	単位認定試験					大下浩司	
教科書							
教・書籍名1	適宜、資料を配布する。					教・出版社名1	
教・著者名1						教・ISBN1	
教・書籍名2						教・出版社名2	

教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	適宜、資料を配布する。	参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	モノをはかる技術Ⅰ			担当者	高木 秀明		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-604		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／9. 産業と技術革新の基盤をつくろう  						
到達目標	「人間の生活や社会の基盤となる『産業』の分野で使用される語彙を理解する」ことをテーマとし、「「身の回りの物品の製造から供給、国土交通、ライフラインなど産業に関するニュースなどで見つけ、日本語を学習している人たちにわかりやすく説明し、学習者らの日本語運用能力の向上をサポートできるようになる」を到達目標とする。						
授業概要	「産業」という言葉を聞いて身近ではあるが、具体的に日本語で説明することは難しい。言葉にはルーツがあって、文明が興った太古から語り継がれているものもあれば、つい最近になって使用されるようになる言葉もある。「産業」を分類し、各分類で使用される言葉をメディアで取り上げられるニュースや時事問題から日常生活への関わりを理解するところからスタートする。日常生活や日々、社会で使われる語彙を運用する能力を修得する。課題発表や討論も交える。						
アクティブラーニングの内容	グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	授業中の求める課題（60％）、単位認定試験（40％）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題発表ごとに口頭で発表グループごとに講評する。聴講側から、コメントを収集し、必要に応じて公表する。						
履修条件・注意事項	各回ノートを取り、配布資料はファイルに綴じる、同じ受講学生の意見や質問にも耳を傾け、適宜記録すること。各課題の各受講学生の回答状況を共有することも大事である。本科目は日本語教員養成コースの必修科目であり、本コースの取得を目指す者は必ず履修しなければならない。グループワークを実施する際、Web等を利用して情報収集する。また、スライド資料を作成したりもするので、毎回、各自がノートPCを持参することが望ましい。本科目は日本語教員養成コースの必修科目であり、本コースの取得を目指す者は必ず履修しなければならない。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習および復習は、各回2時間を必要とする。予習・復習以外にも時事問題にかかわる語彙を理解するために、メディアで取り上げられる内容を深く考察することをすすめる。						
オフィスアワー	火曜日4時限、1号棟1階114研究室で実施。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーションー産業を取り巻くコミュニケーションとことば					高木	
第2回	社会活動における産業					高木	
第3回	農業における語彙					高木	
第4回	農業における語彙の課題発表					高木	
第5回	漁業における語彙					高木	
第6回	漁業における語彙の課題発表					高木	
第7回	鉱業における語彙					高木	
第8回	鉱業における語彙の課題発表					高木	
第9回	建設業における語彙					高木	
第10回	建設業における語彙の課題発表					高木	
第11回	ライフラインにおける語彙					高木	
第12回	ライフラインにおける語彙の課題発表					高木	
第13回	運輸業における語彙					高木	
第14回	運輸業における語彙の課題発表					高木	
第15回	産業における語彙の重要性					高木	
第16回	単位認定試験ーレポート試験					高木	

教科書			
教・書籍名1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名1	
教・著者名1		教・I S B N 1	
教・書籍名2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名1	豊かな語彙力を育てる	参・出版社名1	ココ出版
参・著者名1	石黒 圭	参・I S B N 1	978-4866760049
参・書籍名2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	モノをはかる技術Ⅱ			担当者	高木 秀明		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-605		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	3年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	月曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	9. 産業と技術革新の基盤をつくろう／12. つくる責任・つかう責任 						
到達目標	「『はかる』技術を理解する」をテーマとして、歴史的な背景や有用性などを書籍・学術論文・企業の説明資料などを通して理解する。「『はかる』技術を一般の人に説明できるようになる」を到達目標とする。						
授業概要	「はかる」行為というのは、学問的にみても、他分野にわたっている。また、歴史的にさかのぼると農耕がはじまったところから「はかる」技術が確立しているようである。様々な方向から「はかる」技術やその内面にある科学的なアプローチを読み解くことができるようになる。アクティブラーニングのディスカッションの手法を取り入れ、知識が十分得られた上で互いの思考を尊重しながら深めていく。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	授業中の求める課題（20％）、単位認定試験（80％）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	グループワークでの成果は、次の回で講評する。						
履修条件・注意事項	各回ノートを取り、配布資料はファイルに綴じる、同じ受講学生の意見や質問にも耳を傾け、適宜記録すること。各課題の各受講学生の回答状況を共有することも大事である。Web上の情報を収集する回もあるのでノートPCの持参が望ましい回には、その旨を記載している。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習および復習は、各回2時間を必要とする。予習・復習以外にも時事問題にかかわる「はかる」技術を理解するために、メディアで取り上げられる内容を深く考察することをすすめる。						
オフィスアワー	金曜日 2 時限、1号棟1階114研究室で実施。						
授業計画						担当者	
第 1 回	「はかる」の基礎					高木	
第 2 回	「はかる」の共通言語－単位と度量衡					高木	
第 3 回	メートル法					高木	
第 4 回	「質量」の再定義					高木	
第 5 回	環境をはかる－グループワーク					高木	
第 6 回	環境をはかる重要性－グループワーク					高木	
第 7 回	感覚をはかる－グループワーク					高木	
第 8 回	周囲の意味をはかる－グループワーク					高木	
第 9 回	空からはかる－グループワーク					高木	
第 1 0 回	空からはかる－リモートセンシング体験（グループディスカッション）					高木	
第 1 1 回	空間をはかる－グループディスカッション					高木	
第 1 2 回	空間をはかる（身体）－グループワーク					高木	
第 1 3 回	音をはかる－実習（音の高低の調査）					高木	
第 1 4 回	音をはかる－実習（楽器の調査）					高木	
第 1 5 回	喩えではかる					高木	
第 1 6 回	単位認定試験－筆記試験					高木	
教科書							
教・書籍名 1	プリントを配布する。					教・出版社名 1	
教・著者名 1						教・I S B N 1	
教・書籍名 2						教・出版社名 2	

教・著者名2		教・I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	中公新書1918 〈はかる〉科学	参・出版社名 1	中央公論新社
参・著者名 1	阪上 孝・後藤 武 編著	参・I S B N 1	978-4-12-101918-9
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・I S B N 2	

授業科目名	ロジカルシンキング			担当者	高木 秀明		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-606		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	「論理思考能力を開発する。」をテーマとして、自分の持っている情報や意見を言語によって明快かつ効果的に相手に表現し、伝達できる能力を養うことを到達目標とする。						
授業概要	論理的な思考の下に事象をとらえる論理学的方法を学ぶことで、事実関係に基づき、思考のつながり、推論の仕方や論証のつながりなどの筋道を明確にし、論理的に話す、書くことができるようになる。 本講義では、短文などの例示を通して、論理的に思考し、それらを正確に伝える（「話す・書く」）方法を学ぶ。 外部講師として招聘される、論理思考を実践している自然科学分野の研究者の講義（2回）も聴講する。アクティブラーニングとして演習実験や自ら体験実験に参加する実習形式の授業を行う。						
アクティブラーニングの内容	その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	単位認定試験と参加型学習形態の授業の中での発言頻度や発言内容等、授業への参加態度、そして課題レポートにより総合評価する。成績評価は、レポート試験（40％）、発言（40％）、課題レポート（20％）のウエイトにより評価する。ただし、議論が成立しないような他の受講生に迷惑となる受講態度が認められた場合には減点する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	課題の記述内容など次の回冒頭で紹介し、講評を加える。単位認定試験の模範解答、解説は、ユニバーサルパスポート上で公開する。						
履修条件・注意事項	授業内容によって討論をおこなうため、ノート作成と復習も必要である。 試験では、到達目標の理解度を見るため、特に復習が必要である。 到達目標、授業内容、評価方法を詳しく説明するので、初回の授業は必ず出席すること。						
実務経験のある教員	該当する	内容	自然科学分野の研究や教授をされている外部講師を招聘し、専門外の本学科の学生が分かりやすく、自然現象や自然科学のとらえ方を学び、論理的思考力を養う回を設けている。				
事前学習・事後学習とその時間	事前に出した課題を元に、参加型学習形態で授業をおこなうため、課題作成の予習が必要である。具体的には教科書を先に読み、わからない用語は、参考書1「入門！論理学」あるいは図書館等で論理学の初歩的な書籍で調べる。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室にて、金曜日2時限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	ロジック（論理）とは					高木	
第2回	外部講師の先生のお話－演習実験とロジック思考の実践					高木・外部講師	
第3回	論理的推論と説得的議論の検討					高木	
第4回	論理的に考えるための基本					高木	
第5回	論理学と日常言語の落差					高木	
第6回	推論の実際					高木	
第7回	三段論法					高木	
第8回	立論と反論					高木	
第9回	論証の型					高木	
第10回	レトリック的推論					高木	
第11回	論証の型					高木	
第12回	準論理的論証					高木	
第13回	事実に基づく論証					高木	
第14回	外部講師の先生のお話－演習実験とロジック実践の解説					高木・外部講師	

第 1 5 回	誤謬推理と詭弁		高木
第 1 6 回	単位認定試験－筆記試験		高木
教科書			
教・書籍名 1	実践ロジカル・シンキング入門	教・出版社名 1	大修館書店
教・著者名 1	野内良三	教・ I S B N 1	4-469-21276-8
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	入門！論理学	参・出版社名 1	中央公論新社
参・著者名 1	野矢茂樹	参・ I S B N 1	4-12-101862-1
参・書籍名 2	Being Logical: A Guide to Good Thinking	参・出版社名2	New York: Random House Trade
参・著者名2	D. Q. McInerny	参・ I S B N 2	978-0812971156

授業科目名	人と地域の社会学			担当者	大下 朋子		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-607		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義・演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	3. すべての人に健康と福祉を 4. 質の高い教育をみんなに 11. 住み続けられるまちづくりを 12. つくる責任、つかう責任 14. 海の豊かさを守ろう 15. 陸の豊かさを守ろう 16. 平和と公正をすべての人に 17. パートナリシップで目標を達成しよう						
到達目標	本講義では、われわれの生活の場としての地域が抱える社会問題を発見し、これらの課題について自ら解決できる思考力と行動力を養う。また、社会的な視点から、なぜこれらの問題が生じているのか、その原因を探り、論理的思考を修得する。その上で、国内外で地域社会の再生に向け取り組み活躍している人物や営利・非営利組織について調べ、今後の研究や仕事に活用する力を身に付けることができる。学生自身、「自分の生まれ育った地域」の課題や現状を調べ、自ら考え問題解決の方法などを考えることを目指す。						
授業概要	「地域再生」をテーマに、日本だけでなく海外の地域社会が直面している課題や再生に向けた取り組みなどについて理解を深める。具体的には、工業化－都市化型の市場経済が拡張する一方で、地域が過疎化、少子高齢化、耕作放棄地の拡大、文化遺産・伝統文化の衰退などに直面している原因を探り、これらの課題に対する政府の役割、地域社会の取り組みなどについて一緒に考える。そこで発見した課題や問題を整理し、若者世代がこれらの問題とどう向き合い、どのように解決していけば良いのか一緒に考える。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション						
評価方法と割合	学習態度（20％）、プレゼンテーション（30％）、持ち帰り試験（50％）として、これらを総合的に評価する。						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	本科目の到達目標の達成に向けて、各回で取り組んだ内容（授業内容、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	単位認定試験は、講義の最終日に実施の予定ではあるが、それだけでは評価しない。あなたの興味や関心、そして参加度合いも考慮する。持ち帰り試験（400字×8枚以上）のレポートを提出しなければ単位の認定はしないので要注意のこと。期末試験や持ち帰り試験のレポート作成に向けて、毎回の講義後、講義内容をノートにまとめ、予習・復習を心がけてほしい。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週水曜日3限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	人と地域の社会学の概括					大下 朋子	
第2回	動揺する地域社会－人間生活を問い直す－					大下 朋子	
第3回	グローバル化とローカル化					大下 朋子	
第4回	工業社会から情報社会への転換					大下 朋子	
第5回	非市場主義の地域再生－ヨーロッパの事例－					大下 朋子	
第6回	環境と文化による地域再生					大下 朋子	
第7回	市場主義にもとづく地域再生の失敗－アメリカや日本の事例－					大下 朋子	
第8回	人間の生活の場を創造する地域社会					大下 朋子	
第9回	食-職-福祉-環境をつなぐ地域再生の取り組み①					大下 朋子	
第10回	食-職-福祉-環境をつなぐ地域再生の取り組み②					大下 朋子	
第11回	地方の衰退×社会貢献志向					大下 朋子	
第12回	子どもの減少×保育所不足					大下 朋子	
第13回	放置された施設×非日常空間への欲求					大下 朋子	

第 1 4 回	ローカル食×食の安全問題	大下 朋子	
第 1 5 回	広大な土地と自然×ツーリズム産業	大下 朋子	
第 1 6 回	単位認定試験（プレゼンテーション／レポート試験）	大下 朋子	
教科書			
教・書籍名 1	毎回レジュメを配布するが、テキストは講義内容により随時指定する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	地域再生の経済学―豊かさを問い直す―	参・出版社名 1	中公新書
参・著者名 1	神野直彦	参・ I S B N 1	4-12-101657-2 C1233
参・書籍名 2	脱成長の地域再生	参・出版社名 2	NTT出版
参・著者名 2	神野直彦・高橋伸彰	参・ I S B N 2	978-4-7571-4259-6 C0031

授業科目名	異文化理解			担当者	畝 伊智朗		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-608		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	5. ジェンダー平等を実現しよう／10. 人や国の不平等をなくそう／11. 住み続けられるまちづくりを／16. 平和と公正をすべての人に／17. パートナリシップで目標を達成しよう 						
到達目標	テーマ：異文化を受信し、日本文化を発信することで、多文化共生の生き方をさぐる。 到達目標：人、モノ、おカネ、情報が自由に世界を飛び回る時代。日本と異なる文化への理解が避けて通れない。同時に日本的なるものを世界に伝えないと日本は世界の中で埋没する。自分自身の考えを常に国際社会の中でとらえ、判断できるようにすることを到達目標とする。その必要なスキルを獲得する。						
授業概要	グローバル化によって世界はフラットになったと言われる。しかし、一方では各地の地域紛争、民族間の対立は深まるばかりだ。異文化理解がいかに難しいか、そして大切な事例をあげて研究する。欧米文化の普遍性、中国の価値観、イスラムとの共生などについて、グループ討論、各自の意見のプレゼンテーションなどを交えながら、参加型学習で進める。 15回の授業において、コミュニケーションストラテジー、待遇・敬意表現、言語・非言語行動、異文化間教育、異文化コミュニケーション、コミュニケーション教育に関して概念を講義すると共に、参加型学習で理解を深める。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／実習						
評価方法と割合	授業への参加度（30％）、プレゼンテーション（30％）、最終レポートの成績（40％）による総合評価						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	個人発表、グループ発表の後に、講評を行いフィードバックする。						
履修条件・注意事項	ワールドニュースを必ず観ること。毎週、世界で起こっていることに関して、各自発表する。 本科目は日本語教員養成コースの必修科目であり、本コースの取得を目指す者は必ず履修しなければならない。						
実務経験のある教員	該当する	内容	本講義の担当教員は、米国に通算2ヶ年留学し、国際協力機構JICAで長年勤務し、その間、コートジボアール日本大使館、JICAケニア事務所、フランスにある国際機関OECDに勤務した経験があるほか、多くの外国要人の接遇経験もある。そのため、多くの異文化経験を体験している。 これらの経験は、講義、ディスカッションなどの際、共有することにより、内容をリアリティあるものとする。				
事前学習・事後学習との時間	各週の国際ニュースについて、ウォッチする。 参考図書などを読んで特定テーマに関し調べることなど、授業1回当たり、事前学習1時間、復習1時間の自己学修を必要とする。						
オフィスアワー	1号棟1階の個人研究室において、金曜日4限目をオフィスアワーとします。						
授業計画						担当者	
第1回	異文化を理解する					畝	
第2回	文化とは（その1）					畝	
第3回	文化とは（その2）					畝	
第4回	異文化適応					畝	
第5回	異文化シミュレーション					外部講師、畝	
第6回	違いに気づく					畝	
第7回	異文化の認識					畝	

第 8 回	差別を考える	畝
第 9 回	異文化トレーニング	外部講師、畝
第 1 0 回	世界の価値観	畝
第 1 1 回	異文化受容	畝
第 1 2 回	自分を知る	畝
第 1 3 回	非言語コミュニケーション	畝
第 1 4 回	アサーティブ・コミュニケーション	畝
第 1 5 回	多文化共生社会の実現に向けて	畝
第 1 6 回	最終試験（レポート）	畝
教科書		
教・書籍名 1	資料を作成し、学生に配布	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	①異文化理解 ②文明の衝突 ③異文化は面白い	参・出版社名 1 ①岩波新書 ②集英社 ③講談社
参・著者名 1	①青木保著 ②サミュエル・ハンチントン著 ③選書メチエ編集部編	参・ I S B N 1 ①ISBN4-00-430740-6 ②ISBN4-08-773292-4 ③ISBN4-06-258227-9
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	スタディー・アブロード事前指導			担当者	金沢 真弓、畝 伊智朗、池上 真由美		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国1年			ナンバリング	FS-FS-1-705		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	1年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能	◎	DP 2. 情報の活用	○	DP 3.主体的な学びと論理的な思考	○	DP 4. コミュニケーション・表現力	○
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動	◎	DP 6. 課題解決力	○	DP 7. 自己効力感	○	DP 8. 学科項目	○
SDGs 関連項目	8. 働きがいも経済成長も 						
到達目標	2年次より開講の「スタディー・アブロードⅠ～Ⅳ」に向けての事前準備を行う。 実際に海外留学、インターンシップ、ボランティア、に参加するため必要となる基礎知識、情報、技能を習得する。 そして、十分に留学先・国状、大学や受け入れ先機関を理解し、積極的に留学計画をたて、有意義な留学体験ができるようになる。						
授業概要	留学体験のある本学卒業生、在学生の体験談を聞き、アドバイスをしてもらおう。それによって、留学の意義、魅力を理解し、また、リスク管理を可能にし、安心して出かけられるようになる。また、必要書類、実務的な手続き、海外でのマナー等について理解を深め、留学に備える。 また、異文化理解のための講義、語学研修、リスク管理のシミュレーション、ワークショップによる課題発見、自己理解、留学計画書の作成、報告書の書き方等を習得する。各自の関心のある国に関して、自ら情報収集し、クラスで発表する。事前準備を徹底し、楽しんで留学に出かけられる体制を整える。 その後留学先を決定し、スタディー・アブロードⅠⅡにつなげるべく個人対応を行う。 授業は一方的な講義が中心ではなく、学生自身が能動的な活動を求める参加型学習を織り込む。アクティブ・ラーニング（AL）を組み込んでいる。授業回により異なるが、グループ・ディスカッション、発表、リサーチ、プロファイル作成など多種多様なALを活用し、事前準備の深化を図る。 交換留学をするためには、TOEIC450点以上が求められるため、留学前にTOEIC450点をクリアすることを目標に掲げている。						
アクティブラーニングの内容	PBL／ディスカッション／グループワーク／プレゼンテーション／その他のアクティブラーニング（複合的なもの等）						
評価方法と割合	積極的な授業参加態度(20%)、授業記録(20%)、受講生のプレゼンテーション(30%)、留学計画書（30%）により評価を行う						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	毎授業のポートフォリオに、授業、他学生の発表・作品への感想、意見、授業の所感を書いてもらっている。留学準備計画書の案を提出してもらったり、My Profileを作成し提出してもらっている。ポートフォリオに関しては、毎回、担当教員がコメントを書き、フィードバックを行う。My Profileや留学計画の発表に関しては、学生からの質問、コメントを勧奨している。						
履修条件・注意事項	・語学や、異文化理解、現地での計画を立てられるように、自分でも積極的に情報収集する。そして自分の調べたこと、留学、インターンシップ、ボランティア計画について発表する。 ・毎回ポートフォリオ用紙に記入し提出し、留学前ポートフォリオを完成させていく。 ・授業中しっかり聞き理解を深め、書き留め、留学前ポートフォリオ完成を目指す。						
実務経験のある教員	該当する	内容	担当教員3名は、学生時代、米国への長期留学を経験しているのみならず、その後も、海外からの留学生、研修生、研修団などの受け入れ経験が豊富である。 これらの経験を、講義並びにワークをする際、情報共有し、内容にリアリティを持たせる。 留学ガイドブックやウェブ情報からは知れないTipsを学生に共有できる。				
事前学習・事後学習とその時間	予習として60分程度かけて毎回の授業内容を確認し、それに関する情報収集をし、質問を準備しておく。 復習として、60分程度かけて毎回の内容の理解度を確認し、ポートフォリオを確認しておく。						
オフィスアワー	1号棟1階個人研究室において、金曜日4限目をオフィスアワーにします。						
授業計画						担当者	
第1回	オリエンテーション、受け入れ先、事前準備						池上、金沢、畝
第2回	留学ワークショップ						池上、金沢、畝

第 3 回	留学体験談と質疑応答	池上、金沢、畝
第 4 回	職業調べ	池上、金沢、畝
第 5 回	留学フェア	池上、金沢、畝
第 6 回	語学力アップの方略	池上、金沢、畝
第 7 回	My Profile作り	池上、金沢、畝
第 8 回	留学先の決定	池上、金沢、畝
第 9 回	留学準備計画の立案・発表準備①	池上、金沢、畝
第 1 0 回	留学準備計画の立案・発表準備②	池上、金沢、畝
第 1 1 回	学生による発表①	池上、金沢、畝
第 1 2 回	学生による発表②	池上、金沢、畝
第 1 3 回	学生による発表③	池上、金沢、畝
第 1 4 回	学生による発表④	池上、金沢、畝
第 1 5 回	学生による発表⑤	池上、金沢、畝
第 1 6 回	リスクマネジメント、2 年生に向けて	池上、金沢、畝

教科書

教・書籍名 1	適宜印刷物を配付 初回授業で配付する「ポートフォリオファイル」を毎回必ず持参のこと。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	

参考書

参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	演習Ⅰ			担当者	高木 秀明		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-803		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	火曜5限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の演習Ⅰでは、基礎演習で習得した大学での学びや心得を基礎に、大学生が身につけておくべき時事問題などの知識や見聞を広める。2年生からゼミに所属し、卒業研究に向けた第1ステップとして、日本や世界の生活、社会、経済などを取り巻く課題を理解し、自分の研究テーマを発見する論理的思考を修得する。また、これらについて適切に情報収集したり、文献を読んで整理し発表やディスカッションしたりすることができる。演習Ⅰでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力に加えて、主体的な学びと論理的な思考、課題発見力、好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を養う。						
授業概要	興味に関わらず生活、社会、経済、海外などに目を向け、これらの時事問題について大学生が身につけておくべき知識を修得し整理して論理的に理解する。そして、受講者がこれらの問題に関する情報を収集して発表しディスカッションする。中間まとめと最終まとめでは、自らの研究テーマについても考える。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55%）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45%）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	個人研究室にて火曜日4時限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅰの概説					高木	
第2回	生活に関する時事問題について－情報収集					高木	
第3回	生活に関する時事問題について－発表					高木	
第4回	生活に関する時事問題について－ディスカッション					高木	
第5回	社会に関する時事問題について－情報収集					高木	
第6回	社会に関する時事問題について－発表					高木	
第7回	社会に関する時事問題について－ディスカッション					高木	
第8回	中間まとめ（自らの研究テーマについて考える）					高木	
第9回	経済に関する時事問題について－情報収集					高木	
第10回	経済に関する時事問題について－発表					高木	
第11回	経済に関する時事問題について－ディスカッション					高木	
第12回	海外に関する時事問題について－情報収集					高木	
第13回	海外に関する時事問題について－発表					高木	
第14回	海外に関する時事問題について－ディスカッション					高木	
第15回	最終まとめ（自らの研究テーマについて考える）					高木	
第16回	単位認定試験					高木	

教科書			
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	演習Ⅱ			担当者	高木 秀明		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	FS-FS-2-804		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3.主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の演習Ⅱでは、演習Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第2ステップとして、自分の研究テーマについて具体的に考え、研究を進めるための幅広い知識と多角的な視野を養う。自分の研究テーマについて適切に情報収集したり、文献を読んで整理し発表やディスカッションしたりしながら、主体的に研究を進める論理的思考力を身につける。演習Ⅱでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力に加えて、主体的な学びと論理的な思考、課題発見力、好奇心を持って自ら学ぶ姿勢を修得する。						
授業概要	自らの研究テーマについて具体的に考える。研究の分野、内容、テーマの順に具体的に絞り込んでいく。研究テーマを絞り込めたら情報収集し内容をまとめ発表資料を作成する。中間まとめでは研究テーマについて概要を発表する。その後、計画を立て研究に着手する。まずは、関連分野の文献や資料を収集し内容を理解する。最終まとめでは、調べた内容について論点を整理し発表する。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55％）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45％）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	個人研究室にて金曜日2時限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅱの概説					高木	
第2回	研究分野を考える					高木	
第3回	研究内容を考える					高木	
第4回	研究テーマを絞り込む					高木	
第5回	研究テーマについて情報収集する					高木	
第6回	研究テーマについて発表内容を考える					高木	
第7回	研究テーマについて発表資料を作成する					高木	
第8回	中間まとめ（自らの研究テーマについて発表する）					高木	
第9回	研究計画を立てる					高木	
第10回	研究計画について話し合う					高木	
第11回	研究計画を再考し修正する					高木	
第12回	文献・資料の探し方を学ぶ					高木	
第13回	文献・資料を探す					高木	
第14回	文献・資料を読む					高木	
第15回	最終まとめ（自らの研究テーマについて発表する）					高木	
第16回	単位認定試験					高木	
教科書							

教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	演習Ⅲ			担当者	高木 秀明		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国3年			ナンバリング	FS-FS-3-805		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	3年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	木曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP1. 知識・技能		DP2. 情報の活用		DP3. 主体的な学びと論理的な思考		DP4. コミュニケーション・表現力	
DP5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP6. 課題解決力		DP7. 自己効力感		DP8. 学科項目	
SDGs関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の演習Ⅲでは、演習Ⅱで学んだ内容などをもとに、卒業研究に向けた第3ステップとして、自らの研究テーマを見直し、知的な好奇心と自ら学ぶ姿勢を持って主体的に研究を進める力を養う。また、自分の研究テーマについて適切に情報収集したり、文献を読んで整理し発表やディスカッションしたりしながら、自ら社会問題や課題を解決に導く力を養う。演習Ⅲでは、聞く、読む、話す、書くの4つの力を総合的に発揮する総合力、情報を活用する力、主体的な学びと論理的な思考、課題解決力の修得を目指す。						
授業概要	演習Ⅰ・Ⅱを通じて考えた研究テーマを練り直す。先行研究に関する論文や書籍を調べ熟読し、先行研究の目的・方法・結果・結論・残された課題などの要点を整理する。幅広い知識と多角的に物事を見る眼を養うために、なるべく多くの論文や書籍を読み、要点を整理する。そして、先行研究と自らが着想した研究を比較し、独自性や特色などを付け加え研究を進める。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	知識の修得と論理的理解を確認するための単位認定試験（55％）、本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45％）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。レポートや課題などは提出期限を守って必ず提出すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	予習・復習には各2時間程度を要する。適宜、課題を提示するので、予習時には課題の内容を把握し疑問点を整理しておくこと。復習時には、授業時間内に取り組んだ課題の内容について理解を深めておくこと。						
オフィスアワー	個人研究室にて火曜日4時限に実施。						
授業計画						担当者	
第1回	演習Ⅲの概説					高木	
第2回	研究テーマの見直し					高木	
第3回	研究テーマの見直しと発表					高木	
第4回	研究テーマの見直しとディスカッション					高木	
第5回	関係する文献の調べ直し1					高木	
第6回	関係する文献の調べ直しと発表1					高木	
第7回	関係する文献の調べ直しとディスカッション1					高木	
第8回	論点整理					高木	
第9回	関係する文献の調べ直し2					高木	
第10回	関係する文献の調べ直しと発表2					高木	
第11回	関係する文献の調べ直しとディスカッション2					高木	
第12回	研究計画の見直し					高木	
第13回	研究計画の見直しと発表					高木	
第14回	研究計画の見直しとディスカッション					高木	
第15回	最終まとめ（自らの研究テーマについて発表する）					高木	
第16回	単位認定試験					高木	
教科書							

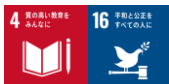
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名2	
教・著者名2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名2	
参・著者名2		参・ I S B N 2	

授業科目名	卒業研究Ⅰ			担当者	高木 秀明		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国4年			ナンバリング	FS-FS-4-807		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度春学期			曜日・時限	水曜4限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の卒業研究Ⅰでは、これまで演習科目で学んだ内容などをもとに、卒業研究を進め、本格的に論文執筆を始める。自分の研究テーマについて文献を読んで整理し、発表やディスカッションしたりする中で、演習科目の評価基準となる9つの力を修得し、総合的に発揮できるようになる。また、論文執筆や報告会を通して、論拠に基づいて、相手に分かりやすく書く文章力や説明力を修得する。						
授業概要	論文執筆に必要な文献や資料を収集し、それらを熟読し、発表やディスカッションを行いながら、卒論の執筆を進める。論文草稿の作成、研究方法や調査方法の決定も行う。文献やインターネット等で収集した情報のうち有用なものを吟味して活用する力、論理的に思考し、説得力のある文章を書いたり、話したりする力は、社会人として必要な能力である。本演習において、学生は、適宜、関連文献の発表やディスカッションなどを行い、これらの力を養うとともに、互いに様々な知識を共有し合いながら、卒業論文の完成を目指す。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45％）、卒業論文題目・計画書の内容（20％）、中間報告の内容（20％）、特別配点（15％）として評価する。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。卒業論文の内容を点検し、必要に応じて添削を行う。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。卒業論文完成に向け、春学期は「卒業論文題目・計画書」を作成し、5月下旬に卒論計画発表会を行い、発表後「卒業論文題目・計画書」を提出すること。7月下旬に実施する中間報告会では、卒業論文の進捗状況を発表すること。最終評価者である担当教員と本専攻の教員で相互に評価する。外部評価者に参考意見を求めることもある。また、作成した本演習への積極的な参加も評価の基準となるので、毎回参加すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	卒業論文の執筆には、多くの時間を要する。研究内容を充実させるため、予習と復習を各2時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、論文の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週火曜日4限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	卒業研究Ⅰの概説					高木	
第2回	研究テーマの設定					高木	
第3回	文献・資料の収集					高木	
第4回	卒業論文題目・計画書の作成(1)題目の決定					高木	
第5回	卒業論文題目・計画書の作成(2)問題設定					高木	
第6回	卒業論文題目・計画書の作成(3)論文執筆の手順					高木	
第7回	卒論計画発表会(卒業論文題目・計画について)					全教員	
第8回	論文・関連文献を読む(1)					高木	
第9回	論文・関連文献を読む(2)					高木	
第10回	論文・関連文献の発表(1)					高木	
第11回	論文・関連文献の発表(2)					高木	

第 1 2 回	卒業論文の執筆(1)	高木	
第 1 3 回	卒業論文の執筆(2)	高木	
第 1 4 回	卒業論文の執筆(3)	高木	
第 1 5 回	卒業論文の執筆(4)	高木	
第 1 6 回	中間報告会（卒業論文の進捗状況①）	全教員	
教科書			
教・書籍名 1	予習、復習しやすいように配慮しながら資料を適宜配布する。	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1		参・出版社名 1	
参・著者名 1		参・ I S B N 1	
参・書籍名 2		参・出版社名 2	
参・著者名 2		参・ I S B N 2	

授業科目名	卒業研究Ⅱ			担当者	高木 秀明		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国4年			ナンバリング	FS-FS-4-808		
必修・選択	必修	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	演習
年次	4年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	水曜3限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに 						
到達目標	外国学科の卒業研究Ⅱでは、卒業研究Ⅰで学んだ内容などをもとに、卒業研究を進め、卒業論文を完成させる。自分の研究テーマについて先行研究や関連文献を読んで整理するだけでなく、発表やディスカッション、卒論執筆をする中で、演習科目の評価基準となる9つの力を修得し、総合的に発揮できるようになる。また、論文執筆や報告会を通して、論拠に基づいて、相手に分かりやすく書く文章力や説明力を修得する。研究規範を遵守した研究活動のもとで得た成果を卒業研究論文として発表することができる。						
授業概要	論文執筆に必要な文献や資料を収集し、それらを熟読し、発表やディスカッションを行いながら、卒論の執筆を進める。具体的には、先行研究・課題文献の発表、文献・資料・データの収集と分析、論文の見直しを行う。情報の活用力、論理的思考、説得力のある文章を書く力、説明力などは、社会人として必要な能力である。本演習において、学生は、適宜、関連文献の発表やディスカッションなどを行い、これらの力を養うとともに、互いに様々な知識を共有し合い、卒業論文を完成させる。						
アクティブラーニングの内容	ディスカッション／プレゼンテーション						
評価方法と割合	本演習の到達目標に対する到達度を確認するための学修ルーブリック（45％）、中間報告会の内容（20％）、卒論審査会の内容（20％）、特別配点（15％）として評価する。11月下旬の中間報告では、執筆中の卒業論文の内容をまとめ発表する。指導教員と本専攻の教員で相互に評価する。卒業論文は、提出期日を守り、必ず提出すること。2月上旬に、教員が主査・副査となり卒論審査会（口頭試問）を行い評価する。外部評価者に参考意見を求めることもある。また、本演習への参加態度も評価の基準となるので、毎回積極的に参加すること。						
ルーブリック評価	/uprx/gaikoku.pdf						
課題や試験のフィードバック方法	本演習の到達目標の達成に向けて、演習の各回で取り組んだ内容（課題、プレゼンテーションなど）について、適宜アドバイスする。卒業論文の内容を点検し、必要に応じて添削を行う。単位認定試験やレポート課題については、内容を確認しコメントするなどして、学生へのフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	適宜、資料を配布するため、授業後にはファイリングし整理しておくこと。指示された課題は提出期限を守って必ず提出すること。必ず、担当教員に論文執筆の進捗状況を報告し、相談しながら計画的に論文を執筆すること。卒業論文は、ゼミ担当の先生が内容を確認し、フィードバックするので、各自見直しを行い、論文の完成を目指すこと。また、受講生は中間報告会(11月下旬)と卒論審査会(2月上旬)に必ず出席すること。						
実務経験のある教員	該当しない	内容					
事前学習・事後学習とその時間	卒業論文の執筆には、多くの時間を要する。研究内容を充実させるため、予習と復習を各2時間以上行うこと。予習として、提示された課題内容を事前に調べ、理解できない点を整理しておくこと。復習として、論文の内容や課題について理解を深め、ふり返りを行うこと。						
オフィスアワー	1号棟2階の個人研究室にて、毎週金曜日2限をオフィスアワーの時間とする。						
授業計画						担当者	
第1回	卒業研究Ⅱの概説						高木
第2回	研究テーマと学術的背景						高木
第3回	先行研究・課題文献の発表(1)						高木
第4回	先行研究・課題文献の発表(2)						高木
第5回	研究規範遵守について						高木
第6回	文献・資料・データの収集と分析(1)						高木
第7回	文献・資料・データの収集と分析(2)						高木
第8回	中間報告会（卒業論文の進捗状況②）						全教員
第9回	論文の見直し(1) はじめと結語						高木
第10回	論文の見直し(2) 本論の推敲						高木

第 1 1 回	論文の見直し(3) 結論の推敲	高木
第 1 2 回	論文の見直し(4) 最終確認	高木
第 1 3 回	要旨の作成(1)	高木
第 1 4 回	要旨の作成(2)	高木
第 1 5 回	口頭試問対策	高木
第 1 6 回	卒論審査会－口頭試問	全教員
教科書		
教・書籍名 1	使用しない。研究内容に応じて文献・資料などを適宜指示する。	教・出版社名 1
教・著者名 1		教・ I S B N 1
教・書籍名 2		教・出版社名 2
教・著者名 2		教・ I S B N 2
参考書		
参・書籍名 1	使用しない。研究内容に応じて文献・資料などを適宜指示する。	参・出版社名 1
参・著者名 1		参・ I S B N 1
参・書籍名 2		参・出版社名 2
参・著者名 2		参・ I S B N 2

授業科目名	教育相談の基礎			担当者	藤井 和郎		
配当学科・研究科	2018年度 吉備国際大学 外国語 外国2年			ナンバリング	TC-FS-2-014		
必修・選択	選択	単位数	2単位	時間数	30	授業形態	講義
年次	2年	開講期	2022年度秋学期			曜日・時限	金曜2限
ディプロマポリシー対応項目							
DP 1. 知識・技能		DP 2. 情報の活用		DP 3.主体的な学びと論理的な思考		DP 4. コミュニケーション・表現力	
DP 5. グローバルな視野と地域貢献活動		DP 6. 課題解決力		DP 7. 自己効力感		DP 8. 学科項目	
SDGs 関連項目	4. 質の高い教育をみんなに／16. 平和と公正をすべての人に 						
到達目標	【テーマ】学校教育相談を進める際の基礎的知識を学ぶとともに、カウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解する。 【到達目標】 1 教育相談の意義と理論 (1)学校における教育相談の意義と課題を理解することができる。 (2)教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解することができる。 2 教育相談の方法 (1)生徒の不応や問題行動の意味並びに生徒の発するシグナルに気づき把握する方法を理解することができる。 (2)学校におけるカウンセリングマインドの必要性を理解することができる。 (3)受容・傾聴・共感的理解等のカウンセリングの基礎的な姿勢や技法を理解することができる。 3 教育相談の展開 (1)職種の校務分掌に応じて、生徒並びに保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。 (2)いじめ、不登校、虐待、非行等の課題に対する、生徒の発達段階や発達課題に応じた教育相談の進め方を理解することができる。 (3)教育相談の計画の作成や必要な校内体制の整備など、組織的な取組の必要性を理解することができる。 (4)地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解することができる。						
授業概要	教育相談は、生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。授業では、予防・開発的教育相談について理解し、さらに不応や問題行動等の課題への支援のための基礎的知識を学ぶ。毎回の授業では反転授業及び「個人学習1→グループ学習→全体学習→個人学習2」という流れを原則としたグループワークを取り入れた主体的・対話的な学習を行う。それにより、課題に対する理解が深まることを意図している。						
アクティブラーニングの内容	反転授業／グループワーク						
評価方法と割合	〔試験〕50%（授業全般にわたっての理解度を記述式及び選択式の試験によって確認する） 〔提出物〕20%（レポート課題や学習プリントの記載内容等により評価する） 〔授業への参画状況〕30%（予習プリントや振り返り用紙の記載内容、授業中の発表及び発言内容、教職への意欲や態度等を総合的に評価する）						
ルーブリック評価							
課題や試験のフィードバック方法	レポート課題は授業の中で、試験は個別にフィードバックを行う。						
履修条件・注意事項	座席指定により編成されたグループでの協議に積極的に参加すること。 授業で配付されたプリント類を整理するためのファイルを準備しておくこと。						
実務経験のある教員	該当する	内容	この科目は、中学校教員、生徒指導主事、校長及び教育行政の実務経験を持つ教員が、その経験を活かし、教育現場において実践的に役立つ授業を実施する。				
事前学習・事後学習とその時間	前時に示された予習プリントにより、次時の学習内容を把握すること。 復習として、授業で配付したプリントの内容を、理解する事柄と記憶する事柄に整理して再確認すること。 なお、それぞれ約2時間の予習・復習が必要である。						
オフィスアワー	金曜日授業終了後 213教室						
授業計画						担当者	

第 1 回	学校教育相談とは	藤井	
第 2 回	学校教育相談の定義と歴史	藤井	
第 3 回	子どもの理解と指導	藤井	
第 4 回	子どもの発達と発達課題	藤井	
第 5 回	生徒指導と学校教育相談	藤井	
第 6 回	カウンセリングの理論と実際	藤井	
第 7 回	豊かな授業を創造する教育相談的アプローチ	藤井	
第 8 回	学級経営と学校教育相談	藤井	
第 9 回	来談者中心カウンセリング	藤井	
第 1 0 回	ブリーフカウンセリング	藤井	
第 1 1 回	社会性と情動の学習(SEL)	藤井	
第 1 2 回	学級担任が行う学校教育相談	藤井	
第 1 3 回	子どもの話の聴き方	藤井	
第 1 4 回	事例検討	藤井	
第 1 5 回	保護者との連携	藤井	
第 1 6 回	試験	藤井	
教科書			
教・書籍名 1	使用しない(必要に応じプリントを配布する)	教・出版社名 1	
教・著者名 1		教・ I S B N 1	
教・書籍名 2		教・出版社名 2	
教・著者名 2		教・ I S B N 2	
参考書			
参・書籍名 1	生徒指導提要	参・出版社名 1	教育図書
参・著者名 1	文部科学省	参・ I S B N 1	978-4-87730-274-0
参・書籍名 2	中学校学習指導要領(平成29年告示)	参・出版社名 2	東山書房
参・著者名 2	文部科学省	参・ I S B N 2	